

科目名		ゼミⅠ（春学期）							
英文科目名		SeminarⅠ							
担当者名		本学専任教員							
科目ナンバリング		SEMI101							
授業の概要と到達目標	ゼミⅠは、大学生活を送る上で必要な基礎を身につけ、能動的な自己を確立することを目標とし、大学全体の教育の基礎となる科目となる。ゼミⅠの授業は、アドバイザー制度とともに以下の4つの視点から構成される。 【視点Ⅰ：スムーズな大学への接続】①オリエンテーションによる仲間づくり。②高千穂マスタープランによる年間行事予定の確認、学生生活目標管理シートによる1年次学習目標の設定・自己点検をとおした4年間の大学生活のイメージ。【視点Ⅱ：スタディスキル】①大学生として必要な基本的スタディスキルの習得。②「読む・書く・聴く・話す」力の基礎の養成。【視点Ⅲ：課題探求型学習】①ゼミⅡへの接続を念頭にした主体的学習態度の習得。②自発的な課題探求のプロセスの中で、問題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション能力の基礎を養成。【視点Ⅳ：キャリア】①アドバイザー制度により将来の自己を見つめる。②社会人基礎力診断を活用したプログラムにより大学生としての一般・社会常識を身につける								
授業の方法	アクティブ・ラーニング（ノートテイキング、ワークシートによる要約・レポート作成、グループ・ディスカッション等）を、すべての授業回で実施する。また、一部授業ではスマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を行うことがある。								
予習と復習	予習（90分）：ワークシート等、事前に教員から指示された課題に取り組み、要点の整理等の予習を行うこと。復習（90分）：授業内に教員から指示された復習を行うこと。								
テキスト等	毎授業でオリジナルの教材を配布する。なおタームⅢでは学習技術研究会著『知へのステップ——大学生からのスタディ・スキルズ』（くろしお出版）を一部使用する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	60%	
	ワークシート等課題の提出内容			20%	ワークシート等課題の提出状況			20%	
	原則として授業には毎回出席すること。各授業回におけるアクティブ・ラーニングの課題への取り組みに対して、適宜評価と所見を提示する。								
授業計画	①〔視点Ⅰ〕学習計画・履修指導／イントロダクション								
	②〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕図書館利用説明と図書借出し課題設定								
	③〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕講義・授業の受け方を考える								
	④〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕模擬授業・ノートテイキングと確認問題								
	⑤〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕タームⅠの振り返り								
	⑥〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕情報リテラシー								
	⑦〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕情報を読み解く力[要点把握と文章要約課題]								
	⑧〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕文章要約課題の添削								
	⑨〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕タームⅡの振り返り								
	⑩〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕レポート作成の基礎を学ぶ[共同授業]								
	⑪〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕レポート作成の実践								
	⑫〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕レポート相互添削・修正と相互評価								
	⑬〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕タームⅢの振り返り								
	⑭〔視点Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ〕春学期の振り返りとまとめ								
	⑮総まとめと復習								

科目名	ゼミⅠ（秋学期）							
英文科目名	SeminarⅠ							
担当者名	本学専任教員							
科目ナンバリング	SEMI101							
授業の概要と到達目標	ゼミⅠは、大学生活を送る上で必要な基礎を身につけ、能動的な自己を確立することを目標とし、大学全体の教育の基礎となる科目となる。ゼミⅠの授業は、アドバイザー制度とともに以下の4つの視点から構成される。【視点Ⅰ：スムーズな大学への接続】①オリエンテーションによる仲間づくり。②高千穂マスタープランによる年間行事予定の確認、学生生活目標管理シートによる1年次学習目標の設定・自己点検をとおした4年間の大学生活のイメージ。【視点Ⅱ：スタディスキル】①大学生として必要な基本的スタディスキルの習得。②「読む・書く・聴く・話す」力の基礎の養成。【視点Ⅲ：課題探求型学習】①ゼミⅡへの接続を念頭にした主体的学習態度の習得。②自発的な課題探求のプロセスの中で、問題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション能力の基礎を養成。【視点Ⅳ：キャリア】①アドバイザー制度により将来の自己を見つめる。②社会人基礎力診断を活用したプログラムにより大学生としての一般・社会常識を身につける。							
授業の方法	アクティブ・ラーニング（ノートテイキング、ワークシートによる要約・レポート作成、グループ・ディスカッション等）を、すべての授業回で実施する。							
予習と復習	予習（90分）：ワークシート等、事前に教員から指示された課題に取り組み、要点の整理等の予習を行うこと。復習（90分）：授業内に教員から指示された復習を行うこと。							
テキスト等	毎授業でオリジナルの教材を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	60%
	ワークシート等課題の提出内容			20%	ワークシート等課題の提出状況			20%
	原則として授業には毎回出席すること。各授業回におけるアクティブ・ラーニングの課題への取り組みに対して、適宜評価と所見を提示する。							
授業計画	①〔視点Ⅱ・Ⅳ〕成績確認と秋学期履修指導／夏期休業中課題の提出							
	②〔視点Ⅲ〕論理的思考、問題発見・解決能力の養成—プレゼンテーションテーマの確定							
	③〔視点Ⅲ〕共同授業：コース（専攻）ガイダンス							
	④〔視点Ⅲ〕論理的思考、問題発見・解決能力の養成—プレゼンテーション内容の調査							
	⑤〔視点Ⅲ〕論理的思考、問題発見・解決能力の養成—プレゼンテーション内容の検討							
	⑥〔視点Ⅲ〕論理的思考、問題発見・解決能力の養成—プレゼンテーション内容の相互検討							
	⑦〔視点Ⅲ〕論理的思考、問題発見・解決能力の養成—ゼミ内プレ・プレゼンテーション							
	⑧〔視点Ⅲ〕論理的思考、問題発見・解決能力の養成—プレゼンテーション内容の再精査							
	⑨〔視点Ⅲ〕論理的思考、問題発見・解決能力の養成—プレゼンテーション内容の再検討							
	⑩〔視点Ⅲ〕論理的思考、問題発見・解決能力の養成—ゼミ内プレゼンテーションリハ							
	⑪〔視点Ⅲ〕共同授業：プレゼンテーション（Aグループ）							
	⑫〔視点Ⅲ〕共同授業：プレゼンテーション（Bグループ）							
	⑬〔視点Ⅳ〕キャリアに対する意識を高めよう							
	⑭〔視点Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ〕共同授業・プレゼンテーションの振り返り							
	⑮1年間の総まとめ							

科目名	基礎コンピュータ I								
英文科目名	Introduction to Computer Science I / I (Re)								
担当者名	笹金光徳, 成合智子, 梅崎馨章, 中尾暢見, 竹内淨, 大江親臣								
科目ナンバリング	BCOM101								
授業の概要と到達目標	本科目と基礎コンピュータⅡで、実習を通してコンピュータおよびネットワークのリテラシーを学ぶ。その前半となる本科目では、入学後まず履修することで、他の授業でも必要となる多くの項目について習得することを目指す。10分間で200字の入力ができるようになることを最低限の目標の一つとしているので、キーボード操作をしっかり練習し、身につけること。受講開始時点での各種基本操作に対する習熟度に応じて、「普通クラス」と「中級クラス」にクラス分けを行うが基本的な到達目標は一致している。継続的な学習の必要性から欠席や遅刻は厳禁である。基礎コンピュータⅠとⅡを単位修得した時点で、大学内の他の授業で最低限必要となる情報リテラシーが身につけているようになることが、到達目標である。■学習到達目標：基礎コンピュータⅠの到達目標は、キーボード操作、マウス操作、日本語入力、電子メールの利用が十分できると共に日本語ワードプロセッサ(Word)および表計算ソフト(Excel)の基本操作が行えるようになることである。								
授業の方法	基本的に実習を中心とした講義であり、実際にコンピュータを操作しながら自律的な学習を進めていく。必要に応じて、実習内容に関する質疑応答を実施する(アクティブ・ラーニング)。								
予習と復習	予習(90分) 毎回の授業内容と教科書の対応ページが書かれているWebサイトを参考にして、テキスト内の次回の講義に該当する箇所を精読しておくこと。復習(90分) 当日の講義内容を自宅や開放されているコンピュータ室などで復習しておくこと。								
テキスト等	編：実教出版企画開発部『30時間でマスター Office2021』（実教出版）、編：実教出版編修部『2023 事例でわかる情報モラル』（実教出版）、『情報メディアセンター利用の手引き2023年版』								
評価方法	定期試験	45%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%	
	授業で示すレポート・課題		45%					0%	
	次のすべての条件を満たさなければ単位認定しない。①出席率80%以上、②授業内テストを必ず受験、③レポート・課題を全て提出。								
授業計画	①パソコンの基本操作								
	②Windowsの基本操作（マウス・キーボード）								
	③Windowsのファイルシステム								
	④インターネットのしくみ								
	⑤電子メールの利用法								
	⑥情報モラル1								
	⑦WWWの原理とブラウザの基本的利用法								
	⑧ワープロソフトの役割と基本概念								
	⑨ワープロソフトWordの基本的利用法								
	⑩表計算ソフトウェアExcelの役割と基本概念								
	⑪表計算ソフトウェアExcelの基本的利用法1（計算式）								
	⑫表計算ソフトウェアExcelの基本的利用法2（グラフ）								
	⑬定期試験対策1								
	⑭文章入力実技試験の実施と定期試験対策2								
	⑮まとめと復習								

科目名		基礎コンピュータⅡ						
英文科目名		Introduction to Computer Science Ⅱ/Ⅱ (Re)						
担当者名		笹金光徳, 成合智子, 梅崎馨章, 中尾暢見, 竹内淨, 大江親臣						
科目ナンバリング		BCOM102						
授業の概要と到達目標	基礎コンピュータⅠに引き続き、実習を通してコンピュータおよびネットワークのリテラシーを学ぶ。特に本科目では、基礎コンピュータⅠで習得した基礎をさらに発展させ、情報ネットワーク社会に積極的に参加する姿勢を身に付けることが目標である。よって、基礎コンピュータⅠ以上に積極的な学習態度が必要である。また、この科目の内容を習得することによって、2年生以降の情報関係科目や各学部の専門科目において、より高度なITの活用が可能になる。「普通クラス」と「中級クラス」のクラス分けは基礎コンピュータⅠのままとする。継続的な学習が欠かせないことから、欠席や遅刻は厳禁である。基礎コンピュータⅠとⅡを単位修得した時点で、大学内の他の授業で最低限必要となる情報リテラシーが身につけているようになることが、到達目標である。■学習到達目標：基礎コンピュータⅠで習得した基礎をさらに発展させ、大学生活において、情報リテラシーを効果的に使いこなせるようにすることを目標としている。							
授業の方法	基本的に実習を中心とした講義であり、実際にコンピュータを操作しながら自律的な学習を進めていく。必要に応じて、実習内容に関する質疑応答を実施する(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習（90分）毎回の授業内容と教科書の対応ページが書かれているWebサイトを参考にして、テキスト内の次回の講義に該当する箇所を精読しておくこと。復習（90分）当日の講義内容を自宅や開放されているコンピュータ室などで復習しておくこと。							
テキスト等	編：実教出版企画開発部『30時間でマスター Office2021』（実教出版）、編：実教出版編修部『2023 事例でわかる情報モラル』（実教出版）、『情報メディアセンター利用の手引き2023年版』							
評価方法	定期試験	45%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%
	授業で示すレポート・課題			45%				0%
	次のすべての条件を満たさなければ単位認定しない。①出席率80%以上、②授業内テストを必ず受験、③レポート・課題を全て提出。							
授業計画	①インターネットによる情報検索の基礎							
	②検索エンジンの使い分けと情報検索実習							
	③プレゼンテーションの重要性							
	④PowerPointの基本操作とスライドの作成							
	⑤Wordの発展的学習 1（ビジネス文書）							
	⑥Wordの発展的学習 2（画像や図形の活用）							
	⑦Excelの発展的学習 1（様々な関数）							
	⑧Excelの発展的学習 2（様々なグラフ）							
	⑨Excelの発展的学習 3（相対参照と絶対参照）							
	⑩情報モラル 2							
	⑪Word・Excel・ブラウザの連携操作							
	⑫ウェブページの基本構造と作成法							
	⑬ネットワークセキュリティとネットワークマナー							
	⑭定期試験対策							
	⑮まとめと復習							

科目名	英語 I (Aレベル)							
英文科目名	English I (A-Level)							
担当者名	カネギター, 瀧口晴美							
科目ナンバリング	ENG101							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績上位者の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。<到達目標>「英語Ⅱ（リスニング・作文）」終了時にTOEIC 500点(TOEIC Bridge 150点)に達することを学習到達目標とします。（文法）中学卒業までに習得する基本的な文法や文型を概ね把握でき、接続詞や不定詞等の使用ルールについて理解できるようになりましょう。また、文章構造が複雑になっても、時制の適切な使用方法を理解できるようになることを目指します。（読解）手紙や看板などの短い文章をはじめ、長い文章であっても日常的で身近な事柄であれば要点や詳細を理解することを目指します。							
授業の方法	この授業は週2回行われ、「文法・読解」を中心に学習します。文法事項を説明し、文法問題と読解問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで文章を音読・暗唱すること（アクティブ・ラーニング）で発音や理解度を確認します。							
予習と復習	予習(90分)：普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取り組み、予習をしましょう。復習(90分)：授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、その日のうちに復習しましょう。							
テキスト等	北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 ーAdvanced』(朝日出版社)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①第1週：ガイダンス／習熟度の確認							
	②第2週：Unit 1 Eating Out (Part 5／Part 6-7)							
	③第3週：Unit 2 Travel (Part 5／Part 6-7)							
	④第4週：Unit 3 Amusement (Part 5／Part 6-7)							
	⑤第5週：Unit 4 Meetings (Part 5／Part 6-7)							
	⑥第6週：Unit 5 Personnel (Part 5／Part 6-7)							
	⑦第7週：復習 (Unit 1-3／Unit 4-5)							
	⑧第8週：Unit 6 Shopping (Part 5／Part 6-7)							
	⑨第9週：Unit 7 Advertisement (Part 5／Part 6-7)							
	⑩第10週：Unit 8 Daily Life (Part 5／Part 6-7)							
	⑪第11週：Unit 9 Office Work (Part 5／Part 6-7)							
	⑫第12週：Unit 10 Business (Part 5／Part 6-7)							
	⑬第13週：Unit 11 Traffic (Part 5／Part 6-7)							
	⑭第14週：復習 (Unit 6-8／Unit 9-11)							
	⑮第15週：到達度の確認／まとめと総復習							

科目名	英語 I (Bレベル)							
英文科目名	English I (B-Level)							
担当者名	松谷明美, 小宮敦子, 中野重雄							
科目ナンバリング	ENG101							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績中上位者の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。<到達目標>「英語Ⅱ（リスニング・作文）」終了時にTOEIC 450点(TOEIC Bridge 140点)に達することを学習到達目標とします。（文法）中学卒業までに習得する基本的な文法や文型を概ね把握でき、接続詞や不定詞等の使用ルールについて理解できるようになりましょう。また、文章構造が複雑になっても、時制の適切な使用方法を理解できるようになることを目指します。（読解）手紙や看板などの短い文章をはじめ、長い文章であっても日常的で身近な事柄であれば要点や詳細を理解することを目指します。							
授業の方法	この授業は週2回行われ、「文法・読解」を中心に学習します。文法事項を説明し、文法問題と読解問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで文章を音読・暗唱すること（アクティブ・ラーニング）で発音や理解度を確認します。							
予習と復習	予習(90分)：普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取り組み、予習をしましょう。復習(90分)：授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、その日のうちに復習しましょう。							
テキスト等	北尾泰幸他『一步上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 ーAdvanced』(朝日出版社)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・参加態度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①第1週：ガイダンス／習熟度の確認							
	②第2週：Unit 1 Eating Out (Part 5／Part 6-7)							
	③第3週：Unit 2 Travel (Part 5／Part 6-7)							
	④第4週：Unit 3 Amusement (Part 5／Part 6-7)							
	⑤第5週：Unit 4 Meetings (Part 5／Part 6-7)							
	⑥第6週：Unit 5 Personnel (Part 5／Part 6-7)							
	⑦第7週：復習 (Unit 1-3／Unit 4-5)							
	⑧第8週：Unit 6 Shopping (Part 5／Part 6-7)							
	⑨第9週：Unit 7 Advertisement (Part 5／Part 6-7)							
	⑩第10週：Unit 8 Daily Life (Part 5／Part 6-7)							
	⑪第11週：Unit 9 Office Work (Part 5／Part 6-7)							
	⑫第12週：Unit 10 Business (Part 5／Part 6-7)							
	⑬第13週：Unit 11 Traffic (Part 5／Part 6-7)							
	⑭第14週：復習 (Unit 6-8／Unit 9-11)							
	⑮第15週：到達度の確認／まとめと総復習							

科目名	英語 I (Cレベル)							
英文科目名	English I (C-Level)							
担当者名	山田浩, 舟木てるみ, 萩原輝, 三木千絵, 高見陽子, 中野重雄							
科目ナンバリング	ENG101							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績中位以下の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。最終的に「英語Ⅱ（リスニング・作文）」終了時にTOEIC 350点(TOEIC Bridge 130点)に達することを学習到達目標とします。<到達目標>（文法）中学卒業までに習得する基本的な文法や文型を概ね把握できることを目指します。接続詞や不定詞等の使用ルールについて理解できるようになりましょう。文章構造が複雑（長く）なっても、時制の適切な使用方法を理解しましょう。（読解）日常的で身近な事柄であれば要点や詳細を理解することができるようになりましょう。手紙や看板などの短い文章をはじめ、長い文章であっても日常的で身近な内容であれば理解することを目指します。							
授業の方法	この授業は週2回行われ、「文法・読解」を中心に学習します。文法事項を説明し、文法問題と読解問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで文章を音読・暗唱すること（アクティブ・ラーニング）で発音や理解度を確認します。							
予習と復習	予習(90分)：普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取り組み、予習をしましょう。復習(90分)：授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、その日のうちに復習しましょう。							
テキスト等	北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 1 ーBasic』(朝日出版社)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	授業参加度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①第1週：ガイダンス／習熟度の確認							
	②第2週：Unit 1 Eating Out (Part 5／Part 6-7)							
	③第3週：Unit 2 Travel (Part 5／Part 6-7)							
	④第4週：Unit 3 Amusement (Part 5／Part 6-7)							
	⑤第5週：Unit 4 Meetings (Part 5／Part 6-7)							
	⑥第6週：Unit 5 Personnel (Part 5／Part 6-7)							
	⑦第7週：復習 (Unit 1-3／Unit 4-5)							
	⑧第8週：Unit 6 Shopping (Part 5／Part 6-7)							
	⑨第9週：Unit 7 Advertisement (Part 5／Part 6-7)							
	⑩第10週：Unit 8 Daily Life (Part 5／Part 6-7)							
	⑪第11週：Unit 9 Office Work (Part 5／Part 6-7)							
	⑫第12週：Unit 10 Business (Part 5／Part 6-7)							
	⑬第13週：復習 (Unit 6-8／Unit 9-10)							
	⑭第14週：授業内試験／解説							
	⑮第15週：到達度の確認／まとめと総復習							

科目名	英語Ⅱ (Aレベル)							
英文科目名	EnglishⅡ (A-Level)							
担当者名	カネギター, 瀧口晴美							
科目ナンバリング	ENG102							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績上位者の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。<到達目標>「英語Ⅱ (リスニング・作文)」終了時にTOEIC 500点(TOEIC Bridge 150点)に達することを学習到達目標とします。(リスニング)発音がクリアで速度が遅ければ、簡単なメッセージやアナウンス、議論されている内容の要点を理解できるようになりましょう。また、テレビのニュース番組でも、アナウンス内容が映像の説明を直接説明していれば、概ね理解できることを目指します。(作文)日常的で、自身が経験したことのある内容であれば、「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞を使った短い文章が書けることを目指します。							
授業の方法	この授業は週2回行われ、「リスニング・作文」を中心に学習します。リスニング問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで英文を音読したり、英文を書いてみることで理解度を確認します(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習(90分): 普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取り組み、予習をしましょう。復習(90分): 授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、その日のうちに復習しましょう。							
テキスト等	北尾泰幸他『一步上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 ーAdvanced』(朝日出版社)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①第1週: ガイダンス/習熟度の確認							
	②第2週: Unit 1 Eating Out (Part 1-2/Part 3-4)							
	③第3週: Unit 2 Travel (Part 1-2/Part 3-4)							
	④第4週: Unit 3 Amusement (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑤第5週: Unit 4 Meetings (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑥第6週: Unit 5 Personnel (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑦第7週: 復習 (Unit 1-3/Unit 4-5)							
	⑧第8週: Unit 6 Shopping (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑨第9週: Unit 7 Advertisement (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑩第10週: Unit 8 Daily Life (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑪第11週: Unit 9 Office Work (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑫第12週: Unit 10 Business (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑬第13週: Unit 11 Traffic (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑭第14週: 復習 (Unit 6-8/Unit 9-11)							
	⑮第15週: 到達度の確認/まとめと総復習							

科目名	英語Ⅱ (Bレベル)							
英文科目名	EnglishⅡ (B-Level)							
担当者名	松谷明美, 小宮敦子, 中野重雄							
科目ナンバリング	ENG102							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績中上位者の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。<到達目標>「英語Ⅱ (リスニング・作文)」終了時にTOEIC 450点(TOEIC Bridge 140点)に達することを学習到達目標とします。(リスニング)発音がクリアで速度が遅ければ、簡単なメッセージやアナウンス、議論されている内容の要点を理解できるようになりましょう。また、テレビのニュース番組でも、アナウンス内容が映像の説明を直接説明していれば、概ね理解できることを目指します。(作文)日常的で、自身が経験したことのある内容であれば、「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞を使った短い文章が書けることを目指します。							
授業の方法	この授業は週2回行われ、「リスニング・作文」を中心に学習します。リスニング問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで英文を音読したり、英文を書いてみることで理解度を確認します(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習(90分): 普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取り組み、予習をしましょう。復習(90分): 授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、その日のうちに復習しましょう。							
テキスト等	北尾泰幸他『一步上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 ーAdvanced』(朝日出版社)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・参加態度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①第1週: ガイダンス/習熟度の確認							
	②第2週: Unit 1 Eating Out (Part 1-2/Part 3-4)							
	③第3週: Unit 2 Travel (Part 1-2/Part 3-4)							
	④第4週: Unit 3 Amusement (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑤第5週: Unit 4 Meetings (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑥第6週: Unit 5 Personnel (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑦第7週: 復習 (Unit 1-3/Unit 4-5)							
	⑧第8週: Unit 6 Shopping (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑨第9週: Unit 7 Advertisement (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑩第10週: Unit 8 Daily Life (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑪第11週: Unit 9 Office Work (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑫第12週: Unit 10 Business (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑬第13週: Unit 11 Traffic (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑭第14週: 復習 (Unit 6-8/Unit 9-11)							
	⑮第15週: 到達度の確認/まとめと総復習							

科目名	英語Ⅱ (Cレベル)							
英文科目名	EnglishⅡ (C-Level)							
担当者名	山田浩, 舟木てるみ, 萩原輝, 三木千絵, 高見陽子, 中野重雄							
科目ナンバリング	ENG102							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。学年開始時に行われるプレースメントテストの成績中以下者の学生を対象にします。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。<到達目標>「英語Ⅱ (リスニング・作文)」終了時にTOEIC 350点(TOEIC Bridge 130点)に達することを学習到達目標とします。(リスニング)発音がクリアで速度が遅ければ、簡単なメッセージやアナウンス、議論されている内容の要点を理解できるようになりましょう。また、テレビのニュース番組でも、アナウンス内容が映像の説明を直接説明していれば、概ね理解できることを目指します。(作文)日常的で、自身が経験したことのある内容であれば、「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞を使った短い文章が書けることを目指します。							
授業の方法	この授業は週2回行われ、「リスニング・作文」を中心に学習します。リスニング問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで英文を音読したり、英文を書いてみることで理解度を確認します(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習(90分): 普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取り組み、予習をしましょう。復習(90分): 授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、その日のうちに復習しましょう。							
テキスト等	北尾泰幸他『一步上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 1 ーBasic』(朝日出版社)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	授業参加度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①第1週: ガイダンス/習熟度の確認							
	②第2週: Unit 1 Eating Out (Part 1-2/Part 3-4)							
	③第3週: Unit 2 Travel (Part 1-2/Part 3-4)							
	④第4週: Unit 3 Amusement (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑤第5週: Unit 4 Meetings (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑥第6週: Unit 5 Personnel (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑦第7週: 復習 (Unit 1-3/Unit 4-5)							
	⑧第8週: Unit 6 Shopping (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑨第9週: Unit 7 Advertisement (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑩第10週: Unit 8 Daily Life (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑪第11週: Unit 9 Office Work (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑫第12週: Unit 10 Business (Part 1-2/Part 3-4)							
	⑬第13週: 復習 (Unit 6-8/Unit 9-10)							
	⑭第14週: 授業内試験/解説							
	⑮第15週: 到達度の確認/まとめと総復習							

科目名	英語 I (再)							
英文科目名	English I (Re)							
担当者名	舟木てるみ							
科目ナンバリング	ENG101							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。<到達目標>文法と読解のスキルを向上させることを目標とします。(文法) 中学卒業までに習得する基本的な文法や文型について概ね把握でき、接続詞や不定詞等の使用ルールについて理解できるようになります。また、文章構造が複雑になっても、時制の適切な使用方法を理解できるようになることを目指します。(読解) 手紙や看板などの短い文章をはじめ、長い文章であっても日常的で身近な事柄であれば要点や詳細を理解することを目指します。							
授業の方法	この授業は週 2 回行われ、「文法・読解」を中心に学習します。文法事項を説明し、文法問題と読解問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで文章を音読・暗唱することで発音や理解度を確認します(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習(90分): 普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取り組み、予習をしましょう。復習(90分): 授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、その日のうちに復習しましょう。							
テキスト等	北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 1 ーBasic』(朝日出版社)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	授業参加態度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①第1週: ガイダンス(授業の説明、到達目標設定)							
	②第2週: Unit 1(Part 5-7) Eating Out							
	③第3週: Unit 2(Part 5-7) Travel							
	④第4週: Unit 3(Part 5-7) Amusement							
	⑤第5週: Unit 4(Part 5-7) Meetings							
	⑥第6週: Unit 5(Part 5-7) Personnel							
	⑦第7週: 復習(Unit 1~Unit 5)							
	⑧第8週: Unit 6(Part 5-7) Shopping							
	⑨第9週: Unit 7(Part 5-7) Advertisement							
	⑩第10週: Unit 8(Part 5-7) Daily life							
	⑪第11週: Unit 9(Part 5-7) Office Work							
	⑫第12週: Unit 10(Part 5-7) Business							
	⑬第13週: Unit 11(Part 5-7) Traffic							
	⑭第14週: 復習(Unit 6~Unit 11)							
	⑮第15週: まとめと総復習							

科目名	英語Ⅱ(再)							
英文科目名	EnglishⅡ(Re)							
担当者名	舟木てるみ							
科目ナンバリング	ENG102							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。身近な内容からビジネス場面における英語のコミュニケーション能力を測る「TOEIC」対策に重点を置きます。「TOEIC」の出題パターンにより分類された問題を解くことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指します。<到達目標>英語Iで習得した語彙力・文法力を基に、特にリスニング・作文のスキルを向上させます。(リスニング)発音がクリアで速度が遅ければ、簡単なメッセージやアナウンス、議論されている内容の要点を理解できるようになりましょう。また、テレビのニュース番組でも、アナウンス内容が映像の説明を直接説明していれば、概ね理解できることを目指します。(作文)日常的で、自身が経験したことのある内容であれば、「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞を使った短い文章が書けることを目指します。							
授業の方法	この授業は週2回行われ、「リスニング・作文」を中心に学習します。リスニング問題を解いた後、各問題の正解とポイントを説明します。最後にグループワークで英文を音読したり、英文を書いてみることで理解度を確認します(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習(90分):普段から英語に触れる機会を積極的に持ち、自主的に授業で取り上げる各ユニットの練習問題等に取り組み、予習をしましょう。復習(90分):授業内で各ユニットの練習問題の要点、解き方等を解説しますので、授業終了後、その日のうちに復習しましょう。							
テキスト等	北尾泰幸他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 1 ーBasic』(朝日出版社)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	授業参加態度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①第1週:ガイダンス(授業の説明、到達目標設定)							
	②第2週:Unit 1(Part 1-4) Eating Out							
	③第3週:Unit 2(Part 1-4) Travel							
	④第4週:Unit 3(Part 1-4) Amusement							
	⑤第5週:Unit 4(Part 1-4) Meetings							
	⑥第6週:Unit 5(Part 1-4) Personnel							
	⑦第7週:復習(Unit 1~Unit 5)							
	⑧第8週:Unit 6(Part 1-4) Shopping							
	⑨第9週:Unit 7(Part 1-4) Advertisement							
	⑩第10週:Unit 8(Part 1-4) Daily life							
	⑪第11週:Unit 9(Part 1-4) Office Work							
	⑫第12週:Unit 10(Part 1-4) Business							
	⑬第13週:Unit 11(Part 1-4) Traffic							
	⑭第14週:復習(Unit 6~Unit 11)							
	⑮第15週:まとめと総復習							

科目名	日本語Ⅰ（概説・表現）							
英文科目名	JapaneseⅠ（Introduction and Writing）							
担当者名	立石展大							
科目ナンバリング	JPN101							
授業の概要と到達目標	日本語Ⅰ（概説・表現）は、日本語全般に関する基礎的な知識の習得と理解力を養うことを目的とする授業で、外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。日本語に関する概説として、日本語の文字、語彙、文法を中心に留学生を対象にわかりやすく講義し、日本語を運用する実践力をつける。特に、各品詞をはじめとした文法の力を養い、自分の伝えたいニュアンスを正確に表現できることを目指す。そのために、出来るだけ多くの例文に触れ、日常生活での日本語運用の基礎を確認する。「日本語Ⅱ（読解・表現）」の前提科目となっているので、その履修に必要な日本語の基礎を身につけることを目指す。さらに、「日本語Ⅱ（読解・表現）」終了時に自分の伝えたいニュアンスを正確に表現できることを目指す。学習到達目標：日本語を運用する基礎力をつけ、日本語の細かなニュアンスの違いを理解して、伝達できることを目標とする。							
授業の方法	配付プリントに基づいた質疑応答（アクティブ・ラーニング）を、すべての回で実施し、授業内において学生へのフィードバックを行う。							
予習と復習	一コマの授業に対して、配付プリントの予習（45分）と復習および課題（45分）に取り組むこと。課題に関しては、評価対象にもなるため、丁寧な取り組みをすること。							
テキスト等	授業時にプリントを配付する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%
	単位取得には、3分の2以上の出席が必要。また、授業時の課題についても平常点として評価する。すべての課題について、添削し返却して個別に評価と所見を提示する。							
授業計画	①ガイダンス（授業の進め方について）							
	②日本語の文法 動詞							
	③自動詞と他動詞							
	④日本語の文法 イ形容詞							
	⑤日本語の文法 ナ形容詞							
	⑥日本語の文法 副詞							
	⑦日本語の文法 助動詞							
	⑧日本語の文法 助詞							
	⑨「は」と「が」の区別と基本的な使い方							
	⑩使役文の基礎							
	⑪使役文を使った作文							
	⑫受け身文の基礎							
	⑬受け身文を使った作文							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名		日本語Ⅱ（読解・表現）							
英文科目名		JapaneseⅡ（Reading and Writing）							
担当者名		立石展大							
科目ナンバリング		JPN102							
授業の概要と到達目標	日本語Ⅱ（読解・表現）は、日本語文法の基礎を確かなものとして、読解力と表現力を基礎から実践へと高めていく授業で、外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。表現においては、手紙や敬語など、社会生活において必要な知識の習得をおこなう。さらに課題文を読んで小論文を書くことで、読解力を養うとともに、自身の考えを日本語によって論理的に伝達することを目指す。また、課題研究を中心として、文章読解力と表現能力を養う。レポート作成のための情報収集・分析から始まり、日本語によるレポート作成の方法を学び、学生生活と卒業後の社会生活において必要な日本語運用力を高めていく。そして「日本語Ⅰ（概説・表現）」で習得した知識を基礎に、自分の伝えたいニュアンスを正確に表現できることを目指す。学習到達目標：自分の伝えたいニュアンスを正確に表現できることに加え、読解力と発表力を身につけることを目標とする。								
授業の方法	配付プリントとテキストに基づいた質疑応答（アクティブ・ラーニング）を、すべての回で実施し、授業内において学生へのフィードバックを行う。								
予習と復習	一コマの授業に対して、配付プリントの予習（45分）と復習および課題（45分）に取り組むこと。課題に関しては、評価対象にもなるため、丁寧な取り組みをすること。								
テキスト等	二通信子・佐藤不二子 新訂版『留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）あわせて授業時にプリントを配付する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%	
				0%					0%
	単位取得には、3分の2以上の出席が必要。また、授業時の課題についても平常点として評価する。すべての課題について、添削し返却して個別に評価と所見を提示する。								
授業計画	①ガイダンス（授業の進め方について）								
	②敬語について（尊敬語）								
	③敬語について（謙譲語）								
	④敬語について（丁重語）								
	⑤敬語について（丁寧語）								
	⑥手紙の書き方								
	⑦レポートの文体と文の基本について								
	⑧句読点の打ち方と各種の記号の使い方について								
	⑨引用の仕方と段落について								
	⑩仕組みと経過の説明について								
	⑪分類と定義について								
	⑫要約と比較・対照について								
	⑬因果関係と論説文について								
	⑭授業内試験と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	基礎英語（文法・読解） 基礎英語A							
英文科目名	Basic English（grammar・reading） Basic English A							
担当者名	【春学期】小宮敦子, 高見陽子, 岡田慶子, 篠原結城【秋学期】星隆弘, 篠原結城							
科目ナンバリング	ENG103							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。英語の文法・読解に困難を感じている学生も初級レベルの文法・読解の練習を行うことで、英文法の特徴・日本語と英語の文法上の違いを学習します。英語で書かれた文章を読むときに必要とされる語彙やスキルを学び、英語を通じたコミュニケーション能力の基礎の習得を目指します。<到達目標>テキストの前半部分を使って、英文法の基礎を完全に習得することが目標です。さらに、英語の語彙を増やすと同時に英語で書かれた短いエッセイ等を読解できることを目指します。<対象者>2019年度以降の入学者は、Cレベルの学生を対象とします(※Aレベル・Bレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、B・Cレベルの学生を対象とします。(※Aレベルの学生は履修できません)。							
授業の方法	受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。							
予習と復習	予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。							
テキスト等	船田秀佳『総合力をみがく基礎英文法 Easy Access to Basic English Grammar』朝日出版社 およびプリント等補助教材を使用							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	授業参加度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①ガイダンス							
	②Unit 1 be動詞 Practice A～D							
	③Unit 2 一般動詞 Practice A～D							
	④Unit 3 疑問詞 Practice A～D							
	⑤Unit 4 過去形 Practice A～D							
	⑥Unit 5 未来形 Practice A～D							
	⑦Unit 6 現在完了形 Practice A～D							
	⑧Unit 7 助動詞 Practice A～D							
	⑨Unit 8 名詞・冠詞 Practice A～D							
	⑩Unit 9 受動態 Practice A～D							
	⑪Unit 10 前置詞 Practice A～D							
	⑫Unit 11 形容詞・副詞 Practice A～D							
	⑬Unit 12 比較 Practice A～D							
	⑭Unit 13 不定詞・動名詞 Practice A～D							
	⑮まとめと総復習							

科目名	基礎英語（リスニング・作文） 基礎英語B							
英文科目名	Basic English（listening・writing） Basic English B							
担当者名	【春学期】星隆弘, 篠原結城【秋学期】小宮敦子, 高見陽子, 岡田慶子, 篠原結城							
科目ナンバリング	ENG104							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。英語の聞き取りに困難さを感じている学生も初級レベルの聞き取りの練習を行うことで、英語特有の音声上の特徴を学習します。自分の言葉で意見・事象等を描写し、簡潔な英語で伝達できるライティングスキルを磨き、英語を通じたコミュニケーション能力の基礎の習得を目指します。<到達目標>テキストの後半部分を使って、リスニングの基礎固めを行い、簡単な短いトークが聞き取れるようになることを目標とします。英語の音声学上の特徴を身に付けることで、自信をもって単語のレベルから短いやり取りまで発音できるようになることを目指します。また、自分の考えなどを辞書を見なくても表現することに慣れ親しみましょう。<対象者>2019年度以降の入学者は、Cレベルの学生を対象とします（※Aレベル・Bレベルの学生は履修できません）。2018年度以前の入学者は、B・Cレベルの学生を対象とします。（※Aレベルの学生は履修できません）。							
授業の方法	受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。							
予習と復習	予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。							
テキスト等	船田秀佳『総合力をみがく基礎英文法 Easy Access to Basic English Grammar』朝日出版社 およびプリント等補助教材を使用□							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	授業参加態度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①ガイダンス							
	②Unit 1 be動詞 Practice E～G							
	③Unit 2 一般動詞 Practice E～G							
	④Unit 3 疑問詞 Practice E～G							
	⑤Unit 4 過去形 Practice E～G							
	⑥Unit 5 未来形 Practice E～G							
	⑦Unit 6 現在完了形 Practice E～G							
	⑧Unit 7 助動詞 Practice E～G							
	⑨Unit 8 名詞・冠詞 Practice E～G							
	⑩Unit 9 受動態 Practice E～G							
	⑪Unit 10 前置詞 Practice E～G							
	⑫Unit 11 形容詞・副詞 Practice E～G							
	⑬Unit 12 比較 Practice E～G							
	⑭Unit 13 不定詞・動名詞 Practice E～G							
	⑮まとめと総復習							

科目名	英会話							
英文科目名	English Conversation							
担当者名	カネギター, チャンサイド							
科目ナンバリング	ENG105							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。英語コミュニケーションを身に付けるには、「読む」「書く」「話す」「聞く」といった4技能をバランスよく向上させなければなりません。特にListeningとSpeakingを重視し、英語を通じたコミュニケーション能力の基礎の習得を目指します。<到達目標>実用英語検定試験準2級レベルの英語力の養成を目指します。中学、高校までの英語力を基礎として、実用英語検定試験、TOEIC、TOEFLなどの資格検定試験を考慮にいて、各個人が英語能力をアップすることを目標とします。<対象者>2019年度以降の入学者は、Cレベルの学生を対象とします(※Aレベル・Bレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、B・Cレベルの学生を対象とします。(※Aレベルの学生は履修できません)。							
授業の方法	英問英答を基本とし、受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習(45分): 授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分): 授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。							
テキスト等	『A Single Step to English Communication』 Akebono Press							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①Orientation							
	②Unit 1: Personal Information							
	③Unit 2: My Interests							
	④Unit 3: Dining Out							
	⑤Unit 4: Part-Time Jobs							
	⑥Unit 5: Talking About Music & Movies							
	⑦Unit 6: Let's Go Shopping							
	⑧Unit 7: Summer Time							
	⑨Unit 8: What Does She Look Like?							
	⑩Unit 9: How Does It Taste?							
	⑪Unit 10: Long Time, No See							
	⑫Unit 11: My Boss Is A Really Nice Guy							
	⑬Unit 12: Ouch, That Hurts!							
	⑭Unit 13: Hotel & Travel Tips							
	⑮まとめと総復習							

科目名	ビジネス英語							
英文科目名	Business English							
担当者名	寺内一							
科目ナンバリング	ENG108							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。ビジネスの場面ごとに必要となる典型的な語彙・表現を学びます。海外との交渉・連絡を英語で自信をもって行えるよう、リスニング・スピーキング・プレゼンテーションスキルを磨きます。英語を使って仕事をするグローバルな時代にビジネスパーソンとして活躍できるようビジネス英語スキルを向上させましょう。<到達目標>ビジネスの社会でよく耳にしたり、目にするような口語表現や専門的な表現・用語を使い、英語で会話・プレゼンテーションができるようになることを目標とします。<対象者>2019年度以降の入学者は、全レベルの学生を対象とします。2018年度以前の入学者は、B・Cレベルの学生を対象とします。(※Aレベルの学生は履修できません)。							
授業の方法	受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習(45分):授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分):授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。							
テキスト等	『ビジネスキャッツプロジェクトで学ぶ実践ビジネス英語』 南雲堂□							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	授業参加度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①ガイダンス							
	②Chapter 1 新規プロジェクトの準備(1 本文)							
	③Chapter 1 新規プロジェクトの準備(2 ビジネス英語表現)							
	④Chapter 2 プロジェクト計画の策定(1 本文)							
	⑤Chapter 2 プロジェクト計画の策定(2 ビジネス英語表現)							
	⑥Chapter 3 市場分析(1 本文)							
	⑦Chapter 3 市場分析(2 ビジネス英語表現)							
	⑧授業内試験①(Chapter 1～3)の実施と解説							
	⑨Chapter 4 上層部の説得(1 本文)							
	⑩Chapter 4 上層部の説得(2 ビジネス英語表現)							
	⑪Chapter 5 新製品開発の報告(1 本文)							
	⑫Chapter 5 新製品開発の報告(2 ビジネス英語表現)							
	⑬授業内試験②(Chapter 4～5)の実施と解説							
	⑭ビジネス英語表現の確認							
	⑮まとめと総復習							

科目名	上級英会話								
英文科目名	Advanced English Conversation								
担当者名	サトウ								
科目ナンバリング	ENG106								
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。中学、高校までの英語力を基礎として、実用英語検定試験、TOEIC、TOEFLなどの資格検定試験を考慮にいて、ListeningをもとにしたOutputとしてSpeakingを重視し、英語を通じたコミュニケーション能力の向上を目指します。<到達目標>実用英語検定試験2級レベルの英語力の養成を目指します。アメリカ・カナダ・オーストラリアといった英語圏の大学での語学研修・留学生活や仕事で自信をもって英語でコミュニケーションできる能力の養成を目標とします。<対象者>2019年度以降の入学者は、A・Bレベルの学生を対象とします(※Cレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、Aレベルの学生を対象とします。(※B・Cレベルの学生は履修できません)。								
授業の方法	英問英答を基本とし、受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます(アクティブ・ラーニング)。								
予習と復習	予習(45分): 授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分): 授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。								
テキスト等	授業中にプリントを配布します。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%	
	課題・授業参加度		60%					0%	
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。								
授業計画	①Orientation								
	②What made you who you are?								
	③What is good about you?								
	④Can you tell me about music?								
	⑤When do you ask for advice?								
	⑥Are you easy to live with?								
	⑦What is your type?								
	⑧How do you feel about compliments?								
	⑨Do you like me?!								
	⑩Can you guess?								
	⑪Can we work it out?								
	⑫How do you describe events?								
	⑬What are you into?								
	⑭How do you help a friend?								
	⑮まとめと総復習								

科目名	上級英作文							
英文科目名	Advanced English Writing							
担当者名	ゴフ							
科目ナンバリング	ENG107							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。アメリカ・カナダ・オーストラリアといった英語圏の大学に留学する際に、英語力を証明するために受けなければならないTOEFLのライティング・セクションでより高いスコアをとれるよう、そして英語圏で語学研修・留学・仕事を行うときに、英語で文書を作成してコミュニケーションを図る能力の向上を目指します。<到達目標>英語で自分の考えや連絡事項などを明確に伝えるために必要な語彙・表現を習得しましょう。実際のTOEFLライティングテストに合わせて、構成・表現・文法・内容に注意を払いながら、短いエッセイを英語で書けるよう練習しましょう。<対象者>2019年度以降の入学者は、A・Bレベルの学生を対象とします(※Cレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、Aレベルの学生を対象とします。(※B・Cレベルの学生は履修できません)。□							
授業の方法	英問英答を基本とし、受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習(45分): 授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分): 授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。							
テキスト等	『Read to Write Email』 BTB Press							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①Introduction							
	②Subjects and Verbs							
	③Simple compound sentences							
	④Three basic Verb Tenses /Writing 1st draft							
	⑤Prepositions comparison and emotion							
	⑥Avoid repeating nouns and verbs							
	⑦Writing 2nd draft							
	⑧Sentence variety with dependent and independent clauses							
	⑨Supporting your ideas/Telling a short story							
	⑩Describing someone with details							
	⑪1st draft of second assignment							
	⑫Avoiding repeating words							
	⑬Review of final assessment/ pair/group work							
	⑭Final Assignment due (授業内試験の実施と解説)							
	⑮まとめと総復習							

科目名	TOEIC英語							
英文科目名	TOEIC English							
担当者名	松谷明美, 佐藤由美							
科目ナンバリング	ENG110							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。この授業ではTOEIC試験対策に特化し、ビジネス上での英語を通じたコミュニケーション能力の向上を目指します。まずTOEIC試験の問題の傾向を知って、試験の内容項目に沿った単語や学習しながら試験に慣れていくように指導します。写真描写・応答問題・会話問題・説明文問題のリスニング内容と短文・長文穴埋め問題・読解問題のリーディング内容の問題を毎時間学習していきます。各問題には傾向と対策としての解き方のアドバイスもあるので、TOEICの全般的な問題に慣れていきましょう。<到達目標>授業終了時にTOEIC 500点 (TOEIC Bridge 150点)に達することを目標とします。<対象者>2019年度以降の入学者は、A・Bレベルの学生を対象とします(※Cレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、Aレベルの学生を対象とします。(※B・Cレベルの学生は履修できません)。							
授業の方法	受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行いながら英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます (アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習(45分): 授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分): 授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。							
テキスト等	『The Ultimate Approach for the TOEIC Test』成美堂							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・参加態度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①ガイダンス							
	②Unit 1 Entertainment							
	③Unit 2 Transportation/Airport							
	④Unit 3 Technology/Office Supplies							
	⑤Unit 4 Housing/Building/Construction							
	⑥Unit 5 Sightseeing/Guided Tour							
	⑦Unit 6 Eating Out/Restaurant							
	⑧Unit 7 Hospital/Health							
	⑨Unit 8 Finance/Budget/Salary							
	⑩Unit 9 Hobby/Sports/Art							
	⑪Unit 10 Education/Schools							
	⑫Unit 11 Hotel/Service							
	⑬Unit 12 Shopping/Purchases							
	⑭Unit 13 Personnel/Training							
	⑮まとめと総復習							

科目名	TOEFL英語							
英文科目名	TOEFL English							
担当者名	山田浩							
科目ナンバリング	ENG110							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。アメリカ・カナダ・オーストラリアの大学に留学する際に、英語力を証明するために受けなければならないTOEFLのスコアアップを目指し、英語を通じたコミュニケーション能力の向上を図ります。そのために必要な語彙力の養成と日本人には聞き取りにくい発音の区別を練習することで、英語力を高めます。quick responseができるよう、ReadingとListeningのスキルを習得しましょう。また、英語の正確な発音を学んでSpeakingのスキルを磨きましょう。説得力のあるエッセイが書けるよう、Writingのスキルを身に付けましょう。<到達目標>目標得点はTOEFL iBT 61点(TOEFL PBT 500点)です。<対象者>2019年度以降の入学者は、A・Bレベルの学生を対象とします(※Cレベルの学生は履修できません)。2018年度以前の入学者は、Aレベルの学生を対象とします。(※B・Cレベルの学生は履修できません)。							
授業の方法	受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習(45分): 授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分): 授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。							
テキスト等	『Get Ready for the TOEFL Test』成美堂□							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	授業参加度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①ガイダンス							
	②Unit 1 Campus Life							
	③Unit 2 Music, Arts and Literature							
	④Unit 3 Medicine and Health							
	⑤Unit 4 Environment							
	⑥Unit 5 Botany							
	⑦Unit 6 Education							
	⑧Unit 7 Global Climate							
	⑨Unit 8 Earth Science							
	⑩Unit 9 Astronomy							
	⑪Unit 10 History							
	⑫Unit 11 Anthropology and Archaeology							
	⑬Unit 12 Philosophy							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	実用英語(海外研修)							
英文科目名	Practical English (Study Abroad)							
担当者名	カネギター, ワトソン							
科目ナンバリング								
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。英語圏での生活（特に語学研修・留学・旅行など）における様々な場面において、英語で自己表現ができるようになることを目標とします。実生活に必要な語彙・表現を学習し、リスニング・スピーキングを中心とした英語コミュニケーション能力を向上させると同時に、渡航手続きや海外生活に必要な実用的な知識を身に付けましょう。この授業は海外に行くことや、英語を使ってコミュニケーションをとりたいと思っている学生を対象とした授業です。<到達目標>海外渡航・滞在に必要な語彙・表現を使って、自分の考えをある程度表現できるようにし、英語圏についての知識を身に付け、理解を深めましょう。実生活に関する会話について、聞き取りができるようになることを目標とします。							
授業の方法	受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行うことで英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。							
予習と復習	予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。							
テキスト等	『American Vibes』 金星堂							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①Orientation							
	②Chapter 1: Boston, Massachusetts							
	③Chapter 2: Maine							
	④Chapter 3: New York City 1							
	⑤Chapter 4: New York City 2							
	⑥Chapter 5: Washington, D.C.							
	⑦Chapter 6: Charleston, South Carolina							
	⑧Chapter 7: Savannah, Georgia							
	⑨Chapter 8: Oswego, New York							
	⑩Chapter 9: Austin, Texas							
	⑪Chapter 10: Saint Jo, Texas							
	⑫Chapter 11: Santa Fe, New Mexico							
	⑬Chapter 12: Arizona (Grand Canyon, Route 66)							
	⑭Chapter 13: Los Angeles 1							
	⑮まとめと総復習							

科目名	中国語Ⅰ 中国語ⅠA								
英文科目名	ChineseⅠ ChineseⅠA								
担当者名	【春学期】李雲, 黄静ブン, 宮島琴美【秋学期】宮島琴美								
科目ナンバリング	CHI101								
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。中国語は約65億人の世界総人口の中で約15億人が話している、英語に次ぐ世界共通語です。「中国語Ⅰ」は中国語ネイティブの教員による授業で、中国語の学習経験がない学生を対象とします。中国語発音の基礎となる「ピンイン」や、日常のコミュニケーションに必要な単語や短い会話文などを習得します。さらに、中国語のイントネーションを楽しみながら、「聴く」と「話す」ことを中心に授業を進めていき、中国語を通じたコミュニケーション能力の向上を図ります。なお「中国語Ⅰ」は発展科目である「中国語Ⅱ（会話）」「中国語Ⅱ（読解）」「中国語Ⅱ（作文）」の履修の前提となっています。<学習到達目標>「ピンイン」という中国語の発音システムを理解し、ほぼ正確に発音できること、その他に日常的に使われる単語や「初めまして、ようこそ」といった簡単な挨拶用語、名前の聞き方、答え方などの短い文を理解して発音できることを目標とします。								
授業の方法	テキストにでてきた単語や会話文の意味、文法事項を説明した上で発音を練習します。最後にグループワークで文章を音読することで発音や理解度を確認します（アクティブ・ラーニング）。								
予習と復習	予習(45分)：次回の授業に出てくる単語と文法に目を通しましょう。復習(45分)：授業後、授業で出た単語を覚え、本文を何度も音読しましょう。								
テキスト等	木村淳・泉田俊英・李原翔著 『じっくり学ぶ中国語』（金星堂）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%	
	課題・授業参加度		60%					0%	
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。								
授業計画	①ガイダンス（講義概要を説明する）								
	②声調（四声）、母音								
	③子音、変調、軽声								
	④アル化、ピンインのつづり方、発音練習								
	⑤発音の復習								
	⑥第1課「こんにちは。」簡体字について								
	⑦第2課「お名前は何ですか。」								
	⑧第3課「これは何ですか。」								
	⑨挨拶や、名前の聞き方などの復習								
	⑩第4課「どこの国の人ですか。」								
	⑪第5課「これは誰の鉛筆ですか。」								
	⑫第6課「今日は何曜日ですか。」								
	⑬第7課「今日は何日ですか。」								
	⑭授業内試験の実施と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	中国語Ⅱ(会話) 中国語ⅠB							
英文科目名	ChineseⅡ(speaking) ChineseⅠB							
担当者名	李雲, 黄静ブン							
科目ナンバリング	CHI102							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。「中国語Ⅰ」の単位を取得した学生を対象とします。「中国語Ⅱ(会話)」はネイティブ教員による授業で、中国語発音の基礎となる「ピンイン」をさらに強化して自然な発音ができるようにし、また、日常生活で使う単語や文法、短い会話文などを習得します。中国語のイントネーションや言葉のやり取りを楽しみながら、「聞く」と「話す」ことを中心に授業を進めていき、中国語を通じたコミュニケーション能力の向上を図ります。<学習到達目標>「中国語Ⅰ」で習得した知識を基礎に、単語の「ピンイン」を見てほぼ発音できること、旅行程度の単語を使えるようにすること、そして曜日や一日のスケジュールなどを取り入れた会話文を理解できることを目標とします。							
授業の方法	テキストにでてきた単語や会話文の意味、文法事項を説明した上で発音を練習します。最後にグループワークで文章を音読することで発音や理解度を確認します(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習(45分): 次回の授業に出てくる単語と文法に目を通しましょう。復習(45分): 授業後、授業で出た単語を覚え、本文を何度も音読しましょう。							
テキスト等	木村淳・泉田俊英・李原翔著 『じっくり学ぶ中国語』 (金星堂)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	課題・授業参加度		60%					0%
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。							
授業計画	①ガイダンス(講義概要を説明する)							
	②復習—発音、声調(四声)							
	③第8課「いま何時ですか。」							
	④第9課「いくつですか。」							
	⑤第10課「いくらですか。」							
	⑥第11課「何を買うつもりですか。」							
	⑦時間や、年齢、買い物などの言い方の復習							
	⑧第12課「何人家族ですか。」							
	⑨第13課「すみません中国語教室はどこですか」							
	⑩第14課「図書館に中国語の本はありますか。」							
	⑪第15課「趣味は何ですか。」							
	⑫第16課「中国語が話せますか。」							
	⑬第17課「明日来られますか。」							
	⑭授業内試験の実施と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	中国語Ⅱ(読解) 中国語ⅡA								
英文科目名	ChineseⅡ (reading) ChineseⅡA								
担当者名	宮島琴美								
科目ナンバリング	CHI291								
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。「中国語Ⅰ」の単位を取得した学生を対象とします。「中国語Ⅱ(読解)」はネイティブ教員による授業で、より高い水準の読解能力を身につけられるように、新たな単語や、言い回し、文型などを学び、中国語の少し長い文章でも日本語に訳せるように訓練します。今まで習得した内容を実際に作文する場面において活用するとともに、中国文化を一層理解し、中国語を通じたコミュニケーション能力のさらなる向上を目標とします。<学習到達目標>「中国語Ⅰ」で習得した知識を基礎に、主に文章の「読む」力を養い、簡単な中国語の文章を音読し、意味を理解した上で、的確な日本語に訳せること、長めの文章購読ができることを目標とします。								
授業の方法	テキストにでてきた単語や会話文の意味、文法事項を説明した上で発音を練習します。最後にグループワークで文章を音読することで発音や理解度を確認します(アクティブ・ラーニング)。								
予習と復習	予習(45分): 次回の授業に出てくる単語と文法に目を通しましょう。復習(45分): 授業後、授業で出た単語を覚え、本文を何度も音読しましょう。								
テキスト等	楊凱榮・張麗群 著『身につく中国語〔改訂新版〕』(白帝社)								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%	
	課題・授業参加度		60%					0%	
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。								
授業計画	①発音の復習								
	②人称代名詞と動詞述語文								
	③疑問文と副詞								
	④指示詞と“是”								
	⑤連体修飾、疑問詞疑問文と語気助詞								
	⑥形容詞述語文、反復疑問文と程度副詞								
	⑦陳述文や、疑問文などの復習								
	⑧数詞と日にちなど								
	⑨名詞述語文								
	⑩“的”の省略と場所を表す指示詞								
	⑪所在を表す文と距離の隔たりを表す文								
	⑫所有を表す文と主述述語文								
	⑬数量詞と親族の呼び方								
	⑭授業内試験の実施と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	中国語Ⅱ(作文) 中国語ⅡB								
英文科目名	ChineseⅡ(writing) ChineseⅡB								
担当者名	宮島琴美								
科目ナンバリング	CHI292								
授業の概要と到達目標	<授業の概要>外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。「中国語Ⅰ」の単位を取得した学生を対象とします。「中国語Ⅱ(作文)」はネイティブ教員による授業で、より高い水準の作文能力を身につけられるように、新たな単語や、言い回し、文型などを学び、日本語の少し長い文章でも中国語に訳せるように訓練します。今まで習得した内容を実際に作文する場面において活用するとともに、中国文化を一層理解し、中国語を通じたコミュニケーション能力のさらなる向上を目標とします。<学習到達目標>「中国語Ⅰ」で習得した知識を基礎に、主に文章の「書く」力を養い、簡単な日本語の文章を正確に中国語に訳した上で音読もできること、より完成度の高い中国語の作文ができることを目標とします。								
授業の方法	テキストにでてきた単語や会話文の意味、文法事項を説明した上で発音を練習します。最後にグループワークで文章を音読することで発音や理解度を確認します(アクティブ・ラーニング)。								
予習と復習	予習(45分): 次回の授業に出てくる単語と文法に目を通しましょう。復習(45分): 授業後、授業で出た単語を覚え、本文を何度も音読しましょう。								
テキスト等	楊凱榮・張麗群 著『身につく中国語〔改訂新版〕』(白帝社)								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%	
	課題・授業参加度		60%					0%	
	単位取得のためには、原則授業回数の70%以上の出席が必要です。								
授業計画	①連動文と助動詞								
	②手段を表す疑問文と動詞の重ね型								
	③時間の幅などと経験を表す文								
	④願望を表す文と選択疑問文								
	⑤完了の文と語気助詞								
	⑥場所を表す文								
	⑦文末の“了”と“再”と比較を表す前置詞								
	⑧複雑構文や、願望を表す文、過去を表す構文などの復習								
	⑨連動文と取り立ての文								
	⑩起点を表す文と方向補語								
	⑪動作の進行を表す文								
	⑫使役の文と時間の短いことを表す文								
	⑬受給などの文と結果補語等								
	⑭授業内試験の実施と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	基礎ドイツ語(文法)							
	ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠA							
英文科目名	Basic German (Grammar)							
	GermanⅠA GermanⅠA							
担当者名	井口祐介							
科目ナンバリング	GER101							
授業の概要と到達目標	外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。ドイツ語をはじめて学ぶ学生を対象とし、ドイツ語の基礎的な文法事項を学んでいきます。到達目標は、以下の①～⑥です。①音とつづり字との関係を正確に把握し、ドイツ語のことばを正しく発音できる。②ドイツ語の言い回しが使われる状況を正確に理解し、その言い回しを正しく発声できる。③実際にドイツ語を使う中でドイツ語の基礎的な文法規則を「発見」し、その規則を正しく運用できる。④失敗や言い間違いを恐れずに、ドイツ語で積極的に簡単な意思表示をすることができる。⑤自分の置かれた状況を正確に理解し、それに相応しいドイツ語の言い回しを選択することができる。⑥日本語や英語とも違った文法構造を持つドイツ語に触れることにより、異なる言語・文化を持つ他者の存在を意識することができる。							
授業の方法	この授業においては、事情の許す限り、ペアワークやグループワーク等のアクティブ・ラーニングを用いて授業を進めます。また場合によってはプレゼンテーション課題を課すこともあります。受講者同士のコミュニケーションを重視する他、自律的にドイツ語を勉強できるようになることを目指します。							
予習と復習	授業後に毎回課す課題（45分程度）には必ず取り組むこと。また授業前には前回授業の振り返りを行ない、授業の準備を行なうこと（45分程度）。							
テキスト等	赤澤元務、須藤勲『フィール・エアフォルク！はじめてのドイツ語（改訂版）』、同学社、2018年。必ず教科書を購入し、毎回持参してください。辞書も必ず持参してください（授業の妨げにならないのであれば、スマホの辞書アプリの使用も可です）。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%
	単位の認定要件は、欠席が5回以内であることです。遅刻は2回で欠席1回として扱います。平常点60点、授業内試験40点の計100点満点で評価をし、60点以上を合格とします。授業態度および各回に課す課題のクオリティにより平常点を算出します。							
授業計画	①ガイダンス、導入、第0課① 発音規則							
	②第0課② 発音規則、ドイツ語の挨拶、数詞							
	③第1課① 動詞の現在人称変化							
	④第1課② ドイツ語の語順、疑問詞							
	⑤第2課① 名詞の性と格変化							
	⑥第2課② 動詞seinとhabenの現在人称変化と用法							
	⑦第3課① 不規則動詞の現在人称変化							
	⑧第3課② 名詞の複数形、疑問文への答え方							
	⑨第4課① 人称代名詞の3格・4格							
	⑩第4課② 定冠詞類・不定冠詞類							
	⑪第5課① 3格支配の前置詞、4格支配の前置詞、3・4格支配の前置詞							
	⑫第5課② zu不定詞（句）							
	⑬第6課① 分離動詞、非分離動詞							
	⑭第6課② 従属接続詞と副文							
	⑮まとめと総復習、授業内試験							

科目名	基礎ドイツ語(会話)							
	ドイツ語 I B ドイツ語 I B							
英文科目名	Basic German (Conversation)							
	German I B German I B							
担当者名	井口祐介							
科目ナンバリング	GER102							
授業の概要と到達目標	外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目です。ドイツ語をはじめて学ぶ学生を対象とし、日常生活での基本的な表現を理解し、ドイツ語でごく簡単なやりとりをできるようになることを目指します。ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のA1レベルに相当する教科書を使用し、受講者は実際にドイツ語を使う中で、少しずつドイツ語の文法規則や言い回しを身につけていきます。到達目標は、以下の①～⑥です。①音とつづり字との関係を正確に把握し、ドイツ語のこばを正しく発音できる。②ドイツ語の言い回しが使われる状況を正確に理解し、その言い回しを正しく発声できる。③実際にドイツ語を使う中でドイツ語の基礎的な文法規則を「発見」し、その規則を正しく運用できる。④失敗や言い間違いを恐れずに、ドイツ語で積極的に簡単な意思表示をすることができる。⑤自分の置かれた状況を正確に理解し、それに相応しいドイツ語の言い回しを選択することができる。⑥日本語や英語とも違った文法構造を持つドイツ語に触れることにより、異なる言語・文化を持つ他者の存在を意識することができる。							
授業の方法	この授業においては、事情の許す限り、ペアワークやグループワーク等のアクティブ・ラーニングを用いて授業を進めます。また場合によってはプレゼンテーション課題を課すこともあります。受講者同士のコミュニケーションを重視する他、自律的にドイツ語を勉強できるようになることを目指します。							
予習と復習	授業後に毎回課す課題（45分程度）には必ず取り組むこと。また授業前には前回授業の振り返りを行ない、授業の準備を行なうこと（45分程度）。							
テキスト等	Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Kursbuch, Hueber Verlag, 2012. 必ず教科書を購入し、毎回持参してください。辞書も必ず持参してください（授業の妨げにならないのであれば、スマホの辞書アプリの使用も可です）。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	60%
				0%				0%
	単位の認定要件は、欠席が5回以内であることです。遅刻は2回で欠席1回として扱います。平常点60点、レポート等40点の計100点満点で評価をし60点以上を合格とします。授業態度および各回に課す課題により平常点を算出します。							
授業計画	①ガイダンス、導入、ドイツ語のアルファベット							
	②ドイツ語で挨拶をする							
	③ドイツ語で自己紹介をする							
	④ドイツ語で自分の職業について伝える							
	⑤ドイツ語の数字を学ぶ							
	⑥ドイツ語で家族を紹介する							
	⑦ドイツ語で疑問文に答える							
	⑧ドイツ語で家具について話す							
	⑨ドイツ語で値段について話す							
	⑩ドイツ語で商品について話す							
	⑪ドイツ語で商品の注文をする							
	⑫ドイツ語の電話表現を学ぶ							
	⑬ドイツ語で事務用品について話す							
	⑭ドイツ語で趣味について話す							
	⑮まとめと総復習							

科目名	基礎フランス語(文法)							
	フランス語 I A							
	フランス語 I A							
英文科目名	Basic French (Grammar)							
	French I A							
	French I A							
担当者名	森真太郎							
科目ナンバリング	FRE101							
授業の概要と到達目標	外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を習得する科目です。フランス語がどんな仕組みでできているかを、基本的な文法事項を学んで理解し、作文や会話などさらなる学習をするための土台をつくっていきます。教材のそれぞれの課における定型文と発音を学習します。また、それをベースとして、応用表現をこころみたり、応用問題を解きます。また、随時フランス文化やヨーロッパの時事問題について、映像教材などに触れ、フランス語の背景にある文化についての知識も増やし、学習や表現にも役立てていきます。							
授業の方法	2回の授業で1課を進めていく予定です。奇数回目：テーマとなる会話の学習と発音のチェック（課題の提出）偶数回目：奇数回目の解説、応用表現の作成、発音・会話練習アクティブ・ラーニングとして、「自分で調べる」、「実際に発音する」活動を中心とします。							
予習と復習	予習（45分）：教材に付属の音声を聞く（奇数回）、会話練習や応用問題の準備（偶数回）復習（45分）：教員からのフィードバック、復習として指示された内容に取り組むこと。							
テキスト等	吉川佳英子他著『プルミエ・パ』朝日出版社。＊教科書は必ず大学の売店で購入すること。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	平常点は、各回の授業で行われる活動への参加や課題への取り組みが評価の対象となる。							
授業計画	①フランス語に親しむ。オリエンテーション。							
	②簡単なあいさつ。アルファベ。自分の名前を言う。							
	③国籍を言う。être（英語のbe動詞）							
	④国籍を言う。応用表現・問題。							
	⑤名前・職業を言う。形容詞（属詞）の男性形・女性形。							
	⑥名前・職業を言う。応用表現・問題。							
	⑦持ち物を尋ねる。avoir（英語のhave）							
	⑧持ち物を尋ねる。応用表現・問題。							
	⑨フランス語の発音と綴り字。母音・子音・記号。							
	⑩フランス語の発音と綴り字。複母音・鼻母音・アクセント。							
	⑪趣味を語る。-er動詞（フランス語の9割を占める動詞のかたち）							
	⑫趣味を語る。応用表現・問題。							
	⑬文法事項の補足と総合問題							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	基礎フランス語(会話)							
	フランス語 I B							
	フランス語 I B							
英文科目名	Basic French (Conversation)							
	French I B							
	French I B							
担当者名	森真太郎							
科目ナンバリング	FRE102							
授業の概要と到達目標	外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を習得する科目です。身の回りのこと、普段の生活、レストランや店でのやりとりなど、より実践的な会話を体験することがこの授業の目的です。教材を使って、それぞれの場面における定型表現と発音を学習します。学生同士で会話練習を行ったり、教員と会話などをして、実践的な練習を積みみます。また、随時フランス文化やヨーロッパの時事問題について、映像教材などに触れ、フランス語の背景にある文化についての知識も増やし、表現に生かせるようにします。							
授業の方法	2回の授業で1課を進めていく予定です。奇数回目：テーマとなる会話の学習と発音のチェック（課題の提出）偶数回目：奇数回目の解説、応用表現の作成、発音・会話練習アクティブ・ラーニングとして、「自分で調べる」、「実際に発音する」活動を中心とします。							
予習と復習	予習（45分）：教材に付属の音声を聞く（奇数回）、会話練習や応用問題の準備（偶数回）復習（45分）：教員からのフィードバック、復習として指示された内容に取り組むこと。							
テキスト等	藤田裕二他著『新・東京-パリ, 初飛行(新装改訂三版)』駿河台出版社*教科書はかならず大学の販売所で購入すること。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	平常点は、各回の授業で行われる活動への参加や課題への取り組みが評価の対象となる。							
授業計画	①出会いと自己紹介。会話練習。オリエンテーション。							
	②出会いと自己紹介。応用表現と練習。							
	③フランス語の音と文字。アルファベの練習。							
	④フランス語の音と文字。簡単な発音規則。							
	⑤好きなものを言う。会話練習。							
	⑥好きなものを言う。応用表現と練習。							
	⑦これは何ですか？ 会話練習。							
	⑧これは何ですか？ 応用表現と練習。							
	⑨ここはどこ？ 会話練習。							
	⑩ここは何处？ 応用表現と練習。							
	⑪日本料理店に行く。会話練習。							
	⑫日本料理店に行く。応用表現と練習。							
	⑬ディクテ（聞き取って書く練習）							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	中期留学事前英語演習 IBCS研修英語A								
英文科目名	preliminary English course for mid-term study abroad program Cross-Cultural Training and Language Practice for								
担当者名	カネギター								
科目ナンバリング	SAP101								
授業の概要と到達目標	<授業の概要>中期留学の選考に合格した学生を対象にしています。本学の留学プログラムである中期留学（オレゴン大学・ビクトリア大学）に参加するために必要なことを学び、英語を通じたコミュニケーション能力の向上を目指します。<到達目標>留学先でのプレースメントテストの対策をする、留学先の授業に対応できるように与えられたトピックについて自分の意見をまとめたり、ディスカッションできるようにする、現地の文化や習慣などを事前に調べる等、留学先で最大限の成果をあげるように準備することを目標とします。								
授業の方法	英問英答を基本として、受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行いながら英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。								
予習と復習	予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。								
テキスト等	担当教員が授業時に適宜配布します。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業中の課題・授業への参加点			60%					0%
	授業中に出される課題の内容と授業への積極的な参加態度が60%、授業内試験が40%を占めることになります。授業内試験は返却して、個別に評価と所見を提示します。単位取得のためには原則授業回数の70%以上の出席を必要とします。								
授業計画	①Introduction & Self directed language learning								
	②Unit 1: Introduction & Class information								
	③Unit 2: The future of the American dream								
	④Unit 3: Elon musk								
	⑤Unit 4: America's love with food culture & Vocabulary review								
	⑥Vocabulary test & Unit 9: Costs of American Higher Education								
	⑦Unit 10: The man behind the music Dr. Luke								
	⑧Midterm evaluation								
	⑨Unit 7: America's increasing Militarism with war on Terror								
	⑩Unit 11: After Steve Jobs								
	⑪Unit 13: Pros and cons of legalizing Marijuana								
	⑫Unit 15: The NFL: The internationalization of an American game								
	⑬Vocabulary test & presentation preparation								
	⑭Presentation and Summarizing								
	⑮まとめと総復習								

科目名	中期留学事後英語演習 IBCS研修英語B									
英文科目名	Follow-up English course Cross-Cultural Training and Language Practice for									
担当者名	カネギター									
科目ナンバリング	SAP102									
授業の概要と到達目標	<授業の概要>中期留学を修了した学生を対象にしています。この授業は、本学の留学プログラムである中期留学（オレゴン大学・ビクトリア大学）を修了した後に行われる集中講義です。留学先で培った英語によるコミュニケーション能力のさらなる向上を目指します。<到達目標>留学先で経験したことを振り返りながらディスカッションする、TOEFLの教材を使って学んできた英語のスキルをさらに向上させることを目標とします。									
授業の方法	英問英答を基本とし、受講生同士で回答を考える機会を設けて、さらにはグループワークを行いながら英語のスキルと知識の獲得を目指しながら学習していきます（アクティブ・ラーニング）。									
予習と復習	予習(45分)：授業に臨む前に、指定された範囲の英文を確認しましょう。復習(45分)：授業が終わってから、授業で出された課題をきちんと完成させてください。									
テキスト等	教材は授業時に教員より随時配布されます。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%		
	授業中の課題・授業への参加点			60%	0%					
	授業中に出される課題の内容と授業への積極的な参加態度が60%、授業内試験が40%を占めることになります。授業内試験は返却して、個別に評価と所見を提示します。単位取得のためには原則授業回数の70%以上の出席を必要とします。									
授業計画	①Debriefing session									
	②Summarizing self-directed language									
	③Setting goals for self-directed learning									
	④Preparation for TOEFL - Listening									
	⑤Preparation for TOEFL - Reading									
	⑥Preparation for TOEFL - Speaking									
	⑦Preparation for TOEFL - Writing									
	⑧Integrated Speaking Tasks									
	⑨Integrated Writing Tasks									
	⑩Reviewing self-directed learning									
	⑪Working on preparation difficulties									
	⑫Preparation for TOEFL - Speaking									
	⑬Preparation for TOEFL - Writing									
	⑭授業内試験の実施と解説									
	⑮まとめと総復習									

科目名	短期留学英語							
英文科目名	Overseas Language Study Programs English area							
担当者名	認定科目							
科目ナンバリング	SAP103							
授業の概要と到達目標	授業の目標は、本学派遣による英語圏の大学での語学留学活動を本学における学習活動として評価し、単位を認定するものです。認定される単位数は「2単位」で卒業単位に算入されます。単位認定回数は、在学中1回のみとなります。単位認定の対象となるのは、短期留学における語学留学活動です。この語学留学には、派遣先での留学活動の他に、本学内において実施される事前及び事後の研修プログラムが組み込まれています。これらのプログラムへの参加が単位認定の条件となります。ただし、このプログラムに参加した学生でも、単位認定を希望しない者は、短期留学の単位認定を申請する必要はありません。							
授業の方法	-							
予習と復習	-							
テキスト等	-							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
授業計画	①-							
	②-							
	③-							
	④-							
	⑤-							
	⑥-							
	⑦-							
	⑧-							
	⑨-							
	⑩-							
	⑪-							
	⑫-							
	⑬-							
	⑭-							
	⑮-							

科目名	短期留学中国語							
英文科目名	Overseas Language Study Programs Chinese area I							
担当者名	認定科目							
科目ナンバリング	SAP104							
授業の概要と到達目標	授業の目標は、本学派遣による中国語圏の大学での語学留学活動を本学における学習活動として評価し、単位を認定するものです。認定される単位数は「2単位」で卒業単位に算入されます。単位認定回数は、在学中1回のみとなります。単位認定の対象となるのは短期留学における語学留学活動です。この語学留学には、派遣先での留学活動の他に、本学内において実施される事前及び事後の研修プログラムが組み込まれています。これらのプログラムへの参加が単位認定の条件となります。ただし、このプログラムに参加した学生でも、単位認定を希望しない者は、短期留学の単位認定を申請する必要はありません。							
授業の方法	-							
予習と復習	-							
テキスト等	-							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
授業計画	①-							
	②-							
	③-							
	④-							
	⑤-							
	⑥-							
	⑦-							
	⑧-							
	⑨-							
	⑩-							
	⑪-							
	⑫-							
	⑬-							
	⑭-							
	⑮-							

科目名		健康体力づくり							
英文科目名		Health promotion							
担当者名		【春学期】 浅井, 松本, 中村, 織田, 椿原, 廣瀬, 青葉, 森田 【秋学期】 浅井, 青葉, 廣瀬, 中村, 織田							
科目ナンバリング		PE101							
授業の概要と到達目標	本科目は、健康と体力についての理解と実践を学ぶための科目である。健康的な身体は、より充実した生活を送るための基礎となり、生涯にわたり充実した生活をおくるために、健康を維持増進することは必要不可欠である。この授業では、健康的で充実した生涯を送るための体力の維持・増進方法を教養として身につけることを目標とする。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Tシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。								
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。								
予習と復習	予習（45分）として自らの体力（形態・筋力・持久力など）を評価し、理解するように努力する。必要に応じて、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として健康の維持・増進方法の実践を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。								
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%	
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%	
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。								
授業計画	①オリエンテーション(更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合)								
	②W-upとC-downの実践と注意点、授業内容02から14は順不同								
	③ウォーキングの実践と注意点								
	④ジョギングの実践と注意点								
	⑤筋力トレーニングの実践と注意点								
	⑥ボールを使用した体力維持増進法の実践と注意点								
	⑦ボール未使用の体力維持増進法の実践と注意点								
	⑧体力維持増進法の応用実践（体育・運動の重要性を意識して）								
	⑨体力維持増進法の応用実践（楽しみ方を中心に意識して）								
	⑩体力維持増進法の応用実践（持久力を中心に意識して）								
	⑪体力維持増進法の応用実践（筋力を中心に意識して）								
	⑫体力維持増進法の応用実践（心肺機能を中心に意識して）								
	⑬体力維持増進法の応用実践（筋持久力を中心に意識して）								
	⑭体力維持増進法の応用実践（コーディネーションを中心に意識して）								
	⑮まとめと復習								

科目名		生涯スポーツ(バドミントン)							
英文科目名		Physical life design (Badminton)							
担当者名		【春学期】 廣瀬文彦 【秋学期】 青葉貴明							
科目ナンバリング		PE103/PE109							
授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。バドミントンは多くの人に親しまれている。バドミントンの基礎技術、ゲームが出来ることを目標とする。本講義は、基礎技術をゲームで確認、向上させる知識習得を軸として行う。ルールを理解し技術と戦術を向上させるとともに、互いに協力し自ら進んで追求する学習態度を取る。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Tシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。								
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。								
予習と復習	予習（45分）としてルール・マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。								
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%	
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%	
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。								
授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）								
	②基礎技術練習（グリップ、ドライブ）								
	③基礎技術練習（サービス、クリア）								
	④基礎技術練習（スマッシュ）								
	⑤基礎技術練習（ドロップ）								
	⑥基礎技術練習（ヘアピン）								
	⑦シングルスゲームのルールの理解と練習								
	⑧シングルスゲーム（個人技術）								
	⑨シングルスゲーム（戦術）								
	⑩ダブルスゲームのルールの理解と練習								
	⑪ダブルスゲームの応用練習								
	⑫ダブルスゲーム（連携）								
	⑬ダブルスゲーム（戦術）								
	⑭総合練習及びゲーム（楽しみ方）								
	⑮まとめと復習								

科目名	生涯スポーツ(卓球)							
英文科目名	Physical life design (Table tennis)							
担当者名	【春学期】 青葉貴明, 織田憲嗣 【秋学期】 椿原徹也, 廣瀬文彦							
科目ナンバリング	PE105/PE110/PE111							
授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。卓球は手軽に楽しむことができるスポーツであり、幅広い年齢層の人に愛好されている。授業では基本技術を習得し、ゲームができることを目標とする。そして卓球を通じ、健康・体力、生涯スポーツについて理解を深める。ルールを理解し、技術・戦術を向上させゲームに取り組む。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Tシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。							
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。							
予習と復習	予習（45分）としてルール・マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。							
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							
授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）							
	②基礎技術練習（フォアハンド、バックハンド）							
	③基礎技術練習（ツッツキ）							
	④基礎技術練習（ドライブ）							
	⑤基礎技術練習（スマッシュ）							
	⑥基礎技術練習（各種サービス、レシーブ）							
	⑦シングルスゲームのルールの理解と応用練習							
	⑧シングルスゲーム（個人技術）							
	⑨シングルスゲーム（戦術）							
	⑩ダブルスゲームのルールの理解と応用練習							
	⑪ダブルスゲームの応用練習							
	⑫ダブルスゲーム（連携）							
	⑬ダブルスゲーム（戦術）							
	⑭総合練習及びゲーム（楽しみ方）							
	⑮まとめと復習							

科目名		生涯スポーツ(レクリエーション・スポーツ)							
英文科目名		Physical life design (Recreation sports)							
担当者名		【春学期】 森田重貴, 松本秀夫【秋学期】 松本秀夫, 中村正雄							
科目ナンバリング		PE106							
授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。健康的な身体の維持増進には、身体運動の継続が必要不可欠である。本講義では、特定のスポーツ種目に特化せず、多様種目の経験・熟達から、身体運動の継続に対する基礎的手法を学ぶことを目標とする。状況により担当教員が種目選択を行う。チーム戦を通して社会性や積極性を養う。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Tシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。								
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。								
予習と復習	予習（45分）としてルール・マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。								
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%	
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%	
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。								
授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）								
	②レクリエーション種目（例アイスブレイク・ゲーム）								
	③レクリエーション種目（例グループワーク・ゲーム）								
	④レクリエーション種目（例ユニホック・ルール説明、基本練習）								
	⑤レクリエーション種目（例ユニホック・実践）								
	⑥レクリエーション種目（例ペタング・ルール説明、基本練習）								
	⑦レクリエーション種目（例ペタング・実践）								
	⑧レクリエーション種目（例キャッチザスティック・ルール説明、基本練習・実践）								
	⑨レクリエーション種目（例インディアカ・ルール説明、基本練習）								
	⑩レクリエーション種目（例インディアカ・実践）								
	⑪レクリエーション種目（例フライングディスク・ルール説明、基本練習）								
	⑫レクリエーション種目（例フライングディスク・実践）								
	⑬レクリエーション種目（例ソフトバレーボール・ルール説明、基本練習・実践）								
	⑭レクリエーションの楽しみ方（選択種目）								
	⑮まとめと復習								

科目名	生涯スポーツ(バスケットボール)							
英文科目名	Physical life design (Basketball)							
担当者名	【秋学期】 浅井泰詞							
科目ナンバリング	PE108							
授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。バスケットボールは、スピード感あふれるスポーツであり、瞬時の判断の難しさが面白い。技術・戦術を理解・実践が目標である。基礎技術練習と試合を軸に進めていく。また、身体運動、チームワーク、健康管理の意義を理解し、勝敗や失敗を恐れず追求する学習態度を取る。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Tシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。							
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。							
予習と復習	予習（45分）としてルール・マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。							
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							
授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）							
	②基本技術の習得（ドリブル）							
	③基本技術の習得（パス）							
	④基本技術の習得（シュート）							
	⑤ルールの理解およびゲームの進め方							
	⑥ゲーム中の連携、ポジションの確認							
	⑦個人戦術、グループ戦術の理解（基礎）、ゲーム							
	⑧個人戦術、グループ戦術の理解（応用）、ゲーム							
	⑨ゲーム（楽しみ方）							
	⑩ゲーム（個人技術）							
	⑪ゲーム（個人戦術）							
	⑫ゲーム（連携）							
	⑬ゲーム（グループ戦術）							
	⑭実技試験とゲーム							
	⑮まとめと復習							

科目名	生涯スポーツ(フットサル)							
英文科目名	Physical life design (Futsal)							
担当者名	【春学期】 中村正雄							
科目ナンバリング	PE107							
授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。主にグラウンドで行う。フットサルを通じて協調的実践を目指す。また戦術への理解を深めグループでの技能向上と協調的コミュニケーションを取ったプレーを目指す。ゲームを中心に戦術の理解とチームワーク技能の獲得を目指す。健康的な学生生活を送るためのストレッチやトレーニングも学習する。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合はケガ等に十分注意し万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Tシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は順不同で行い授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。							
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。							
予習と復習	予習（45分）としてルール・マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。							
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							
授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）							
	②トレーニングマッチ　ルールの確認							
	③トレーニングマッチ　コンディショニング							
	④トレーニングマッチ　コーディネーション							
	⑤ゲーム（ファンドリル）							
	⑥ゲーム（パス）							
	⑦4：4ミニゲーム　パス＆ラン（パス）							
	⑧4：4ミニゲーム　パス＆ラン（連携）							
	⑨トレーニングマッチ　ボールコントロール							
	⑩プレシーズンマッチ　戦術							
	⑪リーグ戦　ポゼッション　（楽しみ方）							
	⑫リーグ戦　ポゼッション　（連携）							
	⑬リーグ戦　ポゼッション　（戦術）							
	⑭プレーオフ　セットプレー							
	⑮まとめと復習							

科目名	生涯スポーツ(ソフトボール)							
英文科目名	Physical life design (Softball)							
担当者名	【秋学期】 織田憲嗣							
科目ナンバリング	PE102							
授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。幅広い層で親しまれているソフトボールの基礎・応用技術、ゲーム進行や戦術を学ぶ。また、チームプレーを通して人間性を養い、生涯スポーツの一環として、安全に楽しく実践できる態度を身につける。受講者の経験は問わない。身体運動、チームワーク、健康管理の意義を理解する。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装（ジャージ・Tシャツなど）で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ（赤紐着用）、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。							
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。							
予習と復習	予習（45分）としてルール・マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習（45分）として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。							
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。参考書：攻撃ソフトボール（成美堂出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							
授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）							
	②基礎練習（ボールに慣れる）							
	③基礎練習（グラブに慣れる）							
	④基礎練習（バットに慣れる）							
	⑤応用練習（守備）							
	⑥応用練習（攻撃）							
	⑦応用練習（戦術）							
	⑧攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（楽しみ方）							
	⑨攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（攻撃の戦術・打撃）							
	⑩攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（攻撃の戦術・走塁）							
	⑪攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（攻撃の戦術・連携）							
	⑫攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（守備の戦術・捕球）							
	⑬攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（守備の戦術・連携）							
	⑭攻撃と守備の戦術の把握とゲームの実施（守備の戦術・投球）							
	⑮まとめと復習							

科目名		生涯スポーツ(バレーボール)						
英文科目名		Physical life design (Volleyball)						
担当者名		【秋学期】森田重貴						
科目ナンバリング		PE104						
授業の概要と到達目標	本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。バレーボールの競技特性を理解し、個人技能上達を目指す。個人技能(パス/レシーブ/トス/スパイク/サーブなど)の習得なしに集団技能の発展や、ゲームの楽しさを理解する事は難しい。そこで、個人技能の習得方法を理解し、生涯スポーツとしてのバレーボールの理解を目標とする。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し、実施場所に集合すること。運動に適した服装(ジャージ・Tシャツなど)で臨み、必ず体育館内は室内専用シューズ(赤紐着用)、屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等、街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが、服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～14は順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。							
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。							
予習と復習	予習(45分)としてルール・マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習(45分)として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。							
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
	出席率82%以上評価対象。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延や通信障害等の場合は要状況写真。授業中の態度等は取組により評価。理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価。最後に全体的な評価と所見を伝える。							
授業計画	①オリエンテーション(更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合)							
	②ネット設営・撤去方法, アンダーパス							
	③アップとオーバーパス							
	④アンダーハンドサーブ							
	⑤スパイクの基礎技術							
	⑥スパイクの応用技術							
	⑦レシーブ, トス, スパイクの三段攻撃							
	⑧三段攻撃とブロック							
	⑨各種のゲーム法							
	⑩ミニゲーム(個人技術)							
	⑪ミニゲーム(連携)							
	⑫ゲーム(楽しみ方)							
	⑬ゲーム(戦術)							
	⑭実技試験とゲーム							
	⑮まとめと復習							

科目名	生涯スポーツ(キャンプ)							
英文科目名	Physical life design (Camp)							
担当者名	2023年度休講							
科目ナンバリング	PE114							
授業の概要と到達目標	2023年度休講、2024年度実施。以下2022年度内容本科目は、スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。キャンプは大自然の中に身を置き、鳥の鳴き、風のささやきを聞きながら自然の厳しさやおおらかさに触れ人間の基本生活のあり方をさぐる事が出来る。また、そこで行われる共同生活を通して自律性や社会性を養い、人間的成長が出来る。授業では自分で住む場所を設営し、薪で食事を作り、ろうそくの火で照明するといった生活様式の経験方法を学ぶ。自己の生活を見直すのみならず、災害時の対応を学ぶこと目標とする。一部集中授業で行う。集中ではキャンプ実践をキャンプ場で学ぶ。集中授業はキャンプとスキー・スノーボードを隔年で行う。場所は村営山中湖キャンプ場を予定、費用は2万円程度を予定。日程は、学内直前8/22(10:00～)、キャンプ場8/23-26を予定、詳細は授業時に説明。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画は順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。							
授業の方法	遠隔授業では、受業生の安全確保のために講義形式を中心に行い、必要に応じて理論確認のための実技も行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するためにレポートや試験等を行う。							
予習と復習	予習(45分)として自らの体力(形態・筋力・持久力など)を評価し、理解するように努力する。必要に応じて、授業中に質問できるようにまとめる。復習(45分)として健康の維持・増進方法の実践を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。							
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。[参考書]『キャンプ指導者入門』(公益社団法人日本キャンプ協会)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価する			30%	集中授業中の日誌			20%
	出席率82%以上を評価対象とする。平常点は授業への参加度を評価し、欠席-10点/回、遅刻-5点/回。遅延証明書は要持参。授業中の態度等は取組により評価する。集中授業中に行われる日誌は、内容で評価する。最後に全体的な評価と所見を伝える。							
授業計画	①4/14オリエンテーション(更衣不要, 予約金¥5,000持参, 写真3cm×4cm持参, 球技室集合)							
	②5/19学内授業(更衣不要指定教室集合, キャンプと自然・キャンプ用具, 残金について)							
	③6/16学内授業(更衣不要指定教室集合, キャンプ場でのマナー, 入金確認と合宿届)							
	④7/14学内授業(更衣不要指定教室集合, キャンプでの生活と用具理解)							
	⑤8/22直前学内集中 午前10:00から(体育館2F体育室集合, 用具の確認)							
	⑥8/23集中授業 1日目午後(住居設営・野外調理方法)							
	⑦8/23集中授業 1日目夜(ナイトウォークの方法)							
	⑧8/24集中授業 2日目午前(自然・歴史散策1)							
	⑨8/24集中授業 2日目午後(自然・歴史散策2)							
	⑩8/24集中授業 2日目夜(星見会)							
	⑪8/25集中授業 3日目午前(お好み活動1)							
	⑫8/25集中授業 3日目午後(お好み活動2)							
	⑬8/25集中授業 3日目夜(食事コンテスト)							
	⑭8/26集中授業 4日目午前(住居撤収・環境整備)							
	⑮まとめと復習							

科目名	生涯スポーツ(スキー・スノーボード)							
英文科目名	Physical life design (Ski Snowboard)							
担当者名	新井健之							
科目ナンバリング	PE112							
授業の概要と到達目標	来年度(2024年度)は休講。スノースポーツは生涯スポーツとして長く楽しめるスポーツである。短期間で楽しめるようになり、長期間上達を楽しめる奥の深いスポーツといえる。自然や人との関わりを学び、スノースポーツへの理解を深め教養として身につけることを目標とする。集中授業(12月25～29日予定)で行うが、オリエンテーションを含め数回の学内授業を行う。初回授業(9月21日予定)以外は掲示板にて連絡する。スノースポーツとしてスキーおよびスノーボードを選択する。また、様々な体験を通して、楽しみ方の幅を広げる。体力・技術能力別にクラス分けを行う。スキー・スノーボード共に実技試験としてSAJ公認級別テストを実施する(希望者は認定可能)。場所:白馬五竜スキー場を予定。費用:約5万円(宿泊・食事・リフト含む)コロナ禍の変動のため、上下の可能性有り。日程は学年歴で変更あり。状況により対面と遠隔を組み合わせる場合がある。							
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。							
予習と復習	予習(45分)としてルール・マナーおよび実践に必要な体力について、授業中に質問できるようにまとめる。復習(45分)として生涯スポーツへの応用方法の実践を行う。実践に必要な体力の維持増進を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。							
テキスト等	大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書を提出を必須とする。テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価する			30%	集中授業中の日誌			20%
	出席率82%以上を評価対象とする。平常点は授業への参加度を評価し、欠席-10点/回、遅刻-5点/回。遅延証明書は要持参。授業中の態度等は取組により評価する。集中授業中に行われる日誌は、内容で評価する。最後に全体的な評価と所見を伝える。							
授業計画	①9/21(予備日9/28)オリエンテーション(更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館集合)							
	②学内事前授業10/19(実習費・レンタル)、11/16(実習費・持ち物)、12/14(直前確認)							
	③集中授業12/25午後、班分け・滑りの基本							
	④集中授業12/25夜、雪山での体調管理							
	⑤集中授業12/26午前、種目別技術向上(楽しみ方)							
	⑥集中授業12/26午後、種目別技術向上(停止)							
	⑦集中授業12/26夜、技術理論							
	⑧集中授業12/27午前、種目別技術向上(滑走)							
	⑨集中授業12/27午後、スノースポーツの楽しみ方							
	⑩集中授業12/27夜、滑りの自己分析							
	⑪集中授業12/28午前、種目別技術向上(安全)							
	⑫集中授業12/28午後、種目別技術向上(コントロール)							
	⑬集中授業12/28夜、夜の楽しみ方(レク)							
	⑭集中授業12/29午前、種目別技術向上(自立)							
	⑮事後授業1/18「まとめと復習」							

科目名		健康生涯スポーツ(テニス)						
英文科目名		Physical life design and health promotion						
担当者名		新井健之						
科目ナンバリング		PE113						
授業の概要と到達目標	健康と体力・スポーツについての理解と実践を学ぶための科目である。健康体力づくりと生涯スポーツを同時に連続2コマで実施する。テニスは生涯スポーツとして広く人々に親しまれている。テニスを通じて健康で豊かな人生を送り生涯を通じて積極的に身体活動の意識を高めることが目標である。教養として楽しむための技術・知識の習得を目指す。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合はケガ等に十分注意し万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。授業開始前に更衣し実施場所に集合すること。運動に適した服装(ジャージ・Tシャツなど)で臨み必ず体育館内は室内専用シューズ(赤紐着用)屋外は屋外専用シューズを用意すること。ジーンズ等街着での実技参加は認めない。体調不良等による見学は認めるが服装や靴の準備のない者の実技参加は認めない。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画03～14は順不同で行い03以降は登戸で実施、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。							
授業の方法	この授業では、実習形式で行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を質疑し講師と議論を行う(アクティブ・ラーニング)。自律的な学習を促進するために、実技テスト・リアクションペーパー提出などを行う。							
予習と復習	予習(90分)としてルール・マナーおよび自らの体力(形態・筋力・持久力など)を評価し、理解するように努力する。授業中に質問できるようにまとめる。復習(90分)として健康の維持・増進方法の実践を行う。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。							
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	授業中の態度等から評価			30%	授業中に行われる理解度テスト等から評価			20%
授業計画	出席率82%以上評価対象。1回2コマ実施。平常点は授業への参加度を評価。欠席-5点/コマ届出欠席-4点/コマ遅刻-5点/回。遅延等は要状況写真。授業中の態度等は取組を評価。授業中の理解度テスト等は実技テストやレポート等で評価し最後に全体的な評価と所見を伝える。							
	①オリエンテーション(更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合)							
	②W-upとC-downの実践と注意点/ウォーキングの実践と注意点(体育館集合)							
	③ラケットティング/ジョギングの実践と注意点(以降登戸グラウンド)							
	④ボレーの基本技術/筋力トレーニングの実践と注意点							
	⑤ストローク/ボールを使用した体力維持増進法の実践と注意点							
	⑥サーブ・レシーブ/ボール未使用の体力維持増進法の実践と注意点							
	⑦雁行陣のポジショニング/体力維持増進法の応用実践(体育・運動の重要性を意識して)							
	⑧アプローチ/体力維持増進法の応用実践(楽しみ方を中心に意識して)							
	⑨サーブorレシーブ&ボレー/体力維持増進法の応用実践(持久力を中心に意識して)							
	⑩平行陣のポジショニングと戦略/体力維持増進法の応用実践(筋力を中心に意識して)							
	⑪平行陣練習(VvsS)/体力維持増進法の応用実践(心肺機能を中心に意識して)							
	⑫平行陣練習(VvsV)/体力維持増進法の応用実践(筋持久力を中心に意識して)							
	⑬ルールとマナー/体力維持増進法の応用実践(コーディネーションを中心に意識して)							
	⑭ハーフコート練習(ストレート/クロス)							
⑮まとめと復習								

科目名		総合科目(春) 総合科目A						
英文科目名		General Subject(Spring) General Subject A						
担当者名		長谷川万希子, 早坂めぐみ						
科目ナンバリング		INTD201						
授業の概要と到達目標	【テーマ】子どもの未来—子どもが夢を持ち続けられる社会の実現を探る—【目標】子どもの未来に繋がる社会の現状と課題を知る。子どもが夢を持ち続けられる社会の実現のために、私達には何ができ、何が求められているのかを理解し、実践できる社会人になる。【授業の概要】教育・社会福祉・医療・法律・税制等の多分野の専門家・実践家からお話を伺い、子どもが夢を持ち続けられる社会の実現を自分事として探る。							
授業の方法	<アクティブ・ラーニング>各回の講師より示されるテーマに対し、具体的な学習目標を履修者各自が設定し、各回の授業終了後に学習目標の達成度を各自が自身で評価する。							
予習と復習	・予習（90分）各回のテーマに関する学習目標とキーワードを、履修者各自で設定する。・復習（90分）授業で学んだ内容に関して、キーワードを深く理解するために、調べ学習を行う。							
テキスト等	・テキストの指定なし。・毎回、資料を提示、ないしは配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	75%	平常点	25%
				0%				
	①全授業回の3分の2以上の出席を求める。②遅刻・早退、欠席は、平常点から減点する。③居眠り、授業以外の活動は、平常点から減点する。④毎回、授業の振り返りのレポートを提出する。							
授業計画	①ガイダンス 長谷川万希子・早坂めぐみ 高千穂大学人間科学部教授・准教授							
	②紛争地の子どもの現状と未来 宮嶋茂樹 フリーランス報道カメラマン							
	③私立小学校の教育と子どもの未来 高橋丈夫 成城学園初等学校副校長							
	④私立学校進学と子どもの未来 児玉徹 (株)Educational Network エキスパート							
	⑤地域での学習支援と子どもの未来 佐藤公 れんせい会塾長							
	⑥妊娠・出産と子どもの未来 柏崎香織 医療法人かしわ会かしわざ産婦人科・医師							
	⑦障害児の就学支援と子どもの未来 松浦隆太郎 元杉並区立済美養護学校長							
	⑧社会的養護／地域支援と子どもの未来 飯田政人 社会福祉法人福音寮理事長							
	⑨発達支援と子どもの未来 村一浩 元杉並区立子ども発達センター長							
	⑩メンタルヘルスと子どもの未来 羽藤邦俊 代々木の森診療所理事長							
	⑪子どもの権利擁護と子どもの未来 松原拓郎 井の頭法律事務所所長・弁護士							
	⑫税制と子育て・子どもの未来 福田都介 福田会計事務所所長・税理士							
	⑬海外留学支援と子どもの未来 田原佑介 (株)LOOPAL代表／元埼玉県立高等学校教諭							
	⑭公立学校の教育/不登校児支援と子どもの未来 山田良一 高千穂大学人間科学部兼任講師							
	⑮全体のまとめ／生涯学習社会における学びのデザインと子どもの未来 長谷川・早坂							

科目名	総合科目(秋) 総合科目B								
英文科目名	General Subject(Autumn) General Subject B								
担当者名	山里盛文								
科目ナンバリング	INTD202								
授業の概要と到達目標	テーマ『消費生活と法』私たちの生活の環境は変化し、それに伴い、様々な問題が生じています。この授業では、私たちが送る消費生活における問題の発生とその解決手段としての各種の法律について講義します。また、近時発達が著しい、キャッシュレス決済の仕組みにつきも検討します。そして、消費生活に潜む問題やその問題に対する対処などを知り、行動することができるようにすることを目的とします。								
授業の方法	学外講師あるいは本学教員が講義を行います。各回で、講義担当者が質疑応答の時間を設け、アクティブ・ラーニング（ディスカッション等）を実施します。								
予習と復習	予習（90分）講義担当者やテーマについて調べてください（ネット検索、著書や論文の検索）。復習（90分）配布された資料等を再度読んで、理解を深めてください。								
テキスト等	授業中に資料を配布します。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%	
				0%					0%
	毎回の講義内容についてレポートを課します。								
授業計画	①導入								
	②契約の一般ルールと消費者法								
	③消費者契約法 ①（不当勧誘規制）								
	④消費者契約法 ②（不当条項規制）								
	⑤特定商取引法								
	⑥金融商品取引と消費者保護								
	⑦消費者被害の救済手段								
	⑧ゼミ発表会による振替								
	⑨キャッシュレス決済の仕組み ①（クレジットカード決済）								
	⑩キャッシュレス決済の仕組み ②（プリペイド・コード決済）								
	⑪キャッシュレス決済の仕組み ③（その他決済手段）								
	⑫悪徳商法と法律の対応								
	⑬刑事規制による消費者保護								
	⑭消費者被害と消費者教育								
	⑮まとめと復習								

科目名		日本の文化と歴史 日本事情A							
英文科目名		The culture and the history of Japan							
担当者名		2023年度休講							
科目ナンバリング		FOR101							
授業の概要と到達目標	「日本の文化と歴史」は、留学生が総合的な視点から日本に関する教養を身につけるための科目である。本講義では、日本の文化、歴史などに関わる諸事情を学び、自国との違いを考察する力を養うとともに、それらを伝える力を身につけることを目的とする。具体的なテーマは、授業計画の通りである。ただし、授業計画のテーマ内容及びその順序は変更することがある。								
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でフィールドワーク、履修者による学習発表会などを実施する。								
予習と復習	予習（90分）次回のテーマについて調べておくこと。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	講義時に資料等を配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	課題			100%				0%	
	全ての課題について全般的な評価と所見を提示する。全出席を目標とすること。								
授業計画	①ガイダンス								
	②本学の歴史（本学構内、100周年記念史料室、石碑他）								
	③杉並の郷土史①（歴史にみる杉並）								
	④杉並の郷土史②（和田堀公園、古墳、遺跡、和田堀）								
	⑤杉並の郷土史③（杉並区立郷土博物館）								
	⑥ゼミナール発表会振替聴講（予定）								
	⑦学習発表会								
	⑧日本の武道①（様々な武道）								
	⑨日本の武道②（本学構内、武道場、弓道場他）								
	⑩日本の宗教①（国内の宗教分類）								
	⑪日本の宗教②（大宮八幡宮）								
	⑫廃棄物の歴史①（江戸期の循環型社会）								
	⑬廃棄物の歴史②（東京ごみ戦争歴史みらい館）								
	⑭学習発表会								
	⑮まとめと総復習								

科目名	日本の産業と社会 日本事情B							
英文科目名	The industries and the society of Japan							
担当者名	山里盛文							
科目ナンバリング	FOR102							
授業の概要と到達目標	本講義は日本の産業と社会などに係る学問の諸事情を学び、日本社会と自国の産業と社会の違いを考察する力を養うとともに、それらを正確な文章としてまとめる力を身につけることを目的とする。具体的には、日本の風習、企業やビジネスの形態、家族、IT産業、就労状況、歴史、哲学と思想、環境、流通などについて学習してもらう。これらについて、各回の講義担当者と質疑応答等を行い、小レポートをを提出してもらう。＊授業計画（各テーマ含む）は、各講義担当者と日程の調整上、変更の可能性がある。							
授業の方法	オムニバス形式で実施し、リアクションペーパーを基にした質疑応答（アクティブラーニング）をすべての授業回で実施する。							
予習と復習	予習（90分）次回のテーマについて調べる。復習（90分）授業内容についてさらに詳しく調べる。							
テキスト等	各講義にてプリント、資料等を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	授業内レポート・感想文			100%				
	小レポートの一部について、全般的な評価と所見を提示する。受講希望者は全出席を旨とする。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②日本社会の年中行事							
	③日本社会の庶民の生活							
	④日本のビジネスコンテンツ							
	⑤日本の環境問題							
	⑥日本の哲学・思想							
	⑦日本の中小企業とファミリービジネス							
	⑧日本の司法制度							
	⑨日本の会社制度							
	⑩日本の家族							
	⑪日本のIT産業と情報化の現状							
	⑫近代日本における軍事産業							
	⑬日本の物流業の課題							
	⑭日本での就労事情と今からできる準備							
	⑮まとめと復習							

科目名	日本史(古代・中世・近世)							
英文科目名	Japanese History(ancient, medieval and early modern)							
担当者名	似鳥雄一							
科目ナンバリング	HIST101							
授業の概要と到達目標	人文分野の視点から教養を身につけるための科目です。本講義では、日本の前近代史をおおよそ年代順にみていきます。それによって基礎的な知識を獲得するとともに、歴史の流れを理解することを目指します。その際に重要なことは、単に歴史上の用語を暗記するだけでなく、知識をもとにして考えることです。例えば、歴史的な出来事がなぜ起こったのか、当時の人々が何を思いどのように考えていたのか、現代の我々はそれらのことをどのようにして知りうるのか、といったことが課題になります。突き詰めていえば、歴史を学ぶことの意義とは、時間の経過とともに変わったことと変わらないことを見極め、人間と社会の本質をつかむことにあります。本講義でも、現代の日本と世界について深く考えるためのヒントを示せればと思います。							
授業の方法	基本的には講義形式ですが、アクティブ・ラーニングとして、毎回の授業のなかでランダムに受講生への問いかけを発し、知識の確認と理解の促進のためのディスカッションの場とします。							
予習と復習	予習（90分）：授業で示された参考文献に目を通し、日本史に関する知識を確かめておくこと。復習（90分）：毎回の授業後、次回までに講義内容を再確認して理解を深めておくこと。							
テキスト等	プリントを配布します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	論述式の試験で評価します。フィードバックとして、全体的な評価と所見をT-Naviで配信します。							
授業計画	①ガイダンス							
	②〔古代1〕古墳～飛鳥時代（3～7世紀）							
	③〔古代2〕奈良時代（8世紀）							
	④〔古代3〕平安初期（9～10世紀）							
	⑤〔古代4〕摂関時代（10～11世紀）							
	⑥〔中世1〕院政時代（11～12世紀）							
	⑦〔中世2〕鎌倉時代（12～14世紀）							
	⑧〔中世3〕南北朝時代（14世紀）							
	⑨〔中世4〕室町時代（15世紀）							
	⑩〔中世5〕戦国時代（16世紀）							
	⑪〔近世1〕織豊～江戸初期（16～17世紀）							
	⑫〔近世2〕江戸前期（17～18世紀）							
	⑬〔近世3〕都市社会と村社会							
	⑭〔近世4〕江戸後期（18～19世紀）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	日本史(近代・現代)								
英文科目名	Japanese History(modern and contemporary)								
担当者名	似鳥雄一								
科目ナンバリング	HIST102								
授業の概要と到達目標	人文分野の視点から教養を身につけるための科目です。本講義では、日本の近現代史をおおよそ年代順にみていきます。それによって基礎的な知識を獲得するとともに、歴史の流れを理解することを目指します。その際に重要なことは、単に歴史上の用語を暗記するだけでなく、知識をもとにして考えることです。例えば、歴史的な出来事がなぜ起こったのか、当時の人々が何を思いどのように考えていたのか、現代の我々はそれらのことをどのようにして知りうるのか、といったことが課題になります。突き詰めていえば、歴史を学ぶことの意義とは、時間の経過とともに変わったことと変わらないことを見極め、人間と社会の本質をつかむことにあります。本講義でも、現代の日本と世界について深く考えるためのヒントを示せればと思います。								
授業の方法	基本的には講義形式ですが、アクティブ・ラーニングとして、毎回の授業のなかでランダムに受講生への問いかけを発し、知識の確認と理解の促進のためのディスカッションの場とします。								
予習と復習	予習（90分）：授業で示された参考文献に目を通し、日本史に関する知識を確かめておくこと。復習（90分）：毎回の授業後、次回までに講義内容を再確認して理解を深めておくこと。								
テキスト等	プリントを配布します。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%	
				0%					0%
	論述式の試験で評価します。フィードバックとして、全体的な評価と所見をT-Naviで配信します。								
授業計画	①ガイダンス								
	②明治維新								
	③自由民権運動・帝国憲法制定								
	④日清・日露戦争と帝国主義								
	⑤大陸進出と第一次世界大戦								
	⑥大正デモクラシー								
	⑦近代の社会と民衆								
	⑧相次ぐ恐慌、大陸の権益								
	⑨ファシズムと日中戦争								
	⑩アジア・太平洋戦争								
	⑪占領改革と東西冷戦								
	⑫戦後の復興と混迷								
	⑬「経済大国」日本、変わる世界秩序								
	⑭平成、そして令和へ								
	⑮まとめと総復習								

科目名		外国史(古代・中世)						
英文科目名		World History(Ancient & Medieval History)						
担当者名		岡田泰介						
科目ナンバリング		HIST103						
授業の概要と到達目標	この科目は、人間科学部のディプロマシーポリシーの一つ、「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる」ことを目的としている。21世紀に生きる私たちの社会や文化、人間関係、感情といったものは過去の人類の長い歴史の延長上にあり、その影響を受けている。それだけに現在を生きる私たちは誰であっても、よりよく生きるために歴史を学ぶ必要がある。この授業を受講する皆さんには、単に過去のできごとや年代を学ぶだけではなく、それらが自分自身の時代にどう痕跡を残しているのか、という点を重視してもらいたい。その上で私たちの世界の現状と未来について考えを深めることがこの授業の到達目標である。具体的には、ヨーロッパ（と近代以降のアメリカ）の歴史を古代から現代まで学ぶ。現代の政治・経済・社会・国際関係のしくみのほとんど（民主政・株式会社・社会保険制度・国際法など）はで生まれたものであり、ヨーロッパの歴史を学ぶことは、商学部・経営学部・人間科学部のいずれの学生にとっても確実に役に立つであろう。							
授業の方法	アクティブラーニングの方法として、毎回の授業について小テストを行い、次回の授業の冒頭で解説する。また、任意のコメントペーパーを集め、それについても授業の冒頭でコメントする。							
予習と復習	〈予習（90分）〉下に挙げたテキストを事前に読み、該当する時代について全体像を把握しておくことが望ましい。〈復習（90分）〉授業ノートを読み直し、以下に挙げたテキストや他の文献を用いながら理解を深める。疑問点は自分で調べるか、担当教員に質問すること。							
テキスト等	教科書は特に指定しないが、高等学校の世界史B程度の内容は理解していることを前提に授業するので、きちんと予習して出席すること。図書館には『もういちど読む山川世界史』（山川出版社2006）、『詳説世界史研究』（山川出版社2017）などがある。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				
	毎回の授業について小テストを課す（各10点、合計140点）。60点以上取得した者に単位を認定する。期末テストはおこなわない。出席は成績に影響しないが、出席しなければ小テストは零点となる。初回も講義と小テストを課すので、そのつもりで受講すること。							
授業計画	①ガイダンス							
	②感染症と人間の歴史の始まり							
	③ペスト（1）ペストとは何か							
	④ペスト（2）黒死病							
	⑤ペスト（3）マルセイユの大ペスト							
	⑥梅毒							
	⑦結核（1）結核とは何か							
	⑧結核（2）産業革命と結核							
	⑨コレラまたは「青い恐怖」							
	⑩マラリアと「開発原病」							
	⑪天然痘							
	⑫スペイン・インフルエンザ							
	⑬HIV（ヒト免疫不全ウイルス）とAIDS（後天性免疫不全症候群）							
	⑭感染症と人間の現在							
	⑮まとめ							

科目名		外国史(近代・現代)							
英文科目名		World History (Modern History)							
担当者名		岡田泰介							
科目ナンバリング		HIST104							
授業の概要と到達目標	この科目は、人間科学部のディプロマシーポリシーの一つ、「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を实践できる」ことを目的としている。21世紀に生きる私たちの社会や文化、人間関係、感情といったものは過去の人類の長い歴史の延長上にあり、その影響を受けている。それだけに現在を生きる私たちは誰であっても、よりよく生きるために歴史を学ぶ必要がある。この授業を受講する皆さんには、単に過去のできごとや年代を学ぶだけではなく、それらが自分自身の時代にどう痕跡を残しているのか、という点を重視してもらいたい。その上で私たちの世界の現状と未来について考えを深めることがこの授業の到達目標である。具体的には、ヨーロッパ（と近代以降のアメリカ）の歴史を古代から現代まで学ぶ。現代の政治・経済・社会・国際関係のしくみのほとんど（民主政・株式会社・社会保険制度・国際法など）はで生まれたものであり、ヨーロッパの歴史を学ぶことは、商学部・経営学部・人間科学部のいずれの学生にとっても確実に役に立つであろう。								
授業の方法	アクティブラーニングの方法として、毎回の授業について小テストを行い、次回の授業の冒頭で解説する。また、任意のコメントペーパーを集め、それについても授業の冒頭でコメントする。								
予習と復習	〈予習（90分）〉下に挙げたテキストを事前に読み、該当する時代について全体像を把握しておくことが望ましい。〈復習（90分）〉授業ノートを読み直し、以下に挙げたテキストや他の文献を用いながら理解を深める。疑問点は自分で調べるか、担当教員に質問すること。								
テキスト等	テキストは特に指定しないが、高等学校の世界史B程度の内容は理解していることを前提に授業するので、きちんと予習して出席すること。図書館には『もういちど読む山川世界史』（山川出版社2006）、『詳説世界史研究』（山川出版社2017）』などがある。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%	
				0%				0%	
	毎回の授業について小テストを課す（各10点、合計140点）。60点以上取得した者に単位を認定する。期末テストはおこなわない。出席は成績に影響しないが、出席しなければ小テストは零点となる。								
授業計画	①ガイダンス								
	②戊辰戦争と徳川幕府の崩壊								
	③徴兵制と西南戦争								
	④日清戦争								
	⑤日露戦争								
	⑥世紀転換期の日本と東アジア								
	⑦第一次世界大戦期の日本と東アジア								
	⑧戦間期の日本と東アジア								
	⑨昭和恐慌と満州事変								
	⑩右翼全体主義の台頭と日中戦争								
	⑪太平洋戦争								
	⑫太平洋戦争期のアジア								
	⑬占領と民主化								
	⑭戦後復興と高度経済成長								
	⑮現代の日本と世界								

科目名	日本文学							
英文科目名	Japanese Literature							
担当者名	立石展大							
科目ナンバリング	JLIT101							
授業の概要と到達目標	『古事記』上巻を中心とした日本神話を、民間説話の手法を用いて読み解く。民間説話とは、主に口頭で伝えられてきた昔話や伝説および世間話を指す。口頭で伝えられるため、その伝承される土地の文化や風土の影響を受けつつ、何世代にも亘り語り継がれてきた。そこで、日本神話に登場するモチーフが、どのように現代の民間説話に受け継がれているかを追い、その背景にある文化を探る。そして、文学を支えている文化を考察する力をつける。本授業は、人文分野の日本文学および日本文化に関する教養を身につけるための科目である。							
授業の方法	基本的に、配付プリントに基づいた講義であるが、プリントに基づいたディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、一部の授業回で実施する。							
予習と復習	授業時間外では、取り扱うテーマごとの知識について配付プリントを中心に確認する。配付プリントについての予習（90分）と復習（90分）を行い、レポート作成に向けて準備を行う。							
テキスト等	テキストは指定せず、授業においてプリントを配付する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	3分の2以上の出席をすること。出席回数が不足する場合は、単位取得を認めない。平常点には、授業において課す課題・小テストを含み、個別に評価を提示する。							
授業計画	①神話について							
	②日本神話の特徴							
	③古事記と日本書紀について							
	④創世神話について							
	⑤兄妹婚神話・説話について							
	⑥異界訪問譚について							
	⑦太陽に関する神話について							
	⑧穀物起源神話・説話について							
	⑨ペルセウス・アンドロメダ型神話・説話について							
	⑩文学中のトリックスターについて							
	⑪難題婿譚について							
	⑫小さ子譚について							
	⑬死の起源神話および兄弟葛藤譚について							
	⑭異類婚姻譚について							
	⑮まとめと総復習							

科目名		日本文学史						
英文科目名		History of Japanese Literature						
担当者名		立石展大						
科目ナンバリング		JILT102						
授業の概要と到達目標	上代から近世までの文学を概観するが、現代まで繋がるキーワードとして民間説話（口承の神話・伝説・昔話）との関わりを考える。書承（文献）と口承（民間説話）はお互いに交渉を持ちつつ、時代を経てきた。口承は基本的に現代でも伝承されている内容であり、その伝承には文献で確認できる内容も多い。古典を読む際にも、それが過去で完結するものではなく、現代との関わりがある視点で読むことが大切である。また、古典を読む上で必要となる基本的な語彙についての解説も、各授業時間の初めの15分を用いて行う。 本授業は、人文分野の日本文学および日本文化に関する教養を身につけるための科目である。							
授業の方法	基本的に、配付プリントに基づいた講義であるが、プリントに基づいたディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、一部の授業回で実施する。							
予習と復習	文学史の流れと民間説話の関係を知るためにも、授業時間外では、取り扱うテーマごとの知識について配付プリントを中心に確認する。配付プリントについての予習（90分）と復習（90分）を行い、期末試験に向けて準備を行う。							
テキスト等	授業中にプリントを配付する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	3分の2以上の出席をすること。出席回数が不足する場合は、単位取得を認めない。 平常点には、授業において課す課題・小テストを含み、個別に評価を提示する。							
授業計画	①上代から近世までの日本文学の流れ							
	②上代 『古事記』と上代の神観念							
	③上代 『風土記』と地方神話・伝説							
	④上代 『万葉集』と浦島説話							
	⑤中古 『竹取物語』の成立背景							
	⑥中古 『枕草子』と平安貴族の生活文化							
	⑦中古 『今昔物語集』と仏教思想							
	⑧中世 『徒然草』 随筆と世間話							
	⑨中世 『沙石集』と中国からの影響							
	⑩中世 『平家物語』『義経記』と義経伝説							
	⑪中世 『御伽草子』と民間説話							
	⑫近世 草双紙と昔話							
	⑬近世 読本と怪談							
	⑭近世 江戸時代の紀行文							
	⑮まとめと総復習							

科目名		自然地理学						
英文科目名		Physical Geography						
担当者名		矢澤優理子						
科目ナンバリング		GEOG101						
授業の概要と到達目標	【授業目標】 地図の特性や役割について理解できることと、地形や気候といった自然地理的現象の特徴とその成因を理解できること、それらを踏まえて特定地域の特徴を具体的に指摘できること、自然環境と人間との相互作用を理解できることの4点を目標とする。【授業概要】 この授業は人文分野の視点から教養を身につけるための科目の一つである。この授業ではおもに日本や東京の地形や気候を理解するために、それらの特性や形成過程を概説する。そのために必要な地図の特性や読解の基本も折に触れて説明する。節目においては、自然環境と人間活動との具体的な関係を紹介し、そこから特徴ある地域の形成過程を理解してもらう。							
授業の方法	授業は基本的に講義形式で行う。あわせてアクティブ・ラーニングの時間を設ける。スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向学習や、地図を用いた実習を通して、学習の理解確認を行う。							
予習と復習	予習（90分）配布資料を精読し、各図表の特徴を簡潔に指摘できるようにしておく。復習（90分）毎回出席して作成した授業ノートを読み込み、配布資料内のウェブサイトや参考図書を参考にして、授業の要点の理解に努める。							
テキスト等	【テキスト】 帝国書院編集部編『新詳高等地図』（帝国書院）【参考図書】 帝国書院編集部編『新詳 資料地理の研究』（帝国書院）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】 双方向学習や作業の成果は全般的所見等を授業内で、試験の全般的所見等をGoogle Classroomに提示する。Google Classroomで質疑応答や資料揭示、再配布や連絡等も行う。							
授業計画	①ガイダンス（講義全体の概説など）							
	②地理学とは？							
	③地図Ⅰ―日常生活・地理学と地図							
	④地図Ⅱ―地図の特性と役割							
	⑤地形の特性Ⅰ―地球内部の構造							
	⑥地形の特性Ⅱ―大地形の形成							
	⑦地形の特性Ⅲ―小地形の形成							
	⑧地形の特性Ⅳ―地図から地形を読む							
	⑨地形の特性Ⅴ―関東の地形の特徴と変遷							
	⑩自然環境と人間との関係Ⅰ―東京低地と産業活動							
	⑪気候の特性Ⅰ―気候の特性の基礎							
	⑫気候の特性Ⅱ―太陽エネルギー							
	⑬気候の特性Ⅲ―大気や水の循環							
	⑭自然環境と人間との関係Ⅱ―都市気候							
	⑮まとめと総復習							

科目名		人文地理学						
英文科目名		Human Geography						
担当者名		新井智一						
科目ナンバリング		GEOG102						
授業の概要と到達目標	【授業目標】 人間の諸活動の特徴と活動が展開される地理空間との関係について理解できることと、それを踏まえて地域の特徴を地図や統計図表を読み取り、具体的に指摘できることを目標とする。【授業概要】 この授業は人文分野の視点から教養を身につけるための科目の一つである。この授業の前半では、人間活動が顕著な地域である都市に注目して、都市という地域の特長やそれに大いに影響を与える人口について、後半では人間の属性の違いによるすみ分けの特徴についてそれぞれ概説する。この授業は「自然地理学」を履修したことを前提に進める。							
	授業は基本的に講義形式で行う。あわせてアクティブ・ラーニングの時間を設ける。スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向学習や、地域統計を用いた実習を通して、学習の理解確認を行う。							
	予習（90分）配布資料を精読し、各図表の特徴を簡潔に指摘できるようにしておく。復習（90分）毎回出席して作成した授業ノートを読み込み、配布資料内のウェブサイトや参考図書を参考にして、授業の要点の理解に努める。							
	【テキスト】帝国書院編集部編『新詳高等地図』（帝国書院）【参考図書】帝国書院編集部編『新詳 資料地理の研究』（帝国書院）、富田和暁・藤井正編『新版図説大都市圏』（古今書院）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
	特になし			0%	特になし			0%
授業計画	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】 双方向学習や作業の成果は全般的所見等を授業内で、試験の全般的所見等をGoogle Classroomに提示する。Google Classroomで質疑応答や資料掲示、再配布や連絡等も行う。							
	①ガイダンス（講義全体の概説など）							
	②都市とは？							
	③日本の都市の分布							
	④都市と大都市圏							
	⑤日本の人口の空間的分布の変化							
	⑥地域人口数の決まり方							
	⑦人口転換とその要因							
	⑧人口の質的側面							
	⑨大都市圏の人口変化とその要因							
	⑩社会経済的視点からみた都市内部の居住構造							
	⑪世帯構成的視点からみた都市内部の居住構造							
	⑫大都市圏内の居住地選択							
	⑬民族的視点からみた都市内部の居住構造							
	⑭外国人の居住地選択							
⑮まとめと総復習								

科目名	経済学(ミクロ基礎)							
英文科目名	Introduction to microeconomics							
担当者名	柴田舞							
科目ナンバリング	ECON101							
授業の概要と到達目標	この授業はミクロ経済学の基礎を学ぶ。具体的内容は、消費者はどのように考えてモノを買うのか、企業はどのようにして生産量を決めるのか、といった消費者や企業行動や、価格メカニズムを中心に勉強する。また、経済の問題を需要と供給の概念を利用して考えていく。なお、本科目は社会分野の視点から教養を身につけるための科目である。							
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブ・ラーニングとして一部の授業回でグループワークを実施する。							
予習と復習	予習（90分）練習問題に取り組み、その解答を授業に持参すること。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。							
テキスト等	【テキスト】柴田舞著『初めて学ぶミクロ経済学』（新世社）、2023年。【配布物】プリントを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	レポート、課題		100%					0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】一部の課題について添削して返却し、評価を提示する。							
授業計画	①ミクロ経済学概要							
	②市場の理論							
	③消費者行動の理論							
	④価格・所得の変化と最適消費点							
	⑤市場の需要曲線							
	⑥生産の理論							
	⑦利潤最大化							
	⑧供給曲線							
	⑨完全競争市場							
	⑩均衡分析の応用							
	⑪余剰分析							
	⑫独占							
	⑬外部効果と情報の非対称性							
	⑭不確実性とリスク							
	⑮まとめと総復習							

科目名		経済学(マクロ基礎)							
英文科目名		Introduction to macroeconomics							
担当者名		柴田舞							
科目ナンバリング		ECON102							
授業の概要と到達目標	この授業はマクロ経済学の基礎を学ぶ。国や一つの経済圏などの範囲で景気や物価などを考え、日本の経済を担う主体（家計、企業、政府）からの視点をもとに、経済理論を学ぶ。具体的内容は、経済を把握するGDPなどの経済指標、経済全体でのモノの売買、貨幣などの金融市場、さらに、それらをまとめて経済全体での景気状況を把握し、政策の効果を判断する方法を学ぶ。なお、本科目は社会分野の視点から教養を身につけるための科目である。								
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブ・ラーニングとして一部の授業回でグループワークを実施する。								
予習と復習	予習（90分）練習問題に取り組み、その解答を授業に持参すること。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	【テキスト】家森信善著『ベーシックプラス マクロ経済学の基礎 第2版』（中央経済社）、2021年。【配布物】プリントを配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業内課題およびレポート			100%					0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】一部の課題について添削して返却し、評価を提示する。								
授業計画	①マクロ経済学概要								
	②マクロ経済学と日本経済								
	③国民所得の概念								
	④消費関数								
	⑤企業の投資行動								
	⑥政府支出								
	⑦総需要								
	⑧経済における貨幣の役割								
	⑨貨幣市場の均衡								
	⑩財政金融政策								
	⑪IS曲線								
	⑫LM曲線								
	⑬IS-LMモデルを使った分析								
	⑭物価の分析								
	⑮まとめと総復習								

科目名	憲法(人権)							
英文科目名	Constitutional Law (human rights)							
担当者名	山根雅昭							
科目ナンバリング	LAW101							
授業の概要と到達目標	社会分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。憲法は主権者である市民の自由を守るために国家権力を縛っておく重要な役割を持っている法規範である。しかし、日常で憲法を意識することはほとんどなかろう。それは一つには、すでに憲法に体现されている考え方がいわば常識となっていて、改めて問い直す必要を感じないためであろう。また、名宛人が国家である憲法を市民の側が意識することは国家が憲法によって定められているところから外れていることを問題にすることでもあるからである。この講義は実際の日本の憲法をめぐる問題状況がどのようなものなのかを考えていこうとするものである。憲法(人権)では、主に人権保障について取り扱う。＜準備学修(予習・復習)＞範囲を指定するので事前にテキストを予習しておくこと。							
授業の方法	講義形式。アクティブラーニングとしてフィールドワーク（例）国立ハンセン病資料館を見学したうえで、人権侵害の歴史を学び、レポートにまとめる）。							
予習と復習	予習（90分）指定教科書を読む。復習（90分）講義内容を、教科書・ノート等で復習する。							
テキスト等	麻生多聞他『初学者のための憲法学〔新版〕』（北樹出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	50%	平常点	0%
				0%				0%
	レポート(論述式)と平常点(課題提出)により評価する。フィードバック方法は、全般的な評価と所見を授業内で提示。							
授業計画	①憲法総論							
	②基本的人権の原理							
	③人権の制約と適用範囲							
	④包括的基本権							
	⑤平等							
	⑥表現の自由							
	⑦思想良心の自由							
	⑧信教の自由・政教分離							
	⑨社会権							
	⑩教育							
	⑪人身の自由							
	⑫経済的自由権							
	⑬家族と憲法							
	⑭参政権							
	⑮まとめと総復習							

科目名	憲法(統治)							
英文科目名	Constitutional Law (state)							
担当者名	山根雅昭							
科目ナンバリング	LAW102							
授業の概要と到達目標	社会分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。憲法は主権者である市民の自由を守るために国家権力を縛っておく重要な役割を持っている法規範である。しかし、日常で憲法を意識するということはほとんどなかろう。それは、すでに憲法に体现されている考え方がいわば常識となっていて、改めて問い直す必要を感じないためであろう。また、名宛人が国家である憲法を市民の側が意識するということは国家が憲法によって定められているところから外れていることを問題にすることでもあるからである。この講義は実際の日本の憲法をめぐる問題状況がどのようなものなのかを考えていこうとするものである。憲法(統治)では主に統治機構について取り扱う。＜準備学修(予習・復習)＞範囲を指定するので事前にテキストを予習しておくこと。							
授業の方法	講義形式。アクティブラーニングとしてフィールドワーク（例）司法・立法・行政各機関を見学したうえで、統治構造を学び、レポートにまとめる）。							
予習と復習	予習（90分）指定教科書を読む。復習（90分）講義内容を、教科書・ノート等で復習する。							
テキスト等	麻生多聞他『初学者のための憲法学〔新版〕』（北樹出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	50%	平常点	0%
				0%				0%
	レポート(論述式)と平常点(課題提出)により評価する。フィードバック方法は、全般的な評価と所見を授業内で提示。							
授業計画	①統治機構総論							
	②国民主権・天皇制							
	③選挙制度・国民投票							
	④国会の機能・構造・権限							
	⑤二院制							
	⑥内閣							
	⑦行政各部							
	⑧議院内閣制・政党制							
	⑨裁判所・司法制度							
	⑩違憲審査制							
	⑪憲法訴訟・裁判員制度							
	⑫財政							
	⑬平和主義							
	⑭地方自治							
	⑮まとめと総復習							

科目名		法律学(生活と法)						
英文科目名		Jurisprudence (Life and Law)						
担当者名		森平明彦, 村上誠, 山里盛文						
科目ナンバリング		LAW103						
授業の概要と到達目標	この講義では法、とくに私法といわれる民法の基礎を勉強します。現代社会の様々の紛争解決の手段として、法及び司法とその代替的紛争処理機関の役割は増大しています。長い歴史と伝統を持つ法律と裁判の思考様式は、義理やコネ、序列や習慣よりも、この社会をもっと風通しの良いものにしてくれます。とりわけ対話、コミュニケーションの法的思考様式は、21世紀の日本でも重い意味をもつでしょう。この意味で、経済学や経営、商学を学ぶ場合でも、色々な示唆、新鮮な視点を与えてくれるに違いありません。春学期は身近な日常生活で出会う法律問題を扱います。法律学の担当は、村上、山里、森平の三先生です。諸君はどなたか一先生の講義を選択してください。「六法」と呼ばれる法律の条文集を常に参照することが大切です。＜準備学修(予習・復習)＞テキストを熟読すること。本科目は、社会分野の視点から幅広く教養を身に着けるための科目です。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でリアクションペーパーにより講義内容の理解を深める。その具体的な方法、やり方は各教員の指示による。							
予習と復習	予習（90分）と復習（90分）の課題は、適宜授業のなかで指示するのでそれに従うこと＜準備学修(予習・復習)＞予習はテキスト、復習はノートを熟読すること。							
テキスト等	教師の指示による。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
	特になし			0%	特になし			0%
	定期試験は考えていない。 期末レポートと平常点で総合評価。							
授業計画	①法律学への招待、法律学の特色そして六法							
	②私法の基礎							
	③私法の解釈							
	④民法について							
	⑤人について（その1 自然人と法人）							
	⑥人について（その2 権利能力、意思能力、行為能力）							
	⑦代理							
	⑧法律行為（その1 問題のある意思表示）							
	⑨法律行為（その2 代理、取消と無効）							
	⑩契約（その1 主要な契約の特徴）							
	⑪契約（その2 債権の成立と効力、消滅）							
	⑫物権変動							
	⑬担保物権							
	⑭利息制限法, クレジット契約と保証債務、連帯保証							
	⑮まとめと復習							

科目名	法律学(社会と法)							
英文科目名	Jurisprudence (Life and Society)							
担当者名	森平明彦, 村上誠, 山里盛文							
科目ナンバリング	LAW104							
授業の概要と到達目標	この講義では法、とくに私法に係る社会生活の法律を勉強します。現代社会の様々の紛争解決の手段として、法及び司法とその代替的紛争処理の機関の役割は増大しています。社会と法の主な学習分野は、高千穂大学の学部編成に即して、家族法、労働法、企業法（商法）です。家族法は人間科学部と児童教育の勉強でとても大切です。労働法と企業法（商法）は、経営学部と商学部の諸君に特に重要度が高くなります。本科目は、社会分野の視点から幅広く教養を身に着けるための科目です。法律学の担当は、村上、山里、森平の先生です。諸君はどなたか一先生の講義を選択してください。「六法」と呼ばれる法律の条文集を常に参照することが大切です。＜準備学修(予習・復習)＞テキストや課題を熟読すること。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でリアクションペーパーや反転学習等により講義内容の理解を深める。その具体的な方法、やり方は各教員の指示による。							
予習と復習	予習（90分；事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をレポートにまとめておくこと）と復習（90分；講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）の課題は適宜授業のなかで指示するのでそれに従うこと。							
テキスト等	教師の指示による。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
	特になし			0%	特になし			0%
	定期試験は考えていない。 上記の方法で総合評価。							
授業計画	①日常生活とアクシデント（交通事故、医療事故）							
	②消費者保護と法（その１）							
	③消費者保護と法（その２）							
	④結婚・離婚と法							
	⑤親子の法律（その１）							
	⑥親子の法律（その２）							
	⑦高齢化社会と法（後見、介護）							
	⑧相続（相続のしくみと効力、遺言）							
	⑨労働法（その１ 個別的労働関係の法律）							
	⑩労働法（その２ 集団的労働関係の法律）							
	⑪労働法（その３ 新しい雇用形態と法律問題）							
	⑫商法（その１ 企業の本体と法）							
	⑬商法（その２ 企業の舵取りと法）							
	⑭商法（その３ 企業の「所有」）							
	⑮まとめと復習							

科目名	政治学							
英文科目名	Political Science							
担当者名	五野井郁夫							
科目ナンバリング	POSC101							
授業の概要と到達目標	本講義では、古代から現代まで、政治はどう変わってきて今後どの方向に向かうのか、そして政治学はこの歴史と現状をどう捉えてきたのかを考える。政治学の根本概念や日本の政治の変遷を中心に講義を行う。社会分野の視点から広く教養を身につけるための科目である。							
授業の方法	講義形式で行い、アクティブラーニングとして理解度把握のために講義内での小テストも実施する。映像資料も積極的に活用する。ゲスト講師も適宜招聘予定である。授業計画は変更される場合もある。							
予習と復習	教科書等での予習(90分)にくわえて、講義では適宜参考文献を提示するので、各自で読み、講義の復習(90分)に充てること。「T-N a v i」にて予習・復習用の文献やレポート課題等を配信する場合もある。							
テキスト等	川出良枝・谷口将紀編『政治学 第2版』東京大学出版会、久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学 補訂版』有斐閣、その他参考文献等は随時紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内試験で評価を行う。講義内では小テスト等も実施し、適宜評価に加点する。ただしコロナ禍が続く場合は、毎回の講義でのレポートと期末レポートを評価へと振り替える。							
授業計画	①イントロダクション：政治とは何か							
	②権力と自由							
	③国家・集団・個人							
	④法と政治							
	⑤政治と非政治							
	⑥デモクラシーの思想と来歴、そしてその敵たち							
	⑦リベラル・デモクラシーの発展							
	⑧福祉国家の諸問題							
	⑨非民主的体制							
	⑩政治教育							
	⑪日本の政党政治							
	⑫政治家と官僚							
	⑬政治参加と選挙							
	⑭マス・メディアと政治							
	⑮まとめと復習：政治のこれまでとこれから							

科目名	国際政治								
英文科目名	International Politics								
担当者名	五野井郁夫								
科目ナンバリング	POSC102								
授業の概要と到達目標	本講義では、国際政治学という学問的視座から、政治を体系的に学ぶことを目的とする。国際政治学の理論と歴史、そして基本的な諸概念を、現実の国際政治の動態とも関連させながら説明してゆく。社会分野の視点から広く教養を身につけるための科目である。								
授業の方法	講義形式で行うとともに、アクティブラーニングとして理解度把握のために講義内での小テストも実施する。パワーポイントや映像資料も積極的に活用する。ゲスト講師も適宜招聘予定である。授業計画は変更される場合もある。								
予習と復習	教科書等での予習(90分)にくわえて、講義では適宜参考文献を提示するので、各自で読み、講義の復習(90分)に充てること。「T-N a v i」にて予習・復習用の文献やレポート課題等を配信する場合もある。								
テキスト等	ジョセフ・S. ナイ ジュニア『国際紛争 -- 理論と歴史 原書第10版』有斐閣、村田 晃嗣、君塚 直隆他編『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、その他参考文献等は開講時に開示する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%	
				0%					0%
	授業内試験で評価を行う。講義内では小テスト等も実施し、適宜評価に加点する。ただしコロナ禍が続く場合は、毎回の講義でのレポートと期末レポートを評価へと振り替える。								
授業計画	①イントロダクション：国際政治とは何か								
	②世界の中の日本								
	③国際秩序と正義								
	④主権と国際制度								
	⑤古典的安全保障とその変容								
	⑥人間の安全保障・人間開発								
	⑦貧困と飢餓								
	⑧デモクラティック・ピース、人権と介入								
	⑨グローバリゼーション								
	⑩国際政治経済								
	⑪地域主義、ナショナリズム								
	⑫地球環境問題と人新世								
	⑬ジェンダーの政治								
	⑭情報と国際政治								
	⑮まとめと復習：国際政治のこれまでとこれから								

科目名		基礎数学(代数・幾何)							
英文科目名		Fundamental Mathematics (Algebra&Geometry)							
担当者名		竹内 淨							
科目ナンバリング		MATH101							
授業の概要と到達目標	「基礎数学(代数・幾何)」は、自然分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。本講義の目標は、線形代数の基礎知識を習得するとともに、データサイエンスなどへの応用例についても理解することである。線形代数(学)は、ベクトルや行列を使って多次元の量を一括して扱うことを体系化した、数学の1分野である。高校までの代数学をより抽象化、発展させた内容である。特に、データサイエンス(データ解析、機械学習など)に興味がある学生には、本講義の履修を推奨する。講義の難易度は春学期の基礎数学(確率・統計)よりも高い。予習復習を意欲的に行って欲しい。※一部の講義で外部講師を招聘する予定である。								
授業の方法	指定のテキストを使い講義を行う。アクティブ・ラーニングとして問題演習を実施する。								
予習と復習	予習(90分) 授業計画に示したテーマについてテキストの該当範囲を精読すること。復習(90分) 講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	高松瑞代『応用がみえる線形代数』(岩波書店)								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業内試験と課題のいずれか高得点で評価			100%	0%				
	全ての課題と授業内試験について全般的な評価と所見を提示する。授業内試験に変更が生じた場合は別途連絡する(複数回の実施、オンラインでの実施など)。								
授業計画	①ガイダンス								
	②行列と図形の変換①(ベクトルと行列、図形の線形変換)								
	③行列と図形の変換②(逆変換と逆行列、面積拡大率と行列式)								
	④ベクトルが張る空間①(線形独立性と基底、空間の次元と行列の階数)								
	⑤ベクトルが張る空間②(行列の性質と線形変換に基づく理解)								
	⑥行列の対角化と人口予測への応用①(行列のべき乗、行列の対角化)								
	⑦行列の対角化と人口予測への応用②(固有値と固有ベクトル)								
	⑧ゼミナール発表会振替聴講(予定)								
	⑨線形方程式系と最小二乗法								
	⑩固有ベクトルと主成分分析①(データ分析の例、主成分分析の考え方)								
	⑪固有ベクトルと主成分分析②(主成分の解釈、情報損失の基準)								
	⑫行列の分解と画像処理への応用								
	⑬発展的な話題(ページランク、線形判別分析、非負行列分解)								
	⑭授業内試験と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名		基礎数学(確率・統計)							
英文科目名		Fundamental Mathematics (Probability Theory & Statistics)							
担当者名		竹内 淨							
科目ナンバリング		MATH102							
授業の概要と到達目標	「基礎数学(確率・統計)」は、自然分野の視点から教養を身につけるための科目である。本講義の目標は、統計学と其中で利用される確率論に関する基礎知識を習得することである。確率は、事象(調査や観測の結果)が将来に起こる可能性を数量化したものである。個々の事象がもつ確率を関数と捉えることで、離散型または連続型の確率分布(関数)が定義できる。一方、統計では、過去の調査や観測で得たいくつかの数値の集合(標本)もまた分布を示し、前述の確率分布を利用することで、対象とする全ての数値の集合(母集団)の傾向を推測、検討することができる。統計学は、定量的に情報を解析し、その特徴を理解する上で必須となる知識である。講義の難易度はそれほど高くないため、高校までの数学が苦手な学生にも教養科目として履修を推奨する。								
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして一部の授業回で問題演習を実施する。								
予習と復習	予習(90分) 授業計画に示したテーマについて事前に確認すること。復習(90分) 講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	講義資料を電子ファイルで配布をする。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業内試験と課題のいずれか高得点で評価			100%					0%
	全ての課題と授業内試験について全般的な評価と所見を提示する。授業内試験に変更が生じた場合は別途連絡する(複数回の実施、オンラインでの実施など)。								
授業計画	①ガイダンス								
	②分散と標準偏差								
	③データと統計量								
	④標本空間と場合の数								
	⑤算術的確率								
	⑥公理的確率								
	⑦ベイズの定理								
	⑧確率分布								
	⑨期待値								
	⑩正規分布								
	⑪統計的推定								
	⑫区間推定								
	⑬統計的検定								
	⑭授業内試験と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	地球科学							
英文科目名	Introduction to Earth Science							
担当者名	並木雅俊							
科目ナンバリング	SCED101							
授業の概要と到達目標	地球がどのような惑星であるのか、どのようなメカニズムで変化しているのかを考える。他の太陽系内惑星との比較、天気の変化や季節の移り変わりを制御する大気の構造とその運動のしくみ、地震波でみる地球内部の姿、大陸移動説からプレートテクトニクス、マントルの流動を説明するプルームテクトニクス、プレートの沈み込みと噴火や地震、プレート内地震、津波、それに日本列島の地質構造を理解してもらうことがねらいである。地球の理解を深めることによって、科学的に思考する方法と態度を学び、科学が多くの疑問から生れたことを認識してもらう。自然分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。							
授業の方法	基本的に講義を中心に行うが、必要に応じて質疑応答を実施する。また、自律的な学習（アクティブラーニング）を促進するため、穴埋め文章プリントあるいは授業内試験において講義内容の理解を確認する。							
予習と復習	予習（90分）授業計画に従い、事前にテキスト等により予習しておくこと。復習（90分）当日の授業内容を配布プリントをもとに復習し、ノート等に記載した重要な点を確認してしておくこと。							
テキスト等	参考書：古川武彦、大木勇人『気象学入門』（講談社ブルーバックス）、鎌田浩毅『地球の歴史(上)』（中公新書）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	90%	レポート	0%	平常点	10%
				0%				0%
	授業回数の3分の2（10回）以上の出席を評価の前提条件とする。授業内試験（2回）の得点により評価する。授業内試験などの答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①地球の形と大きさ							
	②惑星としての地球							
	③大気の構造							
	④大気の運動							
	⑤風							
	⑥四季と気象							
	⑦第1回授業内試験と解説							
	⑧地球の内部構造							
	⑨地震波の伝わり方							
	⑩大陸移動説							
	⑪古地磁気学と海洋底拡大説							
	⑫プレートテクトニクス							
	⑬マントルの動きとプルーム							
	⑭日本列島の誕生と進化							
	⑮第2回授業内試験と解説							

科目名	宇宙科学							
英文科目名	Introduction to Astrophysics							
担当者名	並木雅俊							
科目ナンバリング	SCED102							
授業の概要と到達目標	太陽は人類を含めた生命体にとって重要なエネルギー源である。太陽から地球に届くエネルギー量はいくらか、太陽が放出しているエネルギー量はいくらか、太陽のエネルギー発生メカニズムが何であるかを学ぶ。太陽エネルギー発生メカニズムの知識を基に、星の科学（星の観測原理、HR図、星の一生、白色矮星、中性子星、ブラックホール）を学ぶ。それに、ビッグバン宇宙論を中心とした現代宇宙論の概論を学ぶ。宇宙は、現代科学の成果を総合的に学ぶに最適である。それは、一つの分野だけでは理解できない問題が多くあり、科学のあらゆる分野の知識を総動員して取り組む必要があるためである。これらを学び、自然を観る鳥の目と虫の目を養ってもらいたい。自然分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。							
授業の方法	基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を行う。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、穴埋め文章プリントや授業内試験による講義内容の理解確認を行う。							
予習と復習	予習(90分) 次回の講義に該当するテキストの箇所を何度も読みなおし、疑問点をまとめておくこと。。復習(90分) 当日の講義内容を再度テキストで確認し、ノートに重要な点を記し、自分の知識としておくこと。							
テキスト等	並木雅俊『大学生のための物理入門』（講談社）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	90%	レポート	0%	平常点	10%
				0%				0%
	授業回数の3分の2以上の出席（課題提出）を評価の前提条件とする。試験答案と課題解答で評価する。提出された答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①地球・月・太陽の大きさ、月・太陽までの距離							
	②太陽から地球に届くエネルギー							
	③太陽が放出するエネルギー							
	④太陽は何で出来ているか							
	⑤太陽中心部での核反応							
	⑥太陽の寿命							
	⑦第1回授業内試験と解説							
	⑧星までの距離と星の光度							
	⑨星の表面温度と星の大きさ							
	⑩HR図と星の一生							
	⑪赤色巨星と白色矮星							
	⑫中性子星とブラックホール							
	⑬膨張宇宙の発見							
	⑭定常宇宙論とビッグバン宇宙論							
	⑮第2回授業内試験と解説							

科目名	生命科学							
英文科目名	Life Science							
担当者名	清水隆							
科目ナンバリング	SCED103							
授業の概要と到達目標	現代社会を生きる上で、生命科学の知見と無縁でいることはできません。本講義では、生命科学の基礎知識や考え方を身につけ、日常的に接する生命科学に関するニュースや新知見を理解し、自らの意見を持つ力を養います。そのために、まず基本用語に親しみ、その意味を理解します。また、物事を科学的に判断することの意味を考えます。さらに、メディアで報道される様々な科学ニュースを読み、意見を述べる課題に取り組みます。							
授業の方法	講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、講義冒頭に、前回の内容に関する用語チェックを実施する。また、最近の科学ニュースを読み、グループディスカッションをして意見をまとめる提出課題を課す。							
予習と復習	予習（90分）科学ニュースに触れ、気になるトピックスを選び、その内容をまとめておく。復習（90分）次回の用語チェックに向けて基本用語のリストを作成し、意味をまとめる。							
テキスト等	【テキスト】やさしい基礎生物学 第2版（南雲 保：編 羊土社 2014年）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	毎回講義の冒頭で基本用語に関する用語チェックを行う。最近の科学ニュースを読み、意見をまとめる提出課題を課す。授業内に記述試験を実施する。記述試験については、全般的な評価と所見をT-Naviにて配信する。							
授業計画	①ガイダンス 科学的に考えるとは							
	②生物学の歴史となりたち 分類 遺伝 分類							
	③生命体を構成する物質 細胞の構造							
	④遺伝子としてのDNA 転写と翻訳							
	⑤呼吸 ATPの産出							
	⑥光合成 代謝のネットワーク							
	⑦授業内試験と解説							
	⑧細胞周期とDNA修復							
	⑨生殖と発生							
	⑩生殖医療の現在							
	⑪免疫と感染症							
	⑫生物多様性はなぜ重要か							
	⑬遺伝子組換え技術と社会							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと復習							

科目名		物質科学							
英文科目名		Material Science							
担当者名		竹内 淨							
科目ナンバリング		SCED104							
授業の概要と到達目標	「物質科学」は、自然分野の視点から教養を身につけるための科目である。本講義の目標は、物質の性質や化学の基礎知識を習得することである。物質は、産業、社会、環境など、様々な分野で我々の生活に関わっている。身のまわりにある物質の化学的な原理を理解し、物質に関する教養を深めて欲しい。難易度は高くないため、高校で化学を選択していない学生にも教養科目としての履修を推奨する。								
授業の方法	指定のテキストを使い講義を行う。アクティブ・ラーニングとして一部の授業回で問題演習を実施する。								
予習と復習	予習(90分) 授業計画に示したテーマについてテキストの該当範囲を精読すること。復習(90分) 講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	千葉工業大学教育センター化学教室編『物質科学の基礎としての化学入門』（学術図書出版社）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業内試験と課題のいずれか高得点で評価			100%					0%
	全ての課題と授業内試験について全般的な評価と所見を提示する。授業内試験に変更が生じた場合は別途連絡する(複数回の実施、オンラインでの実施など)。								
授業計画	①ガイダンス								
	②物質の分類								
	③原子の構造、元素の性質								
	④化学式と物質の表し方								
	⑤原子軌道と電子配置								
	⑥電子配置と元素の周期的な性質								
	⑦ゼミナール発表会振替聴講（予定）								
	⑧化学結合の種類								
	⑨物質の性質と化学結合								
	⑩化学量論の基礎								
	⑪物質量								
	⑫物質の変化と化学反応								
	⑬化学反応式								
	⑭授業内試験と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名		心の科学							
英文科目名		Science of mind							
担当者名		小平健太							
科目ナンバリング		SCED105							
授業の概要と到達目標	【目標】私たちの「心」のあり方をめぐり、それに対する理論と思考法をさまざまな思想家や科学者、研究者から学び、「心」・「精神」をめぐる科学史の基礎を知ること、最終的に自ら主体的に考えをまとめ、説明できるようになることが本科目の目標です。【概要】日常生活の中で、笑ったり、喜んだり、ときに泣いたり、怒ったり…実は私たちの心の働きは不思議でいっぱいです。喜怒哀楽を経験するときに私たちの心はどんな働きをしているのでしょうか？ 科学の世界では、そもそも私たちの身体と違って実体がなく、目に見ることのできない「心」について、どんな説明が与えられているのでしょうか？ 「心」を扱う学問は、自然科学の他にも哲学、心理学等、様々です。本講義は、とくに自然分野の視点から幅広く教養を身に付けるための科目であり、心や精神のはたらきの特徴を明らかにしてきた研究の歴史を丁寧に紐解き、解説を行います。その点で、一人ひとりが日常的に抱く様々な「感情」の根拠や由来について真正面から考えるための授業であり、学生達の積極的な授業参加を期待します。								
授業の方法	本科目は配布資料、スライドを参照しつつ、適宜板書を行う講義形式の授業ですが、各回において教員と学生の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間も設定し、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を行ってもらいます。								
予習と復習	授業中に各主題に即した参考文献を適宜挙げるので、その都度該当箇所を読んで授業に出席すること（予習：90分）。また、毎回の授業において配布するスライド資料・板書した内容を復習し、「課題シート」に従ってまとめを作成すること（復習90分）。								
テキスト等	基本的に毎授業、資料とレジュメを配布します。授業の内容に直接関連する一次文献は、その都度授業中に指示します。参考図書：菅野理樹夫『見るちから—古代のものの見方から現代の知覚論まで—増補2版』北樹出版（2012）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	60%	
				0%				0%	
	平常点とは単なる「出席点」ではありません。毎回の授業では、終了時にリアクションペーパーを提出してもらいます。コメントの内容はその水準に応じて、成績に加点されます。総合成績の60点以上を合格点とし、全体の1/3以上の欠席は、成績評価の対象外とします。								
授業計画	①オリエンテーション：授業の内容・進め方								
	②（１）心の科学の歴史—古代ギリシア時代の魂についての考え方								
	③（２）心の科学の歴史—古代ローマ時代医師ガレノスの考え方								
	④（３）心の科学の歴史—近世までの脳と神経と身体（１）精神の座の変遷								
	⑤（４）心の科学の歴史—デカルトの精神の座								
	⑥心のはたらきと脳の機能研究（１）脳の全体の構造と機能 大脳を中心に								
	⑦心のはたらきと脳の機能研究（２）脳の全体の構造と機能 小脳、中脳などを中心に								
	⑧心のはたらきと脳の機能研究（３）脳内の神経細胞 ニューロンとシナプス								
	⑨（１）「美しさ」と認知科学：人はなぜ「美しさ」がわかるのか								
	⑩（２）「美しさ」と社会心理学：「流行現象」における集団的心理								
	⑪「恒常性」と認知科学：色彩・カタチ・大きさの知覚								
	⑫心の深化と人間らしさ：「チンパンジー」を例とした研究								
	⑬幼児と言葉：ASD（自閉症スペクトラム症）を例とした研究								
	⑭AIと心：「空間認知能力」例とした研究								
	⑮まとめと総復習								

科目名	コンピュータ概論Ⅰ							
英文科目名	How Computers Work Ⅰ							
担当者名	【春学期】成合智子, 吉田高志【秋学期】成合智子, 吉田高志							
科目ナンバリング	COM101							
授業の概要と到達目標	本科目は情報社会における基本的な考え方を修得するための科目である。特にコンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みとその働きに関する基礎的な知識や技術を学ぶ。コンピュータの操作方法ではなく、コンピュータにおいて情報がどのように扱われているのかを体系的に学ぶことで、今後の情報化社会の進展にも対応できるような基盤を得ることを目指す。具体的には、情報のデジタル化や、ハードウェアの基本要素である論理回路の基礎、ソフトウェアの基本要素としてアルゴリズムの基礎等の項目を取り上げる。知識や技術を実際に応用可能なものとして定着させるために、容易に扱えるプログラミング環境を用いた実習等を行う。本科目は「コンピュータ概論Ⅱ」の前提科目となっており、合わせて受講することで、コンピュータについてより体系的な理解が得られる構成となっている。■学習到達目標：本授業で扱うコンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みとその働きに関する基礎的な知識や技術について説明できるようになること。							
授業の方法	この授業では、講義と実習を行う。実習は、講義で得た知識を元に、与えられた課題を自ら解決する体験（アクティブ・ラーニング）を通して、より理解を深めることを目的とする。							
予習と復習	予習（90分）事前にテキスト・配布資料（ファイル・プリント）の該当箇所を熟読しておくこと。復習（90分）授業で取り上げられた実習課題を授業終了後理解できるまで何回も繰り返して実習練習を行うこと。							
テキスト等	【参考資料】坂村 健『痛快！コンピュータ学』（集英社）魚田勝臣他『コンピュータ概論 - 情報システム入門』（共立出版）他、授業内で紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	30%	平常点	10%
				0%				0%
	【注意】単位を得るには、レポート（実習課題を保存したファイルも含む）を全て提出しかつ出席率80%以上が必要である。【レポート（実習課題）に対するフィードバック】講義中に行う実習課題について全般的所見を提示する。							
授業計画	①情報理論							
	②情報の「コード化」							
	③情報の原子「ビット」							
	④10進数と2進数							
	⑤デジタルとアナログ							
	⑥音のデジタル化							
	⑦画像のデジタル化							
	⑧フォン・ノイマン型コンピュータ							
	⑨ブール代数と足し算回路							
	⑩簡単なプログラミング（アルゴリズムの基本）							
	⑪簡単なプログラミング（プログラミング入門）							
	⑫簡単なプログラミング（アルゴリズムからプログラムへ）							
	⑬簡単なプログラミング（課題の作成）							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと復習							

科目名	コンピュータ概論Ⅱ							
英文科目名	How Computers Work Ⅱ							
担当者名	成合智子							
科目ナンバリング	COM102							
授業の概要と到達目標	本科目は情報社会における基本的な考え方を修得するための科目である。特にコンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みとその働きに関する基礎的な知識や技術を学ぶ。コンピュータの操作方法ではなく、コンピュータにおいて情報がどのように扱われているのかを体系的に学ぶことで、今後の情報化社会の進展にも対応できるような基盤を得ることを目指す。具体的には、「コンピュータ概論Ⅰ」での学習内容を前提に、アルゴリズム、半導体・トランジスタ・IC、オペレーティングシステム、ネットワーク、セキュリティ、プログラミングなどの項目を取り上げる。本科目を履修するには、「コンピュータ概論Ⅰ」の単位を取得していることが必要である。■学習到達目標：本授業で扱うコンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みとその働きに関する基礎的な知識や技術について説明できるようになること。							
授業の方法	この授業では、講義と実習を行う。実習は、講義で得た知識を元に、与えられた課題を自ら解決する体験（アクティブ・ラーニング）を通して、より理解を深めることを目的とする。							
予習と復習	予習（90分）事前にテキスト・配布資料（ファイル・プリント）の該当箇所を熟読しておくこと。復習（90分）授業で取り上げられた実習課題を授業終了後理解できるまで何回も繰り返して実習練習を行うこと。							
テキスト等	【参考資料】坂村 健『痛快！コンピュータ学』（集英社）魚田勝臣他『コンピュータ概論 - 情報システム入門』（共立出版）他、授業内で紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	30%	平常点	10%
				0%				0%
	【注意】単位を得るには、レポートを全て提出しかつ出席率80%以上が必要である。【レポート（実習課題）に対するフィードバック】講義中に行う実習課題について全般的所見を提示する。							
授業計画	①アルゴリズム							
	②クイックソート							
	③半導体・トランジスタ・IC							
	④Operating System							
	⑤GUI・CUI							
	⑥メモリの管理							
	⑦情報ネットワーク							
	⑧TCP/IPとWWW							
	⑨セキュリティ							
	⑩簡単なプログラミング（変数）							
	⑪簡単なプログラミング（配列）							
	⑫簡単なプログラミング（合計値を求めるアルゴリズム）							
	⑬簡単なプログラミング（最大値・最小値を求めるアルゴリズム）							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと復習							

科目名	情報リテラシー									
英文科目名	Information Literacy									
担当者名	永戸哲也, 青淵正幸									
科目ナンバリング	INF0101									
授業の概要と到達目標	この科目は情報社会についての基本的な考え方と情報リテラシーを習得する科目である。＜授業目標＞現代の情報社会を生きていくための基礎的な知識を身に着ける。具体的には以下の4項目を様々な視点から考えていく。(1)情報とは何か、情報化とはどのような現象なのかを整理・理解する。(2)現代の情報技術の特徴を理解する。(3)情報化によって生じている問題・負の影響を理解する。(4)情報社会におけるリスクと倫理について考える。＜授業概要＞情報技術革新は人間社会に大きな影響を与えている。それは個人の日常生活から企業の経営活動、さらには社会全体にまで及ぶものである。情報化の波はマクロレベルの環境変化と捉えることができ。われわれは好むと好まざるとにかかわらず情報化への対応を迫られている。本科目では現代の情報技術の特徴を捉え、そこから生じるさまざまな社会的問題について考察する。これらはすべての学部において現代的問題を考察するときの基礎となると同時に他の情報科目において技術的課題を扱う前提となる知識である。									
授業の方法	基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、自律的な学習を促進するため、小テストやリアクション・ペーパーによる講義内容の理解確認を行う。アクティブ・ラーニングとして一部の授業回で反転学習を実施する。									
予習と復習	(予習90分) ICT(情報通信技術)に関連したニュースなどに関心を持ち、チェックする(復習90分) 授業内容を十分理解するために復習に取り組む。例えば、ICT用語の整理、参考資料や参考文献の読み込み、授業で気になったことや疑問に思ったことを調べるなど									
テキスト等	Google-Classroomで授業用レジュメを事前に配布する。その他、参考文献を授業中に紹介する。									
評価方法	定期試験	20%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	60%		
				0%				0%		
	定期試験が実施できない場合は授業内試験とする。6回以上欠席した場合にはY3評価とする。授業内、Google-Classroomなどで各課題についての全般的な評価と所見を開示す									
授業計画	①ガイダンス									
	②情報とは何か?									
	③情報技術革新の歴史									
	④現代の情報技術の特徴									
	⑤情報化とはどういうことか?									
	⑥コミュニケーションとメディアの諸相									
	⑦情報社会の諸問題1-(1)：情報セキュリティとプライバシーの基礎									
	⑧情報社会の諸問題1-(2)：情報セキュリティとプライバシーへのリスクと脅威									
	⑨情報社会の諸問題1-(3)：情報セキュリティとプライバシー対策									
	⑩情報社会の諸問題2：知的財産権									
	⑪情報社会の諸問題3：意思決定と情報の信頼性									
	⑫情報社会の諸問題4：デジタルデバイド									
	⑬情報社会の諸問題5：情報化による心身への影響									
	⑭情報社会と情報倫理									
	⑮まとめと総復習									

科目名	情報社会論							
英文科目名	Information Technology and Society							
担当者名	永戸哲也, 青淵正幸							
科目ナンバリング	INF0102							
授業の概要と到達目標	この科目は情報社会についての基本的な考え方と情報リテラシーを習得する科目である。＜授業目標＞情報化の流れをつかみ、専門領域の研究に役立つ視点と視野の獲得を目指す。具体的には以下の4項目を様々な視点から考えていく。(1)情報化による社会・経済の変容について考える(2)情報技術革新と社会活動の接点に生じる機会と脅威を考える。(3)専門領域を学ぶ際に情報化の影響を考える視点を身につける。(4)自分自身の情報スキルをどのように高めていくかを考える。＜授業概要＞本科目では現代の情報技術の特徴を踏まえながら、それが社会・経済にどんな影響を及ぼしているのかを考察する。また、個人や企業・社会はどのように情報技術を活用しようとし、どのような成果を求めているのかを様々な分野で確認していく。授業は、基本的概念を整理したのち、2年次以降の各学部におけるコース設定に準じて、各領域における情報化の影響を考える形で進める。							
授業の方法	基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、自律的な学習を促進するため、小テストやリアクション・ペーパーによる講義内容の理解確認を行う。アクティブ・ラーニングとして一部の授業回で反転学習を実施する。							
予習と復習	(予習90分) ICT(情報通信技術)に関連したニュースなどに関心を持ち、チェックする(復習90分) 授業内容を十分理解するために復習に取り組む。例えば、ICT用語の整理、参考資料や参考文献の読み込み、授業で気になったことや疑問に思ったことを調べるなど							
テキスト等	Google-Classroomで授業用レジュメを事前に配布する。その他、参考文献を授業中に紹介する。							
評価方法	定期試験	20%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	60%
				0%				0%
	定期試験が実施できない場合は授業内試験とする。6回以上欠席した場合にはY3評価とする。授業内、Google-Classroomなどで各課題についての全般的な評価と所見を開示する							
授業計画	①ガイダンス							
	②現代の情報技術の特徴と新しいトレンド							
	③ネットワーク形成と社会構造							
	④デジタル経済と電子商取引							
	⑤情報化とコミュニケーションの変容							
	⑥情報社会におけるライフデザイン							
	⑦情報化と教育							
	⑧情報技術と会計システム							
	⑨情報化と金融							
	⑩情報技術を活用したマーケティング							
	⑪情報化と企業経営							
	⑫情報化と経営組織							
	⑬情報化と経営法務							
	⑭情報社会の今後の展望							
	⑮まとめと総復習							

科目名	応用表計算(関数)							
英文科目名	Advanced Spread Sheet(Function)							
担当者名	【春学期】降旗徹馬, 吉田高志, 古屋俊彦【秋学期】 吉田高志							
科目ナンバリング	COM201							
授業の概要と到達目標	表計算ソフトは現代のビジネスシーンにおいて、利用頻度・重要性ともに高く、その習熟度を高めることは、将来ビジネス界で活躍する皆さんにとって大きな意味をもつ。本科目は表計算への理解とスキルに磨きをかけることを目的とした講義・演習である。本講義ではExcelの実習を通し、数あるワークシート関数の中でも利用頻度の高い関数に注目して、どのように活用されるかを理解し、自らが業務で必要となるワークシートを作成できる能力を培うことを目的とする。なお、本年度は基礎コンピュータ I においてExcelの基礎を習得していることを前提とし、データリテラシーの内容を追加している。							
授業の方法	自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するために、実習を取り入れ、練習問題・実習問題による内容の理解確認を行う。							
予習と復習	内容をしっかり理解するためには自主的な学習が必要であるので、指定テキストに基づき、自宅のPCで、あるいは、開放されているコンピュータ室を授業時間外に積極的に利用して予習（90分）・復習（90分）を行うこと。							
テキスト等	オリジナルのテキストを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
	なし			0%	なし			0%
	(1) 出席率80%以上であること、(2) レポートをすべて提出していること、のいずれかでも満たさない項目があれば単位認定しない。レポートについては全般的な評価と所見を提示することでフィードバックを行う。							
授業計画	①Excelの基礎							
	②相対参照と絶対参照							
	③グラフによるデータの可視化(1)							
	④グラフによるデータの可視化(2)							
	⑤データの抽出							
	⑥集計機能							
	⑦条件付き集計関数							
	⑧検索関数							
	⑨文字列操作							
	⑩総合課題1							
	⑪基本統計量							
	⑫ヒストグラム・箱ひげ図							
	⑬散布図と回帰直線							
	⑭回帰分析							
	⑮まとめと総復習（総合課題2）							

科目名	応用表計算(マクロ)							
英文科目名	Advanced Spread Sheet(Macro Program)							
担当者名	降旗徹馬, 吉田高志, 古屋俊彦							
科目ナンバリング	COM202							
授業の概要と到達目標	従来のプログラミングの実習では、いわゆるプログラミング言語を直接使う以外に選択肢はなかったが、現在ではExcelのマクロを使ってプログラミングの学習をすることが可能になった。最近では、さらにRPA (Robotic Process Automation) といった定型の事務作業の自動化にも関心が集まっている。本科目では、プログラミングの基礎を学びながら実務において役に立つワークシートの一連の操作手順を記述できるようにすることを目的とする。実習にはVBA (VisualBasicforApplications) を利用する。VBAは基本情報処理技術者試験のプログラム課題の一つとなっている。							
授業の方法	自律的な学習 (アクティブ・ラーニング) を促進するために、実習を取り入れ、練習問題・実習問題による内容の理解確認を行う。							
予習と復習	オリジナルの指定テキストに基づき、予習 (90分) ・復習 (90分) を講義時間外に行うこと。							
テキスト等	オリジナルのテキストを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
	なし			0%	なし			0%
	(1) 出席率80%以上であること, (2) レポートをすべて提出していること, のいずれかでも満たさない項目があれば単位認定しない。レポートについては、全般的な評価と所見を提示することでフィードバックを行う。授業内試験は最終課題をさす。							
授業計画	①マクロの記録と実行							
	②VBAの基本							
	③VBAプログラムにおける変数							
	④選択処理							
	⑤繰り返し処理(1) For～Nextステートメント							
	⑥繰り返し処理(2) Do～Loopステートメント							
	⑦配列							
	⑧総合練習問題							
	⑨総合課題							
	⑩アルゴリズムとは？フローチャートの書き方							
	⑪再帰呼び出し							
	⑫ソート (バブルソートとクイックソート)							
	⑬ソルバーを用いた最適化(1)							
	⑭ソルバーを用いた最適化(2)							
	⑮まとめと総復習							

科目名		基礎プログラミング I							
英文科目名		Introduction to Computer Programming I							
担当者名		【春学期】 齋藤大輔, 児島宏明【秋学期】 児島宏明							
科目ナンバリング		COM203							
授業の概要と到達目標		授業の概要本授業ではICTの知識とスキルを身につけることを目標として、プログラミングについて学習する。プログラミングとはコンピュータに指示するためのプログラムを作成する技術のことを指す。本授業では、プログラミング言語Pythonを用いてプログラミングの基本を学習する。また、本授業ではプログラミングの基本的な概念（変数や繰り返しなど）を理解し簡単なプログラムを作成できるようになることを目指す。また、授業の後半ではオブジェクト指向という考え方に触れる。学習内容として、基本的なPythonの使い方、繰り返しや条件分岐といった概念、クラスなどである。到達目標・プログラミングについて知る・簡単なプログラムが作成できるようになる・オブジェクト指向について知る							
授業の方法		本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。コンピュータを用いて実際にプログラミングしながら学習するハンズオン形式で行う。							
予習と復習		予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組み次の授業時に提出する。							
テキスト等		教科書: スッキリわかるPython入門（スッキリわかる入門シリーズ）、国本大悟(著)、須藤秋良(著)、株式会社フレアリンク(監修)、インプレス							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%	
	授業内課題		60%	0				0%	
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する								
授業計画	① オリエンテーション(プログラミングとは?)								
	②文字の表示と簡単な計算(簡単な構文、四則演算)								
	③変数(変数について)								
	④ データ型・演算子(数字や文字の違い)								
	⑤複数の値を束ねる(リスト、タプル、辞書)								
	⑥複数の値を束ねる(集合型)								
	⑦条件分岐(単一条件, if)								
	⑧条件分岐(複数条件, if-else)								
	⑨繰り返し(特定の処理を繰り返す。for)								
	⑩ 繰り返し(条件によって繰り返す。while)								
	⑪ 関数(関数の基本)								
	⑫関数(引数、戻り値)								
	⑬クラス(クラスの基本)								
	⑭ クラス(クラスの作成)								
	⑮まとめと総復習								

科目名	基礎プログラミングⅡ 基礎プログラミングB							
英文科目名	Introduction to Computer Programming Ⅱ Introduction to Computer Programming B							
担当者名	齋藤大輔							
科目ナンバリング	COM204							
授業の概要と到達目標	授業の概要本授業ではICTの知識とスキルを身につけることを目標として、プログラミングについて学習する。プログラミングとはコンピュータに指示するためのプログラムを作成する技術のことを指す。本授業では、基礎プログラミング1の授業を基にプログラミングについてさらに理解を深める。本授業ではプログラミング言語としてPythonを用いる。また、本授業では、ファイル入出力や例外処理といった高度な使用方法、代表的なアルゴリズムについて学習し、より実践的にプログラミングができるようにする。加えて、授業の後半では社会でどのようにプログラミングが活用されているか紹介する。到達目標・アルゴリズムについて理解する・複雑なプログラムを作成できるようになる・プログラミングの活用方法について知る							
授業の方法	本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。コンピュータを用いて実際にプログラミングしながら学習するハンズオン形式で行う。							
予習と復習	予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組み次の授業時に提出する。							
テキスト等	教科書: スッキリわかるPython入門 (スッキリわかる入門シリーズ), 国本大悟(著)、須藤秋良(著)、株式会社フレイミング(監修), インプレス参考書: アルゴリズム図鑑 絵で見てわかる26のアルゴリズム, 石田 保輝(著)、宮崎修一(著)、翔泳社							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%
	授業内課題		60%					0%
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する							
授業計画	①オリエンテーション(Pythonのおさらい)							
	② Pythonの基礎(モジュールとパッケージ)							
	③ Pythonの基礎(例外処理)							
	④Pythonの基礎(ファイルの入出力)							
	⑤Pythonとアルゴリズム(再帰的な処理)							
	⑥ Pythonとアルゴリズム(値を並び替える)							
	⑦Pythonとアルゴリズム(値を見つける)							
	⑧Pythonとアルゴリズム(スタックとキュー)							
	⑨Pythonとアルゴリズム(数学問題を解いてみる)							
	⑩Pythonの活用(標準ライブラリ、外部ライブラリ)							
	⑪Pythonの活用(簡単なデータ分析)							
	⑫Pythonの活用(グラフの描画)							
	⑬ Pythonの活用(データ処理)							
	⑭ Pythonの活用(IoT)							
	⑮まとめと総復習							

科目名	データベースⅠ							
英文科目名	Introduction of DatabaseⅠ							
担当者名	【春学期】笹金光徳, 鈴木里史【秋学期】笹金光徳, 鈴木里史							
科目ナンバリング	COM205							
授業の概要と到達目標	3学部のディプロマポリシー達成のために共通となる情報社会におけるプラスアルファの教養を身に着けるための科目である。「データベース」は、現行ICT社会のいたるところで活躍している。データベースⅠ/Ⅱの共通の目標は、代表的データモデルに基づくリレーショナルデータベース管理システム(RDBMS)の基本概念、データ設計、データ操作、およびデータ管理の原理と方法を理解することである。本科目はその入門編であり、基本操作に加え、主キー、正規化に関連するITパスポート試験の問題が解けるレベルになっていることが、具体的目標となっている。RDBMSとしてAccessを用い、テーブル、クエリ、フォーム、レポート、マクロについて一通り基礎的な実習を行う。「データベースⅡ」の前提科目となっているので、その履修に必要なリレーショナルデータベースの基本概念を理解することを目指します。							
授業の方法	理解を深めるために、講義と実習を並行して行う。毎回、質疑応答の時間を十分に設ける(アクティブ・ラーニング)。なお、オンライン授業期間であっても必ずAccessを動作できる環境で受講しなければならないことに注意されたい。							
予習と復習	内容をしっかり理解するためには、毎週最低でも3時間程度の自発的学習(予習90分および復習・課題作成90分)が必要である。予習は教科書の次回範囲の精読を中心に行うこと。復習・課題作成は自宅または開放されているコンピュータ室で実習中心に行うこと。							
テキスト等	実教出版編修部 編『60時間でエキスパート Access 2007/2010』(実教出版)							
評価方法	定期試験	45%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%
	授業内で示すレポート・課題			45%				0%
	次のすべての条件を満たさなければ単位認定しない。①出席率80%以上、②授業内期末試験を受験、④レポート・課題を全て提出。							
授業計画	①データベース(DB)とは							
	②DB発展の歴史(階層型、ネットワーク型)							
	③キーの種類(候補キー、主キー、複合キー)							
	④データの正規化・リレーションシップ							
	⑤Accessの基礎知識とオブジェクト							
	⑥データベースの構築の準備							
	⑦テーブルの操作							
	⑧選択クエリの操作							
	⑨アクションクエリとフォームの操作							
	⑩レポートとマクロの操作							
	⑪書籍管理システム1(システム概要)							
	⑫書籍管理システム2(テーブルの設計と構築)							
	⑬正規化と主キーに関する練習問題							
	⑭期末試験対策							
	⑮実習試験とまとめ							

科目名	データベースⅡ							
英文科目名	Introduction of Database Ⅱ							
担当者名	笹金光徳, 鈴木里史							
科目ナンバリング	COM206							
授業の概要と到達目標	3学部のディプロマポリシー達成のために共通となる情報社会におけるプラスアルファの教養を身に着けるための科目である。データベースⅠが基礎編であるのに対し、本科目は応用編なので、データベースⅠの単位修得を履修の前提としている。本科目の前半では「販売管理システム」という実用的なデータベースをAccessで取り扱うことにより、データベースの有効性を理解することを目標とする。さらに後半には、SQLの基礎を理解してデータベース言語SQLⅠ/Ⅱの基礎力を養うことを目標としている。このようにして、データベースⅠ/Ⅱを通して、ITパスポート試験のデータベース関連問題が解けるレベルになっていることが望まれる。自発的学習のため「コンピュータ室開放」を利用すること。							
授業の方法	理解を深めるために、講義と実習を並行して行う。毎回、質疑応答の時間を十分に設ける(アクティブ・ラーニング)。なお、オンライン授業期間であっても必ずAccessを動作できる環境で受講しなければならないことに注意されたい。							
予習と復習	内容をしっかり理解するためには、毎週最低でも3時間程度の自発的学習(予習90分および復習・課題作成90分)が必要である。予習は教科書の次回範囲の精読を中心に行うこと。復習・課題作成は自宅または開放されているコンピュータ室で実習中心に行うこと。							
テキスト等	実教出版編修部 編『60時間でエキスパート Access 2007/2010』(実教出版)							
評価方法	定期試験	45%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%
	授業内で示すレポート・課題			45%				0%
	次のすべての条件を満たさなければ単位認定しない。①出席率80%以上、②授業内期末試験を受験、④レポート・課題を全て提出。							
授業計画	①データベースⅠの復習とガイダンス							
	②販売管理システム1(システム概要)							
	③販売管理システム2(テーブル・フォームの作成)							
	④販売管理システム3(クエリ・レポートの作成)							
	⑤販売管理システム4(メニューの作成)							
	⑥販売管理システム5(メニューの作成)							
	⑦販売管理システム6(発展課題)							
	⑧SQLとは(データ定義言語とデータ操作言語)							
	⑨Accessを用いたSQLの基本操作							
	⑩SELECT文の基本的な操作							
	⑪SELECT文の発展的な操作							
	⑫SELECT文による集計操作							
	⑬SQLに関する練習問題の解答と解説(実技試験対策)							
	⑭期末試験対策							
	⑮実習試験とまとめ							

科目名	データベース言語SQL I								
英文科目名	Programming by Database Language SQL I								
担当者名	齋藤大輔								
科目ナンバリング	INF0305								
授業の概要と到達目標	本授業では企業活動に活かせるICTの知識とスキルを身につけることを目標として、リレーショナルデータベースでデータを扱うために使用されるSQLを学習する。リレーショナルデータベースは多くのシステム（顧客管理やオンラインショッピングなど）で利用されている。こういったデータベースの構築にはSQLと呼ばれる専用言語が用いられることが一般的である。特に本授業ではSQLを用いてデータベースからデータを検索する方法を中心に学習する。学習内容としてはデータ検索の基本、データの集約、データの並び替えなどである。到達目標・リレーショナルデータベースについて知る・SQLについて理解する・SQLを用いて情報を検索できるようになる								
授業の方法	本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。また、本授業ではSQLを用いて実際にデータを検索するハンズオン形式の授業を行う。								
予習と復習	予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする 復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組み次の授業時に提出する。								
テキスト等	教科書: SQL 第2版 ゼロからはじめるデータベース操作（プログラミング学習シリーズ）、ミック(著)、翔泳社								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%	
	授業内課題			60%					0%
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること 授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する								
授業計画	①ガイダンス(データベースとは？SQLとは？)								
	②データの検索(SELECT)								
	③データの検索(重複の削除、WHERE句)								
	④算術演算子(加算、減算、乗算、除算)								
	⑤比較演算子(大小、等しい)								
	⑥論理演算子(論理和、論理積、論理否定)								
	⑦テーブルの集約(集約関数)								
	⑧テーブルの集約(合計、平均値)								
	⑨テーブルの集約(最大値、平均値)								
	⑩テーブルをグループに切り分ける								
	⑪集約結果と条件								
	⑫検索結果の並び替え								
	⑬ソートキー（複数指定、別名の使用）								
	⑭SQLデータベースの作成方法								
	⑮まとめと総復習								

科目名		データベース言語SQL II							
英文科目名		Programming by Database Language SQL II							
担当者名		齋藤大輔							
科目ナンバリング		INF0306							
授業の概要と到達目標	本授業では企業活動に活かせるICTの知識とスキルを身につけることを目標として、リレーショナルデータベースでデータを扱うために使用されるSQLを学習する。リレーショナルデータベースは多くのシステム（顧客管理やオンラインショッピングなど）で利用されている。こういったデータベースの構築にはSQLと呼ばれる専用言語が用いられることが一般的である。特に本授業ではデータベース言語SQL1の授業を基に、SQLを用いてデータベースの構築方法を中心に学習する。データベースとしてはPostgreSQLを使用し、テーブルの作成、データの登録、更新、削除などについて学習する。到達目標・リレーショナルデータベースについて理解する・データベースが構築できるようになる・SQLを用いてテーブルの作成やデータの登録・更新などができるようになる								
授業の方法	本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。SQLを用いて実際にデータベースを作成する方法をハンズオン形式の授業を行う。								
予習と復習	予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする 復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組み次の授業時に提出する。								
テキスト等	教科書: SQL 第2版 ゼロからはじめるデータベース操作（プログラミング学習シリーズ）、ミック(著)、翔泳社								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%	
	授業内課題			60%					0%
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること 授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する								
授業計画	①イントロダクション(SQLについて)								
	② データベースの作成とテーブルの作成								
	③テーブルの削除と変更(DROP TABLE, ALTER TABLE)								
	④データの登録(INSERT)								
	⑤データの削除と更新(DELETE, UPDATE)								
	⑥複雑な問い合わせ(ビュー)								
	⑦複雑な問い合わせ(サブクエリ)								
	⑧複雑な問い合わせ(相関サブクエリ)								
	⑨関数(関数について)								
	⑩述語(述語について)								
	⑪条件分岐(CASE式)								
	⑫集合演算(テーブルの足し算、引き算)								
	⑬集合演算(テーブルの結合)								
	⑭SQLでの高度な処理								
	⑮まとめと総復習								

科目名	マルチメディア I							
英文科目名	Multimedia I							
担当者名	降旗徹馬							
科目ナンバリング	INF0303							
授業の概要と到達目標	本科目の目的は、表現メディアの種類と特性（文字・図形・静止画・音・動画）および画像のデジタル化（画像の標本化・画像の量子化）の概念を踏まえたうえで、これら全般的な編集の基礎を学ぶことである。本科目は実習科目であるので、3年次での履修を勧める。＜到達目標＞マルチメディア情報の編集の基礎を習得することを到達目標とする。＜カリキュラム・ポリシーとの関連＞ICT（情報通信技術）を経営に生かすために必要な知識・スキルを学ぶ。							
授業の方法	本講義では、講義と課題作成実習を行う。すべての課題作成実習において、与えられた課題を学修者自身が試行錯誤を繰り返しながら何とか自分で作成できるような相互交流型の学習（アクティブ・ラーニング）を実施する。							
予習と復習	予習（90分）実習課題の作成方法を記述したファイルを事前に読んでおくこと。復習（90分）授業で取り上げられた実習課題を授業終了後理解できるまで何回も繰り返して実習練習を行うこと。							
テキスト等	テキストは使用せず、資料を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	【注意】単位を得るには、レポート（実習課題を保存したファイルも含む）を全て提出し、かつ、出席率80%以上が必要である。【レポート（実習課題）に対するフィードバック】講義中に行う実習課題について全般的評価と所見を個別に提示する。							
授業計画	①表現メディアの種類と特性（文字・図形・静止画・音・動画）							
	②ラスター画像の編集（基本操作・カラーモデル）							
	③ラスター画像の編集（ヒストグラム・トーンカーブ）							
	④ラスター画像の編集（画像合成）							
	⑤ベクトル画像の編集（基本操作・ベジェ曲線）							
	⑥ベクトル画像の編集（作品制作実習）							
	⑦3Dグラフィックス（基本操作）							
	⑧3Dグラフィックス（作品制作実習）							
	⑨音・音楽の編集（基本操作と楽曲制作実習）							
	⑩動画の編集（ゼミ発表動画の作成と編集）							
	⑪Webデザイン（デザインの重要性）							
	⑫Webデザイン（HTML）							
	⑬Webデザイン（CSSとAPI）							
	⑭Webデザイン（作品制作実習）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	マルチメディアⅡ							
英文科目名	Multimedia Ⅱ							
担当者名	降旗徹馬							
科目ナンバリング	INF0304							
授業の概要と到達目標	本科目の目的は、データの可視化（見える化）に関する技法や手法を学修し、最終的には機械学習の基礎まで学ぶことにある。近年、データサイエンス・AIの重要性が増し、この潮流に合わせて授業内容の改訂を行った。実習に使用する専用ソフトウェアは自宅PCにもインストールでき、自宅でも授業時間外学修ができるよう選択している。また、実習の一部ではPythonのプログラムを利用するが、これらは担当教授が提供するので、実習は容易にできるよう配慮してある。ただし、Pythonもできた方がよいので、2年次に基礎プログラミングⅠを履修済みであるか、あるいは、参考書に基づき学修しておくことが望ましい。なお、本科目は実習科目である。＜到達目標＞データの可視化の基礎を習得することを到達目標とする。＜カリキュラム・ポリシーとの関連＞ICT（情報通信技術）を経営に生かすために必要な知識・スキルを学ぶ。							
授業の方法	本講義では講義と実習を行う。すべての実習において、与えられた課題を学修者自身が試行錯誤を繰り返しながら、何とか自分で作成できるような相互交流型の学習（アクティブ・ラーニング）を実施する。							
予習と復習	予習（90分）事前にテキスト・配布資料（ファイル）の該当箇所を十分検討しておくこと。復習（90分）授業で取り上げられた実習課題を授業終了後理解できるまで何回も繰り返して実習練習を行うこと。							
テキスト等	テキストは使用せず、資料を配布する。参考書：リブワークス（2021）やさしくわかるPythonの教室、技術評論社、塚本邦尊、山田典一、大澤文孝（2019）東京大学のデータサイエンティスト育成講座、マイナビ出版。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	【注意】単位を得るにはレポート（実習課題を保存したファイルも含む）をすべて提出しかつ出席率80%以上が必要である。【レポート（実習課題）に対するフィードバック】講義中に行う実習課題について全般的評価と所見を個別に提示する。							
授業計画	①テキストの可視化（テキスト処理の基本）							
	②テキストの可視化（計量テキスト分析）							
	③テキストの可視化（課題作成実習）							
	④空間データの可視化（地理情報システムの利用）							
	⑤空間データの可視化（課題作成実習）							
	⑥データ処理（Pythonの基礎）							
	⑦データ処理（前処理と基本集計）							
	⑧データ処理（グラフによるデータの可視化）							
	⑨因果関係（回帰分析）							
	⑩データの次元削減（主成分分析）							
	⑪グループ分け（クラスター分析）							
	⑫相関ルール（アソシエーション分析）							
	⑬時系列データ（機械学習による予測）							
	⑭画像認識（機械学習による物体検出）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	情報ネットワーク I									
英文科目名	Information Network I									
担当者名	齋藤大輔									
科目ナンバリング	INF0307									
授業の概要と到達目標	本授業では企業活動に活かせるICTの知識とスキルを身につけることを目標として、ネットワークの仕組みの基礎について学習する。現代社会において多くの情報、データなどがネットワークを通じて共有、伝達されている。従って、情報化社会においてネットワークの活用は必要不可欠となっている。本授業では、情報やデータがどのようにネットワーク上で扱われているのか？について学習する。学習内容としてはデータ、データ通信、インターネット、ネットワークモデル、IPアドレスなどについてである。到達目標・情報ネットワークは何か？について理解する・データの仕組みについて理解する・ネットワークモデルについて理解する									
授業の方法	本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。本授業ではコンピュータを用いて実際にネットワークの様子を観察や仕組みを構築する。									
予習と復習	予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組み次の授業時に提出する。									
テキスト等	教科書：ネットワークがよくわかる教科書，福永 勇二(著)，SBクリエイティブ参考書：図解でやさしくわかるネットワークのしくみ超入門，網野 衛二(著)，技術評論社									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%		
	授業内課題			60%						0%
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する									
授業計画	①イントロダクション(ガイダンス・ネットワークとは？)									
	②データ(ビット、バイト、符号化、デジタル化)									
	③データ通信(回線、パケット)									
	④ネットワークの分類(LANとWAN)									
	⑤インターネット1(WebとWWW)									
	⑥インターネット2(データの流れを観察してみよう)									
	⑦OSI参照モデル(プロトコルとカプセル化)									
	⑧OSI参照モデル(各階層の役割)									
	⑨TCP/IPモデル(OSIとの違い)									
	⑩ネットワークにおけるハードウェア(ハブ)									
	⑪イーサネットとMACアドレス(有線LAN、インターフェース固有のアドレス)									
	⑫IPアドレス(IPアドレスの役割)									
	⑬ルーター(ルーターの役割)									
	⑭TCP/UDPについて(TCPとは？、UDPとは？)									
	⑮まとめと総復習									

科目名	情報ネットワークⅡ								
英文科目名	Information NetworkⅡ								
担当者名	齋藤大輔								
科目ナンバリング	INF0308								
授業の概要と到達目標	本授業では企業活動に活かせるICTの知識とスキルを身につけることを目標として、ネットワークの仕組みの基礎について学習する。現代社会において多くの情報、データなどがネットワークを通じて共有、伝達されている。従って、情報化社会においてネットワークの活用は必要不可欠となっている。本授業では、情報ネットワーク1の授業を基に、情報やデータの共有、伝達方法として、使用されるプロトコルやサーバについて学習する。学習内容としてはファイル共有、メールの送受信、Webの仕組みやファイヤーウォールや暗号化といった情報ネットワークのセキュリティなどである。到達目標・プロトコルについて理解する・情報ネットワークのセキュリティについて知る。また、対策できるようになる・情報ネットワークにおけるリテラシーの知識を深める								
授業の方法	本授業はアクティブラーニング形式で進める。従って、授業では事前に授業で扱うトピックについて教科書等で学習し、授業では学習内容に基づいた演習課題に取り組む反転授業で行う。本授業ではコンピュータを用いて実際にネットワークの様子を観察や仕組みを構築する。								
予習と復習	予習(90分):各授業で扱うトピックについて、事前に教科書を読み理解し授業の準備をする復習(90分):各授業で扱うトピックについて理解度確認課題を提示する。各自で課題に取り組む次の授業時に提出する。								
テキスト等	教科書：ネットワークがよくわかる教科書，福永 勇二(著)，SBクリエイティブ参考書：図解でやさしくわかるネットワークのしくみ超入門，網野 衛二(著)，技術評論社								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%	
	授業内課題			60%	0%				
	単位の取得条件として全授業の2/3以上出席すること授業内課題・レポートへの取り組み状況で総合的に評価する								
授業計画	①サーバーとプロトコル								
	②ファイル共有(FTP)								
	③データベースの仕組み								
	④メールの仕組み(SMTP，POP3)								
	⑤Webの仕組み(HTTP)								
	⑥プロキシサーバーの仕組み								
	⑦DHCPサーバーの仕組み								
	⑧DNSの仕組み								
	⑨その他サーバー								
	⑩情報ネットワークとセキュリティ								
	⑪ファイアウォール								
	⑫IDとパスワード								
	⑬情報漏洩を防ぐ(データの暗号化)								
	⑭情報ネットワークと知的財産権(著作権など)								
	⑮まとめと総復習								

科目名	簿記Ⅰ							
英文科目名	Accounting PracticeⅠ							
担当者名	榊谷奎太, 蒔田真也, 吉田直美, 北井不二男【秋学期(再)】北井不二男							
科目ナンバリング	BOKP101							
授業の概要と到達目標	簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・報告するための技術です。簿記を学ぶことで企業の経営状況を数字の面から把握できるようになるため、商学または経営学を学ぶためには必要不可欠なものです。本科目は、「商学・経営学の基礎となる簿記の知識を身につける」「商学・経営学の基本となる取引の記録を知る」ことを目的とします。 【目標】複式簿記の基本原則、基本的な取引の仕訳・転記の方法及び決算までの一連の手続き（簿記一巡）を理解します。【概要】複式簿記とよばれる企業で行われる簿記の基礎を学習します。この科目で扱う複式簿記の基本原則は、この科目の上位科目である「簿記Ⅱ」を履修する際に必要になります。この科目の内容を踏まえて「簿記Ⅱ」では、財務諸表という書類の作成を行うために必要な決算手続などを学びます。							
授業の方法	講義を中心に行います。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）として、講義中に演習やレポートの作成などを行うとともに、一部の授業回で、必要に応じて授業内容を確認するためのディスカッションの時間を設けるなどします。							
予習と復習	（予習45分）テキストまたは配布資料の該当箇所を事前に読んでください。（復習45分）授業で扱った問題などを繰り返し解いてください。							
テキスト等	開講時に指定します（担当教員によってテキストが異なります）。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%
	平常点により評価します。平常点の具体的内容（レポートや授業内試験など）、採点結果に関する全般的な評価と所見については、担当教員が授業内で開示します。							
授業計画	①ガイダンス							
	②取引と勘定							
	③仕訳と転記							
	④仕訳帳、総勘定元帳及び補助簿							
	⑤決算（試算表の作成、帳簿の締切り）							
	⑥決算（財務諸表の作成、精算表の作成）							
	⑦現金							
	⑧預金							
	⑨小口現金							
	⑩商品（3分法）							
	⑪商品（仕入帳、売上帳）							
	⑫商品（商品有高帳）							
	⑬売掛金と買掛金、前払金と前受金							
	⑭まとめと総復習							
	⑮まとめと総復習							

科目名	簿記Ⅱ							
英文科目名	Accounting Practice Ⅱ							
担当者名	榊谷奎太, 蒔田真也, 吉田直美, 北井不二男【春学期(再)】北井不二男							
科目ナンバリング	BOKP102							
授業の概要と到達目標	この科目は、「簿記Ⅰ」の内容をさらに発展させたものであるため、「簿記Ⅰ」の単位を修得していなければ履修することはできません。本科目は、「商学・経営学の基礎となる簿記の知識を身につける」「商学・経営学の基本となる取引の記録を知る」ことを目的とします。【目標】応用的な取引の仕訳・転記、決算手続及び財務諸表や精算表の作成について理解します。【概要】この科目では、「簿記Ⅰ」で扱わなかった取引の仕訳・転記と財務諸表という書類を作成するために必要となる決算手続を中心に学習します。							
授業の方法	講義を中心に行います。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）として、講義中に演習やレポートの作成などを行うとともに、一部の授業回で、必要に応じて授業内容を確認するためのディスカッションの時間を設けるなどします。							
予習と復習	（予習45分）テキストまたは配布資料の該当箇所を事前に読んでください。（復習45分）授業で扱った問題などを繰り返し解いてください。							
テキスト等	開講時に指定します（担当教員によってテキストは異なります）。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%
	平常点により評価します。平常点の具体的内容（レポートや授業内試験など）、採点結果に関する全般的な評価と所見については、担当教員が授業内で開示します。							
授業計画	①ガイダンス							
	②その他の債権債務（貸付金・借入金、未収入金・未払金）							
	③その他の債権債務（立替金・預り金など）							
	④手形（受取手形・支払手形）							
	⑤手形（電子記録債権・電子記録債務など）							
	⑥有形固定資産							
	⑦貸倒損失と貸倒引当金							
	⑧資本（設立・増資）							
	⑨資本（利益剰余金・配当）							
	⑩収益と費用							
	⑪税金							
	⑫簿記一巡（決算整理、財務諸表の作成など）							
	⑬簿記一巡（精算表の作成）、伝票							
	⑭まとめと総復習							
	⑮まとめと総復習							

科目名	マーケティング論A								
英文科目名	Marketing A								
担当者名	庄司真人, 永井竜之介, 齋藤典晃								
科目ナンバリング	MKTG101								
授業の概要と到達目標	マーケティング論Aでは、マーケティングの基本的な考え方の解説にはじまり、マーケティングにおける消費者、生活者の視点、情報システムおよび市場調査、そしてマーケティング戦略の概要について解説を行う。基礎的なレベルについて理解できるまでの知識を身につけることを目標とする。グローバル化、社会貢献、環境変化、消費動向変革など企業には大きな課題が存在する。特に以上の事項を各講義項目で事例として提示する。この授業は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。また、この授業では外部講師を招聘し、実際のマーケティングについて講演してもらう予定である。								
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、一部の授業回でプレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）もしくはディベートを実施するとともに、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。								
予習と復習	<予習（90分）>各講義の最後に次回学習課題を指示するのでその内容についての所見を列記しておくこと。<復習（90分）>当日の講義内容を図表の解説を中心にまとめておくこと。								
テキスト等	新津重幸・庄司真人編『マーケティング論』（改訂版、白桃書房2017年） 参考文献については、講義中に紹介する。また、資料を配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	80%	平常点	0%	
	授業中課題			20%	0%				
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。								
授業計画	①ガイダンス：マーケティングの定義・体系								
	②顧客志向と利潤志向								
	③マーケティング近眼視と事業領域								
	④顧客時点主導の市場戦略								
	⑤消費パターンとライフスタイル								
	⑥情報流通システム								
	⑦市場調査の役割								
	⑧サンプルの抽出と調査方法								
	⑨質問票の作成と集計								
	⑩標的市場の設定と市場細分化								
	⑪ターゲティング								
	⑫マーケティング・ミックス								
	⑬マーケティングにおける近年の動向								
	⑭レポート課題の実施と解説								
	⑮総まとめと復習：マーケティングの課題								

科目名	マーケティング論B								
英文科目名	Marketing B								
担当者名	庄司真人, 永井竜之介, 齋藤典晃								
科目ナンバリング	MKTG102								
授業の概要と到達目標	ヒット商品の二極化（低価格商品・高付加価値商品）、消費の二極化（モノからサービスへ）等、消費構造は大きく変化している。そして、携帯（モバイル）、Web等のネット社会の到来で、コミュニケーションの在り方も変化してきている。そして、企業は生き残りを掛けてその体質変革を迫られている。マーケティング論Bでは、マーケティング手段の複合的戦略を解説する。商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。また、この講義では外部講師を招聘し、マーケティングの現状について講演してもらうことがある。								
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークを実施する。								
予習と復習	<予習（90分）>各講義の最後に次回学習課題を指示するのでその内容についての所見を列記しておくこと。<復習（90分）>当日の講義内容を図表を中心にまとめておくこと。								
テキスト等	新津重幸・庄司真人編『マーケティング論』（改訂版、白桃書房2017年） 参考文献については、講義中に紹介する。また、資料を配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%	
	授業内課題			40%					0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。								
授業計画	①マーケティング戦略								
	②製品の構造								
	③ブランドとブランド・エクイティ								
	④アフターサービスと満足保証								
	⑤ライフサイクルの諸段階と管理								
	⑥価格設定								
	⑦プロモーション・ミックス								
	⑧広告戦略								
	⑨人的販売								
	⑩営業戦略								
	⑪販売促進（SP）								
	⑫パブリシティとコミュニケーション戦略								
	⑬流通チャネル								
	⑭マーケティングの発展領域								
	⑮まとめと総復習								

科目名		広告論A							
英文科目名		Advertising A							
担当者名		齋藤典晃							
科目ナンバリング		MKTG201							
授業の概要と到達目標	企業は様々なメディアを通じてプロモーション活動を行っている。そのプロモーション活動において重要な役割を果たすのが広告であり、それゆえに広告は我々と密接に関係のある企業活動といえることができる。基本的にそのような企業活動は消費者とのコミュニケーションを目的としており、それは本質的にマーケティング・コミュニケーションに内包されるものである。本講義の目的は広告論およびマーケティング・コミュニケーションの基礎的な知識を修得することにある。具体的には企業のプロモーション活動を理論的に説明し、応用できるようにすることを目的とする。この授業は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。								
授業の方法	この講義では基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。毎回の授業終了時にはディスカッション（アクティブラーニング）の時間を設ける。また、自律的学習（アクティブラーニング）を促進するために小テスト、ミニレポートを適宜行う。								
予習と復習	予習（90分）各講義の最後に次回学習課題を提示する。その課題に対してポイントを箇条書きで整理しておくこと。復習（90分）講義中に学習した用語や理論を自身の関心事に関連づけて考察すること。								
テキスト等	指定なし。参考文献については講義中に紹介する、また資料を配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	0%	
	平常点課題			30%					0%
	基本的にレポートの返却は行わない。評価と所見を講義中に示す。授業の2/3以上に出席しないと評価の対象とならないので注意すること。								
授業計画	①ガイダンス 広告論の基本								
	②マーケティングの基本と広告								
	③マーケティングにおける広告の役割								
	④マーケティング・ミックスとプロモーション								
	⑤広告コミュニケーション								
	⑥広告の分類：新聞広告と雑誌広告								
	⑦広告の分類：テレビ広告とラジオ広告								
	⑧その他の広告と販売促進								
	⑨プロモーション・ミックス								
	⑩ICTを活用した広告								
	⑪広告の効果測定の意義								
	⑫製品ライフサイクルとプロモーション								
	⑬統合型マーケティング・コミュニケーション								
	⑭レポート課題の解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	広告論B								
英文科目名	Advertising B								
担当者名	齋藤典晃								
科目ナンバリング	MKTG202								
授業の概要と到達目標	広告などの企業活動は消費者とのコミュニケーションを目的としており、それは本質的にマーケティング・コミュニケーションに内包されるものである。近年のICTの発達は企業と消費者とのコミュニケーションのあり方を一変させようとしている。企業のICTを活用したマーケティング・コミュニケーション戦略は、これまで以上に重要となるだろう。本講義の目的は広告論における現代的な問題を取り上げ、現代企業のプロモーションの特徴を理解することである。具体的には、ブランド構築におけるプロモーションの役割や、ICTを活用したプロモーション戦略について理論的に説明し、応用できるようにすることを目的とする。この授業は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。								
授業の方法	この講義では基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。毎回の授業終了時にはディスカッション（アクティブラーニング）の時間を設ける。また、自律的学習（アクティブラーニング）を促進するために小テスト、ミニレポートを適宜行う。								
予習と復習	予習（90分）各講義の最後に次回学習課題を提示する。その課題に対してポイントを箇条書きで整理しておくこと。復習（90分）講義中に学習した用語や理論を自身の関心事に関連づけて考察すること。								
テキスト等	指定なし。参考文献については講義中に紹介する、また資料を配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	0%	
	平常点課題			30%					0%
	基本的にレポートの返却は行わない。評価と所見を講義中に示す。授業の2/3以上に出席しないと評価の対象とならないので注意すること。								
授業計画	①はじめに：広告論の基礎								
	②マーケティング・コミュニケーション戦略								
	③双方向型コミュニケーション戦略								
	④既存メディアとインターネット広告の台頭								
	⑤ICTを活用したプロモーションの特徴と利点／SNSを活用したプロモーション								
	⑥統合型マーケティング・コミュニケーション								
	⑦企業理念とCI戦略								
	⑧広告と価格戦略								
	⑨ブランド・マネジメント戦略								
	⑩ブランド・マネジメントと広告								
	⑪ラグジュアリー・ブランドのプロモーション戦略								
	⑫価値共創型プロモーション戦略								
	⑬資源統合型プロモーション戦略								
	⑭レポート課題の解説								
	⑮まとめと総復習：ICTを活用したマーケティングの展望								

科目名		消費者行動論A							
英文科目名		Consumer Behavior A							
担当者名		上原義子							
科目ナンバリング		MKTG203							
授業の概要と到達目標	経済活動が高度化し、情報技術も劇的に進歩した今日では、我々消費者も実に複雑なプロセスを経て、意識的・無意識的に商品に関する情報処理を行い、無数の商品の中から特定の商品を購入している。本講義では、消費者の購買意思決定プロセス、個人が持つ背景や価値観が消費者行動にどのように結び付いているのかなど、消費者行動に関する基礎的な知識を体系的に修得する。高名なマッカーシーが唱えた4つのP（Price, Product, Place, Promotion）の中心に消費者がおかれていることに鑑みれば、消費者行動を学ぶことが今日のマーケティングを学ぶ上でいかに重要であるかが分かる。したがって、本講義で得られる知識は様々なマーケティング関連科目を理解するための礎となるであろう。1．消費者行動の基本的な枠組みや知識を説明できる2．消費者行動を規定する多様な要因を説明できる3．消費者の情報処理プロセスに関する基本的な枠組みを説明できる商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。								
授業の方法	消費者行動は専門用語が多く難解であるため、受け身で聞いているだけでは不十分である。講義内では、PBL課題解題型学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れて、学生の主体的、能動的な学修を促し、知識の定着を図る。								
予習と復習	予習90分（事前に指定テキストを精読し、要点をまとめておくこと）復習90分（講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）								
テキスト等	【テキスト】青木幸弘ほか『消費者行動論』、有斐閣アルマ、2012年【参考図書】フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編 第3版』、恩蔵直人監修、月谷真紀翻訳、2014年								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%	
				0%				0%	
	授業中の発言、任意レポートの提出などを随時求める予定である。これらは加点方式で成績に反映させるので、筆記試験のみでは不安を感じる学生は各回の授業で着実に得点を積むこと。これらの評価は適宜受講生に対して全般的に提示して学習意欲、成果を高める。								
授業計画	①現代社会における消費の諸相								
	②消費者行動とマーケティング 市場の把握と消費者理解の重要性								
	③消費者行動への心理学的接近								
	④消費者行動研究の歴史								
	⑤消費様式の選択メカニズム① 分析単位としての家族と家計								
	⑥消費様式の選択メカニズム② 消費行動分析の3つのアプローチ								
	⑦これまでのまとめと中間テスト								
	⑧消費者の問題認識と購買意思決定								
	⑨意思決定プロセスと購買行動の多様性								
	⑩情報探索と選択肢評価								
	⑪消費者の情報処理① 情報処理プロセス								
	⑫消費者の情報処理② 消費者知識の構造的側面								
	⑬消費者行動の多様性と動機づけ（関与水準）								
	⑭授業内試験と解説 秋学期に向けて								
	⑮まとめと総復習								

科目名		消費者行動論B						
英文科目名		Consumer Behavior B						
担当者名		上原義子						
科目ナンバリング		MKTG204						
授業の概要と到達目標	消費者行動論Aでは、主に消費者の意思決定に関する基本的な考え方を学んだ。消費者行動論Bでは、その知識を基にマーケティングの視点で消費者行動に接近する。たとえば、広告という刺激を受けた消費者の反応、価格の違いに対する消費者の反応、店舗の設計と購買行動の関係など、我々が消費者としてとる行動にマーケティングの視点から切り込んでいく。また、消費者行動の最終プロセスである廃棄にまで踏み込み、コンシューマリズムやグリーンマーケティングといった、これからの消費者や企業に求められてくる視点も取り上げる。1. 消費者行動に関する基本的知識に関して、マーケティングの視点から説明できる2. 情報化社会における消費者行動の変容と市場への影響を説明できる3. 消費者が近い将来に求められるグリーンな消費者行動が説明できる商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。							
授業の方法	消費者行動は専門用語が多く難解であるため、受け身で聞いているだけでは不十分である。講義内では、課題解決型学習、アクティブ・ラーニングを取り入れて、学生の主体的、能動的な学修を促し、知識の定着を図る。							
予習と復習	予習90分（事前に指定テキストを精読し、要点をレポートにまとめておくこと）復習90分（講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）							
テキスト等	【テキスト】青木幸弘ほか『消費者行動論』、有斐閣アルマ、2012年松井剛ほか『1からの消費者行動論』碩学舎、2016年							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%
				0%				
	授業中の発言、任意レポートの提出などを随時求める予定である。これらは加点方式で成績に反映させるので、筆記試験のみでは不安を感じる学生は各回の授業で着実に得点を積むこと。これらの評価は適宜受講生に対して全般的に提示して学習意欲、成果を高める。							
授業計画	①前期の復習と消費者行動Bの概要							
	②知識構造の理解とブランド構築（ブランド知識の構築ステップ）							
	③消費者の多様性と動機づけ							
	④消費者の態度と変容（様々な説得的コミュニケーションと態度変容）							
	⑤消費者の知覚①（広告との接触、注意、解釈）							
	⑥消費者の知覚②（知覚とマーケティング戦略）							
	⑦これまでのまとめと中間テスト							
	⑧消費者の状況要因とマーケティング戦略（心理的財布、計画・非計画購買）							
	⑨口コミと消費者行動（口コミの発生条件、有効性、オピニオンリーダー）							
	⑩消費プロセスの変容と市場への影響（消費者行動とマーケティング3.0）							
	⑪消費者行動の解釈主義アプローチ							
	⑫購買決定後の過程							
	⑬消費者行動と環境							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名		物流論A							
英文科目名		Physical Distribution A							
担当者名		嘉瀬英昭							
科目ナンバリング		MKTG205							
授業の概要と到達目標	本講義の目標は、荷主企業（小売業、卸売業、製造業）の物流管理と物流戦略を理解することである。荷主企業にとって物流は「企業活動に必要な製品・原料等のモノの物的移動にかかわる諸活動」と定義される。このような活動は、かつては生産・販売に付随して発生する活動として考えられ重要視されていなかった。しかし、近年実務において急速にその重要性が認識されるようになってきている。また、物流の考え方を発展させたロジスティクスやサプライチェーンマネジメントといった概念も注目されるようになってきている。講義では理論だけではなく、企業の事例を交えながら進行していく。また、近年は自動運転や情報システム等の技術的進歩が物流改革へ大きく影響を及ぼすようになってきている。この点については専門的な知識を有する外部講師を招聘した講義を実施する（授業後半に1回予定）。なお、本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。								
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークを実施する。								
予習と復習	予習(90分)授業で指定した書籍やインターネット等を閲覧しておくこと。復習(90分)授業時間内で配布した資料を十分に読んでおくこと。								
テキスト等	授業時に資料を配布または配信する。主な参考書は、齊藤実他著『物流論(第2版)』（中央経済社）、中田伸哉他編著『ロジスティクス概論』（実教出版）、苦瀬博仁『ロジスティクスの歴史物語』（白桃書房）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%	
	毎回の授業の課題			40%					0%
	60%以上出席していない場合は単位を認めない。レポートや課題についてのフィードバックは返却せずに講義中に全般的所見を提示する。								
授業計画	①物流概論								
	②在庫管理と物流①ー企業経営と在庫ー								
	③在庫管理と物流②ー在庫量の管理ー								
	④物流コスト管理①ー物流コストの把握と削減方法ー								
	⑤物流コスト管理②ー物流ABCー								
	⑥脱炭素への対応								
	⑦確認テストと解説								
	⑧小売業の物流管理①ーチェーンストアの物流ー								
	⑨小売業の物流管理②ーコンビニエンスストアの物流、ネット通販の物流ー								
	⑩製造業の物流管理								
	⑪物流改革の事例研究								
	⑫ロジスティクスについて								
	⑬サプライチェーンマネジメントについて								
	⑭物流技術の進化と課題（外部講師招聘予定）								
	⑮荷主企業の物流の課題（グループワーク）								

科目名		物流論B							
英文科目名		Physical Distribution B							
担当者名		嘉瀬英昭							
科目ナンバリング		MKTG206							
授業の概要と到達目標	本講義の目標は、物流業の現状と課題を理解することである。物流業とは、トラック輸送業、鉄道貨物輸送業、海運業、航空貨物輸送業、倉庫業等のことを指す。これらは、産業としての規模が大きいことに加え、様々な現代的課題への対応が迫られている。講義で取り上げる具体的な論点としては、規制緩和による業界構造の変化、環境問題や安全問題への対応、製造業等の国際化への対応、労働者不足への対応等である。講義は、理論だけではなく企業の事例を交えながら進行する。また、近年重要性が増してきているリサイクルと静脈物流について、専門的な知識を有する外部講師を招聘した講義を実施する（授業後半に1回予定）なお、本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。								
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワーク等を実施する。								
予習と復習	予習(90分)授業で指定した書籍やインターネット等を閲覧しておくこと。復習(90分)授業時間内で配布した資料を十分に読んでおくこと。								
テキスト等	授業時に資料を配布または配信する。主な参考書は、齊藤実他著『物流論(第2版)』（中央経済社）、中田伸哉他編著『ロジスティクス概論』（実教出版）、苦瀬博仁『ロジスティクスの歴史物語』（白桃書房）である。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%	
	授業時間内の課題等			40%					0%
授業計画	60%以上出席していない場合は単位を認めない。レポートや課題についてのフィードバックは返却せずに講義中に全般的所見を提示する。								
	①物流業概論								
	②トラック輸送業①全体概論								
	③トラック輸送業②環境問題								
	④トラック輸送業③安全問題								
	⑤トラック輸送業④宅配便と小口輸送サービス								
	⑥貨物自動車運送事業法								
	⑦鉄道貨物輸送業								
	⑧内航海運業と外航海運業								
	⑨国際物流概論								
	⑩航空政策と航空事業の概要								
	⑪航空貨物輸送業								
	⑫港湾と空港								
	⑬リサイクルと静脈物流(外部講師招聘予定)								
	⑭日本の物流業の課題（グループワーク）								
⑮まとめと総復習									

科目名	市場調査論A							
英文科目名	Marketing Research A							
担当者名	上原義子							
科目ナンバリング	MKTG207							
授業の概要と到達目標	顧客を理解し、戦略的なマーケティング活動を実施するための実践的な手法を学ぶ。具体的には、ヒアリング調査やアンケート調査の有効性と実施方法、さらに調査結果の簡単な分析を学んでいく。こうした市場調査の手法は、専門的には質的調査、量的調査に分類されるが、これらは決して個別に扱われるものではなく、市場調査における両輪として機能する。前期においては、主に調査の種類、設計方法、ならびに量的調査のうち記述統計を取り上げるが、これらは市場調査Bで学ぶ推測統計の基礎となる重要な部分である。1. マーケティングにおける市場調査の重要性が説明できる2. 情報を収集、分析するための様々な手法を知ることができる3. 自らインタビュー調査やアンケート調査ができるようになる商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。							
授業の方法	講義形式が主だが、アンケート作成などの課題解決作成（アクティブラーニング）も入れる。マーケティング分析に必要な調査手法を学ぶ講義であるため、数理統計の視点は主体にしない。数式を使わないよう配慮するので、数学に不安のある学生も奮って受講されたい。							
予習と復習	予習90分（事前に指定テキストを精読し、要点をまとめておくこと）復習90分（講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）							
テキスト等	【テキスト】恩蔵直人、富田健次編『1からのマーケティング分析』碩学舎2011佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社2008【参考図書】佐藤郁哉『暴走族のエスノグラフィー』新曜社1984酒井隆『調査・リサーチ活動の進め方』日経文庫2002							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%
授業計画	①市場調査とは 身の回りの市場調査とマーケティング							
	②質的調査と量的調査① 質的調査の有効性と種類 事例：P&G							
	③質的調査と量的調査② 量的調査の有効性と種類 事例：POSシステム							
	④データ収集の計画、方法、デザイン							
	⑤全数調査と標本調査							
	⑥質的調査の手法 ヒアリング調査、エスノグラフィー							
	⑦質的調査の手法 フォーカスグループインタビューとKJ法							
	⑧これまでのまとめと中間テスト							
	⑨質問票の作り方							
	⑩エクセルによるデータ入力の方法							
	⑪エクセルによる基本統計量の算出							
	⑫グラフの種類、かき方、分析							
	⑬記述統計と推測統計 事例：世の中にある数字のからくり							
	⑭授業内試験と解説 秋学期に向けて							
	⑮まとめと総復習							

科目名		市場調査論B						
英文科目名		Marketing Research B						
担当者名		上原義子						
科目ナンバリング		MKTG208						
授業の概要と到達目標	市場調査は我々にとって思いのほか身近な存在である。商品を買うときに使う電子マネーやポイントカードによる購買履歴は、小売業にとって顧客情報の宝庫であり、日々、調査の精度を高める努力をしている。市場調査論Aでは、マーケティングにおける市場調査の重要性、質的および量的なデータ収集の使い分け、リサーチデザインの方法などを修得した。市場調査論Bでは、その知識を基礎として、集めたデータをどのように分析し、マーケティング活動につなげているのかを学ぶ。1．記述統計と推測統計の違いが説明できる2．統計的仮説検定の考えが説明できる3．様々な分析手法を使い分けて市場調査を実施できる商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。							
授業の方法	講義形式が主だが、アンケート作成などのアクティブラーニングも入れる。マーケティング分析に必要な調査手法を学ぶ講義であるため、数理統計の視点は主体にしない。数式を使わないよう配慮するので、数学に不安のある学生も奮って受講されたい。							
予習と復習	予習90分（事前に指定テキストを精読し、要点をまとめておくこと）復習90分（講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）							
テキスト等	【テキスト】恩蔵直人、富田健次編『1からのマーケティング分析』碩学舎【参考書】浦上昌則、脇田貴文『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書豊田秀樹『購買心理を読み解く統計学－実例で見る心理・調査データ解析28』東京図書							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%
				0%				0%
授業計画	①市場調査論Aの振り返りと今期に向けて							
	②仮説検定の意味と手順							
	③平均と標準偏差 事例：データサイエンティストの活躍（映像教材）							
	④相関分析							
	⑤ χ^2 検定							
	⑥t検定 事例：スポーツにおける統計の活用							
	⑦これまでのまとめと中間テスト							
	⑧分散分析							
	⑨回帰分析 事例：駅の自動販売機 From AQUAの落ちないキャップ							
	⑩因子分析							
	⑪コンジョイント分析							
	⑫共分散構造分析							
	⑬実証論文の読み方							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	流通経営論A							
英文科目名	Retailing and Wholesaling Management A							
担当者名	庄司真人							
科目ナンバリング	MKTG209							
授業の概要と到達目標	この授業では小売業および卸売業の概要について説明する。小売業の店舗形態についての基本的な知識の習得を授業の目標とするものである。本授業では、スーパーマーケット、コンビニエンスストアといった食品を中心とする小売業、百貨店や専門店など衣料品を中心とする小売業を中心に店舗形態（ストアフォーマット）の種類、類型について解説する。小売形態の変化要因を理解してもらうことになる。この科目を履修する前に、マーケティング論A・Bを履修していることが望ましい。この科目では、外部講師を呼び、実際の流通業の動向について話しをしてもらうことがある。また、この授業は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。							
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークの実施と、スマートフォン等を用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を行う。							
予習と復習	<予習(90分)> 事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をレポートにまとめておくこと。<復習(90分)> 講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。							
テキスト等	井上崇通・村松潤一編著『ベーシック流通論』（同文館出版）改訂版。2023年							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
			0%					0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							
授業計画	①流通プロセスにおける小売業・卸売業							
	②小売業の定義							
	③小売業の店舗形態							
	④小売業の組織形態							
	⑤小売業と消費者行動							
	⑥卸売業の定義							
	⑦卸売業の種類							
	⑧小売業、卸売業における競争戦略							
	⑨小売業における人的資源管理							
	⑩サプライチェーンマネジメントと小売業、卸売業							
	⑪小売業、卸売業における情報システム							
	⑫小売業における顧客関係管理							
	⑬商業集積（ショッピングセンター、商店街）							
	⑭レポート課題と解説							
	⑮まとめと復習：小売業の現代的課題							

科目名		流通経営論B								
英文科目名		Retailing and Wholesaling Management B								
担当者名		庄司真人								
科目ナンバリング		MKTG210								
授業の概要と到達目標	この授業では、小売業のマーチャンダイジングおよび店舗管理について説明する。適正な商品を適正な時期に適正な場所で、適正な数量を適正な価格で販売するマーチャンダイジングの流れと小売業の拠点となる店舗管理について理解することを目指す。マーチャンダイジングは小売業経営にとって最も重要な問題である。仕入れから販売にいたるマーチャンダイジングのプロセスについて説明し、特に仕入管理、在庫管理、価格管理、マージン管理を中心に基本的概念について説明する。なお、この科目では、外部講師を呼び、実際の流通経営の現場について話をしてもらうことがある。また、この授業は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。									
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークの実施と、スマートフォン等を用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を行う。									
予習と復習	<予習（90分）>事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をレポートにまとめておくこと。<復習（90分）>授業内容を整理し、課題を実施すること。									
テキスト等	井上崇通・村松潤一編著『ベーシック 流通論』（改訂版）同文館出版、2023年。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	20%		
	授業内課題			20%						0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。									
授業計画	①小売業の戦略									
	②マーチャンダイジング									
	③マーチャンダイジングの発展									
	④小売業における価格設定									
	⑤マージン管理									
	⑥均衡在庫									
	⑦小売業のブランド戦略									
	⑧プライベート・ブランド									
	⑨仕入管理									
	⑩仕入商品の選定									
	⑪コミュニケーション戦略									
	⑫店舗管理									
	⑬店舗レイアウト									
	⑭課題の実施と解説									
	⑮まとめと復習：小売業の技術革新									

科目名	マーケティング情報論A									
英文科目名	Marketing Information Theory A									
担当者名	永井竜之介									
科目ナンバー	MKTG211									
授業の概要と到達目標	消費者と企業を取り巻く情報環境は大きく変わってきており、2,3年前のマーケティング戦略では通用しない局面が増えてきている。本講義では、マーケティングの「変化する側面」と「変化しない側面」に注目し、マーケティングの本質と実態について考察していく。春学期のマーケティング情報論Aでは、変化について考察する視点を持ったうえで、デジタル・マーケティングとデジタル・イノベーションについて学び、主体的に考えることを目的とする。さらに、実務におけるマーケティングをプレイヤー別に捉えながら、マーケティングの本質と実態についての問題意識を養ってもらおう。事前にマーケティング関連科目を履修していることが望ましい。本講義は、商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。									
授業の方法	講義内容に基づき、学生同士でのグループワーク・プレゼンテーション・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を実施する。また、授業内でスマートフォンを用いたクリッカー（Google フォームでのプレゼンテーション評価）による双方向授業を複数回実施する。									
予習と復習	予習（90分）：テキストの予習。次回講義に関するビジネス・トピックスの情報収集。復習（90分）：講義資料・ノートの復習。講義で紹介した事例に関する情報収集。									
テキスト等	教科書：永井竜之介『マーケティングの鬼100則』（明日香出版社）参考書：村元康・永井竜之介『メガ・ベンチャーズ・イノベーション』（千倉書房）その他の資料については講義中に随時紹介する。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	80%	平常点	0%		
	出席および授業内課題			20%						0%
	課題やグループワークの結果は、採点基準の公表と優秀な記述内容の発表等をもって受講生にフィードバックを行う。									
授業計画	①イントロダクション：第四次産業革命									
	②マーケティングとイノベーション									
	③テーマ①「デジタル・イノベーションの移り変わり」：レクチャー、課題									
	④テーマ①「デジタル・イノベーションの移り変わり」：グループワーク									
	⑤テーマ①「デジタル・イノベーションの移り変わり」：発表、評価									
	⑥テーマ②「マーケティング・インサイトによる事例分析」：レクチャー、課題									
	⑦テーマ②「マーケティング・インサイトによる事例分析」：グループワーク									
	⑧テーマ②「マーケティング・インサイトによる事例分析」：発表、評価									
	⑨テーマ③「イノベーションのタイプを知る・考える」：レクチャー、課題									
	⑩テーマ③「イノベーションのタイプを知る・考える」：グループワーク									
	⑪テーマ③「イノベーションのタイプを知る・考える」：発表、評価									
	⑫テーマ④「三つのプレイヤーの存在」：レクチャー、課題									
	⑬テーマ④「三つのプレイヤーの存在」：グループワーク									
	⑭テーマ④「三つのプレイヤーの存在」：発表、評価									
	⑮まとめと総復習									

科目名		マーケティング情報論B								
英文科目名		Marketing Information Theory B								
担当者名		永井竜之介								
科目ナンバリング		MKTG212								
授業の概要と到達目標	マーケティング情報論では、マーケティングの「変化する側面」と「変化しない側面」に注目して、マーケティングの本質と実態について考察していく。秋学期のマーケティング情報論Bでは、ケース課題およびプレゼンテーションに取り組むグループワークと、世界のマーケティングのトレンドの学習を通じて、「マーケティングの実践」に挑戦することを目的とする。具体的には、世界のデジタル・イノベーションをリードする中国ベンチャーについて学び、それと比較する形で日本企業のマーケティングとイノベーションについて主体的に考えてもらう。マーケティング関連科目を履修していることが望ましい。計4回のプレゼンテーションのために、グループ毎での授業時間外学習が求められる。本講義は、商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。									
授業の方法	講義内容に基づき、学生同士でのグループワーク・プレゼンテーション・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を実施する。また、授業内でスマートフォンを用いたクリッカー（Google フォームでのプレゼンテーション評価）による双方向授業を複数回実施する。									
予習と復習	予習（90分）：テキストの予習。次回講義に関するビジネストピックスの情報収集。復習（90分）：講義資料・ノートの復習。講義で紹介した事例に関する情報収集。									
テキスト等	教科書：『マーケティングの鬼100則』（明日香出版社）参考書：永井竜之介・村元康『イノベーション・リニューアル』（千倉書房）その他の資料については講義中に随時紹介する。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	80%	平常点	0%		
	課題・グループワーク			20%						0%
	課題・グループワークの結果について、採点基準の公表と優秀な記述内容の発表等をもって受講生にフィードバックを行う。									
授業計画	①イントロダクション：日本と世界の現在地を知る									
	②テーマ①「デジタル・イノベーション最前線」：レクチャー、課題									
	③テーマ①「デジタル・イノベーション最前線」：発表、評価									
	④テーマ①「デジタル・イノベーション最前線」：講評、解説									
	⑤テーマ②「中国ベンチャーの革新性」：レクチャー、課題									
	⑥テーマ②「中国ベンチャーの革新性」：発表、評価									
	⑦テーマ②「中国ベンチャーの革新性」：講評、解説									
	⑧テーマ③「ベンチャーとイノベーションの関係」：レクチャー、課題									
	⑨テーマ③「ベンチャーとイノベーションの関係」：発表、評価									
	⑩テーマ③「ベンチャーとイノベーションの関係」：講評、解説									
	⑪テーマ④「日本のヒトと組織の課題解決」：レクチャー、課題									
	⑫テーマ④「日本のヒトと組織の課題解決」：発表、評価									
	⑬テーマ④「日本のヒトと組織の課題解決」：講評、解説									
	⑭日本企業のマーケティングのこれから									
	⑮総括									

科目名		サービスマーケティング論A							
英文科目名		Service Marketing A							
担当者名		竹内慶司							
科目ナンバリング		MKTG301							
授業の概要と到達目標	消費の多様化・個性化が叫ばれて久しいが最近の消費動向の変化は目まぐるしく、新たなサービス商品が次々と創り出されている。本講義では、基本的なマーケティング理論をベースにしながらも、サービス・マーケティングのフレーム・ワークを確認していく。サービス・マーケティングでは理論と実際の両面からのアプローチが求められる。そこで本講義においては、実際のサービス・ビジネスの現場の理解を深めるため、授業時間内に実務専門家を招聘し講演して頂く予定である（授業の後半に一回）。商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。								
授業の方法	②アクティブ・ラーニングの一環として、一部の授業回でプレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）を実施する。								
予習と復習	事前に参考書等の当該箇所をよく読んでに関する記事を読んで要点を整理しておくこと。講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。準備学修は予習（90分）復習（90分）。								
テキスト等	最初の講義時に参考書を紹介する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	小レポート			100%					0%
	授業時間内に数回小レポートの提出を求める。小レポートは返却しないが、次回の授業時に全般的な評価と所見を提示する。								
授業計画	①オリエンテーション								
	②サービス・マーケティングの研究領域								
	③モノとサービスの分類学的アプローチ								
	④モノとサービスの2分割論								
	⑤機能論的アプローチ								
	⑥サービス2分割論								
	⑦モノとサービスの一元化論（1）有用性について								
	⑧モノとサービスの一元化論（2）戦略性について								
	⑨統合体アプローチ（1）経験財と探索財								
	⑩統合体アプローチ（2）信頼財								
	⑪分子論的アプローチ								
	⑫効用論的アプローチ								
	⑬DHIアプローチ								
	⑭外部講師による講演								
	⑮まとめと復習								

科目名	サービスマーケティング論B								
英文科目名	Service Marketing B								
担当者名	竹内慶司								
科目ナンバリング	MKTG302								
授業の概要と到達目標	一般にサービス商品は、生産と同時に消費されることが多く、有形財を対象として構築されたマーケティング理論と合致しない側面もみられる。本講義では、基本的なマーケティング理論をベースにしながらも、サービス・マーケティングのフレーム・ワークを確認していく。また、サービス・マーケティングでは理論と実際の両面からのアプローチが求められる。そこで本講義においては、実際のサービス・ビジネスの現場の理解を深めるために、授業時間内に実務専門家を招聘し講演して頂く予定である（授業の後半に一回）。商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。								
授業の方法	②アクティブ・ラーニングの一環として、一部の授業回でプレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）を実施する。								
予習と復習	事前に参考書等の当該箇所をよく読んでに関する記事を読んで要点を整理しておくこと。講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。準備学修は予習（90分）復習（90分）。								
テキスト等	最初の講義時に参考書を紹介する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	小レポート		100%					0%	
	授業時間内に小レポートの提出を求める。小レポートは返却しないが、次回の授業時に全般的な評価と所見を提示する。								
授業計画	①オリエンテーション								
	②サービス・マーケティングのフレームワーク								
	③経済のサービス化（1）								
	④情報化とサービス社会								
	⑤高齢化とサービス社会								
	⑥国際化とサービス社会								
	⑦サービス商品の分類								
	⑧顧客価値の実現とサービス組織								
	⑨サービス・プロフィット・チェーン								
	⑩サービス・マーケティング・ミックス（1）商品・場所・販売促進・価格について								
	⑪サービス・マーケティング・ミックス（2）人材・物的環境要素・提供過程について								
	⑫サービス・マーケティングの事例研究（1）米国の宿泊施設の概要								
	⑬サービス・マーケティングの事例研究（2）日本の宿泊施設の概要								
	⑭外部講師による講演								
	⑮まとめと復習								

科目名		観光マーケティング論							
英文科目名		Tourism Marketing							
担当者名		嘉瀬英昭							
科目ナンバリング		MKTG305							
授業の概要と到達目標	観光ビジネスは、少子高齢化が進み様々な分野で需要が減少する中、新たな需要を生むことから国や地域、企業等で注目されている領域である。特に、近年は訪日外国人数の急増により市場が拡大し注目されている。一方、重要な課題としては、旅行者ニーズの多様化やインターネットの普及による販売・プロモーション方法の変化に対応しなければならないことが挙げられる。本講義では、観光に関連するビジネスについて、各業界の現状と課題を理解し、事例研究を通して観光需要を取り込むためのマーケティング戦略について理解することを目標とする。また、新型コロナウイルスにより、観光関連のビジネスがどのような影響を受けたかについても取り上げる。なお、本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である								
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークを実施する。								
予習と復習	予習(90分)授業で指定した書籍やインターネット等を閲覧しておくこと。復習(90分)授業時間内で配布した資料を十分に読んでおくこと。								
テキスト等	授業時にプリントを配布または配信する。主な参考書は、観光庁『観光白書』、日本交通公社『旅行年報』である。これらは全文ダウンロード可能である。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%	
	毎回の授業の課題			40%	0%				
	60%以上出席していない場合は単位を認めない。レポートや課題についてのフィードバックは返却せずに講義中に全般的所見を提示する。								
授業計画	①観光の定義と重要性について								
	②インバウンド概論								
	③日本の観光の歴史								
	④旅行業①旅行業界の収益構造と課題								
	⑤旅行業②事例研究とマーケティング戦略								
	⑥航空業①航空業界の収益構造と課題								
	⑦航空業②事例研究とマーケティング戦略								
	⑧運輸業(航空以外)①鉄道会社の観光事業戦略								
	⑨運輸業(航空以外)②クルーズ船事業について								
	⑩宿泊業①宿泊業界の収益構造と課題								
	⑪宿泊業②事例研究とマーケティング戦略								
	⑫日本政府の戦略								
	⑬集客交流施設①テーマパーク、水族館、動物園等の現状								
	⑭集客交流施設②事例研究(グループワーク)								
	⑮まとめと総復習								

科目名	地域ビジネス論							
英文科目名	Regional business							
担当者名	庄司真人							
科目ナンバリング	MKTG306							
授業の概要と到達目標	この授業は観光地域プログラムの一部として、地域ビジネスについてその理論と実践を取り上げる。地域ビジネスは、その必要性が捉えられながらも、個別事例が独立して進められており、統一的に行われているわけではない。さらに、そのアプローチは多種多様であり、総合的に取り上げる必要がある。そこで、ここではマーケティングやマネジメント、経済的観点から総合的に地域の課題について取り上げるものである。本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。また、外部講師を呼び、地域ビジネスに関して講演をしてもらうことを予定している。							
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークの実施と、スマートフォン等を用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を行う。							
予習と復習	<予習（90分）>各講義の最後に学習課題（予習課題）を指示するのでその内容についての所見を列記しておくこと。<復習（90分）>当日の講義内容を図表を中心にまとめておくこと。							
テキスト等	資料配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	80%	平常点	20%
				0%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							
授業計画	①地域の現状							
	②マーケティングの基礎							
	③サービスマネジメント							
	④非営利組織の経営とマーケティング							
	⑤授業内課題							
	⑥地域マーケティングの基礎							
	⑦地域ブランド概論							
	⑧地域ブランド研究							
	⑨地域経済							
	⑩地域とクラスター							
	⑪地域とサービス・エコシステム							
	⑫サービス・エコシステム：制度							
	⑬授業内ワーク							
	⑭授業内グループワーク							
	⑮総まとめ							

科目名		流通論A							
英文科目名		Distribution A							
担当者名		嘉瀬英昭							
科目ナンバリング		MKTG307							
授業の概要と到達目標	本講義は、わが国の第二次世界大戦後の流通史について理解を深めることを目標とする。わが国の流通機構は歴史的に、欧米先進国と比較して小売業の規模が小さく商店数が過多であり、また流通経路が多段階となっているのが特徴である。しかし、このような特徴は戦後様々な要因により大きな変化を遂げてきている。講義では、戦後の流通機構に変化をもたらした代表的な事象について順に論じる予定である。また、流通機構に大きな影響を及ぼした大規模小売店舗に対する規制についても議論する。流通論はA・Bを通じて、個々の企業の視点ではなく、流通機構全体を対象として論じていく。なお、本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。								
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、受講者が60名に満たない場合は授業内でプレゼンテーション（個人レポートの発表）を実施する。60名を超えた場合はグループワークを実施する。								
予習と復習	予習(90分)授業で指定した書籍やインターネット等を閲覧しておくこと。復習(90分)授業時間内で配布した資料を十分に読んでおくこと。								
テキスト等	授業時にプリントを配布または配信する。主な参考書は、満園勇著『日本流通史：小売業の近現代』（有斐閣）、中田伸哉・橋本雅隆編著『基本流通論』（実教出版株式会社）である。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%	
	毎回の授業の課題			40%	0%				
	60%以上出席していない場合は単位を認めない。レポートや課題についてのフィードバックは返却せずに講義中に全般的所見を提示する。								
授業計画	①戦後流通史概論								
	②統計に見る日本の流通の特徴								
	③百貨店の歴史								
	④百貨店の経営の特徴								
	⑤総合スーパーの歴史								
	⑥総合スーパーの経営の特徴								
	⑦メーカーのマーケティング活動と流通系列化								
	⑧コンビニエンスストアの歴史								
	⑨コンビニエンスストアの経営の特徴								
	⑩ドラッグストアチェーンの拡大								
	⑪専門店チェーンの誕生と発達								
	⑫大規模小売店舗に関わる規制								
	⑬小売業態発展理論								
	⑭レポート発表（またはグループワーク）								
	⑮まとめと総復習								

科目名	流通論B							
英文科目名	Distribution B							
担当者名	嘉瀬英昭							
科目ナンバリング	MKTG308							
授業の概要と到達目標	本講義は、わが国の流通政策について理解を深めることを目標とする。具体的には、市場における公平な競争を促進する政策、大規模小売店舗への調整と中小小売業への振興に関する政策、消費者を保護するための政策を中心に学ぶ。さらに、近年重要性が増してきている外国人観光客の消費について観光政策と合わせて論じてゆく。講義では企業の事例や地域で生じている問題点等をなるべく多く交えながら進行していく。講義を受講する前提として「経済学A・B」および「民法ⅠA・B」を履修しているのが望ましい。なお、本科目は商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成するための科目である。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、受講者が60名に満たない場合は授業内でプレゼンテーション（個人レポートの発表）を実施する。60名を超えた場合はグループワークを実施する。							
予習と復習	(予習)授業で指定した書籍やインターネット等を閲覧しておくこと。(復習)授業時間内で配布した資料を十分に読んでおくこと。							
テキスト等	授業時にプリントを配布または配信する。主な参考書は、岡野純司他著『流通政策の基礎』（五紘舎）、渡辺達郎著『流通政策入門第4版』（中央経済社）である。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%
	授業時間内の課題等			40%				
	60%以上出席していない場合は単位を認めない。レポートや課題についてのフィードバックは返却せずに講義中に全般的所見を提示する。							
授業計画	①流通政策概論							
	②競争を促進するための政策①ー独占禁止法についてー							
	③競争を促進するための政策②ー流通業と独占禁止法ー							
	④競争を促進するための政策③ーコンビニエンスストアに関する事例研究ー							
	⑤競争を促進するための政策④ー大手流通業者に関する事例研究ー							
	⑥消費者を保護するための政策①ー全体概要ー							
	⑦消費者を保護するための政策②ー消費者契約法についてー							
	⑧消費者を保護するための政策③ー景品表示法、割賦販売法等についてー							
	⑨調整政策と振興政策							
	⑩食品等の流通政策①ー食品、健康食品、医薬品の流通ー							
	⑪食品等の流通政策②ードラッグストア業界の現状と課題ー							
	⑫観光政策と流通業							
	⑬レポート発表（前半）							
	⑭レポート発表（後半）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	金融総論A							
英文科目名	Introduction to Monetary Economics A							
担当者名	楠美将彦, 内田稔							
科目ナンバリング	FIN101							
授業の概要と到達目標	商学部金融コースにて履修する各科目を理解するために必要な基礎知識の修得と前提となる日本経済、市場経済のメカニズムを学ぶ。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための基礎科目である。金融は資本主義社会において中核的な役割を果たしており、家計・企業・政府・海外部門のいずれの主体にとっても金融抜きには成り立たない。金融総論Aでは金融市場の全体像と金融機関について鳥瞰的に学習する。具体的には市場経済における資本市場の位置づけや、中央銀行による金融政策、銀行の果たす役割、証券会社、保険会社などの金融機関の役割、学国為替などの基礎的な金融用語を学び、日々報道される金融関連記事の内容を理解できるようにする。							
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブラーニングとして、授業内で、キーワード・内容に関する質疑応答やディスカッションを行うことがある。							
予習と復習	予習（90分）日本経済新聞などで金融に関する記事を読むか、各回のテーマに関するウェブサイト（動画を含む）を閲覧しておくこと。復習（90分）授業終了後、その日のうちに、要点をノートにまとめたり、復習しておくこと。							
テキスト等	テキストの指定はない。毎回、授業内容に関する資料を配付する。金融の基礎レベルの参考文献として、日本経済新聞出版社『金融入門〈第3版〉（日経文庫）』（2020/3）などがある。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	上記の比率で総合評価する。毎週の小課題が授業内試験に相当する。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】課題について、解説と所見を提示する。							
授業計画	①ガイダンス							
	②市場原理と市場の失敗、政府の役割							
	③資本市場 ～直接金融と間接金融、金利の決まり方～							
	④金融機関の種類							
	⑤株式と債券1 ～債券価格と債券利回り～							
	⑥株式と債券2 ～株式市場と株価の見方～							
	⑦銀行の役割1 ～3大業務と信用創造～							
	⑧銀行の役割2 ～貸出、審査～							
	⑨信託銀行と証券投資信託							
	⑩保険会社							
	⑪中央銀行の役割1 ～貨幣～							
	⑫中央銀行の役割2 ～金融政策～							
	⑬外国為替1 ～歴史～							
	⑭外国為替2 ～相場決定理論～							
	⑮まとめと復習							

科目名	金融総論B							
英文科目名	Introduction to Monetary Economics B							
担当者名	楠美将彦, 内田稔							
科目ナンバリング	FIN102							
授業の概要と到達目標	商学部金融コースにて履修する各科目を理解するために必要な基礎知識の修得と前提となる日本経済、市場経済のメカニズムを学ぶ。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための基礎科目である。金融総論Aで学んだ基礎知識とも関連付けながら、金融コースで学ぶ保険・金融工学・証券化などの概要を解説する。また、日本のバブル崩壊による金融危機やリーマンショックによる世界的な金融危機発生についても触れていく。このような内容について学習することで、新聞報道される金融に関するカレントな出来事について、その事象の本質的な意味が理解できるようにする。							
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブラーニングとして、授業内で、キーワード・内容に関する質疑応答やディスカッションを行うことがある。							
予習と復習	予習（90分）日本経済新聞などで金融に関する記事を読むか、各回の内容に関するウェブサイト（動画を含む）を閲覧しておくこと。復習（90分）授業終了後、その日のうちに、要点をノートにまとめたり、復習しておくこと。							
テキスト等	テキストの指定はない。毎回、授業内容に関する資料を配付する。金融の基礎レベルの参考文献として、日本経済新聞出版社『金融入門〈第3版〉（日経文庫）』（2020/3）などがある。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	上記の比率で総合評価する。毎週の小課題が授業内試験に相当する。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】課題について、解説と所見を提示する。							
授業計画	①ガイダンス							
	②株式会社 ～起業、上場、企業統治～							
	③企業買収							
	④デリバティブ1 ～先渡契約と先物取引～							
	⑤デリバティブ2 ～オプションとスワップ～							
	⑥中間まとめ							
	⑦金融バブルと不良債権の発生							
	⑧証券化とリーマンショック							
	⑨金融危機と異例な金融緩和策の採用							
	⑩暗号資産							
	⑪年金制度							
	⑫ポートフォリオ理論							
	⑬行動ファイナンス							
	⑭最近の金融経済状況							
	⑮まとめと総復習							

科目名	銀行論A							
英文科目名	Banking A							
担当者名	高田大安							
科目ナンバリング	FIN201							
授業の概要と到達目標	本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行、証券、保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。＜授業の概要＞銀行は資金循環における社会心臓の役割を果たしており、安定かつ継続的な機能の発揮が求められる特殊な産業といえる。そうした特色を理解するためには、銀行の基本的な仕組み・機能からはじめ法的規制にいたるまで多面的に学び、銀行の社会インフラとしての重要度を理解する必要がある。その中で、金融自由化進展による信託・証券・生保との業態間の垣根の低下、デリバティブの活用拡大、インターネット銀行・電子マネーの発展、金融危機のメカニズムなどに関する知識を深めることとする。＜到達目標＞新聞等で報道される銀行に関する内外の大きな記事について理解する力を養うことを目標とする。日本銀行、預金保険機構、地方銀行、独立行政法人（信用保証）の勤務経験を活かし、金融と政治、経済に関する関係を実例を踏まえて解説する。							
授業の方法	基本的に講義を中心に行うが、質疑応答は随時受け付ける。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、グループ・ディスカッションを適宜のタイミングで実施する。							
予習と復習	予習（90分）授業に先立って掲載される講義資料を精読し、疑問点についてまとめておくこと。復習（90分）当日の講義内容を配布資料とノートで復習する。理解不十分な箇所を明確にして、それを自分で調べてみる。							
テキスト等	[テキスト] 授業内容に関する資料を事前に配布する。[参考図書]『手にとるように銀行がわかる本』（株式会社地域経済研究所監修、かんき出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	[課題（試験やレポート）に対するフィードバック]講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							
授業計画	①日本の銀行史							
	②銀行の3大業務と3大機能							
	③部門別資金過不足（マネーフロー）							
	④日本銀行と銀行金利の関係							
	⑤決済システム							
	⑥貸出の審査							
	⑦貸出の管理							
	⑧有価証券運用と流動性の確保							
	⑨国際金融業務							
	⑩銀行業務のIT化							
	⑪金融ビッグバンと業務の多様化							
	⑫デリバティブを使ったヘッジと商品開発							
	⑬金融商品取引法と投資家保護							
	⑭自己資本比率規制							
	⑮金融バブルの歴史							

科目名	銀行論B							
英文科目名	Banking B							
担当者名	高田大安							
科目ナンバリング	FIN202							
授業の概要と到達目標	本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行、証券、保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。＜授業の概要＞銀行をひとつのビジネスとしてとらえ、経営・財務面から理解を深める。個別銀行の貸出機能の低下や破綻が増加すると、マクロ経済に悪影響を及ぼすことがあることを学ぶ。まず、銀行の資産負債管理、リスク管理手法を概観し、そのうえで、1990年代の日本のバブル崩壊とそれによる銀行の経営危機多発と金融危機の発生の過程をたどる。さらに、2008年のリーマンショックにおいて世界的な金融危機に主要国がどのように対処したかを学ぶ。＜到達目標＞新聞等で報道される銀行に関する内外の記事について理解する力を養うことを目標とする。日本銀行、預金保険機構、地方銀行、独立行政法人（信用保証）での体験を活かし、日本のバブル崩壊や金融危機の実相を解説する。							
授業の方法	基本的に講義を中心に行うが、随時に質疑応答を実施する。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、テーマによりグループ・ワークの機会を設ける。							
予習と復習	予習（90分）事前に配布される講義資料を精読し、疑問点についてまとめておくこと。復習（90分）当日の講義内容を配布資料とノートで復習する。理解不十分な箇所を明確にして、それを自分で調べてみることを目標とする。							
テキスト等	〔テキスト〕 授業内容に関する資料を配布する。〔参考図書〕『図説 わが国の銀行』（全国銀行協会金融調査部編、財経詳報社）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							
授業計画	①銀行の収益構造							
	②資産・負債管理（ALM）							
	③統合リスク管理							
	④信用リスク							
	⑤市場リスク							
	⑥オペレーショナルリスク							
	⑦ゼミ発表会聴講へ振替							
	⑧ディスクロージャー							
	⑨預金保険制度とペイオフ							
	⑩日本のバブル崩壊1～不良債権の発生							
	⑪日本のバブル崩壊2～異例の金融緩和政策導入							
	⑫サブプライムローン問題							
	⑬リーマンショック							
	⑭金融危機対応強化とバーゼル3導入							
	⑮最近の話題～地銀再編の動き							

科目名	証券論A								
英文科目名	Finance A								
担当者名	柴田舞								
科目ナンバリング	FIN203								
授業の概要と到達目標	本授業は証券市場について総合的な理解を得ることを目標とする。日本のみならず世界各国において、経済活動を円滑に進めるために金融市場は欠かせない存在である。金融の中でも本授業では証券市場に注目し、その仕組みや市場の役割などを学ぶ。なお、本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。								
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークを実施する。								
予習と復習	予習（90分）練習問題に取り組み、その解答を授業に持参すること。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	テキストは指定しない。授業内に、参考文献を紹介する。なお、プリントを配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	レポート、課題		100%					0%	
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】一部の課題について添削して返却し、評価を提示する。								
授業計画	①証券論概要								
	②直接金融と間接金融								
	③証券市場の機能								
	④証券市場の歴史								
	⑤現在価値と将来価値								
	⑥不確実性とリスク								
	⑦統計分析								
	⑧正規分布								
	⑨株式市場（市場の役割を中心に）								
	⑩株式市場（理論価格）								
	⑪債券市場（市場の役割を中心に）								
	⑫債券市場（イールドカーブ）								
	⑬マーケット・マイクロ・ストラクチャー								
	⑭価格変動の統計分析								
	⑮まとめと総復習								

科目名		証券論B							
英文科目名		Finance B							
担当者名		柴田舞							
科目ナンバリング		FIN204							
授業の概要と到達目標	本授業は、証券市場について学ぶ。中でもポートフォリオ理論を中心とした現代ファイナンス論を中心に学ぶ。なお、本授業の理解に必要な統計学の知識については復習しながら授業を進めていく予定である。なお、本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。								
授業の方法	講義を中心に行う。アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークを実施する。								
予習と復習	予習（90分）練習問題に取り組み、その解答を授業に持参すること。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	テキストは指定しない。授業内に、参考文献を紹介する。また、プリントを配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業内課題およびレポート			100%	0%				
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】一部の課題について添削して返却し、評価を提示する。								
授業計画	①証券論B概要								
	②経済における金融市場の役割								
	③リスクとリターン								
	④ポートフォリオのリスクとリターン								
	⑤平均分散アプローチ								
	⑥最適ポートフォリオ								
	⑦ベータリスク、マーケットモデル								
	⑧リスク・プレミアム								
	⑨CAPM								
	⑩シングル・ファクター・モデル								
	⑪効率的市場仮説								
	⑫マルチファクターモデル								
	⑬APT								
	⑭ポートフォリオのパフォーマンス評価								
	⑮まとめと総復習								

科目名	保険論A							
英文科目名	Insurance A							
担当者名	恩蔵三穂							
科目ナンバリング	FIN205							
授業の概要と到達目標	<授業の目標>本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。<授業の概要>日本の保険市場は、生・損保とも世界ランキング上位を占める大規模なものである。戦後、我が国の保険市場は閉鎖的であると指摘されてきたが、1996年の保険業法の大改正後、保険の自由化が推進されている。本講義では、まず保険の意義、仕組み等の基礎知識を習得するとともに、保険市場がどのような役割を担っているのかについて解説する（外部講師を招聘する場合あり）。							
授業の方法	この授業では、主として講義を行い、積極的な発言や質問を推奨する。また、自立的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、小テストやレポート等に取り組んでもらう（小テストやレポート等は一定水準を満たさない場合、評価対象外）。							
予習と復習	予習（90分）授業計画に基づき次回の講義に該当する記事などを読み、関心を高めておくこと。復習（90分）授業で出された課題への取り組み、および当日の授業内容を再度チェックして各自でまとめること。							
テキスト等	適宜、参考書を指示する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	小テストや課題等		70%		学期末点（レポートあるいはテスト）			30%
	【課題（試験やレポート）に対するフィードバック】授業中に行う小テスト等 については、適宜、解答を提示する（一定水準以下のものは、評価対象外）。							
授業計画	①イントロダクション							
	②保険の意義と役割							
	③日本の保険市場							
	④保険の分類：法律に基づく分類など							
	⑤保険の分類：経営主体による分類など							
	⑥保険料の構成：純保険料と付加保険料							
	⑦保険料の算定方法：収支相等の原則							
	⑧保険料の算定方法：給付・反対給付均等の原則							
	⑨保険契約の要素：当事者など							
	⑩保険契約の要素：その他							
	⑪保険に関する法律：保険業法							
	⑫保険に関する法律：保険法など							
	⑬保険業界と隣接業界							
	⑭最近の保険の動向							
	⑮まとめと総復習							

科目名	保険論B							
英文科目名	Insurance B							
担当者名	恩蔵三穂							
科目ナンバリング	FIN206							
授業の概要と到達目標	<授業の目標>本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。<授業の概要>私たちの生活は、交通事故、火災、地震、病気、ケガなど様々なリスクにさらされている。これらの危険から私たちの生活を守るために、保険は欠くことのできない存在となっている。本講義では、火災保険（地震保険も含む）、自動車保険、生命保険、そして第三分野の保険（傷害保険、疾病保険、介護保険）といった各種保険の意義と役割について解説する。また、保険業をめぐる最近の動向についても適宜触れる予定である（外部講師を招聘する場合あり）。							
授業の方法	この授業では、主として講義を行い、積極的な発言や質問を推奨する。また、自立的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、小テストやレポート等に取り組んでもらう（小テストやレポート等は一定水準を満たさない場合、評価対象外）。							
予習と復習	予習（90分）授業計画に基づき次回の講義に該当する記事などを読み、関心を高めておくこと。復習（90分）授業で出された課題への取り組み、および当日の授業内容を再度チェックして各自でまとめること。							
テキスト等	適宜、参考書を指示する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	通常点（授業毎の小テストや課題等）			70%	学期末点（レポートあるいはテスト）			30%
	【小テストや課題等に対するフィードバック】通常授業時における小テストや課題等については、適宜、解答を提示する（一定水準以下のものは、評価対象外）。							
授業計画	①イントロダクション							
	②私たちを取り巻くリスクと保険							
	③火災保険の意義と役割							
	④火災保険の種類							
	⑤地震保険の意義と役割							
	⑥自動車保険の意義と役割：自賠責保険							
	⑦自動車保険の意義と役割：任意の自動車保険							
	⑧生命保険の意義と役割							
	⑨生命保険料の仕組み							
	⑩生命保険の種類							
	⑪第三分野の保険の種類							
	⑫民間保険の位置付け							
	⑬保険業における近年の動向							
	⑭保険業における今後の課題							
	⑮まとめと復習							

科目名		マクロ経済学A							
英文科目名		Macro Economics A							
担当者名		阿部一知							
科目ナンバリング		ECON201							
授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できること」を達成するための科目である。「マクロ経済学」は「所得理論」を基に、家計、企業、政府、海外部門の各需要の決定要因を示し、経済構造の変化を解き明かすものです。講義の目標は、各自が自分の力でマクロ経済の理論を活用して現状の認識、そして先行きの姿を描ける能力を植え付けることです。講義は、世界におけるグローバル化、そして反グローバル化、保護主義の流れが顕在化する中で、人口減少、少子高齢社会が予想以上に加速する日本経済を中心に行い、現実の経済変化を理論で裏付けていくことで、「マクロ経済学」をより身近なものとして理解、そして活用できる素地を各自が構築できることを目指します。世の中の変化を常に頭に置きながら「マクロ経済学」の分析フレームワークを身に付けて頂きたいと思います。春学期のマクロ経済学Aは、国民所得、乗数理論、財政政策、インフレと失業を取り扱います。								
授業の方法	授業はテキストを基本に行う。通常の講義に加え、後半5回程度の授業では、「アクティブ・ラーニング」を実施する。すなわち、前回講義で提示した小テスト・出席確認課題を解説した上で、関連する経済データを用いて、その理解を確認する。その後に通常の講義を行う。								
予習と復習	予習（90分）教科書の次の講義に該当する箇所を精読すること。復習（90分）当日の講義内容を再度、教科書と配布関連資料で復習し、小テスト・出席確認課題に回答する。								
テキスト等	テキスト：「経済学入門 マクロ編」ティモシーテイラー著 かんき出版								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%	
	遠隔でのテスト			60%					0%
授業計画	期末に遠隔で試験を実施します。授業内試験は、GoogleClassroomに掲示した小テストで実施します（小テストは5回行い、1回8点計40点で採点。小テストの回答は次回授業で解説）。								
	①ガイダンス								
	②マクロ経済政策の目標、GDP（1）導入								
	③GDP（2）三面等価、物価指数								
	④短期マクロモデル（1）導入								
	⑤短期マクロモデル（2）GDPの決定、経済成長（1）成長の定義								
	⑥経済成長（2）成長の意義								
	⑦失業率(1) 定義								
	⑧失業率(2) 発生の原因								
	⑨インフレと失業率(1) インフレとデフレ、フィリップ曲線								
	⑩インフレと失業率(2) インフレの弊害								
	⑪マクロモデル再掲(1) 総需要モデル								
	⑫マクロモデル再掲(2) 経済対策、乗数効果								
	⑬マクロモデル再掲(3) 実際の過程								
	⑭日本経済へのインプリケーション								
⑮まとめと総復習									

科目名		マクロ経済学B								
英文科目名		Macro Economics B								
担当者名		阿部一知								
科目ナンバリング		ECON202								
授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できること」を達成するための科目である。「マクロ経済学」は「所得理論」を基に、家計、企業、政府、海外部門の各需要の決定要因を示し、経済構造の変化を解き明かすものです。講義の目標は、各自が自分の力でマクロ経済の理論を活用して現状の認識、そして先行きの姿を描ける能力を植え付けることです。講義は、世界におけるグローバル化、そして反グローバル化、保護主義の流れが顕在化する中で、人口減少、少子高齢社会が予想以上に加速する日本経済を中心に行い、現実の経済変化を理論で裏付けていくことで、「マクロ経済学」をより身近なものとして理解、そして活用できる素地を各自が構築できることを目指します。世の中の変化を常に頭に置きながら「マクロ経済学」の分析フレームワークを身に付けて頂きたいと思います。秋学期のマクロ経済学Bは、金融政策から為替相場・国際金融危機までを取り扱います。									
授業の方法	授業はテキストを基本に行う。通常の講義に加え、後半5回程度の授業では、「アクティブ・ラーニング」を実施する。すなわち、前回講義で提示した小テスト・出席確認課題を解説した上で、関連する経済データを用いて、その理解を確認する。その後に通常の講義を行う									
予習と復習	予習（90分）教科書の次回の講義に該当する箇所を精読すること。復習（90分）当日の講義内容を再度、教科書と配布関連資料で復習し、小テスト・出席確認課題に回答する。									
テキスト等	テキスト：「経済学入門 マクロ編」ティモシーテイラー著 かんき出版									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%		
	遠隔によるテスト			60%					0%	
期末に遠隔で試験を実施します。授業内試験は、GoogleClassroomに掲示した小テストで実施します（小テストは5回行い、1回8点計40点で採点。小テストの回答は次回授業で解説）。										
授業計画	①ガイダンス									
	②景気対策（財政政策）マクロ経済学Aの復習									
	③貨幣とは（定義）									
	④市中銀行の信用創造機能									
	⑤中央銀行の役割									
	⑥中央銀行の貨幣量操作（1）（預金準備率）									
	⑦中央銀行の貨幣量操作（2）（公開市場操作）									
	⑧金融政策の内容									
	⑨金融政策の実践									
	⑩自由貿易の歴史と体制									
	⑪自由貿易の効果									
	⑫保護貿易の帰結									
	⑬為替相場									
	⑭国際金融危機									
	⑮まとめと総復習									

科目名		ミクロ経済学A								
英文科目名		Micro Economics A								
担当者名		阿部一知								
科目ナンバリング		ECON203								
授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できること」を達成するための科目である。家計や企業などの経済主体の行動を分析することにより、経済全体のメカニズムを明らかにしようとするのが「ミクロ経済学」です。本科目では、ミクロ経済学の基礎を中心に授業します。授業は、市場の理論と家計（需要）と企業（供給）の理論についてです。今後、進捗状況をみながら、授業計画の一部を変更することがあります。									
授業の方法	授業はテキストを基本に行う。通常の講義に加え、後半5回程度の授業では、「アクティブ・ラーニング」を実施する。すなわち、前回講義で提示した小テスト・出席確認課題を解説した上で、関連する経済データを用いて、その理解を確認する。その後に通常の講義を行う。									
予習と復習	予習（90分）教科書の次の講義に該当する箇所を精読すること。復習（90分）当日の講義内容を再度、教科書と配布関連資料で復習し、小テスト・出席確認課題に回答する。									
テキスト等	「経済学入門 ミクロ編」ティモシーテイラー著、かんき出版									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%		
	遠隔でのテスト			60%						0%
	期末に遠隔で試験を実施します（60点）。授業内試験は、GoogleClassroomに掲示した小テストで実施します（小テストは5回行い、1回8点計40点で採点。小テストの回答は次回授業で解説）。									
授業計画	①ガイダンス									
	②ミクロ経済学の考え方									
	③分業の意義									
	④需要の意義									
	⑤供給の意義									
	⑥市場における均衡：完全競争モデル									
	⑦供給・需要曲線のシフト（1）（均衡点の移動）									
	⑧供給・需要曲線のシフト（2）（曲線が同時に動いた場合）									
	⑨価格統制（1）（家賃の規制など物価統制）									
	⑩価格統制（2）（最低賃金）									
	⑪価格弾力性の定義									
	⑫価格弾力性と価格変動の関係									
	⑬間接税の効果									
	⑭市場競争の意義									
	⑮まとめと振り返り									

科目名		ミクロ経済学B							
英文科目名		Micro Economics B							
担当者名		阿部一知							
科目ナンバリング		ECON204							
授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できること」を達成するための科目である。 家計や企業などの経済主体の行動を分析することにより、経済全体のメカニズムを明らかにしようとするのが「ミクロ経済学」です。本科目 では、ミクロ経済学の基礎を中心に授業します。授業は、労働市場、資本市場、独占の理論、規制緩和などについてです。今後、進捗状況をみながら、講義計画の一部を変更することがあります。								
授業の方法	授業はテキストを基本に行う。通常の講義に加え、後半5回程度の授業では、「アクティブ・ラーニング」を実施する。すなわち、前回講義で提示した小テスト・出席確認課題を解説した上で、関連する経済データを用いて、その理解を確認する。その後に通常の講義を行う。								
予習と復習	予習（90分）教科書の次の講義に該当する箇所を精読すること。復習（90分）当日の講義内容を再度、教科書と配布関連資料で復習し、小テスト・出席確認課題に回答する。								
テキスト等	「経済学入門 ミクロ編」ティモシーテイラー著、かんき出版								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%	
	遠隔によるテスト			60%					0%
	期末に遠隔で試験を実施します（60点）。授業内試験は、GoogleClassroomに掲示した小テストで実施します（小テストは5回行い、1回8点計40点で採点。小テストの回答は次回授業で解説）。								
授業計画	①ガイダンス								
	②需要と供給の均衡（ミクロ経済学Aの復習）								
	③財市場と労働市場の対比								
	④労働市場の特質と労働政策								
	⑤資本市場								
	⑥個人投資								
	⑦不完全競争の導入								
	⑧独占市場のモデル（なぜ日本のブランド製品は高いか）								
	⑨寡占、独占的競争								
	⑩独占禁止法と各種規制法								
	⑪規制と規制緩和								
	⑫負の外部性（公害など）								
	⑬公共財								
	⑭授業内試験と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	国際金融論A							
英文科目名	International Finance A							
担当者名	内田 稔							
科目ナンバリング	FIN207							
授業の概要と到達目標	本講は、金融コース専門科目の中の選択必修科目（必要単位24単位以上）の一つであり、ディプロマポリシーの「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を目指すものである。本講では、国際金融論を「自分ごと」としてとらえた上で、円高や円安による日本経済へのマクロ的な影響や企業、家計（個人）といった各経済主体へのミクロ的な影響を学ぶ。また、これらを理解する上で重要な国際収支統計の仕組みや外国為替相場に関する基本的な理論も学ぶ。本講は金融機関で外国為替の分析や調査業務（アナリスト）の経験を積んだ実務家教員によるものである。この為、講義を通じて常に現実のマーケットにも着目しつつ、各種メディアからタイムリーな記事や専門家の分析なども採り上げて指導する。これらを通じ、金融の担い手として実社会に出てからも役立つ実践的な知識を学ぶ。							
授業の方法	講義を中心に行う。また、アクティブラーニングとして、キーワードに関するディスカッションや質疑応答の時間を設ける。							
予習と復習	予習（90分）・・・金融市場に関する新聞記事をよく読むこと。また、常にドル円、日経平均株価の水準を把握しておくこと。復習（90分）・・・当日中（遅くとも翌日まで）に、講義で学んだことをノートに記すこと。不明点は自分で調べるか質問すること。							
テキスト等	特定のテキストを用いずに毎回レジュメによる講義を行う。また、経済ニュース番組やタイムリーな新聞記事も適宜、紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	毎回、授業の後に簡単な課題を出す。翌週の授業の始めに答え合わせと全体的な所見を示す（授業内試験に相当）。また、講義への質問も受け付け、翌週の授業の始めに回答する。							
授業計画	①ガイダンス							
	②外国為替市場とは？							
	③円高、円安の意味と日本経済への影響							
	④基軸通貨ドルの役割と条件							
	⑤単一通貨ユーロ発足の背景							
	⑥人民元の国際化と中国の狙い							
	⑦新興国通貨の特徴とリスク							
	⑧為替相場の決定理論(1)国際収支①							
	⑨為替相場の決定理論(1)国際収支②							
	⑩為替相場の決定理論(2)金利差							
	⑪為替相場の決定理論(3)購買力平価説							
	⑫為替相場の決定理論と現実							
	⑬他市場（株・国際商品）と為替相場の関係							
	⑭暗号資産の仕組み							
	⑮まとめと総復習							

科目名	国際金融論B								
英文科目名	International Finance B								
担当者名	内田 稔								
科目ナンバリング	FIN208								
授業の概要と到達目標	本講は、金融コース専門科目の中の選択必修科目（必要単位24単位以上）の一つであり、ディプロマポリシーの「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を目指す。本講では、広範囲に及ぶ現実の国際金融に立脚した事象を、主に外国為替市場を切り口として、その背景や理論とともに学ぶ。国際金融論Aから継続して履修することが望ましい。尚、本講は金融機関でアナリスト経験を積んだ実務家教員によるものであり、国際金融論Aと同様、金融の担い手として実社会に出てからも役立つ実践的な知識を学ぶ。本講では、経済専門誌（紙）や経済番組の報道内容、専門家の分析に関し、独力で理解する力を養うことを目指す。								
授業の方法	講義を中心に行う。また、アクティブラーニングとして、キーワードに関するディスカッションや質疑応答の時間を設ける。								
予習と復習	予習（90分）・・・金融市場に関する新聞記事をよく読むこと。また、常にドル円、日経平均株価の水準を把握しておくこと。復習（90分）・・・当日中（遅くとも翌日まで）に、講義で学んだことをノートに記すこと。不明点は自分で調べるか質問すること。								
テキスト等	特定のテキストを用いずに毎回レジュメによる講義を行う。また、経済ニュース番組やタイムリーな新聞記事も適宜、紹介する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%	
				0%					0%
	毎回、授業後に簡単な課題を出し、翌週の授業の始めに答え合わせと全体的な所見を示す（授業内試験に相当）。また、講義への質問も受け付け、翌週の授業の始めに回答する。								
授業計画	①ガイダンス								
	②為替相場の決定理論の復習								
	③政府や中央銀行の政策と為替相場の関係								
	④通貨危機の歴史①硬直的な為替相場制度								
	⑤通貨危機の歴史②財政悪化								
	⑥中間まとめ								
	⑦日本の財政と円相場								
	⑧円相場の歴史(1)変動相場制移行後～1995年								
	⑨円相場の歴史(2)秩序あるドルの反転と未曾有の円高								
	⑩円相場の歴史(3)異次元緩和後の円相場								
	⑪企業が直面する為替リスクとヘッジ手法								
	⑫投資家からみた外貨建投資のメリットとリスク								
	⑬市場や相場情報の取り方と相場予測の実務								
	⑭足もとの為替相場の動向と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	ファイナンシャルプランニング論A							
英文科目名	Financial Planning A							
担当者名	井上智紀							
科目ナンバリング	FIN209							
授業の概要と到達目標	本講義は、商学部のディプロマ・ポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を達成するための科目である。ファイナンシャルプランニングは、家計における現在および将来の支出と収入、資産や負債の状況についての分析を通じて、将来にわたる豊かな生活や夢の実現を支援するものです。本講義では、人口・世帯構造の変化および生活者の金融選択行動に関する研究経験を活かし、生活者の生活設計と金融選択の状況および金融・保険商品選択上の留意点を中心に座学による解説を加えるとともに、学生自身で演習に取り組んでいただくことを通じて以下の4点を到達目標とします。①日常生活に関わる様々な「お金」についての知識を身につけ、説明できる②ファイナンシャルプランニングの基礎知識について理解を深める③家計収支の問題点を見出す上でのポイントについて説明できる④資産運用や管理の基礎知識を身につけ、金融商品の選択についてアドバイスできる							
授業の方法	毎回講義終了時または開始時に課題および参考情報を提示し、講義時間および次回講義までの期間に取り組むPBL（課題解決型学習）方式にて行います（アクティブ・ラーニング）。							
予習と復習	予習（90分）講義内容について確認し、必要に応じてWeb検索などを通じて自分なりに調べておくこと。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。							
テキスト等	・教科書：毎回の講義に合わせて事前または当日にレジュメを配布する。・参考書：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編『ファイナンシャル・プランニング入門 -for Students-』							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	65%	レポート	35%	平常点	0%
				0%				0%
	理解の程度を測るための小テスト（2回程度の予定）および最終レポートにより評価します。							
授業計画	①ガイダンス／ファイナンシャルプランニングとは							
	②金融商品・資産運用に関する基礎知識							
	③金融・経済環境に関する基礎知識							
	④ライフプランニング：結婚資金設計							
	⑤ライフプランニング：教育資金設計							
	⑥ライフプランニング：住宅資金設計							
	⑦社会保険制度：医療・介護保険							
	⑧社会保険制度：公的年金制度の仕組み							
	⑨社会保険制度：公的年金制度の負担と給付							
	⑩企業保障制度							
	⑪私的な保障手段：各種の金融商品と税制優遇制度							
	⑫私的な保障手段：損害保険							
	⑬私的な保障手段：生命保険と医療保険							
	⑭私的な保障手段：個人年金保険							
	⑮まとめと復習							

科目名		ファイナンシャルプランニング論B							
英文科目名		Financial Planning B							
担当者名		井上智紀							
科目ナンバリング		FIN210							
授業の概要と到達目標	本講義は、商学部のディプロマ・ポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を達成するための科目である。現代では家族のあり方の多様化が進んでいます。一方で、高齢化の進展は相続や企業経営者における事業承継を難しくする側面もあるようです。ファイナンシャルプランニングにおいては、こうした多様な家族のあり方を前提としつつ、当人の夢や希望を正しくくみ取りプランに反映していくことが求められます。本講義では、「ファイナンシャルプランニングA」の内容を前提としつつ、人口・世帯構造の変化や生活者の金融選択行動に関する研究経験を活かし、社会の変化を踏まえた生活者の生活設計と金融商品選択上の課題を中心に座学による解説および演習を通じて以下の3点を到達目標とします。①家族のあり方の多様化の状況および税・社会保障など家計に関わる諸制度について理解を深める②計画的な資産形成の重要性と資産形成の手段について理解を深める③相続や事業承継の仕組みについて理解し、プランニング上の留意点について説明できる								
授業の方法	毎回講義終了時または開始時に課題および参考情報を提示し、講義時間および次回講義までの期間に取り組むPBL（課題解決型学習）方式にて行います（アクティブ・ラーニング）。								
予習と復習	予習（90分） 前回講義時に指示する内容について確認し、講義時に報告できるようレポートとしてまとめておくこと（要提出）。復習（90分） 講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	・教科書：毎回の講義に合わせて事前または当日にレジュメを配布する。・参考書：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編『ファイナンシャル・プランニング入門 -for Students-』								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	65%	レポート	35%	平常点	0%	
				0%				0%	
	理解の程度を測るための小テスト（2回程度の予定）および最終レポートにより評価します。								
授業計画	①ガイダンス／ファイナンシャルプランニングとは								
	②ライフコースの多様化がもたらす家族の多様性								
	③多様な家族のあり方とライフプランニング								
	④多様なライフコースのライフプランニング：生涯未婚								
	⑤多様なライフコースのライフプランニング：DINKS								
	⑥多様なライフコースのライフプランニング：その他のライフコースにおける留意点								
	⑦多様なライフコースのライフプランニング：金融・保険商品選択上の留意点								
	⑧ライフプランニングと税制・社会保障制度								
	⑨高齢化の進展と相続の実態								
	⑩相続に関わる諸制度								
	⑪相続を想定したライフプランニング：相続税の計算								
	⑫相続を想定したライフプランニング：不動産相続								
	⑬事業承継を想定したライフプランニング：事業承継時の留意点								
	⑭事業承継を想定したライフプランニング：事業承継のプランニング								
	⑮まとめと復習								

科目名		金融工学A						
英文科目名		Financial Technology A						
担当者名		楠美将彦						
科目ナンバリング		FIN301						
授業の概要と到達目標	この授業では、株価が理論的にいくらになるかを学習する。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。その骨子は、ポートフォリオ理論として知られているものである。自分で資産を管理しなくてはならない現在、金融商品を正しく理解し、評価することは必要不可欠なこととなってきた。株価予想が完全にできないなかで、理論株価を知ることは重要である。また、株式を複数保有する効果についても紹介していく。説明の際、数学的表現は最小限に留め、理論の核となる部分を中心に進めていく。金融総論A/Bなどの金融の基礎科目を履修していることが望ましい。							
授業の方法	講義内容に沿ったレジュメ資料を配付する。講義はレジュメに沿って説明を進める。演習問題などを利用して、アクティブラーニングの形式で受講生に質疑応答をする。							
予習と復習	予習(90分)として、該当箇所のレジュメを見て基本的なキーワードを確認してくる。復習(90分)として、授業内容の確認と演習問題の振り返りをして、課題を提出する。							
テキスト等	授業時に講義資料を配付する。テキストはなく、参考文献として、大村敬一・楠美将彦『ファイナンスの基礎』（金融財政事業研究会）、大村敬一『ファイナンス論 ー入門から応用まで 』（有斐閣ブックス）などがある。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	毎週の小課題（70％）、中間レポート1回（15％）、期末レポート1回（15％）【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							
授業計画	①ガイダンス							
	②簡単な枠組みでの株式の評価							
	③簡単な枠組みでの債券の評価							
	④株式の期待リターン							
	⑤株式のリスク							
	⑥複数の株式のリスク							
	⑦投資家のリスク選好							
	⑧ポートフォリオとリスク分散効果							
	⑨株式の選択							
	⑩株式市場のリスク							
	⑪分離定理							
	⑫株式価格の決定							
	⑬CAPMの利用							
	⑭投資パフォーマンス							
	⑮まとめと総復習							

科目名		金融工学B						
英文科目名		Financial Technology B						
担当者名		楠美将彦						
科目ナンバリング		FIN302						
授業の概要と到達目標	この授業では、先物・オプションなどのデリバティブ商品の価格が理論的にどのように求められるかを学習する。また、企業の資金調達に使われる負債と株式の評価についても触れていく。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。デリバティブは保険商品をはじめとして多くの金融機関の商品に組み込まれるようになってきた。デリバティブの特徴は何か、どのように利用できるのか、その価格はいくらになるのか、といった疑問に答えていく。また、企業の資本構成の決定についても説明する。資金調達手段である株式と負債の評価も紹介する。説明の際、数学的表現は最小限に留め、理論の核となる部分を中心に進めていく。講義内容に沿ったレジュメ資料を配付する。金融総論A/Bなどの金融の基礎科目を履修していることが望ましい。							
授業の方法	講義内容に沿ったレジュメ資料を配付する。講義はレジュメに沿って説明を進める。演習問題などを利用して、アクティブラーニングの形式で受講生に対して質疑応答をする。							
予習と復習	予習(90分)として、該当箇所のレジュメを見て基本事項を確認してくる。復習(90分)として、授業内容の確認と演習問題の振り返りをして、課題を提出する							
テキスト等	授業時に講義資料を配付する。テキストはなく、参考文献として、大村敬一・楠美将彦『ファイナンスの基礎』（金融財政事業研究会）、大村敬一『ファイナンス論 ー入門から応用まで 』（有斐閣ブックス）などがある。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	毎週の小課題（70％）、中間レポート1回（15％）、期末レポート1回（15％）【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							
授業計画	①ガイダンス							
	②デリバティブ							
	③先物と先渡し							
	④スワップ							
	⑤オプションと投資戦略							
	⑥オプションプレミアムの決定要因							
	⑦オプションの本質価値と時間価値							
	⑧簡単なオプションモデル：2項モデル							
	⑨ブラック＝ショールズ＝マートン・モデル							
	⑩株価の変動（確率過程）							
	⑪MMの第1命題							
	⑫MMの第2命題							
	⑬MMモデルの拡張							
	⑭エージェンシーコスト仮説							
	⑮まとめと総復習							

科目名		金融論A						
英文科目名		Monetary Economics A						
担当者名		楠美将彦						
科目ナンバリング		FIN303						
授業の概要と到達目標	この講義では、金融総論などの必修科目で覚えた金融知識をベースに、様々な金融の問題や事象に対して、理論的な検討を行っていく。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。単にその問題がどのようなことを示しているのかを知るだけではなく、その問題が起きた理由、行われている対策や解決方法についても考えていく。最終的に、金融市場の役割、資産選択、企業の資金調達、金融政策の実際などの説明ができることを目指す。この授業では、講義内容に沿ったレジュメ資料を配付し、なるべく平易な説明を行う。金融総論A／Bなどの金融の基礎科目を履修していることが望ましい。							
授業の方法	講義内容に沿ったレジュメ資料を配付する。講義は教科書とレジュメに沿って説明を進める。小課題などを利用して、アクティブラーニングの形式で受講生に対して質疑応答をする。							
予習と復習	予習(90分)として、該当箇所の教科書とレジュメを見て基本事項を確認してくる。復習(90分)として、授業内容の確認とキータムの振り返りをして、課題を提出する							
テキスト等	テキストとして、福田慎一『金融論- 市場と経済政策の有効性〔新版〕』（有斐閣）を利用する。参考文献として、晝間文彦『基礎コース 金融論』（新世社）がある。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	毎週の小課題（70％）、中間レポート1回（15％）、期末レポート1回（15％）【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							
授業計画	①ガイダンス							
	②金融の役割1 資金フロー							
	③金融の役割2 銀行の情報生産							
	④貯蓄と危険回避的行動1 家計の貯蓄行動							
	⑤貯蓄と危険回避的行動2 期待効用仮説							
	⑥最適な資産選択							
	⑦資産価格と資産選択							
	⑧企業の資金調達1 企業の設備投資							
	⑨企業の資金調達2 情報の非対称性と信用割り当て							
	⑩資金調達の決定							
	⑪金融危機と銀行行動1 不良債権							
	⑫金融危機と銀行行動2 貸し渋り							
	⑬クレジットクランチ							
	⑭過剰債務問題と追い貸し							
	⑮まとめと総復習							

科目名	金融論B							
英文科目名	Monetary Economics B							
担当者名	楠美将彦							
科目ナンバリング	FIN304							
授業の概要と到達目標	この講義では、金融総論などの必修科目で覚えた金融知識をベースに、様々な金融の問題や事象に対して、理論的検討を学んでいく。本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。単にその問題がどのようなことを示しているのかを知るだけではなく、その問題が起きた理由、行われている対策や解決方法についても考えていく。最終的に、金融危機、金融政策、金融市場、インフレ・デフレなどの説明ができることを目指す。この授業では、講義内容に沿ったレジュメ資料を配付し、なるべく平易な説明を行う。また、毎週、金融関連の新聞記事を紹介することで、理論と現実のつながりを実感してもらう。金融総論A/Bなどの金融の基礎科目を履修していることが望ましい。							
授業の方法	講義内容に沿ったレジュメ資料を配付する。講義は教科書とレジュメに沿って説明を進める。小課題などを利用して、アクティブラーニングの形式で受講生に対して質疑応答をする。							
予習と復習	予習(90分)として、該当箇所の教科書とレジュメを見て基本事項を確認してくる。復習(90分)として、授業内容の確認とキータームの振り返りをして、課題を提出する							
テキスト等	テキストとして、福田慎一『金融論-市場と経済政策の有効性[新版]』（有斐閣）を利用する。参考文献として、晝間文彦『基礎コース 金融論』（新世社）がある。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	毎週の小課題（70％）、中間レポート1回（15％）、期末レポート1回（15％）【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。							
授業計画	①ガイダンス							
	②短期金融市場 1 コール市場							
	③短期金融市場 2 信用創造とシステミックリスク							
	④貨幣の理論 1 貨幣の機能							
	⑤貨幣の理論 2 貨幣需要							
	⑥日本銀行と金融政策 1 日本銀行の目的							
	⑦日本銀行と金融政策 2 信用創造							
	⑧伝統的経済政策とその有効性 1 乗数理論と予算制約							
	⑨伝統的経済政策とその有効性 2 IS-LM分析							
	⑩インフレとデフレ 1 インフレ							
	⑪インフレとデフレ 2 デフレ							
	⑫非伝統的な金融政策 1 ゼロ金利下の金融政策							
	⑬非伝統的な金融政策 2 わが国の非伝統的な金融政策							
	⑭インフレ下での経済政策							
	⑮まとめと総復習							

科目名		財政学A							
英文科目名		Public Finance A							
担当者名		山田直夫							
科目ナンバリング		FIN305							
授業の概要と到達目標	本科目では財政学の内容のうち、財政の機能、予算、公共支出、社会保障、地方財政等について講義する。学生は、政府の経済活動である財政の役割及びそれを支える経済理論、現代財政の問題点等を理解することができる。ミクロ経済学とマクロ経済学を事前に履修していると講義内容が理解しやすくなる。商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる人材」、「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を養成するための科目である。								
授業の方法	授業は講義形式で行う。アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回で反転学習を実施する。								
予習と復習	予習（90分）：事前に指定範囲の教科書を精読すること。復習（90分）：その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	教科書：栗林隆・江波戸順史・山田直夫・原田誠編著『財政学 第6版』創成社（2023年4月刊行予定）参考書：篠原正博・大澤俊一・山下耕治編著『テキストブック 地方財政 第3版』創成社（2023年5月刊行予定）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	30%	平常点	0%	
				0%	0%				
授業内試験、レポートについては、授業内で全般的な評価と所見を提示する。									
授業計画	①ガイダンス：財政学とは何か								
	②財政の機能（市場の失敗、資源配分）								
	③財政の機能（所得再分配、経済安定化）								
	④予算（予算の種類）								
	⑤予算（予算原則）								
	⑥公共支出（公共支出に関する学説）								
	⑦公共支出（わが国の公共支出）								
	⑧社会保障（年金）								
	⑨社会保障（医療、介護）								
	⑩租税の基礎概念								
	⑪わが国の税制								
	⑫地方財政（歳出）								
	⑬地方財政（歳入）								
	⑭授業内試験								
	⑮まとめと総復習								

科目名		財政学B							
英文科目名		Public Finance B							
担当者名		山田直夫							
科目ナンバリング		FIN306							
授業の概要と到達目標	本科目では財政学の内容のうち、租税と公債について講義する。学生は、租税や公債の役割及びそれを支える経済理論、わが国の租税や公債が抱える問題点等を理解することができる。本科目では経済学の知識を応用するので、ミクロ経済学とマクロ経済学を事前に履修していると講義内容が理解しやすくなる。商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる人材」、「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を養成するための科目である。								
授業の方法	授業は講義形式で行う。アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回で反転学習を実施する。								
予習と復習	習（90分）：事前に指定範囲の教科書を精読すること。復習（90分）：その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	教科書：栗林隆・江波戸順史・山田直夫・原田誠編著『財政学 第6版』創成社（2023年4月刊行予定）参考書：篠原正博編著『テキストブック 租税論』創成社								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	30%	平常点	0%	
				0%	0%				
	授業内試験、レポートについては、授業内で全般的な評価と所見を提示する。								
授業計画	①ガイダンス：わが国の財政状況								
	②租税の意義と根拠								
	③租税原則（公平）								
	④租税原則（効率、簡素）								
	⑤個人所得課税（仕組みと課題）								
	⑥法人所得課税（仕組みと課題）								
	⑦一般消費税（仕組みと課題）								
	⑧個別消費税（仕組みと課題）								
	⑨資産課税（仕組みと課題）								
	⑩国際課税（仕組みと課題）								
	⑪公債（仕組み）								
	⑫公債（負担に関する議論）								
	⑬公債（財政の持続可能性）								
	⑭授業内試験								
	⑮まとめと総復習								

科目名	リスクマネジメント論A							
英文科目名	Risk Management A							
担当者名	恩蔵三穂							
科目ナンバリング	FIN307							
授業の概要と到達目標	<授業の目標>本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。<授業の概要>社会人になるにあたり、自分たちを取り巻くリスクはどのようなものがあるのか、そして、それらのリスクとどう向き合うのかについて考える知識を習得する必要がある。大学卒業後、例えば、就職、結婚、子供の出産や進学、住宅取得や老後生活など、様々なライフ・ステージ毎にリスクがある。これらのリスクを認識し、自分にあったライフ・プランを作成するためには、リスクマネジメントの一手段として活用される保険の知識が重要である。本講義では、私たちにとって身近なリスクマネジメントについて理解を深めるとともに、社会保険を含む保険についての基礎的な知識を解説する（外部講師を招聘する場合あり）。							
授業の方法	この授業では、主として講義を行い、積極的な発言や質問を推奨する。また、自立的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、小テストやレポート等に取り組んでもらう（小テストやレポート等は一定水準を満たさない場合、評価対象外）。							
予習と復習	予習（90分）授業計画に基づき次回の講義に当該する記事などを読み、関心を高めること。復習（90分）当日の授業内容を再度チェックして、各自まとめること。							
テキスト等	適宜、参考書を指示する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	小テストや課題等		70%		学期末点（レポートあるいはテスト）			30%
	【課題（試験やレポート）に対するフィードバック】授業中に行う小テスト等については、適宜、解答を提示する（一定水準以下のものは、評価対象外）。							
授業計画	①イントロダクション							
	②私たちの暮らしを取り巻くリスク							
	③リスクマネジメントの意義							
	④リスクマネジメントの基本							
	⑤保障の必要性							
	⑥社会保険：年金保険							
	⑦社会保険：医療保険、介護保険							
	⑧社会保険：労働者災害補償保険、雇用保険							
	⑨保険の種類：生命に関する保険							
	⑩保険の種類：財産に関する保険							
	⑪保険の種類：賠償に関する保険							
	⑫保険と共済等							
	⑬契約者保護等							
	⑭最近のリスクマネジメントの動向							
	⑮まとめと総復習							

科目名	リスクマネジメント論B							
英文科目名	Risk Management B							
担当者名	恩蔵三穂							
科目ナンバリング	FIN308							
授業の概要と到達目標	＜授業の目標＞本科目は、商学部ディプロマポリシー「金融の担い手である銀行・証券・保険の仕組みを学び活躍できる人材」を育成するための科目である。＜授業の概要＞企業を取り巻くリスクが多様化・複雑化する中、リスクマネジメントはますます重要性を高めている。本講義では、リスクマネジメントに関する基礎知識を習得した上で、リスクマネジメントの一手段である保険や代替的リスク移転（ART）等について解説する予定である（外部講師を招聘する場合あり）。							
授業の方法	この授業では、主として講義を行い、積極的な発言や質問を推奨する。また、自立的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、小テストやレポート等に取り組んでもらう（小テストやレポート等は一定水準を満たさない場合、評価対象外）。							
予習と復習	予習（90分）授業計画に基づき次回の講義に該当する記事などを読み、関心を高めておくこと。復習（90分）当日の授業内容を再度チェックして、各自、まとめること。							
テキスト等	適宜、参考書を指示する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	小テストやレポート等		70%		学期末点（レポートあるいはテスト）			30%
	【小テストや課題等に対するフィードバック】授業毎の小テストや課題等については、適宜、解答を提示する（一定水準以下のものは、評価対象外）。							
授業計画	①イントロダクション							
	②企業リスクとリスクマネジメント							
	③リスクの分類							
	④リスクマネジメント・プロセス：基本							
	⑤リスクマネジメント・プロセス：具体例							
	⑥リスクマネジメントとBCP（授業継続計画）：基本							
	⑦リスクマネジメントとBCP（授業継続計画）：具体例							
	⑧リスクマネジメントとCSR							
	⑨リスクマネジメントにおける保険の役割							
	⑩代替的リスク移転：キャプティブ							
	⑪代替的リスク移転：保険デリバティブ							
	⑫代替的リスク移転：リスクの証券化							
	⑬リスクマネジメントにおける今後の課題							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと復習							

科目名	会計学総論A							
英文科目名	An Introductory Accounting A							
担当者名	西山徹二, 成田博							
科目ナンバリング	ACCT101							
授業の概要と到達目標	【目標】商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目です。この授業は、財務会計の基礎を学修することを目的としています。【概要】春学期に開講される会計学総論Aでは、企業がその経営状況を投資家など外部の関係者にどのように報告するか学ぶ財務会計を扱います。							
授業の方法	テキストに基づいて講義を行います。授業中に企業の会計情報を検索したり、授業内容や課題等に関するディスカッションを実施する（アクティブ・ラーニング）。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を実施することがあります							
予習と復習	【予習】テキストの該当箇所を読んだり、関連する内容を検索して情報収集したりしてください(90分)。【復習】テキストの該当箇所を読み返し、各自で講義内容を再確認してください(90分)。							
テキスト等	上野清貴編著『スタートアップ会計学』第3版（同文舘出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	平常点の具体的内容については、担当教員が授業内で公表します。また、小テスト、レポート、授業内試験などの課題を提出した場合のフィードバック方法（課題を返却するかどうか、評価と所見をどのように開示するか）についても担当教員が授業内で公表します。							
授業計画	①ガイダンス							
	②会計とは何か？【1章】							
	③会計情報の利用（ROE）【3章】							
	④会計情報の利用（企業間比較）【3章】							
	⑤企業の経営成績（損益計算書）【4章】							
	⑥企業の経営成績（その他の財務諸表）【4章】							
	⑦会計情報の作成（貸借対照表・損益計算書）【7章】							
	⑧会計情報の作成（複式簿記の仕組み）【7章】							
	⑨会計制度（制度会計）【8章】							
	⑩会計制度（連結財務諸表）【8章】							
	⑪国際会計（会計ルール統一化）【11章】							
	⑫国際会計（IFRSs）【11章】							
	⑬会計の歴史【15章】							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	会計学総論B							
英文科目名	An Introductory Accounting B							
担当者名	西山徹二, 石井康彦							
科目ナンバリング	ACCT102							
授業の概要と到達目標	【目標】商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目です。この授業では、管理会計、税務会計および会計監査など会計学の諸分野の基礎を学修することを目的としています。【概要】秋学期に開講される会計学総論Bでは、企業が製造した製品の原価の計算方法や原価を低減させる工夫を学ぶ管理会計、企業が支払わなければならない法人税をどのように計算すべきか学ぶ税務会計、企業の作成した会計情報の信頼性をどのように保証するか学ぶ会計監査を中心に扱います。							
授業の方法	テキストに基づいて講義を行います。授業中に企業の会計情報を検索したり、授業内容や課題等に関するディスカッションを実施する（アクティブ・ラーニング）。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を実施することがあります							
予習と復習	【予習】テキストの該当箇所を読んだり、関連する内容を検索して情報収集したりしてください(90分)。【復習】テキストの該当箇所を読み返し、各自で講義内容を再確認してください(90分)。							
テキスト等	上野清貴編著 『スタートアップ会計学』第3版（同文館出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	平常点の具体的内容については、担当教員が授業内で公表します。また、小テスト、レポート、授業内試験などの課題を提出した場合のフィードバック方法（課題を返却するかどうか、評価と所見をどのように開示するか）についても担当教員が授業内で公表します。							
授業計画	①ガイダンス							
	②経営管理と会計（CVP分析）【5章】							
	③経営管理と会計（意思決定会計）【5章】							
	④製品の原価計算（費目別計算）【6章】							
	⑤製品の原価計算（部門別計算）【6章】							
	⑥製品の原価計算（製品別計算）【6章】							
	⑦財務諸表の監査（財務諸表監査の目的）【9章】							
	⑧財務諸表の監査（監査意見）【9章】							
	⑨企業と税金（法人税の意義）【10章】							
	⑩企業と税金（課税所得の計算）【10章】							
	⑪環境と会計【12章】							
	⑫NPO法人と会計【13章】							
	⑬自治体と会計【14章】							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	財務会計論A							
英文科目名	Financial Accounting A							
担当者名	西山徹二							
科目ナンバリング	ACCT201							
授業の概要と到達目標	【目標】商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目であり、財務会計における基礎的な理論の習得を目標としています。【概要】企業がどのように一会計期間における利益を計算するのかを中心に授業を進めていきます。また、会計制度と会計基準や利益の計算と資産評価の関係についても扱います。							
授業の方法	スライドを用いて説明を行い、テキストの該当箇所を確認することで理解を深めます。また、この授業ではスマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を実施します。							
予習と復習	【予習】各授業のテーマに関連するテキストの範囲を読み、わからないことをネットで調べるようにしてください（90分）。【復習】各授業の内容を再確認し、テキストをしっかりと読んでください（90分）。							
テキスト等	桜井久勝著『財務会計講義』第24版（中央経済社） 2023年3月出版							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	平常点の内訳は授業内に担当教員が説明します。課題を提出した場合は、個別に返却して評価を提示します。							
授業計画	①ガイダンス							
	②財務会計の機能（テキスト第1章）							
	③企業会計への法規制（テキスト第1章）							
	④会計基準の必要性（テキスト第3章）							
	⑤企業会計原則の一般原則＜真実性の原則を中心に＞（テキスト第3章）							
	⑥企業会計の一般原則＜継続性の原則を中心に＞（テキスト第3章）							
	⑦利益計算の仕組み（テキスト第2章）							
	⑧発生主義会計（テキスト第4章）							
	⑨発生原則・対応原則（テキスト第4章）							
	⑩実現原則（テキスト第4章）							
	⑪資産の評価評価基準（テキスト第4章）							
	⑫収益認識基準（テキスト第6章）							
	⑬販売基準（テキスト第6章）							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	財務会計論B							
英文科目名	Financial Accounting B							
担当者名	西山徹二							
科目ナンバリング	ACCT202							
授業の概要と到達目標	【目標】商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目であり、財務会計における基礎的な理論の習得を目標としています。【概要】資産会計、負債会計および純資産会計を中心として授業を行います。また、連結財務諸表や外貨建取引等の換算も扱います。							
授業の方法	スライドを用いて説明を行い、テキストの該当箇所を確認することで理解を深めます。また、この授業ではスマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を実施します。							
予習と復習	【予習】各授業のテーマに関連するテキストの範囲を読み、わからないことをネットで調べるようにしてください（90分）。【復習】各授業の内容を再確認し、テキストをしっかりと読んでください（90分）。							
テキスト等	桜井久勝著『財務会計講義』第24版（中央経済社）2023年3月出版							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	平常点の内訳は授業内に担当教員が説明します。課題を提出した場合は、個別に返却して評価を提示します。							
授業計画	①ガイダンス							
	②有価証券の期末評価（テキスト第5章）							
	③棚卸資産の期末評価（テキスト第7章）							
	④固定資産の取得原価（テキスト第8章）							
	⑤減価償却（テキスト第8章）							
	⑥固定資産の期末評価（テキスト第8章）							
	⑦リース会計（テキスト第8章）							
	⑧繰延資産（テキスト第9章）							
	⑨引当金（テキスト第10章）							
	⑩退職給付債務（テキスト第10章）							
	⑪純資産の構成（テキスト第11章）							
	⑫連結財務諸表の必要性（テキスト第13章）							
	⑬外貨建取引の換算（テキスト第14章）							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名		管理会計論A							
英文科目名		Management Accounting A							
担当者名		榎谷 奎太							
科目ナンバリング		ACCT301							
授業の概要と到達目標	〔授業の概要〕会計と聞くと、「計算」や「記録」をイメージする学生が多い。だが、それらは会計の一つの側面に過ぎない。この授業では、会計を用いた経営管理を学んでいく。春学期は特に、会計情報を用い、人の心や行動に影響を与えるプロセスを意味するマネジメント・コントロールを取り上げる。マネジメント・コントロールは、目標設定や計画策定、コントロール、業績評価などを構成要素としており、言葉の普及度はさておき、ほとんどの企業で実践されている。そこで多くの授業回で、企業の実践例を取り上げる。人の心や行動を動かす会計について豊富な事例を通じ学ぶことで、会計のイメージを刷新するとともに、社会や企業における会計の重要性を感じてほしい。なお本科目は、商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための専門科目として位置づけられる。〔到達目標〕○企業経営における管理会計、マネジメント・コントロールの重要性を説明できる。○管理会計の具体的なツールの概要と意義を説明できる。								
授業の方法	○授業時間の後半に、ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間を設ける。○一部の授業回でグループワークを実施する。○スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。								
予習と復習	予習（90分）事前にレジュメや参考書を精読し、要点をレポートにまとめておくこと。復習（90分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認すること。								
テキスト等	授業開始前までにGoogle Classroom等を通じ、授業資料を配布する。また、各回のテーマに沿ったテキストを適宜紹介する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%	
				0%				0%	
	毎回の授業で課すレポート課題に基づき、全般的な評価と所見を提示する。評価基準については初回授業で説明するので、必ず参加すること。								
授業計画	①イントロダクション：会計の体系、管理会計の意義								
	②経営戦略								
	③組織構造と責任会計								
	④中長期経営計画								
	⑤予算管理								
	⑥限界利益に基づく業績管理								
	⑦新製品開発の業績管理								
	⑧予算管理の副作用								
	⑨財務指標の限界と非財務指標の意義								
	⑩バランストスコアカード								
	⑪非財務指標・バランストスコアカードの副作用								
	⑫企業価値経営Ⅰ：EVA								
	⑬企業価値経営Ⅱ：ROIC								
	⑭キャッシュ・マネジメント								
	⑮まとめと総復習								

科目名		管理会計論B							
英文科目名		Management Accounting B							
担当者名		榊谷 奎太							
科目ナンバリング		ACCT302							
授業の概要と到達目標	〔授業の概要〕秋学期は、コスト・マネジメントを取り上げる。コスト・マネジメントは、中長期的に利益を増大するために、原価を管理する戦略的な活動である。この授業では、原価を戦略的に引き下げる手段を多面的に学ぶ。具体的には、工場の製造現場のみならず、企画・設計段階でのコスト・マネジメントや、間接費の管理、環境経営や品質管理との融合などである。加えて、コスト・マネジメントにおける経理担当者の役割も取り上げる。履修者は、工業簿記Ⅰ・Ⅱ相当の知識を持っていることが望ましいが、学習意欲があれば初学でも問題ない。なお本科目は、商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための専門科目として位置づけられる。〔到達目標〕○企業経営における管理会計、コスト・マネジメントの重要性を説明できる。○コスト・マネジメントの具体的な手段とその必要性を説明できる。○原価計算・管理における経理担当者の役割を説明できる。								
授業の方法	○授業時間の後半に、ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間を設ける。○一部の授業回でグループワークを実施する。○スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。								
予習と復習	予習（90分）事前にレジュメや参考書を精読し、要点をレポートにまとめておくこと。復習（90分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認すること。								
テキスト等	授業開始前までにGoogle Classroom等を通じ、授業資料を配布する。また、各回のテーマに沿ったテキストを適宜紹介する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%	
				0%				0%	
	毎回の授業で課すレポート課題に基づき、全般的な評価と所見を提示する。評価基準については初回授業で説明するので、必ず参加すること。								
授業計画	①イントロダクション								
	②原価計算の意義・種類・手続き								
	③標準原価計算・管理								
	④物量管理：ジャストインタイム生産方式								
	⑤原価企画Ⅰ：源流での原価管理								
	⑥原価企画Ⅱ：3つの側面、逆機能								
	⑦損益分岐点分析								
	⑧活動基準原価計算（ABC）								
	⑨活動基準原価管理（ABM）、活動基準予算（ABB）								
	⑩品質管理会計								
	⑪環境管理会計Ⅰ：マテリアルフローコストイング								
	⑫環境管理会計Ⅱ：ライフサイクルコストイング								
	⑬ミニ・プロフィットセンター制								
	⑭アメーバ経営								
	⑮まとめと総復習								

科目名	工業簿記 I								
英文科目名	Cost Accounting Practice I								
担当者名	榎谷 奎太								
科目ナンバリング	ACCT203								
授業の概要と到達目標	〔授業の概要〕製品の製造に際しては、材料や労働力、機械などが用いられる。このような製造活動において、原価要素の支払いや消費を記録するのが、工業簿記である。正確な手続きで記録することは、正確な財務諸表の作成や原価管理のために重要である。この授業を通じ、原価計算の手続きや、経営管理における原価情報の重要性を理解してほしい。授業ではさらに、経理担当者の役割についても言及する。経理担当者が、単なる計算屋・記録屋ではないことを知って欲しい。なお本科目は、商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための専門科目として位置づけられる。〔到達目標〕○工業簿記・原価計算の基本的な考え方と記録の方法を身に着ける。○原価計算・管理における経理担当者の役割について理解する。								
授業の方法	○單元ごとに講義を行い、アクティブ・ラーニングとしてこれを確認するため、問題演習と解説を行う。○スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。								
予習と復習	予習（90分）指定範囲のテキストを精読し、要点をまとめておくこと復習（90分）その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	教科書：TAC出版『合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記 Ver. 9.1（よくわかる簿記シリーズ）』※2023年4月時点で最新の版を使う。参考書：吉田栄介・花王株式会社社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%	
				0%					0%
	授業内試験で評価をおこなう。感染症の蔓延等で実施が難しい場合には、期末レポートに切り替える可能性がある。								
授業計画	①イントロダクション：工業簿記の目的・意義								
	②工業簿記・原価計算の構造								
	③工業簿記の勘定連絡								
	④材料費計算Ⅰ：材料費の分類、実際消費数量の計算など								
	⑤材料費計算Ⅱ：予定価格法、棚卸減耗費の計算など								
	⑥労務費計算Ⅰ：労務費の分類、賃金の支払い								
	⑦労務費計算Ⅱ：賃金の消費								
	⑧経費計算								
	⑨費目別計算のまとめ								
	⑩個別原価計算Ⅰ：製造間接費の実際配賦、仕損・作業屑								
	⑪個別原価計算Ⅱ：製造間接費の予定配賦、製造間接費配賦差異の分析								
	⑫部門別個別原価計算Ⅰ：原価部門への集計								
	⑬部門別個別原価計算Ⅱ：製造部門費の実際配賦・予定配賦								
	⑭授業内演習と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	工業簿記Ⅱ							
英文科目名	Cost Accounting Practice Ⅱ							
担当者名	榎谷 奎太							
科目ナンバリング	ACCT204							
授業の概要と到達目標	〔授業の概要〕製品の製造に際しては、材料や労働力、機械などが用いられる。このような製造活動において、原価要素の支払いや消費を記録するのが、工業簿記である。正確な手続きで記録することは、正確な財務諸表の作成や原価管理のために重要である。この授業を通じ、原価計算の手続きや、経営管理における原価情報の重要性を理解してほしい。授業ではさらに、経理担当者の役割についても言及する。経理担当者が、単なる計算屋・記録屋ではないことを知って欲しい。なお本科目は、商学部のディプロマ・ポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための専門科目として位置づけられる。〔到達目標〕○工業簿記・原価計算の基本的な考え方と記録の方法を身に着ける。○原価計算・管理における経理担当者の役割について理解する。							
授業の方法	○單元ごとに講義を行い、アクティブ・ラーニングとしてこれを確認するため、問題演習と解説を行う。							
予習と復習	予習（90分）指定範囲のテキストを精読し、要点をまとめておくこと復習（90分）その日のうちに講義内容を再確認すること。							
テキスト等	教科書：TAC出版『合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記 Ver. 9.1（よくわかる簿記シリーズ）』※2023年4月時点で最新の版を使う。参考書：吉田栄介・花王株式会社社会計財務部門『花王の経理パーソンになる』中央経済社							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内試験で評価をおこなう。感染症の蔓延等で実施が難しい場合には、期末レポートに切り替える可能性がある。							
授業計画	①イントロダクション：個別原価計算と総合原価計算の違い							
	②総合原価計算Ⅰ：総合原価計算の基礎と仕掛品の評価							
	③総合原価計算Ⅱ：月初仕掛品、直接材料費、加工費の計算							
	④総合原価計算Ⅲ：仕損、減損の処理							
	⑤総合原価計算Ⅳ：正常仕損費の処理							
	⑥総合原価計算Ⅴ：工程別の総合原価計算							
	⑦総合原価計算Ⅵ：組別、等級別の総合原価計算							
	⑧総合原価計算のまとめ・演習							
	⑨標準原価計算Ⅰ：標準原価の基礎と計算							
	⑩標準原価計算Ⅱ：原価差異の計算と分析							
	⑪直接原価計算Ⅰ：全部原価計算と直接原価計算							
	⑫直接原価計算Ⅱ：短期利益計画とCVP分析							
	⑬標準原価計算および直接原価計算のまとめ・演習							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	原価計算論A							
英文科目名	Cost Accounting A							
担当者名	成田博							
科目ナンバリング	ACCT205							
授業の概要と到達目標	【目標】製造業の取引を対象とする原価計算について、その基礎概念および一連の原価計算プロセス、特に費目別計算と部門別計算までの計算プロセスを理解することを目指す。【概要】原価の諸概念および原価計算プロセスにおける材料費、労務費、経費の具体的計算方法や部門費の配賦プロセスについて講義する。宿題としてレポートや計算問題を課す予定である。継続して出席し、これらの課題に取り組むことが重要となる。計算演習も含まれるため、授業には計算機を持参すること。「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。							
授業の方法	レジュメとテキストを中心として講義を進めるが、アクティブ・ラーニング促進のため、計算テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。							
予習と復習	「予習(90分) 事前に提供されるレジュメとテキストの該当部分を精読し、要点をノートにまとめておくこと。」 「復習(90分) 講義終了後には復習そしてテキスト等の計算問題を解くことで理解を確実なものとする。」							
テキスト等	上埜 進編著 『工業簿記・原価計算の基礎 理論と計算』 税務経理協会							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	10%	平常点	20%
				0%				0%
	レポート・小テストについては全体的な評価と解説を行い返却する。毎回の講義後に実施する復習テストを平常点として評価対象とするので、授業を欠席しないことが重要である。なお、原則として授業4回以上欠席した場合は単位取得資格を認めない。							
授業計画	①講義ガイダンスおよび原価計算の概念							
	②原価計算の基礎概念							
	③原価計算と工業簿記							
	④原価計算の目的・類型と原価の諸概念							
	⑤材料費の計算							
	⑥まとめと小テスト①							
	⑦労務費の計算							
	⑧経費の計算							
	⑨製造間接費の計算と配賦							
	⑩まとめと小テスト②							
	⑪部門別計算の意義と目的							
	⑫部門共通費の配賦プロセス							
	⑬補助部門費の製造部門への配賦							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	原価計算論B							
英文科目名	Cost Accounting B							
担当者名	成田博							
科目ナンバリング	ACCT206							
授業の概要と到達目標	【目標】製造業を対象とした種々の製品別原価計算の方法について、その意義と記録・計算プロセスを理解することを目標とする。【概要】前半は、制度として実施される財務会計目的の原価計算を中心として解説し、後半では管理会計目的の原価計算について最近の新しい手法を含めて解説する。「原価計算論A」を履修しておくことが望ましいが、初学者にも対応可能な講義を予定している。宿題としてレポートや計算問題を課す予定である。継続して出席し、これらの課題に取り組むことが重要となる。計算演習も含まれるため、受講の際には計算機を持参すること。「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。							
授業の方法	レジュメとテキストを中心として講義を進めるが、アクティブ・ラーニング促進のため、計算テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。							
予習と復習	「予習(90分) 事前にT-N a v i で配布されるレジュメとテキストの該当部分を精読し、要点をノートにまとめておくこと。」「復習(90分) 講義終了後には復習そしてテキスト等の計算問題を解くことで理解を確実なものとする。」							
テキスト等	上埜 進編著 『工業簿記・原価計算の基礎 理論と計算』 税務経理協会							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	10%	平常点	20%
				0%				0%
	レポート・小テストについては全体的な評価と解説を行い返却する。毎回の講義後に実施する復習テストを平常点として評価対象とするので、授業を欠席しないことが重要である。なお、原則として授業4回以上欠席した場合は単位取得資格を認めない。							
授業計画	①講義ガイダンスおよび原価計算の基礎							
	②原価の概念と費目別計算							
	③原価計算のプロセスと部門別計算							
	④製品別計算と個別原価計算の概念							
	⑤個別原価計算のプロセスと仕損費等の処理							
	⑥費目別計算と個別原価計算							
	⑦まとめと小テスト①							
	⑧総合原価計算の概念と類型							
	⑨総合原価計算のプロセスと仕損費等の処理							
	⑩工程別・等級別総合原価計算							
	⑪標準原価計算の概念と原価管理							
	⑫標準原価差異の計算と分析							
	⑬直接原価計算と損益分岐点分析							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	コンピュータ会計A							
英文科目名	Computer Accounting A							
担当者名	成田博, 櫻井康弘							
科目ナンバリング	ACCT207							
授業の概要と到達目標	【目標】会計業務のコンピュータ化において、財務諸表の産出を主な機能として構築される総勘定元帳システム（G／Lシステム）を理解することを目標とする。【概要】会計業務における手作業とコンピュータ処理との相違を確認しながら、総勘定元帳システムの構築要件と構造を学ぶ。講義内容の理解をより確実とすることを目的として、講義に加えて表計算ソフトおよび会計パッケージ・ソフトを利用した演習を実施するが、高度なプログラミング能力や会計的知識を必要とするものではない。「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。							
授業の方法	エクセル等を利用したコンピュータ実習を実施する。アクティブ・ラーニング促進のため、復習テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。							
予習と復習	「予習(90分) 事前に提供されるレジュメとテキストの該当部分を精読し、要点をノートにまとめておくこと。」 「復習(90分) 講義終了後には講義・実習内容について再度確認して理解を確実なものとする。」							
テキスト等	河合久・櫻井康弘・成田博・堀内恵『コンピュータ会計基礎』創成社							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	0%	平常点	70%
				0%				0%
	上記の方法で総合評価する。なお、原則として授業4回以上欠席した場合は単位取得資格を認めない。実習課題などの提出物、復習テストは成績評価における平常点の対象となる。							
授業計画	①講義ガイダンスー取引処理システムの概要							
	②取引処理システムと総勘定元帳システム（G／Lシステム）							
	③G／Lシステムの構築と運用ー取引入力システムの構築							
	④G／Lシステムの構築と運用ー取引入力システムの運用							
	⑤G／Lシステムの構築と運用ー試算表作成システムの構築							
	⑥G／Lシステムの構築と運用ー試算表作成システムの運用							
	⑦G／Lシステムの構築と運用ー元帳作成システムの構築と運用							
	⑧G／Lシステムの構築と運用ー決算処理							
	⑨会計ソフトの概要							
	⑩会計ソフトの運用ー導入処理							
	⑪会計ソフトの運用ー会計取引の入力							
	⑫会計ソフトの運用ー帳簿産出							
	⑬会計ソフトの運用ー決算処理							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	コンピュータ会計B							
英文科目名	Computer Accounting B							
担当者名	成田博, 櫻井康弘							
科目ナンバリング	ACCT208							
授業の概要と到達目標	企業では、購買業務や販売業務によって発生する業務データを処理する業務処理システムと総勘定元帳システム（G/Lシステム）とが連動して財務諸表を産出する取引処理システム（TPS）が構築・運用されている。授業では、業務データの入力から財務諸表の産出までのプロセスを学び、取引処理システムの構築要件と会計処理の基本概念を理解することを目標とする。さらに、経営管理に役立つための会計情報を産出するプロセスについても学習する。講義内容の理解をより確実とするため、講義にくわえて表計算ソフト等を利用した演習も実施する。「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。							
授業の方法	エクセル等を利用したコンピュータ実習を実施する。アクティブ・ラーニング促進のため、復習テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。							
予習と復習	「予習(90分) 事前に提供されるレジュメとテキストの該当部分を精読し、要点をノートにまとめておくこと。」 「復習(90分) 講義終了後には講義・実習内容について再度確認して理解を確実なものとする。」							
テキスト等	河合久・櫻井康弘・成田博・堀内恵『コンピュータ会計基礎』創成社							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	0%	平常点	70%
				0%				0%
	上記の方法で総合評価する。なお、原則として授業4回以上欠席した場合は単位取得資格を認めない。実習課題などの提出物、復習テストは成績評価における平常点の対象となる。							
授業計画	①講義ガイダンスと取引処理システム（TPS）の形態							
	②準統合型TPSの構築と運用－マスターファイル							
	③準統合型TPSの構築と運用－販売管理システム							
	④準統合型TPSの構築と運用－購買管理システム							
	⑤準統合型TPSの構築と運用－棚卸資産管理システムの構築							
	⑥準統合型TPSの構築と運用－棚卸資産管理システムの運用							
	⑦準統合型TPSの構築と運用－自動仕訳サブシステム							
	⑧準統合型TPSの構築と運用－月次決算と部門PL							
	⑨販売仕入ソフトの概要							
	⑩販売仕入ソフトの運用－導入処理							
	⑪販売仕入ソフトの運用－取引入力							
	⑫販売仕入ソフトと会計ソフトの運用－自動仕訳							
	⑬販売仕入ソフトと会計ソフトの運用－月次決算と部門PL							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名		高等簿記 I								
英文科目名		Intermediate Accounting Practice I								
担当者名		北井不二男								
科目ナンバリング		ACCT209								
授業の概要と到達目標	〈授業の概要〉 高等簿記 I では、すでに基礎的な簿記の知識・技能を修得した学生を対象として、簿記 I・簿記 II で取り扱ってきた諸取引に関し、より高度な処理について学習する。簿記の学習は、いきおい検定試験対策に偏りがちだが、履修者には、企業活動のしくみや意義を考えてもらうため、実際の企業を題材とした調査やレポートも課すこととする。〈到達目標〉 諸取引に関する内容の理解と、適切な処理能力を身に付けることを目標とする。商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。									
授業の方法	単元ごとに講義を行い、アクティブ・ラーニングとしてこれを確認するため、問題演習と解説を行う。									
予習と復習	予習（90分）次回授業分として配布する講義プリントを精読しておくこと。 復習（90分）当日の授業内容を復習し、演習問題を再確認すること。									
テキスト等	授業内容に即したプリントを毎回配布する。A 4 サイズのポケットファイル、12桁の電卓を用意すること。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	20%	平常点	0%		
	授業中に実施する課題など			10%						0%
	授業中に実施する課題、レポートについて全般的所見を提示する。									
授業計画	①ガイダンス									
	②簿記一巡の流れ									
	③現金									
	④預金									
	⑤報告式損益計算書の構造									
	⑥商品売買（１） 商品売買の処理									
	⑦商品売買（２） 売上原価の算定、期末商品の評価									
	⑧手形、電子記録債権・電子記録債務									
	⑨有価証券（１） 有価証券の種類と分類、有価証券の購入・売却									
	⑩有価証券（２） 有価証券の評価									
	⑪固定資産（１） 有形固定資産の取得、減価償却									
	⑫固定資産（２） 有形固定資産の売却、除却、廃棄、滅失 無形固定資産									
	⑬収益と費用									
	⑭授業内試験と解説									
	⑮まとめと総復習									

科目名	高等簿記Ⅱ									
英文科目名	Intermediate Accounting Practice Ⅱ									
担当者名	北井不二男									
科目ナンバリング	ACCT210									
授業の概要と到達目標	〈授業の概要〉高等簿記Ⅱでは、主として株式会社を対象とした会計処理について学習する。現代社会において、株式会社は経済活動の中心的な役割を果たしている。授業では会社と株主の関係を踏まえ、株式会社の会計と個人企業の会計の違いを明確にする。また、経済社会で行われているハイレベルな取引についても触れ、その意義や処理方法を学ぶ。実際の企業の財務諸表や決算公告なども取り入れて授業を進める。〈到達目標〉株式会社会計などを理解し、適切な処理能力を身に着けることを目標とする。商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。									
授業の方法	単元ごとに講義を行い、アクティブ・ラーニングとしてこれを確認するため、問題演習と解説を行う。									
予習と復習	予習（90分）次回授業分として配布する講義プリントを精読しておくこと。 復習（90分）当日の授業内容を復習し、演習問題を再確認すること。									
テキスト等	授業内容に即したプリントを毎回配布する。A4サイズのポケットファイル、12桁の電卓を用意すること。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	30%	平常点	0%		
	授業中に行う課題（小テストを含む）			10%						0%
	授業中に実施する課題、レポートについて全般的所見を提示する。									
授業計画	①ガイダンス									
	②株式会社のしくみ									
	③株式会社の純資産項目									
	④株式の発行									
	⑤剰余金の配当と処分（1） 損益の計算と処理									
	⑥剰余金の配当と処分（2） 準備金積立額の計算									
	⑦合併									
	⑧これまでの復習と演習									
	⑨税金の処理（1）租税公課、法人税等									
	⑩税金の処理（2）追徴・還付、消費税									
	⑪外貨建取引									
	⑫財務諸表の構造									
	⑬有価証券報告書									
	⑭授業内試験と解説									
	⑮まとめと総復習									

科目名	会計史A							
英文科目名	Accounting History A							
担当者名	桑原正行							
科目ナンバリング	ACCT303							
授業の概要と到達目標	＜授業の概要＞本講義の概要は下記の授業計画に示していますが、古代社会の文明国の簿記からイタリア・ルネッサンス時代に複式簿記が出現するまでの経緯、そしてそのイタリア式簿記が現代の形式に改善・工夫されていく発展、そして産業革命の中心であるイギリスにおける複式簿記の理論や実務を中心にを講義していきます。＜授業の目標＞簿記の発展、特に複式簿記に関して、その出現の前後を通して、経済・商業（貿易）・企業規模と密接に結びついていることを理解し、今日に至る簿記会計理論がいかに生成・発展してきたかを理解することにあります。＜ディプロマ・ポリシー＞本講義は、概要で記載したように、今日の簿記会計理論の意義や特徴を理解することによって、財務・会計知識を習得することができ、作成された会計情報を多面的に適切に活用し企業活動に貢献できる人材を育成します。							
授業の方法	予め配布するパワーポイントの資料をもとに授業を行い、随時、質疑応答を実施します。また自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、講義理解度確認の小試験またはミニ・レポートを課題として課すので、期限内に必ず作成した回答を送信してください。							
予習と復習	予習（90分）事前に資料を精読し、サブノートを作成し、要点や疑問点についてまとめておき、授業時間に質問ができるようにしてください。復習（90分）当日の講義内容を資料や得られた解説や質問へのコメントをもとに、疑問点を解決させてサブノートを完成させてください							
テキスト等	中野常男・清水泰洋（共編著）『近代会計史入門』（第2版）同文館出版・・・会計史Bでも使用します。その他の参考図書等については、授業の都度紹介します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	10%	平常点	30%
				0%				0%
	授業最後の時に、授業内試験を行います。試験時間は60分で、授業で各自が作成したサブノート、テキスト、配布資料は持込み可とします。その他の平常点やレポート点については、最初の講義の時に説明します。							
授業計画	①ガイダンス							
	②会計史研究とは何か							
	③歴史の見かたについて							
	④文明のはじまりと「会計」の起源							
	⑤勘定の形成とその体系化：複式簿記の起源							
	⑥イタリア（ヴェネツィア）式簿記の特徴について							
	⑦ルカ・パチョーリと彼の簿記論（1494）							
	⑧複式簿記の伝播前後のフランス、スペイン、および、南ドイツと北ドイツの会計事情							
	⑨ヨーロッパにおける南北貿易圏の接合と複式簿記の伝播							
	⑩南ネーデルランド（特にブルッヘ）の会計事情							
	⑪南ネーデルランド（特にアントウェルペン）の簿記事情							
	⑫ネーデルランド（特にアムステルダム）の会計事情							
	⑬イギリス（イングランド）への複式簿記の伝播							
	⑭イギリスにおける初期の複式簿記解説書と簿記教授法の工夫							
	⑮まとめと総復習（授業内試験）							

科目名	会計史B							
英文科目名	Accounting History B							
担当者名	桑原正行							
科目ナンバリング	ACCT304							
授業の概要と到達目標	〈授業の概要〉本講義は、近代的な会社組織である株式会社がどのように生成され、会計と関連していったかを東インド会社を対象に考察し、その後現代の会計理論等が出来上がるまでの展開を、特に19・20世紀のアメリカにおける資本主理論を念頭においた簿記会計理論の説明を中心に進めていきます。〈授業の目標〉今日の簿記会計に関する理論・基準・実務等が出来上がるまでの変遷を理解することにあります。授業計画に示すように、現代の会計基準・理論がどのような歴史的展開のもとに出来上がってきたのかを理解することによって、将来、企業環境が変化した際に、会計に関する理論・基準はどのようにあるべきかを考えることができる能力を身につけることにあります。〈ディプロマ・ポリシー〉本講義は、現行の基準等が成立するまでの過程を理解することによって、財務・会計知識を正確に習得でき、会計情報を活用して企業活動に貢献でき、さらには将来への変更にも十分対応できる人材を育成します。							
授業の方法	予め配布するパワーポイントの資料をもとに授業を行い、随時、質疑応答を実施します。また自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、講義理解度確認の小試験またはミニ・レポートを課題として課すので、期限内に必ず作成した回答を送信してください。							
予習と復習	予習（90分）事前に資料を精読し、サブノートを作成し要点や疑問点についてまとめておき、授業時間に質問ができるようにしてください。復習（90分）当日の講義内容を資料や得られた解説や質問へのコメントをもとに、疑問点を解決させてサブノートを完成させてください。							
テキスト等	中野常男・清水泰洋（共編著）『近代会計史入門』（第2版）同文館出版・・・会計史Aでも使用します。その他の参考図書等については、授業の都度紹介します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	10%	平常点	30%
				0%				0%
	授業最後の時に、授業内試験を行います。試験時間は60分で、授業で各自が作成したサブノート、テキスト、配布資料は持込み可とします。その他の平常点やレポート点については、最初の講義の時に説明します。							
授業計画	①ガイダンス							
	②株式会社の起源：オランダ東インド会社の誕生（1602）と同社の会計事情							
	③イギリス東インド会社の組織改革と近代的株式会社の出現							
	④17世紀イギリス東インド会社の会計事情：複式簿記の導入と財務報告							
	⑤18世紀スコットランドの簿記書と資本主理論の萌芽							
	⑥産業革命期イギリスにおける複式簿記の革新と資本主理論の生成							
	⑦植民地時代から独立革命前後のアメリカ会計事情							
	⑧南北戦争前後のアメリカの会計事情と会計教育の発展							
	⑨19世紀後半アメリカにおける資本主理論の展開							
	⑩C. E. Spragueと資本主理論の確立							
	⑪H. R. Hatfieldにおける近代会計学の誕生：資本主理論の転換							
	⑫W. A. Patonにおける簿記会計理論の特徴：企業実体理論の特徴							
	⑬アメリカにおける1920・1930年代の特徴と証券取引法							
	⑭アメリカにおける企業会計原則の制定とその展開							
	⑮まとめと総復習（授業内試験）							

科目名	国際会計論A							
英文科目名	International Accounting A							
担当者名	土井 充							
科目ナンバリング	ACCT305							
授業の概要と到達目標	<授業の概要> この講義では、国際的な会計基準が必要とされるようになった歴史的経緯を学ぶとともに、現在、130を超える国と地域で採用されている国際財務報告基準（I F R S）の背後にある概念的な枠組みや、I F R Sに基づく財務諸表の体系を学びます。こうしたI F R Sに関する知識を修得することは、企業において会計情報を作成する力や活用する力を養うことになります。<到達目標> この講義では、以下の財務会計の知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できるようになることを目指します。I F R Sの必要性の理解 I F R Sの理論的特徴の理解 I F R Sに基づく財務諸表の体系とわが国会計基準に基づく財務諸表の体系の異同の理解							
授業の方法	講義の始めに、レジュメやスライドなどを用いて授業の内容を説明します。つぎに、講義の論点についての記帳練習やミニレポートを作成してもらいます。また、アクティブラーニングとして教員が与えた課題に取り組み、発言をしてもらうこともあります。							
予習と復習	【予習】事前に配布するレジュメを読んだり、情報収集してきてください(90分)。【復習】レジュメや記帳練習を見直し、各自でまとめておくようにしてください(90分)。							
テキスト等	講義の教材等は、事前に授業中に配布します。追加の参考資料等は、必要に応じて講義時に指示します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%
	授業ごとの課題			40%	0%			
	上記の方法により総合評価します。レポートおよび授業ごとの課題(記帳練習やミニレポート等)について、返却せずに全般的評価と所見を提示します。なお、出席が過度に不良の場合、「Y3 評価(過度の出席不良)」の不合格とします。							
授業計画	①ガイダンス(講義概要の説明)							
	②国際会計の必要性							
	③各国の会計制度							
	④国際会計基準審議会（I A S B）／国際財務報告基準（I F R S）の歴史							
	⑤各国のI F R S対応							
	⑥I F R Sの特徴							
	⑦概念フレームワーク1：一般目的財務報告の目的							
	⑧概念フレームワーク2：有用な財務情報の質的特性							
	⑨概念フレームワーク3：財務諸表の構成要素							
	⑩概念フレームワーク4：認識および測定							
	⑪財務諸表の表示1：財政状態計算書、包括利益計算書							
	⑫財務諸表の表示2：キャッシュフロー計算書など							
	⑬わが国会計基準との異同 その1							
	⑭わが国会計基準との異同 その2							
	⑮まとめと総復習							

科目名	国際会計論B									
英文科目名	International Accounting B									
担当者名	土井充									
科目ナンバリング	ACCT306									
授業の概要と到達目標	<授業の概要> この講義は、国際会計基準審議会（I A S B）が作成する国際財務報告基準（I F R S）の概要を理解するとともに、各基準の根底にある会計理論を理解することを通じてI F R Sの特徴を体系的に理解することを目的とします。また、そのため、適宜わが国会計基準との比較も行います。こうしたI F R Sに関する知識を修得することは、企業において会計情報を作成する力や活用する力を養うことになります。<到達目標> この講義では、以下の財務会計の知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できるようになることを目指します。I F R Sの主要な会計処理方法の概要の理解 I F R Sとわが国会計基準との異同の理解									
授業の方法	講義の始めに、レジュメ等を用いて授業の内容を説明します。つぎに、講義の論点について課題に取り組んでもらいます。また、アクティブラーニングとして教員が与えた課題に取り組み、発言をしてもらうこともあります。									
予習と復習	【予習】事前に配布するレジュメを読んだり、情報収集してきてください(90分)。【復習】レジュメや記帳練習を見直し、各自でまとめておくようにしてください(90分)。									
テキスト等	講義の教材等は、事前に授業中に配布する。追加の参考資料等は、必要に応じて講義時に指示する。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	0%		
	授業ごとの課題			40%						0%
	上記の方法により総合評価します。レポートおよび授業ごとの課題(ミニレポート等)について、返却せずに全般的評価と所見を提示します。なお、出席が過度に不良の場合、「Y3 評価（過度の出席不良）」の不合格とします。									
授業計画	①ガイダンス									
	②I F R Sの概要									
	③収益									
	④棚卸資産									
	⑤有形固定資産									
	⑥無形資産									
	⑦資産の減損									
	⑧引当金									
	⑨従業員給付およびストック・オプション									
	⑩金融商品									
	⑪企業結合									
	⑫わが国会計基準との異同									
	⑬I F R Sの動向									
	⑭I F R Sの課題									
	⑮まとめと総復習									

科目名	税務会計論A							
英文科目名	Tax Accounting A							
担当者名	伊藤義之							
科目ナンバリング	ACCT307							
授業の概要と到達目標	近年の経済デジタル化などを背景に租税を巡る環境は課題山積でしたが、BEPSプロジェクトの下で、2021年10月に課税上の対応について国際的な合意が実現し、会計や法人税(法)を取り巻く環境も益々変化が見込まれます。こうした中、会計と法人税法を繋ぐ税務会計を学習する重要性が高まっています。そこで、税務会計論Aでは、これ迄に学習した簿記・会計の知識(簿記Ⅰ/Ⅱ・会計学総論A/B)を活用し、企業活動に貢献できる企業人・スペシャリストを目指し、履修生の税務会計基礎知識固めを目標とします。本科目は、商学部のディプロマシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目です。具体的には、法人税について、その仕組みと税額算出の方法を学習しますが、税務会計や法人税を巡る新聞記事なども随時紹介し実務的な素養も身に付けます。また、ガイダンス時には、学習目標明確化のためシラバスを説明します。なお、国税組織等行政庁の勤務経験を活かし、法人税法や会社法などと企業会計との関連について実例を踏まえて指導します。							
授業の方法	毎回授業冒頭に前回授業振返りと要点確認、当日の授業内容・学習目標を説明した上で授業を開始します。また授業は、基本的に講義を中心に行いますが、一部の授業回でディスカッション(アクティブ・ラーニング)など対話型・双方向授業を実施します。							
予習と復習	予習(90分) 次回授業に該当するテキストの箇所を事前に精読し、各自要点をレポートにまとめておく。復習(90分) 授業後、その日のうちにテキスト、レジュメ・参考資料等とともに授業内容を再確認すること。							
テキスト等	谷川喜美江『入門 税務会計[最新版]』(税務経理協会)をテキストとします。国税庁・税務大学校HPに掲載(ダウンロード可・印刷可)されている税大講本『税法入門』・『法人税法(基礎編)』も適宜活用しますが、毎回レジュメや参考資料等を配付します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック】授業内試験において筆記試験を行いますが、結果について返却せずに全般的な評価と所見を掲示等(クラスルーム・ストリーム掲載含む)します。							
授業計画	①ガイダンスー授業の進め方や評価方法などシラバスを基に説明							
	②納税義務者と申告・納税等							
	③確定決算主義と税務調整							
	④益金の概要①ー収益計上時期							
	⑤益金の概要②ー益金不算入							
	⑥損金の概要①ー棚卸資産							
	⑦損金の概要②ー減価償却と繰延資産							
	⑧損金の概要③ー役員給与							
	⑨損金の概要④ー寄付金と交際費等							
	⑩損金の概要⑤ー租税公課等、貸倒損失と圧縮記帳							
	⑪損金の概要⑥ー引当金							
	⑫有価証券							
	⑬税額の計算							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮その他ー同族会社等のほかまとめと総復習							

科目名	税務会計論B							
英文科目名	Tax Accounting B							
担当者名	伊藤義之							
科目ナンバリング	ACCT308							
授業の概要と到達目標	税務会計論Bでは、これ迄に学習した簿記・会計の知識(簿記Ⅰ/Ⅱ・会計学総論A/B)を応用し、税務会計についてやや専門的な知識を身に付けることを目標としますので、税務会計論Aに比べ詳細な内容となり、例えば、リース取引や企業税務における重要課題としての国際税務、消費税の仕組みと経理処理や企業集団税制などについても取り上げ学習します。従って、税務について一応の知識がある方は別として、できるだけ、税務会計論Aを受講していただきたいと思います。本科目は、商学部のディプロマシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目です。また、ガイダンス時には、学習目標明確化のためシラバスを説明します。なお、国税組織等行政庁の勤務経験を活かし、法人税法や会社法などと企業会計との関連について実例を踏まえて指導します。							
授業の方法	毎回授業冒頭に前回授業振返りと要点確認、当日の授業内容・学習目標を説明した上で授業を開始します。また授業は、基本的に講義を中心に行いますが、一部の授業回でディスカッション(アクティブ・ラーニング)など対話型・双方向授業を実施します。							
予習と復習	予習(90分) 次回授業に該当するテキストの箇所を事前に精読し、各自要点をレポートにまとめておくこと。復習(90分) 授業後、その日のうちにテキスト、レジュメ・参考資料等とともに授業内容を再確認すること。							
テキスト等	成道秀雄ほか『現代税務会計論[最新版]』(中央経済社)をテキストとします。国税庁・税務大学校HPに掲載(印刷可)されている税大講本『税法入門』・『法人税法(基礎編)』も適宜活用しますが、毎回レジュメや参考資料等を配付します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	【課題(試験やレポート等)】に対するフィードバック】授業内試験において筆記試験を行います。結果について返却せずに全般的な評価と所見を掲示等(クラスルーム・ストリーム掲載含む)します。							
授業計画	①ガイダンスー授業の進め方や評価方法などシラバスを基に説明							
	②固定資産と減価償却費・繰延資産等							
	③有価証券と外貨							
	④資産の評価損益、貸倒とその他経費							
	⑤非営利法人税制							
	⑥圧縮記帳							
	⑦借地権							
	⑧組合課税							
	⑨リース取引							
	⑩税額計算と申告手続							
	⑪国際課税①ー企業や個人を巡る国際的な経済活動の実態と国際租税法の仕組み等							
	⑫国際課税②ー国際的二重課税や租税回避などに対する税制措置や各国課税当局の対応等							
	⑬消費税の仕組みと経理処理							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮企業集団税制のほかまとめと総復習							

科目名	会計情報システム論A							
英文科目名	Accounting Information Systems A							
担当者名	成田博							
科目ナンバリング	ACCT309							
授業の概要と到達目標	【目標】多くの企業で財務会計、管理会計を包括したものとして構築・運用されている会計情報システムについて、その機能と構造および具体的な会計情報の利用について体系的に理解することを目標とする。【概要】この授業では、会計測定過程とコンピュータによるデータ処理との関係、主要サブシステムである総勘定元帳システム、取引処理システムの機能と構造そしてそれらの関係についての理解を前提として、会計情報システムの体系および会計アプリケーションの機能と構造について講義する。「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。							
授業の方法	レジュメを中心として講義を進めるが、アクティブ・ラーニング促進のため、授業中多くの発問をし、各自の見解を披露してもらう。また、小テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。							
予習と復習	「予習(90分) 事前に提供されるレジュメを印刷、精読し、要点をノートにまとめておくこと。」「復習(90分) 講義終了後には講義内容について再度確認して理解を確実なものとする。」							
テキスト等	T-Naviにてレジュメを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	10%	平常点	20%
				0%				0%
	上記の項目により総合評価するが、原則として授業4回以上欠席した場合は単位取得資格を認めない。小テストやレポートについては全体的な評価と解説を行い返却する。授業内で実施する小テストも授業内試験に含めて評価対象とする。							
授業計画	①講義ガイダンスおよび会計総論							
	②会計の定義再考と情報システム							
	③会計の体系と機能							
	④取引処理システムと総勘定元帳システム							
	⑤会計情報システムの枠組み							
	⑥まとめと小テスト①							
	⑦計画情報システムと統制情報システム① ー意思決定支援システムとしての分岐点分析ー							
	⑧計画情報システムと統制情報システム② ー予算の機能と予算編成システムー							
	⑨取引処理システムの基本構造							
	⑩まとめと小テスト②							
	⑪取引処理システムの形態とファイル構成							
	⑫会計情報システムの体系① ーコンピュータ会計と会計情報システムー							
	⑬会計情報システムの体系② ー会計情報システムと管理会計ー							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	会計情報システム論B							
英文科目名	Accounting Information Systems B							
担当者名	成田博							
科目ナンバリング	ACCT310							
授業の概要と到達目標	【目標】企業で構築・運用されている会計情報システムについて、その構成要素であるアプリケーションの機能と構造について体系的に理解するとともに、管理会計情報の活用局面を理解することも目標とする。【概要】この授業では、総勘定元帳システム、取引処理システムの機能と構造および関係の理解を前提として、会計情報システムのアプリケーションの機能と構造および管理会計情報の活用局面、そして、企業の情報システムおよび会計情報システムの発展過程等についても講義する。「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献」することを達成するための科目である。							
授業の方法	レジュメを中心として講義を進めるが、アクティブ・ラーニング促進のため、授業中多くの発問をし、各自の見解を披露してもらう。また、小テストやリアクションペーパーによる理解確認を行う。							
予習と復習	「予習(90分) 事前に提供されるレジュメを印刷、精読し、要点をノートにまとめておくこと。」「復習(90分) 講義終了後には講義内容について再度確認して理解を確実なものとする。」							
テキスト等	T-Naviにてレジュメを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	10%	平常点	20%
				0%				0%
	上記の項目により総合評価するが、原則として授業4回以上欠席した場合は単位取得資格を認めない。小テストやレポートについては全体的な評価と解説を行い返却する。授業内で実施する小テストも授業内試験に含めて評価対象とする。							
授業計画	①講義ガイダンスおよび会計総論							
	②企業活動と会計情報システム							
	③取引処理システムと基幹業務システム							
	④購買業務と購買情報システム							
	⑤販売業務と販売情報システム							
	⑥まとめと小テスト①							
	⑦購買情報システムと販売情報システム							
	⑧原価計算と原価情報システム							
	⑨基幹業務システムと棚卸資産管理システム							
	⑩資金管理の概要と資金管理システム							
	⑪まとめと小テスト②							
	⑫固定資産管理システムと人件費システム							
	⑬情報技術の進展と会計情報システム							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	会計監査論A							
英文科目名	Auditing A							
担当者名	島崎主税							
科目ナンバリング	ACCT311							
授業の概要と到達目標	会計監査論の総論部分及び企業会計審議会が公表している「監査基準」の「一般基準」を理解することが目標になります。会計監査とは、会計帳簿等に対しそれに関与していない第三者が検討を加え、その正否について意見を表明するものですが、中でも現在の社会において最も重要なものが公認会計士による財務諸表監査です。会計監査論はこの財務諸表監査をメインテーマとする学問であり、授業ではかかる会計監査論について学習します。商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を目指す科目です。							
授業の方法	講義が中心であるが、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、毎回の授業終了時に質疑応答の時間を設ける。							
予習と復習	（予習 90分）日頃から、日本経済新聞の会計・監査に関する記事に関心を持ち、読んでおくこと。（復習 90分）講義後、遅滞なく講義内容を再確認すること。							
テキスト等	蟹江章、高原利栄子、藤岡英治著『わしづかみシリーズ 監査論を学ぶ』（株式会社税務経理協会）							
評価方法	定期試験	100%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	レポートについては返却はしませんが、全般的な評価と所見を授業内に提示します。							
授業計画	①ガイダンス（講義概要を説明します）							
	②監査の意義(1) 定義							
	③監査の意義(2) 目的							
	④監査の生成要因と監査の種類							
	⑤ディスクロージャーの機能と財務諸表監査							
	⑥財務諸表監査の特質(1) 監査主体							
	⑦財務諸表監査の特質(2) 監査対象と財務諸表監査の限界							
	⑧監査制度の生成と展開							
	⑨我が国の監査制度の意義と内容							
	⑩「監査基準」総論							
	⑪「監査基準」の「一般基準」(1) 「一般基準」 1・2・3							
	⑫「監査基準」の「一般基準」(2) 「一般基準」 4・5・6							
	⑬「監査基準」の「一般基準」(3) 「一般基準」 7・8・9							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと復習							

科目名	会計監査論B							
英文科目名	Auditing B							
担当者名	島崎主税							
科目ナンバリング	ACCT312							
授業の概要と到達目標	財務諸表監査における概念フレームワークであるリスク・アプローチについて理解することが主要な目標となります。会計監査とは、会計帳簿等に対しそれに関与していない第三者が検討をし、その正否について意見を表明するものです。中でも、現在の社会において最も重要なものが、公認会計士による財務諸表監査であり、会計監査論はこの財務諸表監査をメインテーマとする学問です。授業では、財務諸表監査において監査意見の形成過程を学習しますが、その中心となるのが、上述のリスク・アプローチに対する理解です。商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを目指す科目です。							
授業の方法	講義が中心であるが、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するために、適宜、質疑応答を行う。							
予習と復習	（予習 90分）日頃から、日本経済新聞の会計・監査に関する記事に関心を持ち、読んでおくこと。（復習 90分）講義後、遅滞なく講義内容を再確認すること。							
テキスト等	蟹江章、高原利栄子、藤岡英治著『わしづかみシリーズ 監査論を学ぶ』（株式会社税務経理協会）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%
				0%				0%
	定期試験（筆記試験）を実施します。ただし、大学の方針に従い遠隔授業の形を採ることになった場合は、レポート100%とします。答案等については返却はしませんが、全般的な評価と所見を授業内に提示します。							
授業計画	①監査プロセスの全体像							
	②財務諸表監査における要証命題							
	③経営者の主張と監査要点							
	④監査証拠(1) 監査証拠の分類							
	⑤監査証拠(2) 監査証拠の評価							
	⑥監査手続と試査							
	⑦リスク・アプローチの意義							
	⑧監査上の重要性							
	⑨監査戦略と監査計画							
	⑩監査計画と継続企業の前提の評価							
	⑪リスク・アプローチに基づく監査プロセス(1) 意義等							
	⑫リスク・アプローチに基づく監査プロセス(2) ビジネス・リスク・アプローチ							
	⑬監査報告書							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと復習							

科目名	経営分析A							
英文科目名	Financial Statements Analysis A							
担当者名	石井康彦							
科目ナンバリング	ACCT313							
授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。経営分析の考え方と分析指標について理解することを目標とする。この科目では、企業が公表する財務諸表をもとにしたベーシックな比率分析の指標について解説する。受講者には、それぞれの分析指標の使い方と意味を理解することが求められる。なお、財務諸表に関する基礎的な知識があることを前提に講義はすすめる予定である。なお、後半で外部講師を招聘し講演してもらう可能性がある。							
授業の方法	原則としてスライドを使用して講義する。配布したプリントの穴埋めをしながら進める。後半では証券報告書（一部抜粋）を配布するので、これを各自で分析し、質疑を交えながら議論をする。（アクティブラーニング）							
予習と復習	前半は次回とりあげる内容を紹介するので、事前に読んで理解すること（予習90分）。講義後は、配布したプリントを利用して授業後に復習をすること（復習90分）。講義内で紹介した財務比率等はレポートを作成するために必要であるので、復習し、理解しておくこと。							
テキスト等	テキストは指定しない。毎回配布するプリントを使って授業を進める。参考書は授業内で適宜指示す							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
				0%				0%
	レポートは最終回に返却する予定である。期末のレポートの代わりに、最終回に口頭発表をすることも可能である。口頭発表については、発表後に講評する。							
授業計画	①経営分析とは何か							
	②財務諸表の概要とその相互関係							
	③貸借対照表の概要							
	④損益計算書の概要							
	⑤キャッシュ・フロー計算書の概要							
	⑥収益性の分析（１）ROAとその分解							
	⑦収益性の分析（２）ROE							
	⑧安全性の分析							
	⑨効率性の分析							
	⑩利益の質と利益操作							
	⑪非財務情報の分析							
	⑫事例研究（１）アデランスの分析（変更の可能性あり）							
	⑬事例研究（２）帝人と御幸ホールディングスの分析（変更の可能性あり）							
	⑭レポート課題の作成方法・受講者による企業分析プレゼンテーション							
	⑮レポート返却・成績告知							

科目名	経営分析B							
英文科目名	Financial Statements Analysis B							
担当者名	石井康彦							
科目ナンバリング	ACCT314							
授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。企業価値の評価に用いられる基礎的な手法を理解することを目標とする。この講義では、企業と証券市場との関係を念頭に置きながら、企業価値を評価する方法について解説する。これを踏まえて、証券アナリストによる企業評価レポートを読んだり、また実際に簡単な企業評価を行ってみる予定である。カリキュラム上は経営分析Aの履修は当該科目の前提科目となっていないが、セットでの履修を強くすすめる。							
授業の方法	原則として、スライドを使用して講義を進める。各回の講義時間内でプリントを配布するので、話を聞きながら必要事項を記入すること。後半のケースでは証券報告書（一部抜粋）を各自読んで、議論を交えながら進めて行く（アクティブラーニング）。							
予習と復習	予習の必要はない。講義後は、配布したプリントを利用して復習をすること（復習180分）。講義内で紹介した財務比率等はレポートを作成するために必要であるので、十分に理解しておくこと。							
テキスト等	テキストは指定しない。毎回配布するプリントを使って授業を進める。参考書は授業内で適宜指示する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	70%	平常点	30%
				0%				0%
	レポートは最終回に返却する予定である。期末のレポートの代わりに、最終回に口頭発表をすることも可能である。口頭発表については、発表後に講評する。							
授業計画	①企業価値評価の視点							
	②現在価値計算の基礎							
	③株式の評価							
	④NPVとその他の評価基準の比較							
	⑤株主資本コスト（CAPM、 β ）							
	⑥加重平均資本コスト(WACC)							
	⑦資本構成、ROE・ROAとWACCの関係							
	⑧ゼミ発表会の聴講（振替授業）							
	⑨WACCの計算練習							
	⑩EVAとその他の類似指標							
	⑪企業価値の算定							
	⑫会計情報と株価の関係							
	⑬事例：イオンの分析（対象企業変更の可能性あり）							
	⑭まとめと復習、受講生によるプレゼンテーション							
	⑮レポート返却・成績告知							

科目名		税理士・財務諸表論(基礎)							
英文科目名		Advanced Financial Statements I							
担当者名		石井康彦							
科目ナンバリング		ACCT105							
授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。この講義は税理士試験の財務諸表論（または同等レベルの会計資格試験）の受験を考えている学生向けの講義である。受講者は、日商簿記検定2級もしくはこれと同等の検定試験に合格していなければならない。授業では、税理士試験（財務諸表論）の理論問題を解くために必要な会計制度とその理論的基礎を学ぶことを目標とする。個別の論点や個別基準の細部にわたる理解ではなく、各々の基準の基本的な考え方と、相互関係についての理解が進むような講義を心がけたいと考えている。また、上記の理解をふまえて、基本的な論点を問う論述問題の答案作成の方法の説明と練習を行う。								
授業の方法	事前に指定した内容について受講生に発表してもらい、それをもとに質疑を交えながら講義を進める。区切りのいいところで論述問題をとき、受講者相互にチェックする時間を設ける(アクティブラーニング)。								
予習と復習	次回の講義でとりあげる箇所を指示するので、該当箇所のまとめをして提出すること（予習90分）。あわせて講義での学習をうけた課題をとき、復習もすること（90分）。								
テキスト等	桜井久勝著『財務会計講義』（中央経済社）中央経済社編『会計法規集』（中央経済社）いずれも4月時点の最新版を使用。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	毎回の講義での課題			100%	0%				
	講義中または自宅学習の論述課題については、添削して返却する。テキストの要約については講義開始または終了時に確認し、必要に応じてその場でコメントする。								
授業計画	①オリエンテーション、面接								
	②会計の社会的機能・会計公準								
	③一般原則								
	④財務会計の概念フレームワーク								
	⑤利益計算と資産評価の基本原則								
	⑥現金・預金、有価証券								
	⑦売上高と売上債権								
	⑧棚卸資産と売上原価								
	⑨有形固定資産と減価償却								
	⑩リース資産・負債								
	⑪無形固定資産と繰延資産								
	⑫繰延税金								
	⑬負債・資産除去債務								
	⑭税理士試験（財務諸表論）の過去問題を使った答案作成練習								
	⑮まとめと復習								

科目名		税理士・財務諸表論(応用)							
英文科目名		Advanced Financial Statements II							
担当者名		石井康彦							
科目ナンバリング		ACCT106							
授業の概要と到達目標	商学部のディプロマポリシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目である。税理士試験（財務諸表論）の理論問題の答案が作成のための基礎知識と論述の仕方を身につけることを目標とする。講義を前半3分の2程度にとどめ、3分の1程度は答案作成の練習に当てる予定である。毎回、テキスト・基準書のまとめや論述などの課題があり、次回の講義で確認する。								
授業の方法	事前に指定した内容について受講生に発表してもらい、それをもとに質疑を交えながら講義を進める。区切りのいいところで論述問題をとき、受講者相互にチェックする時間を設ける(アクティブラーニング)。								
予習と復習	次回の講義でとりあげる箇所を指示するので、該当箇所のまとめをして提出すること（予習90分）。あわせて講義での学習をうけた課題をとき、復習もすること（90分）。								
テキスト等	桜井久勝著『財務会計講義』（中央経済社）中央経済社編『会計法規集』（中央経済社）いずれも4月時点の最新版を使用。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	毎回の講義での課題			100%					0%
	講義中または自宅学習の論述課題については、添削して返却する。テキストの要約については講義開始または終了時に確認し、必要に応じてその場でコメントする。								
授業計画	①退職給付（1）年金資産・負債と退職給付費用								
	②退職給付（2）過去勤務費用と未認識過去勤務費用								
	③株主資本と純資産								
	④M&Aの会計処理								
	⑤連結基礎概念と連結原則								
	⑥連結貸借対照表								
	⑦連結損益計算書								
	⑧連結キャッシュ・フロー計算書								
	⑨外貨建取引								
	⑩外貨表示財務諸表の換算								
	⑪ディスクロージャー制度（1）会社法・証券取引法にもとづく開示制度								
	⑫ディスクロージャー制度（2）取引所の要請による開示								
	⑬会計基準の国際的動向								
	⑭答案作成の練習（過去問）								
	⑮まとめと復習								

科目名	税理士・税法(基礎)							
英文科目名	Tax Law I							
担当者名	伊藤義之							
科目ナンバリング	ACCT107							
授業の概要と到達目標	税理士・税法(基礎)は、税理士養成プログラムとして、将来、職業会計人としての税理士等を志望し、試験合格に向けて自助努力する学生を支援する科目であるとともに、商学部のディプロマシー「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できること」を達成するための科目でもあります。具体的には、租税法全般に亘る基礎的な知識の付与と法律的な思考力が身に付けられるよう授業を行います。租税法の基本的な構造・枠組みと理論のみならず税制度の背景についても理解が深まるように学習します。そして、履修生の皆さんが、将来、税理士を始め会計の専門家として税に取り組む礎を構築することを目標とします。その他、租税(法)を巡る新聞記事などの随時紹介とディスカッションを行い実務的な素養も身に付けます。また、ガイダンス時には、学習目標明確化のためシラバスを説明します。なお、国税組織等行政庁の勤務経験を活かし、法律(税法等)・行政と政治、経済そして社会との関連について実例を踏まえて指導します。							
授業の方法	授業は、自律的な学習(アクティブ・ラーニング)を促進するため、講義に関する質疑応答やディスカッションを始め、具体的な租税事件(判例・裁決例)を取り上げて全員で事案概要や判旨・評釈などを輪読・ディスカッションを行うなど毎回対話型・双方向授業を実施します。							
予習と復習	予習(180分) 次回授業に該当する基本教材の箇所を事前に精読し、各自要点をレポートにまとめておくこと。復習(180分) 授業後、その日のうちに基本教材、レジュメ・参考資料等とともに授業内容を再確認すること。							
テキスト等	テキスト指定はありません。国税庁・税務大学校HPに掲載(ダウンロード可・印刷可)されている税大講本『税法入門』の他、『各税法編』を基本教材としますが、毎回レジュメや参考資料等を配付します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック】授業内試験において筆記試験を行います。結果について返却せずに全般的な評価と所見を掲示等(クラスルーム・ストリーム掲載含む)します。							
授業計画	①ガイダンスー授業の進め方や評価方法などシラバスを基に説明ほか税理士(制度)について							
	②租税法概論①ー租税の意義・仕組み・役割、租税(法)体系、税務行政など							
	③租税法概論②ー租税債権の成立、税務調査と滞納整理(徴収)、権利救済制度など							
	④租税法概論③ー租税法概論に関する判例などの事例学習							
	⑤所得税法①ー所得税の概要、申告と納付など							
	⑥所得税法②ー所得税に関する判例などの事例学習							
	⑦法人税法①ー法人税の概要、申告と納付など							
	⑧法人税法②ー法人税に関する判例などの事例学習							
	⑨国際課税ー国際課税の概要、判例などの事例学習							
	⑩相続税法①ー相続税・贈与税・財産評価の概要、申告と納付など							
	⑪相続税法②ー相続税・贈与税・財産評価に関する判例などの事例学習							
	⑫消費税法ー消費税の概要、申告と納付、判例などの事例学習							
	⑬間接諸税ー酒税などの間接諸税の概要、申告と納付、判例などの事例学習							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮地方税法ー地方税の概要、申告と納付、判例などの事例学習のほかまとめと総復習							

科目名		税理士・税法(応用)							
英文科目名		Tax Law II							
担当者名		住倉毅宏							
科目ナンバリング		ACCT108							
授業の概要と到達目標	本授業は、税理士試験を目指す人のために、主に法人税法について詳しい説明を行い、法人税法全般について受験に必要な基礎的な理解を深めることを目標とします。法人税法は課税所得の算出において、企業の利益計算に多くの修正を加えます。授業では、法人法が企業の利益計算に修正を加えるその背景や制度趣旨、次いでその具体的な所得算定、さらには重要な裁判例について説明を行います。また、国税の職場での勤務経験も踏まえ、社会で実際に問題となっていることにも触れたいと思っています。授業の範囲としては、法人税法の基本的な制度に加え、グループ法人税制、連結納税制度、グループ通算制度、組織再編税制、国際課税などについても扱う予定です。この授業は、「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる人材を育成する」というディプロマ・ポリシーを達成するための科目です。したがって、税法の学習には、簿記・会計の知識を必須とし、さらに法律の応用科目として憲法・民法の知識も求められます。履修に当たってはこれらの分野の学習も心掛けてください。								
授業の方法	講義形式で行いますが、ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、一部の授業回で実施します。判例研究を行うとともに、計算問題も扱います。また、レポート作成に役立つ資料収集方法の実習を図書館において行うことも予定しています。								
予習と復習	予習（90分）事前にテキストとして配付するレジュメを精読し、要点をまとめておくこと復習（90分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認すること								
テキスト等	テキストとして毎回の講義においてレジュメを配布。参考資料として税務大学校講本『法人税法』、『税法入門』（税務大学校HP）その他講義内で示すもの								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	50%	
				0%				0%	
	平常点は、出席及び授業の場での発言状況により評価します。レポート 学期内に理解度を確認するために、1回実施。レポートについての全般的な所見を授業内等で伝達します。								
授業計画	①ガイダンス及びわが国における租税制度の概要等								
	②法人税法総論（1）（法人税の基本構造）								
	③法人税法総論（2）（課税所得の計算原理）								
	④益金の額の計算（1）（収益の計上等）								
	⑤益金の額の計算（2）（受取配当益金不算入等）								
	⑥損金の額の計算（1）（費用計上時期、役員給与等）								
	⑦損金の額の計算（2）（寄附金課税、交際費等）								
	⑧損金の額の計算（3）（減価償却等）								
	⑨損金の額の計算（4）（引当金、損失）								
	⑩繰越欠損金、税額控除、申告等								
	⑪公益法人に対する課税								
	⑫租税争訟制度、グループ法人税制								
	⑬グループ通算制度、組織再編税制								
	⑭国際課税								
	⑮まとめと総復習								

科目名	経営学概論A							
英文科目名	Introduction to Business Management A							
担当者名	小林康一, 木佐森健司, 大芝周子							
科目ナンバリング	MGMT101							
授業の概要と到達目標	本科目では、経営学やビジネスを学ぶその第一歩として、会社に関する知識を広く学びます。みなさんは、将来、会社の社員あるいは経営者として活躍することを目標としているはずです。そのため、将来的には、経営学の主要科目である経営管理論や経営組織論、経営戦略論を履修すると思います。ところが、これらの専門科目を十分理解するには、まず、最初に会社に関する広い知識と深い理解が何よりも大切です。経営学とは、会社を対象とする学問だからです（ちなみに、顧客を対象とするのは、マーケティングです）。なお、本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を育成するための科目です。							
授業の方法	テキストまたはその他資料等を使用して授業を行います。講義の仕方は、パワーポイントもしくはレジュメを配布して行います。アクティブラーニングとして、学生に発言を求めます。							
予習と復習	テキストまたはその他資料等について、予習と復習をしてください。							
テキスト等	テキストまたはその他資料等については、ガイダンス時に教員が指示します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	著しく欠席が多い場合は、たとえ定期試験ができたとしても、大幅な減点となりますのでご注意ください（詳細については、ガイダンスでお知らせします）。							
授業計画	①ガイダンス							
	②仕事とは何か（人は何のために働くのか）							
	③仕事とは何か（仕事とは）							
	④仕事とは何か（雇用と就職・転職）							
	⑤経済とは何か（日本の経済と産業）							
	⑥経済とは何か（国際経済）							
	⑦会社とは何か（大企業・中小企業・多国籍企業）							
	⑧会社とは何か（長寿企業、ベンチャー企業）							
	⑨会社とは何か（ブラック&ホワイト企業、NGO）							
	⑩株式会社とは何か（定義、仕組み）							
	⑪株式会社とは何か（運営、株主）							
	⑫株式会社とは何か（コーポレートガバナンス）							
	⑬会計とは何か（会計とは）							
	⑭会計とは何か（経営における会計の役割）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経営学概論B							
英文科目名	Introduction to Business Management B							
担当者名	小林康一, 木佐森健司, 大芝周子							
科目ナンバリング	MGMT102							
授業の概要と到達目標	本科目では、経営学やビジネスを学ぶその第一歩として、会社に関する知識を広く学びます。みなさんは、将来、会社の社員あるいは経営者として活躍することを目標としているはずです。そのため、将来的には経営学の主要科目である経営管理論や経営組織論、経営戦略論を履修すると思います。そうした次年度の専門科目の学習に向けて、それぞれの基本的な内容を本講座では網羅的に学んでいきます。なお、本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を育成するための科目です。							
授業の方法	テキストまたはその他資料等を使用して授業を行います。講義の仕方は、パワーポイントもしくはレジュメを配布して行います。アクティブラーニングとして、学生に発言を求めます。							
予習と復習	テキストまたはその他資料等について、予習と復習をしてください。							
テキスト等	テキストまたはその他資料等は、ガイダンスの時に教員から指示します。							
評価方法	定期試験	60%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	著しく欠席が多い場合は、たとえ定期試験ができたとしても、大幅な減点となりますのでご注意ください（詳細については、ガイダンスでお知らせします）。							
授業計画	①ガイダンス							
	②経営学の体系と学び							
	③経営戦略（成長を目指す戦略（全社戦略））							
	④経営戦略（競争優位の戦略（事業戦略））							
	⑤経営戦略（ビジネスの仕組みを考える（ビジネスモデリング））							
	⑥マーケティング（顧客を考える（STP））							
	⑦マーケティング（ビジネスをつくる（4P））							
	⑧経営組織（“カイシャ”視点からみる組織）							
	⑨経営組織（“ヒト”視点からみる組織）							
	⑩HRM（日本の雇用）							
	⑪HRM（採用と給与）							
	⑫生産管理（ものづくりの経営）							
	⑬経営と情報（その意義と職場の情報化）							
	⑭経営と法務（職場で求められる法律とは）							
	⑮まとめと復習							

科目名	はじめての経営学							
英文科目名	Business Management Studies for Beginners							
担当者名	木佐森健司							
科目ナンバリング	MGMT103							
授業の概要と到達目標	この講義は、経営学部教員の担当者がオムニバス形式で行い、各教員が、経営学部で学べる領域や専門分野の導入部分を解説していく。学生には、①経営学部における学びの全体像を理解すること、②自らの興味・関心に応じた学びに対する動機付けを行うこと、③2年次からの専門ゼミナール選択やコース選択に向けての基礎情報を得ることを目標とする。授業では質疑等において積極的な発言を促すことで主体的な学びに向けて、一歩前に踏み出す力（主体性）の基本的な態度、能力の育成を目指す。またディプロマポリシーとの関連については、経営学部もディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」としての必要な幅広い基礎的知識や興味関心を培うことを目的としている。							
授業の方法	オムニバス形式で講義をおこなう。講義では担当者の裁量に応じてアクティブラーニング(授業内ワーク、質疑応答、グループワーク、ディベート等)を取り入れる。※ 新型コロナウイルス感染防止策に関する要請等により方法・計画等を適宜変更する場合があります。							
予習と復習	(予習) 各回の担当教員の指示に従い、課題の提出や事前の準備を行うこと。(復習) 授業で配布された資料等を読み返す。高千穂大学の経営学部専門科目のシラバスを再読し、履修のイメージをつくる。							
テキスト等	特になし。各回において担当教員が資料等を準備する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	50%
				0%				0%
	授業計画で示した授業内試験の日程は、講義進行の状況等に応じて変更する場合があります。							
授業計画	①ガイダンス（担当：木佐森）							
	②小林先生『経営学と人のこころ』							
	③中山先生『ものづくりの経営学』							
	④田口先生『経営学からヒトをみる』							
	⑤木佐森『企業の成長戦略と経営組織』							
	⑥竹内先生『経営学と販売管理論』							
	⑦第1回授業内試験（担当：木佐森）							
	⑧村上先生『取締役の選解任から学ぶ株式会社制度』							
	⑨山里先生『社会・生活の基盤としての「契約」』							
	⑩永戸先生『プラットフォームの経営戦略』							
	⑪笹金先生『経営におけるさまざまなIT化』							
	⑫藤木先生『中小企業の面白さを学ぶ』							
	⑬城先生『イノベーションでジャンプ』							
	⑭第2回授業内試験（担当：木佐森）							
	⑮葛西先生『自分の人生を自分で選ぶために』							

科目名	経営史A							
英文科目名	Business History A							
担当者名	大島久幸							
科目ナンバリング	MGMT201							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>目まぐるしく変化する経済状況を現代の視点だけから後追い的に見るだけでは変化の本当の意味を捉えることはできない。本講義では18世紀から20世紀までのイギリス・アメリカのビジネスの歴史を概観することによって、長期にわたる経営システムの変遷を理解する。<到達目標>本講義では、企業が歴史上の様々な時期において直面した経営上の課題やその解決の具体像、企業行動の背後の問題や経緯を理解しつつ、現代にいたる企業経営行動の歴史的発展傾向を把握することを目的とする。なお本講義は、企業経営、経営法務、起業・事業承継、情報のコース制の下、専門的知識の深化を目指すための科目である。							
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、自律的な学習(アクティブ・ラーニング)を促進するため、小テストやリアクションペーパーによる講義内容の理解確認を行う。							
予習と復習	予習(90分)テキスト・配布資料をもとに次回の講義に関する内容を調べ、疑問点についてまとめておくこと。復習(90分)当日の講義内容について、配布資料をもとに復習し、重要な点などを追記しておくこと。							
テキスト等	安部悦生・壽永欣三郎・山口一臣・宇田理・高橋清美・宮田憲一『ケースブック アメリカ経営史(新版)』(有斐閣、2020年)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%
	オンライン試験		50%					0%
	【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。学期末にオンライン試験を実施する。							
授業計画	①経営史学の思考方法							
	②経済覇権の変遷							
	③ガーシェンクロンモデル							
	④アメリカ型経営の発展・停滞・再生							
	⑤鉄道業の発展と衰退							
	⑥アメリカ鉄鋼業とカーネギー							
	⑦ロックフェラーと石油産業							
	⑧デュポン社							
	⑨自動車産業とフォード							
	⑩フォードとGM							
	⑪シアーズ							
	⑫チャンドラー・モデルとアメリカの経営発展							
	⑬授業内試験について							
	⑭まとめと総復習							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経営史B								
英文科目名	Business History B								
担当者名	大島久幸								
科目ナンバリング	MGMT202								
授業の概要と到達目標	<授業の概要>現代企業が直面する様々な問題に対処する上で、近代以降の企業経営の歴史から多くの示唆を得ることができよう。本講義では、近代から現代までの日本企業の歴史的な起源や日本の経済発展を各時代に中核的なトピックを取り上げながら学んでいきたい。<到達目標>日本の企業発展の基本的な視点と考え方についての知識の把握を到達目標とする。なお本講義は、企業経営、経営法務、起業・事業承継、情報のコース制の下、専門的知識の深化を目指す科目である。								
授業の方法	この講義では、専ら講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、自律的な学習(アクティブ・ラーニング)を促進するため、小テストやリアクションペーパーによる講義内容の理解確認を行う。								
予習と復習	予習(90分)配布資料をもとに次回の講義にか関する内容を調べ、疑問点についてまとめておくこと。復習(90分)当日の講義内容について、配布資料をもとに復習し、重要な点などを追記しておくこと。								
テキスト等	宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編著『1からの経営史』碩学舎								
評価方法	定期試験	50%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%	
	特になし			0%	特になし			0%	
	【課題(試験やレポート等)に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示する。								
授業計画	①江戸時代の経営								
	②明治の企業家たち								
	③近代産業経営の成立								
	④財閥の多角化と組織								
	⑤重化学工業化と新興財閥								
	⑥技術経営の誕生								
	⑦「日本的」人事管理とサラリーマンの誕生								
	⑧都市型ビジネスの成立								
	⑨経済民主化と企業変革								
	⑩大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展								
	⑪企業集団とメインバンク								
	⑫日本的生産システムの形成								
	⑬流通イノベーション								
	⑭変貌する総合商社								
	⑮日本的経営とその変容								

科目名	経営管理論A							
英文科目名	Business Management A							
担当者名	大芝周子							
科目ナンバリング	MGMT203							
授業の概要と到達目標	【授業概要】 この授業では、経営管理に関する理論や知識を紹介しします。経営管理論を身近で楽しいものと感じられるよう、具体的な事例を交えながら、授業を行います。また、(1)外部講師による講義を計画しています。理論が、経営管理の現場でどう使われているかを、感じて下さい。(2)授業内で、受講生同士のディスカッション（一部の回で受講生を数名のグループに分け、ディスカッションを行い、グループ代表が発表）や、クリッカーを用いて受講生の考えを求めることがあります。理論や知識を、自分の身近な問題に当てはめて考えてみることで、理論や知識の実践力を身につけてほしいためです。 【到達目標】 ①経営管理論の理論や知識を理解し、自分の言葉で、説明できるようになる②経営管理に関する、現実の問題や具体的事例を知り、自分の関心や問題意識を明らかにする③上記について、自分の意見をもち、他の人に伝えられるようになるこうしたことを通じて、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学び、ライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」の育成を達成するための科は							
授業の方法	○授業はPower Pointを使って行います。○アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でディスカッションを行います。○スマートフォンを用いたクリッカ（Googleフォーム）を用い、授業内に受講生に意見を求めるといったことも、必要に応じて実施します。							
予習と復習	○予習（90分） 次回の内容に関連する文献（参考図書の該当章、新聞記事など）を指定するので、読み、キーワードを理解してきてください。○復習（90分） 講義内で、その日の内容に関する問いかけを提示します。それについて考え、意見をまとめておいてください。							
テキスト等	〈参考図書〉高橋伸夫編著(2011)『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房。藤芳明人(2010)『経営管理学』学文社。その他、授業内で適宜、紹介します。							
評価方法	定期試験	70%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	○平常点は、授業内で行うディスカッション（グループごとのディスカッション）や、クリッカーを用いた教員からの問いかけに対し、積極的に参加しているか、で点数をつけます。○授業内に行う試験は返却せず、全般的な評価と所見をフィードバックとして提示します。							
授業計画	①ガイダンス							
	②古典的管理論 ①科学的管理法							
	③古典的管理論 ②人間関係論							
	④近代的管理論 ①バーナードによる組織論的管理論							
	⑤近代的管理論 ②サイモンの意思決定論							
	⑥モチベーション論							
	⑦リーダーシップ論 ①理論							
	⑧リーダーシップ論 ②事例							
	⑨組織構造論							
	⑩組織文化論							
	⑪外部講師による講義（現場から見た経営管理について）							
	⑫日本的経営管理							
	⑬日本企業の国際化							
	⑭グローバル化時代における経営管理							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経営管理論B							
英文科目名	Business Management B							
担当者名	大芝周子							
科目ナンバリング	MGMT204							
授業の概要と到達目標	現代社会を理解し、より良い社会を創っていくためには、企業や様々な組織がどのようなマネジメント活動を展開し、それらがどう相互作用しあっているかを丁寧に読み解く必要があります。この授業では、企業のマネジメント活動に関連する理論や概念を、事例を交えながら紹介します。【到達目標】①マネジメントに関する理論や知識を理解し、自分の言葉で、説明できるようになる②マネジメントに関する、現実の問題や具体的事例を知り、自分の関心や問題意識を明らかにする③上記について、自分の意見をもち、他の人に伝えられるようになる○外部講師による講義を予定しています。マネジメントの現場の話聞き、いま学んでいる理論や概念が、現実とつながっていることを、体感して下さい。○この授業は、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学び、ライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」、「国際的経営センスを有するビジネス・パーソン」の育成を達成するための科目です。							
授業の方法	Power Pointを使い行う。アクティブラーニングとして、一部の回でディスカッション（数名のグループに分け、ディスカッションし、グループ代表が発表）を行う。スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）を用い、意見を求めることも必要に応じて実施。							
予習と復習	○予習（90分） 次回の内容に関連する文献（参考図書の該当章、新聞記事など）を指定するので、読み、キーワードを理解してきてください。○復習（90分） 講義内で、その日の内容に関する問いかけを提示します。それについて考え、意見をまとめておいてください。							
テキスト等	〈参考図書〉高橋伸夫編著(2011)『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房。その他、授業内で適宜、紹介します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	○平常点は、授業内で行うディスカッション（グループごとのディスカッション）や、クリッカーを用いた教員からの問いかけに対し、積極的に参加しているか、で点数をつけます。○授業内に行う試験は返却せず、全般的な評価と所見をフィードバックとして提示します。							
授業計画	①ガイダンス							
	②マネジメントとは							
	③日本における組織論研究							
	④新しい組織のかたち							
	⑤地域における人材育成							
	⑥国際経営戦略							
	⑦途上国における経営活動							
	⑧外部講師による講義							
	⑨全社戦略							
	⑩競争戦略							
	⑪資源ベース論							
	⑫ダイナミック・ケイパビリティ論							
	⑬企業の社会的責任							
	⑭非営利組織の経営管理							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経営戦略論A							
英文科目名	Business Strategy A							
担当者名	松崎和久							
科目ナンバリング	MGMT209							
授業の概要と到達目標	本授業では、伝統的な経営戦略論から最近のデジタル経営戦略まで幅広く取り上げます。まず伝統的な経営戦略論では、戦略論の主流を大きく8つのスクール（学派）に分け、それぞれの起源から今日までの発展そして代表的な学説等を詳しく学びます。また、近年のビジネスシーンでは、DXやAI、IoTなど最先端技術の飛躍的な進歩から、ビジネスモデル、マネタイズ、サブスク、プラットフォームそしてエコシステムなど、従来の戦略論とは異なる新しい概念が登場しています。そこで、これらデジタル経営戦略に関する最新の知見等についても授業で取り上げます。本授業では、国内外の代表的な企業の事例研究を盛り込み、学習者の理解と知識の定着を促進することに加え、実務家の方を招待して授業をお願いすることも考えています。最後に、本授業は、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目です。当該科目を学生が学修するにあたり、併せて履修することが望ましい科目として、国際経営論があげられます。							
授業の方法	本授業は、パワーポイントを使用して行ないます。その内容は基本テキストを要約したものなので、詳細や不明な点等は、基本テキストで再度確認してください。また、授業中に積極的な質問や意見を受け付けるアクティブ・ラーニングを実施します。							
予習と復習	「復習90分」授業後、その日のうちに基本テキストを通じて講義内容を再確認すること。							
テキスト等	教科書は、松崎和久（2022）『デジタル時代のエコシステム経営』同文館出版。参考書は、松崎和久（2018）『経営戦略の方程式』税務経理協会。前書の内容は、最新のデジタル経営戦略について、後書は、経営戦略論の体系と基本について整理しています。							
評価方法	定期試験	70%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	授業や課題などで不明な点は、クラスルームにある質問フォームを通じて、その都度、回答します。							
授業計画	①ガイダンス（本講義の狙いと進め方）							
	②戦略論の出発点（戦略論の起源）＆エコシステムの高まり（ビックテック）							
	③戦略論の出発点（主な軍事戦略論）＆エコシステムの高まり（モジュール化）							
	④戦略の構築（戦略マネジメントプロセス）＆概念の応用（応用化の実態）							
	⑤戦略研究の系譜（成長、分析、競争）＆台頭する理由（生物学、新経済、デジタル）							
	⑥戦略研究の系譜（資源、ゲーム、新戦略論）＆台頭する理由（規制、IoT、オープン）							
	⑦企業成長（多角化、戦略的撤退）＆エコシステムとは何か（概念、VP、GVC）							
	⑧企業成長（内部開発、戦略提携）＆エコシステムの構成要素（オーケストレーター）							
	⑨企業成長（M&A）＆エコシステムの構成要素（コンプリメンター）							
	⑩企業成長（イノベーション）＆エコシステムの構成要素（フレネミー）							
	⑪企業成長（標準化）＆エコシステムの構成要素（補完財と代替財）							
	⑫企業成長の戦略論（知財）＆エコシステムによる戦い方（マインドセット）							
	⑬企業分析（全般的環境、業界環境、内部環境、経験曲線）＆戦い方（競争）							
	⑭企業分析（PLC、PPM、アナリティクス）＆戦い方（協働）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経営戦略論B							
英文科目名	Business Strategy B							
担当者名	松崎和久							
科目ナンバリング	MGMT210							
授業の概要と到達目標	本授業では、伝統的な経営戦略論から最近のデジタル経営戦略まで幅広く取り上げます。まず伝統的な経営戦略論では、戦略論の主流を大きく8つのスクール（学派）に分け、それぞれの起源から今日までの発展そして代表的な学説等を詳しく学びます。また、近年のビジネスシーンでは、DXやAI、IoTなど最先端技術の飛躍的な進歩から、ビジネスモデル、マネタイズ、サブスク、プラットフォームそしてエコシステムなど、従来の戦略論とは異なる新しい概念が登場しています。そこで、これらデジタル経営戦略に関する最新の知見等についても授業で取り上げます。本授業では、国内外の代表的な企業の事例研究を盛り込み、学習者の理解と知識の定着を促進することに加え、実務家の方を招待して授業をお願いすることも考えています。最後に、本授業は、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目です。当該科目を学生が学修するにあたり、併せて履修することが望ましい科目として、国際経営論があげられます。							
授業の方法	本授業は、パワーポイントを使用して行ないます。その内容は基本テキストを要約したものなので、詳細や不明な点等は、基本テキストで再度確認してください。また、授業中に積極的な質問や意見を受け付けるアクティブ・ラーニングを実施します。							
予習と復習	「復習90分」授業後、その日のうちに基本テキストを通じて講義内容を再確認すること。							
テキスト等	教科書は、松崎和久（2022）『デジタル時代のエコシステム経営』同文館出版。参考書は、松崎和久（2018）『経営戦略の方程式』税務経理協会。前書の内容は、最新のデジタル経営戦略について、後書は、経営戦略論の体系と基本について整理しています。							
評価方法	定期試験	70%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	授業や課題などで不明な点は、クラスルームにある質問フォームを通じて、その都度、回答します。							
授業計画	①ガイダンス（本講義の狙いと進め方）							
	②競争戦略（競争戦略）& ビジネス・エコシステム（キーストーン戦略）							
	③競争戦略（競争地位）& ビジネス・エコシステム（ダイナミックケイパビリティ）							
	④競争戦略（同業種内と異業種間）& ビジネス・エコシステム（ライフサイクル）							
	⑤資源ベース（経営資源論）& プラットフォーム・エコシステム（意味と定義）							
	⑥資源ベース（RBV、コア・コンピタンス）& プラットフォーム・エコシステム（研究）							
	⑦資源ベース（コアレジリティ）& プラットフォーム・エコシステム（形成者）							
	⑧ゲーム理論（囚人のジレンマ等）& プラットフォーム・エコシステム（論理）							
	⑨ゲーム理論（コーペティション）& プラットフォーム・エコシステム（レベニュー）							
	⑩ブルーオーシャン（BOSとROS）& プラットフォーム・エコシステム（事例）							
	⑪ブルーオーシャン（BOSとROSの比較）& プラットフォーム・エコシステム（事例）							
	⑫収益化（ビジネスモデルとは何か）& イノベーション・エコシステム（戦略とリスク）							
	⑬収益化（マネタイゼーション）& イノベーション・エコシステム（S字カーブ）							
	⑭収益化（様々なビジネスモデル）& イノベーション・エコシステム（事例）							
	⑮まとめと復習							

科目名	経営組織論A							
英文科目名	Business Organization A							
担当者名	木佐森健司							
科目ナンバリング	MGMT211							
授業の概要と到達目標	〈授業の概要〉 私達は、一人では難しいけれども他者と協働することで成し遂げることのできる出来事へ直面したとき、組織を形成します。現代の社会生活は、企業組織あるいは公務組織、学校、家庭といった様々な組織を通じて成り立っています。経営組織論はこれら組織の中でも、特に企業組織について学ぶ学問です。授業では、さまざまな人々の活動で成り立っている組織を動かすために必要となる理論と方法について、具体的な事例とともに講義します。なお、外部講師（1回）を招聘する場合があります。〈到達目標〉 企業経営に関する基礎的な理解をふまえ、組織現象を捉えるための視点として組織の本質、ならびに組織形態の基本類型を理解することを目指します。経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」および「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目である。							
授業の方法	講義を中心とし遠隔講義等の場合は資料配信、オンデマンド、同期型を併用する。適切な内容理解がなされているか確認するとともに理解を深めるため必要に応じ授業内討議（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。学生の理解度および進捗にあわせ授業計画は適宜変更する。							
予習と復習	＜予習（90分）＞ 事前に指定範囲のテキストを精読し要点を整理しておくこと。＜復習（90分）＞ 復習を心がけ、特に講義内容について記載したノートを確認するとともに、身近な組織現象と講義内容を照らし合わせ理解を深めること。							
テキスト等	鈴木竜太(2018)『経営組織論（はじめての経営学）』ミネルヴァ書房. ※ その他、参考文献は適宜、講義中に案内する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	15%
	小テスト		85%					0%
	授業内で適宜、理解度確認のため小テストを実施する。小テストに関する所見は授業内で開示する。							
授業計画	①イントロダクション							
	②組織論とはどのような学問か							
	③組織を動かす基本設計							
	④組織を動かすメカニズム							
	⑤効率的に目標を達成する：組織の構造							
	⑥個人に能力を発揮してもらう：モチベーションとリーダーシップ							
	⑦ベクトルを揃える							
	⑧より良い意思決定を行う							
	⑨環境と折り合う							
	⑩個々人の成長を促す							
	⑪新たなことを学ぶ							
	⑫外の力を活かす							
	⑬組織を変える							
	⑭ケース・スタディ							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経営組織論B							
英文科目名	Business Organization B							
担当者名	木佐森健司							
科目ナンバリング	MGMT212							
授業の概要と到達目標	〈授業の概要〉本講義では、企業組織が成長し発展するメカニズムを理解するために必要となる基礎的な諸理論を概説します。講義の前半は「経営組織の形成と発展」と題し、ケースを用いつつ、新たな組織形態が形成されてきた過程を追いながら、各形態の特徴について理解を深めます。後半は、「経営組織の理論と系譜」と題し、経営組織論の学説史を整理します。〈到達目標〉企業における組織をめぐる経営課題の変遷とそれに伴う組織学説の変遷を理解することで、組織現象を捉え自ら理論を構築してゆくために必要となる基本的な視点の獲得を目指す。経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」および「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目である。							
授業の方法	講義を中心とし遠隔講義等の場合は資料配信、オンデマンド、同期型を併用する。適切な内容理解がなされているか確認するとともに理解を深めるため必要に応じ授業内討議（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。学生の理解度および進捗にあわせ授業計画は適宜変更する。							
予習と復習	＜予習（90分）＞ 事前に指定範囲のテキストを精読し要点を整理しておくこと。＜復習（90分）＞ 復習を心がけ、特に講義内容について記載したノートを確認するとともに、身近な組織現象と講義内容を照らし合わせ理解を深めること。							
テキスト等	藤井耐 編著(2003)『経営学の新展開』ミネルヴァ書房。※ その他、参考文献は適宜、講義中に案内する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	15%
	小テスト		85%					0%
	授業内で適宜、理解度確認のため小テストを実施する。小テストに関する所見は授業内で開示する。							
授業計画	①イントロダクション							
	②経営組織の形成と発展							
	③集権的職能別部門制組織							
	④分権的事業部制組織							
	⑤マトリックス制組織							
	⑥一部事業部制・カンパニー制							
	⑦持株会社制組織							
	⑧コーポレート・ガバナンス							
	⑨経営組織の理論と系譜							
	⑩伝統的組織構造論							
	⑪コンティンジェシー組織論							
	⑫組織的知識創造論							
	⑬組織理論のパラダイム							
	⑭コスミックパースペクティブ・カオティックパースペクティブ							
	⑮まとめと総復習							

科目名	国際経営論A							
英文科目名	International Business Management A							
担当者名	松崎和久							
科目ナンバリング	MGMT301							
授業の概要と到達目標	本講義では、現代のグローバル企業について2つの側面から学習します。それは、国際経営論の基本とグローバル企業を巡る新たな動向です。講義の前半では、国際経営論の基礎となる世界の政治、経済、文化、民族の違いと日本企業の国際化の歴史・進化について深く学びます。講義の後半では、今日のグローバル企業を取り巻く新たな変化や動向として、シェアリング・エコノミー、人工知能、ロボットや3Dプリンター、IoTなど、新技術や新プロセスについて広く学びます。なお、本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシー「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンの養成」を育成するための科目です。							
授業の方法	授業のしかたは、パワーポイントで行ないます。パワーポイントで説明した資料を配布資料として毎回準備しますので、学生諸君は配布資料に特記事項などを書き込み、理解に努めて下さい。授業では、アクティブ・ラーニング（ディスカッション）をおこないます。							
予習と復習	毎回、インターネットベースで配布する講義資料と指定した基本テキストを使用し、予習(90分)と復習(90分)に努めてください。特に、復習(90分)は、講義後、その日のうちに講義内容を再確認してください。							
テキスト等	松崎和久（2016）『テクノロジー経営入門』同友館							
評価方法	定期試験	70%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	著しく欠席が多い場合は、たとえ定期試験ができたとしても、大幅な減点となりますのでご注意ください（詳細については、ガイダンスでお知らせします）。							
授業計画	①ガイダンス							
	②世界の対立&シェアリング・エコノミー							
	③世界の人間と環境 PART1&シェアリング・エコノミー企業							
	④世界の人間と環境 PART2 & コンピュータの未来							
	⑤世界の思想と哲学（宗教）& D A R P A							
	⑥世界の新しい成長エンジン&人工知能							
	⑦TOP市場戦略&人工知能							
	⑧BOP市場戦略&自動運転							
	⑨BT0とオフショアリング&産業用ロボット							
	⑩国の競争優位とは何か&産業用ロボット							
	⑪国の競争優位と国家戦略&サービスロボット							
	⑫グローバル市場参入戦略（輸出、海外生産）& 3Dプリンター							
	⑬総合商社の機能と役割& 3Dプリンター							
	⑭多国籍企業とは何か&IoT							
	⑮まとめと総復習							

科目名	国際経営論B							
英文科目名	International Business Management B							
担当者名	松崎和久							
科目ナンバリング	MGMT302							
授業の概要と到達目標	本講義では、現代のグローバル企業について2つの側面から学習します。それは、国際経営論の基本とグローバル企業を巡る新たな変化や動向です。講義の前半では、国際税務、タックスヘイブン、国際調達、国際HRM、国際経営戦略、国際経営組織、国際企業文化等について深く学びます。講義の後半では、今日のグローバル企業の経営に強い影響を及ぼす新技術や新プロセスがグローバル企業の「マネジメント」「モノづくり」「製品」「雇用」等にどんなインパクトを与えるのかについて広く学びます。なお、本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシー「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンの養成」を育成するための科目です。							
授業の方法	授業のしかたは、パワーポイントで行ないます。パワーポイントで説明した資料を配布資料として毎回準備しますので、学生諸君は配布資料に特記事項などを書き込み、理解に努めて下さい。授業では、アクティブ・ラーニング（ディスカッション）をおこないます。							
予習と復習	毎回、インターネットベースで配布する講義資料と指定した基本テキストを使用し、予習(90分)と復習(90分)に努めてください。特に、復習(90分)は、講義後、その日のうちに講義内容を再確認してください。							
テキスト等	松崎和久（2016）『テクノロジー経営入門』同友館							
評価方法	定期試験	70%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	著しく欠席が多い場合は、たとえ定期試験ができたとしても、大幅な減点となりますのでご注意ください（詳細については、ガイダンスでお知らせします）。							
授業計画	①ガイダンス（本講義の狙いと進め方）							
	②国際税務戦略&マネジメントに与える影響							
	③タックス・ヘイブン&マネジメントに与える影響							
	④カンントリーリスク&マネジメントに与える影響							
	⑤国際調達戦略&モノづくりに与える影響							
	⑥国際人的資源管理&モノづくりに与える影響							
	⑦グローバル・マネジャー&モノづくりに与える影響							
	⑧マルチドメスティック産業と戦略&製品に与える影響							
	⑨グローバル産業と戦略&製品に与える影響							
	⑩多国籍企業の構造と組織&製品に与える影響							
	⑪トランスナショナルとメタナショナル&雇用に与える影響							
	⑫クロスボーダー・イノベーション&雇用に与える影響							
	⑬多国籍企業と企業文化&雇用に与える影響							
	⑭国境を超えたM&Aと提携&雇用に与える影響							
	⑮まとめと復習							

科目名	生産管理論A							
英文科目名	Production Management A							
担当者名	中山景央							
科目ナンバリング	BMGM201							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>生産管理論Aでは、企業が製品やサービスを生産する際にどのような対象（モノ、情報）をどのように管理すれば良いのかを学習します。主に製造業を対象に、その中心機能である生産活動を管理するための方法論についてモノの流れ（フロー）と在庫（ストック）についてどのような管理方式があり、またそれぞれの管理方式はどのような場面で有効なのかを講義していきます。<到達目標>生産管理手法の基礎知識の習得と、各管理手法のメリットデメリットを理解すること。<ディプロマ・ポリシーとの関係>経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材の育成							
授業の方法	配布資料をベースに学習を行っていただきます。授業時はクリッカーとしてgoogleフォーム（スマートフォン使用）による双方向授業を実施します。上記に加えてgoogle classroomのスレッドにて質疑や意見交換を行っていただきます。（アクティブラーニング）							
予習と復習	【予習（90分）】教科書や講義終了時に指定されたキーワードを次回までに調査することを通して予習を行っていただきます。【復習（90分）】配布したレジュメや教科書を用いて復習を行っていただきます。							
テキスト等	レジュメを配布します。必要に応じて適宜、書籍や資料は紹介します。【参考図書】「図解 工場のしくみが面白いほどわかる本」 石川 和幸， 中京出版							
評価方法	定期試験	50%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	授業内課題		20%	中間テスト				30%
	・評価点の合計が60点以上を合格とする。（最終試験不受験者及び、最終試験成績が50点未満の者は不合格）・欠席回数が5回以上のものは成績評価の対象としない（第1回授業もカウントに含む）。・授業内課題は次会授業時に解説及び質疑対応にてフィードバックを行う。							
授業計画	①ガイダンス，生産管理の概要							
	②生産管理とは何か							
	③見込み生産方式Ⅰ：需要予測							
	④見込み生産方式Ⅱ：生産計画							
	⑤見込み生産方式Ⅲ：在庫マネジメント-在庫とは？-							
	⑥見込み生産方式Ⅳ：在庫マネジメント-在庫マネジメント手法-							
	⑦中間試験と解説							
	⑧見込み生産方式Ⅴ：在庫マネジメント-発注点の決め方とEOQ-							
	⑨様々な生産方式とその狙い							
	⑩フローマネジメントⅠ：生産スピードの決定要因							
	⑪フローマネジメントⅡ：負荷と生産時間の関係							
	⑫フローマネジメントⅢ：仕事の優先順位と生産率の関係							
	⑬現場改善Ⅰ：改善の指標と5S活動，業務モデリング技法の紹介							
	⑭現場改善Ⅱ：業務モデリング技法演習							
	⑮まとめと総復習							

科目名	生産管理論B							
英文科目名	Production Management B							
担当者名	中山景央							
科目ナンバリング	BMGM202							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>生産管理論Bでは生産管理論Aの内容を基礎知識として、生産をマネジメントするシステムの概論について講義を行います。従来からある代表的な生産システムに加え、顧客ニーズの多様化や市場のグローバル化に対応するためにどのような生産システムが運用されているのかを学習します。<到達目標>代表的な生産システムについての理解と、その目的及び適用場面の理解。<ディプロマ・ポリシーとの関係>経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材の育成							
授業の方法	原則として講義を聞きながら配布資料の穴埋めをする形で授業を展開していきます。授業時はクlickerとしてgoogle フォーム（スマートフォン使用）による双方向授業を実施します。適宜、講義内でのディスカッションやgoogle classroomを用いたQ&Aなどを行いアクティブラーニングを行います。							
予習と復習	【予習（90分）】教科書や講義終了時に指定されたキーワードを次回までに調査することを通して予習を行っていただきます。【復習（90分）】配布したレジュメや教科書を用いて復習を行っていただきます。							
テキスト等	レジュメを配布します。必要に応じて適宜、書籍や資料は紹介します。【参考図書】「図解 工場のしくみが面白いほどわかる本」 石川 和幸， 中京出版							
評価方法	定期試験	50%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	授業内課題		20%	中間テスト				30%
	・評価点の合計が60点以上を合格とする。（最終試験不受験者及び、最終試験成績が50点未満の者は不合格）・欠席回数が5回以上のものは成績評価の対象としない（第1回授業もカウントに含む）。・授業内課題は次会授業時に解説及び質疑対応にてフィードバックを行う。							
授業計画	①ガイダンス・生産システムとは							
	②SCMⅠ：SCMゲーム							
	③SCMⅡ：SCMの理論							
	④SFCの方式Ⅰ（工程管理と負荷の計画）							
	⑤SFCの方式Ⅱ（日程の計画とその手法）							
	⑥SFCの方式Ⅲ（購買管理とその手法）							
	⑦ゼミ発表聴講							
	⑧中間テストと解説							
	⑨工程設計							
	⑩原価管理							
	⑪新製品開発							
	⑫品質管理							
	⑬グローバル生産システム							
	⑭Industry4.0							
	⑮まとめと総復習							

科目名	販売管理論A								
英文科目名	Sales Management A								
担当者名	竹内慶司								
科目ナンバリング	BMGM203								
授業の概要と到達目標	本講義では、企業と市場との相互関係を見きわめ、適切な販売予測やその実現が可能になるよう運営のあり方を考えていく。具体的には、市場環境の分析、製品戦略、流通経路戦略、価格戦略、販売促進戦略に関しそれらの理論と実際を学んでいく。春学期においては、主に市場環境の分析と製品戦略を中心に進めていく。また本講義では、授業時間内に実務専門家を招聘し講演して頂く予定である（授業の後半に一回）。経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。								
授業の方法	②アクティブ・ラーニングの一環として、一部の授業回でプレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）を実施する。								
予習と復習	事前に参考書等の当該箇所をよく読んでに関する記事を読んで要点を整理しておくこと。講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。準備学修は予習（90分）復習（90分）。								
テキスト等	竹内慶司編著『市場創造（改訂版）』（学文社）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	小レポート		100%					0%	
	授業時間内に小レポートの提出を求める。小レポートは返却しないが、授業時に全般的な評価と所見を提示する。								
授業計画	①オリエンテーション								
	②販売管理論とマーケティング								
	③マーケティング・コンセプトと顧客志向								
	④マーケティング・ミックス								
	⑤マーケティング環境とセグメンテーション								
	⑥市場のつかみ方（1）SWOT分析								
	⑦市場のつかみ方（2）PPM								
	⑧市場のつかみ方（3）市場ポジショニング分析								
	⑨限定マーケティング（エリア・マーケティング）								
	⑩製品の考え方と製品分類								
	⑪新製品開発の手法								
	⑫製品ライフサイクルと製品ミックス								
	⑬ブランドの役割とブランド・ロイヤルティ								
	⑭外部講師による講義								
	⑮まとめと復習								

科目名	販売管理論B								
英文科目名	Sales Management B								
担当者名	竹内慶司								
科目ナンバリング	BMGM204								
授業の概要と到達目標	本講義では、企業と市場との相互関係を見きわめ、適切な販売予測やその実現が可能になるよう運営のあり方を考えていく。秋学期においては、主に価格戦略、チャネル戦略、販売促進戦略を中心に進めていく。また本講義では、授業時間内に実務専門家を招聘し講演して頂く予定である（後半に一回）。経営学部ディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。								
授業の方法	②アクティブ・ラーニングの一環として、一部の授業回でプレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）を実施する。								
予習と復習	事前に参考書等の当該箇所をよく読んでに関する記事を読んで要点を整理しておくこと。講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。準備学修は予習（90分）復習（90分）。								
テキスト等	竹内慶司編著『市場創造』（学文社）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	小レポート		100%					0%	
	授業時間内に小レポートの提出を求める。小レポートは返却しないが、授業時に全般的な評価と所見を提示する。								
授業計画	①オリエンテーション								
	②価格設定のメカニズム								
	③新製品の価格政策								
	④差別価格政策								
	⑤メーカー希望小売価格とオープン・プライス								
	⑥心理的価格政策								
	⑦チャネル政策の類型								
	⑧流通系列化								
	⑨チェーン・ストアの類型								
	⑩流通機能の役割								
	⑪プロモーションの領域								
	⑫コミュニケーションプロセスとA I D M A								
	⑬広告とメディア・ミックス								
	⑭外部講師による講義								
	⑮まとめと復習								

科目名	経営心理学A							
英文科目名	Management Psychology A							
担当者名	小林康一							
科目ナンバリング	BMGM205							
授業の概要と到達目標	企業組織の活動における心理的側面についての諸研究を幅広く検討していくことで、「経営組織と人間」とはどのような関係にあり、どのように形成・維持されているのかを考える。前期では主に個人の行動に焦点を当て、パーソナリティやモチベーション、意思決定などの伝統的な産業心理学の扱うテーマを中心に、古典から現代までの理論的変遷や現代における実践現場での活用について検討していく。特に経営現場での活用については、担当教員の企業におけるプレイヤーならびにマネジャーとしての実務経験を踏まえた実践的事例を元に議論を深めていく。具体的には、職場でのモチベーションマネジメントなどの重要性、またいかにしてそれらを発揮または高めるような人材活用や人材教育の手段があるか、などを事例を元に解説する。さらに、ディプロマポリシーとの関連については、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」の育成を目的とした科目である。秋学期に開かれる経営心理学Bをあわせて受講することを推奨する。							
授業の方法	教室内での教員への質疑やグループでの対話（アクティブ・ラーニング）を、一部の授業回で実施する。							
予習と復習	予習(90分) 前回講義の終了時に紹介をした書籍や記事などを参考に、次回講義で扱うテーマや問題点を事前に把握し自分なりの意見をまとめておく。復習(90分) 講義内で配布したレジュメの空欄への記入に抜け落ちがないか確認し、講義の内容の理解や疑問点を明確化する。							
テキスト等	特になし。毎回の授業でレジュメを配布し、それに沿って授業を行います。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	0%
	各講義で提出された課題		30%					0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義内もしくは終了後に回収するGoogle Formを使用したリアクションペーパーにもとづき、質疑に対する回答やフィードバックをおこなう。							
授業計画	①ガイダンス							
	②経営心理学とはなにか							
	③個人と行動 ① ～能力・スキルとパーソナリティ～							
	④個人と行動 ② ～今後求められるコンピテンシーとは～							
	⑤個人と行動 ③～パーソナリティ～							
	⑥モチベーション ① ～モチベーション理論の概要～							
	⑦モチベーション ② ～モチベーションの「強度」(1) 欲求理論～							
	⑧モチベーション ③ ～モチベーションの「方向性」(1) 価値と期待～							
	⑨モチベーション ④ ～モチベーションの「方向性」(2) 目標とはなにか～							
	⑩モチベーション ⑤ ～モチベーションの「持続力」(1) 報酬と行動分析～							
	⑪モチベーション ⑥ ～モチベーションの「持続力」(2) 行動の中止～							
	⑫意思決定 ① ～意思決定とはなにか～							
	⑬意思決定 ② ～合理的意思決定とバイアス～							
	⑭意思決定 ③ ～意思決定の心理学～							
	⑮まとめ							

科目名	経営心理学B							
英文科目名	Management Psychology B							
担当者名	小林康一							
科目ナンバリング	BMGM206							
授業の概要と到達目標	経営心理学Bでは特にコミュニケーションや対人認知を中心に、理論的な理解と同時に実際の経営の現場で生かせるような具体的なコミュニケーション・スキルを学んでいく。また、1 on 1のコミュニケーションだけでなくコミュニケーションの束としてのグループやチームの動態や活用についても議論する。また、担当教員の企業における営業やコンサルティングの経験を踏まえた実践的な理論の活用も視野に入れる。具体的には営業活動におけるコミュニケーションの重要性や職場におけるチームの活用などを事例を元に解説する。ディプロマポリシーとの関連については、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」の育成を目的とした科目である。また、人間科学部においてはディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」の育成を目的としている。春学期に開かれる経営心理学Aならびに経営組織論、キャリアデザイン論をあわせて受講することを推奨する。							
授業の方法	教室内での教員への質疑やグループでの対話（アクティブ・ラーニング）を、一部の授業回で実施する。							
予習と復習	予習(90分) 前回講義の終了時に紹介をした書籍や記事などを参考に、次回講義で扱うテーマや問題点を事前に把握し自分なりの意見をまとめておく。復習(90分) 講義内で配布したレジュメの空欄への記入に抜け落ちがないか確認し、講義の内容の理解や疑問点を明確化する。							
テキスト等	特になし。毎回の授業でレジュメを配布し、それに沿って授業を行います。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	0%
	各講義で提出された課題		30%					0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義内もしくは終了後に回収するGoogle Formを使用したリアクションペーパーにもとづき、質疑に対する回答やフィードバックをおこなう。							
授業計画	①ガイダンス							
	②対人認知 ① ～経営における「認知科学」とヒューリスティックス～							
	③対人認知 ② ～印象形成と対人魅力～							
	④コミュニケーション ① ～コミュニケーションの基礎～							
	⑤コミュニケーション ② ～自己開示とアサーション～							
	⑥コミュニケーション ③ ～自己呈示の手法～							
	⑦グループ・ダイナミクス ① ～グループの力～							
	⑧グループ・ダイナミクス ② ～グループとチーム～							
	⑨グループ・ダイナミクス ③ ～グループの闇「グループシンク」～							
	⑩グループ・ダイナミクス ④ ～グループの闇「フリーライダー」～							
	⑪リーダーシップ ① ～リーダーシップとはなにか～							
	⑫リーダーシップ ② ～リーダーシップの古典的理論～							
	⑬リーダーシップ ③ ～リーダーシップの新理論～							
	⑭リーダーシップ ④ ～リーダーシップの心理学～							
	⑮まとめ							

科目名	経営工学A							
英文科目名	Management Engineering A							
担当者名	降旗徹馬							
科目ナンバリング	BMGM301							
授業の概要と到達目標	情報化やグローバル化、IoT・AI・ビッグデータによるイノベーションなど企業を取り巻く環境の変化が激しい現代社会において、企業活動の計画やマネジメントに工学的な方法・技法を適用し、問題解決を図る実践的な学問である経営工学の重要性が一層増している。本講義では、ヒト、モノ、カネ、情報を経営資源としている企業活動（オペレーションやマネジメント活動）に対して、問題、課題、実態に関する認識、知識や解決のための考え方、手順、手法、技法を取り上げる。講義は経営工学が広範な領域を持つことから重要な事柄に焦点を絞り、事例や例題を提示しながら平易に解説していく。春学期は意思決定手法と経済性評価を取り上げる。「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントを行う人材」の育成に寄与する科目である。							
授業の方法	基本的には講義を中心に行うが、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するために、授業内にて質疑応答を実施するとともに、ワークシートによる理解度確認を行う。							
予習と復習	予習（90分）事前に配布する講義資料を熟読した上で講義に参加すること復習（90分以上）毎回実施するワークシート課題の回答を作成すること							
テキスト等	講義用資料を配布する。参考書は、千住鎮雄・伏見多美雄『経済性工学の基礎』（日本能率協会マネジメントセンター）などをはじめ多数あるので、その他は講義中に紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	50%
	なし			0%	なし			0%
	レポート課題とともに講義内に実施するワークシートを中心にした平常点で総合的に評価する。レポートに関しては全般的な評価と所見を提示する。出席が2/3に満たない場合はY3評価とする。なお、本科目は毎回ワークシート課題を出題するので、3年次での履修を勧める。							
授業計画	①企業経営と経営工学							
	②決定技法（1）意思決定とは							
	③決定技法（2）デシジョンツリー							
	④決定技法（3）階層化意思決定法							
	⑤決定技法（4）不確実性下の意思決定							
	⑥経済性工学（1）経済的有利さの比較							
	⑦経済性工学（2）現在価値と将来の価値							
	⑧経済性工学（3）投資の時間換算計算							
	⑨経済性工学（4）投資案の評価方法							
	⑩経済性工学（5）不確実な状況下での評価							
	⑪数理的決定法の基本							
	⑫数理的決定法の応用（各種計画問題）							
	⑬経営効率分析法の基本							
	⑭経営効率分析法の応用（分析事例）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経営工学B							
英文科目名	Management Engineering B							
担当者名	降旗徹馬							
科目ナンバリング	BMGM302							
授業の概要と到達目標	情報化やグローバル化、IoT・AI・ビッグデータによるイノベーションなど企業を取り巻く環境変化が激しい現代において、企業活動の計画やマネジメントに工学的な方法・技法を適用し、問題解決を図る実践的な学問である経営工学の重要性が一層増している。本講義では、ヒト、モノ、カネ、情報を経営資源としている企業活動（オペレーションやマネジメント活動）に対して、課題、実態に関する認識、知識や解決のための考え方、手法、技法を取り上げる。講義は経営工学が広範な領域を持つことから重要な事柄に焦点を絞り、事例や例題を提示しながら平易に解説していく。秋学期はいくつかの計画・マネジメント手法を取り上げる。「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントを行う人材」の育成に寄与する科目である。							
授業の方法	基本的には講義を中心に行うが、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するために、授業内で質疑応答を実施するとともに、ワークシートによる理解度確認を行う。							
予習と復習	予習（90分）事前に配布する講義資料を熟読した上で講義に参加すること復習（90分以上）毎回実施するワークシート課題の回答を作成すること							
テキスト等	講義用資料を配布する。その他参考書は講義中に紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	50%
	なし			0%	なし			0%
	レポート課題とともに講義内に実施するワークシートを中心にした平常点で総合的に評価する。レポートに関しては全般的な評価と所見を提示する。なお、出席が2/3に満たない場合はY3評価とする。							
授業計画	①経営工学におけるマネジメントの考え方							
	②製品開発における経営工学の役割							
	③基本統計量							
	④需要予測（時系列分析）							
	⑤需要予測（回帰分析）							
	⑥需要予測（プロモーションの売上反応）							
	⑦在庫マネジメント（考え方）							
	⑧在庫マネジメント（管理方式）							
	⑨品質マネジメント							
	⑩プロジェクト・マネジメント							
	⑪サプライチェーン・マネジメント（誕生・発展・SCMの基礎）							
	⑫サプライチェーン・マネジメント（SCMの戦略的活用）							
	⑬制約理論（TOC）							
	⑭顧客満足と顧客価値創造							
	⑮まとめと総復習（データに基づいた問題発見と解決）							

科目名	情報管理論A							
英文科目名	Management of Information System A							
担当者名	永戸哲也							
科目ナンバリング	INF0201							
授業の概要と到達目標	【履修登録にあたっての注意】 この科目は経営学部企業経営コース/情報コース専門科目、商学部他学部聴講科目となる。この科目を履修しても学部基礎科目(情報)の単位とはならないので注意すること 経営学部のディプロマポリシー「ICT(情報通信技術)を経営に生かすために必要な知識・スキルを学ぶ」ための科目である 現代企業の経営活動には情報システムによる情報の効率的かつ効果的な管理が不可欠である。本科目では企業活動の中で情報システムがどのような役割を果たしているのか、またそのような情報システムはどのように構築されているのかを検討・理解していく。本科目では経営情報システムに関する講義とコンピュータ実習を有機的に組み合わせることによって企業内の情報および情報システムの管理についてより実務的な能力を養うことを目的とする。また、同時にパーソナルコンピュータを用いたオフィスアプリケーションの実習を行い、コンピュータの扱いに習熟することを目指すしている。							
授業の方法	講義とコンピュータ実習によるアクティブ・ラーニングから構成される。また、プレゼンテーション実習ではグループでの調査・プレゼンテーション作成・発表を行う。学習支援システム(LMS)としてGoogle-ClassroomおよびMicrosoft Teamsを活用する。							
予習と復習	(予習90分) ICT(情報通信技術)に関連したニュースなどに関心を持ち、チェックする(復習90分) 授業ではICT分野や経営分野の基礎的用語・専門用語を多数使用するのでそれらを定着させる。また、授業時間内で完成しなかった実習課題に取り組む							
テキスト等	Google-Classroomで授業用資料を事前に配布する。【参考図書】竹安数博・石井康夫・樋口由紀『現代経営情報システム』							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	0%	平常点	60%
	プレゼンテーション			10%				0%
	実習を伴う科目であるため、出席率70%未満はY3評価とする。実習における提出物およびプレゼンテーションの貢献度を加点要素として評価に加算する。授業内試験および実習課題についてGoogle-Classroomにて評価と所見のフィードバックを行う。							
授業計画	①ガイダンス							
	②企業活動と情報システム							
	③情報システムの発展過程							
	④事業活動と基幹系情報システム1：小売業							
	⑤事業活動と基幹系情報システム2：製造業							
	⑥事業活動と基幹系情報システム3：会計・人事等、支援業務のシステム							
	⑦組織活動と情報システム							
	⑧情報システムと意思決定							
	⑨データ活用とナレッジマネジメント							
	⑩電子商取引とインターネット/Webシステム							
	⑪情報セキュリティマネジメント							
	⑫プレゼンテーション実習準備							
	⑬プレゼンテーション実習1：発表準備							
	⑭プレゼンテーション実習2：発表と振り返り							
	⑮まとめと総復習							

科目名	情報管理論B							
英文科目名	Management of Information System B							
担当者名	永戸哲也							
科目ナンバリング	INF0202							
授業の概要と到達目標	【履修登録にあたっての注意】 この科目は経営学部企業経営コース/情報コース専門科目、商学部他学部聴講科目となる。この科目を履修しても学部基礎科目(情報)の単位とはならないので注意すること 経営学部のディプロマポリシー「ICT(情報通信技術)を経営に生かすために必要な知識・スキルを学ぶ」ための科目である 現代企業の経営活動には情報システムによる情報の効率的かつ効果的な管理が不可欠である。本科目では情報システムを計画・開発・導入するための方法論および導入された情報システムを安定的に管理・運用していくための手法について学習する。システム導入の目的である経営活動の支援、経営成果に結びつけるためにはどのような課題があり、それらにどのように対処することが必要なのか。システムを通じて得られる情報を意思決定に応用するための基礎的な方法についても解説する。 また、オフィスアプリケーション(Microsoft Excel)を活用したシミュレーション、意思決定演習を行い、データをもとにした意思決定について理解すると同時にソフトウェアへの習熟度を高めることを目指す。							
授業の方法	講義とコンピュータ実習によるアクティブラーニングの部分から構成される。学習支援システム(LMS)としてGoogle-ClassroomおよびMicrosoft Teamsを活用する。							
予習と復習	(予習90分) 事前に配布するプリントを授業前に十分読んでおくこと(復習90分) 授業ではICT分野や経営分野の基礎的用語・専門用語を多数使用するのでそれらを定着させる。また、授業時間内で完成しなかった実習課題に取り組む							
テキスト等	Google-Classroomで授業用資料を配布する。【参考図書】竹安数博・石井康夫・樋口由紀『現代経営情報システム』							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%
	実習を伴う科目であるため、出席率70%未満はY3評価とする。実習における提出物および意思決定演習の貢献度を加点要素として評価に加算する。授業内試験および実習課題についてGoogle-Classroomにて評価と所見のフィードバックを行う。							
授業計画	①ガイダンス							
	②コンピュータと情報システムの構成要素							
	③情報の基礎理論							
	④経営戦略と情報システム戦略							
	⑤情報システムの導入計画とIT資源調達							
	⑥情報システムの開発1：ビジネスプロセスの分析							
	⑦情報システムの開発2：システム開発技術							
	⑧情報システムの開発3：プロジェクトマネジメント							
	⑨情報システムの運用と管理							
	⑩情報セキュリティの技術と管理							
	⑪情報システム監査							
	⑫データ分析の基礎							
	⑬データ分析と意思決定							
	⑭意思決定演習							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経営財務論A							
英文科目名	Business Finance A							
担当者名	青淵正幸							
科目ナンバリング	BMGM305							
授業の概要と到達目標	<授業の概要> 経営財務論は企業における資金の調達と運用を主たるテーマとする学問である。実務では、資金の調達と運用に加え、財務分析や資金管理も財務部門で扱われる。経営財務論Aでは、仮想の企業を題材として、その経営に必要なコストの計算と資金計画についてのシミュレーションを通して、経営資源の1つである「カネ」の流れを理解する。<到達目標> 1. 財務管理と会計の関係および財務諸表の構造の理解 2. 資金繰りの手法と実践の習得 3. 資金シミュレーションと損益シミュレーションの実践 本科目は経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の回では課題を提示してその解決を目指すPBL（課題解決型学習）を実施する。							
予習と復習	予習(90分)：前回の授業内容の見直しを行い、課題内容を確認しておくこと。復習(90分)：授業内容について復習したのち、課題に取り組み期限内に提出すること。							
テキスト等	テキストは使用しない。必要に応じて、資料を配付する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	授業内で中間試験および期末試験を実施し、全般的な評価と所見を授業内で伝達する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②事業規模と企業形態							
	③需要予測と企業形態							
	④企業活動と貸借対照表							
	⑤損益計算書の構造							
	⑥変動費と固定費							
	⑦中間試験の実施							
	⑧中間試験の解説							
	⑨経営財務の視点による経営シミュレーション1（開業の準備）							
	⑩経営財務の視点による経営シミュレーション2（事業の開始）							
	⑪経営財務の視点による経営シミュレーション3（事業の継続）							
	⑫経営財務の視点による経営シミュレーション4（資金繰り表の作成）							
	⑬経営財務の視点による経営シミュレーション5（予測財務諸表の作成）							
	⑭期末試験の実施							
	⑮期末試験の解説と授業の振り返り							

科目名	経営財務論B							
英文科目名	Business Finance B							
担当者名	青淵正幸							
科目ナンバリング	BMGM306							
授業の概要と到達目標	<授業の概要> 経営財務論Bのテーマは投資の経済性計算である。企業が事業活動を行うには、経営資源の1つであるカネ（資金）が必要である。まずは資金の調達方法について検討する。調達された資金は機械や商品など各種資産の取得に用いられ、販売を通じて回収を図る。資産への投資がふさわしいかを判断するのは、経営者にとって必須の能力である。<到達目標> 1. 企業における資金調達の種類と特徴の理解 2. 企業における投資の種類と意思決定手法の理解 本科目は経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の回では課題を提示してその解決を目指すPBL（課題解決型学習）を実施する。							
予習と復習	予習(90分)：前回の授業内容の見直しを行い、課題内容を確認しておくこと。復習(90分)：授業内容について復習したのち、課題に取り組み期限内に提出すること。							
テキスト等	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	授業内で中間試験および期末試験を実施し、全般的な評価と所見を授業内で伝達する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②時間価値と複利計算							
	③時間価値と割引計算							
	④企業活動と資金調達							
	⑤資金調達と資本コスト1（概論）							
	⑥資金調達と資本コスト2（演習）							
	⑦第6回までのまとめ							
	⑧中間試験の実施							
	⑨中間試験の解説・投資の分類・回収期間法							
	⑩会計的利益率法・加重平均資本コスト							
	⑪正味現在価値法							
	⑫内部利益率法							
	⑬事業価値と企業価値							
	⑭期末試験の実施							
	⑮期末試験の解説と授業の振り返り							

科目名		経営労務論A							
英文科目名		Human Resource Management A							
担当者名		田口和雄							
科目ナンバリング		BMGM307							
授業の概要と到達目標	【授業の目標】・人的資源管理に関する理論を習得、活用して人的資源管理に関する様々な課題等を議論するレベルに達すること【概要】・経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。本講座は、企業が経営活動を展開する上で不可欠な「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」から構成される「経営資源」の中で、「ヒト=人的資源」を対象としています。近年、IT化の進展、少子高齢化、就業形態の多様化、経営活動のグローバル化など、組織(特に企業)を取り巻く経営環境が変化しつつある中で、「人的資源」の重要性が高まってきています。本講座では、企業(とくに日本企業)の人的資源管理を構成する「人事管理」分野の仕組みとその特質を理論的な枠組みだけではなく、最近の実証研究や事例等を取り上げながら講義していきます。								
授業の方法	・アクティブラーニングとして、一部の授業回でPBLを実施する。								
予習と復習	【予習(90分)】テキストの熟読、人的資源管理に関する記事等の情報収集をしておくこと。【復習(90分)】講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	・今野浩一郎『人事管理入門〈第2版〉(日経文庫)』(日本経済新聞社)								
評価方法	定期試験	80%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	0%	
				0%				0%	
	・定期試験(持ち込み不可)と授業中に行う小レポート(数回実施)をもとに総合評価を行います。・成績評価結果について全般的な評価と所見を授業内で伝達します。								
授業計画	①ガイダンス(春学期の講義概要を説明します。)								
	②人的資源管理の理論								
	③人的資源管理の枠組み								
	④採用管理(1)－理論								
	⑤採用管理(2)－枠組み								
	⑥配置と異動の管理(1)－理論								
	⑦配置と異動の管理－枠組み								
	⑧人事制度(1)－社員区分制度								
	⑨人事制度(2)－社員格付け制度								
	⑩教育訓練と人材育成(1)－理論								
	⑪教育訓練と人材育成(2)－枠組み								
	⑫人事評価(1)－理論								
	⑬人事評価(2)－枠組み								
	⑭人事評価(3)－実践								
	⑮まとめと総復習								

科目名	経営労務論B							
英文科目名	Human Resource Management B							
担当者名	田口和雄							
科目ナンバリング	BMGM308							
授業の概要と到達目標	【授業の目標】・人的資源管理に関する理論を習得、活用し人的資源管理に関する様々な課題等を議論するレベルに達すること【概要】・経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。本講義は、企業が経営活動を展開する上で不可欠な「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」から構成される「経営資源」の中で、「ヒト=人的資源」を対象としています。近年、IT化の進展、少子高齢化、就業形態の多様化、経営活動のグローバル化など、組織(特に企業)を取り巻く経営環境が変化しつつある中で、「人的資源」の重要性が高まってきています。本講座では、企業(とくに日本企業)の人的資源管理を構成する「労務管理」分野の仕組みとその特質を理論的な枠組みだけではなく、最近の実証研究や事例等を取り上げながら講義していきます。							
授業の方法	・アクティブラーニングとして、一部の授業回でPBLを実施する。							
予習と復習	【予習(90分)】テキストの熟読、人的資源管理に関する記事等の情報収集をしておくこと。【復習(90分)】講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。							
テキスト等	・今野浩一郎『人事管理入門〈第2版〉(日経文庫)』(日本経済新聞社)							
評価方法	定期試験	80%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	0%
				0%				0%
	・定期試験(持ち込み不可)と授業中に行う小レポート(数回実施)をもとに総合評価を行います。・成績評価結果について全般的な評価と所見を授業内で伝達します。							
授業計画	①ガイダンス(秋学期の講義概要を説明します。)							
	②昇進・昇格管理(1)－総額管理							
	③昇進・昇格管理(2)－個別賃金管理							
	④報酬管理							
	⑤福利厚生と退職金・企業年金							
	⑥労働条件管理(1)－労働時間							
	⑦労働条件管理(2)－勤務形態							
	⑧雇用調整・解雇・退職							
	⑨労使関係管理(1)－労働組合							
	⑩労使関係管理(2)－労使交渉							
	⑪少子高齢化と人的資源管理							
	⑫就業形態の多様化と人的資源管理							
	⑬グローバル化と人的資源管理							
	⑭まとめと総復習(1)－秋学期のまとめ							
	⑮まとめと総復習(2)－復習							

科目名		賃金管理論A								
英文科目名		Pay Management A								
担当者名		田口和雄								
科目ナンバリング		BMGM309								
授業の概要と到達目標	【授業の目標】・報酬管理に関する理論を習得、応用し賃金を巻く様々な課題等を議論するレベルに達すること 【概要】・経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。本講義は、企業の人的資源管理の主要な管理活動である報酬管理の仕組みとその特質に関する基礎を学習することを目的としています。卒業後、社会人として働き出すと会社等から給料やボーナスが支払われますが、これらはどのように決められているのでしょうか？報酬管理は皆さんに身近で、生活していく上で不可欠な分野なのです。本講座では、企業(特に、日本企業)の報酬管理の仕組みとその特質を理論的な枠組みだけではなく、最近の実証研究や事例等を取り上げながら講義していきます。									
	・アクティブラーニングとして、一部の授業回でPBLを実施する。									
予習と復習	【予習(90分)】テキストの熟読、人的資源管理に関する記事等の情報収集をしておくこと。【復習(90分)】講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。									
テキスト等	今野浩一郎・佐藤博樹『新装版 マネジメント・テキスト 人事管理入門 第4版』(日本経済新聞社)									
評価方法	定期試験	80%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	0%		
				0%				0%		
・定期試験(持ち込み不可)と授業中に行う小レポート(数回実施)による総合評価を実施します。・成績評価結果について全般的な評価と所見を授業内で伝達します。										
授業計画	①ガイダンス(春学期の講義概要を説明します。)									
	②人的資源管理を捉える枠組み									
	③報酬管理を捉える枠組み(1)－労働費用の管理									
	④報酬管理を捉える枠組み(2)－賃金の総額管理									
	⑤社員区分と人事制度									
	⑥人事評価									
	⑦総額人件費の管理									
	⑧個別賃金の管理									
	⑨賃金制度の管理									
	⑩基本給の諸類型									
	⑪基本給の決め方									
	⑫昇給の仕組み									
	⑬賞与の仕組み									
	⑭諸手当の仕組み									
	⑮まとめと総復習									

科目名	賃金管理論B							
英文科目名	Pay Management B							
担当者名	田口和雄							
科目ナンバリング	BMGM310							
授業の概要と到達目標	【授業の目標】・報酬管理に関する理論を習得、応用し賃金を巻く様々な課題等を議論するレベルに達すること 【概要】・経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」を達成するための科目である。本講義は、企業の人的資源管理の主要な管理活動である報酬管理の仕組みとその特質に関する基礎を学習することを目的としています。卒業後、社会人として働き出すと会社等から給料やボーナスが支払われますが、これらはどのように決められているのでしょうか？報酬管理は皆さんに身近で、生活していく上で不可欠な分野なのです。本講座では、企業(特に、日本企業)の報酬管理の仕組みとその特質を理論的な枠組みだけではなく、最近の実証研究や事例等を取り上げながら講義していきます。							
授業の方法	・アクティブラーニングとして、一部の授業回でPBLを実施する。							
予習と復習	【予習(90分)】テキストの熟読、人的資源管理に関する記事等の情報収集をしておくこと。【復習(90分)】講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。							
テキスト等	今野浩一郎・佐藤博樹『新装版 マネジメント・テキスト 人事管理入門 第4版』(日本経済新聞社)							
評価方法	定期試験	80%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	0%
				0%				0%
	・定期試験(持ち込み不可)と授業中に行う小レポート(数回実施)をもとに総合評価を行います。・成績評価結果について全般的な評価と所見を授業内で伝達します。							
授業計画	①ガイダンス(秋学期の講義概要を説明します。)							
	②報酬管理を捉える枠組み							
	③報酬管理の構成分野							
	④賞与・一時金の理論							
	⑤賞与・一時金の仕組み							
	⑥法定福利厚生							
	⑦法定外福利厚生							
	⑧退職給付							
	⑨企業年金							
	⑩労働組合の組織と機能							
	⑪労使関係							
	⑫労使協議							
	⑬事例研究							
	⑭まとめと総復習(1)－秋学期のまとめ							
	⑮まとめと総復習(2)－復習							

科目名	企業法（企業形態法）							
英文科目名	Business Law (Companies Act I)							
担当者名	村上誠							
科目ナンバリング	LMGM201							
授業の概要と到達目標	この授業では、株式会社制度を中心に会社法について講義します。国内の会社のほとんどは株式会社の形態を採用しており、その仕組みを正確に理解することを目標とします。株式会社といっても、中小零細企業から上場企業に至るまで、その規模には大きな違いがあり、適用される規制も異なります。なお本授業は、経営学部のディプロマポリシー「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目です。							
授業の方法	一部の授業回で課題解決型学習（アクティブ・ラーニング）の時間を設ける。							
予習と復習	予習（90分）次回のテーマについてプリントの該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと。復習（90分）授業内容をまとめ、重要な点を再確認すること。							
テキスト等	授業時にプリント、資料等を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	70%
	まとめ課題		30%					0%
	まとめ課題について、全般的な評価と所見をグーグルクラスルームに掲示する。							
授業計画	①株式会社とステークホルダー							
	②会社法の概要							
	③有限責任と会社の種類							
	④株式会社制度の概要							
	⑤株主の権利－自益権・共益権							
	⑥株主の権利－株主平等原則ほか							
	⑦普通株式							
	⑧種類株式－譲渡制限株式ほか							
	⑨種類株式－議決権制限株式ほか							
	⑩株式会社の資金調達の方法							
	⑪株式会社の資金調達－公募増資を中心に							
	⑫株式会社の資金調達－第三者割当増資を中心に							
	⑬株式会社の設立－発起設立・募集設立							
	⑭株式会社の設立－出資の履行ほか							
	⑮まとめと総復習							

科目名	企業法（株式会社法）							
英文科目名	Business Law (Companies Act II)							
担当者名	村上誠							
科目ナンバリング	LMGM202							
授業の概要と到達目標	979条から成る会社法の大部分は株式会社に関する規制となっています。この授業では、会社法のうち株式会社における企業統治の仕組みを中心に講義し、株式会社を組織し、運営する上での法規制を正確に理解することを目標とします。なお、春学期に開講される「企業法（企業形態法）」において習得する知識が必要となる場合も少なくないので、事前に同授業を履修しておくことが望ましい。本授業は、経営学部のディプロマポリシー「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目です。							
授業の方法	一部の授業回で課題解決型学習（アクティブ・ラーニング）の時間を設ける。							
予習と復習	予習（90分）次回のテーマについてプリントの該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと。復習（90分）授業内容をまとめ、重要な点を再確認すること。							
テキスト等	授業時にプリント、資料等を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	70%
	まとめ課題		30%					0%
	まとめ課題について、全般的な評価と所見をグーグルクラスルームに掲示する。							
授業計画	①株式会社制度の基本							
	②株式会社の機関設計の概要							
	③株式会社の機関－株主総会（決議事項・決議要件）							
	④株式会社の機関－株主総会（株主提案）							
	⑤株式会社の機関－取締役							
	⑥株式会社の機関－取締役会							
	⑦株式会社の機関－監査役、監査役会							
	⑧上場会社における機関設計の選択							
	⑨監査役会設置会社							
	⑩指名委員会等設置会社							
	⑪監査等委員会設置会社							
	⑫上場会社における企業統治							
	⑬株式会社の組織再編							
	⑭株式交換・株式移転							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経済法A							
英文科目名	Anti Trust Law A							
担当者名	森平明彦							
科目ナンバリング	LMGM203							
授業の概要と到達目標	談合や下請取引先のいじめ、そして不当な広告表示などの反競争的な企業行動を取り締まる独占禁止法を学習します。春学期のメインテーマは独禁法の総論的な違法性です。市場の競い合いのルールを規律する独占禁止法が命ずる取引の決まりを、明確な条文の解釈と、生き生きと実例に即して説明します。テキストに従い、独禁法の条文解釈と判例や紛争事例の解説をします。なお本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシーである企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材の育成に寄与する科目です。さらに、経営学と商学の関連科目として近年その重要性が広く認識されてきています。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でリアクションペーパーや反転学習等により講義内容の理解を深める。その具体的な方法、やり方はグーグルクラスルームのフォーム等による。							
予習と復習	予習（90分；事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をレポートにまとめておくこと）と復習（90分；講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）の課題は適宜授業のなかで指示する。							
テキスト等	白石忠志著『独禁法講義第9版』（有斐閣）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	成績は上記によって評価する。							
授業計画	①経済法の特殊性、民法や商法との対照							
	②どんな違法行為を企業は慎まなければならないか							
	③違反要件序論。公益事業法と独禁法。							
	④弊害要件を構成する諸概念							
	⑤競争の実質的制限や公正競争阻害性との関係							
	⑥市場概念その1 検討対象市場と弊害要件							
	⑦市場概念その2 需要者の範囲と供給者の範囲							
	⑧反競争性概論							
	⑨反競争性と他者排除							
	⑩反競争制と優越的地位の濫用							
	⑪不正手段の違反類型							
	⑫正当化理由その1 「公共の利益」							
	⑬正当化理由その2 社会的規制と独禁法							
	⑭独禁法の「エンフォースメント」							
	⑮まとめと復習							

科目名	経済法B							
英文科目名	Anti Trust Law B							
担当者名	森平明彦							
科目ナンバリング	LMGM204							
授業の概要と到達目標	秋学期のテーマは独禁法の個別の違法行為です。経済学と法律概念の相違に留意して、なじみのない法律用語をわかりやすく説明します。図や数値によって具体的な法律解釈の目的を体得し得るよう努めましょう。裁判所の判例や独禁法の第一次的執行機関である公正取引委員会の審決にも触れます。本科目は、経営学部ディプロマ・ポリシーである企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材の育成に寄与する科目です。さらに、経営学と商学の関連科目として近年その重要性が広く認識されてきています。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でリアクションペーパーや反転学習等により講義内容の理解を深める。その具体的な方法、やり方はグーグルクラスルームのフォーム等による。							
予習と復習	予習（90分；事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をレポートにまとめておくこと）と復習（90分；講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。復習はノートを熟読すること。）の課題は適宜授業のなかで指示するのでそれに従うこと。							
テキスト等	白石忠志著『独禁法講義第9版』（有斐閣）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	90%	平常点	10%
				0%				0%
	成績は授業内試験によって評価する。							
授業計画	① 不当な取引制限総論							
	② 不当な取引制限各論（合意）							
	③ 不当な取引制限各論（競争の実質的制限）							
	④ 不公正な取引方法その1 差別的取扱い							
	⑤ 不公正な取引方法その2 排他条件付取引							
	⑥ 不公正な取引方法その3 不当表示と不当景品							
	⑦ 不公正な取引方法その4 不当対価							
	⑧ 不公正な取引方法その5 優越的地位濫用							
	⑨ 私的独占							
	⑩ 企業結合							
	⑪ 適用除外							
	⑫ 国際的な独禁法規制							
	⑬ EUとアメリカの独禁法							
	⑭ アジアの独禁法							
	⑮ まとめと復習							

科目名	労働法A							
英文科目名	Labor Law A							
担当者名	藤川久昭							
科目ナンバリング	LMGM205							
授業の概要と到達目標	弁護士としての訴訟実務、企業顧問経験、企業経営者としての知見をもとに講義します。1つ目の目標＝経営学部のディプロマポリシーである、企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材を育成することです。2つ目の目標は、本講義では、みなさんが働くときに会える可能性のある労働法上の問題について、こういったルールが存在し、どの点に気をつければいいか、学ぶことです。3つ目の目標は、法的考え方を学ぶということです。「要件・効果・趣旨」をきちんと駆使できるようにすることです。自分の身を守るために必要になります。4つ目の目標は、講義中にしっかりと集中して勉強できるようにすることです（したがって厳格な受講態度が求められます）。私語、居眠り、よそ見一切厳禁です（もともと、居眠りの余裕もない講義ではありますが）。遅刻も、理由の如何をとわず、一切許しません＝入室不許可。							
授業の方法	前提として、法的分析方法＝問題の解き方を教えます。毎回の講義では事例と一緒に読み、それを解くための論点、ルールを教え、実際に解いてもらい、ミニレポートを提出します。要するに課題解決型学習を実践します。							
予習と復習	予習では、法的ものの考え方、要件効果趣旨、レポートの書き方について、毎回きちんと確認して下さい。復習では、作成レポートを見なおして、法的ものの考え方を踏まえているかどうか、毎回きちんと確認して下さい。目安の時間は90分です。							
テキスト等	こちらから配布するレジュメとします。忘れないで毎回持ってきて下さい。欠席した場合には、インフォメーションまで、必ずレジュメを取りに行くか、GCからダウンロードして下さいね。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%
	ガイダンスへの出席とミニレポート出席			20%	毎回のミニレポート			30%
	ガイダンス＝初回の講義に必ず出席して下さい。講義についてくまなく理解していただくこと、出欠名簿を作成すること、が理由です。ガイダンス欠席者は負担の重いレポート等を提出する必要があります（こちらから指示します）。							
授業計画	①講義ガイダンス&労働法入門【超重要】							
	②交通事故をもとに法的考え方を学ぶ							
	③ミスをしたらすぐにクビになるの？							
	④会社の経営が悪いとクビになるの？							
	⑤期間が終わったらさよなら？							
	⑥出身大学を理由に採用しないなんていいの？							
	⑦法的文書＝答案作成指導・質問コーナー（02）から（06）まで							
	⑧採用内定切りにどう対応すればいいの？							
	⑨お試し期間が終わったら理由なく切られるの？							
	⑩給与から罰金が天引きされちゃったのですが？							
	⑪アルバイト先から損害賠償を請求されたんですが？							
	⑫時給って急に下げられるものなの？							
	⑬法的文書＝答案作成指導・質問コーナー（08）から（12）まで							
	⑭授業内試験（レポート代替あり）と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	労働法B							
英文科目名	Labor Law B							
担当者名	藤川久昭							
科目ナンバリング	LMGM206							
授業の概要と到達目標	弁護士としての訴訟実務、企業顧問経験、企業経営者としての知見をもとに講義します。1つ目の目標＝経営学部のディプロマポリシーである、企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材を育成することです。2つ目の目標は、本講義では、みなさんが働くときに会える可能性のある労働法上の問題について、こういったルールが存在し、どの点に気をつければいいか、学ぶことです。3つ目の目標は、法的考え方を学ぶということです。「要件・効果・趣旨」をきちんと駆使できるようにすることです。自分の身を守るために必要になります。4つ目の目標は、講義中にしっかりと集中して勉強できるようにすることです（したがって厳格な受講態度が求められます）。私語、居眠り、よそ見一切厳禁です（もともと、居眠りの余裕もない講義ではありますが）。遅刻も、理由の如何をとわず、一切許しません＝入室不可。							
授業の方法	前提として、法的分析方法＝問題の解き方を教えます。毎回の講義では事例と一緒に読み、それを解くための論点、ルールを教え、実際に解いてもらい、ミニレポートを提出します。要するに課題解決型学習を実践します。							
予習と復習	予習では、法的ものの考え方、要件効果趣旨、レポートの書き方について、毎回きちんと確認して下さい。復習では、作成レポートを見なおして、法的ものの考え方を踏まえているかどうか、毎回きちんと確認して下さい。目安の時間は90分です。							
テキスト等	こちらから配布するレジュメとします。忘れないで毎回持ってきて下さい。欠席した場合には、インフォメーションまでレジュメを取りに行くか、G Cからダウンロードして下さい。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%
	ガイダンスへの出席・ミニレポートの提出			20%	毎回提出するミニレポート			30%
	ガイダンス＝初回の講義に必ず出席して下さい。講義についてくまなく理解していただくこと、出欠名簿を作成すること、が理由です。ガイダンス欠席者は負担の重いレポート等を提出する必要があります（こちらから指示します）。							
授業計画	①講義ガイダンス&労働法入門【超重要】							
	②名誉毀損事案を通じて法的考え方を学ぶ							
	③サービス残業って労働時間じゃないの？							
	④残業は絶対しなきゃいけないの？							
	⑤名ばかり管理職って何？							
	⑥アルバイトも休暇はとれるのかな？							
	⑦法的文書＝答案作成指導・質問コーナー（02）から（06）まで							
	⑧アルバイト中に怪我をしたら補償がでるの？							
	⑨バイトの帰り道、交通事故にあったら？							
	⑩過労死したときの補償は？							
	⑪パワハラを受けたらどうしたらいいですか？							
	⑫正社員よりかなり賃金が低いのですが？							
	⑬法的文書＝答案作成指導・質問コーナー（8）から（12）まで							
	⑭講義内試験（レポート代替あり）と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	企業法（知的財産法）							
英文科目名	Business Law (Intellectual Property Law)							
担当者名	村上誠							
科目ナンバリング	LMGM301							
授業の概要と到達目標	企業にとって知的財産権は企業価値を構成する重要な要素のひとつであり、その法律上の仕組みを理解することが欠かせません。また、個人、企業を問わず、他者の知的財産権を侵害しないという点にも十分な注意が必要となります。この授業では、知的財産権に関わる各法律の基本を理解することを目標とします。なお本授業は、経営学部のディプロマポリシー「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目です。							
授業の方法	一部の授業回で課題解決型学習（アクティブ・ラーニング）の時間を設ける。							
予習と復習	予習（90分）次回のテーマについてプリントの該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと。復習（90分）授業内容をまとめ、重要な点を再確認すること。							
テキスト等	授業時にプリント、資料等を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	70%
	まとめ課題		30%					0%
	まとめ課題について、全般的な評価と所見をグーグルクラスルームに掲示する。							
授業計画	①知的財産権とは							
	②知的財産権に関する法律							
	③商標法							
	④特許法－発明とは							
	⑤特許法－特許要件							
	⑥特許法－特許を受ける権利							
	⑦特許法－特許権の活用							
	⑧著作権法－著作物とは							
	⑨著作権法－著作権							
	⑩著作権法－著作者人格権							
	⑪著作権法－著作権隣接権							
	⑫著作権法－著作権侵害への対応							
	⑬不正競争防止法－営業秘密							
	⑭不正競争防止法－表示行為							
	⑮まとめと総復習							

科目名	企業法（有価証券法）							
英文科目名	Business Law (Negotiable Instrument Act)							
担当者名	村上誠							
科目ナンバリング	LMGM302							
授業の概要と到達目標	「約束手形」と「上場株式」という2つの有価証券について講義します。前者の「約束手形」は企業間の取引における支払手段のひとつとして利用されており、「手形法」に基づき約束手形の仕組みを理解することを授業の目標とします。後者の「上場株式」とは証券取引所に上場している株式のことを指し、個人投資家の多くが資産運用のための投資対象として売買しています。上場株式に関する法規制のうち、インサイダー取引規制など個人投資家にも関係する法規制について、「金融商品取引法」に基づき理解することを授業の目標とします。なお本授業は、経営学部のディプロマポリシー「企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる」ことを達成するための科目です。							
授業の方法	一部の授業回で課題解決型学習（アクティブ・ラーニング）の時間を設ける。							
予習と復習	予習（90分）次回のテーマについてプリントの該当部分を読み、疑問点をまとめておくこと。復習（90分）授業内容をまとめ、重要な点を再確認すること。							
テキスト等	授業時にプリント、資料等を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	70%
	まとめ課題		30%					0%
	まとめ課題について、全般的な評価と所見をグーグルクラスルームに掲示する。							
授業計画	①約束手形の役割							
	②約束手形の基本							
	③手形上の法律関係							
	④手形抗弁							
	⑤手形要件・白地手形							
	⑥手形の裏書譲渡－遡求義務							
	⑦手形の裏書譲渡－資格授与的効力							
	⑧手形の善意取得・除権決定							
	⑨手形割引・手形貸付・手形保証・電子記録債権							
	⑩金融商品取引法の概要							
	⑪開示規制							
	⑫インサイダー取引規制－重要事実							
	⑬インサイダー取引規制－情報伝達・取引推奨行為							
	⑭投資勧誘規制							
	⑮まとめと総復習							

科目名	行政法A							
英文科目名	Administrative Law A							
担当者名	山根雅昭							
科目ナンバリング	LMGM303							
授業の概要と到達目標	社会分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。合理的・客観的な法的基準に基づいて、法的安定性のもとで市民が市民的・社会的生活を営めるようにするために規制を行う、行政が従うべき法規範の総体が行政法である。この講義は、行政法諸原則を理解し、さらに経営に関する紛争の法的な解決、その予防、さらに戦略法務(政府規制、税務などの法的枠組みの中で、効率的に有効な戦略を駆使してリスクの少ない取引形態を採用する)のそれぞれの行政法との関係の重要性を説明できるようになることを目標とする。行政法Aでは行政法総論、行政組織法、行政の行為形式を扱う。＜準備学修(予習・復習)＞憲法・民法の基礎知識は必須。範囲を指定するので事前にテキストを予習しておくこと。							
授業の方法	講義形式。アクティブラーニングとしてフィールドワーク（例）国立ハンセン病資料館を見学したうえで、公衆衛生行政の過誤を学び、レポートにまとめる）。							
予習と復習	予習（90分）指定教科書を読む。復習（90分）講義内容を、教科書・ノート等で復習する。							
テキスト等	市橋克哉他『アクチュアル行政法〔第3版〕』（法律文化社）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	50%	平常点	0%
				0%				0%
	レポート(論述式)と平常点(課題提出)により評価する。フィードバック方法は、全般的な評価と所見を授業内で提示。							
授業計画	①現代行政の特徴							
	②行政法概念と行政法の法源							
	③法治主義・民主主義・法律の留保論・法律の授權論							
	④多元的な法的拘束・比例原則・平等原則・適正手続							
	⑤行政体と行政機関							
	⑥行政機関相互の関係							
	⑦行政準則・法規命令							
	⑧行政規則							
	⑨行政行為の意義・類型・成立・効力の発生と消滅							
	⑩処分手続・法律の授權・行政行為の適法性要件							
	⑪行政行為の効力・欠効・撤回、司法審査							
	⑫行政指導							
	⑬行政契約							
	⑭消費者行政							
	⑮まとめと総復習							

科目名		行政法B							
英文科目名		Administrative Law B							
担当者名		山根雅昭							
科目ナンバリング		LMGM304							
授業の概要と到達目標	社会分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。合理的・客観的な法的基準に基づいて、法的安定性のもとで市民が市民的・社会的生活を営めるようにするために規制を行う、行政が従うべき法規範の総体が行政法である。この講義は行政法諸原則を理解し、さらに経営に関する紛争の法的な解決、その予防、さらに戦略法務(政府規制、税務などの法的枠組みの中で、効率的に有効な戦略を駆使してリスクの少ない取引形態を採用する)のそれぞれの行政法との関係の重要性を説明できるようになることを目標とする。行政法Bでは行政上の諸制度、行政上の苦情処理・行政争訟、国家補償を扱う。＜準備学修(予習・復習)＞憲法・民法の基礎知識は必須。範囲を指定するので事前にテキストを予習しておくこと。								
授業の方法	講義形式。アクティブラーニングとしてフィールドワーク（例）国立ハンセン病資料館を見学したうえで、公衆衛生行政の過誤を学び、レポートにまとめる）。								
予習と復習	予習（90分）指定教科書を読む。復習（90分）講義内容を、教科書・ノート等で復習する。								
テキスト等	市橋克哉他『アクチュアル行政法〔第3版〕』（法律文化社）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	50%	平常点	0%	
				0%					0%
	レポート(論述式)と平常点（課題提出）により評価する。フィードバック方法は、全般的な評価と所見を授業内で提示。								
授業計画	①行政調査								
	②行政上の強制執行制度・即時強制制度								
	③行政上の制裁制度								
	④行政情報の管理・利用、行政機関における個人情報								
	⑤行政機関における情報公開、行政情報の開示等								
	⑥行政上の苦情処理、行政上の不服申し立て								
	⑦行政事件訴訟の概念・沿革、行政事件訴訟と司法権								
	⑧取消訴訟の訴訟要件								
	⑨取消訴訟の審理・判決								
	⑩無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟、義務付け								
	⑪行政事件訴訟と仮の救済								
	⑫損失補償								
	⑬国家賠償の概念と憲法、国家賠償法1条								
	⑭国家賠償法2条、国家賠償法3条から6条、国家賠償								
	⑮まとめと総復習								

科目名	税法A							
英文科目名	Tax Law A							
担当者名	住倉毅宏							
科目ナンバリング	LMGM305							
授業の概要と到達目標	現在の社会で税の果たす役割は大変大きいものです。授業では、税法の基礎知識及び税法の基本的な考え方を習得することを主な目標とします。まず、租税の意義などの説明を行い、次いで、所得税法について扱います。所得税法は、公平な課税を行うために、所得を発生要因別に10種類に区分しています。授業では、この各所得の意義について検討することにより、税法全般の考え方を習得していきます。春学期の後半では、相続税・贈与税の概要、消費税法の概要、さらに、税務調査上の諸問題などの説明を行います。また、国税の職場での勤務経験も踏まえて、社会で実際に問題となっていることにも触れたいと思っています。この授業は、「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる人材を育成する」というディプロマ・ポリシーを達成するための科目です。したがって、税法の学習には、簿記・会計の知識を必須とし、さらに法律の応用科目として憲法・民法の知識も求められます。履修に当たってはこれらの分野の学習も心掛けてください。							
授業の方法	講義形式が原則ですが、グループ・ディスカッション又はクリッカーの使用によるアクティブラーニングを一部の授業で実施します。遠隔授業の場合、課題に答えてもらい、フィードバックします。							
予習と復習	予習（90分）事前配布のレジュメ及び税大講本の該当箇所をよく読み整理しておくこと復習（90分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認すること							
テキスト等	毎回の授業においてレジュメを配付参考書・参考資料等 税大講本『税法入門』『所得税法』『相続税法』『消費税法』（税務大学校HP）、税法入門（第7版）（金子宏他、有斐閣新書（有斐閣））							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	30%	平常点	0%
				0%				0%
	レポートは1回実施（試験が実施できない場合は、レポート70%（2回実施）、平常点30%（平常点は、対面授業の場合に出席及び課題提出、遠隔授業の場合に課題提出状況により評価します。））試験、レポートにつき授業内等でフィードバックします。							
授業計画	①ガイダンス及びわが国における租税制度の概要							
	②国税に関する通則規定							
	③所得税法総論（1）（総論）							
	④所得税法総論（2）（課税単位、所得種類、所得控除）							
	⑤所得税法各論（利子、配当、不動産、事業所得）							
	⑥所得税法各論（給与、退職、山林所得）							
	⑦所得税法各論（譲渡、一時、雑所得）							
	⑧所得税額の計算（収益計上時期、必要経費等）							
	⑨相続税法の概要							
	⑩贈与税の概要及び財産の評価							
	⑪消費税法（1）（総論）							
	⑫消費税法（2）（仕入税額控除等）							
	⑬税務調査及び争訟制度							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名		税法B							
英文科目名		Tax Law B							
担当者名		住倉毅宏							
科目ナンバリング		LMGM306							
授業の概要と到達目標	本授業においては、法人税法の基本的な考え方を習得することを主な目標とします。企業の行動において、税金の存在は決して小さなものではありません。皆さんが、社会人として企業に勤めることになれば、多少なりとも関係してきます。法人税法は企業の会計上の利益を対象に課税をしますが、課税所得の計算上、多くの修正を加えます。授業では、その方法や理由について説明します。そして、今日的課題である国際課税上の諸問題などについても扱います。また、国税の職場での勤務経験も踏まえて、社会で実際に問題となっていることにも触れたいと思っています。この授業は、「財務・会計知識を習得しつつ、会計情報を活用し企業活動に貢献できる人材を育成する」というディプロマ・ポリシーを達成するための科目です。したがって、税法の学習には、簿記・会計の知識を必須とし、さらに法律の応用科目として憲法・民法の知識も求められます。履修に当たってはこれらの分野の学習も心掛けてください。								
授業の方法	講義形式が原則ですが、グループ・ディスカッション又はクリッカーの使用によるアクティブラーニングを一部の授業で実施します。遠隔授業の場合、課題に答えてもらい、フィードバックします。								
予習と復習	予習（90分）事前配布のレジュメ及び税大講本の該当箇所をよく読み整理しておくこと復習（90分）授業後、その日のうちに授業内容を再確認すること								
テキスト等	毎回の講義においてレジュメを配布。参考書 税大講本『法人税法』『税法入門』（税務大学校HP）、法人税セミナー〔六訂版〕（成松洋一著、税務経理協会）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	30%	平常点	0%	
				0%				0%	
	レポートは1回実施（試験が実施できない場合は、レポート70%（2回実施）、平常点30%（平常点は、対面授業の場合に出席及び課題の提出、遠隔授業での課題提出により評価します））。試験、レポートにつきフィードバックします。								
授業計画	①ガイダンス及び日本の財政と法人税								
	②法人税法総論（1）（法人税の基本構造）								
	③法人税法総論（2）（課税所得の計算原理）								
	④益金の額の計算（1）（収益の計上時期、無償取引等）								
	⑤益金の額の計算（2）（受取配当の益金不算入等）								
	⑥損金の額の計算（1）（費用の計上時期、役員給与等）								
	⑦損金の額の計算（2）（寄附金、交際費等）								
	⑧損金の額の計算（3）（減価償却費等）								
	⑨損金の額の計算（4）（貸倒引当金）								
	⑩損失、繰越欠損金								
	⑪税額控除、申告等								
	⑫公益法人に対する課税								
	⑬国際課税								
	⑭授業内試験と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	労働基準法							
英文科目名	Labor Standard Law							
担当者名	藤川久昭							
科目ナンバリング	LMGM307							
授業の概要と到達目標	弁護士としての訴訟実務、企業顧問経験、企業経営者としての知見をもとに講義します。1つ目の目標＝経営学部のディプロマポリシーである、企業法務・コンプライアンスの知識をもとにして企業活動に貢献できる人材を育成することです。2つ目の目標は、労働法を深く勉強したい方が、労働基準法に関するテーマに関して「深掘り」をします。具体的には、有名な判例・裁判例と一緒に読みます。3つ目の目標は、法的考え方を学ぶということです。「要件・効果・趣旨」をきちんと駆使できるようにすることです。自分の身を守るために必要になります。4つ目の目標は、講義中にしっかりと集中して勉強できるようにすることです（したがって厳格な受講態度が求められます）。私語、居眠り、よそ見一切厳禁です（もともと、居眠りの余裕もない講義ではありますが）。遅刻も、理由の如何をとわず、一切許しません＝入室不可。							
授業の方法	前提として、法的分析方法＝問題の解き方、と、判例・裁判例の読み方を教えます。毎回の講義では、判例・裁判例を配り、それを一緒に読み、論点・ルール・あてはめを読み取ってもらって、ミニレポートを提出します。課題解決型学習を実践します。							
予習と復習	予習では、法的ものの考え方、要件効果趣旨、レポートの書き方について、毎回きちんと確認して下さい。復習では、作成レポートを見なおして、法的ものの考え方を踏まえているかどうか、毎回きちんと確認して下さい。目安の時間は90分です。							
テキスト等	こちらから配布する資料・レジュメとします。忘れないで毎回持ってきて下さい。欠席した場合には、インフォメーションまでレジュメを取りに行ってください。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	0%	平常点	0%
	ガイダンスへの出席とミニレポート出席			20%	毎回提出するレポート			30%
	ガイダンス＝初回の講義に必ず出席して下さい。講義についてくまなく理解していただくこと、出欠名簿を作成すること、が理由です。ガイダンス欠席者は負担の重いレポート等を提出する必要があります（こちらから指示します）。							
授業計画	①講義ガイダンス【超重要】							
	②テーマ1 労働事案をもとに法的分析方法を学ぶ							
	③テーマ2 判例・裁判例の読み方を学ぶ							
	④テーマ3 労働基準法36条に関する裁判例							
	⑤テーマ3 議論&ミニレポート							
	⑥テーマ4 労働基準法37条に関する裁判例							
	⑦テーマ4 議論&ミニレポート							
	⑧ここまでのまとめと復習・質問コーナー							
	⑨テーマ5 労働基準法32の2に関する裁判例							
	⑩テーマ5 議論&ミニレポート							
	⑪テーマ6 労働基準法75条に関する裁判例							
	⑫テーマ6 議論&ミニレポート							
	⑬講義内試験と解説							
	⑭講義内試験と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	事業計画論A							
英文科目名	Business Planning A							
担当者名	城裕昭							
科目ナンバリング	ENTP301							
授業の概要と到達目標	【授業の概要】・事業計画の「基礎」、作成目的・作成内容・作成手順を学修する。・新しい「商品・サービス」の事業計画書を実際に作成する。・作成した事業計画を人に伝え、周囲から協力を得られるようにする。・教員の社会人経験を活かし、ビジネス現場における事業計画の活用方法を指導する。【到達目標】・経営学部ディプロマ・ポリシー「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材育成」のための科目である。							
授業の方法	・事業計画作成の基本的な知識・手法を学修する。・アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークやプレゼンテーションを実施する。・ノートPC持参が望ましい。(Google Slides、Jamboard、Spreadsheetなど使用予定)							
予習と復習	・予習(90分)事前にテキスト・資料を精読し、要点をまとめておくこと。・復習(90分)講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。							
テキスト等	・教科書：原 尚美『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方』（日本実業出版社）・授業前に資料データを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	30%	平常点	30%
				0%				0%
	・6回以上欠席すると、単位は取得できない。・レポートは返却せず般的な評価と所見を講義内で説明する。・中間と期末に確認試験を行う。							
授業計画	①オリエンテーション、事業計画の役割							
	②事業コンセプト、5年後のビジョン							
	③事業ドメイン							
	④社会的背景							
	⑤市場規模、競合他社の動向							
	⑥顧客のメリット、当社の強み							
	⑦商品・サービス、販売戦略（中間試験）							
	⑧外部講師による講義							
	⑨ビジネスモデル							
	⑩社内体制							
	⑪売上計画、売上原価計画							
	⑫人員計画、設備計画							
	⑬利益計画、資金計画							
	⑭ストーリーづくり、アクションプラン							
	⑮全体まとめと総復習（期末試験）							

科目名	事業計画論B							
英文科目名	Business Planning B							
担当者名	城裕昭							
科目ナンバリング	ENTP302							
授業の概要と到達目標	【授業の概要】・ビジネスプランニングの「応用」を学修する。・クラウドファンディングを使った商品・サービス開発手法や、スタートアップのビジネスモデルを学修する。・教員の社会人経験を活かし、ビジネス現場における事業計画の活用方法を指導する。【到達目標】・経営学部のディプロマ・ポリシー「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」「経営管理を学ぶライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材育成」のための科目である。							
授業の方法	・アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークやプレゼンテーションを実施する。・ノートPC持参が望ましい。(Google Slides、Jamboard、Spreadsheet など使用予定)							
予習と復習	・予習(90分)事前にテキスト・資料を精読し、要点をまとめておくこと。・復習(90分)講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。							
テキスト等	・参考書：板越ジョージ『クラウドファンディングで夢をかなえる本』（ダイヤモンド社）・参考書：今津美樹『ビジネスモデル・キャンバス徹底攻略ガイド』（翔泳社）・授業前に資料データを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	30%	平常点	30%
				0%				0%
	・6回以上欠席すると、単位は取得できない。・レポートは返却せず般的な評価と所見を講義内で説明する。・中間と期末に確認試験を行う。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②クラウドファンディング概論							
	③プロジェクトの成功事例							
	④クラウドファンディングサイトのチェックポイント							
	⑤プロジェクト作成演習 ①(タイトル、カテゴリー、目標金額)							
	⑥プロジェクト作成演習 ②(プロジェクトの概要、リターン、SNSの活用)							
	⑦プロジェクト作成演習 ③(プロジェクト成功のポイント)							
	⑧外部講師による講義							
	⑨クラウドファンディングまとめ(中間試験)							
	⑩ビジネスモデル概論							
	⑪BMC作成演習 ①(デザイン思考、CXアプローチ)							
	⑫BMC作成演習 ②(ペルソナ、ジャーニーマップ)							
	⑬BMC作成演習 ③(アイディエーション、バリュー・プロポジション)							
	⑭ビジネスモデルまとめ(プレゼンテーション)							
	⑮全体まとめと総復習(期末試験)							

科目名	中小企業経営論A								
英文科目名	The Theory of Small and Medium Business Management A								
担当者名	藤木寛人								
科目ナンバリング	ENTP201								
授業の概要と到達目標	中小企業は企業数の99%以上を占め、日本経済において重要な役割を果たしています。また、従業者数の約3分の2が中小企業で働いており、雇用の場としても重要です。おそらく皆さんの大多数が将来的に中小企業で働くことになるでしょう。以上の点から、中小企業について学ぶことは、皆さんの今後のキャリアを見据えるうえで有意義なテーマと言えます。中小企業経営論Aでは、中小企業が抱える諸問題や現代社会において果たす役割などについて総合的に学び、中小企業に関する幅広い知識を得ることを目指します。また、本講義は、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。								
授業の方法	中小企業経営論Aは対面形式で行う予定ですが、授業を進めていくなかで変更することがあります。また、不定期で授業内で確認テストを実施し、反転学習を行います（アクティブラーニング）。								
予習と復習	予習（90分）：前回の講義資料によく目を通しておいください。復習（90分）：課題内容のまとめにつながる課題を出します。理解できなかったところ等は復習してください。								
テキスト等	テキスト：テキストは使用しません。資料：講義動画、パワーポイント資料を講義毎に配布します。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業内課題		20%					0%	
	授業内課題の模範解答は、Google Classroomの機能を用いて自動でフィードバックします。なお、評価方法は授業を進めていく中で変更することがあります。その場合はGoogle Classroomのストリームで告知します。								
授業計画	①ガイダンス：中小企業の定義								
	②中小企業の社会的役割を考える								
	③中小企業の発展性を考える（販売の不確実性と情報発見活動）								
	④中小企業の発展性を考える（情報発見システムとしての企業）								
	⑤授業内試験と解説								
	⑥中小企業の問題性を考える（大企業体制の形成）								
	⑦中小企業の問題性を考える（大企業の市場管理行動と中小企業問題）								
	⑧授業内試験と解説								
	⑨事業承継問題（事業承継問題とは何か）								
	⑩事業承継問題（事業承継対策・支援策）								
	⑪中小企業金融（中小企業と資金繰り）								
	⑫中小企業金融（中小企業問題としての金融）								
	⑬中小企業金融（中小企業専門金融機関と資金調達）								
	⑭授業内試験と解説								
	⑮中小企業と新卒採用								

科目名	中小企業経営論B								
英文科目名	The Theory of Small and Medium Business Management B								
担当者名	藤木寛人								
科目ナンバリング	ENTP202								
授業の概要と到達目標	中小企業は企業数の99%以上を占め、日本経済において重要な役割を果たしています。また、従業員の約3分の2が中小企業で働いており、雇用の場としても重要です。おそらく皆さんの大多数が将来的に中小企業で働くことになるでしょう。以上の点から、中小企業について学ぶことは、皆さんの今後のキャリアを見据えるうえで有意義なテーマと言えます。中小企業経営論Bでは、春学期で学修したことを踏まえ、中小企業を①イノベーションを起こす主体、②競争を促進する主体、③地域経済を活性化する主体として位置づけ、現代社会における中小企業の社会的意義についてより深く学びます。また、本講義は、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。								
授業の方法	中小企業経営論Bはハイブリッド形式で行う予定ですが、授業を勧めていく中で変更することがあります。また、不定期で授業内で確認テストを実施し、反転学習を行います（アクティブラーニング）。								
予習と復習	予習（90分）：前回の講義内容によく目を通しておいください。復習（90分）：課題内容のまとめにつながる課題を出します。理解できなかったところ等は復習してください。								
テキスト等	テキスト：テキストは使用しません。資料：パワーポイント資料を講義毎に配布します。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業内課題		20%					0%	
	授業内課題の模範解答は、Google Classroomの機能を用いて自動でフィードバックします。なお、評価方法は授業を進めていく中で変更することがあります。その場合はGoogle Classroomのストリームで告知します。								
授業計画	①中小企業とものづくり（製造業におけるサプライヤーシステム）								
	②中小企業と産業集積								
	③グローバル化と産業空洞化								
	④中小企業政策とは（中小企業政策の分類）								
	⑤中小企業政策の変遷（1940年代後半から1980年代まで）								
	⑥中小企業政策の変遷（競争政策型中小企業政策への移行）								
	⑦授業内試験と解説								
	⑧異業種連携による新事業展開								
	⑨地域資源活用による新事業展開（地域産業資源としての鉱工業品およびその技術）								
	⑩地域資源活用による新事業展開（地域産業資源としての伝統的工芸品）								
	⑪地域資源活用による新事業展開（地域産業資源としての観光）								
	⑫農商工連携による新事業展開								
	⑬中小商業と地域経済								
	⑭授業内試験と解説								
	⑮商店街の活性化を考える								

科目名	企業家論A							
英文科目名	Entrepreneurship A							
担当者名	大島久幸							
科目ナンバリング	ENTP303							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>企業家論で取扱う対象は、新規事業機会を発見し、事業化する企業家である。本講義では、企業者理論の系譜を簡単に振り返った後、主としてシュンペータの企業者理論を拠り所として、歴史上に登場した企業家の分析を行なう。なお、秋学期と併せて履修することが望ましい。<到達目標>日本の経営発展に登場した、重要な企業家を取り上げ、その革新的企業者活動を分析することにより、企業経営ないし経営発展に必要な企業者活動ないし企業者精神とはいかなるものなのかを明かにしていきたい。なお本講義は、企業経営、経営法務、起業・事業承継、情報のコース制の下、専門的知識の深化を目指す科目であり、ディプロマポリシー「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目である。							
授業の方法	この講義では、具体的な企業家を取り上げるに際して、自律的な学習(アクティブ・ラーニング)を促進するため、ディベート形式で講義を行う。講義には積極的な参加が求められる。							
予習と復習	予習(90分)講義に関する教材・資料等を予習し、必要な情報等を収集し、ディベートに備える。復習(90分)当日のディベートの内容を復習し、次回に備える。							
テキスト等	佐々木聡『日本の企業家群像』（丸善 2001年）、同『日本の企業家群像2』（丸善 2003年）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	【課題に対するフィードバック】ディベートの結果と評価者の評価について、全般的所見を提示する。							
授業計画	①企業者とはなにか							
	②企業者論の系譜							
	③企業者史学の誕生							
	④ペンローズとドラッカー							
	⑤革新の概念：新結合と企業者精神							
	⑥会社企業の成立：岩崎と渋沢							
	⑦国産新製品の創製：長瀬と鈴木							
	⑧新事業群の形成：鮎川と豊田							
	⑨都市型第三次産業の開拓者：小林と堤							
	⑩技術志向型と市場志向型：小平と松下							
	⑪戦後型企业：井深・盛田と本田・藤沢							
	⑫流通革新と消費の多様化：中内と鈴木							
	⑬先端技術への挑戦：服部・早川							
	⑭ケースの振り返り							
	⑮まとめと総復習							

科目名	企業家論B							
英文科目名	Entrepreneurship B							
担当者名	大島久幸							
科目ナンバリング	ENTP304							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>企業家論で取扱う対象は、新規事業機会を発見し、事業化する企業家である。本講義では、企業者理論の系譜を簡単に振り返った後、主としてシュンペータの企業者理論を拠り所として、歴史上に登場した企業家の分析を行なう。なお、春学期と併せて履修することが望ましい。<到達目標>日本の経営発展に登場した、重要な企業家を取り上げ、その革新的企業者活動を分析することにより、企業経営ないし経営発展に必要な企業者活動ないし企業者精神とはいかなるものなのかを明かにしていきたい。なお本講義は、企業経営、経営法務、起業・事業承継、情報のコース制の下、専門的知識の深化を目指す科目であり、ディプロマポリシー「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目である。							
授業の方法	この講義では、具体的な企業家を取り上げるのに際し、自律的な学習(アクティブ・ラーニング)を促進するため、ディベート形式で授業を行う。講義には積極的に参加が求められる。							
予習と復習	予習(90分)講義に関する教材・資料等を予習し、必要な情報等を収集し、ディベートに備える。復習(90分)当日のディベートの内容を復習し、次回に備える。							
テキスト等	佐々木聡『日本の企業家群像』（丸善 2001年）、同『日本の企業家群像2』（丸善2003年）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	【課題に対するフィードバック】ディベートの結果と評価者の評価について、全般的所見を提示する。							
授業計画	①企業家とは何か							
	②紡績業と労務管理の近代化：武藤と大原							
	③製紙業の企業間競争：大川と藤原							
	④舶来品の国産化：福原と小林							
	⑤伝統的商業から純国産品へ：鳥居と石橋							
	⑥規制に抗した反骨の経営者：松永と出光							
	⑦ベンチャービジネスの展開：山内と稲盛							
	⑧新サービスのパイオニア：小倉と飯田							
	⑨日本鉄鋼業の革新者：西山弥太郎							
	⑩技術と経営の狭間で：池田敏夫							
	⑪志と責任感をもった経営者：木川田・工光							
	⑫食と健康の覇者：大塚・安藤							
	⑬企業者精神と創造的破壊							
	⑭歴史に見る革新							
	⑮まとめと総復習							

科目名		企業研究A							
英文科目名		Entrepreneurship Study A							
担当者名		藤木寛人							
科目ナンバリング		ENTP305							
授業の概要と到達目標	企業研究Aは、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。春学期は、ビジネスプランコンテスト等への参加を想定し、事業創造論A/B等で学習してきたビジネスに関する基礎知識を踏まえ、ビジネスプランの策定に取り組めます。ビジネスプランの作成プロセスにおいて、どのようなタイミングで何に注目する必要があるかについて実践的に学習し、ビジネスプラン作成のスキル習得を目指します。なお、企業研究Aでは、外部講師（経営者）2名による講演を予定しています。								
授業の方法	・対面形式を予定していますが、授業が進む中で変更することがあります。・グループワークおよびプレゼンテーションを行います。発表者以外は質問を行ってください（アクティブ・ラーニング）。								
予習と復習	予習（90分）：授業時間外に、授業内で与えられた課題に取り組んでください。復習（90分）：授業開始時に前回の授業内容について質問します。各自復習を行ってください。								
テキスト等	テキストは使用しません。講義ごとに授業資料を配布します。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	0%	
	課題発表や質疑の良否			50%	0%				
	課題の発表や質疑、レポート（授業内試験に変更する可能性あり）の良否を踏まえ、総合的に判断して評価します。課題に対する評価は講義内でコメントします。レポートは返却せず、全般的な評価と所見を個別に伝達します。								
授業計画	①ガイダンス：創造的思考をしよう								
	②ビジネスをデザインする								
	③経営者による講演（講師未定）								
	④良いビジネスアイデアとは								
	⑤ビジネスアイデアを検証する								
	⑥リーンキャンパスでビジネスアイデアを整理しよう								
	⑦顧客を深堀りしよう								
	⑧未来の社会を予想しよう								
	⑨製品・サービスのコンセプトを考えよう								
	⑩ビジネスモデルを考えよう								
	⑪ビジネスプランを考えよう								
	⑫プレゼンテーション資料のまとめ								
	⑬ビジネスプランの発表								
	⑭経営者による講演（講師未定）								
	⑮まとめと総復習								

科目名		企業研究B							
英文科目名		Entrepreneurship Study B							
担当者名		藤木寛人							
科目ナンバリング		ENTP306							
授業の概要と到達目標	企業研究Bは、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。秋学期は事業承継について学び、後継者としての自覚を深めることを目標とします。今日では、中小企業における事業承継の形態は約半数が親族外承継です。経営者になるルートは起業だけではありません。「事業承継なんて関係ない」と思っている学生も受講することをおすすめします。企業研究Bでは下記のテキストを採用します。初回講義までに必ず準備しておいてください。なお、秋学期も外部講師（経営者）を2名招聘する予定です。								
授業の方法	・授業は対面形式で実施する予定ですが、授業を進める中で授業方法を変更することがあります。・課題の発表をしてもらいます。発表者以外は質問を行ってください(アクティブ・ラーニング)。								
予習と復習	予習（90分）：授業時間外に、授業内で与えられた課題に取り組んでください。復習（90分）：授業開始時に前回の授業内容について質問します。各自復習を行ってください。								
テキスト等	落合康裕(2019)『事業承継の経営学:企業はいかに後継者を育成するか』白桃書房(2,500円)。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	0%	
	課題発表や質疑の良否			50%					0%
	課題の発表や質疑、レポート（授業内試験に変更する可能性あり）の良否を踏まえ、総合的に判断して評価します。課題に対する評価は講義内でコメントします。レポートは返却せず、全般的な評価と所見を個別に伝達します。								
授業計画	①ガイダンス：授業の進め方、課題の割り振りなど								
	②経営者による講演（講師未定）								
	③事業承継とは何か								
	④事業承継問題とは何か								
	⑤現経営者の役割と課題								
	⑥後継者育成（当事者意識の醸成）								
	⑦後継者育成（独自性の醸成）								
	⑧先代経営者と後継者の関係性								
	⑨社内の利害関係者と後継者の関係性								
	⑩社外の利害関係者と後継者の関係性								
	⑪経営戦略と次世代組織の構築								
	⑫事業承継後の後継者の思考と行動：起業家としての後継者								
	⑬事業承継後の後継者の思考と行動：後継者に対するガバナンス								
	⑭経営者による講演（講師未定）								
	⑮まとめと総復習								

科目名		事業創造論A							
英文科目名		Entrepreneur Business A							
担当者名		藤木寛人							
科目ナンバリング		ENTP203							
授業の概要と到達目標	事業創造論Aは、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。秋学期（10月半ば）に開催される高千穂祭に参加できない学生は受講しないようにして下さい。春学期は、高千穂祭の模擬店への出店準備を通じて、簡単なビジネスプランの作成に必要な基礎的知識を身につけることを目標とします。授業の前半は解説を行い、後半はグループワークに取り組んでもらいます。授業を通して、第三者に魅力が伝わるビジネスプランを作成できるようになってください。								
授業の方法	・対面形式で行う予定ですが、授業が進む中で変更することがあります。・ビジネスプラン作成のグループワーク、プレゼンテーションを中心に授業を進めていきます（アクティブ・ラーニング）。								
予習と復習	予習（90分）：次回の授業までに提出してもらう課題を出しますので授業時間外に取り組んでください。復習（90分）：授業時間内にグループワークが終わらなかった場合は次回の授業までに完成させおいてください。								
テキスト等	テキストは使用しません。毎回、授業資料を配布します。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	0%	
	課題発表や質疑の良否			50%	0%				
	課題の発表や質疑、レポート（授業内試験に変更する可能性あり）の良否を踏まえ、総合的に判断して評価します。課題に対する評価は講義内でコメントします。レポートは返却せず、全般的な評価と所見を個別に伝達します。								
授業計画	①ガイダンス（授業の進め方、グループ分けなど）								
	②過年度の模擬店事業について								
	③事業の方向を考えよう								
	④コンセプトを考えよう：コアコンセプト								
	⑤コンセプトを考えよう：サブコンセプト								
	⑥開業計画書を作成しよう：投資計画、売上計画、								
	⑦開業計画書を作成しよう：収支計画など								
	⑧開業計画書を作成しよう：まとめと発表								
	⑨メニューを考えよう								
	⑩原価を計算しよう								
	⑪販売価格を決定しよう								
	⑫メニューブックを作成しよう								
	⑬店舗づくりを考えよう：店舗デザインを決める								
	⑭店舗づくりを考えよう：看板のデザインを考える								
	⑮ビジネスプランの発表								

科目名		事業創造論B						
英文科目名		Entrepreneur Business B						
担当者名		藤木寛人						
科目ナンバリング		ENTP204						
授業の概要と到達目標	事業創造論Bは、起業・事業承継コースの選択必修科目であり、経営学部のディプロマ・ポリシーである「事業承継者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目です。秋学期は、高千穂祭に模擬店を出店し（起業体験実習）、ビジネスプランの重要性について実践的に学ぶことを目標とします。模擬店終了後は事業報告書の作成や、リーダーシップについて学修していきます。起業体験実習でのグループの経営状況や、自身のリーダーシップ行動について振り返り、成功または失敗の要因を分析してください。実践的学習の効果を高めるためには、振り返りで得た気づきを教訓化し、将来の行動に活かしていくことが重要です。なお、10月半ばの高千穂祭に参加できない学生は受講しないようにして下さい。							
授業の方法	・対面形式で行う予定ですが、授業が進む中で変更することがあります。・実習やグループワーク、プレゼンテーションを中心に授業を進めていきます（アクティブ・ラーニング）。							
予習と復習	予習（90分）：不定期に次回の授業までに提出してもらう課題を出しますので授業時間外に取り組んでください。 復習（90分）：授業時間内に課題が終わらなかった場合は次回の授業までに完成させおいてください。							
テキスト等	テキストは使用しません。毎回、授業資料を配布します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%
	起業体験実習の取り組み状況			60%				0%
	起業体験実習の取組状況や授業内試験を踏まえ、総合的に判断して評価します。起業体験実習の取組状況に対する評価は講義内でコメントします。							
授業計画	①起業体験実習に向けた準備作業（春学期の振り返り）							
	②起業体験実習に向けた準備作業（材料、商品等の調達）							
	③起業体験実習に向けた準備作業（看板等の作成）							
	④起業体験実習（高千穂祭）							
	⑤事業報告書の作成：高千穂祭1日目についてディスカッション、まとめ							
	⑥事業報告書の作成：高千穂祭2日目についてディスカッション、まとめ							
	⑦事業報告書の作成：高千穂祭3日目についてディスカッション、まとめ							
	⑧事業報告書の発表							
	⑨リーダーの特性研究から行動研究へ							
	⑩コンティンジェンシー理論と交換理論							
	⑪変革型リーダーシップ理論							
	⑫リーダーシップ開発							
	⑬集团的リーダーシップ							
	⑭授業内試験と解説							
	⑮今日におけるリーダーシップとメンバーのあり方							

科目名		企業経営実習						
英文科目名		Management Seminar and Field Study						
担当者名		城裕昭						
科目ナンバリング		ENTP307						
授業の概要と到達目標	【授業の概要】・企業経営の基本的事項や課題について学修する。・経営者を外部講師に招き、企業経営の実際や想いを聴く。経営者として保有すべきコンピテンシーを学修する。・企業を訪問し現場実習や経営者の話を聴き、企業経営のポイントを学ぶ。（夏季休暇期間、出席必須）・ケースを小グループで討議し、課題についてプレゼンテーションを行う。・教員のビジネス経験を活かし、経営者として必要な考え方・心構えを指導する。【到達目標】・経営学部のディプロマ・ポリシー「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」「経営管理を学びライオン部門・スタッフ部門の マネジメントとなり得る人材育成」のための科目である。							
授業の方法	・企業経営の基本的事項や課題を学修する。経営者の生の声に触れ、実習を行う。・アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回でグループワークやプレゼンテーションを実施する。・ノートPC持参が望ましい。（Google Slides、Jamboard、Spreadsheet など使用予定）							
予習と復習	・予習（90分）事前にテキスト・資料を精読し、要点をまとめておくこと。・復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。							
テキスト等	・教科書：六角明雄『図解でわかる経営の基本 -いちばん最初に読む本-』（アニモ出版）・授業前に資料データを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	30%	平常点	30%
				0%				0%
	・年間11回以上欠席すると、単位は取得できない。・夏季休暇中実施の『企業経営インターンシップ』は参加必須とする。・レポートは返却せず般的な評価と所見を講義内で説明する。・各学期、期末に確認試験を行う。（計2回）							
授業計画	①①オリエンテーション（春学期）			⑩オリエンテーション（秋学期）				
	②②会社経営の基礎知識			⑪成長戦略と競争戦略				
	③③ケーススタディ(1) グループワーク			⑫ケーススタディ(5) グループワーク				
	④④ケーススタディ(1) 発表と解題			⑬ケーススタディ(5) 発表と解題				
	⑤⑤会社組織のしくみ			⑭マーケティングの経営への活用				
	⑥⑥ケーススタディ(2) グループワーク			⑮ケーススタディ(6) グループワーク				
	⑦⑦ケーススタディ(2) 発表と解題			⑯ケーススタディ(6) 発表と解題				
	⑧⑧外部講師による講義（春学期）			⑰外部講師による講義（秋学期）				
	⑨⑨組織管理と従業員教育			⑱アカウンティング&ファイナンス				
	⑩⑩ケーススタディ(3) グループワーク			⑲ケーススタディ(7) グループワーク				
	⑪⑪ケーススタディ(3) 発表と解題			⑳ケーススタディ(7) 発表と解題				
	⑫⑫経営管理と経営計画			㉑企業経営と情報化				
	⑬⑬ケーススタディ(4) グループワーク			㉒ケーススタディ(8) グループワーク				
	⑭⑭ケーススタディ(4) 発表と解題			㉓ケーススタディ(8) 発表と解題				
	⑮⑮まとめと総復習（春学期）			㉔まとめと総復習（秋学期）				

科目名	経営情報論A 社会情報システム論(情報通信技術)							
英文科目名	Management and Information TechnologyA Social Informatics (Information And Communication Tech)							
担当者名	中山景央							
科目ナンバリング								
授業の概要と到達目標	<授業の概要>経営情報論Aでは情報技術にはどのようなものがあるのか、またその情報技術を経営へどの様に活用するのかを学習します。IT, ICT, IoT, AI等の情報技術に関するキーワードが溢れる現在において、それら情報技術はどのような技術なのかを紹介し、さらにその情報技術をどの様に経営へ活かすのかや、そもそも経営に情報を活かすとはどのようなことなのかを学んでいきます。<到達目標>情報通信技術や経営情報及び情報システムに関する基礎知識の習得。<経営学部ディプロマ・ポリシーとの関連>ICT（情報通信技術）の知識とスキルを企業活動に生かせる人材の育成							
授業の方法	原則として講義を聞きながら配布資料の穴埋めをする形で授業を展開していきます。授業時はクリックとしてgoogleフォーム（スマートフォン使用）による双方向授業を実施します。一部の授業ではプレゼン及びディスカッションを実施します（アクティブラーニング）。							
予習と復習	【予習（90分）】教科書や講義終了時に指定されたキーワードを次回までに調査することを通して予習を行っていただきます。【復習（90分）】配布したレジュメや教科書を用いて復習を行っていただきます。							
テキスト等	レジュメを配布します。必要に応じて適宜、書籍や資料は紹介します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	最終課題		60%	授業内課題				40%
	・評価点の合計が60点以上を合格とする。（ただし最終課題未提出者は評価の対象とならない）・欠席回数が5回以上のものは成績評価の対象としない（第1回授業もカウントに含む）。・授業内課題は次回授業時に解説及び質疑対応にてフィードバックを行う。							
授業計画	①ガイダンス：社会を取り巻く情報技術							
	②経営情報論とは							
	③インターネット技術の発展と社会への影響							
	④情報通信技術①ICTとIoT							
	⑤情報通信技術②クラウドコンピューティング、ビッグデータ解析							
	⑥情報通信技術③AI							
	⑦情報通信技術④ブロックチェーン技術							
	⑧経営環境分析手法①：外部環境と内部環境の分析							
	⑨経営環境分析手法②：総合環境分析							
	⑩統計情報の入手とその分析							
	⑪特許情報の入手とその分析							
	⑫演習Ⅰ：テーマに関する資料の収集（テーマは授業時に指定する）							
	⑬演習Ⅱ：資料を用いた考察と主張の作成							
	⑭演習Ⅲ：プレゼンテーションとディスカッション							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経営情報論B 社会情報システム論(情報化と社会)							
英文科目名	Management and Information TechnologyB Social Informatics (Information and Society) Social Informatics (Information and Society)							
担当者名	中山景央							
科目ナンバリング								
授業の概要と到達目標	<授業の概要>経営情報論Bでは、経営情報論Aで学んだ情報を経営に利用するということを演習を通して理解を深めていきます。演習ではMicrosfot Excelを用いた簡易シミュレーションを行い経営情報分析の基礎を学習していきます。<到達目標>情報を経営に活かすことのイメージを得ると共に簡単な情報分析が出来るようになること。<経営学部ディプロマ・ポリシーとの関連>ICT（情報通信技術）の知識とスキルを企業活動に生かせる人材の育成							
授業の方法	前半30分程度を座学，後半60分を演習という形で授業を展開していく。適宜，講義内でのディスカッションやgoogle classroomを用いたQ&Aなどを行いアクティブラーニングを実施する。							
予習と復習	【予習（90分）】教科書や講義終了時に指定されたキーワードを次回までに調査することを通して予習を行っていただきます。【復習（90分）】配布したレジュメや教科書を用いて復習を行っていただきます。							
テキスト等	レジュメを配布します。必要に応じて適宜，書籍や資料は紹介します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	最終課題		60%		授業内課題			40%
・評価点の合計が60点以上を合格とする。・欠席回数が5回以上のものは成績評価の対象としない（第1回授業もカウントに含む）。・授業内課題は次回授業時に解説及び質疑対応にてフィードバックを行う。								
授業計画	①ガイダンス：情報技術と経営							
	②Excelを用いたデータ分析概論							
	③データの見方							
	④シミュレーションとは？							
	⑤不確実性の考慮							
	⑥需要予測							
	⑦ゼミ発表聴講							
	⑧回帰分析							
	⑨柔軟性とは							
	⑩柔軟性を考慮したシミュレーション							
	⑪在庫管理							
	⑫待ち行列問題Ⅰ：定期的にお客さんが来る場合							
	⑬待ち行列問題Ⅱ：ランダムにお客さんが来る場合							
	⑭まとめと最終課題の説明							
	⑮最終課題と講評							

科目名	キャリアデザイン論A							
英文科目名	Introduction to Career Construction A							
担当者名	葛西和恵							
科目ナンバリング	RELT201							
授業の概要と到達目標	“いい学校へ行行って、いい会社へ入れば、人生は安泰だ” こうした考え方は、もはや通用しがたい世の中になった。若い時から常にキャリア意識を持ち、自律的にキャリア開発を行い、自らの能力や実力を磨き育てて、広く労働市場における高い付加価値・競争力を創造していくことが必要不可欠だ。そこで、この授業ではキャリアを開発し、形成していくための考え方・方法論を学び、生涯にわたって自分のキャリア（働き方・生き方）を主体的に開発・形成していこうとするマインドの醸成を目標とする。また、今日的なトピックスからキャリア形成の外的環境への理解を深め、自分のキャリアを考える手がかりとする。状況が許すようならば、外部講師の招聘を検討する。企業等における人材育成、キャリア形成支援の経験を活かし、事例を踏まえながら実践的な指導・助言を行う。経営学部のディプロマポリシー「ライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」、「業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目であり、あらゆる企業組織、公的組織において活躍できる人材の育成を目指す。							
授業の方法	この授業では、講義と演習を行う。アクティブ・ラーニングを促進するため、毎回の授業において演習、ディスカッションやリアクションペーパーによる講義内容の理解確認を行う。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。							
予習と復習	予習（90分）各講義の最後に次回学習課題を指示するので、その内容について自分なりに調べたり、自らの考えをまとめておくこと。復習（90分）当日の講義内容をその日のうちに再確認し、自身の活動や生活の中で学んだことの活用・実践を試みることを。							
テキスト等	【参考図書】大久保幸夫（2016）『キャリアデザイン入門[1]基礎力編第2版』日経文庫。その他、授業の中で随時紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%
	5回以上欠席した場合は、授業内試験の受験資格を失うこととする。授業内試験では、キーコンセプトの理解に基づいた自らの考え方の論述を重視する。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】試験・レポート等については全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②日本的雇用慣行における企業行動とキャリア							
	③働く意味を考察する：働く意味と自分らしい働き方を考える							
	④職場で求められる人材になるには：社会人基礎力							
	⑤相手の話をきちんと聴く技術：傾聴・アクティブリスニング							
	⑥言いたいことをきちんと伝える技術：アサーション							
	⑦社会人インタビューにチャレンジ：キャリアの多様性理解と自分への応用							
	⑧企業内キャリア：キャリアのケーススタディ							
	⑨よいガマンと悪いガマン：メンタルヘルス・ハラスメントの基礎知識							
	⑩経験したアルバイトを分析する：「強み」を活かせる場の発見							
	⑪学生時代の経験を分析する：私の「学生時代10大ニュース」							
	⑫自分がイキイキできる企業風土・企業文化：「強み」と業界・企業研究との統合							
	⑬授業内試験と解説							
	⑭企業への自己アピールの極意：応募書類・面接・グループディスカッション							
	⑮まとめと総復習							

科目名	キャリアデザイン論B							
英文科目名	Introduction to Career Construction B							
担当者名	葛西和恵							
科目ナンバリング	RELT202							
授業の概要と到達目標	「人生100年時代」を生きるには、長期にわたって社会で活躍し続けるとともに、自分らしい人生を生きることが求められよう。そうしたキャリア（働き方・生き方）を叶えるために、この科目ではキャリアに関連する基本的な理論や方法論を学ぶ。理論や方法論を学ぶことに止まらず、それらを活用して自己理解を深めながら自分の希望する働き方・生き方と学生時代の過ごし方を融合させること、自分なりに納得できる進路（就職先）を探索し決定できること、よりよく働くための準備を整えることを目標とする。状況が許すようならば、外部講師の招聘を検討する。企業等における人材育成、キャリア形成支援の経験を活かし、事例を踏まえながら実践的な指導・助言を行う。経営学部ディプロマポリシー「ライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」、「業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を達成するための科目であり、あらゆる企業組織、公的組織において活躍できる人材の育成を目指す。							
授業の方法	この授業では、講義と演習を行う。アクティブ・ラーニングを促進するため、毎回の授業において演習、ディスカッションやリアクションペーパーによる講義内容の理解確認を行う。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。							
予習と復習	予習（90分）各講義の最後に次回学習課題を指示するので、その内容について自分なりに調べたり、自らの考えをまとめておくこと。復習（90分）当日の講義内容をその日のうちに再確認し、自身の活動や生活の中で学んだ理論・方法論等の実践を試みること。							
テキスト等	【参考図書】渡辺三枝子編(2018)『新版キャリアの心理学 第2版』ナカニシヤ出版。その他、授業の中で随時紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%
	5回以上欠席した場合は、授業内試験の受験資格を失うこととする。授業内試験では、キーコンセプトの理解に基づいた自らの考え方の論述を重視する。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】試験・レポート等については全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②移行期の重要性：人生の転換（トランジション）							
	③働く動機と価値観：エニアグラム・タイプ診断							
	④私の役割は何？：キャリアの発達と課題（ライフ・キャリア・レインボー、ライフ・ロール）							
	⑤職業への興味・関心を探索する：6角形のモデル							
	⑥マイ・キャリア・ストーリーを語る：ライフ・デザイン・アプローチ、キャリア構築インタビュー							
	⑦ご縁を引き寄せる生き方：計画された偶発性							
	⑧人生の選択をするとき：選択理論							
	⑨企業・組織で生き抜く術：企業内キャリア発達（キャリア・アンカー、キャリア・サバイバル）							
	⑩働く人へのキャリア支援：キャリア・カウンセリング（キャリアコンサルティング）							
	⑪30代でパートナーと共働きになったら：仕事と生活の調和・統合、統合的キャリア発達							
	⑫学ぶ意味を考察する：変幻自在なキャリア、関係性アプローチ							
	⑬授業内試験と解説							
	⑭就職という筋目のくぐり方：就職時と入社直後の適応							
	⑮まとめと総復習							

科目名	地方自治A							
英文科目名	Local Government A							
担当者名	五野井郁夫							
科目ナンバリング	RELT203							
授業の概要と到達目標	本講義では、地方自治についての基本的な知識の体得を目的とする。学校、警察、消防など、私たちの日常生活に密接なかかわりをもつのが、地方自治である。本講義においては、従来の地方行政に関する法令や制度の解説のみならず、広い視野から日本の地方行政と社会を論じてみたい。日本の地方自治の歴史を戦前・戦中・戦後と振り返りつつ、地方自治の二大アクターである議会と首長の関係や、議会の役割、広域行政としての道州制導入の有無など、地方自治の新しい課題も探る。商学部・経営学部に関連科目として国内外における社会の仕組みを学ぶ科目である。							
授業の方法	講義形式で行うとともに、理解度把握のために講義内での小テストも実施する。アクティブラーニングとしてPBL(課題解決型学習)を行う。パワーポイントや映像資料も積極的に活用する。ゲスト講師も適宜招聘予定である。授業計画は変更される場合もある。							
予習と復習	教科書等での予習(90分)にくわえて、講義では適宜参考文献を提示するので、各自で読み、講義の復習(90分)に充てること。「T-N a v i」にて予習・復習用の文献や課題等を配信する場合もある。							
テキスト等	宇賀克也『地方自治法概説〔第9版〕』（有斐閣）、今井照『地方自治講義』（ちくま新書）。その他文献等は開講時に開示する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内試験で評価を行う。講義内では小テスト等も実施し、適宜評価に加点する。ただしコロナ禍が続く場合は、毎回の講義でのレポートと期末レポートを評価へと振り替える。							
授業計画	①イントロダクション：地方自治とは何か							
	②日本政治と地方自治							
	③自治体の組織 首長							
	④自治体の組織 議会							
	⑤日本の地方自治の発展 戦前							
	⑥日本の地方自治の発展 戦後							
	⑦中央と地方の関係							
	⑧諸外国の地方自治							
	⑨自治体の統治システムと地方税財政							
	⑩地方自治体の組織と地方公務員・人事行政							
	⑪ガバナンスの時代の地方自治							
	⑫合併と広域連携							
	⑬福祉政策と費用負担							
	⑭市民参加と情報公開							
	⑮まとめと復習 地方自治の今後							

科目名	地方自治B							
英文科目名	Local Government B							
担当者名	五野井郁夫							
科目ナンバリング	RELT204							
授業の概要と到達目標	本講義では、地方自治の中心的課題のひとつである都市について学ぶ。現代の都市とはさまざまなメディアに媒介された関係の空間であると同時に、メディアを通じて生産・流通・消費される様々なイメージや表象を構成要素とする空間である。したがって本講義は、地方自治との関連で都市論と都市計画、そして建築理論を主軸としつつ、アニメ、マンガ、文学、映画等に登場する多様な都市像を具体的に検討しながら、諸テーマについて思考を深めることを目指す。商学部・経営学部の関連科目として国内外における社会の仕組みを学ぶ科目である。							
授業の方法	講義形式で行うとともに、理解度把握のために講義内での小テストも実施する。パワーポイントや映像資料も積極的に活用する。アクティブラーニングとしてフィールドワークを課す。ゲスト講師も適宜招聘予定である。授業計画は変更される場合もある。							
予習と復習	教科書等での予習(90分)にくわえて、講義では適宜参考文献を提示するので、各自で読み、講義の復習(90分)に充てること。「T-N a v i」にて予習・復習用の文献やレポート課題等を配信する場合もある。							
テキスト等	以下必ずしも購入の必要はないが、磯崎新『空間へ』 河出文庫、レム・コールハース『錯乱のニューヨーク』ちくま学芸文庫、吉田健一『東京の昔』ちくま学芸文庫、杉浦日向子『YASUJI東京』ちくま文庫 も熟読されたい。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	40%	平常点	0%
				0%				0%
	授業内試験で評価を行う。講義内では小テスト等も実施し、適宜評価に加点する。ただしコロナ禍が続く場合は、毎回の講義でのレポートと期末レポートを評価へと振り替える。							
授業計画	①イントロダクション：都市論と地方自治の現在							
	②都市と地方自治の歴史							
	③近代都市計画とその限界							
	④現代都市の理論1：工業都市、田園都市							
	⑤現代都市の理論2：モダニズムの都市、ル・コルビュジエの輝く都市							
	⑥現代都市の理論3：ポストモダニズムの都市、コルハースのニューヨーク							
	⑦グローバル都市と自治1：グローバル資本主義と都市の貧困							
	⑧グローバル都市と自治2：セキュリティと郊外問題							
	⑨東京論1：戦前の東京							
	⑩東京論2：戦後、東京オリンピックまで							
	⑪東京論3：バブルと震災以降							
	⑫東京論4：ストリート・カルチャーとしての東京							
	⑬東京論5：メディアとしての東京							
	⑭都市と自治のフィールドワーク							
	⑮まとめと復習：現代都市と地方自治の課題							

科目名		民法（法律行為）							
英文科目名		Civil law（ legal act ）							
担当者名		山里盛文							
科目ナンバリング		RELT205							
授業の概要と到達目標	この授業では、民法という法律のなかの「法律行為」について学びます。「法律行為」は、民法の冒頭部分の「総則（民法総則と呼ばれています）」のところに規定されています。民法総則は、私たちの生活に密接に関係していますが、抽象的な規定や専門性の高い規定も多くあります。そこで、授業においては、具体的な事例を用いて、理解が深まるようにします。民法（法律行為）についての基礎的な知識を習得し、民法（法律行為）が、どのような法律であり、現在の社会の中でどのような機能を果たしているか理解することを目標とします。								
授業の方法	授業においては、（事例）を用いて説明を加えます。課題解決学習として、（事例）の解決の方法について、履修者の皆さんも一緒に考えてください（アクティブラーニング）。								
予習と復習	予習として、授業資料・教科書・六法などを読み、法律学の独特な言い回しや用語について触れておいてください（90分）。習として、授業資料・教科書・六法・授業でメモしたノートなどをみて復習をしてください（90分）。								
テキスト等	テキスト：山本敬三監修 香川崇ほか『有斐閣ストゥディア 民法 1』（有斐閣・2021年）参考書：潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権（第8版）』（有斐閣・2018年） 六法								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%	
				0%					
	全般的な評価と所見をグーグルクラスルームなどで提示します。								
授業計画	①ガイダンス 民法の基礎								
	②民法の意義・基本原則								
	③権利能力 意思能力 行為能力								
	④意思表示 ①（総論 心裡留保 虚偽表示）								
	⑤意思表示 ②（錯誤）								
	⑥意思表示 ③（詐欺・強迫）								
	⑦法律行為の内容規制								
	⑧消費者契約の特則								
	⑨無効・取消し								
	⑩代理 ①（総論 有権代理）								
	⑪代理 ②（無権代理 代理権濫用など）								
	⑫代理 ③（表見代理）								
	⑬条件・期限								
	⑭時効								
	⑮まとめと総復習								

科目名	民法（債権）							
英文科目名	Civil law (credit, right to claim for the person)							
担当者名	山里盛文							
科目ナンバリング	RELT206							
授業の概要と到達目標	この授業では、その中の「債権編の総則(一般的に「債権総論」と呼ばれています。)」の部分、「不法行為」を扱います。具体的には、債務が履行されない場合(契約違反)の債権者の救済手段、債権を確実に回収するための手段、事故処理に関する規定などについて、具体的な事例を取り入れながら、理解が深まるようにします。民法(債権)についての基礎的な知識を習得し、民法（債権）が、どのような法律であり、現在の社会の中でどのような機能を果たしているか理解することを目標とします。							
授業の方法	授業においては、（事例）を用いて説明を加えます。課題解決学習として、（事例）の解決の方法について、履修者の皆さんも一緒に考えてください（アクティブラーニング）。							
予習と復習	予習として、授業資料・教科書・六法などを読み、法律学の独特な言い回しや用語について触れておいてください（90分）。授業後には、復習として、授業資料・教科書・六法・授業でメモしたノートなどをみて復習をしてください（90分）。							
テキスト等	テキスト：山本敬三監修 栗田昌裕ほか『有斐閣ストゥディア 民法4』（有斐閣・2018年） 中原太郎ほか『有斐閣ストゥディア 民法6』（有斐閣・2022年）参考書：窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ 債権（第8版）』（有斐閣・2018年）							
評価方法	定期試験	100%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	全般的な評価と所見をグーグルクラスルームなどで提示します。							
授業計画	①ガイダンス 債権法の基礎							
	②債権の目的							
	③債務不履行 ①（債務不履行の構造・種類）							
	④債務不履行 ②（債務不履行の要件）							
	⑤債務不履行 ③（損害賠償の範囲等）							
	⑥債権者代位権							
	⑦詐害行為取消権							
	⑧債権譲渡 債務引受							
	⑨弁済 ①（総論）							
	⑩弁済 ②（弁済の相手方 弁済の提供・受領遅滞）							
	⑪弁済 ③（弁済による代位 弁済の充当・方法）							
	⑫相殺							
	⑬不法行為 ①（一般不法行為）							
	⑭不法行為 ②（特殊不法行為）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経済地理学A							
英文科目名	Economic Geography A							
担当者名	新井智一							
科目ナンバリング	RELT301							
授業の概要と到達目標	【授業目標】 経済地理学の古典的な理論の基本を理解できることと、空間・距離と諸産業・経済とが相互にどのような影響を与えているかを地図や統計図表を読み取り、具体的に説明できることを目標とする。【授業概要】 この授業は商学部のディプロマ・ポリシーにある「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができる人材」育成や経営学部のディプロマ・ポリシーにある「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を担う科目の一つである。この授業では経済地理学の代表的な方法論である中心地理論や工業立地論、農業立地論といった諸産業の立地法則を中心に説明する。その際には地図や統計資料などを用いて、その理論の特徴や例外・問題点を具体的に解説する。授業は「自然地理学」や「人文地理学」の履修を済ませて、1次方程式や対数といった単純な数式が理解できることを前提として進める。							
授業の方法	授業は基本的に講義形式で行う。あわせてアクティブ・ラーニングの時間を設ける。スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向学習を通して、学習の理解確認を行う。							
予習と復習	予習（90分）配布資料を精読し、各図表の特徴を簡潔に指摘できるようにしておく。復習（90分）毎回出席して作成した授業ノートを読み込み、配布資料内のウェブサイトや参考図書を参考にして、授業の要点の理解に努める。							
テキスト等	【テキスト】 帝国書院編集部編『新詳高等地図』（帝国書院）【参考図書】 松原宏『立地論入門』（古今書院）、山本健児『経済地理学入門新版』（原書房）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
	特になし			0%	特になし			0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】 双方向学習や作業の成果は全般的所見等を授業内で、試験の全般的所見等をGoogle Classroomに提示する。Google Classroomで質疑応答や資料掲示、再配布や連絡等も行う。							
授業計画	①ガイダンス（授業全体の概説など）							
	②経済地理学とは？							
	③経済活動が行われる場としての都市Ⅰ—都市とは？							
	④経済活動が行われる場としての都市Ⅱ—都市の数と分布							
	⑤商業の立地Ⅰ—中心地理論の概要							
	⑥商業の立地Ⅱ—中心地の立地の事例							
	⑦商業の立地Ⅲ—例外的な中心地の立地の事例							
	⑧工業の立地Ⅰ—工業立地論の概要							
	⑨工業の立地Ⅱ—条件による工業の立地の差異							
	⑩工業の立地Ⅲ—例外的な工業の立地							
	⑪農業の立地Ⅰ—農業立地論の概要							
	⑫農業の立地Ⅱ—海外の例にみる農業の立地							
	⑬農業の立地Ⅲ—日本の例にみる農業の立地							
	⑭農業の立地Ⅳ—農業立地論の応用							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経済地理学B							
英文科目名	Economic Geography B							
担当者名	新井智一							
科目ナンバリング	RELT302							
授業の概要と到達目標	【授業目標】 近現代の経済活動とそれを取り巻く地域や社会の特徴、そして両者の相互作用について理解できることと、経済活動の特性によって独特の地理的現象が生じることを、地図や統計図表から読み取って具体的に説明できることを目標とする。【授業概要】 この授業は商学部のディプロマ・ポリシーにある「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができる人材」育成や経営学部のディプロマ・ポリシーにある「事業継承者・ベンチャー経営者としての人材養成」を担う科目の一つである。この授業では近現代に成立し、今日の我々の生活に不可欠な百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンスストアの経済地理に注目する。これらの小売業態の成立背景と立地展開の特徴を中心に、具体的に解説する。授業は「経済地理学A」と「自然地理学」、「人文地理学」を履修したことを前提に進める。							
授業の方法	授業は基本的に講義形式で行う。あわせてアクティブ・ラーニングの時間を設ける。スマートホンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向学習を通して、学習の理解確認を行う。							
予習と復習	予習（90分）配布資料を精読し、各図表の特徴を簡潔に指摘できるようにしておく。復習（90分）毎回出席して作成した授業ノートを読み込み、配布資料内のウェブサイトや参考図書を参考にして、授業の要点の理解に努める。							
テキスト等	【テキスト】 帝国書院編集部編『新詳高等地図』（帝国書院）【参考図書】 土屋 純『地理学で読み解く流通と消費—コンビニはなぜ集中出店するのか』（ベレ出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
	特になし			0%	特になし			0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】 双方向学習や作業の成果は全般的所見等を授業内で、試験の全般的所見等をGoogle Classroomに提示する。Google Classroomで質疑応答や資料掲示、再配布や連絡等も行う。							
授業計画	①ガイダンス（授業全体の概説など）							
	②経済地理学における「消費者」とは？							
	③消費者としての人口の地域的差異							
	④所得からみる世帯の特性							
	⑤家族類型からみる世帯の特性							
	⑥百貨店の登場とその背景							
	⑦日本における百貨店の位置づけと役割							
	⑧日本・関東地方における百貨店の立地展開							
	⑨流通革命とスーパーマーケット							
	⑩スーパーマーケットの立地展開とその工夫							
	⑪関東地方におけるスーパーマーケットの立地戦略							
	⑫コンビニエンスストアの誕生と成長							
	⑬日本におけるコンビニエンスストアの立地展開とその工夫							
	⑭関東地方におけるコンビニエンスストアの立地特性							
	⑮まとめと総復習							

科目名	外書講読A							
英文科目名	Reading of Foreign Books A							
担当者名	森平明彦							
科目ナンバリング	REM301							
授業の概要と到達目標	経営学部のディプロマ・ポリシーである国際的経営センスを有するビジネス・パーソンを養成する科目です。経営に関する比較的基礎的な英語文献の読解を通じて、英語的な発想を理解する。英語による経営のエッセイや経営者紹介文の輪読、及び英単語の語彙力向上のための訓練をします。何より、辞書を引いて、英語を訳してることが授業に臨む第一歩。＜準備学修(予習・復習)＞事前に配布するプリントを授業前に十分読んで、辞書を引いて、日本語訳をつくっておくこと。							
授業の方法	毎回、皆さんに和訳、プレゼンテーションにより、アクティブ・ラーニングをしてもらいます。そのあと、詳しく問題点を指摘します。なお、アクティブラーニングの具体的な方法、やり方はグーグルクラスルームのフォーム等による。							
予習と復習	予習（90分；事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をレポートにまとめておくこと）と復習（90分；講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）の課題は適宜授業で示します。							
テキスト等	英字新聞や経営者自伝等のコピーを配布します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
	40%の欠席で単位認定不可		0%					0%
	平常点は、毎回の読解（英文和訳）の評価で構成します。							
授業計画	①英語の発想法の初期理解。簡単な英文読解その1（リーディング教科書より）							
	②英語の発想法の初期理解。簡単な英文読解その2（中級リーディング読本より）							
	③英字新聞を読むその1（日本企業；自動車産業）							
	④英字新聞を読むその2（日本企業；流通業）							
	⑤英字新聞を読むその3（日本企業；製造業）							
	⑥英字新聞を読むその4（グローバル企業；IT企業）							
	⑦英字新聞を読むその5（グローバル企業；金融業）							
	⑧経営者の英語伝記本を輪読その1（安藤百福）							
	⑨経営者の英語伝記本を輪読その2（本田宗一郎）							
	⑩経営者の英語伝記本を輪読その3（本田宗一郎）							
	⑪経営者の英語伝記本を輪読その4（松下幸之助）							
	⑫経営者の英語伝記本を輪読その5（松下幸之助）							
	⑬まとめと復習1（ビジネス単語）							
	⑭まとめと復習2（内容把握と要約）							
	⑮まとめと復習（その他）							

科目名	外書講読B							
英文科目名	Reading of Foreign Books B							
担当者名	森平明彦							
科目ナンバリング	REM302							
授業の概要と到達目標	経営学部のディプロマ・ポリシーである国際的経営センスを有するビジネス・パーソンの養成する科目です。経営に関する比較的基礎的な英語文献の読解を通じて、英語的な発想を理解する。英語による経営のエッセイの経営者紹介文の輪読、及び英単語の語彙力向上のための訓練をします。何より、辞書を引いて、英語を訳してることが授業に臨む第一歩。＜準備学修(予習・復習)＞事前に配布するプリントを授業前に十分読んでおくこと。							
授業の方法	毎回、皆さんに和訳をしてもらいます。アクティブラーニングの実践的授業として応答を行います。そのあと、詳しく問題点を指摘します。なお、アクティブラーニングの具体的な方法、やり方はグーグルクラスルームのフォーム等による。							
予習と復習	予習（90分）と復習（90分；講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること）の課題は適宜授業のなかで指示しますが、予習は事前に配布するプリントを授業前に十分読んで、辞書を引いて、日本語訳をつくっておくこと。							
テキスト等	簡単な経営戦略論の英語論文を読む。そのほか英字新聞を輪読。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
	40%の欠席で単位認定不可			0%				0%
	平常点は、毎回の読解（英文和訳）の評価です。							
授業計画	①英語の発想法の初期理解。簡単な英文読解（大学リーディングテキスト）							
	②英語の発想法の初期理解。簡単な英文読解その2（大学リーディングテキスト）							
	③競争戦略論の英語文献を輪読1（マイケルポーター）							
	④競争戦略論の英語文献を輪読2（マイケルポーター）							
	⑤経営学の英語文献を輪読3（チェスター・I・バーナード）							
	⑥経営学の英語文献を輪読4（チェスター・I・バーナード）							
	⑦英字新聞を読むその1（ジャパントイムス）							
	⑧英字新聞を読むその2（ジャパントイムス）							
	⑨英字新聞を読むその3（The Japan News（ジャパン・ニューズ））							
	⑩英字新聞を読むその4（The Japan News（ジャパン・ニューズ））							
	⑪英語論文を読むその1（ビジネススクールテキスト）							
	⑫英語論文（ビジネススクールテキスト）							
	⑬まとめと復習1（ビジネス英単語）							
	⑭まとめと復習2（内容把握要約）							
	⑮まとめと復習（ビジネス英語の特徴）							

科目名		地域開発論A							
英文科目名		Regional Development A							
担当者名		2023年度休講							
科目ナンバリング		RELT303							
授業の概要と到達目標	「地域開発論A」は、高千穂大学の文化であり、精神である、「家族主義的教育共同体」を目指すプロジェクト型授業です。そして、経営学部の教育目的である「創造型企業人の育成」のため、ディプロマ・ポリシーにある「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンの養成」「ICT（情報通信技術）の知識とスキルを企業活動に生かせる人材」を達成するための科目です。それゆえ、オンライン・オフラインを問わず、多様な他者と協働し、合意形成し、企画立案したものを第三者へ伝えるという課題を成果物とします。先進的な事例として、SDGs未来都市に選定されている横浜市等のケーススタディをしますが、最終的には受講者にとっての「地域」を対象にして課題解決に取り組みます。「地域開発論A」ではアイデアを形にすることにフォーカスし、後期の「地域開発論B」における実践への足場かけとします。								
授業の方法	本科目はPBL（課題解決型学習）であり、全15回アクティブ・ラーニングで行います。グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションは不可欠です。スマートフォン、PC、多様なアプリケーションを使用し、双方向授業を実施します。								
予習と復習	予習（90分）：反転学習として、教員が事前に資料を提供するか、ご自身で情報収集して頂きます。それらを読んだ上で授業に臨んでください。復習（90分）：次回の授業までに各自情報収集したり、現場に足を運んだり、発表資料を作成したりして頂きます。								
テキスト等	テキスト：テキストは使用しません。資料：各省庁、都道府県、市区町村などが発信している公式webサイトや統計データを活用します。受講者自らが主体的に情報を取りに行くことを推奨しますが、自力で情報収集することが容易でない場合は相談に応じます。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%	
	授業内課題（発表、質疑応答、クリッカー等）			50%	授業外課題（現地調査、振り返り、資料作成等）			40%	
授業計画	基本的にグループワーク中心の授業なので、欠席をしたり、課題をやらないと他の学生に迷惑をかけることになります。個人の課題提出のみで単位取得は困難です。成果物に対する評価軸は授業内で検討し、事前に周知した上で課題に取り組んで頂きます。								
	①ガイダンス：地域開発とは？								
	②Phase 0：PBLとは？なぜPBL？								
	③Phase 0：PBLを始めるためのマインドセット								
	④Phase 0：PBLを始めるためのスキルセット								
	⑤Phase 0：ミニPBL体験								
	⑥グルーピング：グループワークをするメンバー決定、アイスブレイク、ルール策定								
	⑦Phase 1：フィールドワーク（できるだけ現地現認で観察）								
	⑧Phase 1：サーベイ（対象を決め、観察・調査）								
	⑨Phase 1：リサーチ（先行事例研究／対象に関する文献、データ等の情報収集）								
	⑩Phase 1：各グループの中間発表→課題の再定義（真の課題は何か？）								
	⑪Phase 2：評価軸を考えよう								
	⑫Phase 2：課題解決のためのソリューション（案）を収斂しよう								
	⑬Phase 2：発表資料の作成								
	⑭Phase 2：成果発表会								
⑮まとめと総復習									

科目名		地域開発論B							
英文科目名		Regional Development B							
担当者名		2023年度休講							
科目ナンバリング		RELT304							
授業の概要と到達目標	「地域開発論B」は、高千穂大学の文化であり、精神である、「家族主義的教育共同体」を目指すプロジェクト型授業です。そして、経営学部の教育目的である「創造型企業人の育成」のため、ディプロマ・ポリシーにある「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンの養成」「ICT（情報通信技術）の知識とスキルを企業活動に生かせる人材」を達成するための科目です。それゆえ、オンライン・オフラインを問わず、多様な他者と協働し、合意形成したコトを実践し、第三者へ伝えるという課題を成果物とします。先進的な事例としてSDGs未来都市に選定されている横浜市等のケーススタディをしますが、最終的には受講者にとっての「地域」を対象にして、課題解決のための実践に取り組みます。前期の「地域開発論A」ではアイデア創出に注力するので、後期の「地域開発論B」では実現可能性も考慮して実践することに重きを置きます。								
授業の方法	本科目はPBL（課題解決型学習）であり、全15回アクティブ・ラーニングで行います。グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションは不可欠です。スマートフォン、PC、多様なアプリケーションを使用し、双方向授業を実施します。								
予習と復習	予習（90分）：反転学習として、教員が事前に資料を提供するか、ご自身で情報収集して頂きます。それらを読んだ上で授業に臨んでください。復習（90分）：次回の授業までに各自情報収取したり、実践したり、発表資料を作成したりして頂きます。								
テキスト等	テキスト：テキストは使用しません。資料：各省庁、都道府県、市区町村などが発信している公式webサイトや統計データを活用します。受講者自らが主体的に情報を取りに行くことを推奨しますが、自力で情報収集することが容易でない場合は相談に応じます。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%	
	授業内課題（発表、質疑応答、クリッカー等）			50%	授業外課題（実践、振り返り、資料作成等）			40%	
授業計画	基本的にグループワーク中心の授業なので、欠席をしたり、課題をやってこないと他の学生に迷惑をかけることになります。個人の課題提出のみで単位取得は困難です。成果物に対する評価軸は授業内で検討し、事前に周知した上で課題に取り組んで頂きます。								
	①ガイダンス：「地域開発論A」の振り返りと「地域開発論B」への橋渡し								
	②Phase 0：アイスブレイク								
	③Phase 0：グループからチームへのマインドセット								
	④Phase 0：グループからチームへのスキルセット								
	⑤Phase 0：チームビルディング（チーム発表→ルール策定）								
	⑥Phase 1：対象を決定→調査開始								
	⑦Phase 1：フィールドワーク（宝探し）								
	⑧Phase 1：先行事例研究								
	⑨Phase 1：実現可能性を考慮し、チームで合意形成								
	⑩中間発表：なぜ（Why）そのテーマを選び、何を（What）どう（How）するか？								
	⑪Phase 2：5W1Hで情報を整理してみよう								
	⑫Phase 2：実践の記録（データ、画像、映像等）を残そう								
	⑬Phase 2：実践を可視化、言語化しよう								
	⑭Phase 2：実践報告と振り返り								
⑮まとめと総復習									

科目名		法文化論A							
英文科目名		Legal Culture A							
担当者名		寺内一							
科目ナンバリング		RELT305							
授業の概要と到達目標	ビジネス・経営におけるさまざまな活動の基礎となる「法」を「文化」という観点から学ぶ。「法」とは言語・神話・宗教・道徳・経済・政治と同じく文化の一部ないし一側面であり、「文化」はわれわれの「環境の中の人為的な部分」である。「法」は国の文化の象徴であるが、その文化を構成しているともいえる。本講においては文化の一構成要素である「法」が何故存在するかを法廷映画を観ながら考察していく。特に、西洋の法思想の中心に位置する「正義」という概念がまさに「法」そのものなのであるのに対して、日本では「正義＝法」ととらえることが可能なのかを考えてみたい。なお、本講座は商学・経営学・人間科学の関連科目として位置づけられており、専門領域の学習の礎となっている。この科目は、商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」、経営学部の「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンとなるための力」、また人間科学部の「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できこと」を達成する科目である。								
授業の方法	授業の前半は講義形式で行ってから、後半は授業のポイントを整理するために、受講生同士で課題に対する回答を話し合い発表してもらう（アクティブラーニング＋クリッカー）。授業の最後に確認レポートの提出を4回行う。								
予習と復習	予習（90分）授業前に法廷映画を見ることを含め、前の授業内に出された課題をして次の授業時に臨むこと。復習（90分）毎授業内に確認レポートを提出してもらうので、復習を心がけること。								
テキスト等	教科書は使わず授業時にプリントを配布する。なお、碧海純一『法と社会―新しい法学入門』（中公新書）を参考書として推薦する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	50%	平常点	0%	
	課題・参加態度			20%	0%				
	上記の方法で総合評価する。レポート（2回）については返却せずに全般的な評価と所見を授業中に提示する。								
授業計画	①オリエンテーション（法とは何か）								
	②法と法律								
	③法と正義、法と言語、法と文化								
	④法と道徳、法と政治、法と経済								
	⑤法と翻訳語								
	⑥法廷映画『評決』								
	⑦法廷映画『陪審員』								
	⑧中間まとめと第1回授業内試験								
	⑨第1回授業内試験の解説・英米法と大陸法（歴史的背景）								
	⑩法廷映画『推定無罪』								
	⑪英米法と大陸法（ニュルンベルク裁判を例に）								
	⑫法廷映画『JFK』								
	⑬法廷映画のまとめと第2回授業内試験								
	⑭第2回授業内試験の解説と総まとめ								
	⑮レポートのまとめと解説								

科目名		法文化論B								
英文科目名		Legal Culture B								
担当者名		寺内一								
科目ナンバリング		RELT306								
授業の概要と到達目標	ビジネス・経営におけるさまざまな活動の基礎となる「法」を「文化」という観点から学ぶ。本講においては文化のひとつの構成要素である「法」の役割を古代、中世・近代、現在社会に分けて考察する。具体的には、中国・エジプト・メソポタミア・インドの四大文明の法、現在の大陸法の源泉となった古代ギリシア・古代ローマと中世ローマの法とその後の法の継受、古代ゲルマン人由来の慣習法と英米法の関係を把握し、最終的には現在の世界の法体系を対極的にとらえる。全授業をとおして法がなぜ存在してきたのか、将来、法は社会においてどのような役割を演じるのかを考えていく。なお、本講座は商学・経営学・人間科学の関連科目と位置付けられており、各専門領域の学習の礎となっている。この科目は、商学部のディプロマポリシー「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」、経営学部の「国際的経営センスを有するビジネス・パーソンとなるための力」、また人間科学部の「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できこと」を達成する科目である。									
授業の方法	授業は講義形式で行うこととなる。授業の前半でポイントを整理するために、教員から受講生に問いかけを行う（アクティブラーニング＋クリッカー）。授業の最後に課題を出すので指定された期間内に提出する。									
予習と復習	予習（90分）授業前に授業内に出された課題をして次の授業時に臨むこと。復習（90分）毎授業後に課題を提出してもらうので、復習を心がけること。									
テキスト等	教科書は使用せず授業時にプリントを配布するが、21世紀研究会（編）『法律の世界地図』（文芸春秋）を参考書として推薦する。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	50%	平常点	0%		
	課題・参加態度			20%						0%
	上記の方法で総合評価する。レポート（2回）については返却せずに全般的な評価と所見を授業中に提示する。									
授業計画	①オリエンテーション（法とは何か）									
	②世界の法体系									
	③古代メソポタミアの法・古代エジプトの法									
	④古代中国の法・古代インドの法									
	⑤古代ギリシャ・古代ローマの法									
	⑥第1回レポート解説と中間まとめ									
	⑦中世ローマの法と大陸法									
	⑧ローマ法の継受と大陸法の発展									
	⑨大陸法諸国の特徴									
	⑩古代ゲルマンの法と英米法の萌芽									
	⑪英米法諸国の発展と特徴									
	⑫イスラームの法									
	⑬その他の国の法									
	⑭第2回レポート解説と総まとめ									
	⑮レポートのまとめと解説									

科目名		民法（契約）						
英文科目名		Civil law（contract）						
担当者名		山里盛文						
科目ナンバリング		RELT307						
授業の概要と到達目標	この授業では、「民法第4編債権第2章契約」の部分を扱います。具体的には、契約の成立、契約の効力、契約の解除、売買契約などの各種契約について、具体的な事例を取り入れながら、理解が深まるようにします。民法（契約）についての基礎的な知識を習得し、民法（契約）が、どのような法律であり、現在の社会の中でどのような機能を果たしているか理解することを目標とします。							
授業の方法	授業においては、（事例）を用いて説明を加えます。課題解決学習として、（事例）の解決の方法について、履修者の皆さんも一緒に考えてください（アクティブラーニング）。							
予習と復習	予習として、授業資料・教科書・六法などを読み、法律学の独特な言い回しや用語について触れておいてください（90分）。そして、授業後には、復習として、授業資料・教科書・六法・授業でメモしたノートなどを参照してしてください（90分）。							
テキスト等	テキスト：山本敬三ほか『有斐閣ストゥディア 民法5』（有斐閣・2022年）参考書：窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ 債権（第8版）』（有斐閣・2018年） 六法							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	100%	平常点	0%
				0%				0%
	全般的な評価と所見をグーグルクラスルームなどで提示します。							
授業計画	①ガイダンス 契約法の基礎							
	②契約の成立							
	③契約の効力（同時履行の抗弁権 第三者のためにする契約）							
	④契約の解除 危険負担							
	⑤売買契約 ①（売買契約の成立 買戻し）							
	⑥売買契約 ②（売買契約の効力）							
	⑦贈与契約							
	⑧消費貸借契約 使用貸借契約							
	⑨消費者信用							
	⑩賃貸借契約 ①（総論）							
	⑪賃貸借契約 ②（賃貸借契約と第三者）							
	⑫賃貸借契約 ③（借地借家法）							
	⑬請負契約							
	⑭寄託契約 組合契約 和解契約							
	⑮まとめと総復習							

科目名	民法（物権変動と担保）								
英文科目名	Civil law（transfer of the real right and real security）								
担当者名	山里盛文								
科目ナンバリング	RELT308								
授業の概要と到達目標	この授業で扱う物権変動と担保は、不動産取引や金融取引の基本となります。授業では、物権変動と担保についての基本的な知識を備えられるよう具体的な事例を取り上げながら、理解が深まるようにします。民法（物権変動と担保）についての基礎的な知識を習得し、民法（物権変動と担保）が、どのような法律であり、現在の社会の中でどのような機能を果たしているか理解することを目標とします。								
授業の方法	授業においては、（事例）を用いて説明を加えます。課題解決学習として、（事例）の解決の方法について、履修者の皆さんも一緒に考えてください（アクティブラーニング）。								
予習と復習	予習として、授業資料・教科書・六法などを読み、法律学の独特な言い回しや用語について触れておいてください（90分）。そして、授業後には、復習として、授業資料・教科書・六法・授業でメモしたノートなどを参照してしてください（90分）。								
テキスト等	テキスト：安永正昭『講義 物権・担保物権法（第4版）』（有斐閣・2021年） トゥデディア 民法4 債権総論』参考書：潮見佳男他編『民法判例百選Ⅰ（第8版）』 判例百選Ⅱ（第8版）』 六法 山本敬三監修『有斐閣ス 窪田充見他編『民法								
評価方法	定期試験	100%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
				0%				0%	
	全般的な評価と所見をグーグルクラスルームなどで提示します。								
授業計画	①ガイダンス 物権法の基礎								
	②物権変動 ①（総論）								
	③物権変動 ②（不動産物権変動）								
	④物権変動 ③（動産物権変動） 物権の消滅								
	⑤所有権 ①（総論 所有者不明土地対策関連法制 相隣関係）								
	⑥所有権 ②（共有 土地・建物管理命令 区分所有）								
	⑦占有権 物権的請求権								
	⑧担保権総論								
	⑨抵当権 ①（総論）								
	⑩抵当権 ②（抵当権の効力）								
	⑪抵当権 ③（抵当権と抵当不動産の利用）								
	⑫抵当権 ④（共同抵当 根抵当 抵当権の消滅）								
	⑬不可分債権・債務 連帯債権・債務								
	⑭保証債務								
	⑮まとめと総復習								

科目名	年金論A							
英文科目名	Pension A							
担当者名	角田大祐							
科目ナンバリング	SLDC301							
授業の概要と到達目標	年金論Aでは公的年金の役割と仕組みを中心に講義します。近年、公的年金については不安を持っている方も多いようです。しかし公的年金は老齢期の所得保障として合理的な仕組みで運営されており、また障害や死亡に対しても所得補てんを行い社会保障制度の一つとして重要な役割を果たしています。学生の皆さん（20歳以上）は、公的年金の被保険者であり社会に出てからも公的年金とは永く関わります。公的年金に関する正しい知識を身に付けましょう。担当教員は開業社会保険労務士であり企業や個人への相談・助言等の経験を活かし諸問題について解説して行きます。本講義は人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけること」を達成するための科目です。							
授業の方法	授業中に配布するプリントに沿って進めます。毎回授業に関する感想や考察をコメントペーパーに書いて提出してもらいます。毎回の授業終了時にディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間を設けます。							
予習と復習	予習（90分）事前に配布するプリントを読んで、要点をレポートにまとめておいて下さい。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認して下さい。							
テキスト等	プリントを配布します。参考文献は適宜指示します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	10%	平常点	20%
				0%				0%
	授業内試験は指定資料のみ持込可です。授業中にレポートの提出を一回求めます。平常点は、コメントペーパーの提出状況に基づき決定します。単位取得のためには、2／3以上の出席を必要とします。							
授業計画	①ガイダンス							
	②年金制度の概要							
	③公的年金の役割・社会保障制度における位置づけ							
	④公的年金の構成・国民年金・厚生年金保険							
	⑤公的年金の被保険者							
	⑥公的年金の保険料							
	⑦公的年金の給付①老齢年金							
	⑧公的年金の給付②障害年金							
	⑨公的年金の給付③遺族年金							
	⑩公的年金の給付④給付通則							
	⑪公的年金の負担①財源調達							
	⑫公的年金の負担②財政方式							
	⑬公的年金の主な課題①（給付縮小が見込まれる中で個人の視点から）							
	⑭公的年金の主な課題②（少子高齢社会において制度を持続するためには）							
	⑮授業内試験と解説							

科目名	年金論B							
英文科目名	Pension B							
担当者名	角田大祐							
科目ナンバリング	SLDC302							
授業の概要と到達目標	年金論Bでは現在の日本における公的年金の論点、さらには公的年金以外の年金制度（企業年金制度等）、自助努力の制度、労働者災害補償保険の年金、世界の年金について講義します。学生の皆さんにとっては、ご自身の将来・老後の生活設計について考えるきっかけとなるでしょう。年金専門職（日本年金機構職員、社会保険労務士、ファイナンシャルプランナー等）を目指す場合、これらの知識はより重要です。ところで本講義の履修前には、年金論Aを履修することをおすすめします。担当教員は開業社会保険労務士であり、企業や個人への相談・助言等の経験を活かし諸問題を解説して行きます。本講義は人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけること」を達成するための科目です。							
授業の方法	授業時に配布する音声・動画・プリントに沿って進めます。毎回授業に関する感想や考察をコメントペーパーに書いて提出してもらいます。コメントペーパーに対する評価を教員から伝えるようにしコミュニケーション（アクティブ・ラーニング）の時間を設けることとします。							
予習と復習	予習（90分）事前に配布するプリントを読んで、要点をレポートにまとめておいて下さい。復習（90分）講義後、その日のうちに講義内容を再確認して下さい。							
テキスト等	プリントを配布します。参考文献は適宜指示します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	10%	平常点	20%
				0%				0%
	授業内試験は指定された資料を参照可とします。平常点は、コメントペーパーの提出状況に基づき決定します。単位取得のためには、2／3以上の出席を必要とします。							
授業計画	①ガイダンス							
	②年金論Aの復習							
	③老後所得保障の全体像							
	④公的年金							
	⑤企業保障							
	⑥退職金・企業年金①（中退共、内部留保）							
	⑦退職金・企業年金②（確定給付企業年金）							
	⑧退職金・企業年金③（企業型確定拠出年金）							
	⑨自助努力の全体像							
	⑩自助努力①（個人型確定拠出年金）							
	⑪自助努力②（その他）							
	⑫労働者災害補償保険①（労災保険の年金）							
	⑬労働者災害補償保険②（精神障害、脳心臓疾患の労災認定要件）							
	⑭年金の方向性（世界の年金を参考に）							
	⑮まとめと復習							

科目名	商学特別講義							
英文科目名	Special Lecture on Commercial							
担当者名	庄司真人							
科目ナンバリング	RELT312							
授業の概要と到達目標	この講義は地域のマーケティングに関する企画立案を行うために必要な知識や考え方を身につけることを目的としている。近年、我が国では、インバウンド消費や観光立国といった点から、地域への関心が高まってきている。サービス・マーケティングや地域ブランドや地域のエコシステムなど、従来のマーケティングの考え方を発展させた枠組みが求められている。そこで、本講義では、地域デザイン学会の協力のもと、地域のマーケティング活動に必要な地域や考え方に関する講演を聴くとともに、関連団体への訪問およびポスターによる提案を行うことで、マーケティング活動の企画立案に必要な能力を身につけることを目的とする。「マーケティング戦略の企画・立案・実行ができること」を達成に大きく関連する科目である。							
授業の方法	この講義では、担当教員の講義、外部講師の講演、および自律的な学習（アクティブラーニング）からなる。アクティブラーニングとしてはグループワークをもとにしたプレゼンテーションを行う。							
予習と復習	<予習（90分）> 事前に示された範囲に基づき、指定された資料を読んでおくこと。<復習（90分）> 授業内容を整理し、課題を実施すること。							
テキスト等	テキスト：資料を配付する。参考書：ラッシュ、バーゴ著（庄司他訳）『サービス・ドミナント・ロジックの発想と応用』同文館出版、2016年。原田保編著『地域デザイン総論』芙蓉書房出版、2013年。原田保編著『クリエイティブビジネス論』学文社、2017年。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
	授業中課題の実施			60%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】講義中に行う課題について全般的所見を提示し、個別に指導する。							
授業計画	①観光と地域の視点							
	②地域デザインのための戦略発想：外部講師							
	③世界遺産に見るコンテキスト転換							
	④プレゼンテーション企画							
	⑤観光から観光へ：外部講師							
	⑥データ収集（質的データ）							
	⑦SDGsの時代に「テロワール・ツーリズム」を起こす：外部講師							
	⑧データ収集（量的データ）							
	⑨SDGsとブランディング～MICE業界における実践事例を通して：外部講師							
	⑩プレゼンテーション準備							
	⑪まちづくりとDX（デジタルトランスフォーメーション）：外部講師							
	⑫プレゼンテーション準備（詳細の検討）							
	⑬プレゼンテーション（全体概要）							
	⑭プレゼンテーション（詳細）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	経営学特別講義A							
英文科目名	Special Lecture on Management A							
担当者名	竹内慶司							
科目ナンバリング	RELT313							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>本講義は、小売及び流通業界を代表する講師によりオムニバス方式にて構成されている。この講義により、小売・流通業界における実態と展望を理解すると共に、職業人となるための基本的姿勢についても確認して頂きたい。この講座は「（一社）日本販売士協会」による寄附講座であり、貴重な学習機会を与えられるものである。初回はガイダンスとし、全回に渡り各分野の専門家が理論的かつ実務的なアプローチを展開していく。また、日商リテールマーケティング検定1級を目指す学生にとっても有意義な内容になっている。<到達目標>流通業界の歴史・現状・将来展望についての講義が主に展開されることとなる。小売流通業界研究に関する貴重な機会であり、理論的かつ実務的能力を育成されたい。またディプロマポリシーである「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなりうる人材」の育成に資する内容が多く含まれているので、深く学ぶことを心がけて欲しい。							
授業の方法	原則として各回パワーポイントによる講義系会式となる。講師により質疑応答（アクティブ・ラーニング）がなされることもある。							
予習と復習	予習復習時間は、各90分以上確保すること。（予習）13回各々の講師及び、テーマが公表されるため、各テーマに関連する文献、資料等確認すること。（復習）毎回の講義内容についてノート・テイキングを行ない、配布された資料と共に整理すること。							
テキスト等	各講師の投影資料、配布資料等。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	上記の方法にて総合評価する。平常点は出席を重視する。							
授業計画	①第1回ガイダンス I (竹内慶司)							
	②第2回(外部講師)							
	③第3回(外部講師)							
	④第4回(外部講師)							
	⑤第5回(外部講師)							
	⑥第6回(外部講師)							
	⑦第7回(外部講師)							
	⑧第8回(外部講師)							
	⑨第9回(外部講師)							
	⑩第10回(外部講師)							
	⑪第11回(外部講師)							
	⑫第12回(外部講師)							
	⑬第13回(外部講師)							
	⑭第14回(外部講師)							
	⑮第15回まとめと総復習(竹内慶司)							

科目名	経営学特別講義B							
英文科目名	Special Lecture on Management B							
担当者名	小林康一							
科目ナンバリング	RELT314							
授業の概要と到達目標	各講義における講師の講義内容を通し、食品及び、流通業界の実態と展望を理解すると共に、職業人となるための基本的姿勢についても確認する。本講義は、「新日本スーパーマーケット協会」による寄附講座である。初回及び2回目はガイダンスとし、10回に渡り上記テーマに関して専門家が理論的及び、実務的アプローチを展開する。ディプロマポリシーとの関連については、経営学部のディプロマポリシー「経営管理を学びライン部門・スタッフ部門のマネジメントとなり得る人材」の育成を目的とした科目である。							
授業の方法	原則各回毎レジュメを配布されるので、レジュメを参考としつつ、講義形式にて展開される。講師により質疑応答（アクティブ・ラーニング）がなされることもある。							
予習と復習	予習（90分）前回講義の終了時に紹介した次回講義のテーマや後援企業の事業内容を事前に調査し、自分なりの意見をまとめておく。復習（90分）講義の内容を再度検討し、改めて理解を深める、また疑問がある場合は次回までに質問をまとめる。							
テキスト等	各回毎レジュメを配布							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%
				0%				0%
	上記の方法で総合評価する。毎回の講義内容に関する要旨あるいは感想(合計10回)。ガイダンスを含め全講義回数のうち、正当であると判断できる欠席を除き、3回以上欠席した者は、成績評価対象とはしない。							
授業計画	①経営学特別講義Bの授業目的（ガイダンス）							
	②落合務：『また来るよ』と言われるイタリアンレストランを目指して							
	③武田隆：ファンコミュニティが育む“絆” ～これからの企業と顧客の関係～							
	④仲田浩康：食文化と共に進化する両輪・両利きのビジネスモデル							
	⑤出雲 充：僕はミドリムシで世界を救うことに決めました							
	⑥中間まとめ1							
	⑦中間まとめ2							
	⑧住友達也：移動スーパーとくし丸の社会的役割と可能性							
	⑨大坪 直木：うたと音楽による生きがいづくり							
	⑩八田麻紗子：ベンチャー企業の経営戦略							
	⑪金盛幹昌：食品衛生法改正 HACCP制度化施行 食品衛生のこれからとホシザキの取り組み							
	⑫水成隆之：廃棄物から価値を創出する技術							
	⑬石田啓一：ヨシムラ・フード・ホールディングスの行う中小企業支援と活性化							
	⑭調整中							
	⑮まとめと復習							

科目名	Current Social Problems							
英文科目名	Current Social Problems							
担当者名	栗原 亘							
科目ナンバリング	SAP201							
授業の概要と到達目標	この授業では、当該年度の中期留学留学生を対象として、現代社会における種々の社会問題について、英語による集中講義を行います（12月帰国後の講義日程は、受講者に別途連絡する）。参加者は、内容理解に関する課題（リスニング、ライティング、翻訳）を行うほか、英語によるコミュニケーションスキルを高めるためのディスカッションや、留学の成果を報告書にまとめるための作業等を行います。各回に扱うトピックは、授業計画にもある貧困、犯罪、環境、移民、安全保障、労働問題等のほか、参加者の専門領域や留学中の活動・関心を考慮し、適宜追加・変更します。人文・社会分野の視点から幅広く教養を身につけるとともに、外国語を用いたコミュニケーション能力を向上させるための科目です。							
授業の方法	受講者の関心にしたがって選定したトピックについて、新聞記事などの文献（英文）を調査し、毎回内容の理解を確認し議論します。講義科目ですが、アクティブラーニングの手法を用いるため、演習への積極的な準備と参加、予習復習が必要になります。							
予習と復習	事前に配布するプリントを授業前に読んでくること。内容理解に関する復習課題（小テストなど）を課します。（予習90分）授業中に習った単語や表現などをノートにまとめ、復習に取り組んでください（復習90分）							
テキスト等	設定したトピックに関する資料を適宜配布します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	20%	レポート	20%	平常点	60%
				0%				0%
	学内講義は、12月帰国後に集中して行います。							
授業計画	①Introduction							
	②Theories of Social Problems							
	③Poverty and Welfare1							
	④Poverty and Welfare2							
	⑤Crime and Delinquency 1							
	⑥Crime and Delinquency 2							
	⑦Immigration 1							
	⑧Immigration 2							
	⑨War and Security 1							
	⑩War and Security 2							
	⑪Ecological Movement 1							
	⑫Ecological Movement 2							
	⑬Other economic issues 1							
	⑭Other economic issues 2							
	⑮Summary							

科目名		人間科学概論A							
英文科目名		Introduction to Human Sciences A							
担当者名		小平健太							
科目ナンバリング		HMSC101							
授業の概要と到達目標	【目標】現代社会における諸問題（自己・他者理解、教育格差、戦争と平和、貧困問題、環境問題、ジェンダー問題等）とそれに対する思考法をさまざまな哲学者や研究者から学び、人間科学の歴史の基礎を知るとともに、最終的にさまざまな文化的事象に自ら問いを立て、解決するための基礎体力を身に付けることが目標です。 【概要】本科目の目的は、現代社会における様々な文化的事象と私たち自身との関わりを学ぶことで、現代社会の諸問題を解決するための思考の基礎と方法論を学ぶことにあります。そこで本講義では、各回のトピックに応じて人間科学が私たちの生きる社会においてそれぞれ機能する瞬間にともに立ち会うことで、その思考がもつ多様な意義について学びを深めます。各人が今を生きる上で抱える疑問や問題意識を具体的に思考し実践する場として、主体的に授業に取り組むことを期待します。本科目は、人間科学部のすべてのディプロマ・ポリシー達成のための科目ですが、特に「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」の育成に資する科目となります。								
授業の方法	本科目は配布資料、スライドを参照しつつ、適宜板書を行う講義形式の授業ですが、各回において教員と学生の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間も設定し、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を行ってもらいます。								
予習と復習	授業中に各主題に即した参考文献を適宜挙げるので、その都度該当箇所を読んで授業に出席すること（予習：90分）。また、毎回の授業において配布するスライド資料・板書した内容を復習し、「課題シート」に従ってまとめを作成すること（復習90分）。								
テキスト等	基本的に毎授業、資料とレジュメを配布します。授業の内容に直接関連する一次文献は、その都度授業中に指示します。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	60%	
				0%				0%	
	平常点とは単なる「出席点」ではありません。毎回の授業では、終了時にリアクションペーパーを提出してもらいます。コメントの内容はその水準に応じて、成績に加点されます。総合成績の60点以上を合格点とし、全体の1/3以上の欠席は、成績評価の対象外とします。								
授業計画	①オリエンテーション：「人間科学」とは何か？これまで人間科学が問題としてきたもの								
	②「考える」とは、どういうことか？：古代ギリシアにおける哲学の営み								
	③「自分」とは、何か？：「存在」をめぐる問いと思考								
	④「他者」とは、何か？：コミュニケーション理論と社会学								
	⑤「科学」とは、という営みか？：自然科学の方法論と技術への問い								
	⑥「人文学」とは、という営みか？：人文科学の役割と意義								
	⑦「言語」とは、何のためにあるのか？：コトバの誕生から見る人類史								
	⑧モノが「見える」のは、なぜ？：認知科学と認識論の系譜								
	⑨人間の「感性」とは、どんな能力か？：近代美学の考え方								
	⑩「多様性」は、なぜ大事なのか？：世界における「異文化共生」の事例								
	⑪「ジェンダー」とは、何か？：LGBTQをめぐる現状と課題								
	⑫「環境」に対して私たちができること：持続可能な社会の実現と課題								
	⑬「人間性」とは、何か？：身体と心の発達・教育								
	⑭「自由」とは、何か？：共同体主義の理論と思考								
	⑮まとめと総復習								

科目名	人間科学概論B							
英文科目名	Introduction to Human Sciences B							
担当者名	小平健太							
科目ナンバリング	HMSC102							
授業の概要と到達目標	【目標】現代社会における諸問題（自己・他者理解、教育格差、戦争と平和、貧困問題、環境問題、ジェンダー問題等）とそれに対する思考法をさまざまな哲学者や研究者から学び、人間科学の歴史の基礎を知るとともに、最終的にさまざまな文化的事象に自ら問いを立て、解決するための基礎体力を身に付けることが目標です。【概要】本科目の目的は、現代社会における様々な文化的事象と私たち自身との関わりを学ぶことで、現代社会の諸問題を解決するための思考の基礎と方法論を学ぶことにあります。そこで本講義では、各回のトピックに応じて人間科学が私たちの生きる社会においてそれぞれ機能する瞬間にともに立ち会うことで、その思考がもつ多様な意義について学びを深めます。各人が今を生きる上で抱える疑問や問題意識を具体的に思考し実践する場として、主体的に授業に取り組むことを期待します。本科目は、人間科学部のすべてのディプロマ・ポリシー達成のための科目ですが、特に「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」の育成に資する科目となります。							
授業の方法	本科目は配布資料、スライドを参照しつつ、適宜板書を行う講義形式の授業ですが、各回において教員と学生の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間も設定し、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を行ってもらいます。							
予習と復習	授業中に各主題に即した参考文献を適宜挙げるので、その都度該当箇所を読んで授業に出席すること（予習：90分）。また、毎回の授業において配布するスライド資料・板書した内容を復習し、「課題シート」に従ってまとめを作成すること（復習90分）。							
テキスト等	基本的に毎授業、資料とレジュメを配布します。授業の内容に直接関連する一次文献は、その都度授業中に指示します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	60%
				0%				0%
	平常点とは単なる「出席点」ではありません。毎回の授業では、終了時にリアクションペーパーを提出してもらいます。コメントの内容はその水準に応じて、成績に加点されます。総合成績の60点以上を合格点とし、全体の1/3以上の欠席は、成績評価の対象外とします。							
授業計画	①「人間」とは、何か？：人間科学概論Aの復習							
	②「善悪」とは、何か？：論理的な〈正しさ〉と実践的な〈正しさ〉【倫理学】							
	③「真理」とは、何か？：人文科学と自然科学における真理観【哲学①：学問論】							
	④「趣味」とは、何か？：「個人」の視点から考える【社会学①】							
	⑤「流行」とは、何か？：「社会」【社会学②】							
	⑥「美しさ」とは、何か？：感性の時代の功罪【美学】							
	⑦「表現」とは、何か？：現代メディアと多様な表現方法【メディア学】							
	⑧「文化」とは、何か？：文化と人類の歴史【文化人類学】							
	⑨「サブカルチャー」とは、何か？：日本と西欧における文化観【比較文明学】							
	⑩「言語」とは、何か？：私たちの「行為」の観点から【哲学②：言語行為論】							
	⑪「色彩」とは、何か？：知覚と脳の働きの関係から考える【認知科学】							
	⑫「お金」とは、何か？：貨幣の誕生と交換価値【経済学】							
	⑬「労働」とは、何か？：人生の目的と余暇【哲学・経済学】							
	⑭「自然」とは、何か？：都市の景観と田舎の景観を例に【地理学・地質学】							
	⑮まとめと総復習							

科目名	人間科学基礎論								
英文科目名	Basic Lectures of Human Sciences								
担当者名	大山典宏								
科目ナンバリング	HMSC103								
授業の概要と到達目標	「人間科学基礎論」は、「自立的個人・自他共生的社会人としての人材の育成」(人間科学部の5つ全てのディプロマポリシー)を実現するための科目です。本講義では、人間科学部と他学部の教員が毎回交代で講義を行います(オムニバス形式)。人間科学は「人間本性」(Human Nature＝人間とはいかなる存在か)を探究するため、人間の本質を、道徳、歴史、文化、社会等々に見出しつつ、様々な知識と方法に依拠して歴史的に形成されてきた学際的な学びの分野といえます。本講義はこの学際的な学びの分野を、人間科学部に所属する教員を中心にオムニバス形式の講義で学びます。授業の目的は、人間科学とはどのようなことを学ぶ分野なのかを知り、人間科学への興味関心を深め、専門ゼミ選択など、より専門的な研究を進めていく際の足掛かりとすることです。人間の営みに関する学問です。								
授業の方法	複数教員によるオムニバス形式で講義を行います。講義では担当者の裁量に応じてアクティブラーニング(授業内ワーク、質疑応答、ディベート等)を随時取り入れます。各回では授業内容に関する課題の提出あるいは小テストなどを実施し、理解度を確認します。								
予習と復習	予習(90分) 授業で指定された学問分野の概要を図書館やインターネットを利用して調べて下さい。復習(90分) 授業で配布された資料を読み返して下さい。参考文献を図書館などで確認して下さい。								
テキスト等	各担当教員が授業時にプリントを配布します。対面授業ができなくなればオンライン講義になります。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	課題		100%					0%	
	毎回、課題を課し、結果を総合して評価します。全ての課題について全般的な評価と所見を提示します。								
授業計画	①大山典宏：イントロダクション								
	②松谷明美：ヒトのことばについて								
	③松丸明弘：江戸時代の物流と旅 ―利根川・江戸川の舟運―								
	④鈴木隆弘：なぜ学校に行くのか ―人間科学と学校教育―								
	⑤並木雅俊：相対性理論を学んでみよう								
	⑥新井健之：魅力的な身体へ肉体改造 ―負荷に対する身体の反応―								
	⑦齋藤元紀：始まりの哲学 ―聴くこと・考えること・話すこと―								
	⑧吉原千賀：対人関係と「人生の時刻表」								
	⑨岡田泰介：戦争とプロパガンダ								
	⑩浅井泰詞：健康と運動								
	⑪小向敦子：期待できる老いと死への挑戦								
	⑫竹内浄：環境と人間								
	⑬松丸啓子：日本の道徳教育								
	⑭栗原亘：社会学の方法と視点								
	⑮大山典宏：まとめと総復習								

科目名	人間科学方法論							
英文科目名	Methodology of Human Sciences							
担当者名	竹村和朗							
科目ナンバリング	HMSC104							
授業の概要と到達目標	<概要>本講義では、社会調査法の基本を学ぶ。社会調査法は、調査の技術的な方法だけでなく、私たちが社会を認識し、批判的に考察するための視点の持ち方に通じる。この意味で社会調査法のリテラシーは、人間科学部で学問する基本的土台となる。人間科学部のディプロマ・ポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を達成するための科目である。<到達目標>①社会調査の基本的な種類と方法を説明することができる。②自身の関心にもとづき問いを立て、調査計画を立てることができる。							
授業の方法	講義と課題の提出を中心に行う。授業時に穴埋め問題と筆記問題を出すので、受講生は答えをペーパーに書き、ディスカッションし、授業終了時にペーパーを提出する（アクティブ・ラーニング）。オンライン対応時には、授業の同時配信とフォームの提出に代える。							
予習と復習	予習（90分） 事前に指定された課題について自ら調べ、要点をまとめておくこと。復習（90分） レジュメの空欄がすべて埋まっていることを確認し、不明な部分は参考文献等から調べる。							
テキスト等	授業時にレジュメを配布する。参考文献は、轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法：2ステップで基礎から学ぶ（第3版）』（法律文化社、2017年）と小田博志『エスノグラフィー入門：＜現場＞を質的研究する』（春秋社、2010年）。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	「平常点」は各回の穴埋め問題の点数を、「レポート」は各回の筆記問題の点数の合計を意味する。これらと授業内試験を合わせて評価対象とする。提出された課題は返却しないが、優れた内容を授業内で開示する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②社会調査とは何か							
	③量的調査と質的調査							
	④量的調査のプロセス							
	⑤質的調査（エスノグラフィー）							
	⑥質的調査のプロセス							
	⑦小まとめ							
	⑧現場への入り方							
	⑨現場ですること							
	⑩インタビューの種類と方法							
	⑪インタビューをする							
	⑫アンケートをまとめる							
	⑬大学キャンパスを調べる							
	⑭授業内試験							
	⑮まとめと総復習							

科目名		哲学A							
英文科目名		Philosophy A							
担当者名		齋藤元紀							
科目ナンバリング		PHIL101							
授業の概要と到達目標	【目標】①ものごとの本質を批判的かつ抽象的に考えることができる。②代表的な哲学思想や思考法を理解できている。③自分の考えを論理的かつ説得的に主張することができる。【概要】＜テーマ：哲学入門①身近なことがらを哲学してみよう＞私は何者なのか。この世界は本当に存在するのか。みなさんもこれまでに少なからず一度はそうした問いを發したことがあるでしょう。こうした問いは一見無意味に感じられるかもしれませんが、実のところ私たちが生きているかぎり発しなければならない必然的な問いです。こうした問いをとことん考えてみるのが「哲学」という学問です。この授業では、教員と学生間および学生間での対話をとおして、身近な問いをじっくり一つ一つ考え抜き、哲学的思考力を身につけていきます。なお、テーマに応じて外部講師を招き、思考力を深める講義も予定しています。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につける」ための科目です。								
授業の方法	この授業では、教員と学生との対話、学生間の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、すべての授業回で実施する。また、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。								
予習と復習	予習（90分）課題のテーマについて自分の考えの要点をまとめておくこと。復習（90分）配布資料により哲学的知識を再確認するとともに自分の考えを再考すること。								
テキスト等	テキストとして、予習プリント、授業内プリントを使用します。予習プリント・授業内プリントは毎回配布します。参考文献として、『ゼロからはじめる哲学対話（哲学プラクティス・ハンドブック）』（ひつじ書房、2020年）に目を通しておくといよいでしょう。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%	
	毎回の課題提出			30%					0%
	(1) 毎回の課題の提出を出欠（平常点）の代替とします。(2) 締切以後の課題提出は遅刻、課題未提出は欠席とします。(3) 2/3以上の出席回数に満たない場合、不可となります。								
授業計画	①イントロダクション（講義概要の説明）								
	②「人生の意味」とは何か								
	③「死」とは何か								
	④「コミュニケーション」とは何か								
	⑤「常識」とは何か								
	⑥「大人になる」とはどういうことか								
	⑦「友だち」とは何か								
	⑧「恋」とは何か								
	⑨「学び」とは何か								
	⑩「笑い」とは何か								
	⑪「優しさ」とは何か								
	⑫「争い」とは何か								
	⑬「労働」とは何か								
	⑭「知恵」とは何か								
	⑮まとめと総復習								

科目名		哲学B							
英文科目名		Philosophy B							
担当者名		齋藤元紀							
科目ナンバリング		PHIL102							
授業の概要と到達目標	【目標】①ものごとの本質を批判的かつ抽象的に考えることができる。②代表的な哲学思想や思考法を理解できている。③自分の考えを論理的かつ説得的に主張することができる。【概要】＜テーマ：哲学入門②抽象的なことがらを哲学してみよう＞哲学が問いかけるのは、身近なことがらだけではありません。誕生とは何か、死とは何か。確率とは何か。思考とはそもそも何か。ふだんはあまり考えることがなくても、私たちの生にとって避けることのできないこれらの問いは、哲学の重要な問題です。この授業では、春期の哲学Aを踏まえ、教員と学生間および学生間での対話をとおして、抽象的な問題をじっくり一つ一つ考え抜き、より高度な哲学的思考力を身につけていきます。なお、テーマに応じて外部講師を招き、思考力を深める講義も予定しています。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につける」ための科目です。								
授業の方法	この授業では、教員と学生との対話、学生間の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、すべての授業回で実施する。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Google フォーム）による双方向授業を実施する。								
予習と復習	予習（90分）予習プリントを読み、課題のテーマについて事前に自分の考えの要点をまとめておくこと。復習（90分）配布プリントを読み、哲学的知識を再確認するとともに自分の考えを再考すること。								
テキスト等	テキストとして、予習プリント、授業内プリントを使用します。予習プリント・授業内プリントは毎回配布します。参考文献として、『ゼロからはじめる哲学対話（哲学プラクティス・ハンドブック）』（ひつじ書房、2020年）に目を通しておくといよいでしょう。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%	
	毎回のコメントペーパーへの解答			30%					0%
授業計画	(1) 2/3以上の出席回数に満たない場合不可となります。(2) 特別な理由がない限り、遅刻・中途入退室は一切認めません。(3) 授業時の私語、携帯電話の使用は厳禁とします。違反者には退出を命じます。なおレポートについては、全般的な評価と所見をT-Naviにより提示します。								
	①イントロダクション（講義概要の説明）								
	②「愛」とは何か								
	③「行為」とは何か								
	④「思考」とは何か								
	⑤「時間」とは何か								
	⑥「認識」とは何か								
	⑦「感情」とは何か								
	⑧「権威」とは何か								
	⑨「美」とは何か								
	⑩「人工知能」とは何か								
	⑪「価値」とは何か								
	⑫「自然」とは何か								
	⑬「宇宙」とは何か								
	⑭「対話」とは何か								
⑮まとめと総復習									

科目名	倫理学A									
英文科目名	Ethics A									
担当者名	齋藤元紀									
科目ナンバリング	ETHC101									
授業の概要と到達目標	【目標】①人間の生の本質を批判的かつ抽象的に考えることができる。②代表的な倫理思想や思考法を理解できている。③倫理的問題に対する自分の考えを論理的かつ説得的に主張することができる。【概要】＜テーマ：倫理学入門①善き生をおくするためにはどうしたらいいか＞善さとは何か。生きるとはどういうことか。善き生をおくためにはどうしたらいいか。これらはいずれも、私たちが生きていく上でつねにぶつかる倫理的問題です。この授業では、倫理学の代表的な問題や道徳的ジレンマを取り上げ、基本的な倫理学説を学びながらディスカッションをとおして実践的な倫理的思考力を身につけます。なお、テーマに応じて外部講師を招き、思考力を深める講義も予定しています。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につける」ための科目です。									
授業の方法	この授業では、教員と学生との対話、学生間の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、すべての授業回で実施する。また、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。									
予習と復習	予習（90分）課題のテーマについて自分の考えの要点をまとめておくこと。復習（90分）配布プリントを読み、倫理学的知識を再確認するとともに自分の考えを再考すること。									
テキスト等	テキストとして、予習プリント、授業内プリントを使用します。予習プリント・授業内プリントは毎回配布します。参考文献として、マーティン・コーエン『倫理問題101問』（ちくま学芸文庫、2007年）には目を通しておくといよいでしょう。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%		
	毎回のコメントペーパーへの解答			30%						0%
	(1) 毎回の課題の提出を出欠（平常点）の代替とします。(2) 締切以後の課題提出は遅刻、課題未提出は欠席とします。(3) 2/3以上の出席回数に満たない場合、不可となります。									
授業計画	①イントロダクション（講義概要の説明）									
	②浮気の境界線とは									
	③自殺の是非									
	④殺人の是非									
	⑤エゴイズムは悪か									
	⑥善悪とは何か									
	⑦快苦とは何か									
	⑧人を助けるために嘘をついてもよいか									
	⑨選択とは何か									
	⑩10人を救うために1人の人を殺してもよいか									
	⑪幸福を計算することはできるか									
	⑫差別とは何か									
	⑬寛容さとは何か									
	⑭生きることに意味はあるか									
	⑮まとめと総復習									

科目名		倫理学B							
英文科目名		Ethics B							
担当者名		齋藤元紀							
科目ナンバリング		ETHC102							
授業の概要と到達目標	【目標】①人間の生の本質を批判的かつ抽象的に考えることができる。②代表的な倫理思想や思考法を理解できている。③倫理的問題に対する自分の考えを論理的かつ説得的に主張することができる。【概要】＜テーマ：倫理学入門②現代社会における新たな倫理学的問題＞文明や科学技術の進歩によって現代社会は豊かになった反面、これまでにない多くの倫理的問題を抱えることにもなりました。この授業では、現代社会の倫理的問題を取り上げ、伝統的な倫理学説や現代の最新の倫理学説を踏まえながら、ディスカッションをとおして実践的な倫理的思考力を身につけていきます。なお、テーマに応じて外部講師を招き、思考力を深める講義も予定しています。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につける」ための科目です。								
授業の方法	この授業では、教員と学生との対話、学生間の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を、すべての授業回で実施する。また、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。								
予習と復習	予習（90分）予習プリントを読み、課題のテーマについて事前に自分の考えの要点をまとめておくこと。復習（90分）配布プリントを読み、倫理学的知識を再確認するとともに自分の考えを再考すること。								
テキスト等	テキストとして、予習プリント、授業内プリントを使用します。予習プリント・授業内プリントは毎回配布します。参考文献として、マーティン・コーエン『倫理問題101問』（ちくま学芸文庫、2007年）には目を通しておくとういでしょう。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%	
	毎回のコメントペーパーへの解答			30%					0%
授業計画	(1) 2/3以上の出席回数に満たない場合不可となります。(2) 特別な理由がない限り、遅刻・中途入退室は一切認めません。(3) 授業時の私語、携帯電話の使用は厳禁とします。違反者には退出を命じます。なおレポートについては、全般的な評価と所見をT-Naviにより提示します。								
	①イントロダクション（講義概要の説明）								
	②リーヴァイス社の判断（ケース・スタディー）								
	③企業倫理とは何か								
	④デザイナーズ・ベイビーを作れるとしたら（ケース・スタディー）								
	⑤遺伝子操作の倫理的是非								
	⑥戦争が起こるとしたら（ケース・スタディー）								
	⑦戦争の倫理								
	⑧インターネットで生じる危険（ケース・スタディー）								
	⑨情報の倫理								
	⑩原発再稼働は是か非か（ケース・スタディー）								
	⑪世代間倫理とは何か								
	⑫イサク奉献（ケース・スタディー）								
	⑬宗教と倫理								
	⑭善悪の彼岸								
⑮まとめと総復習									

科目名		心理学A							
英文科目名		Psychology A							
担当者名		時津裕子							
科目ナンバリング		PSY101							
授業の概要と到達目標	心理学とはどんな学問だろうか。私たちの心をめぐる疑問は、心の病や性格に関するものだけではない。たとえば、せっかく勉強したことを忘れてしまうのはなぜだろう。気をつけていても、交通事故や医療ミスはなかなか防ぐことができない。方向音痴を克服したり、外国語を身につけるコツはあるのだろうか。何かを見聞きしたり考えたり、といった何気ない行動の裏側ではいつも、私たちの心にあるプログラムが働いており、こうした謎の答えもそこにあると考えられる。本講義では「行動科学としての心理学」という視点に立ち、私たちの行動を読み解く鍵となる心の性質や働きについて概観する。とくに日常生活や経済活動と関わりの深い現象や、社会で実用化されている応用的な研究事例について積極的に紹介していきたい。受講学生はこれらを通じて、「心理学的に考える」ことのアウトラインをつかんでもらいたい。関連科目に「心理学B」、「認知心理学」、「実験心理学」がある。人間科学部のディプロマポリシーのうち、主として「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」育成のための科目である。								
授業の方法	基礎的事項はスライドを用いて講義形式で解説するが、簡単な実験や心理検査など実習的課題を可能な限り採り入れる。後者については、アクティブラーニングとしてグループワークやディスカッションを行うことがある。								
予習と復習	授業内で都度、課題内容と提出方法を指示する。予習課題（90分：資料確認・アンケートへの回答など）を完了させた上で授業に出席すること。それらの一部は提出を求める。復習課題（90分：学習内容のまとめ・実験データ整理など）は、期日までに提出すること。								
テキスト等	教科書は指定しない。授業内で資料を配布する。＜参考書籍＞S. ノーレンホーク他 2015、『ヒルガードの心理学 第16版』（金剛出版）武藤隆・森敏昭・遠藤由実・玉瀬耕治 2018、『心理学（新版）』（有斐閣）ほか								
評価方法	定期試験	60%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	課題提出（コメント、小レポート、実験データほか）			40%					0%
	定期試験は、感染状況等を考慮してオンラインで実施する可能性がある。提出された課題へのフィードバックは、授業時間内またはT-Navi等で全体に対して講評を行う形で実施する。一部のレポートについては返却し、個別フィードバックを行う予定である。								
授業計画	①イントロダクション：心理学とはどのような学問か								
	②知覚(1) 視覚系の基礎と様々な錯視現象								
	③知覚(2) 錯視のメカニズムと知覚の恒常性								
	④心の「情報処理」								
	⑤記憶(1) 効率よく覚える								
	⑥記憶(2) 記憶の維持								
	⑦記憶(3) 日常記憶をめぐる問題								
	⑧イメージ(1) 基本機能と性質								
	⑨イメージ(2) イメージと知覚の類同性								
	⑩イメージ(3) 空間イメージと行動								
	⑪行動を変える学習のしくみ(1) 古典的条件付け								
	⑫行動を変える学習のしくみ(2) オペラント条件付け								
	⑬視線の心理学(1) 視線から何が分かるか								
	⑭視線の心理学(2) 視線とコミュニケーション								
	⑮まとめと総復習								

科目名	心理学B										
英文科目名	Psychology B										
担当者名	時津裕子										
科目ナンバリング	PSY102										
授業の概要と到達目標	私たちは、自分の心の働きについてどれほど知っているだろう。誰かを好きになる時、商品を選ぶ時、その基準は何だろうか。発言や行動内容は自分の意思で自由に決めている——それは本当だろうか（少人数クラスでは平気なのに、大教室になると途端に挙手や発言がしづらくなるのはなぜだろう？）。ストレスを感じている時も、元気な時と同様に振る舞えるだろうか。歴史も文化も異なる国においても、人は同じように感じ考えるのだろうか。本講義では、私たちの心理が他者の存在や特別な環境・状況に置かれることでどう変化するかに焦点を当てて解説する。また、これらの知識を応用した、技術・技法についても紹介する。関連科目に「心理学A」、「認知心理学」、「実験心理学」がある。人間科学部のディプロマポリシーのうち、主として「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」ならびに「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」育成のための科目である。										
授業の方法	基礎的事項はスライドを用いて講義形式で解説するが、簡単な実験や心理検査など実習的課題を可能な限り採り入れる。後者については、アクティブラーニングとしてグループワークやディスカッションを行うことがある。										
予習と復習	授業内で都度、課題内容と提出方法を指示する。予習課題（90分：資料確認・アンケートへの回答など）を完了させた上で授業に出席すること。それらの一部は提出を求める。復習課題（90分：学習内容のまとめ・実験データ整理など）は、期日までに提出すること。										
テキスト等	教科書は指定しない。授業内で資料を配布する。＜参考書籍＞S. ノーレンホークセマ他 2015、『ヒルガードの心理学 第16版』（金剛出版）ロバート・B・チャルディーニ 2018、『影響力の武器 第3版』（誠信書房）ほか										
評価方法	定期試験	60%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%			
	課題提出（コメント、小レポート、実験データほか）	40%								0%	
	定期試験は、感染状況等を考慮してオンラインで実施する可能性がある。提出された課題へのフィードバックは、授業時間内またはT-Navi等で全体に対して講評を行う形で実施する。一部のレポートについては返却し、個別フィードバックを行う予定である。										
授業計画	①イントロダクション										
	②ストレス：ストレッサーとストレス反応										
	③ストレス：ストレスへの対処										
	④対人魅力と好意の形成：基礎理論										
	⑤対人魅力と好意：恋愛の心理										
	⑥嘘の心理学										
	⑦態度と説得										
	⑧説得技法の活用：知覚的コントラスト、返報性										
	⑨説得技法の活用：希少性、一貫性										
	⑩説得技法の活用：好意、権威、社会的証明										
	⑪消費者心理と広告										
	⑫集団と組織の心理：同調、服従、傍観者効果ほか										
	⑬集団と組織の心理：共同作業、リーダーシップ										
	⑭ステレオタイプの影響（文化、社会、ジェンダー）										
	⑮まとめと総復習										

科目名		教育学A							
英文科目名		Science of Education A							
担当者名		早坂めぐみ							
科目ナンバリング		ED101							
授業の概要と到達目標	教育学は、人間の成長発達を捉え、子どもから大人まで、すべての人びとの幸福を追求するための学問である。わたしたちひとりひとりが、市民として社会を創っていくという観点に立ち、本科目では社会における教育と文化について扱い、議論をしていきたい。特に、今学期は社会文化研究の視点から教育を捉えること、および、学習指導上の課題としてSTEAM教育についての理解を深めることを試みる。本科目は人間科学部選択必修科目として、ディプロマポリシーの「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」の育成を目指す科目である。本科目の到達目標は以下の3点である。・教育の重要性を多面的に考察すること。・学校の歴史・制度・問題点を理解すること。・学校や子どもについての理解を深め、教育的働きかけや対人援助の基盤となる教養を身につけること。								
授業の方法	アクティブラーニングとして、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを実施します。また、資料のオンライン配信を行います。								
予習と復習	予習（90分）事前にテキストの指定範囲を一読し、要点をノートにまとめること。また、専門用語の意味を調べて、ノートに記すこと。復習（90分）講義内容を確認し、自身の考えをノートにまとめること。講義内容にかかわるニュースを調べ、要約し、考察をまとめること。								
テキスト等	社会文化学会編『学生と市民のための社会文化研究ハンドブック』（晃洋書房）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	10%	
	プレゼンテーション（2回）			40%					0%
	欠席回数が4回以上の場合、原則として不合格とする。遅刻・早退は2回で、欠席1回として扱う。レポートは授業において、全般的な評価と所見を提示する。プレゼンテーションは2回を予定し、その都度コメントをする。平常点として、授業の小レポートを評価する。								
授業計画	①教育学を学ぶ意義								
	②生存権・社会権の保障と社会文化								
	③生存権としての教育と社会文化								
	④学校外の学びの場								
	⑤学習指導の今日的課題1ーSTEAM教育とはなにか								
	⑥学習指導の今日的課題2ーSTEAM教育とおもちゃ								
	⑦学習指導の今日的課題3ーSTEAM教育に関するプレゼンテーション								
	⑧教育と地域づくり								
	⑨不安定な時代を生きぬく若者たちの模索								
	⑩若者の居場所づくりと文化活動								
	⑪メディア文化と社会文化								
	⑫子どものアートを見てみよう								
	⑬震災の記録／記憶と学校教育								
	⑭教育と社会文化に関するプレゼンテーション								
	⑮まとめと総復習								

科目名		教育学B							
英文科目名		Science of Education B							
担当者名		早坂めぐみ							
科目ナンバリング		ED102							
授業の概要と到達目標	本科目は、「教育学A」を発展させ、現代の教育の基盤にある歴史や思想をひろく扱ったうえで、特に教育問題とその社会的背景に焦点を当てる。小・中・高校段階の学校教育を中心としながらも、高等教育機関や学校外教育についても考察対象を広げ、受講者の教育に対する関心を広げ、深めていきたい。本科目は人間科学部の選択必修科目として、ディプロマポリシーの「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」の育成を目指す科目である。本科目の到達目標は以下の3点である。 ・教育史や教育思想についての基本的理解を深めること。 ・日本における教育制度の展開過程を理解すること。 ・教育問題を理解し、教育的働きかけや対人援助の基盤となる教養を身につけること。								
授業の方法	アクティブラーニングとして、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを実施する。資料については、オンラインで配布する。								
予習と復習	予習（90分）事前にテキストの指定範囲を一読し、要点をノートにまとめること。また、専門用語の意味を調べて、ノートに記すこと。復習（90分）講義内容を確認し、自身の考えをノートにまとめること。講義内容にかかわるニュースを調べ、要約し、考察をまとめること。								
テキスト等	山崎準二編著『未来の教育を創る教職教養指針第1巻 教育原論』（学文社）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	30%	
	プレゼンテーション			20%					0%
	欠席回数が4回以上の場合、原則として不合格とする。遅刻・早退は2回で、欠席1回として扱う。レポートは返却して全般的な評価と所見を提示する。平常点として、毎回の授業で実施する小レポートを評価し、授業で全般的な評価と所見を提示する。								
授業計画	①教育の目的と基本構造								
	②近代学校という発明、教育ということばの歴史的生成								
	③近代教授学の形成と展開								
	④新教育の興隆と展開								
	⑤近代日本における国民教育制度の形成と展開 1―立身出世主義								
	⑥近代日本における国民教育制度の形成と展開 2―義務教育制度の拡張								
	⑦近代日本における国民教育制度の形成と展開 3―戦後教育改革								
	⑧絵本で読み解く小学校像 1								
	⑨絵本で読み解く小学校像 2								
	⑩絵本で読み解く小学校像 3								
	⑪プレゼンテーション								
	⑫学歴社会と教育の機会均等								
	⑬教育の商品化―学習塾の戦後史から考える教育への権利								
	⑭子どもの貧困と学習権保障								
	⑮まとめと総復習								

科目名	科学史A							
英文科目名	History of Science A							
担当者名	並木雅俊							
科目ナンバリング	SECD101							
授業の概要と到達目標	科学者の人となりを知り、科学の歴史を学ぶ。それにより、「科学が歴史性を持つ社会的営みである」こと、それと「科学が社会の外にあるのではなく、社会の中にあること」を認識してもらう。講義では、科学的に正しいとは一体どのようなことなのかの学びを全体の流れとし、古代ギリシアから科学革命に至るまで、自然哲学者（科学者）は自然をどう捉えてきたのかを科学と歴史を結びつけて講じる。自然分野および人文分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。16世紀中葉から17世紀末における科学革命を中心に据えて講義する。							
授業の方法	基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、リアクションペーパーあるいは授業内試験による講義内容の理解の確認を行う。							
予習と復習	予習（90分）次回の講義に該当する箇所を調べ、疑問点を整理しておくこと。復習（90分）当日の講義内容を再度テキスト等で確認し、ノートに重要な箇所、つまづいた箇所を明記しておくこと。							
テキスト等	教科書：並木雅俊『絵でわかる物理学の歴史』（講談社）参考書：並木雅俊『教科書に出てくる物理学者小伝』（丸善出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	90%	レポート	0%	平常点	10%
				0%				0%
	授業回数の3分の2以上の出席（課題提出）を評価の前提条件とする。試験結果と課題答案により評価する。課題答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①科学とは何だろうか							
	②ヒトの起源、農耕牧畜社会の始まり、四大文明							
	③古代ギリシアの自然観							
	④アリストテレスの自然学							
	⑤ヘレニズム時代とプトレマイオスの宇宙体系							
	⑥ルネサンスとコペルニクスの転回							
	⑦第1回授業内試験と解説							
	⑧ティコ・ブラーエによる測定方法の確立							
	⑨惑星の運行とケプラーの法則							
	⑩ガリレオの運動論と実験							
	⑪デカルトの方法とホイヘンスの挑戦							
	⑫ニュートンの運動の法則と微分積分の発見							
	⑬万有引力の発見とキャヴェンディッシュの実験							
	⑭オイラーとニュートン力学の完成							
	⑮第2回授業内試験と解説							

科目名	科学史B							
英文科目名	History of Science B							
担当者名	並木雅俊							
科目ナンバリング	SCED102							
授業の概要と到達目標	18世紀以後の科学の歴史を学ぶ。電気、磁気、熱、それに光などをどのような捉え、また解明してきたのか、またこれらが原子の発見とどのように関わってきたのかを学ぶ。ガルヴァーニの動物電気、ヴォルタの電堆、ファラデーの電磁誘導などを中心にした電気の歴史、それに原子の実在を知ったことは現代科学の方法論的基礎を築いたばかりか、人類最高の知でもある。レントゲンによるX線の発見、ベクレルによる放射能の発見、J. J. トムソンによる電子の発見という一連の実験的発見は如何にして起ったのか、これらの発見と20世紀科学の関連などを講義する。科学の本質を知り、その方法論を学んでもらう。自然分野および人文分野の視点から幅広く教養を身につけるための科目である。							
授業の方法	基本的に講義を中心に行い、必要に応じて質疑応答を実施する。また、自律的な学習（アクティブ・ラーニング）を促進するため、リアクションペーパーあるいは授業内試験による講義内容の理解確認を行う。							
予習と復習	予習（90分）授業計画に従って、事前にテキスト等により予習し、疑問点を整理しておくこと。復習（90分）当日の講義内容をテキスト等で復習し、その日のうちに重要な点を記すなどして、知識の確認をしておくこと。							
テキスト等	教科書：並木雅俊『絵でわかる物理学の歴史』（講談社）参考書：並木雅俊『教科書に出てくる物理学者小伝』（丸善出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	90%	レポート	0%	平常点	10%
				0%				0%
	授業回数の3分の2以上の出席（課題提出）を評価の前提条件とする。授業内試験（2回）と課題（13回）の得点により評価する。授業内試験などの答案は返却しないが、全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①20世紀科学史							
	②雷と電気の法則							
	③電流の発見							
	④ファラデーと自然哲学							
	⑤真空放電から電子の発見							
	⑥レントゲンとX線の発見							
	⑦放射能の発見とキュリー							
	⑧第1回授業内試験と解説							
	⑨J. J. トムソンの原子模型							
	⑩長岡半太郎の原子模型と日本の科学							
	⑪散乱実験とラザフォードの原子模型							
	⑫原子のスペクトル							
	⑬ボーアの原子理論							
	⑭ボーア理論の限界と量子力学							
	⑮第2回授業内試験と解説							

科目名		健康科学A							
英文科目名		Health Science A							
担当者名		新井健之							
科目ナンバリング		HHS101							
授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学人間科学部が目指す「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」育成を達成するための科目である。健康的な生活を一生送ることは、万人の願いであろう。科学的な知識を学び、受講者にとって健康的な生活とは何かを模索する。本講義では、健康に対する知識だけを学ぶのでは無く、受講者の私生活応用方法の理解を目標とする。従って、可能な限り演習形式で授業を進める。受講者は講義内容をもとに私生活での応用を試み、まとめる。順不同で良いが、授業目標を達成するためには、A B両方の受講が必要となる。外部講師招聘：外部講師による健康や栄養指導、実践事例の講義を予定する。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～13は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。								
授業の方法	実技と講義を組み合わせた演習形式を中心に行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を発表し、講師及び他の受講者と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。運動処方の基礎知識をレポートもしくは授業内試験にて確認する。								
予習と復習	予習（90分）として自らの健康状態・体力状態を把握し、授業中に質問できるようにまとめる。復習（90分）として授業で学んだ知識を元に、健康維持増進方法の部分的な実践を行い、現状を把握する。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。								
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業内でのレポートやテストおよび出席状況により評価			100%					0%
	授業内でのレポートやテストおよび出席状況により評価する。出席状況は授業への参加度を減点法で評価する。欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延・通信環境等の不具合の場合は要状況写真。最後に全体的な評価と所見を伝える。								
授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）								
	②体力測定、02から13は状況に応じて順不同								
	③ウォーミングアップとクーリングダウン								
	④運動の重要性								
	⑤運動の安全性確保								
	⑥ストレスマネジメント								
	⑦トレーニング科学基礎								
	⑧授業内中間テストと解説または運動処方作成演習 1								
	⑨健康のための身体運動								
	⑩体のつくり（神経生理）とタバコ								
	⑪持久力トレーニング								
	⑫呼吸循環器系の働き								
	⑬様々なトレーニング方法と運動処方について								
	⑭授業内総合テストと解説または運動処方作成演習 2								
	⑮まとめと復習								

科目名		健康科学B							
英文科目名		Health Science B							
担当者名		新井健之							
科目ナンバリング		HHS102							
授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学人間科学部が目指す「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」育成を達成するための科目である。健康的な生活を一生を送ることは、万人の願いであろう。科学的な知識を学び、受講者にとって健康的な生活とは何かを模索する。本講義では、健康に対する知識だけを学ぶのでは無く、受講者の私生活応用方法の理解を目標とする。従って、可能な限り演習形式で授業を進める。受講者は講義内容をもとに私生活での応用を試み、まとめる。順不同で良いが、授業目標を達成するためには、A B両方の受講が必要となる。外部講師招聘：外部講師による健康や栄養指導、実践事例の講義を予定する。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～13は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。								
授業の方法	実技と講義を組み合わせた演習形式を中心に行う。自らシミュレーションすることにより得た疑問や知識を発表し、講師及び他の受講者と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。運動処方の基礎知識をレポートもしくは授業内試験にて確認する。								
予習と復習	予習（90分）として自らの健康状態・体力状態を把握し、授業中に質問できるようにまとめる。復習（90分）として授業で学んだ知識を元に、健康維持増進方法の部分的な実践を行い、現状を把握する。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。								
テキスト等	テキストは特に指定しないが、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業内でのレポートやテストおよび出席状況により評価			100%					0%
	授業内でのレポートやテストおよび出席状況により評価する。出席状況は授業への参加度を減点法で評価する。欠席-10点/コマ、届出欠席-8点/コマ、遅刻-5点/回。遅延・通信環境等の不具合の場合は要状況写真。最後に全体的な評価と所見を伝える。								
授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）								
	②体力測定、02から13は状況に応じて順不同								
	③ウォーミングアップとクーリングダウン								
	④運動の重要性								
	⑤運動の安全性確保								
	⑥ストレスマネジメント								
	⑦トレーニング科学基礎								
	⑧授業内中間テストと解説または運動処方作成演習 1								
	⑨神経生理学								
	⑩筋生理学								
	⑪レジスタンストレーニング								
	⑫運動処方								
	⑬トレーニングの種類								
	⑭授業内総合テストと解説または運動処方作成演習 2								
	⑮まとめと復習								

科目名		言語学A								
英文科目名		Linguistics A								
担当者名		松谷明美								
科目ナンバリング		LING101								
授業の概要と到達目標		言語（ことば）の仕組みが理解できるようにする。自分の考え・感情を相手に直接伝える手段としての言語（ことば）は人間という種にだけ生まれながらに備わった能力である。この講義では、まずヒトの言語とはどのようなものであるか、さらにその言語を研究対象とする言語学とはどのようなものかについて考える。その後、音声そのものを対象とする音声学および各言語における音の現象に関する法則性を研究する音韻論、そして語・形態素について研究する（語形成を含む）形態論の視点から、具体的なデータを基に言葉が持つ特徴や規則について考察する。人文科学を中心とする理論を学際的・総合的に学ぶための科目である。								
授業の方法		PowerPointを使い、授業を進める。アクティブラーニングとして、毎回の授業で取り上げるトピックについてディスカッションを行う。授業の終わりに、内容を確認するためのGoogle Formによる課題を実施する。課題については、次の授業内で解説と全体的な講評を提示する。								
予習と復習		予習(90分)：授業中の指示に従い、次の授業で取り上げるトピックについて、自主的にデータや情報を収集する。 復習(90分)：自分のノートを参考にしながら、授業内容を再考する。授業中の解説を基に、前回の課題について振り返りを行う。								
テキスト等		特定のテキストは使用しない。参考書等は必要に応じて指示する。								
評価方法		定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%	
		授業中の課題を含む授業参加度				60%				0%
		上記の方法で総合評価する。課題や授業内試験についての詳細はGoogle Classroomにてお知らせします。また、課題は授業中に解説と全体的な講評を致します。								
授業計画		①ガイダンス								
		②言語とは（1 一般的特徴）								
		③言語とは（2 言語能力と言語運用）								
		④言語とは（3 ことばの起源と進化）								
		⑤音声学（1 音声と文学）								
		⑥音声学（2 音声器官と発音）								
		⑦授業内中間試験								
		⑧音韻論（1 音節）								
		⑨音韻論（2 拍）								
		⑩音韻論（3 アクセント）								
		⑪形態論（1 語彙部門）								
		⑫形態論（2 語形成：線形型）								
		⑬形態論（3 語形成：非線形型）								
		⑭授業内期末試験								
		⑮まとめと総復習								

科目名	言語学B								
英文科目名	Linguistics B								
担当者名	松谷明美								
科目ナンバリング	LING102								
授業の概要と到達目標	言語（ことば）の仕組みが理解できるようにする。まず、言語学の各分野の中で、語をどのように配列し、文が構築されるかを考える統語論の視点から、言語事実の特徴と関連する規則について考察する。続いて、意味について研究する意味論の視点から意味解釈がどのように生じるのかについて、動詞を中心に考える。そして、ことばを状況およびその伝達内容との関係で研究する運用論の立場からどのように、何のために言葉が使われるのか、さらに身振り言語（非言語伝達）が示すメッセージは何なのかを議論する。人文科学を中心とする理論を学際的・総合的に学ぶための科目である。								
授業の方法	PowerPointを使い、授業を進める。アクティブラーニングとして、毎回の授業で取り上げるトピックについてディスカッションを行う。授業の終わりに、内容を確認するためのGoogle Formによる課題を実施する。課題については、次の授業内で解説と全体的な講評を提示する。								
予習と復習	予習(90分)：授業中の指示に従い、次の授業で取り上げるトピックについて、自主的にデータや情報を収集する。 復習(90分)：自分のノートを参考にしながら、授業内容を再考する。授業中の解説を基に、前回の課題について振り返りを行う。								
テキスト等	特定のテキストは使用しない。参考書等は必要に応じて指示する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業中の課題を含む授業参加点			60%					0%
	上記の方法で総合評価する。課題や授業内試験についての詳細はGoogle Classroomにてお知らせします。また、課題は授業中に解説と全体的な講評を致します。								
授業計画	①ガイダンス								
	②言語の生得性								
	③統語論（1 再帰代名詞、相互代名詞、普通代名詞）								
	④統語論（2 能動文と受動文）								
	⑤統語論（3 数量詞）								
	⑥意味論（2 動詞の意味と構造）								
	⑦意味論（3 自動詞と他動詞）								
	⑧授業内中間試験								
	⑨運用論（1 共有知識と前提）								
	⑩運用論（2 会話の公理）								
	⑪運用論（3 発話行為）								
	⑫非言語（1 身振り）								
	⑬非言語（2 表情）								
	⑭授業内期末試験								
	⑮まとめと総復習								

科目名	社会学A							
英文科目名	Sociology A							
担当者名	栗原 亘							
科目ナンバリング	SOC101							
授業の概要と到達目標	わたしたちの生きる「社会」はさまざまな関係の網の目から成り立っています。そうしたさまざまな関係の網の目は、普段はとくに意識されることが無かったり、見えにくくなったりしています。社会学は、そうした関係の網の目を、さまざまな視点から読み解き、時にはその在り方を変えるよう働きかける学問です。本講義では、皆さんにとって身近なトピックとそれに関する具体的な研究例を取り上げながら、社会学という学問の基本的な発想とさまざまなアプローチ方法について学んでいきます。なお、本講義は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」、「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」の育成を達成するための科目です。※授業計画は受講者の理解度等を踏まえて若干変更する場合があります。							
授業の方法	パワーポイントを用いた講義形式でおこないます。ただし、アクティブラーニングの一環として、適宜、受講者に質問を投げかけ発言を求めます。また、コメントの回収とフィードバックもおこないます。							
予習と復習	予習・復習（各90分）に関しては、毎授業の終わりに予習・復習のポイントを発表するので、それにしたがっておこなってください。							
テキスト等	<教科書 必ず入手すること>筒井淳也・前田泰樹，2017,『社会学入門——社会とのかかわり方』有斐閣。その他、参考文献については適宜授業内で紹介します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	全体の2/3以上の出席を評価の前提とします。学期末に授業内容の理解を前提にしたレポートを提出してもらいます。また、課題・コメントシートの提出状況・内容や、授業内の発言などで平常点を評価します。課題等に関するフィードバックは総評の形でおこないます。							
授業計画	①イントロダクション：「社会」を「見る」とはどのようなことか							
	②出生①：少子化と人口減少を読み解く							
	③出生②：妊娠・出産をめぐる経験へのアプローチ							
	④教育と学校①：数字から読み解く「教育」の諸相							
	⑤教育と学校②：「教育」という制度の諸相							
	⑥労働①：「労働」の社会的位置付け							
	⑦労働②：「労働」の場を観察する							
	⑧中間まとめ							
	⑨結婚・家族①：近代化と「家族」の変容							
	⑩結婚・家族②：「家族である」とはどのようなことか							
	⑪医療と介護①：疫学と社会疫学							
	⑫医療と介護②：病気と老いをめぐる経験へのアプローチ							
	⑬死について①：「自殺」の原因を探る							
	⑭死について②：社会の中における「死」							
	⑮まとめと総復習							

科目名	社会学B									
英文科目名	Sociology B									
担当者名	栗原 亘									
科目ナンバリング	SOC102									
授業の概要と到達目標	わたしたちの生きる「社会」は、人間同士の関係だけではなく、人間と人間以外のさまざまな存在との関係の網の目から成り立っています。たとえば、人間と各種人工物（単純な道具からAIのような高度な技術的人工物までを含む）や多様な動植物との関係もまた、私たちが今生きている世界の在り方を考えるうえで欠かすことのできないものです。社会学Bでは、まさにこうした人間と人間以外の存在との関係に関する社会学的な視点について、社会学の理論的な観点や具体的な事例を取り上げながら学んでいきます。なお本講義は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」、「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」の育成を達成するための科目です。※授業計画は受講者の理解度等を踏まえて若干変更する場合があります。									
授業の方法	パワーポイントを用いた講義形式でおこないます。ただし、アクティブラーニングの一環として、適宜、受講者に質問を投げかけ発言を求めます。また、コメントの回収とフィードバックもおこないます。									
予習と復習	予習・復習（各90分）に関しては、毎授業の終わりに予習・復習のポイントを発表するので、それにしたがっておこなってください。									
テキスト等	テキストは定めません。Classroom等で資料を配布します。なお、授業全体を通しての主要な参考文献は、栗原 亘 編、2022、『アクターネットワーク理論入門：「モノ」であふれる世界の記述法』ナカニシヤ出版です。その他の参考文献については、適宜授業内で紹介します。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%		
				0%						0%
	全体の2/3以上の出席を評価の前提とします。学期末に授業内容の理解を前提にしたレポートを提出してもらいます。また、課題・コメントシートの提出状況・内容や、授業内の発言などで平常点を評価します。課題等に関するフィードバックは総評の形でおこないます。□									
授業計画	①イントロダクション									
	②「自分」をつくる①：社会的アイデンティティとモノ									
	③「自分」をつくる②：「装うこと」「差異化すること」									
	④他者とつながる①：メディアとは何か									
	⑤他者とつながる②：現代のメディア環境と新しいつながりの形成									
	⑥社会的空間を生きる①：移動の技術と空間・時間の編成・変容									
	⑦社会的空間を生きる②：監視技術と空間の統治をめぐる問い									
	⑧中間まとめ									
	⑨労働する①：「道具を使う人間」と「歯車としての人間」へ？									
	⑩労働する②：オートメーション化と職業のこれからについて考える									
	⑪身体というモノと向き合う①：医療技術の進展と生/死の変容									
	⑫身体というモノと向き合う②：エンハンスメントについて考える									
	⑬他の「生きモノ」と生きる①：動植物とヒトの「これまで」を知る									
	⑭他の「生きモノ」と生きる②：動植物とヒトの「これから」を考える									
	⑮まとめと総復習									

科目名	外書講読 外書講読A							
英文科目名	Reading of Foreign Books Reading of Foreign Books A							
担当者名	小向敦子							
科目ナンバリング	REM201							
授業の概要と到達目標	外書講読は、外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を習得する科目です。英語圏にある大学の「人間科学部（undergraduate）」で、開講されているであろう科目を、後期の「グローバル・コミュニケーション」と同じ曜日・同じ時限に開催されている科目であることを意識しつつ、1年をかけて、できるだけバランス良く学んでいくことを目指します。皆さんは「外書講読」と聞くと、英語が得意な人向けの科目と思うかもしれませんが。得意な人はもちろん、それほどではない人でも、できるだけ参加しやすい授業を心がけます。今学期は、文学・社会学・心理学を中心に取り組みます。また学期の中間でワークショップやアクティビティを予定しています。							
授業の方法	基本的に講義が中心ですが必要に応じて質疑応答を実施します。またグループワークを用いたアクティブ・ラーニングを一部の授業回で実施します。履修者は講義に対する質疑応答、並びにアクティブ・ラーニングを通じて積極的に授業に貢献してください。							
予習と復習	予習（90分）：配布されたプリントの、次回の講義に該当する箇所を精読し、気づいたことや疑問点をまとめておくこと。復習（90分）：当日講義の内容を再度、プリントを用いて復習し、重要と思う点などを追記し、まとめておくこと。							
テキスト等	授業ごとに、教員が準備したプリントを配布します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	皆さんの、授業への積極的な貢献に期待します。また授業の課題については、返却して全般的な評価と所見を提示します。							
授業計画	①Introduction to Liberal Arts & Science							
	②Literature(1):Focus on Modern Master Piece							
	③Literature(2):Chicken Soup for the Soul							
	④Literature(3):More Soup for the Soul							
	⑤Dialogic Workshop(1):Read my Lips							
	⑥Sociology(1):Interdisciplinary Insight							
	⑦Sociology(2):Traditional Architecture							
	⑧Sociology(3):Regional Cuisine							
	⑨Dialogic Workshop(2):Ridiculous Riddles							
	⑩Psychology(1): Holistic Approach							
	⑪Psychology(2):Adolescence							
	⑫Psychology(3): Identity Disorder							
	⑬Preparation for the Workshop							
	⑭Dialogic Workshop(3): Creative Thinking							
	⑮まとめと総復習							

科目名		ライフデザイン論A						
英文科目名		Life Design A						
担当者名		大山典宏						
科目ナンバリング		SLDC101						
授業の概要と到達目標	<授業の概要> 私達の生活設計（ライフデザイン）においては、ライフイベント（進学、就職、結婚、出産、子育て、退職など）でどのような選択をするのか、様々なリスク（失業、事故、病気・怪我、障害、要介護、死亡など）に対してどのように対処するのかが、極めて重要となっています。ライフデザイン論では、生活設計の前提となる知識の習得、具体的には、ライフイベントと様々なリスクの現状、それに係る仕組みの概要や課題などを学習します。ライフデザイン論Aでは、主に20代や30代に生じうるライフイベントやリスクを取り扱います。人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を達成するための科目です。<到達目標>①20代・30代の生活設計の前提となる知識を習得する。②20代・30代のライフイベントごとに生じるリスクを理解する。③20代・30代のリスクに対応するための仕組みの概要や課題を理解する。							
授業の方法	基本的に講義形式で行います。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施します。一部の授業では、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを行います。							
予習と復習	予習（90分）次回講義に関連するキーワードや事柄について自主的に調べ、疑問点をまとめておいてください。復習（90分）当日の授業内容を復習し、疑問点や重要な箇所をまとめておいてください。							
テキスト等	授業時にPDF形式の資料を配信します。参考になる資料は授業内で紹介します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	65%	平常点	35%
				0%				0%
	確認のための小テストの点数を平常点とし、レポートとあわせて評価を行います。単位認定には、最低でも2/3以上の出席が必要です。							
授業計画	①ガイダンス（講義の概要紹介）							
	②進学と大学教育に関する基礎知識							
	③大学生活に関する基礎知識							
	④就職活動に関する基礎知識							
	⑤労働法に関する基礎知識							
	⑥少子化に関する基礎知識							
	⑦結婚に関する基礎知識							
	⑧妊娠・出産ハラスメントに関する基礎知識							
	⑨子育てに関する基礎知識							
	⑩子どもの教育と貧困問題に関する基礎知識							
	⑪レポート作成に関する基礎知識							
	⑫租税に関する基礎知識							
	⑬若者の雇用不安に関する基礎知識							
	⑭保険に関する基礎知識							
	⑮まとめと総復習							

科目名	ライフデザイン論B									
英文科目名	Life Design B									
担当者名	大山典宏									
科目ナンバリング	SLDC102									
授業の概要と到達目標	<授業の概要> 私達の生活設計（ライフデザイン）においては、ライフイベント（進学、就職、結婚、子育て、住宅購入、退職など）でどのような選択をするのか、様々なリスク（失業、事故、病気・怪我、障害、要介護、死亡）や最近問題となっている長生きリスクに対してどのように対処するのかが、極めて重要となっています。ライフデザイン論では、生活設計の前提となる知識の習得、具体的には、ライフイベントと様々なリスクの現状、それに係る制度の仕組みの概要や課題などを学習します。ライフデザイン論Bでは、働き盛りで老後への備えが本格的に必要な主として40代以降に生じうるライフイベントやリスクを取り扱います。人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を達成するための科目です。<到達目標> ①40代以降の生活設計の前提となる知識を習得する。②40代以降のライフイベントごとに生じるリスクを理解する。③40代以降のリスクに対応するための仕組みの概要や課題を理解する。									
授業の方法	基本的に講義形式で行います。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施します。一部の授業では、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを行います。									
予習と復習	予習（90分）次回講義に関連するキーワードや事柄について自主的に調べ、疑問点をまとめておいてください。復習（90分）当日の授業内容を復習し、疑問点や重要な箇所をまとめておいてください。									
テキスト等	授業時にPDF形式の資料を配信します。参考になる資料は授業内で紹介します。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	65%	平常点	35%		
				0%				0%		
	確認のための小テストの点数を平常点とし、レポートとあわせて評価を行います。単位認定には、最低でも2/3以上の出席が必要です。									
授業計画	①ガイダンス（講義の概要紹介）									
	②人生100年時代のライフデザイン									
	③児童虐待に関する基礎知識									
	④ヤングケアラーに関する基礎知識									
	⑤失業リスクに関する基礎知識									
	⑥傷病リスクに関する基礎知識									
	⑦障害リスクに関する基礎知識									
	⑧住宅喪失リスクに関する基礎知識									
	⑨セカンドライフに関する基礎知識									
	⑩メンタルヘルスに関する基礎知識									
	⑪年金に関する基礎知識									
	⑫ライフプラン・資産運用に関する基礎知識									
	⑬介護リスクに関する基礎知識1									
	⑭介護リスクに関する基礎知識2									
	⑮まとめと総復習									

科目名	ヒューマンコミュニケーション論A							
英文科目名	Human Communication Theories A							
担当者名	栗原 亘							
科目ナンバリング	PCOM101							
授業の概要と到達目標	本講義では、人間という動物が日常的におこなっているコミュニケーションの諸相について、身近な具体例を取り上げながら学んでいきます。そして、そのなかで、人間がおこなうコミュニケーションの特徴やそれに関連するさまざまな課題について、アカデミックな観点から理解し、論じるために必要な基本的知識を習得することを目指します。なお、本講義は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」、「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」の育成を達成するための科目です。※授業計画は受講者の理解度等を踏まえて若干変更する場合があります。							
授業の方法	パワーポイントを用いた講義形式でおこないます。ただし、アクティブラーニングの一環として、適宜、受講者に質問を投げかけ発言を求めます。また、コメントの回収とフィードバックもおこないます。							
予習と復習	予習・復習（各90分）に関しては、毎授業の終わりに予習・復習のポイントを発表するので、それにしたがっておこなってください。							
テキスト等	特定のテキストはありません。参考文献は授業内で適宜指示します。また、必要に応じて配布資料を用います。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	全体の2/3以上の出席を評価の前提とします。学期末に授業内容の理解を前提にしたレポートを提出してもらいます。また、課題・コメントシートの提出状況・内容や、授業内の発言などで平常点を評価します。課題等に関するフィードバックは総評の形でおこないます。							
授業計画	①イントロダクション：ヒューマンコミュニケーションとは何か							
	②コトバとコミュニケーション：ヒトの発話と動物の鳴き声は何が違うのか							
	③カラダとコミュニケーション：おしゃべりな身振り手振りを解説する							
	④会話という秩序：コトバとカラダのダイナミズムを捉える							
	⑤演じる「自分」とコミュニケーション：役割演技という観点							
	⑥押し付けられた「自分」とコミュニケーション：ラベリングとスティグマをめぐる葛藤							
	⑦「駆け引き」とコミュニケーション：人はどのようにして説得する/されるのか							
	⑧第2～7回のまとめと復習							
	⑨都市空間におけるコミュニケーション：「無関心」というつながり方							
	⑩文字とコミュニケーション：「書物」というメディアの誕生とそのインパクト							
	⑪映像とコミュニケーション：テレビとマスメディアの時代							
	⑫ヴァーチャル空間とコミュニケーション：ネット上に広がる相互行為秩序							
	⑬SNSとコミュニケーション：いつでもどこでもつながる時代を生きる							
	⑭第9回～13回のまとめと復習							
	⑮まとめと総復習							

科目名	ヒューマンコミュニケーション論B							
英文科目名	Human Communication Theories B							
担当者名	栗原 亘							
科目ナンバリング	PCOM102							
授業の概要と到達目標	本講義では、人間という動物が日々おこなっているコミュニケーションの諸相について、身近な具体例を用いながら学んでいきます。とくに、「グローバル化」「高齢化」「情報化」などをはじめとする、現代社会をとりまくさまざまな状況との関係で生じているコミュニケーションにまつわる具体的な諸問題について深く考察し、向き合っていくために必要となる基本的知識を身につけることを目指します。なお、本講義は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」、「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」の育成を達成するための科目です。※授業計画は受講者の理解度等を踏まえて若干変更する場合があります。							
授業の方法	パワーポイントを用いた講義形式でおこないます。ただし、アクティブラーニングの一環として、適宜、受講者に質問を投げかけ発言を求めます。また、コメントの回収とフィードバックもおこないます。							
予習と復習	予習・復習（各90分）に関しては、毎授業の終わり予習・復習のポイントを発表するので、それにしたがっておこなってください。							
テキスト等	特定のテキストはありません。参考文献は授業内で適宜指示します。また必要に応じて配布資料を用います。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	全体の2/3以上の出席を評価の前提とします。学期末に授業内容の理解を前提にしたレポートを提出してもらいます。また、課題・コメントシートの提出状況・内容や、授業内の発言などで平常点を評価します。課題等に関するフィードバックは総評の形でおこないます。□							
授業計画	①イントロダクション：現代におけるヒューマンコミュニケーションの諸相と課題							
	②「多文化共生」とコミュニケーション①：異なる文化が会うときに起きること							
	③「多文化共生」とコミュニケーション②：日常に埋め込まれた差別の諸相							
	④ケアとコミュニケーション①：高齢化社会における相互行為							
	⑤ケアとコミュニケーション②：バリアフリー／インクルーシブデザインを考える							
	⑥災害とコミュニケーション①：「当たり前」がこわれるとき							
	⑦災害とコミュニケーション②：「助け合う」コミュニケーションを考える							
	⑧第2～7回のまとめと復習							
	⑨デマとコミュニケーション①：「うわさ」とは何か							
	⑩デマとコミュニケーション②：デマ・フェイクニュースを考える							
	⑪傷つけあうコミュニケーション：ヘイトスピーチを考える							
	⑫テクノロジーとコミュニケーション：人工物とのかかわりを考える							
	⑬エコロジーとコミュニケーション：動植物とのかかわりを考える							
	⑭第9回～13回のまとめと復習							
	⑮まとめと総復習							

科目名		環境科学 環境科学A							
英文科目名		Environmental Science Environmental Science A							
担当者名		竹内 淨							
科目ナンバリング		SLDC103							
授業の概要と到達目標	「環境科学」は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」の教育を達成するための科目である。本講義の目標は、環境問題に関する基礎知識を習得することである。環境省が毎年発行している『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』などを題材に、環境問題の現状、背景にある課題について考えていく。※一部の回で外部講師を招聘する予定である。								
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして一部の授業回でフィールドワークを実施する。								
予習と復習	予習(90分) 事前に授業計画に示したテーマについて調べておくこと。復習(90分) 講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	環境省環境政策局『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』以下の環境省HPにて、過去から最新版までの白書を閲覧可(6月頃更新)。https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/その他、電子ファイルにて資料を配信。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	授業内試験と課題のいずれか高得点で評価			100%					0%
	全ての課題と授業内試験について全般的な評価と所見を提示する。授業内試験に変更が生じた場合は別途連絡する(複数回の実施、オンラインでの実施など)。								
授業計画	①ガイダンス								
	②環境問題とは何か								
	③地球の基礎知識								
	④人間と地球								
	⑤気候変動								
	⑥エネルギー								
	⑦生物多様性								
	⑧廃棄物問題								
	⑨公害								
	⑩環境測定実習								
	⑪様々な環境問題								
	⑫持続可能な社会に向けて								
	⑬市民・企業・政府の取り組み								
	⑭授業内試験と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名		キャリアデザイン論 キャリアデザイン論A							
英文科目名		Introduction to Career Construction Introduction to Career Construction A							
担当者名		葛西和恵							
科目ナンバリング		SLDC201							
授業の概要と到達目標	“いい学校へ行って、いい会社へ入れば、人生は安泰だ” こうした考え方は、もはや通用しがたい世の中になった。若い時から常にキャリア意識を持ち、自律的にキャリア開発を行い、自らの能力や実力を磨き育てて、広く労働市場における高い付加価値・競争力を創造していくことが必要不可欠だ。そこで、この授業ではキャリアを開発し、形成していくための考え方・方法論を学び、生涯にわたって自分のキャリア（働き方・生き方）を主体的に開発・形成していこうとするマインドの醸成を目標とする。また、今日的なトピックスからキャリア形成の外的環境への理解を深め、自分のキャリアを考える手がかりとする。状況が許すようならば、外部講師の招聘を検討する。企業等における人材育成、キャリア形成支援の経験を活かし、事例を踏まえながら実践的な指導・助言を行う。人間科学部のディプロマポリシー「社会生活の構築やコーディネートができる人材の育成」を達成するための科目であり、あらゆる企業組織、公的組織において活躍できる人材の育成を目指す。								
授業の方法	この授業では、講義と演習を行う。アクティブ・ラーニングを促進するため、毎回の授業において演習、ディスカッションやリアクションペーパーによる講義内容の理解確認を行う。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。								
予習と復習	予習（90分）各講義の最後に次回学習課題を指示するので、その内容について自分なりに調べたり、自らの考えをまとめておくこと。復習（90分）当日の講義内容をその日のうちに再確認し、自身の活動や生活の中で学んだことの活用・実践を試みること。								
テキスト等	【参考図書】大久保幸夫（2016）『キャリアデザイン入門[1]基礎力編第2版』日経文庫。その他、授業の中で随時紹介する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%	
				0%				0%	
	5回以上欠席した場合は、授業内試験の受験資格を失うこととする。授業内試験では、キーコンセプトの理解に基づいた自らの考え方の論述を重視する。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】試験・レポート等については全般的な評価と所見を提示する。								
授業計画	①オリエンテーション								
	②日本的雇用慣行における企業行動とキャリア								
	③働く意味を考察する：働く意味と自分らしい働き方を考える								
	④職場で求められる人材になるには：社会人基礎力								
	⑤相手の話をきちんと聴く技術：傾聴・アクティブリスニング								
	⑥言いたいことをきちんと伝える技術：アサーション								
	⑦社会人インタビューにチャレンジ：キャリアの多様性理解と自分への応用								
	⑧企業内キャリア：キャリアのケーススタディ								
	⑨よいガマンと悪いガマン：メンタルヘルス・ハラスメントの基礎知識								
	⑩経験したアルバイトを分析する：「強み」を活かせる場の発見								
	⑪学生時代の経験を分析する：私の「学生時代10大ニュース」								
	⑫自分がイキイキできる企業風土・企業文化：「強み」と業界・企業研究との統合								
	⑬授業内試験と解説								
	⑭企業への自己アピールの極意：応募書類・面接・グループディスカッション								
	⑮まとめと総復習								

科目名	家族社会学 家族社会学A							
英文科目名	Family Sociology Family Sociology A							
担当者名	吉原千賀							
科目ナンバリング	SLDC205							
授業の概要と到達目標	家族とは、我々にとってあまりにも身近であるが故にそれにまつわる様々な事柄が自明視されている。本講義では、①家族の捉え方およびその変化を現代社会状況とのかかわりで理解すること、②家族や家族関係の現状について具体的に把握すること、③家族を相対化する視点を養うこと、を目標に、そのような家族に対し、改めて「家族とは何か?」を考えてみたい。具体的には、制度、文化、時代といった複数の次元・領域における「家族」の〈比較〉を通して家族を相対化して捉える視点を養う。この視点は、家族について具体的に考え、考察を深めていくうえでの基本的視角となる。なお、人間科学部のディプロマポリシー「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。							
授業の方法	対面授業の場合は、一部の授業回でグループワーク(アクティブ・ラーニング)を実施予定である。							
予習と復習	予習(90分)普段から意識して新聞や雑誌等で家族についての情報に触れ考えておくこと。そのうえで、配布資料を講義前に十分読んでおくこと。復習(90分)講義終了後、講義内で紹介した文献や配布資料をその日のうちに復習しておくこと。							
テキスト等	テーマに応じて適宜参考文献を紹介し、資料等を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	レポートや講義内で課すワーク、講義への取組姿勢、出席状況を総合評価する。なお、4回以上欠席した場合は単位を認めない。【課題に対するフィードバック】ワークの一部について、講義内で全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②「家族とは何か?」を考える							
	③the family からfamilies へ							
	④家族をめぐる基本概念と法律							
	⑤家族をどうとらえるか?							
	⑥家族の形成とそのプロセス							
	⑦家族と血縁—生殖補助医療—							
	⑧家族と血縁—特別養子縁組と里親制度—							
	⑨家族の変化をどうとらえるか?							
	⑩家族観の変遷							
	⑪子どもと定位家族							
	⑫家族の変化と家庭教育							
	⑬家族の解消とそのプロセス							
	⑭家族の解消とその後の生活							
	⑮まとめと総復習							

科目名	家族関係論 家族社会学B							
英文科目名	Family Relations Family Sociology B							
担当者名	吉原千賀							
科目ナンバリング	SLDC206							
授業の概要と到達目標	本講義では、①家族やそれを構成する個人の変化を現代社会状況とのかかわりで理解すること、②現代社会において家族が抱える問題や課題について具体的に把握すること、③それらを身近な出来事や経験を題材にしながら分析、考察する力を養うこと、を目標に、家族社会学の中心的方法論「ライフコース論」、「ネットワーク論」の視点からアプローチする。具体的には、家族メンバー個々人の幼少期から高齢期にいたるライフコースを「タテ」軸に、夫婦・親子・きょうだいといった家族メンバー間の関係性の広がり、すなわちネットワークを「ヨコ」軸にしながら考える。事前に家族社会学(家族社会学A)を履修していることが望ましい。なお、人間科学部のディプロマポリシー「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。							
授業の方法	対面授業の場合は、一部の授業回でグループワーク(アクティブ・ラーニング)を実施予定である。							
予習と復習	予習(90分)：普段から意識して新聞や雑誌等で家族についての情報に触れ考えておくこと。そのうえで、配布資料を講義前に十分読んでおくこと。復習(90分)：講義終了後、講義内で紹介した文献や配布資料をその日のうちに復習しておくこと。							
テキスト等	テーマに応じて適宜参考文献を紹介し、資料等を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	レポートや講義内で課すワーク、講義への取組姿勢、出席状況を総合評価する。4回以上欠席した場合は単位を認めない。【課題に対するフィードバック】ワークの一部について、講義内で全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①イントロダクション							
	②家族関係とは？							
	③子育てについて考える：歴史的な視点から							
	④母性神話と三歳児神話							
	⑤職業生活と子育て							
	⑥父親の子育て							
	⑦イクメン現象について考える							
	⑧子育てについて考える：制度的な視点から							
	⑨職業生活と家族							
	⑩家族危機とワーク・ライフ・コンフリクト：仕事と育児							
	⑪就労曲線とライフイベント							
	⑫育児ストレスと児童虐待							
	⑬家族危機とワーク・ライフ・コンフリクト：仕事と介護							
	⑭「古い」と「成熟」をめぐる家族関係							
	⑮まとめと総復習							

科目名	ジェンダー論 ジェンダー論A							
英文科目名	The Theory of Gender The theory of Gender A							
担当者名	尾曲美香							
科目ナンバリング	SLDC203							
授業の概要と到達目標	【概要】ジェンダーとは「社会的・文化的に構築された性」という意味で用いられる概念である。性別はこんにちの社会においてもっとも強力に作用しているカテゴリーであり、それゆえ個人の身体や生き方、社会システムにいたるまで、私たちの暮らしを隅々まで規定している。本講義では、①ジェンダーについての基礎的な知識を学んだ上で、②社会現象や身近なトピックについて、ジェンダーの視点からより多角的に理解できるようになることを目指す。男女共同参画センターでの勤務経験を活かし、地域における男女共同参画推進の取り組みについて実例を紹介する。【目標】ジェンダー研究における基本概念を理解できるようになる。社会現象や身近なトピックをジェンダーの視点から説明できるようになる。人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を育成するための科目である。							
授業の方法	講義形式。毎回授業の最後にリアクションペーパーの提出を課す。アクティブ・ラーニングとして、ワークショップやグループ・ディスカッションを数回実施する。							
予習と復習	【予習(90分)】新聞やTVニュース等で興味をもったトピックをジェンダーの視点で考えてみる。映画、テレビドラマ、小説、マンガなどにおける女性・男性の描かれ方に注目しておく。【復習(90分)】授業で配布するレジュメや資料を熟読する。							
テキスト等	【テキスト】指定しない。毎回レジュメを配布する。【参考図書】井上輝子・上野千鶴子他編『岩波女性学事典』(岩波書店、2002年)、加藤秀一『はじめてのジェンダー論』(有斐閣、2017年)等。その他、必要に応じて適宜紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	15%
	リアクションペーパー		45%					0%
	【評価】上記3点を総合して評価する。3点の内いずれかが0の場合は不可とする。4回以上欠席した場合も不可とする。【課題に対するフィードバック】毎回授業の冒頭にて、前回の講義に対するリアクションペーパーについて全般的な所見を提示し、質問があれば回答する。							
授業計画	①イントロダクション							
	②「ジェンダー」とは何か							
	③女性学・男性学・ジェンダー研究の誕生と歴史							
	④教育とジェンダー：かくれたカリキュラムと教育における男女格差							
	⑤メディアとジェンダー：作られる「男らしさ」「女らしさ」							
	⑥家族とジェンダー1：近代家族の誕生と歴史							
	⑦家族とジェンダー2：性別役割分業とケア							
	⑧労働とジェンダー1：女性労働の現在							
	⑨労働とジェンダー2：男性の働き方と男らしさの呪縛							
	⑩労働とジェンダー3：ペイド・ワーク／アンペイド・ワーク							
	⑪暴力とジェンダー：DV・デートDV							
	⑫セクシュアリティとジェンダー：多様な性・性愛のかたち							
	⑬制度・政策とジェンダー1：女性差別撤廃条約から女性活躍推進法まで							
	⑭制度・政策とジェンダー2：地域における女性関連施設(男女共同参画センター等)の役割							
	⑮まとめと総復習							

科目名	社会保障論 社会保障論A							
英文科目名	Social Security Social Security A							
担当者名	大山典宏							
科目ナンバリング	SLDC207							
授業の概要と到達目標	<授業の概要> 社会保障論では、社会保障の役割と仕組みについて講義します。人は生きていくと失業、傷病・障害、出産・育児、介護など、様々な生活上のリスクに直面します。これらのリスクに直面すると、就労収入が得られないなど通常の生活が困難となる可能性があります。社会保障はそのようなリスクに対して公的な給付を行い、セーフティネットとして生活を保障しようとする国の制度です。学生の皆さんも将来いずれかの制度の利用者になることも大いに想定できます。本講義を通じて社会保障に関する正しい知識を身に付けましょう。行政機関の勤務経験を活かし、制度解説だけでなく具体的な事例を踏まえた説明をします。人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を達成するための科目です。<到達目標> ①医療保険・介護保険・年金保険の仕組みと現状・課題を理解する。②労働者災害補償保険・民間保険の仕組みと現状・課題を理解する。③社会保障が直面する課題について理解する。							
授業の方法	基本的に講義形式で行います。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施します。一部の授業では、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを行います。							
予習と復習	予習（90分）次回講義に関連するキーワードや事柄について自主的に調べ、疑問点をまとめておいてください。復習（90分）当日の授業内容を復習し、疑問点や重要な箇所をまとめておいてください。							
テキスト等	教科書は、棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障：福祉を学ぶ人へ（第18版）』有斐閣、2021年です（最新版が発行されていればそちらを購入してください）。その他に、授業中に適宜資料を配布します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	65%	平常点	35%
				0%				0%
	確認のための小テストの点数を平常点とし、レポートとあわせて評価を行います。単位認定には、最低でも2/3以上の出席が必要です。							
授業計画	①ガイダンス（社会保障制度の意義・役割）							
	②医療保険（適用・被保険者）							
	③医療保険の給付（療養・傷病による労務不能、後期高齢者医療）							
	④生活保護制度（原理原則・給付）							
	⑤社会福祉制度（児童福祉、障害者福祉等）							
	⑥介護保険制度（創設の経緯と概要）							
	⑦介護保険制度（施設介護給付・居宅介護給付）							
	⑧国民年金制度							
	⑨厚生年金保険制度							
	⑩社会保障制度を考える視点							
	⑪雇用保険制度（失業の定義・失業に対する給付）							
	⑫労働者災害補償保険制度（労災保険・通勤災害の定義）							
	⑬民間保険と社会保険							
	⑭社会保障の歴史と構造							
	⑮まとめと総復習							

科目名		公的扶助論 社会保障論B						
英文科目名		Public Assistance Theory Social Security B						
担当者名		大山典宏						
科目ナンバリング		SLDC208						
授業の概要と到達目標	<授業の概要>社会保障・社会福祉制度の中で、憲法25条に規定する「健康で文化的な最低限度の生活」を保障し、最後のセーフティネットの役割を果たすのが、生活保護（公的扶助）です。虐待、孤立、DV（配偶者間暴力）、ワーキングプア、ホームレスなど多くの社会問題が貧困と結びついています。生活保護は様々な要因によって貧困状態に陥った人々を経済給付により保護し、相談援助により自立の助長を図ります。法制度や相談援助の実践方法といった生活保護制度のしくみを学ぶと同時に、貧困が生み出される社会的要因と実態、政治・経済・社会構造の中で生活保護がどのような位置を占めるかを考えます。行政機関の勤務経験を活かし、貧困・格差問題と生活保護制度等の関連等について実例に基づいた説明をします。人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を達成するための科目です。<到達目標>①生活保護の原理・原則と法制度を理解する。②貧困問題が生じる社会的要因を理解する。③生活保護の動向と近年の改革の意味を理解する							
授業の方法	基本的に講義形式で行います。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施します。一部の授業では、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを行います。							
予習と復習	予習（90分）次回講義に関連するキーワードや事柄について自主的に調べ、疑問点をまとめておいてください。復習（90分）当日の授業内容を復習し、疑問点や重要な箇所をまとめておいてください。							
テキスト等	教科書は、岩永理恵・卯月由佳他『生活保護と貧困対策』（ミネルヴァ書房、2018年）です。そのほか、授業中に適宜資料を配布します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	65%	平常点	35%
				0%				0%
	確認のための小テストの点数を平常点とし、レポートとあわせて評価を行います。単位認定には、最低でも2/3以上の出席が必要です。							
授業計画	①ガイダンス（公的扶助の意義・役割）							
	②公的扶助の原理・原則（無差別平等と自立助長）□							
	③生活保護の原理・原則（収入認定・資産保有）□							
	④生活保護の原理・原則（扶養義務・世帯認定）□							
	⑤生活保護の実施体制							
	⑥生活保護の権利と不服申立て制度□							
	⑦生活保護から考える社会のあり方							
	⑧生活保護の財政をめぐる議論□							
	⑨公的扶助の歴史							
	⑩貧困対策をめぐる近年の状況□							
	⑪生活保護と貧困問題（就労支援と生活困窮者自立支援制度）□							
	⑫生活保護と貧困問題（学習支援と大学進学問題）							
	⑬生活保護と貧困問題（子どもの貧困対策法と居場所づくり）							
	⑭生活保護と貧困問題（住宅と医療・介護の支援）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	健康と医療の社会学							
英文科目名	Sociology of Health and Medicine							
担当者名	長谷川万希子							
科目ナンバリング	SLDC202							
授業の概要と到達目標	<授業の目標>①健康を守り、保健医療や環境や社会とのよりよい関係を築き、それらをよりよく変えていく上で必要な知識やスキルを習得する。②生物医学的な見方・考え方に片寄らない多様な見方・考え方や、見識としてのクリティカル(科学的批判的)な見方・考え方を学ぶ。<授業の概要>人の受胎・出生から死亡までの生涯発達、ライフコースの視点を重要視する。毎回異なるテーマを取り上げ、健康と生き方とを結びつけて考え、健康や医療等の情報を集めて主体的に判断して行動できるように、問題の見方・考え方を鍛える。健康と医療の社会問題に関わる専門家・実践家・当事者等を、外部講師として招く予定がある。時事、外部講師の状況により、講義内容が前後する場合がある。人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を目指す科目である。※外部講師を招いた授業を、1コマ実施予定。※遠隔・対面授業の実施状況により、一部の内容が変更になる可能性がある。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングを重視するため、全授業回数の3分の2以上の出席を求める。アクティブ・ラーニングを実施する：ワークシートや課題による能動的学習。							
予習と復習	予習（90分）授業テーマに関する調べ学習。復習（90分）各授業回の課題に取り組む。							
テキスト等	教科書：『新・生き方としての健康科学(第2版)』山崎喜比古監修(有信堂) 参考書：『国民衛生の動向2022/2023年』（厚生労働統計協会）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	75%	平常点	25%
				0%				0%
	①全授業回の3分の2以上の出席を求める。②遅刻・早退、欠席は、平常点から減点する。③居眠り、授業以外の活動は、平常点から減点する。④毎回、授業の理解確認・振り返りのレポートを提出する。							
授業計画	①生き方としての健康科学とは							
	②生涯発達と健康、社会、生き方							
	③健康に生きる力							
	④食と健康							
	⑤身体、身体活動、睡眠と健康							
	⑥薬品、薬物と健康							
	⑦心と身体の病気、口腔保健と医療・健康サービス							
	⑧生活の場(大学、職場、家庭、地域)と健康							
	⑨国境を越える人の移動と健康							
	⑩環境・自然災害と健康							
	⑪セックス、ジェンダー、セクシュアリティと健康							
	⑫病・障害の体験							
	⑬老いること、死にゆくこと							
	⑭先端医療と医療に関わる社会のルール							
	⑮まとめと総復習：医療と福祉を支える社会のしくみ							

科目名	ライフコース論							
英文科目名	Life Course Theory							
担当者名	吉原千賀							
科目ナンバリング	SLDC204							
授業の概要と到達目標	本講義は、個人が一生のあいだにたどる人生の道筋であるライフコースに対し、学問的にアプローチするものである。従来、人の一生はあるパターンが繰り返されるものとして捉えられてきた。しかしながら、現代社会において進学、就職、結婚、出産、転職、退職、死などの人生の出来事を経験するのかわらないのか、経験するとすれば「いつ」「どんな順序で」「どんな風に」経験するのかわからないのか等についての選択は個人にゆだねられ、多様化している。そこで、①ライフコースの時代的変化とその背景について理解し、②それと関わらせながらライフコース選択にまつわる問題点や課題について追究、考察する方法の修得を目指す。社会心理学、家族社会学、対人関係論、家族関係論を履修していることが望ましい。なお、人間科学部のディプロマポリシー「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」の育成のための科目である。							
授業の方法	対面授業の場合は、一部の授業回でグループワーク(アクティブ・ラーニング)を実施予定である。							
予習と復習	予習(90分)：普段から意識して新聞や雑誌等で様々なライフイベントに関する情報に触れ考えておくこと。そのうえで、配布資料を講義前に十分読んでおくこと。復習(90分)：講義終了後、講義内で紹介した文献や配布資料をその日のうちに復習しておくこと。							
テキスト等	テーマに応じて適宜参考文献を紹介し、資料等を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	レポートや講義内で課すワーク、講義への取組姿勢、出席状況を総合評価する。なお、4回以上欠席した場合は単位を認めない。【課題に対するフィードバック】ワークの一部について、授業内で全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①イントロダクション							
	②ライフコースと世代							
	③ライフサイクルからライフコースへ							
	④「人生の多様化」とライフコース							
	⑤ライフコース研究の基本概念							
	⑥人間の発達と歴史的・時代的コンテキスト							
	⑦家族変動とライフコース							
	⑧恋愛・結婚・出産とライフコース							
	⑨職業キャリアとライフコース							
	⑩ライフコースの形成と転機							
	⑪ライフコースにおける出会いと別れ							
	⑫ライフコースの交錯とコンボイ							
	⑬生きがいとライフコース							
	⑭高齢期における人生物語の再構築							
	⑮まとめと総復習							

科目名	ジェロントロジー ジェロントロジーA							
英文科目名	Gerontology Gerontology A							
担当者名	小向敦子							
科目ナンバリング	SLDC209							
授業の概要と到達目標	ジェロントロジーは、人間科学部のディプロマ・ポリシーである「人間の生涯にわたる成長を支援し、社会生活のコーディネイトを担える人材」を達成するための科目です。人間の老年期までを見据えた生涯発達ならびに人生観と社会観について学際的に学びます。後期の「高齢社会論」とのペア科目でもあります。大学生という立場である皆さんにとっては、就職する・結婚して幸せな家庭を築く、その辺りまでの将来が見えていると思います。しかし現実には、退職してから、そして子どもが巣立ってから、その後にまだ長い「老い先」が続いています。企て次第で、退屈・苦しいものにも、楽しくて充実したものにも、どちらにもなる長くなった人生について考え、行動できることを目指します。尚、教室外の現場で起っている内容を学ぶために、外部講師を招聘する場合があります。							
授業の方法	基本的に講義が中心ですが、必要に応じて質疑応答を実施します。またグループワークを用いたディスカッションやプレゼンテーションを一部の授業回で実施します。履修者は講義に対する質疑応答や、アクティブ・ラーニングを通じて、積極的に授業に貢献してください。							
予習と復習	予習（90分）：事前に指定範囲のテキストを精読し、気づいたことや疑問点を把握・整理しておくこと。復習（90分）：当日中に、講義の内容を再度復習し、重要と思う点などを追記してまとめること。							
テキスト等	授業ごとに、教員が準備した教材や資料を配信・配布します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	ディスカッションやプレゼンテーションの成果を、定期試験の代替としてレポートにまとめて学期末に提出してください。また授業の課題については、返却して全般的な評価と所見を提示します。							
授業計画	①年齢を寿げる自分と社会：イントロダクション							
	②エイジズムとジェロントクラシー							
	③時間を生きる：何ができるか							
	④余暇に生きる：何をすべきか							
	⑤大人の食べ方・飲み方							
	⑥失恋を考える・活かす							
	⑦失敗を考える・活かす							
	⑧笑いの分析・考察							
	⑨泣きの分析・考察							
	⑩ディスカッションに向けて：留意事項と分析							
	⑪ディスカッションに向けて：対策再考と戦略							
	⑫第1回ディスカッション：エイジズムとジェロントクラシー							
	⑬第2回ディスカッション：失恋と失敗							
	⑭第3回ディスカッション：笑いと泣き							
	⑮まとめと総復習							

科目名	高齢社会論 ジェロントロジーB							
英文科目名	Issues on Aged Society Gerontology B							
担当者名	小向敦子							
科目ナンバリング	SLDC210							
授業の概要と到達目標	高齢社会論は、人間科学部のディプロマ・ポリシーである「人間の生涯にわたる成長を支援し、社会生活のコーディネートを担当する人材」を達成するための科目です。日本は世界に冠たる長寿国であり、そのような日本に生まれて死ぬ私たちであればこそ、「死ぬ」という最期の変化さえ、一段昇ってたどり着く「最頂上」であることを希求し、そのために何歳になっても最適化できる「自分作り」について考える必要があります。年齢を重ねることを、怖くも恥ずかしくもない自分を創れる好機は、実はたった今の、若い時代にしかありません。大学生である時期に、人生のゴールまでを見通して思案し、その成果をこれからの人生に活かせることを目指します。尚、教室外の現場で起っている内容について学ぶために、外部講師を招聘する場合があります。							
授業の方法	基本的に講義が中心ですが、必要に応じて質疑応答を実施します。またグループワークを用いたディスカッションやプレゼンテーションを一部の授業回で実施します。履修者は講義に対する質疑応答や、アクティブ・ラーニングを通じて、積極的に授業に貢献してください。							
予習と復習	予習（90分）：事前に指定範囲のテキストを精読し、気づいたことや疑問点を把握・整理しておくこと。復習（90分）：当日中に、講義の内容を再度復習し、重要と思う点などを追記し、まとめておくこと。							
テキスト等	授業ごとに、教員が準備した教材や資料を配信・配布します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	ディスカッションやプレゼンテーションの成果を、定期試験の代替としてレポートにまとめて学期末に提出してください。また授業の課題について、返却して全般的な評価と所見を提示します。							
授業計画	①百年付き合い合い「自分」と「社会」：イントロ							
	②華麗なるジェロントロジスト：遅咲きの花							
	③世界的な高齢社会：光と影							
	④高齢未来のデザインとスタイル							
	⑤大人の暮らし方・住まい方							
	⑥命の長さと終り							
	⑦現代社会の老いと死							
	⑧死に甲斐と死につぶり							
	⑨死後と法医学							
	⑩悲嘆と喪失学							
	⑪ディスカッションに向けて：対策と戦略							
	⑫第1回ディスカッション：高齢未来の可能性と限界							
	⑬第2回ディスカッション：老い方の質・老活							
	⑭第3回ディスカッション：死に方の質・終活							
	⑮まとめと総復習							

科目名		キャリア心理学 キャリアデザイン論B キャリアデザイン論B						
英文科目名		Psychological approaches to career Introduction to Career Construction B						
担当者名		葛西和恵						
科目ナンバリング		PCOM201						
授業の概要と到達目標	「人生100年時代」を生きるには、長期にわたって社会で活躍し続けるとともに、自分らしい人生を生きることが求められよう。そうしたキャリア（働き方・生き方）を叶えるために、この科目ではキャリアに関連する基本的な理論や方法論を学ぶ。理論や方法論を学ぶことに止まらず、それらを活用して自己理解を深めながら自分の希望する働き方・生き方と学生時代の過ごし方を融合させること、自分なりに納得できる進路（就職先）を探索し決定できること、よりよく働くための準備を整えることを目標とする。状況が許すようならば、外部講師の招聘を検討する。企業等における人材育成、キャリア形成支援の経験を活かし、事例を踏まえながら実践的な指導・助言を行う。人間科学部のディプロマポリシー「社会生活の構築やコーディネートができる人材の育成」を達成するための科目であり、あらゆる企業組織、公的組織において活躍できる人材の育成を目指す。							
授業の方法	この授業では、講義と演習を行う。アクティブ・ラーニングを促進するため、毎回の授業において演習、ディスカッションやリアクションペーパーによる講義内容の理解確認を行う。また、スマートフォンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向授業を実施する。							
予習と復習	予習（90分）各講義の最後に次回学習課題を指示するので、その内容について自分なりに調べたり、自らの考えをまとめておくこと。復習（90分）当日の講義内容をその日のうちに再確認し、自身の活動や生活の中で学んだ理論・方法論等の実践を試みること。							
テキスト等	【参考図書】渡辺三枝子編(2018)『新版キャリアの心理学 第2版』ナカニシヤ出版。その他、授業の中で随時紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%
				0%				0%
	5回以上欠席した場合は、授業内試験の受験資格を失うこととする。授業内試験では、キーコンセプトの理解に基づいた自らの考え方の論述を重視する。【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】試験・レポート等については全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②移行期の重要性：人生の転換（トランジション）							
	③働く動機と価値観：エニアグラム・タイプ診断							
	④私の役割は何？：キャリアの発達と課題（ライフ・キャリア・レインボー、ライフ・ロール）							
	⑤職業への興味・関心を探る：6角形のモデル							
	⑥マイ・キャリア・ストーリーを語る：ライフ・デザイン・アプローチ、キャリア構築のビジュアル							
	⑦ご縁を引き寄せる生き方：計画された偶発性							
	⑧人生の選択をするとき：選択理論							
	⑨企業・組織で生き抜く術：企業内キャリア発達（キャリア・アンカー、キャリア・サバイバル）							
	⑩働く人へのキャリア支援：キャリア・カウンセリング（キャリアコンサルティング）							
	⑪30代でパートナーと共働きになったら：仕事と生活の調和・統合、統合的キャリア発達							
	⑫学ぶ意味を考察する：変幻自在なキャリア、関係性アプローチ							
	⑬授業内試験と解説							
	⑭就職という筋目のくぐり方：就職時と入社直後の適応							
	⑮まとめと総復習							

科目名		異文化間コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション論A						
英文科目名		Intercultural Communication Theories Intercultural Communication Theories A						
担当者名		竹村和朗						
科目ナンバリング		PCOM205						
授業の概要と到達目標	<概要>本講義では、異文化間コミュニケーションの構造と方法を学ぶ。外見や言葉、ふるまいが大きく異なる人と出会ったとき、どのように対応すればよいだろうか。本講義では、文化の違いを意識し、客観的に考察する方法を扱う。人間科学部のディプロマ・ポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を達成するための科目である。<到達目標>①異文化コミュニケーションに関わる基本的用語や考え方を理解する。②異文化について考えることを通じて、自分自身の考え方を捉え直す。							
授業の方法	講義と課題の提出を中心に行う。授業時に穴埋め問題と筆記問題を出すので、受講生は答えをペーパーに書き、ディスカッションし、授業終了時にペーパーを提出する（アクティブ・ラーニング）。オンライン対応時には、授業の同時配信とフォームの提出に代える。							
予習と復習	予習（90分） 事前に指定された課題について自ら調べ、要点をまとめておくこと。復習（90分） レジュメの空欄がすべて埋まっていることを確認し、不明な部分は参考文献等から調べる。							
テキスト等	授業時にレジュメを配布する。参考文献は、八代京子ほか『異文化コミュニケーションワークブック』（三修社、2001年）。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	「平常点」は各回の穴埋め問題の点数を、「レポート」は各回の筆記問題の点数の合計を意味する。これらと授業内試験を合わせて評価対象とする。提出された課題は返却しないが、優れた内容を授業内で開示する。							
授業計画	①オリエンテーション：授業の概要と進め方							
	②異文化コミュニケーションとは							
	③「文化」とは							
	④コンテクストとは							
	⑤自己開示とパラ言語							
	⑥ほめ方、叱り方							
	⑦謝り方							
	⑧表情、アイコンタクト、しぐさ							
	⑨空間と対人距離							
	⑩異文化ケース・スタディー(1)							
	⑪異文化ケース・スタディー(2)							
	⑫共感と適応							
	⑬D. I. E. 分析							
	⑭授業内試験							
	⑮まとめと総復習							

科目名	多文化共生論 異文化間コミュニケーション論B							
英文科目名	Multicultural Society Intercultural Communication Theories B							
担当者名	竹村和朗							
科目ナンバリング	PCOM206							
授業の概要と到達目標	<概要>本講義では、国際的な文化理解について学ぶ。一つの文化は、内部に多くの多様な要素を内包し、外部からの要素を取り入れながら成立している。本講義では、国際的な文化理解を通じて多文化共生の視点を涵養することを目指す。人間科学部のディプロマ・ポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を達成するための科目である。<到達目標> ①国際的な文化理解の基本的概念を理解する。②自身の経験から国際的な文化理解を考えることができる。							
授業の方法	講義と課題の提出を中心に行う。授業時に穴埋め問題と筆記問題を出すので、受講生は答えをペーパーに書き、ディスカッションし、授業終了時にペーパーを提出する（アクティブ・ラーニング）。オンライン対応時には、授業の同時配信とフォームの提出に代える。							
予習と復習	予習（90分） 事前に指定された課題について自ら調べ、要点をまとめておくこと。復習（90分） レジュメの空欄がすべて埋まっていることを確認し、不明な部分は参考文献等から調べる。							
テキスト等	授業時にレジュメを配布する。参考文献は、高城玲編『大学生のための異文化・国際理解：差異と多様性への誘い』（丸善出版、2017年）。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	「平常点」は各回の穴埋め問題の点数を、「レポート」は各回の筆記問題の点数の合計を意味する。これらと授業内試験を合わせて評価対象とする。提出された課題は返却しないが、優れた内容を授業内で開示する。							
授業計画	①オリエンテーション：授業の概要と進め方							
	②日本でフィールドワークする							
	③ネイションとエスニシティ							
	④オーストラリアの多文化主義							
	⑤日本におけるイランの絹織物							
	⑥小まとめ							
	⑦在日コリアンとは							
	⑧預言者風刺画問題を考える							
	⑨犯罪とは何か							
	⑩台湾と沖縄							
	⑪病気になる							
	⑫男らしさ、女らしさ							
	⑬障害とは							
	⑭授業内試験							
	⑮まとめと総復習							

科目名	社会心理学 社会心理学A							
英文科目名	Social Psychology Social Psychology A							
担当者名	吉原千賀							
科目ナンバリング	PCOM209							
授業の概要と到達目標	社会心理学とは、文字通り「社会」と「心理」にかかわる学問である。それ故、「心理学的」社会心理学と「社会学的」社会心理学という2つアプローチがある。本講義では、このような社会心理学という学問領域が持つ特徴について概説したうえで、主として後者すなわち「社会学的」社会心理学の立場から社会心理学の基礎的な理論や考え方の検討を行う。そして、「社会的な存在」である個人の行動や心理を社会というコンテキストのなかで、①社会心理学的な人間観を理解すること、ならびに②それと関わらせながら身近な出来事や自らの経験から発見した問題点、課題を追究・考察する視点・方法の修得を目指す。なお、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」の育成のための科目である。							
授業の方法	対面授業の場合は、一部の授業回でグループワーク(アクティブ・ラーニング)を実施予定である。							
予習と復習	予習(90分)：普段から意識して新聞や雑誌等で社会の動きや人間関係、心理についての情報に触れ考えておくこと。そのうえで、配布資料を講義前に十分読んでおくこと。復習(90分)：講義終了後、講義内で紹介した文献や配布資料をその日のうちに復習しておくこと。							
テキスト等	テーマに応じて適宜参考文献を紹介し、資料等を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	レポートや講義内で課すワーク、講義への取組姿勢、出席状況を総合評価する。なお、4回以上欠席した場合は単位を認めない。【課題に対するフィードバック】ワークの一部について、講義内で全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②身近なものが映し出す「社会」							
	③社会心理学とは？							
	④ $1+1=2+\alpha$ ：創発特性							
	⑤あだ名をつけること・つけられること：逸脱論							
	⑥ジベタリアンの「羞恥心」：準拠集団論							
	⑦「世間体」の構造							
	⑧ウチラとアイツラ：内集団と外集団							
	⑨隣の芝生はなぜ青い？：相対的不満							
	⑩援助行動とソーシャル・サポート							
	⑪冷淡な傍観者：傍観者効果と社会的交換理論							
	⑫占いはなぜ当たるのか：予言の自己成就							
	⑬年齢規範について考える							
	⑭自分さがし・自分史ブームについて考える							
	⑮まとめと総復習							

科目名	対人関係論 社会心理学B							
英文科目名	Science of Human Relations Social Psychology B							
担当者名	吉原千賀							
科目ナンバリング	PCOM210							
授業の概要と到達目標	人間は社会において互いに影響を与えあいながら生きている。そのような相互作用のなかで人間はどのように考え、行動するのか。本講義は、①「自己とは」「他者とは」等の問いをスタートに、広く人間関係について再考すること、②身近な出来事や社会現象に潜む問題点を発見、考察する力を養うこと、を目標に、「社会的」社会心理学の立場から社会的役割、その獲得プロセスとしての社会化、社会的自我など社会(集団)レベルでの人間性の問題、社会的相互作用のあり方の問題に対して、「人間関係」をキーワードにアプローチ、考察していく。事前に社会心理学(社会心理学A)を履修していることが望ましい。なお、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」の育成のための科目である。							
授業の方法	対面授業の場合は、一部の授業回でグループワーク(アクティブ・ラーニング)を実施予定である。							
予習と復習	予習(90分)：普段から意識して新聞や雑誌等で社会の動きや人間関係、心理についての情報に触れ考えておくこと。そのうえで、配布資料を講義前に十分読んでおくこと。復習(90分)：講義終了後、講義内で紹介した文献や配布資料をその日のうちに復習しておくこと。							
テキスト等	テーマに応じて適宜参考文献を紹介し、資料等を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	レポートや講義内で課すワーク、講義への取組姿勢、出席状況を総合評価する。なお、4回以上欠席した場合は単位を認めない。【課題に対するフィードバック】ワークの一部について、講義内で全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①イントロダクション							
	②Iとmeワタシの対話：自我論							
	③Iとmeワタシの対話：役割理論							
	④「第二の名刺」をつくってみよう！							
	⑤役割と演技：自己呈示							
	⑥役割と演技：印象操作							
	⑦好意をもつこと・もたれること：対人魅力							
	⑧印象形成とバイアス							
	⑨人づきあいとその技術							
	⑩マクドナルド化と感情							
	⑪感情の教育とコントロール							
	⑫バーンアウトと役割距離							
	⑬こころの健康とストレス対処							
	⑭人間関係の働きについて考える							
	⑮まとめと総復習							

科目名	青年心理学									
英文科目名	Adolescent Psychology									
担当者名	徳田治子									
科目ナンバリング	PCOM204									
授業の概要と到達目標	青年期は、「子どもから大人への移行期または過渡期」として位置づけられ、心身ともに発達変化の著しい時期である。本講義では、青年期を前期（思春期：小学校高学年～中学生）、中期（高校生～大学生前半）、後期（大学生後半～20歳代半ば）の3つに区分し、①各時期の特徴、②変化のメカニズムと要因、③個人差と共通性について学ぶ。講義では、アイデンティティの獲得やゆらぎといった青年期のあり方に関する基礎的理論を学ぶとともに、学生同士の意見交換や議論の場を設定し、心理学の基礎的知識の習得に留まらず、人間形成の途上にある受講生自身が自己を見つめ、自分とは異なる他者のあり方や考え方に触れる機会を積極的に設ける。受講生の問題・関心に応じて、外部講師を招聘する。人間科学部のディプロマポリシー「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」を達成するための科目である。									
授業の方法	教室内でのグループワーク、ディスカッション（アクティヴ・ラーニング）を一部の授業回で実施する。*新型コロナウイルス感染拡大の状況次第で変更する可能性あり。									
予習と復習	予習(90分)：授業時に配布する資料および課題プリントによる予習をすること。復習(90分)：毎時間の学びを問う振り返り課題に回答し、提出すること。									
テキスト等	授業時に毎回プリントを配布する。参考文献等については適宜紹介する。									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%		
	4回以上の欠席は単位を認めない			0%						0%
	平常点（70%）と期末レポート（30%）により、評価します。平常点は、Googleフォームによる振り返り課題の提出とその内容に応じて評価します。振り返り課題の全般的な評価や疑問点に関する解説を授業内で行います。									
授業計画	①オリエンテーション									
	②「青年期」とは何か？									
	③青年期前期(1)：思春期の到来と心身の変化									
	④青年期前期(2)：自立へと向かう親子関係の変化									
	⑤青年期前期(3)：環境移行と心理的危機									
	⑥ビデオ視聴&ディスカッション									
	⑦青年期中期(1)：自己意識の高まりと青年期心性									
	⑧青年期中期(2)：自己評価と心理的適応									
	⑨青年期中期(3)：友人関係の発達									
	⑩グループディスカッション：自分と友人関係の変化について									
	⑪青年期後期(1)：アイデンティティの形成									
	⑫青年期後期(2)：時間的展望と自伝的記憶									
	⑬青年期後期(3)：青年期の恋愛									
	⑭青年期後期(4)：自己実現と生きる意味の探究									
	⑮まとめと総復習									

科目名		文化交流史 文化交流史A						
英文科目名		The History of Cultural Exchange The History of Cultural Exchange A						
担当者名		岡田泰介						
科目ナンバリング		PCOM211						
授業の概要と到達目標	人間科学部のディプロマポリシーの一つ、「異文化理解の重要性を学び、家族、組織、国家の関係性を理解できる人材」のための授業である。ある世界と別の世界が接触すると、それぞれが持つ文化には何が生じるのだろうか。この授業では、具体例として古代ローマ人の文化をとりあげる。中部イタリアの都市国家として生まれたローマは、紀元前3世紀以降、周辺諸国・民族との戦争を通じて急激に版図を拡大し、紀元前1世紀末にはスペインから西アジアにいたる広大な地域を支配する大帝国に発展した。その過程でローマは東西のさまざまな文化が交錯する場となり、そこから独自の文化が育まれた。ユダヤの民族宗教から世界宗教に成長したキリスト教は、その一例である。このようなローマ人の文化を見ていくなかで、文化交流が持つ可能性と問題点について、考えを深めることがこの授業の目的である。							
授業の方法	アクティブラーニングの方法として、毎回の授業について小テストを行い、次回の授業の冒頭で解説する。また、任意のコメントペーパーを集め、それについても授業の冒頭でコメントする。							
予習と復習	〈予習（90分）〉下に挙げた文献を事前に読み、該当する時代について全体像を把握しておくことが望ましい。 〈復習（90分）〉授業ノートを読み直し、以下に挙げたテキストや他の文献を用いながら理解を深める。疑問点は自分で調べるか、担当教員に質問すること。							
テキスト等	樋脇博敏『古代ローマの生活』（角川学芸出版）、本村凌二『古代ポンペイの日常生活』（講談社、2010）、長谷川岳男・樋脇博敏『古代ローマを知る事典』（東京堂出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%
				0%				0%
	毎回の授業について小テストを課す（各10点、合計140点）。60点以上取得した者に単位を認定する。期末テストはおこなわない。出席は成績に影響しないが、出席しなければ小テストは零点となる。							
授業計画	①ガイダンス							
	②古代ローマ略史							
	③戦車競走と浴場							
	④剣闘士競技							
	⑤首都ローマの都市生活							
	⑥ポンペイ							
	⑦ライフサイクル							
	⑧愛と性							
	⑨奴隷制							
	⑩食事と料理							
	⑪医療と医師							
	⑫共和政期の軍隊							
	⑬帝政期の軍隊							
	⑭ローマ史のなかのクリスマス							
	⑮まとめと復習							

科目名		文化変容史 文化交流史B							
英文科目名		History of Acculturation The History of Cultural Exchange B							
担当者名		岡田泰介							
科目ナンバリング		PCOM212							
授業の概要と到達目標	人間科学部のディプロマポリシーの一つ、「異文化理解の重要性を学び、家族、組織、国家の関係性を理解できる人材」のための授業である。この授業では、日本と関係の深いアジアの国々の近現代史を取り上げる。具体的には韓国と中国、それに世界の注目を集めた紛争地となっているアフガニスタン、イラク、シリア、パレスティナ、ビルマの19世紀から21世紀にかけての歴史をあとづけ、今日のこれらの国々に対する理解を深める。								
授業の方法	アクティブラーニングの方法として、毎回の授業について小テストを行い、次回の授業の冒頭で解説する。また、任意のコメントペーパーを集め、それについても授業の冒頭でコメントする。								
予習と復習	〈予習（90分）〉下に挙げた文献を事前に読み、該当する時代について全体像を把握しておくことが望ましい。 〈復習（90分）〉授業ノートを読み直し、以下に挙げたテキストや他の文献を用いながら理解を深める。疑問点は自分で調べるか、担当教員に質問すること。								
テキスト等	武田幸男編（2000）『朝鮮史』山川出版社、尾形勇・岸本美緒（2004）『中国史』山川出版社、佐藤次高（2002）『新版世界各国史8 西アジアⅠ』山川出版社、永田雄三編（2002）『新版世界各国史9：西アジア史Ⅱ』山川出版社								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	100%	レポート	0%	平常点	0%	
				0%					0%
	毎回の授業について小テストを課す（各10点、合計140点）。60点以上取得した者に単位を認定する。期末テストはおこなわない。出席は成績に影響しないが、出席しなければ小テストは零点となる。								
授業計画	①ガイダンス								
	②中国（1）清朝から共和国へ								
	③中国（2）アジア・太平洋戦争								
	④中国（3）中華人民共和国の誕生								
	⑤中国（4）改革開放から経済大国へ								
	⑥朝鮮（1）開国から日韓併合へ								
	⑦朝鮮（2）植民地時代								
	⑧朝鮮（3）朝鮮戦争と南北分断								
	⑨朝鮮（4）独裁と経済成長								
	⑩朝鮮（5）軍政から民主化へ								
	⑪アフガニスタン								
	⑫イラク								
	⑬シリア								
	⑭パレスティナ問題								
	⑮まとめと復習								

科目名		認知心理学 環境心理学A							
英文科目名		Cognitive Psychology Environmental Psychology A							
担当者名		時津裕子							
科目ナンバリング		PCOM207							
授業の概要と到達目標	「〇〇心理学」と名の付く学問は数多いが、認知心理学ほど知名度が低く「中身を想像しがたい」領域はないかもしれない。一言でその研究対象を語るなら、私たち人間が何かを感じ・考えるやり方、つまり心の中で行われる「知的な営み」すべてである。見ること、記憶すること、イメージすることはもちろん、美しい風景や音楽に感動すること、難解なパズルを解いたり、技を磨いて達人になること、不注意から起きる事故、使いやすい道具のデザインに至るまで、すべてが含まれる。これほど日常生活と深く関わり、社会に開かれた学問もないだろう。領域の柱となる重要概念・理論について解説しながら、研究成果の豊富な実用・応用事例についても示していく。関連科目に「心理学A」、「心理学B」、「実験心理学」がある。「心理学A・B」を履修後に受講することが望ましい。人間科学部のディプロマポリシーのうち、主として「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」育成のための科目である。								
授業の方法	基礎的事項はスライドを用いて講義形式で解説するが、簡単な実験や心理検査など実習的課題を可能な限り採り入れる。後者については、アクティブラーニングとしてグループワークやディスカッションを行うことがある。								
予習と復習	授業内で都度、課題内容と提出方法を指示する。予習課題（90分：資料確認・アンケートへの回答など）を完了させた上で授業に出席すること。それらの一部は提出を求める。復習課題（90分：学習内容のまとめ・実験データ整理など）は、期日までに提出すること。								
テキスト等	教科書は指定しない。授業内で資料を配布する。＜参考書籍＞兵藤宗吉・野内類 2013、『認知心理学の冒険：認知心理学の視点から日常生活を捉える』（ナカニシヤ出版）ほか								
評価方法	定期試験	70%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%	
	課題提出（コメント、小レポート、実験データほか）			30%					0%
	定期試験は、感染状況等を考慮してオンラインで実施する可能性がある。提出された課題へのフィードバックは、授業時間内またはT-Navi等で全体に対して講評を行う形で実施する。一部のレポートについては返却し、個別フィードバックを行う予定である。								
授業計画	①イントロダクション：認知心理学とはどのような心理学か								
	②パターン認知								
	③基本機能と時空間特性								
	④視覚的注意と運転行動								
	⑤記憶：メカニズム								
	⑥記憶：加齢，障害の影響								
	⑦カテゴリー化：基礎理論								
	⑧カテゴリー化：文化・社会、障害								
	⑨イメージ：身体イメージと障害								
	⑩情動								
	⑪認知技能（熟達者の認知）								
	⑫感性認知：美しさと気持ち悪さ，違和感								
	⑬ヒューマンエラーとユーザビリティ								
	⑭文化と認知								
	⑮まとめと総復習								

科目名		実験心理学 環境心理学B						
英文科目名		Experimental Psychology Environmental Psychology B						
担当者名		時津裕子						
科目ナンバリング		PCOM208						
授業の概要と到達目標	実験は、調査や検査と並んで心理学を代表する研究手法の1つである。心理学の知見として紹介される知識の多くは、実験によってもたらされてきた。この授業では、まず実験の基本的な構成と考え方について解説する。また代表的な実験を取り上げ、実験の計画から遂行、データ解析と結果の解釈を経てレポート作成に至るまでを実習形式で体験してもらう。受講生は個々の実験手法について知識を得るだけでなく、疑問点に対して「実験」という問題解決方法を選択しうる知性とセンスを養うこと、それらの計画を滞りなく遂行する技術を磨くことを目標としてほしい。関連科目に「心理学A」、「心理学B」、「認知心理学」がある。これらから2科目以上を履修した後に受講してほしい。人間科学部のディプロマポリシーのうち、主として「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」育成のための科目である。							
授業の方法	解説はスライドを用いて行う。実験の計画・実施・データ解析を体験する実習を含むため、アクティブラーニングとしてグループワークやディスカッションを行う機会が多くなる。これらの実習を原則として欠席せず、主体的に取り組める学生に受講してほしい。							
予習と復習	授業内で都度、課題内容と提出方法を指示する。予習課題（90分：資料確認、実験準備など）を完了させた上で授業に出席すること。それらの一部は提出を求める。復習課題（90分：実験データの解析作業・レポート作成など）は、期日までに提出すること。							
テキスト等	教科書は指定しない。授業内で資料を配布する。＜参考書籍＞Robert L. Solso Homer H. Johnson 2002、『心理学実験計画入門』（学芸社）三浦麻子 監修 佐藤暢哉・小川洋和 2017、『なるほど！心理学実験法』（北大路書房）ほか							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	20%
	課題提出（小レポート、実験データほか）			50%				0%
	平常点はグループワークやディスカッションへの取り組み・貢献に応じて付与する。提出された課題へのフィードバックは、全体に対して講評を行う形で実施する。一部レポートについては返却し、個別フィードバックを行う予定である。							
授業計画	①イントロダクション：実験とは何か、授業の進め方							
	②実験を構成する基本要素：独立変数、従属変数、剰余変数と統制							
	③実験結果の整理と分析							
	④感覚・知覚の大きさを測る							
	⑤パフォーマンスを測る：正答率と誤反応から（記憶）							
	⑥パフォーマンスを測る：反応時間から（イメージ）							
	⑦パフォーマンスを測る：反応時間から（注意）							
	⑧好み・印象を測る：一対比較法							
	⑨好み・印象を測る：SD法（測定）							
	⑩好み・印象を測る：SD法（データ解析）							
	⑪生理指標の測定：様々な生理指標							
	⑫生理指標の測定：視線の測定							
	⑬生理指標の測定：視線の解析							
	⑭心理学と実験倫理							
	⑮まとめと総復習							

科目名		現代哲学							
英文科目名		Modern Philosophy							
担当者名		齋藤元紀							
科目ナンバリング		PCOM203							
授業の概要と到達目標	この授業のねらいは、（１）主として20世紀以降の最先端の現代思想の主要なトピックとそれをめぐる諸問題を学び、（２）みずから哲学的に思考する力を身につけることにあります。授業では、現代思想において主要とされているトピックを毎回一つずつ取り上げ、それをめぐる考え方をさまざまな哲学者・思想家の著作から学ぶとともに、みずから問題点を批判的に見出し、哲学的思考を展開しうる力を養います。なお、テーマに応じて外部講師を招き、思考力を深める講義も予定しています。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につける」ための科目です。								
授業の方法	授業は講義形式で行う。教員と学生との対話・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）をすべての授業回で実施する。また、スマートフォンを用いたクリッカー(Google フォーム)による双方向授業を実施する。								
予習と復習	授業のプリントを授業時に配布します。プリントを読んで予習・復習を行ってください。予習(90分)プリントを事前に読んで、テーマにかんする自分の考えの要点をまとめておくこと。復習(90分)講義後、その日のうちに講義内容の復習をすること。								
テキスト等	オンライン等の配信手段でプリントを配布する。参考文献：齋藤元紀編『連続講義 現代日本の四つの危機 哲学からの挑戦』（講談社メチエ、2015年）、齋藤元紀・増田靖彦編『21世紀の哲学をひらく——現代思想の最前線への招待』（ミネルヴァ書房、2016年）。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%	
	毎回のコメントペーパーへの回答			30%					0%
	(1) 毎回の課題の提出を出欠（平常点）の代替とします。(2) 締切以後の課題提出は遅刻、課題未提出は欠席とします。(3) 2/3以上の出席回数に満たない場合、不可となります。								
授業計画	①イントロダクション①授業の狙いと進め方・現代思想の諸潮流								
	②イントロダクション②現代思想の見取り図								
	③主体の問題とそれをめぐる思想								
	④他者の問題とそれをめぐる思想								
	⑤対話の問題とそれをめぐる思想								
	⑥認識の問題とそれをめぐる思想								
	⑦存在の問題とそれをめぐる思想								
	⑧言語の問題とそれをめぐる思想								
	⑨時間の問題とそれをめぐる思想								
	⑩歴史の問題とそれをめぐる思想								
	⑪空間の問題とそれをめぐる思想								
	⑫政治の問題とそれをめぐる思想								
	⑬芸術の問題とそれをめぐる思想								
	⑭実在の問題とそれをめぐる思想								
	⑮まとめと総復習								

科目名	グローバル・コミュニケーション							
英文科目名	Global Communication							
担当者名	小向敦子							
科目ナンバリング	PCOM202							
授業の概要と到達目標	グローバル・コミュニケーションは、外国語を通じたコミュニケーション能力の基礎を習得する科目です。英語圏にある大学の「人間科学部（undergraduate）」で、開講されているであろう科目を、前期の「外書購読」と同じ曜日・同じ時限に開講されている科目であることを意識しつつ、1年をかけて、できるだけバランス良く学んでいくことを目指します。皆さんは「英語のクラス」と聞くと、英語が得意な人向けの科目と思うかもしれませんが。得意な人はもちろん、それほどではない人にも、できるだけ参加しやすい授業を心がけます。今学期は、文学・社会学・心理学を中心に取り組みます。また学期の中間でワークショップやアクティビティを予定しています。							
授業の方法	基本的に講義が中心ですが必要に応じて質疑応答を実施します。またグループワークを用いたアクティブ・ラーニングを一部の授業回で実施します。履修者は講義に対する質疑応答、並びにアクティブ・ラーニングを通じて積極的に授業に貢献してください。							
予習と復習	予習（90分）：配布されたプリントの、次回の講義に該当する箇所を精読し、気づいたことや疑問点をまとめておくこと。復習（90分）：当日講義の内容を再度、プリントを用いて復習し、重要と思う点などを追記し、まとめておくこと。							
テキスト等	授業ごとに、教員が準備したプリントを配布します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	皆さんの、授業への積極的な貢献に期待します。また授業の課題については、返却して全般的な評価と所見を提示します。							
授業計画	① Guidance to Humanities							
	②Anthropology(1):Exploration into Human							
	③Anthropology(2):Aging							
	④Anthropology(3):Death							
	⑤Dialogic Workshop(1):Spot the Changes							
	⑥Communication(1): Meaning of Life							
	⑦Communication(2): Purpose in Life							
	⑧Communication(3): Quality of Laugh							
	⑨Dialogic Workshop(2):Picture and Gesture							
	⑩Study of Humor(1):Concentrating on Rakugo							
	⑪Study of Humor(2):Medical &Gallows Humor							
	⑫Study of Humor(3):Therapeutic Humor							
	⑬Plans for the Workshop							
	⑭Dialogic Workshop(3): Problem Solving							
	⑮まとめと総復習							

科目名	文化人類学 文化人類学A							
英文科目名	Cultural Anthropology Cultural Anthropology A							
担当者名	竹村和朗							
科目ナンバリング	PCOM301							
授業の概要と到達目標	<概要>本講義では、文化人類学の基礎を学ぶ。文化人類学は、人間がつくりあげてきた文化の多様性と共通性を学ぶ学問である。文化ごとに異なる価値観、家族や宗教、芸術に触れながら、これらを「一歩引いた視点」から見る思考法を身につけることを目指す。人間科学部のディプロマ・ポリシー「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」を達成するための科目である。<到達目標>①文化人類学の基本的な概念や専門用語を理解する。②人類学的思考にもとづき、自分の経験や意見を見直すことができる。							
授業の方法	講義と課題の提出を中心に行う。授業時に穴埋め問題と筆記問題を出すので、受講生は答えをペーパーに書き、ディスカッションし、授業終了時にペーパーを提出する（アクティブ・ラーニング）。オンライン対応時には、授業の同時配信とフォームの提出に代える。							
予習と復習	予習（90分） 事前に指定された課題について自ら調べ、要点をまとめておくこと。復習（90分） レジュメの空欄がすべて埋まっていることを確認し、不明な部分は参考文献等から調べる。							
テキスト等	授業時にレジュメを配布する。参考文献は、ジョイ・ヘンドリー著、桑山敬己・堀口佐知子訳『社会人類学入門：多文化共生のために（増補新版）』（法政大学出版局、2017年）。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	「平常点」は各回の穴埋め問題の点数を、「レポート」は各回の筆記問題の点数の合計を意味する。これらと授業内試験を合わせて評価対象とする。提出された課題は返却しないが、優れた内容を授業内で開示する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②分類							
	③タブー							
	④贈答							
	⑤儀礼							
	⑥芸術							
	⑦呪術							
	⑧妖術							
	⑨秩序							
	⑩政治							
	⑪家族							
	⑫経済							
	⑬観光							
	⑭授業内試験							
	⑮まとめと総復習							

科目名	比較文化論 文化人類学B							
英文科目名	Comparative Study of Cultures Cultural Anthropology B							
担当者名	竹村和朗							
科目ナンバリング	PCOM302							
授業の概要と到達目標	<概要>本講義では、文化の比較考察法を学ぶ。文化とは人間がつくり出した「取り決め」のことで、社会はこうした取り決めであふれている。本講義では、そうした文化のさまざまなかたちを、自分自身の経験にもとづきながら言語化する方法を学ぶ。人間科学部のディプロマ・ポリシー「異文化理解の重要性を学び、家族・組織・国家の関係性を理解できる人材」を達成するための科目である。<到達目標>①文化人類学の文化の考え方を理解する。②自身の経験にもとづいて文化を考察することができる。							
授業の方法	講義と課題の提出を中心に行う。授業時に穴埋め問題と筆記問題を出すので、受講生は答えをペーパーに書き、ディスカッションし、授業終了時にペーパーを提出する（アクティブ・ラーニング）。オンライン対応時には、授業の同時配信とフォームの提出に代える。							
予習と復習	予習（90分） 事前に指定された課題について自ら調べ、要点をまとめておくこと。復習（90分） レジュメの空欄がすべて埋まっていることを確認し、不明な部分は参考文献等から調べる。							
テキスト等	授業時にレジュメを配布する。参考文献は、川口幸大『ようこそ文化人類学へ：異文化をフィールドワークする君たちに』（昭和堂、2017年）。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	「平常点」は各回の穴埋め問題の点数を、「レポート」は各回の筆記問題の点数の合計を意味する。これらと授業内試験を合わせて評価対象とする。提出された課題は返却しないが、優れた内容を授業内で開示する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②文化とは							
	③家族は誰か							
	④結婚する・しない							
	⑤性とジェンダー							
	⑥小まとめ							
	⑦宗教・スピリチュアル・科学							
	⑧神社を調べる							
	⑨境界線を引く							
	⑩手作り・中古・シェア							
	⑪演じられる文化							
	⑫博物館の展示物							
	⑬フィールドワークとは							
	⑭授業内試験							
	⑮まとめと総復習							

科目名		児童学概論A							
英文科目名		Introduction to Child Studies A							
担当者名		徳田治子							
科目ナンバリング		CED101							
授業の概要と到達目標	社会や家族のあり方が大きく変化する現代社会において、子どもの教育に関わる一人ひとりが複雑化する社会との関連で多様な子どものあり方やその問題性について理解を深め、自分なりの児童観や人間観を養っていくことが重要となる。講義では、まず、「子ども」や「児童」という用語の定義や子どもの社会全体での位置づけ等、“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」について学ぶ。続いて、人間発達のメカニズムに関する基本的知見について学び、“育ちゆく存在”としての子どもへの理解を深める。最後に、子どもを養育する親の問題に焦点をあて、“育てられる子ども”と“親の成長”について学ぶ。講義においては、ディスカッションや協同学習の形式を積極的に取り入れ、様々な事例を通して学生自身が自分なりの子ども観や人間観を形成していくことをめざす。授業に関連し、課題を多く出すので、その点を十分理解して受講すること。受講生の問題関心に応じて外部講師を招聘する。人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を達成するための科目である。								
授業の方法	教室内でのグループ・ディスカッションおよびグループワーク（アクティヴ・ラーニング）を一部の授業回で実施する。＊新型コロナウイルス感染拡大の状況次第で変更する可能性あり。								
予習と復習	予習(90分)：事前に配布される資料および課題による予習を行うこと。復習(90分)：毎回の授業の学びを問う課題に回答し、期日までに提出すること。								
テキスト等	毎回、授業時にプリントを配布する。参考文献：堀尾 輝久(2007)『子育て・教育の基本を考える―子どもの最善の利益を軸に』（童心社）その他の参考文献については授業時に適宜紹介する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	80%	
				0%				0%	
	平常点には、受講態度のほか、毎回出題する振り返り課題や授業時に指示した課題等から評価する。尚、全体の3分の1以上の回数を欠席した者については単位を認めない。提出された振り返り課題については、全般的な評価ならびに疑問点に対する解説を授業内に行う。								
授業計画	①オリエンテーション								
	②“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」(1)：「子ども」とは？								
	③“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」(2)：「子ども」観の歴史の変遷								
	④“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」(3)：子どもの権利条約と日本の子ども								
	⑤“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」(4)：日本の子どもは幸せか？								
	⑥“社会・文化・歴史的存在”としての「子ども」(5)：子どもが幸福な国からの示唆								
	⑦小まとめ：子どもの権利と「最善の利益（幸福）」について								
	⑧“育ちゆく存在”としての子ども(1)：人間発達のメカニズムをめぐる論争の歴史								
	⑨“育ちゆく存在”としての子ども(2)：レディネスと相互作用説								
	⑩“育ちゆく存在”としての子ども(3)：行動遺伝学からのアプローチ								
	⑪小まとめ：子どもの「育ち」における「最善の利益（幸福）」と大人の役割								
	⑫“育てられる子ども”と“親の成長”(1)：現代社会における子育ての難しさ								
	⑬“育てられる子ども”と“親の成長”(2)：養育者の傷つきやすさと成長								
	⑭“育てられる子ども”と“親の成長”(3)：子どもへの虐待と親支援								
	⑮まとめと総復習								

科目名	児童学概論B							
英文科目名	Introduction to Child Studies B							
担当者名	徳田治子							
科目ナンバリング	CED102							
授業の概要と到達目標	現代の子どもを取り巻く問題状況と解決に向けた取り組みについて学ぶ。「いじめ」「学級崩壊と教師の役割」「しつけと体罰」を主たるテーマとし、現代社会における教育の問題とそれに対する国内外の取り組みについて学ぶ。受講生が、自らが主体的な学習者として各テーマについて幅広い知識と深い洞察力を身につけることを目標に、各テーマについて互いに意見を交換する場を積極的に設ける。グループでの話し合いや発表、授業に関連し、課題を多く出すので、その点を十分理解して受講すること。受講生の問題関心に応じて外部講師を招聘する。人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を達成するための科目である。							
授業の方法	教室内でのグループ・ディスカッションならびにグループ・ワーク（アクティヴ・ラーニング）を一部の授業回で実施する。							
予習と復習	予習(90分)：授業時に配布する資料と予習課題による予習を行うこと。復習(90分)：毎回の授業の学びを問う課題に回答し、期日までに提出すること。							
テキスト等	授業時にプリントを配布する。参考文献：森田洋司（2010）『いじめとは何か―教室の問題、社会の問題（中公新書）』、森田ゆり（2013）『しつけと体罰―子どもの内なる力を育てる道すじ』（童話館出版）。その他の参考文献等については授業内で適宜紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	特別な理由を除いて欠席は認めない。4回以上の欠席者は単位を認めない。平常点（70%）は、受講態度ならびに毎回出題する振り返り課題の提出と記述内容によって評価する。提出された課題や毎回の振り返り課題に関する全般的な所見と評価について、授業内で解説する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②いじめ（１）：「いじめ」について考える							
	③いじめ（２）：ビデオ「海外での取り組み」							
	④いじめ（３）：いじめの定義と日本の取り組み							
	⑤いじめ（４）：早期発見と予防教育/加害者と被害者の心理							
	⑥いじめ（５）：「いじめ」メッセージを考えてみよう（作成）							
	⑦いじめ（６）：「いじめ」メッセージを考えてみよう（発表）							
	⑧学級経営と教師の役割（１）：学級崩壊の背景							
	⑨学級経営と教師の役割（２）：優れた教師の実践の秘密を探る(1)							
	⑩学級経営と教師の役割（３）：優れた教師の実践の秘密を探る(2)							
	⑪学級経営と教師の役割（４）：学びのコミュニティに貢献する教師の特徴							
	⑫しつけと体罰（１）：「体罰」と「しつけ」をめぐる日本の現状							
	⑬しつけと体罰（２）：「体罰」の６つの問題性と世界での取り組み							
	⑭しつけと体罰（３）：「体罰」にかわる対応方法の学習							
	⑮まとめと総復習							

科目名	児童心理学							
英文科目名	Child Psychology							
担当者名	徳田治子							
科目ナンバリング	CED103							
授業の概要と到達目標	乳児期、幼児期、児童期の心身の発達ならびに各発達段階において必要とされる関わりについて学ぶ。講義においては、児童期の子どもを理解するためには、それに先立つ乳幼児期とその後続く思春期、青年期の発達の見取り図をもっておくことが有益であるとの考えから、生涯発達の観点を組み込んだ授業内容とする。具体的には、乳幼児期から児童期を中心とした基礎的な発達のメカニズムについて学ぶとともに、認知や言語の発達、親子の関係性や仲間関係等といった対人関係を通して形成される社会情緒的な発達、学習に対する動機づけなどについてとりあげる。受講生の問題関心に応じて外部講師を招聘する。人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を達成するための科目である。							
授業の方法	教室内でのグループ・ディスカッション、グループ・ワーク（アクティヴ・ラーニング）を一部の授業回で実施する。＊新型コロナウイルス感染拡大の状況次第で変更する可能性あり。							
予習と復習	予習(90分)：授業時に配布する資料と予習課題による予習をすること。復習(90分)：毎回の授業の学びを問う課題に回答し、期日までに提出すること。							
テキスト等	授業時に資料を配布する。参考文献等については授業時に適宜紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	80%
				0%				0%
	平常点には、受講態度、Googleフォームによる毎回の振り返り課題の提出状況、内容によって評価する。4回以上の欠席者は単位を認めない。提出された課題については、授業内において全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①オリエンテーション：授業の概要と目標							
	②発達とは何か（１）発達の定義と５つの原理							
	③発達とは何か（２）発達と個人差							
	④発達とは何か（３）発達団体と発達課題							
	⑤乳児期の発達：赤ちゃんは未熟か有能か？							
	⑥世界への信頼はどのように獲得されるか							
	⑦親子の情緒的絆（１）：アタッチメント理論と展開							
	⑧親子の情緒的絆（２）：アタッチメントの発達と個人差							
	⑨幼児期の人間関係：仲間関係の重要性							
	⑩世界の認識の獲得：ピアジェの認知発達理論							
	⑪知能とは何か：知能の多様性と個性							
	⑫IQ神話と多様な知のあり方：EQと非認知的能力							
	⑬学ぶ意欲と成長する力：動機づけの心理学							
	⑭学ぶ意欲と大人の関わり：帰属理論とマインドセット							
	⑮まとめと総復習							

科目名	ボランティア論A							
英文科目名	The Volunteer Activity A							
担当者名	長谷川万希子							
科目ナンバリング	CED104							
授業の概要と到達目標	<授業の目標>子どもに関するボランティア活動の意義を学び、活動の範囲・形態を把握し、ボランティア活動の課題を理解することが目標である。現在展開されている各種ボランティア活動に触れながら、その問題点と今後の動向を探るための視座を培うことを目指す。<授業の概要>授業時に、実際のボランティア体験をし、その体験を振り返る作業を繰り返していく。学生が相互に議論したり、ボランティア活動の準備を協力して行なったりすることが求められている。複数回にわたり、幼稚園等におけるボランティア実習を予定している。公的支援サービスやボランティア団体関係者等の外部講師を招く予定がある。時事、外部講師の状況により、講義内容が前後する場合がある。人間科学部のディプロマポリシー「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」を目指す科目である。感染症流行状況により、可能な場合に幼稚園ボランティア実習を実施予定。※外部講師を招いた授業を、1コマ実施予定。※遠隔・対面授業の実施状況により、一部の内容が変更になる可能性がある。							
授業の方法	全授業回数の3分の2以上の出席を求める。アクティブ・ラーニングを、毎回実施する。①実習・演習による体験学習、②学生同士のグループワークとディスカッション、③グループでの学習内容のプレゼンテーション、④学内外での実習、フィールドワーク							
予習と復習	予習（90分）授業テーマに関する調べ学習、グループごとの事前準備。復習（90分）各授業回の課題に取り組む。							
テキスト等	教科書：『学生のためのボランティア論』岡本 栄一(大阪ボランティア協会出版部)参考書：『学生のためのボランティアガイド』田中ひろし監修(同友館)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	75%	平常点	25%
				0%				0%
	①全授業回の3分の2以上の出席を求める。②遅刻・早退、欠席は、平常点から減点する。③居眠り、授業以外の活動は、平常点から減点する。④毎回、授業の理解確認・振り返りのレポートを提出する。							
授業計画	①ボランティアとは何か							
	②ボランティア活動の種類							
	③ボランティア活動の分類							
	④ボランティア＝自ら選択するもう一つの生き方							
	⑤その時そこにボランティアがいた							
	⑥ヒトはなぜボランティアをするのか							
	⑦「共生」は誰が担うのか							
	⑧ボランティア活動が生み出す新しい価値—情報ネットワーク社会のボランタリーな行為—							
	⑨地域の課題を発見してみる							
	⑩市民の視点から解決を探る							
	⑪ボランティアは「教育」にどうかかわるか							
	⑫新たな自治の創造							
	⑬足元から地球へ—地球のためにできること							
	⑭ボランティアマネジメント							
	⑮まとめと総復習(インタメディアリとしてのボランティアセンター)							

科目名	ボランティア論B							
英文科目名	The Volunteer Activity B							
担当者名	長谷川万希子							
科目ナンバリング	CED105							
授業の概要と到達目標	<授業の目標>パラスポーツに関するボランティア活動の意義を学び、活動の範囲・形態を把握し、ボランティア活動の課題を理解することが目標である。現在展開されている各種ボランティア活動に触れながら、その問題点と今後の動向を探るための視座を培うことを目指す。<授業の概要>テキストに沿って、学習を進める。公的支援サービスやボランティア団体関係者等の外部講師を招く予定がある。時事、外部講師の状況により、講義内容が前後する場合がある。人間科学部のディプロマポリシー「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」を目指す科目である。感染症流行状況により、可能な場合に幼稚園ボランティア実習を実施予定。※外部講師を招いた授業を、1コマ実施予定。※遠隔・対面授業の実施状況により、一部の内容が変更になる可能性がある。							
授業の方法	全授業回数の3分の2以上の出席を求める。アクティブ・ラーニングを、毎回実施する。①実習・演習による体験学習、②学生同士のグループワークとディスカッション、③グループでの学習内容のプレゼンテーション、④学内外での実習、フィールドワーク							
予習と復習	予習（90分）授業テーマに関する調べ学習。復習（90分）各授業回の課題に取り組む。							
テキスト等	教科書：『パラスポーツ・ボランティア入門 共生社会を実現するために』松尾哲也、他編(旬報社)参考書：『学生のためのボランティアガイド』田中ひろし監修(同友館)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	75%	平常点	25%
				0%				0%
	①全授業回の3分の2以上の出席を求める。②遅刻・早退、欠席は、平常点から減点する。③居眠り、授業以外の活動は、平常点から減点する。④毎回、授業の理解確認・振り返りのレポートを提出する。							
授業計画	①はじめに：「心のバリアフリー」をめざして／パラスポーツ・ボランティアのすすめ／他							
	②ボランティア体験を語る①：大会ボランティアの魅力／都市ボランティアの魅力							
	③ボランティア体験を語る②：スポーツボランティアの魅力)／パラリンピックを知る①							
	④パラリンピックを知る②：「可能性の祭典」としてのパラリンピック							
	⑤パラリンピックを知る③：障がい者からパラリンピアンへ							
	⑥パラリンピックをつくる①：社会の中のパラリンピック							
	⑦パラリンピックをつくる②：パラリンピック選手強化の困難に向き合う							
	⑧パラリンピックをつくる③：ボランティアとして関わったパラリンピックの魅力							
	⑨パラリンピックをつくる④：パラリンピアンを科学する							
	⑩支援を通して見方が変わる①：障がい者スポーツの見方を変える							
	⑪支援を通して見方が変わる②：パラリンピックのレガシー							
	⑫パラスポーツ・ボランティアを実践する①：パラスポーツ・ボランティアとして関わる							
	⑬パラスポーツ・ボランティアを実践する②：パラスポーツ・ボランティアとして関わる							
	⑭イラストでわかるボランティア実践							
	⑮まとめと総復習：共生社会の扉を開く							

科目名		臨床心理学 カウンセリング論A カウンセリング論A						
英文科目名		Clinical Psychology Theory of Counseling A						
担当者名		堀内多恵						
科目ナンバリング		CED201						
授業の概要と到達目標	<授業の概要>臨床心理学は人々の心の健康や心理的な苦悩・困難のなりたちを研究し、その知見をもとに人々を支援する学問である。本講義の前半では、ライフサイクルの各段階において生じやすい心理的な問題や症状、支援について学ぶ。後半では、心理的な苦悩や困難にアプローチする方法として、主要な心理アセスメント、心理支援について紹介する。講師の心理専門職としての臨床経験を踏まえて講義を行う。<到達目標>ライフサイクル上で生じる様々な心理的な問題について説明できること、代表的な心理アセスメント・心理支援の方法について説明できることを目標とする。さらに、日常においても自分自身や身近な人々の心の健康に関心を寄せて生活できるようになることもねらいとする。本講義は人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を達成するための科目である。<関連科目>カウンセリング論（より実践的なカウンセリング技法について扱う）							
授業の方法	講義形式を中心とするが、多くの回でグループワーク、ディスカッション（アクティブ・ラーニング）を実施する。また、スマートフォンやタブレットを使用する課題を課すことがある。授業の実施環境において可能な形式で質疑応答を行う。							
予習と復習	予習(90分)：授業時に配布する資料および参考書の該当箇所に目を通し、疑問や考えを整理しておくこと。事前課題が指示された場合はそれに取り組むこと。復習(90分)：授業時に配布された資料や参考書を読み返しながら、自分自身の考えや経験を振り返ること。							
テキスト等	【教科書】講義時に資料を配布する【参考図書】下山晴彦 編『よくわかる臨床心理学』（ミネルヴァ書房），岩壁茂 監修『完全カラー図解 よくわかる臨床心理学』（ナツメ社）							
評価方法	定期試験	30%	授業内試験	30%	レポート	0%	平常点	40%
				0%				0%
	平常点（出席状況、受講態度、授業内課題やワークへの取り組み）40%、授業内試験30%、定期試験30%から成績を評価する。なお、遅刻2回で欠席1回とみなし、4回以上欠席した場合は単位を認めない。課題へのフィードバックとして、授業内で全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①オリエンテーション：臨床心理学とは							
	②臨床心理学の考え方							
	③ライフサイクルと心理的問題：乳幼児期							
	④ライフサイクルと心理的問題：児童期							
	⑤ライフサイクルと心理的問題：青年期							
	⑥ライフサイクルと心理的問題：成人期・老年期							
	⑦授業内テスト							
	⑧心理アセスメント：心理検査							
	⑨心理アセスメント：面接・観察							
	⑩心理支援：心理療法（様々な理論の紹介）							
	⑪心理支援：心理療法（理論の比較・事例検討）							
	⑫心理支援：社会の中での心理支援							
	⑬心理支援：近年の動向と新しい支援のかたち（概論）							
	⑭心理支援：近年の動向と新しい支援のかたち（実践）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	カウンセリング論							
	カウンセリング論B							
英文科目名	Theory of Counseling							
	Theory of Counseling B							
担当者名	堀内多恵							
科目ナンバリング	CED202							
授業の概要と到達目標	<授業の概要>カウンセリングは対話を通して、心理的な問題の解決、予防、人間的な成長をはかり、人々がより良く生きることを支援する手法である。本講義ではカウンセリングの基礎となる姿勢や技法を学ぶ。講義前半はカウンセリングを行ううえでの基本的な姿勢や、傾聴技法、質問技法について扱う。後半は複数の理論に基づいて具体的な問題にアプローチしていく手法を紹介する。講師の心理専門職としての経験を踏まえた内容を取り入れる。 <到達目標>カウンセリングを行ううえで必要な姿勢、技法について説明できること、また、学んだ姿勢や技法を実際に日常でのセルフケアやコミュニケーションにおいて活用することができることを目標とする。本講義は人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を達成するための科目である。<関連科目>臨床心理学（心の健康に関する基礎的な知識を学ぶ）							
授業の方法	講義形式を中心とするが、ほとんどの回でロールプレイやワークなどを通じた実践・体験を取り入れる（アクティブラーニング）。質疑応答は授業の実施環境に応じて適宜行う。							
予習と復習	予習(90分)：配布資料および参考書の該当箇所に目を通し、疑問や考えを整理すること。指示された事前課題に取り組むこと。復習(90分)：配布資料や参考書を読み返ししながら、自分自身の考えや経験を振り返ること。授業で学んだ技法を日常生活で取り入れてみる。							
テキスト等	【教科書】講義時に資料を配布する【参考図書】岩壁茂 編著『カウンセリングテクニック入門』（金剛出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	30%	平常点	40%
				0%				0%
	平常点（出席状況、受講態度、授業内課題やワークへの取り組み）40%、授業内試験30%、レポート30%から成績を評価する。なお、遅刻2回で欠席1回とみなし、4回以上欠席した場合は単位を認めない。課題へのフィードバックとして、授業内で全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①オリエンテーション							
	②カウンセリングの実際（動画視聴を予定）							
	③カウンセリングの基本：カウンセラーに求められる姿勢							
	④カウンセリングの基本：カウンセリングにおける「傾聴」							
	⑤カウンセリングの基本：カウンセリングにおける「質問」							
	⑥カウンセリングの基本：モチベーションとゴールの設定							
	⑦授業内試験							
	⑧カウンセリングの展開：「感情」に焦点を当てたアプローチ							
	⑨カウンセリングの展開：「思考」に焦点を当てたアプローチ							
	⑩カウンセリングの展開：「行動」に焦点を当てたアプローチ							
	⑪カウンセリングの展開：「からだ」に焦点を当てたアプローチ							
	⑫カウンセリングの展開：「スキル」を育むアプローチ							
	⑬カウンセリングの展開：「芸術」を取り入れたアプローチ							
	⑭非対面型のカウンセリング：電話，メール，SNSの活用							
	⑮まとめと振り返り							

科目名		児童教育論A							
英文科目名		Childhood Education A							
担当者名		高橋丈夫							
科目ナンバリング		CED203							
授業の概要と到達目標		教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を实践できる力を身につける科目である。児童の権利や学習指導要領への理解を深め、児童期における教育の重要性を学び、教職をはじめ児童等の対人援助職に携わる者としての基礎を培うことを目標とする。小学校教育を中心に、現行学習指導要領の概要や児童に対して育むべき内容、今求められている学校教育のあり方、望ましい教師のあり方など学校現場における実践的内容を通して、望ましい児童期の教育のあり方を体験的に考察し深める。本授業を踏まえた各論的な内容として児童教育論Bが設けられているので、児童教育論A・Bを通して受講することが望ましい。							
授業の方法		・Zoomか対面で授業を行い、受講生相互のコミュニケーションを図る。 ・毎回の授業で、グループワークとディスカッション（アクティブラーニング）を実施する。毎授業終了時にプレゼンテーション（アクティブラーニング）の時間を設け、学びの共有をする。							
予習と復習		予習範囲を指定するので、事前に資料やテキスト等で予習をしておくこと。授業終了後、その日のうちに課題に取り組み、講義内容を再確認すること。							
テキスト等		・子どもの権利条約カードブック（ユニセフ）教科書。ユニセフに申し込むか、HPからダウンロードしておく。 ・小学校学習指導要領（H29年3月告示） ・小学校学習指導要領解説（総則編） ・算数×学級経営 魔法の言葉でもう一歩先の授業・クラスを！（光文書院）							
評価方法		定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
					0%				0%
		・平常点は、毎回の参加態度の他、授業終了時に記入する振り返りシートで学んだことを理解できているかを評価する。 ・レポートは出題課題に正対しているか、レポートの内容の構成が適切か等も含めて総合的に判断する。 ・提出物はコメントつけて返却する。							
授業計画		①ガイダンス 受講生相互のコミュニケーションづくり、本授業のねらいなど							
		②子どもの権利① 子どもの権利に関する条約とは							
		③子どもの権利② 子どもの権利を守るとは							
		④子どもの権利③ 子どもの権利意識を育てるとは							
		⑤学習指導要領の枠割と変遷①							
		⑥学習指導要領の役割と変遷・教育の成立と公教育							
		⑦現行学習指導要領の特色							
		⑧これからの教育とICTの活用							
		⑨主体的・対話的で深い学びとは①							
		⑩主体的・対話的で深い学びとは②							
		⑪主体的・対話的で深い学びとは③							
		⑫主体的・対話的で深い学びとは④							
		⑬学校教育の新たな視点（マルトリートメント）							
		⑭これからの学校教育の方向性を考える （7つの習慣 から）							
		⑮まとめと総復習 ファシリテーション演習							

科目名	児童教育論B							
英文科目名	Childhood Education B							
担当者名	高橋丈夫							
科目ナンバリング	CED204							
授業の概要と到達目標	個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身に付けるための科目である。学校現場で生じている今日的課題について知り、その解決にアプローチしていくことを通して、児童期の教育現場についての理解を深め、教職はじめ児童等の対人援助職に携わる者としての基礎を培うことを目標とする。学校教育現場の多岐にわたる教育課題を取り上げたり、子どもの気持ちになって授業をつくったりすることを通して、多岐にわたる教育課題へのアプローチについて、ファシリテーション技法などを通して体験的に考察する。本授業の総論的な内容として児童教育論Aが設けられているので、児童教育論A・Bを通して受講することが望ましい。							
授業の方法	・Zoomか対面で授業を行い、受講生相互のコミュニケーションを図る。・毎回の授業で、グループワークとディスカッション（アクティブラーニング）を実施する。毎授業終了時にプレゼンテーション（アクティブラーニング）の時間を設け、学びの共有をする。							
予習と復習	予習範囲を指定するので、事前に資料やテキスト等で予習をしておくこと。授業終了後、その日のうちに課題に取り組み、講義内容を再確認すること。							
テキスト等	〔前期と同じ教科書です〕・小学校学習指導要領（H29年3月告示）・小学校学習指導要領解説（総則編）・算数×学級経営 魔法の言葉でもう一歩先の授業・クラスを！（光文書院）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	70%
				0%				0%
	・平常点は、毎回の参加態度の他、授業終了時に記入する振り返りシートで学んだことを理解できているかを評価する。・レポートは、出題課題に正対しているか、レポート内容の構成が適切か等も含めて総合的に判断する。・提出物はコメントをつけて返却する。							
授業計画	①ガイダンス 受講生相互のコミュニケーションづくり、本授業のねらいなど							
	②現代教育課題① 回復共同体・修復的対話							
	③現代教育課題② 学校における教育の実際～台形の面積を中心に							
	④現代教育課題③ 修復的対話・修復的司法							
	⑤現代教育課題④ 哲学対話と修復的対話 座右の銘							
	⑥現代教育課題⑤ いじめと、その対応							
	⑦現代教育課題⑥ 学級経営の実際 学級経営で大切なことは何だろう？ ⇔ 学級崩壊							
	⑧現代教育課題⑦ 学級崩壊のイメージ・理由から考える対策①							
	⑨現代教育課題⑧ 学級崩壊のイメージ・理由から考える対策②							
	⑩現代教育課題⑨ 学級経営＜学級崩壊への備えと対処①							
	⑪現代教育課題⑩ 学級経営＜学級崩壊への備えと対処②							
	⑫現代教育課題⑪ 学級経営と授業① NGワードとレジリエンス①							
	⑬現代教育課題⑫ 学級経営と授業② NGワードとレジリエンス②							
	⑭現代教育課題⑬ 個別最適な学びと協働的な学び							
	⑮まとめと総復習・ファシリテーション演習							

科目名	社会福祉論A							
英文科目名	Social Welfare A							
担当者名	長谷川万希子							
科目ナンバリング	CED205							
授業の概要と到達目標	<授業の目標>社会福祉全般にわたり、関連する制度・法・組織・専門職・キーワードについて学ぶ。日々のニュースから、講義で取り上げた話題や関連性がある問題に目を向け、社会福祉の視点から物事を考える習慣を身につけることが目標である。<授業の概要>現在展開されている各種社会福祉サービスについて具体例に触れながら、その問題点と今後の動向を探る視座を培う。授業では視聴覚教材を利用し具体的事例を考察し、簡単なレポートを作成する。障がい者や社会福祉関係の外部講師を招いて、実際の社会福祉の現場について理解するための講義も予定している。時事、外部講師の状況により、講義内容が前後する場合がある。人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を目指す科目である。※外部講師を招いた授業を、1コマ実施予定。※遠隔・対面授業の実施状況により、一部の内容が変更になる可能性がある。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングを重視するため、全授業回数の3分の2以上の出席を求める。アクティブ・ラーニングを毎回実施する。①グループワークとディスカッション、②ワークシートによる能動的学習、③履修者全員によるワークシート記入情報の意見交換・プレゼンテーション							
予習と復習	予習（90分）授業テーマに関する調べ学習(キーワード等)。復習（90分）各授業回の課題に取り組む。							
テキスト等	教科書：『社会福祉とわたしたち』一瀬小百合(萌文書林)参考書：『国民の福祉と介護の動向2022/2023年』（厚生労働統計協会）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	75%	平常点	25%
				0%				0%
	①全授業回の3分の2以上の出席を求める。②遅刻・早退、欠席は、平常点から減点する。③居眠り、授業以外の活動は、平常点から減点する。④毎回、授業の理解確認・振り返りのレポートを提出する。							
授業計画	①社会福祉論Aでの学習目標と課題							
	②社会福祉とわたしたち							
	③社会福祉の理念と歴史の変遷							
	④現代社会の生活問題と社会福祉							
	⑤社会福祉行政と実施体系							
	⑥社会福祉と社会保障の制度①							
	⑦社会福祉と社会保障の制度②							
	⑧社会福祉の専門職							
	⑨共生社会の実現と障がい者施策							
	⑩子ども家庭福祉と社会福祉							
	⑪少子高齢社会と子育て支援							
	⑫社会福祉における相談援助							
	⑬社会福祉における利用者保護にかかわるしくみ							
	⑭社会福祉の動向と課題							
	⑮まとめと総復習							

科目名	社会福祉論B							
英文科目名	Social Welfare B							
担当者名	長谷川万希子							
科目ナンバリング	CED206							
授業の概要と到達目標	<授業の目標>特に高齢者福祉に焦点を当て、関連する制度・法・組織・専門職・キーワードについて学ぶ。日々のニュースから、講義で取り上げた話題や関連性がある問題に目を向け、社会福祉の視点から物事を考える習慣を身につけることが目標である。<授業の概要>現在展開されている各種社会福祉サービスについて具体例に触れながら、その問題点と今後の動向を探る視座を培う。障がい者や社会福祉関係の外部講師を招いて、実際の社会福祉の現場について理解するための講義も予定している。時事、外部講師の状況により、講義内容が前後する場合がある。人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を目指す科目である。※外部講師を招いた授業を、1コマ実施予定。※遠隔・対面授業の実施状況により、一部の内容が変更になる可能性がある。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングを重視するため、全授業回数の3分の2以上の出席を求める。アクティブ・ラーニングを毎回実施する。①グループワークとディスカッション、②ワークシートによる能動的学習、③履修者全員によるワークシート記入情報の意見交換・プレゼンテーション							
予習と復習	予習（90分）授業テーマに関する調べ学習。復習（90分）各授業回の課題に取り組む。							
テキスト等	教科書：『高齢者福祉の世界(補訂版)』直井道子、他編，有斐閣 参考書：『国民の福祉と介護の動向2022/2023年』厚生労働統計協会							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	75%	平常点	25%
				0%				0%
	①全授業回の3分の2以上の出席を求める。②遅刻・早退、欠席は、平常点から減点する。③居眠り、授業以外の活動は、平常点から減点する。④毎回、授業の理解確認・振り返りのレポートを提出する。							
授業計画	①今、高齢者福祉を学ぶ							
	②老化と高齢者							
	③高齢者と家族							
	④少子高齢社会							
	⑤所得保障							
	⑥社会参加と生きがい							
	⑦福祉コミュニティの形成							
	⑧ソーシャルサービス・ニーズと現行サービス							
	⑨ソーシャルサービス・ニーズのとらえ方							
	⑩ケアサービス保障の仕組み							
	⑪相談援助							
	⑫高齢者のケア							
	⑬新しい高齢者像							
	⑭介護ガバナンスと福祉レジーム							
	⑮まとめと総復習							

科目名	人間形成論 人間形成論A							
英文科目名	The Theory of Human Becoming The Theory of Human Becoming A							
担当者名	小平健太							
科目ナンバリング	CED207							
授業の概要と到達目標	【目的】なぜ、私たちは「美しさ」や「芸術」に心を惹かれるのか。ときに自然の美しさに心奪われ、また人が制作した「作品」に触れ、感動し、それを誰かに伝えたいとなるのか。本科目では、これまでの様々な学説や、標準理論に触れながらも、美しさについて「自ら」考える思索力と、それを人に適切に伝えるための言語化能力を養います。【概要】本科目は自ら自由に考え、自らの考えを表現するための練習として、津上英輔『美学の練習』を読みます。現代社会において、私たちは様々な文化（映画、音楽、文学、絵画、演劇、マンガ、アニメーション、サブカルチャー等も含む）に囲まれて生きています。その中でも、芸術は私たちの人生を豊かにし、私たちの心を育ててくれる大切なものです。本科目では、一人ひとりが心の中に抱く「好き」や「美しさ」についてじっくり粘り強く考え、それを言葉にするべく、『美学の練習』を丁寧に読み進めながら授業を行います。本科目は、人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を实践できる人材の育成」に資する科目である。							
授業の方法	授業に向けた予習・復習が必須となります。毎回、指定テキスト（『美学の練習』）の決められた範囲の予習を行い、それについて用意されたワークシートを作成する。そのうえで、教室では講義とディスカッション（アクティブラーニング）を行います。							
予習と復習	予習（90分）テキストの指定箇所を読み、事前に配布されたワークシートを行う。復習（90分）テキストの指定箇所を読み返し、ワークシートに即した小レポートを作成する（2回の小レポート執筆）。							
テキスト等	津上英輔『美学の練習』春秋社、2023年参考図書：津上英輔『あじわいの構造』春秋社、2012年、『危険な「美学」』集英社インターナショナル、2019年							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	60%
				0%				0%
	平常点は、議論への参加度（30％）とワークシートの作成（30％）に加え、小レポート（2回×20％）にて評価します。							
授業計画	①オリエンテーション：美学とは、なにか？「美しい」とはどういうことか。							
	②第一講「快の一種としての美」：「第1節」および「第2節」							
	③第一講「快の一種としての美」：「第3節」および「補講1」							
	④第二講「三大価値の中の美」：「第1節」および「第2節」							
	⑤第二講「三大価値の中の美」：「第3節」および「補講2」							
	⑥第三講「美と美的」：「第1節」および「第2節」							
	⑦第三講「美と美的」：「第3節」および「コラム」							
	⑧第四講「感性」：「第1節」および「第2節」							
	⑨第四講「感性」：「コラム 感性のくらい働きと我々の美論の限界」							
	⑩第五講「芸術は術の中の術」：「第1節」および「第2節」							
	⑪第五講「芸術は術の中の術」：「第3節」および「コラム」							
	⑫第六講「芸術は術のための術」：「第1節」および「第2節」							
	⑬第六講「芸術は術のための術」：「第3節」および「コラム」							
	⑭第七講「芸術は術を超える術」：「第一節」「第二節」							
	⑮まとめと総復習							

科目名		人間形成論B							
英文科目名		The Theory of Human Becoming B							
担当者名		2023年度休講							
科目ナンバリング		CED210							
授業の概要と到達目標	【目標】 私たちの「心」のあり方をめぐり、それに対する理論と思考法をさまざまな思想家や科学者、研究者から学び、「心」・「精神」をめぐり科学史の基礎を知ること、最終的に自ら主体的に考えをまとめ、説明できるようになることが本科目の目標です。【概要】 日常生活の中で、笑ったり、喜んだり、ときに泣いたり、怒ったり…実は私たちの心の働きは不思議でいっぱいです。喜怒哀楽を経験するときに私たちの心はどんな働きをしているのでしょうか？ 科学の世界では、そもそも私たちの身体と違って実体がなく、目に見ることのできない「心」について、どんな説明が与えられているのでしょうか？ 「心」を扱う学問は、自然科学の他にも哲学、心理学等、様々です。本講義は、とくに自然分野の視点から幅広く教養を身に付けるための科目であり、心や精神のはたらきの特徴を明らかにしてきた研究の歴史を丁寧に紐解き、解説を行います。その点で、一人ひとりが日常的に抱く様々な「感情」の根拠や由来について真正面から考えるための授業であり、学生達の積極的な授業参加を期待します。								
授業の方法	本科目は配布資料、スライドを参照しつつ、適宜板書を行う講義形式の授業ですが、各回において教員と学生の対話、グループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）の時間も設定し、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を行ってもらいます。								
予習と復習	授業中に各主題に即した参考文献を適宜挙げるので、その都度該当箇所を読んで授業に出席すること（予習：90分）。また、毎回の授業において配布するスライド資料・板書した内容を復習し、「課題シート」に従ってまとめを作成すること（復習90分）。								
テキスト等	基本的に毎授業、資料とレジュメを配布します。授業の内容に直接関連する一次文献は、その都度授業中に指示します。参考図書：菅野理樹夫『見るちから—古代のものの見方から現代の知覚論まで—増補2版』北樹出版（2012）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	60%	
				0%				0%	
	平常点とは単なる「出席点」ではありません。毎回の授業では、終了時にリアクションペーパーを提出してもらいます。コメントの内容はその水準に応じて、成績に加点されます。総合成績の60点以上を合格点とし、全体の1/3以上の欠席は、成績評価の対象外とします								
授業計画	①オリエンテーション：授業の内容・進め方								
	②（１）心の科学の歴史—古代ギリシア時代の魂についての考え方								
	③（２）心の科学の歴史—古代ローマ時代医師ガレノスの考え方								
	④（３）心の科学の歴史—近世までの脳と神経と身体（１）精神の座の変遷								
	⑤（４）心の科学の歴史—デカルトの精神の座								
	⑥心のはたらきと脳の機能研究（１）脳の全体の構造と機能 大脳を中心に								
	⑦心のはたらきと脳の機能研究（２）脳の全体の構造と機能 小脳、中脳などを中心に								
	⑧心のはたらきと脳の機能研究（３）脳内の神経細胞 ニューロンとシナプス								
	⑨（１）「美しさ」と認知科学：人はなぜ「美しさ」がわかるのか								
	⑩（２）「美しさ」と社会心理学：「流行現象」における集団的心理								
	⑪「恒常性」と認知科学：色彩・カタチ・大きさの知覚								
	⑫心の深化と人間らしさ：「チンパンジー」を例とした研究								
	⑬幼児と言葉：ASD（自閉症スペクトラム症）を例とした研究								
	⑭AIと心：「空間認知能力」例とした研究								
	⑮まとめと総復習								

科目名	特別支援教育A 障害児教育A							
英文科目名	Special Needs Education A Special Needs Education A							
担当者名	大崎博史							
科目ナンバリング	CED208							
授業の概要と到達目標	本科目は、人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材や、教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を实践できる人材を育成するための科目である。【授業の目標】障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な指導及び必要な支援を行う「特別支援教育」についての理解を深め、障害のある幼児児童生徒への教育実践の在り方を探求することを目標とする。【授業の概要】特別支援教育の歴史的背景や法制度、各障害教育論、最近のインクルーシブ教育システムの推進の現状と課題等についての内容を取り扱う。本授業は、高千穂大学が大切にする「人間教育の本質を理解すること」に必ずつながるものとする。							
授業の方法	講義は、障害のある幼児児童生徒への教育のあり方について、自身の特別支援学校教諭の経験を踏まえた話題を提供し、受講学生の主体的・対話的で深い学びの実現のためのPBL（課題解決型学習）を取り入れ、アクティブラーニングを推進する。							
予習と復習	予習（90分）テキストや特別支援教育に関連する文献（記事）等を読み、要点をまとめ、次週の授業に備えておくこと。復習（90分）テキストや配付資料等を読み、学んだことを自ら振り返り、今日の授業についての理解を深めておくこと。							
テキスト等	【テキスト】「特別支援教育の基礎・基本2020」（ジアース教育新社）、【参考】宮崎英憲・山中ともえ編「小学校 新学習指導要領の展開 特別支援教育編」（明治図書出版）							
評価方法	定期試験	60%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%
	課題レポート			30%				0%
	※定期試験、課題レポート、平常点を総合的に考慮し成績を評価する。※出席回数を単位取得の前提条件とし、3回を越える欠席者（遅刻・早退は2回で欠席1回分に相当）は、原則として単位を認定しない。							
授業計画	①オリエンテーション、特別支援教育とは							
	②特別支援教育に関わる法制度（教育基本法、学校教育法等を中心に）							
	③障害児教育の歴史（日本の障害児教育の歴史）							
	④特別支援教育の現状と課題1（視覚障害教育）							
	⑤特別支援教育の現状と課題2（聴覚障害教育）							
	⑥特別支援教育の現状と課題3（言語障害教育）							
	⑦特別支援教育の現状と課題4（発達障害教育：LD・ADHD）							
	⑧特別支援教育の現状と課題5（発達障害教育：高機能自閉症等）							
	⑨特別支援教育の現状と課題6（知的障害教育）							
	⑩特別支援教育の現状と課題7（肢体不自由教育）							
	⑪特別支援教育の現状と課題8（病弱身体虚弱教育）							
	⑫特別支援教育の現状と課題9（重複障害教育、その他）							
	⑬インクルーシブ教育システム構築に向けて1（インクルーシブ教育システムとは）							
	⑭インクルーシブ教育システム構築に向けて2（合理的配慮や基礎的環境整備について）							
	⑮まとめと総復習							

科目名		特別支援教育B 障害児教育B						
英文科目名		Special Needs Education B Special Needs Education B Special Needs Education B						
担当者名		大崎博史						
科目ナンバリング		CED209						
授業の概要と到達目標	本科目は、人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材や、教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を实践できる人材を育成するための科目である。【授業の目標】「特別支援教育」についての理解を深め、小学校の通常の学級、通級による指導、特別支援学級で指導や支援を行うにあたっての工夫や配慮事項を自ら体験的に学ぶことによって、より教育現場に近い教育実践力を高めることを目標とする。【授業の概要】小学校の通常の学級、通級による指導、特別支援学級を担当することになったこと想定し、小学校の各教科等における障害のある児童への配慮や特別の教育課程について考えたり、個別の指導計画や学習指導案の作成等の授業づくりの体験を行う。また、特別支援教育の今日的課題についても考える。理解を深めるために、実際に受講生自らが教員になったつもりでその役割を体験できるような授業を行う。							
授業の方法	講義は、障害のある幼児児童生徒への教育のあり方について、自身の特別支援学校教諭の経験を踏まえた話題を提供し、受講学生の主体的・対話的で深い学びの実現のためのPBL（課題解決型学習）を取り入れ、アクティブラーニングを推進する。							
予習と復習	予習（90分）テキストや特別支援教育に関連する文献（記事）等を読み、要点をまとめ、次週の授業に備えておくこと。復習（90分）テキストや配布資料等を読み、学んだことを自ら振り返り、今日の授業についての理解を深めておくこと。							
テキスト等	【テキスト】「通常の学級で活かす特別支援教育概論」（ナカニシヤ出版）、「小学校新学習指導要領の展開支援教育編」（明治図書）、【参考】文科省「小学校学習指導要領解説総則編」「特別支援学校学習指導要領解説各教科編等」「学習指導要領解説自立活動編」							
評価方法	定期試験	60%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%
	課題レポート			30%				
※定期試験、授業毎の課題レポート、平常点を総合的に考慮し成績を評価する。※出席回数を単位取得の条件とし、3回を越える欠席者（遅刻・早退は2回で欠席1回分に相当）は、原則単位を認定しない。								
授業計画	①オリエンテーション、特別支援教育概論1（特別支援教育の全体像を知る）							
	②特別支援教育概論2（障害のある児童生徒等の多様な学びの場について理解する）							
	③特別支援教育概論3（インクルーシブ教育システムの構築と推進について理解する）							
	④個別の指導計画の作成と活用1（個別の指導計画、個別の教育支援計画とは何か）							
	⑤個別の指導計画の作成と活用2（個別の指導計画を作成してみよう）							
	⑥個別の指導計画の作成と活用3（個別の指導計画をどのように活用するのか）							
	⑦授業づくり1（小学校：各教科等における障害のある児童への配慮について理解する）							
	⑧授業づくり2（小学校：各教科等における障害のある児童への配慮について理解する）							
	⑨授業づくり3（自立活動について理解する）							
	⑩授業づくり4（自立活動について理解する）							
	⑪授業づくり5（知的教科について理解する）							
	⑫授業づくり6（知的教科について理解する）							
	⑬授業づくり7（特別支援教育の学習指導案の作成）							
	⑭授業づくり8（特別支援教育の学習指導案の作成）							
	⑮まとめと総復習							

科目名	生涯発達論 発達心理学B							
英文科目名	@ Psychology of Development B							
担当者名	徳田治子							
科目ナンバリング	CED301							
授業の概要と到達目標	人の生涯にわたる発達と生き方の問題について、心理学を中心とした学際的見地から学ぶ。①発達心理学を中心に蓄積されてきた発達理論や各人生段階の特徴および成人期以降の発達や生き方について学ぶことを通して、現実生きる人生の多様性や可塑性について理解を深め、自らの成長や人生、ならびに様々な状況に置かれた人々のケアや支援に役立てる実践的な知識の修得を目指す。②ライフサイクルモデル、ライフコース理論、ライフストーリー法といった生涯にわたる人間の変化や発達を捉える研究アプローチを通して全人的存在としての人間の成長を捉える方法について学ぶ。授業内では、特に、自身の人生を受講生同士が互いに振り返る「ライフストーリーインタビュー」を実施する。なお、受講生の問題関心に応じて外部講師を招聘する場合がある。人間科学部のディプロマポリシー「人間の生涯にわたる成長・発達を支援するなど、社会生活の構築やコーディネートを担える人材」を達成するための科目である。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、一部の授業回で学生によるプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを実施する。また、インタビュー法の実践を行う。＊新型コロナウイルスの感染拡大の状況に応じて変更する可能性あり。							
予習と復習	予習（90分）配布プリントならびに指定されたテキストを読み、要点を整理しておく。復習（90分）講義資料を読み返し、指定課題について考えをまとめる。							
テキスト等	講義時に資料を配布する。参考図書/テキストは適宜紹介、指定する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	平常点（40%）とレポート課題（60%）により、評価します。平常点は、Googleフォームによる振り返り課題の提出とその内容に応じて評価します。提出されたコメントならびにレポートの一部について、授業内で全般的な評価と所見を提示します。							
授業計画	①オリエンテーション：生涯発達を捉える多様なモデル							
	②生涯発達を捉える多様な研究アプローチ(1)：生涯の変化をとらえるイメージとモデル							
	③生涯発達を捉える多様な研究アプローチ(2)：人生のイメージを表現してみよう！							
	④生涯発達を捉える多様な研究アプローチ(3)：ライフサイクルモデルの理論と課題							
	⑤生涯発達を捉える多様な研究アプローチ(4)：ライフコースの理論と選択の心理学							
	⑥生涯発達を捉える多様な研究アプローチ(5)：物語としての人生とライフストーリー							
	⑦ライフストーリーインタビューの実践（1）：ライフストーリーインタビューとは							
	⑧ライフストーリーインタビューの実践（2）自伝的探究法（自分の人生を振り返る）							
	⑨ライフストーリーインタビューの実践（3）インタビューの様々な質問技法							
	⑩ライフストーリーインタビューの実践（4）インタビュー実習①							
	⑪ライフストーリーインタビューの実践（5）インタビュー実習②							
	⑫人間発達における傷つきと喪失(1)：幼児期・児童期における死の理解□							
	⑬人間発達における傷つきと喪失(2)：青年期以降の死の理解とグリーフケア							
	⑭人間発達の多様性と可塑性：レジリエンスと生きる力							
	⑮まとめと総復習□							

科目名		教師論(小学校免許用)							
英文科目名		Theory about Teacher							
担当者名		山田良一							
科目ナンバリング		TED201							
授業の概要と到達目標	【授業のテーマ】 長年の教育現場での経験を活かし、教師を目指す際に必要となる知識・技能や職務内容を理解し、学生自らが教師としての適性を培い、教師としての基本的な資質や能力を培うことを本授業のテーマとする。また、この科目は「教養と社会モラルを兼ね備えた人間教育を実践できる人材」を達成する科目でもある。【到達目標】①教育に関連する法規に定められている「教育の目的」「全体の奉仕者」を理解し、望ましい姿を明確にする。②教師としての専門的な知識や技能の基本を理解し、身につける。③これからの学習指導要領を学び、教育の方向性を理解し、自らの理想とする教師像を追求する。④「チームとしての学校」を実現するための三つの視点を理解する。必要に応じて外部講師を招聘することがある【到達目標】①教育に関連する法規に定められている「教育の目的」「全体の奉仕者」を理解し、望ましい姿を明確にする。②教師としての専門的な知識や技能の基本を理解し、身につける。③これからの学習指導要領を学び、教育の方向性を理解し、自らの理想とする教師像を追。								
授業の方法	授業の大枠として「教師としての役割・職務を理解すること」「教師としての教育力や指導力・人間力を高める」ことを目標に、主体的対話的深い学びとなるようなアクティブラーニングを活用したグループワークや対話型授業を中心にすすめる。								
予習と復習	予習（90分）トピックについて、もてる手段をフル活用して自分なりの問題意識をもって授業に臨む。復習（90分）復習：テーマ・トピックについて、次のテーマ・トピックと関連づけながら整理し、理解を深める。								
テキスト等	山田良一 『学校公開』成功のマニュアル（学事出版）適宜授業内容に関連したレジュメを配布する。 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）等								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%	
				0%					0%
	平常点の中に「ワークシート」による振り替えりや感想等も含む。								
授業計画	①オリエンテーション：授業「教師論」の進め方について 小学校でのエピソード紹介								
	②小学校 教師の一日の仕事や職務内容（校務分掌）を理解する。								
	③全体の奉仕者としての理解を深める。								
	④教師の歴世の変遷と現在の教師について								
	⑤具体的な事例を考察しながら、教師の役割と職責を理解する。								
	⑥教師の専門性Ⅰ 学習指導に関して 新学習指導要領を学ぶ。								
	⑦教師の専門性Ⅱ 生徒理解と生活指導 子どもに寄り添う傾聴姿勢（体罰によらない指導）								
	⑧子どもの成長過程を知る。幼児期・児童期・思春期								
	⑨小学校における教育的課題Ⅰ：いじめ対応と教師の姿勢（具体的な事例を通して）								
	⑩小学校における教育的課題Ⅱ：不登校（具体的な事例を通して）								
	⑪地域・家庭とを結ぶチームとしての学校づくり								
	⑫健全な学校・学級経営をするために、チームとしての学校の視点を学ぶ								
	⑬教師の服務と義務・責任（綱紀粛正）								
	⑭学生達が理想とする未来の学校を創ろう：グループ討議								
	⑮私が目指す教師像 自身の適性と課題を知る。シンキングツールを使って（まとめと復習								

科目名		教師論(中・高校免許用)							
英文科目名		Theory about Teacher							
担当者名		山田良一							
科目ナンバリング		TED201							
授業の概要と到達目標	【授業のテーマ】 長年の教育現場での経験を活かし、教師を目指す際に必要となる知識・技能や職務内容を理解し、学生自らが教師としての適性を培い、教師としての基本的な資質や能力を培うことを本授業のテーマとする。また、この科目は「教養と社会モラルを兼ね備えた人間教育を実践できる人材」を達成する科目でもある。【到達目標】①教育に関連する法規に定められている「教育の目的」「全体の奉仕者」を理解し、望ましい姿を明確にする。②教師としての専門的な知識や技能の基本を理解し、身につける。③これからの学習指導要領を学び、教育の方向性を理解し、自らの理想とする教師像を追求する。④「チームとしての学校」を実現するための三つの視点を理解する。必要に応じて外部講師を招聘することがある。 【到達目標】①教育に関連する法規に定められている「教育の目的」「全体の奉仕者」を理解し、望ましい姿を明確にする。②教師としての専門的な知識や技能の基本を理解し、身につける。③これからの学習指導要領を学び、教育の方向性を理解し、自らの理想とする教師像を追求する。								
授業の方法	授業の大枠として「教師としての役割・職務を理解すること」「教師としての教育力や指導力・人間力を高める」ことを目標に、主体的対話的深い学びとなるようなアクティブラーニングを活用したグループワークや対話型授業を中心にすすめる。								
予習と復習	予習（90分）トピックについて、もてる手段をフル活用して自分なりの問題意識をもって授業に臨む。復習（90分）復習：テーマ・トピックについて、次のテーマ・トピックと関連づけながら整理し、理解を深める。								
テキスト等	山田良一 『学校公開』成功のマニュアル（学事出版）適宜授業内容に関連したレジュメを配布する。参考書：教員をめざそう（平成21年 文部科学省初等中等教育局）、中学校学習指導指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	100%	
				0%				0%	
授業計画	①オリエンテーション 授業「教師論」の進め方について 中・高等学校でのエピソード紹介								
	②中学校 教師の一日の仕事や職務内容（校務分掌）を理解する。								
	③全体の奉仕者としての理解を深める。								
	④教師の歴世の変遷と現在の教師について								
	⑤具体的な事例を考察しながら、教師の役割と職責を理解する。								
	⑥教師の専門性Ⅰ 学習指導に関して 新学習指導要領を学ぶ。								
	⑦教師の専門性Ⅱ 生徒理解と生活指導 子どもに寄り添う傾聴姿勢（体罰によらない指導								
	⑧子どもの成長過程を知る。幼児期・児童期・思春期								
	⑨中・高等学校における教育的課題Ⅰ：いじめ対応と教師の姿勢（具体的な事例を通して）								
	⑩中・高等学校における教育的課題Ⅱ：不登校（具体的な事例を通して）								
	⑪地域・家庭とを結ぶチームとしての学校づくり								
	⑫健全な学校・学級経営をするためにチームとしての学校の視点を学ぶ）								
	⑬教師の服務と義務・責任（綱紀粛正）								
	⑭学生達が理想とする未来の学校を創ろう：グループ討議								
	⑮私が目指す教師像 自身の適性と課題を知る。シンキングツールを使って（まとめと復習								

科目名	教育原理(小学校免許用)							
英文科目名	Principles of Education							
担当者名	松丸啓子							
科目ナンバリング	TED203							
授業の概要と到達目標	教育に関する基本概念にはどのようなものがあるかについて理解し、そうした諸概念が教育の歴史の中でどのように現れ、変遷してきたかを学ぶとともに、それらが実際の教育活動とどのように関わってきたかについての考察を深めます。こうした学習は、本学における教員養成の目標の一つである「透徹した人間観、教育観にたち、誠実でしかも情熱をもった教員の養成」の基盤を形成するものとしても意義を持つものです。							
授業の方法	授業計画に従って資料を配布しますので、受講者は主体的に学んで内容を理解するようにしましょう。また、授業内容に関連するアクティブラーニング(ディスカッション)の課題を出題しますので、積極的に取り組みましょう。							
予習と復習	「予習(90分)」：講義前には、配布資料等に目を通し、学習する内容を予習しておくようにしましょう。「復習(90分)」：講義後には、配布資料やノートを整理しながら復習しましょう。							
テキスト等	資料等を配布いたします。							
評価方法	定期試験	80%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	平常点として、講義中の質疑に対する応答やディスカッションへの参加状況等を評価の対象とします。1/3以上欠席の場合は評価の対象としません。上記の方法で、総合的に評価します。							
授業計画	①「教育原理」とは何か							
	②教育学の諸概念							
	③教育の本質							
	④教育の目標							
	⑤家庭における教育の歴史							
	⑥社会における教育の歴史							
	⑦近代教育制度の成立と展開							
	⑧現代社会における教育の課題							
	⑨家庭観と教育思想							
	⑩子供観と教育思想							
	⑪学校観と教育思想							
	⑫学習観と教育思想							
	⑬代表的な教育思想家							
	⑭現代の小学校における教育の課題							
	⑮まとめと総復習							

科目名	教育原理(中・高校免許用)							
英文科目名	Principles of Education							
担当者名	松丸啓子							
科目ナンバリング	TED203							
授業の概要と到達目標	教育に関する基本概念にはどのようなものがあるかについて理解し、そうした諸概念が教育の歴史の中でどのように現れ、変遷してきたかを学ぶとともに、それらが実際の教育活動とどのように関わってきたかについての考察を深めます。こうした学習は、本学における教員養成の目標の一つである「透徹した人間観、教育観にたち、誠実でしかも情熱をもった教員の養成」の基盤を形成するものとしても意義を持つものです。							
授業の方法	授業計画に従って資料を配布しますので、受講者は主体的に学んで内容を理解するようにしましょう。また、授業内容に関連するアクティブラーニング(ディスカッション)の課題を出題しますので、積極的に取り組みましょう。							
予習と復習	「予習(90分)」：講義前には、配布資料等に目を通し、学習する内容を予習しておくようにしましょう。「復習(90分)」：講義後には、配布資料やノートを整理しながら復習しましょう。							
テキスト等	資料等を配布いたします。							
評価方法	定期試験	80%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	平常点として、講義中の質疑に対する応答やディスカッションへの参加状況等を評価の対象とします。1/3以上欠席の場合は評価の対象としません。上記の方法で、総合的に評価します。							
授業計画	①「教育原理」とは何か							
	②教育学の諸概念							
	③教育の本質							
	④教育の目標							
	⑤家庭における教育の歴史							
	⑥社会における教育の歴史							
	⑦近代教育制度の成立と展開							
	⑧現代社会における教育の課題							
	⑨家庭観と教育思想							
	⑩子供観と教育思想							
	⑪学校観と教育思想							
	⑫学習観と教育思想							
	⑬代表的な教育思想家							
	⑭現代の中学・高等学校における教育の問題							
	⑮まとめと総復習							

科目名	教育心理学(小学校免許用)							
英文科目名	Educational Psychology							
担当者名	崔玉芬							
科目ナンバリング	TED205							
授業の概要と到達目標	本授業は、人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。授業では、人間の成長と発達、学習の仕組みに関する知識を身につけると同時に、特別な支援を必要とする子どもの成長と発達、学習支援について学ぶ。教師として、生徒理解と支援方法について、具体的な事例を用いて理解、考察する。＜到達目標＞(1)人間の発達に関する理論を説明することができる。(2)学習、学習指導・支援に関する理論を説明することができる。(3)特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援方法について説明することができる。(4)生徒が抱える発達と教育上のさまざまな困難、問題について深く理解することができる。同時にそれらの問題の解決、支援の方法に関する知識を説明することができる。							
授業の方法	講義形式。授業時に、グループワーク、ディスカッション、ペア学習などのアクティブラーニングを行う。また、一部の授業においては、教育現場経験豊かな外部講師を招き、教育現場の話を伺う。							
予習と復習	予習（90分）：シラバス記載の当該章に目を通し、キーワードを調べてまとめる。復習（90分）：授業で配布した資料やノートを再読し、授業内容を見直す。							
テキスト等	教科書：使用しない。授業中にレジュメを配布する。参考書：大村彰通（編）「教育心理学Ⅰ」 東京大学出版会 下山晴彦（編）「教育心理学Ⅱ」 東京大学出版会 ほかの参考書は講義中に紹介する							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	第9回目と15回目に授業内試験を実施。各成績の40%を占める成績となるため、基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取り組みも含まれる。理由のない欠席の合計が5回以上は不合格とする。							
授業計画	①発達の概念							
	②発達の規定因							
	③発達理論－エリクソンの発達理論							
	④認知の発達							
	⑤言語の発達							
	⑥感情の発達							
	⑦人格の発達							
	⑧社会性の発達							
	⑨授業内試験①と解説							
	⑩学習の基礎としての条件づけ							
	⑪学習の動機づけ							
	⑫記憶の仕組み							
	⑬学習評価							
	⑭発達障害と特別支援教育							
	⑮授業内試験②と総まとめ							

科目名	教育心理学(中・高校免許用)							
英文科目名	Educational Psychology							
担当者名	崔玉芬							
科目ナンバリング	TED205							
授業の概要と到達目標	<講義概要>本授業は、人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。授業では、人間の成長と発達、学習の仕組みに関する知識を身につけると同時に、特別な支援を必要とする子どもの成長と発達、学習支援について学ぶ。教師として、生徒理解と支援方法について、具体的な事例を用いて理解、考察する。<到達目標>(1)人間の発達に関する理論を説明することができる。(2)学習、学習指導・支援に関する理論を説明することができる。(3)特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援方法について説明することができる。(4)生徒が抱える発達と教育上のさまざまな困難、問題について深く理解することができる。同時にそれらの問題の解決、支援の方法に関する知識を説明することができる。							
授業の方法	講義形式。授業時に、グループワーク、ディスカッション、ペア学習などのアクティブラーニングを行う。また、一部の授業においては、教育現場経験豊かな外部講師を招き、教育現場の話を伺う。							
予習と復習	予習（90分）：シラバス記載の当該章に目を通し、キーワードを調べてまとめる。復習（90分）：授業で配布した資料やノートを再読し、授業内容を見直す。							
テキスト等	教科書：使用しない。授業中にレジュメを配布する。参考書：大村彰通（編）「教育心理学Ⅰ」 東京大学出版会 下山晴彦（編）「教育心理学Ⅱ」 東京大学出版会 ほかの参考書は講義中に紹介する							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	第9回目と15回目に授業内試験を実施。各成績の40%を占める成績となるため、基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取り組みも含まれる。理由のない欠席の合計が5回以上は不合格とする。							
授業計画	①発達の概念							
	②発達の規定因							
	③発達理論ーエリクソンの発達理論							
	④認知の発達							
	⑤言語の発達							
	⑥感情の発達							
	⑦人格の発達							
	⑧社会性の発達							
	⑨授業内試験①と解説							
	⑩学習の基礎としての条件づけ							
	⑪学習の動機づけ							
	⑫記憶の仕組み							
	⑬学習評価							
	⑭発達障害と特別支援教育							
	⑮授業内試験②と総まとめ							

科目名	教育制度(小学校免許用)							
英文科目名	Educational System							
担当者名	早坂めぐみ							
科目ナンバリング	TED207							
授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成」を達成するための科目である。本科目を通じて、公教育の意義と理念を理解するとともに、公教育の原理や法的・制度的仕組み、教員の服務義務、学校と地域との連携など、教職を目指す上で必要な基礎的知識を身につける。また、教育制度の創造的発展に向けて、受講者が主体的に考察する姿勢を養う。専門職としての教師になるために、公教育制度と学習権保障の意義を深く理解するとともに、公教育の原理や法的・制度的仕組みなどに関する基礎的知識を身につけることが到達目標である。							
授業の方法	アクティブラーニングとして、グループワーク、ディスカッションを行う。また、資料および練習問題のオンライン配信を行う。質問へのフィードバックは、毎回の授業にて行う。							
予習と復習	予習（90分）事前に教科書の指定箇所を一読し、要点をノートにまとめること。また、専門用語の意味を調べて、ノートに記すこと。復習（90分）授業内容の要点と自身の考えをノートにまとめること。練習問題を次の授業までに取り組むこと。							
テキスト等	川口洋誉・古里貴士・中山弘之編著『新版 未来を創る教育制度論』（北樹出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	欠席回数が3回以上の場合、原則として不合格とする。遅刻・早退は2回で、欠席1回として扱う。授業内試験（2回）は、返却して個別に評価と所見を提示する。平常点は毎回の授業で実施する小レポートを評価し、授業で全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①教育制度を学ぶことの意義							
	②子どもの権利							
	③教育法のしくみ							
	④教育内容の制度―教科書と学習指導要領							
	⑤日本国憲法と教育基本法							
	⑥教育の目的と目標							
	⑦学校の制度―一条校の公の性質と学校体系							
	⑧義務教育の制度―義務教育の三原則／授業内試験①と解説							
	⑨教育の機会均等							
	⑩教職員の制度―専門職としての教師の力量形成							
	⑪教育行政の制度							
	⑫社会教育の制度							
	⑬学校と地域との連携							
	⑭学校安全への対応／授業内試験②と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	教育制度(中・高校免許用)							
英文科目名	Educational System							
担当者名	早坂めぐみ							
科目ナンバリング	TED208							
授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成」を達成するための科目である。本科目を通じて、公教育の意義と理念を理解するとともに、公教育の原理や法的・制度的仕組み、教員の服務義務、学校と地域との連携など、教職を目指す上で必要な基礎的知識を身につける。また、教育制度の創造的発展に向けて、受講者が主体的に考察する姿勢を養う。専門職としての教師になるために、公教育制度と学習権保障の意義を深く理解するとともに、公教育の原理や法的・制度的仕組みなどに関する基礎的知識を身につけることが到達目標である。							
授業の方法	アクティブラーニングとして、グループワーク、ディスカッションを行う。また、資料および練習問題のオンライン配信を行う。質問へのフィードバックは、毎回の授業にて行う。							
予習と復習	予習（90分）事前に教科書の指定箇所を一読し、要点をノートにまとめること。また、専門用語の意味を調べて、ノートに記すこと。復習（90分）授業内容の要点と自身の考えをノートにまとめること。練習問題を次回の授業までに取り組むこと。							
テキスト等	川口洋誉・古里貴士・中山弘之編著『新版 未来を創る教育制度論』（北樹出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
				0%				0%
	欠席回数が3回以上の場合、原則として不合格とする。遅刻・早退は2回で、欠席1回として扱う。授業内試験（2回）は、返却して個別に評価と所見を提示する。平常点は毎回の授業で実施する小レポートを評価し、授業で全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①教育制度を学ぶことの意義							
	②子どもの権利							
	③教育法							
	④教育内容の制度―教科書と学習指導要領							
	⑤日本国憲法と教育基本法							
	⑥教育の目的と目標							
	⑦学校の制度―一条校の公の性質と学校体系							
	⑧義務教育の制度―義務教育の三原則／授業内試験①と解説							
	⑨教育の機会均等							
	⑩教職員の制度―専門職としての教師の力量形成							
	⑪教育行政の制度							
	⑫社会教育の制度							
	⑬学校と地域との連携							
	⑭学校安全への対応／授業内試験②と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	教育課程論(小学校免許用)							
英文科目名	Curriculum Studies							
担当者名	小林祐一							
科目ナンバリング	TED209							
授業の概要と到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。地域教育資源調査を通して学校の「社会に開かれた教育課程」編成に寄与できるとともに、本学の教職課程のねらいの1つである「現代社会にこたえる見識と力量をもった教師の養成」を目指す科目である。							
授業の方法	テーマ・トピックについての講義と、それを土台とした参加者の意見交換を交えてアクティブラーニングを進める。毎回リアクションペーパーの提出を求める。講義はオンラインにより行う場合もある。							
予習と復習	予習：授業のテーマ・トピックについて、もてる手段をフル活用して自分なりの問題意識をもって授業に臨む。(90分) 復習：テーマ・トピックについて、次のテーマ・トピックと関連づけながら整理し、理解を深める。(90分)							
テキスト等	『教育の課程と方法―持続可能で包摂的な未来のために―』〈「ESDでひらく未来」シリーズ〉鈴木敏正・降旗信一編著							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	20%	平常点	20%
				0%				0%
	授業欠席・遅刻した場合は授業内で教員が示す課題をその日のうちに提出することが必要となります。							
授業計画	①シラバス説明及びテキスト紹介、発表分担決め等							
	②学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景							
	③教育課程が社会において果たしている役割や機能							
	④教育課程の編成の方法(1)【授業づくりの歴史】							
	⑤教育課程の編成の方法(2)【教育課程の自主編成】							
	⑥教育課程編成の基本原則(1)【ESD時代の教育課程のあり方】							
	⑦教育課程編成の基本原則(2)【教育課程の自主編成】							
	⑧教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法(1)							
	⑨教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法(2)							
	⑩教育課程や指導計画を検討することの重要性(1)							
	⑪教育課程や指導計画を検討することの重要性(2)							
	⑫学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と重要性(1)							
	⑬学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と重要性(2)							
	⑭カリキュラム評価の基礎的な考え方							
	⑮総合討議							

科目名	教育課程論(中・高校免許用)							
英文科目名	Curriculum Studies							
担当者名	小林祐一							
科目ナンバリング	TED209							
授業の概要と到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。地域教育資源調査を通して学校の「社会に開かれた教育課程」編成に寄与できるとともに、本学の教職課程のねらいの1つである「現代社会にこたえる見識と力量をもった教師の養成」を目指す科目である。							
授業の方法	テーマ・トピックについての講義と、それを土台とした参加者の意見交換を交えてアクティブラーニングを進める。毎回リアクションペーパーの提出を求める。講義はオンラインにより行う場合もある。							
予習と復習	予習：授業のテーマ・トピックについて、もてる手段をフル活用して自分なりの問題意識をもって授業に臨む。(90分) 復習：テーマ・トピックについて、次のテーマ・トピックと関連づけながら整理し、理解を深める。(90分)							
テキスト等	テキスト：『教育の課程と方法―持続可能で包摂的な未来のために―』〈「ESDでひらく未来」シリーズ〉鈴木敏正・降旗信一編著							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	60%	レポート	20%	平常点	20%
				0%				0%
授業に欠席・遅刻した場合は授業内で教員が示す課題をその日のうちに提出することが必要となります。								
授業計画	①シラバス説明及びテキスト紹介、発表分担決め等							
	②学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景							
	③教育課程が社会において果たしている役割や機能							
	④教育課程の編成の方法(1)【授業づくりの歴史】							
	⑤教育課程の編成の方法(2)【教育課程の自主編成】							
	⑥教育課程編成の基本原則(1)【ESD時代教育課程のあり方】							
	⑦教育課程編成の基本原則(2)【教育課程の自主編成】							
	⑧教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法(1)							
	⑨教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法(2)							
	⑩教育課程や指導計画を検討することの重要性(1)							
	⑪教育課程や指導計画を検討することの重要性(2)							
	⑫学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と重要性(1)							
	⑬学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と重要性(2)							
	⑭カリキュラム評価の基礎的な考え方							
	⑮総合討議□							

科目名	商業科教育論							
英文科目名	Education of Commerce							
担当者名	今村一真							
科目ナンバリング	TED211							
授業の概要と到達目標	この講義のテーマは、教科「商業」の基礎知識を学ぶとともに、商業高校等で取り組んでいる実践例から、商業教育の現状と今後の課題について、理論的かつ実践的に学んでいくことである。到達目標は、商業教育の本質と実践的な取り組みを十分理解し、教科「商業」の教員として実行力を身につけることである。特に、職業学科として体系的な科目が配置されていることがどのように位置づけられてきたのかを中心に理解を深めることを目標とする。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」を達成するための科目である。							
授業の方法	この科目は、商業教育の諸側面を理解し実践に必要な考え方を幅広く学ぶものである。受講者には模擬授業（アクティブラーニング）を求めるとともに、必要な学びを提供するために柔軟な運用を心掛ける。具体的な授業内容や実施の方法等は、担当教員の指示に従うこと。							
予習と復習	【予習(60分)】 次回の授業で学ぶ内容に触れ、現代の社会においてどのような教育が期待されるのかを考えてノートにまとめる。【復習(120分)】 教員として実践するうえで、授業の要点や示された課題をどのように捉えて行動することが求められるのかを考えてノートにまとめる							
テキスト等	テキスト：高等学校学習指導要領解説 商業編（平成30年5月 文部科学省）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	40%	平常点	30%
				0%				0%
	課題レポートを毎回実施する。							
授業計画	①高等学校の教育と商業教育について：オリエンテーション（商業教育を実践する意義）							
	②商業教育の現状と直面している課題：諸外国の職業教育と比較して							
	③商業教育と各種検定試験の取り組み：商業教育が歩んだ歴史とともに							
	④教科「商業」について：教育課程における教科「商業」の位置づけ							
	⑤マーケティング分野の教育							
	⑥ビジネス経済分野の教育							
	⑦会計分野の教育							
	⑧ビジネス情報分野の教育							
	⑨基礎的な科目「ビジネス基礎」の教育							
	⑩総合的な科目「課題研究、総合実践、ビジネス実務」の教育							
	⑪学校内での商業に係る課外活動(チャレンジショップの実践例)：専門職志向の視点から							
	⑫学校外での商業に係る課外活動(生徒商業研究発表大会の取り組み例)：起業の視点から							
	⑬商業教育の中のキャリア教育：日本におけるキャリア教育から考える							
	⑭新学習指導要領案(H30.2公表)における商業教育：商業教育の必要性							
	⑮現行学習指導要領と新学習指導要領の論点のまとめ：社会的分業と職業の観点を踏まえて							

科目名	情報科教育論							
英文科目名	Education of Infomation							
担当者名	出井智子							
科目ナンバリング	TED212							
授業の概要と到達目標	高等学校の教員免許状「情報」を取得するために必要な科目である。情報科教育論では、学習指導要領の変遷および情報教育の歴史について触れ、情報教育の目標や教育課程における情報科の位置付けについて学ぶ。また、学習指導要領に示された共通教科と専門教科情報科の目標や内容、学習評価について学習し、学習指導案の作成を行う。到達目標は、学習指導要領（平成30年公示）に示された情報科の目標や学習内容を理解するとともに、その背景となる社会や学問領域について知り、学習指導案を作成する土台を理解することである。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教師」を達成するための科目である。							
授業の方法	講義中心の形態で行い、必要に応じてグループディスカッションや質疑応答を実施する。また、毎回授業の最後に関アクションペーパーの提出を求める。アクティブラーニングの授業を実施する授業の回もある。							
予習と復習	予習（90分） 事前に指定された部分を読み、ノートなどにまとめ、わからない用語は調べておくこと。復習（90分） 授業で学習した内容について、整理し理解を深めること。							
テキスト等	テキスト：高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月 文部科学省）参考書：文部科学省選定教科書「情報I」テキストおよび参考書については、授業内で指示を行う。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	50%	レポート	30%	平常点	10%
	学習指導案		10%					0%
	提出物はすべて授業内で個別の評価と所見を提示する。							
授業計画	①ガイダンスと我が国の社会における情報化の進展							
	②学習指導要領の変遷と社会背景							
	③学習指導要領総説の理解							
	④情報教育の歴史と学習内容							
	⑤情報教育の目標と情報活用能力							
	⑥学習指導と学習評価							
	⑦高等学校の教育課程と情報科の位置付け							
	⑧共通教科「情報科」：「情報I」の目標および内容とその取扱い							
	⑨共通教科「情報科」：「情報II」の目標および内容とその取扱い							
	⑩共通教科「情報科」：指導上の留意点と改訂点							
	⑪専門教科「情報科」：各科目の目標および内容とその取扱い							
	⑫専門教科「情報科」：指導上の留意点と改訂点							
	⑬教材・教具の工夫と情報通信技術の活用							
	⑭学習指導案の作成方法と作成							
	⑮これからの情報教育およびまとめと総復習							

科目名	社会科・公民科教育論							
英文科目名	Education of Social Studies and Civic Studies							
担当者名	鈴木隆弘							
科目ナンバリング	TED214							
授業の概要と到達目標	本講義は、中学校社会科・公民科担当教員として求められるもののうち、内容論を中心に講義を行う。目標として、①社会科教育史への理解を通じて、社会科・公民科教授の方法を理解した上で、学習指導案解説等を用いながら、②社会科・高等学校公民科の内容と教材研究の方法について理解する、③社会科・公民科における学習評価を理解する、④政治学等における研究を元に、発展的な内容について自ら探究し、授業への応用力を身に付けることを目標とする。講義前半では、社会科・公民科における歴史と授業実践を検討し、どのような社会認識を育てようとしてきたのか、どのような子どもを育成しようとしてきたのかを検討する。講義後半では、社会科・公民科の内容と方法的特質を理解し、授業内容に関する基本的な理解を獲得し、社会科・公民科担当教員としての基礎能力を培う。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教師」を達成するための科目である。							
授業の方法	アクティブラーニングとして、毎回発表やグループ学習等のプレゼンテーション・グループワークを実施する。							
予習と復習	予習（90分）学習指導要領解説社会編・公民編を読む。復習（90分）当該内容のノートを元に、復習する。							
テキスト等	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』、日本公民教育学会編『新版テキストブック公民教育』（第一学習社）、荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』（学文社）ほか							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
	課題発表		50%					0%
	1/3以上の欠席は単位認定しない。平常点は、複数回の課題及び小テストを含む。【フィードバック】第10回に授業内試験を実施。平常点は各授業回に実施するリアクションペーパー。課題発表及びレポートは14回に実施する。							
授業計画	①社会科・公民科とは何か ー社会認識形成と公民的資質育成ー							
	②社会科・公民科の構造 ー幼・小・中・高をつらぬく公民カリキュラムー							
	③社会科・公民科の歴史1 ー戦前ー							
	④社会科・公民科の歴史2 ー経験主義と系統主義ー							
	⑤社会科・公民科の歴史3 ー公民科の成立と「生きる力」ー							
	⑥学習指導要領1 社会科・公民科の目標と全体構造							
	⑦学習指導要領2 中学校社会科公民的分野と他分野の関係性							
	⑧学習指導要領3 高等学校公民科「公共」							
	⑨学習指導要領4 高等学校公民科「政治・経済」							
	⑩学習指導要領5 高等学校公民科「倫理」							
	⑪教材研究1 ー社会科・公民科における評価 ー社会的な見方・考え方と資質・能力ー							
	⑫教材研究2 ー親学問：社会学・倫理学・哲学、政治学・経済学・法学の関係ー							
	⑬教材研究3 ー18歳成人時代と社会科教育 法教育・主権者教育ー							
	⑭課題発表							
	⑮課題発表と全体のまとめ							

科目名	商業科指導法							
英文科目名	Methods of Teaching about Commercial Studies							
担当者名	今村一真							
科目ナンバリング	TED215							
授業の概要と到達目標	授業のテーマは、教科「商業」の教員に必要な基礎的・基本的な知識や技能を養い、教科の指導方法を実践的に学ぶことである。具体的には、学習指導要領の基本的な内容を理解し、アクティブラーニングの授業手法などについての理解力を深める。到達目標は、学習指導要領に沿った学習指導案を作成することができ、実際の授業を想定した授業設計を行うことができるようになることである。特に、専門性の深化と実務との接続がどのように位置づけられてきたのかを中心に理解を深める。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」を達成するための科目である。							
授業の方法	この科目は、商業教育の諸側面を理解し実践に必要な考え方を幅広く学ぶものである。受講者には模擬授業を求めるとともに、必要な学びを提供するために柔軟な運用を心掛ける。具体的な授業内容や実施の方法(アクティブラーニング)等は、担当教員の指示に従うこと。							
予習と復習	【予習(60分)】 次回の授業で学ぶ内容に触れ、現代の社会においてどのような教育が期待されるのかを考えてノートにまとめる。【復習(120分)】 教員として実践するうえで、授業の要点や示された課題をどのように捉えて行動することが求められるのかを考えてノートにまとめる							
テキスト等	テキスト：高等学校学習指導要領解説 商業編（平成30年5月 文部科学省）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	30%
	模擬授業			30%				0%
授業計画	①学習指導要領のポイント：オリエンテーション（完成教育から継続教育へ）							
	②教科「商業」の内容と全体構造：会計専門職への接続を事例としながら							
	③学習指導案の構成と指導上の留意点：卒業後就職する生徒の指導を事例としながら							
	④観点別評価について：カリキュラム・マネジメントと学習評価・授業							
	⑤指導計画と授業計画：教育の情報化と進展するアクティブ・ラーニングのあり方							
	⑥年間指導計画の作成：商業教育の多様性を踏まえて							
	⑦学習指導案の作成：挑戦できるさまざまな資格に触れながら							
	⑧模擬授業-ビジネス基礎-：新たなキャリア志向の展開を交えて							
	⑨模擬授業-マーケティング分野の科目-：地域との連携や多様な成果との接続							
	⑩黒板・ICTの使用と教材の作成：経営実務への参画を想定した多様な学びと教育方法							
	⑪アクティブラーニングの方法と実践例-グループワーク-：魅力ある商業教育を目指して							
	⑫アクティブラーニングの方法と実践例-ディベート-：専門性の深化と総合化に向けて							
	⑬模擬授業-会計分野の科目-：育成したい生徒像に触れながら							
	⑭模擬授業-ビジネス情報分野の科目-：商業教育の可能性とつなげて							
	⑮模擬授業の振り返りとグループディスカッション：教員に必要な視点や考え方を交えて							

科目名	情報科指導法							
英文科目名	Methods of Teaching about Information Studies							
担当者名	出井智子							
科目ナンバリング	TED216							
授業の概要と到達目標	高等学校の教員免許状「情報」を取得するために必要な科目である。情報科指導法では、情報科教育論で学んだ理論を実践へ結びつけていく。年間授業計画や単元の目標および学習評価について理解し、具体的な場面を想定した授業設計を行う。また、授業を設計するために、情報通信技術や教材・教具の効果的な活用法を理解し、話法や板書、個別の生徒への対応などについて学習するとともに、作成した学習指導案を元に授業の実践を行う。到達目標は、学習指導案の作成により、作成した学習指導案を元に授業を実践することができるようになること。また、授業の実践後、振り返りを通して、授業改善の視点をもてるようになることである。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教師」を達成するための科目である。							
授業の方法	学習指導案の作成や模擬授業などの体験学習やディスカッションなどのアクティブラーニングの授業を実施する。授業の回によっては、講義中心の形態となることもある。また、毎回授業の最後にリアクションペーパーの提出を求める。							
予習と復習	予習（90分） 事前に指定された部分を読み、ノートなどにまとめ、わからない用語は調べておくこと。復習（90分） 授業で学習した内容について、整理し理解を深めること。							
テキスト等	テキスト：文部科学省検定教科書 「情報Ⅰ」参考書：高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月 文部科学省）テキストおよび参考書については、授業内で指示を行う。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	20%	レポート	20%	平常点	10%
	学習指導案			25%	模擬授業			25%
	提出物はすべて授業内で個別の評価と所見を提示する。							
授業計画	①ガイダンスと学習指導要領の概要							
	②年間指導計画と単元計画							
	③授業設計と授業デザイン							
	④学習指導と学習評価							
	⑤実践研究の動向と学習指導案の作成方法							
	⑥情報活用の実践力：教科書研究と学習指導案作成							
	⑦情報活用の実践力：教材作成と学習指導案の検討（問題解決を中心に）							
	⑧情報活用の実践力：模擬授業と授業改善							
	⑨情報の科学的な理解：教科書研究と学習指導案作成							
	⑩情報の科学的な理解：教材作成と学習指導案の検討（情報通信技術の活用を中心に）							
	⑪情報の科学的な理解：模擬授業と授業改善							
	⑫情報社会に参画する態度：教科書研究と学習指導案作成							
	⑬情報社会に参画する態度：教材作成と学習指導案の検討（言語活動を中心に）							
	⑭情報社会に参画する態度：模擬授業と授業改善							
	⑮情報教育の課題およびまとめと総復習							

科目名	社会科・公民科指導法							
英文科目名	Methods of Teaching about Social Studies and Civic Studies							
担当者名	鈴木隆弘							
科目ナンバリング	TED218							
授業の概要と到達目標	本講義では、社会科・公民科担当教員として、実際に授業ができるようになるを目標に、授業づくりの力を身に付ける。講義前半では、学習指導要領の内容を把握した上で、①生徒の実態を踏まえた上で授業を立案・実施することができる、②教材活用、特にICT機器を用いた教材・教育方法の活用法を理解し、③学習指導案の作成を通じて、授業をつくる力を身に付けることを目標とする。講義後半では、模擬授業を通じて、学習指導案と実際の授業の間に生じるズレを理解し、授業改善の方法を身に付けることを目標とする。さらに、「社会参画」等を育成する社会科・公民科授業の新しい研究動向を紹介、実際の授業に応用できる力を身に付ける。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。							
授業の方法	毎回の授業では、アクティブラーニングとして、授業の構想、授業案の作成、模擬授業等の実習を行い、講義を実施する。							
予習と復習	予習（90分） テキストの指定された部分を読んでくること。課題を期日までに作成し、講義に望むこと。復習（90分） テキストの確認及び、添削された学習指導案や模擬授業の振り返り課題をこなすこと。							
テキスト等	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』、日本公民教育学会編『新版テキストブック公民教育』（第一学習社）、荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』（学文社）他。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	学習指導案		50%	模擬授業				50%
	1/3以上の欠席は単位認定しない。平常点は、発表を評価する。							
授業計画	①社会科・公民科における授業とは							
	②授業づくり 1 生徒の社会認識形成と態度育成							
	③授業づくり 2 効果的な教材提示方法 ー新聞教材を使った授業ー							
	④授業づくり 3 効果的な教材提示方法 ー電子黒板を使った対話のある授業づくりー							
	⑤学習指導案の作成 1 ー教材研究の方法、フィールドワークー							
	⑥学習指導案の作成 2 ー社会科・公民科のカリキュラムと年間指導計画ー							
	⑦学習指導案の作成 3 ー単元指導計画ー							
	⑧学習指導案の作成 4 ー評価規準ー							
	⑨学習指導案の作成 5 ー教師による模擬授業と学習指導案を用いた振り返り／授業改善ー							
	⑩模擬授業 1 ー中学校社会科公民的分野ー （内容構成の観点から）							
	⑪模擬授業 2 ー高等学校公民科「公共」・「現代社会」ー （発問の観点から）							
	⑫模擬授業 3 ー高等学校公民科「政治・経済」ー （教材・ICT活用の観点から）							
	⑬模擬授業 4 ー高等学校公民科「倫理」ー （対話のある授業づくりの観点から）							
	⑭社会参加と哲学対話 ー新しい社会科・公民科の授業内容と方法ー							
	⑮模擬授業の振り返りと学習指導案の改善							

科目名		国語科指導法							
英文科目名		Methods of Teaching about Japanese							
担当者名		立石展大							
科目ナンバリング		TED219							
授業の概要と到達目標	小学校において国語の授業を展開する上で必要な技能と知識を身につけることを目標とする。まずは、学習指導要領に基づき、各学年に対する国語科の目標・内容・指導法を理解しする。そして、自らの力で学習指導案を作成して、授業をおこなえるようにする。 本授業は、国語科指導法修得をととして、高千穂大学の教員養成を目指す教員像の「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教員」を養成するための科目である。								
授業の方法	「小学校学習指導要領解説 国語編」を踏まえて、各学年に対応した「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について確認する。全ての授業でアクティブ・ラーニングを実施した上で、学生各自が学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。								
予習と復習	予習（90分）「小学校学習指導要領解説 国語編」や教材などを具体的な学習場面を想定しながら読む。 復習（90分）指導案作成に必要な参考資料について検討し、案を練る。								
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』－平成29年6月－（東洋館出版社） また、授業時にプリントを配付する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	10%	平常点	10%	
	学習指導案		40%	模擬授業				40%	
	個々に指導案を作成、それに沿った模擬授業の実施、考察を加味したレポートを提出する。また、授業への取り組み状況などは平常点で評価する。学習指導案とレポートは添削後に返却する。								
授業計画	①国語科の目標と内容および評価について								
	②説明文の教材研究と指導法								
	③物語文の教材研究と指導法								
	④国語科における情報通信技術の活用について								
	⑤書写（硬筆・毛筆）の指導法								
	⑥学習指導案の作成の仕方								
	⑦「伝統的言語文化」の教材研究と指導法								
	⑧「書くこと」の教材研究と指導法								
	⑨「話すこと・聞くこと」の教材研究と指導法								
	⑩模擬授業 低学年の物語文を中心に								
	⑪模擬授業 中学年の物語文を中心に								
	⑫模擬授業 中学年の説明文を中心に								
	⑬模擬授業 高学年の物語文を中心に								
	⑭模擬授業 高学年の説明文を中心に								
	⑮指導法についてのまとめと総復習								

科目名	社会科指導法							
英文科目名	Methods of Teaching about Social Studies							
担当者名	鈴木隆弘							
科目ナンバリング	TED220							
授業の概要と到達目標	本講義では、小学校社会科授業の指導法について、学習指導要領にもとづき、授業づくりの力を身につけ、指導計画及び学習指導案を作成し、授業化の方法を身につけることを目的とする。講義前半では、学習指導要領に定められた社会科の目標及び内容を理解し、社会科全体の構造を理解すること、地域学習や歴史学習における指導上の留意点を把握し、社会科における学習評価について理解すること、また、地理学や歴史学、政治学などと社会科の関係について理解することを目標とする。講義後半では、授業づくりと模擬授業を通して、子どもと教材の関係を理解した上で、授業を設計できること、教材の適切な解釈と提示、適切な学習指導案を作成できること、これらを踏まえ、模擬授業を実施し、その振り返りから、各自の課題を見出し、自らの授業が改善できるようになることを目標とする。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。							
授業の方法	アクティブラーニングとして、毎回のリアクションシートの作成とそれを踏まえたディスカッションを実施します。その他、学習指導要領についてのレポート作成と発表、学習指導案の作成と添削、模擬授業と振り返りを実施します。							
予習と復習	予習（90分） 課題作成・学習指導案作成・模擬授業の準備に取り組むこと。復習（90分） 各授業の振り返りを各自で行い、添削された学習指導案の修正を行うこと。							
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)社会編』、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 社会』							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
	学習指導案		40%	模擬授業				40%
	1/3以上の欠席は単位認定しない。模擬授業への無断欠席は認めない。【フィードバック】学習指導案は添削し、返却する。レポートは添削を行う。模擬授業は適宜指導し、授業の改善を行う。							
授業計画	①小学校社会科教員に求められる力とは							
	②小学校学習指導要領社会編の概要・目標と全体構造							
	③学習指導要領1（地域学習と小学校3年生及び4年生の内容と方法、留意点）							
	④学習指導要領2（国土・産業学習と小学校5年生の内容と方法、留意点）							
	⑤学習指導要領3（歴史・政治・国際学習と小学校6年生の内容と方法、留意点）							
	⑥授業づくり1－教材研究の方法（地理・歴史・政治学との関係から）－							
	⑦授業づくり2－児童の実態にあわせた授業づくり－							
	⑧授業づくり3－教育方法の観点から（電子黒板・タブレット端末等ICT機器の活用）－							
	⑨授業づくり4－社会科における評価とは－							
	⑩教員による模擬授業と学習指導案の作成							
	⑪模擬授業－地域学習－（内容構成の観点から）							
	⑫模擬授業－国土・産業学習－（発問の観点から）							
	⑬模擬授業－歴史学習－（教材活用の観点から）							
	⑭模擬授業－政治・国際学習－（評価の観点から）							
	⑮模擬授業の反省と振り返り・改善した学習指導案の作成							

科目名	算数科指導法									
英文科目名	Methods of Teaching about Arithmetic									
担当者名	森田大輔									
科目ナンバリング	TED221									
授業の概要と到達目標	本科目では、小学校学習指導要領に基づき、小学校算数科の教授・学習に対する理解を深めることを目的としている。上記の目的を達成するために、以下の具体的な到達目標を定める。1. 小学校算数科の目的・目標を理解する。2. 小学校算数科における授業づくりの理論や実際を理解する。3. 小学校算数科の各領域における指導上の留意点を理解する。4. 小学校算数科における評価の役割や方法を理解する。本科目は、人間科学部のディプロマ・ポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる」力を修得する科目である。また、本学の教職課程のねらい「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師の養成」を達成する科目である。なお、本科目の担当教員は、中学校・高等学校での教員経験を有している。学校現場の教員経験を活かし、算数科の教材例や指導法を例示するとともに、小中一貫の観点に立った算数指導の在り方を指導する。									
授業の方法	1～10回では、講義の中で、資質・能力の育成を主眼とした算数指導の在り方を指導する。また、第11回以降の講義では、アクティブ・ラーニングとして、グループワークによる指導案の作成や模擬授業の実施・協議に取り組む。									
予習と復習	予習(90分)：テキストの該当箇所を読んでおくこと。復習(90分)：講義で学んだことをノートにまとめておくこと。また、第11回以降の講義では、模擬授業で用いるもの（指導案、掲示物等）を準備し、模擬授業後は協議で出てきた事柄を整理すること。									
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）算数編』（日本文教出版）（ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm から閲覧可能）									
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	20%		
	グループで作成・実施する学習指導案・模擬授業	30%							0%	
	出席回数が全体の2/3未満である場合、単位は認めない。【フィードバック】毎回の講義の振り返りや模擬授業に対する講評は、講義時に全体にフィードバックするとともに、T-Naviにて配信する。									
授業計画	①オリエンテーション（授業計画、評価についての説明）、自身の学習経験の省察									
	②算数教育の目的・算数教育の目標の変遷									
	③算数科における資質・能力の育成									
	④算数科における授業づくりの理論									
	⑤「数と計算」領域の内容とその指導									
	⑥「図形」領域の内容とその指導									
	⑦「測定」「変化と関係」領域の内容とその指導									
	⑧「データの活用」領域の内容とその指導									
	⑨算数科における学習評価									
	⑩算数科における教材研究（情報通信技術(ICT)の活用を含む）									
	⑪指導計画・指導案の作成の方法									
	⑫指導計画・指導案の作成									
	⑬模擬授業の実施・協議①（「数と計算」領域、「図形」領域）									
	⑭模擬授業の実施・協議②（「測定」「変化と関係」領域、「データの活用」領域）									
	⑮まとめと総復習									

科目名	理科指導法							
英文科目名	Methods of Teaching about Science							
担当者名	並木雅俊							
科目ナンバリング	TED222							
授業の概要と到達目標	学習指導要領に基づき、①小学校理科の教育目標・内容を体系的に理解すること、②児童の認識発達を考慮しながら、自然の事物・現象に関する問題を体験を通じて科学的に解決する資質・能力を学びとること、③理科の授業展開と指導法・評価法を習得することを目的とする。理科の面白さを伝えること、観察 - 仮説 - 実験 - 考察の流れで考えること、児童の発達に合わせた観察・実験の工夫と安全対策を行うこと、教材研究の手法などを理科模擬授業の実践を通じて学び取ってもらう。本講義は、理科指導法を通して、高千穂大学の教員養成が目指す教員像の「現代社会の要請に応え得る見識と力量をもった教員」を達成するための科目である。							
授業の方法	基本的にアクティブ・ラーニング授業である。指導案作成の実践的学び、模擬授業を実施し、実践的に、小学校理科の教員として求められる基礎的資質を培う。履修者による質疑応答、それにディスカッションより学んでもらう。また学んだ知識は、事業内テストで確認する。							
予習と復習	予習（90分）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説：理科編』を読みこなしておくこと。 復習（90分）学習指導案の作成を中心とした模擬授業の準備、模擬授業から学んだことのまとめをしておくこと。							
テキスト等	テキスト：小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）参考書：安藤忠彦監修『小学校学習指導要領の解説と展開 理科編』（教育出版社）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	50%	平常点	20%
	レポートには学習指導案を含む			0%	平常点には模擬授業の評価を含む			0%
	模擬授業、学習指導案、他者の模擬授業レポート、それに授業内試験結果を総合的に評価する。授業内試験などの返却はしないが、全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画	①小学校学習指導要領理科の目標と内容/指導に求められる力							
	②学習指導要領 1（小学校理科第3学年の目標及び内容/指導の留意点）							
	③学習指導要領 2（小学校理科第4学年の目標及び内容/指導の留意点）							
	④学習指導要領 3（小学校理科第5学年の目標及び内容/指導の留意点）							
	⑤学習指導要領 4（小学校理科第6学年の目標及び内容/指導の留意点）							
	⑥授業づくり 1　－科学的な思考力と表現力－							
	⑦授業づくり 2　－安全な観察・実験－							
	⑧授業づくり 3　－観察・実験と問題解決の能力－							
	⑨授業づくり 4　－小学校理科におけるICT活用－							
	⑩学習指導案の作成（内容の構成、発問の仕方、教材の活用、評価を含む）							
	⑪模擬授業　－生命－							
	⑫模擬授業　－地球－							
	⑬模擬授業　－物質－							
	⑭模擬授業　－エネルギー－							
	⑮模擬授業の反省と振り返り・改善した学習指導案の作成							

科目名	生活科指導法							
英文科目名	Methods of Teaching about Life Studies							
担当者名	鈴木隆弘							
科目ナンバリング	TED223							
授業の概要と到達目標	小学校における生活科について理解し、その指導法を身に付け、小学校生活科の担当教員として求められる知識・資質・能力を身に付けることを本講義のテーマとする。講義では、実際の授業づくりを教材にしながら、実践的な指導力を身につけることを目的とする。学習指導要領の基本的な内容等について理解し、指導上の留意点を把握、評価方法について身に付けた上で、低学年における児童の認識等について理解する。また、学習指導案の作成と模擬授業を通じ、生活科がその教科成立以降代わることのない、子どもたちの「自立」を促せる教員となることを目標とする。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応える見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。							
授業の方法	アクティブラーニングとして、各回の授業ごとに、単元指導計画のグループ発表・工作物の作成・模擬授業・個人での学習指導案作成等の実習を実施します。							
予習と復習	予習（90分） 事前に指示された課題について準備をしてくること。復習（90分） 指摘された事項についての修正を行うこと。							
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編』、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 生活』その他教場で指示する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
	学習指導案		40%	模擬授業				40%
	1/3以上の欠席は単位認定しない。模擬授業・発表での無断欠席は認めない。授業に積極的に参加すること。平常点は、ミニレポート及び小テストによる。ミニレポート及び小テストは添削し、返却する。模擬授業は、指導の上、改善する。学習指導案は添削の上、返却する。							
授業計画	①生活科とは ー教科の歴史と「自立し生活を豊かにする」生活科ー							
	②学習指導要領1 ー教科の目標と全体構造ー							
	③学習指導要領2 ー学校、家庭及び地域の生活ー							
	④学習指導要領3 ー身近な人々、社会及び自然ー□							
	⑤学習指導要領4 ー自分自身の生活や成長ー							
	⑥学習指導要領5 ー方法的特徴と評価ー							
	⑦授業づくり1 ー低学年児童の特徴：その認識構造ー							
	⑧授業づくり2 ー気づき、思考・判断・表現、主体的に学びに向かう態度ー							
	⑨授業づくり3 ー気づきを促すための教材、ICT教材の活用、体験学習ー							
	⑩授業づくり4 ー学習指導案と評価規準ー							
	⑪教師による模擬授業と学習指導案づくり							
	⑫模擬授業「秋」 ー「自然と自分」の観点からー							
	⑬模擬授業「まちたんけん」 ー「社会と自分」の観点からー							
	⑭模擬授業「安全マップづくり」 ー「人々と自分」の観点からー							
	⑮模擬授業の振り返りと学習指導案の改善							

科目名	音楽科指導法							
英文科目名	Methods of Teaching about School Music							
担当者名	山本和寿							
科目ナンバリング	TED224							
授業の概要と到達目標	小学校音楽科学習指導要領の目標及び内容を理解し、音楽のよさや楽しさを感じ取り互いに共有しながら、思いや意図をもって表現活動できる授業を計画、実践できる力を身に付けます。また、授業づくりに必要な歌唱や器楽の技能も継続的に実習し授業に生かせるよう指導します。これまでの音楽科教員としての経験や現職教員研修、授業研究に携わっている経験を生かし、実際の教育現場におけるICTの効果的活用を含む授業実践を踏まえた指導を行います。この科目は本学が目指す「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成」を達成するための科目です。							
授業の方法	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編を中心とした講義。現行教科書を中心にグループワークによる授業づくりを行い、授業体験とディスカッションをとおしてさらに深まりのある授業づくりを目指します。（アクティブラーニング）							
予習と復習	予習（90分）次回の授業で取り上げる小学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編の内容を読んで要点をまとめる。 復習（90分）学習指導案は再考し訂正して模擬授業に臨むようにすること。模擬授業の後は経過や結果を振り返り、整理する。							
テキスト等	小学校学習指導要領解説 音楽編 （平成29年3月 文部科学省）小学生の音楽2年・3年・5年（教育芸術社）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	20%
	学習指導案		20%	模擬授業				40%
	レポートは毎授業のふり返しシート、模擬授業についての小レポートを2回程度提出します。レポート等は返却して個別に評価と所見を提示します。4回以上欠席した場合単位は認めません。							
授業計画	①音楽科教育の必要性							
	②歌唱及び器楽の授業の進め方と留意点							
	③「音楽づくり」の内容及び授業の進め方と留意点							
	④鑑賞の授業の進め方と留意点							
	⑤共通事項のとらえ方と授業との関連							
	⑥ICT（情報通信技術）の効果的な活用							
	⑦教材研究の方法 （歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞それぞれの授業の例を通して）							
	⑧音楽科の評価について （授業内容と授業の例及び児童理解を通して）							
	⑨学習指導案の作成							
	⑩児童の発達段階や実態に応じた授業の進め方							
	⑪模擬授業 授業内容や活動内容の伝え方及び発問と児童の答えや反応							
	⑫模擬授業：机間巡視の方法とグループ活動への関わり方							
	⑬模擬授業：歌唱及び器楽の授業の進め方							
	⑭模擬授業：音楽づくり及び鑑賞の授業の進め方							
	⑮まとめと総復習。模擬授業を振り返り授業改善の視点・留意点を把握し指導案を作成。							

科目名	図画工作科指導法							
英文科目名	Methods of Teaching about Arts and Crafts							
担当者名	奥長英樹							
科目ナンバリング	TED225							
授業の概要と到達目標	小学校の図画工作科における教育目標や育成すべき資質・能力について、演習を通して修得する科目。本学のディプロマポリシーである「教養と社会モラルを兼ね備えた人間教育を実践する」ために、造形活動を通じたコミュニケーションのあり方を理解し、子どもの発達段階に応じた豊かな視点や表現の多様さを尊重した指導力を身につけること、また小学校学習指導要領に示された目標、内容を理解したうえで適切な授業設計や演習をおこなう能力を修得することを目指す。情報通信技術を活用し、視覚的な題材開発も行う。							
授業の方法	講義と演習、また、模擬授業や図画工作の学習活動に実際に取り組むアクティブ・ラーニングを通して学ぶ。また、情報通信技術を活用し、図画工作科の指導案等を作成する。							
予習と復習	予習・復習については、その都度授業内で指示する。復習は主にその授業の振り返りを記録していく。							
テキスト等	テキストはその都度の学習により示す。原則自作の配布文書等を使用する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
	その都度の造形課題提出			40%	学習指導案提出と模擬授業の実施			60%
	授業の記録・模擬授業の授業設計などを行い、そこにコメント等でフィードバックしながら評価する。							
授業計画	①図画工作科の目標及び内容							
	②図画工作科における評価及び指導							
	③表現活動と評価（造形遊び）							
	④表現活動と評価（絵）							
	⑤表現活動と評価（立体）							
	⑥表現活動と評価（工作）							
	⑦鑑賞活動と対話型鑑賞（地域連携をふまえて）							
	⑧授業設計（各学年の特徴をふまえた情報機器及び教材の活用）							
	⑨授業設計（他教科との連携をふまえた情報機器及び教材の活用）							
	⑩学習指導案作成							
	⑪模擬授業の発表と討議（第1学年及び第2学年）							
	⑫模擬授業の発表と討議（第3学年及び第4学年）							
	⑬模擬授業の発表と討議（第5学年及び第6学年）							
	⑭模擬授業の発表と討議（地域や他教科との連携）							
	⑮グループディスカッションによる模擬授業のふりかえり							

科目名	家庭科指導法							
英文科目名	Methods of Teaching about Home Economics Education							
担当者名	横山みどり							
科目ナンバリング	TED226							
授業の概要と到達目標	学習指導要領における小学校家庭科の目標、内容構成並びに内容を、児童の実態を踏まえて理解することができる。また、児童の手の巧緻性や心身の発達を踏まえ、安全に配慮しつつそのよさを引き出す授業のつくり方、活動の進め方、評価の仕方などについての要点を、つかみ、主体的に授業を計画・運営できる力を付ける。小学校における長年の教員経験(現在を含む)を活かし、今日的な課題(少子高齢化・児童虐待の増加 など)に配慮した授業づくりや、実際の授業場面について指導する。これは、本学が目指す「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成」と重なるところが大きい。							
授業の方法	授業の立案の仕方を学ぶとともに、他の受講生に対して模擬授業を行う。個々の指導案や模擬授業について受講者同士で意見を交換(アクティブラーニング)し高め合う。							
予習と復習	予習(90分):模擬授業の取り組みは各自が調べ指導案の作成や資料の準備などを進めていく。自分が工夫したことや上手くいかない点など、他の受講生が模擬授業を受ける視点を考える。復習(90分):授業で話し合ったことをもとに自分の課題を検討し、更に必要な点を調べる。							
テキスト等	テキスト:小学校学習指導要領解説 家庭編(平成29年6月 文部科学省)その他に適宜プリントを配布するので、A4サイズのファイルを用意すること。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%
	課題提出		30%	授業指導案作成と模擬授業				50%
	33分の1以上の欠席は単位を認めない。(オンラインの場合は課題提出を出席とみなす)							
授業計画	①子どもと家庭科							
	②子どもの実態と学習指導要領(目標、内容構成)							
	③「身近な消費生活」の内容と方法(小学校の消費者教育とは?)							
	④「身近な消費生活と環境」の授業づくり実習							
	⑤食生活教育の内容と方法(家庭科の食育とは?)							
	⑥調理の基礎・基本と実習(洗う、切る、加熱する、盛り付ける)							
	⑦実習指導の実際、教材づくり(調理題材①)(野菜の調理、ゆでる・炒める)							
	⑧実習指導の実際、教材づくり(調理題材②)(炊飯・味噌汁作り)							
	⑨実習指導の実際、教材づくり(被服題材①)(布の特徴と裁縫の基礎)							
	⑩実習指導の実際、教材づくり(被服題材②)(ミシン縫いで教材製作)							
	⑪住生活教育の内容と方法							
	⑫年間指導計画、指導案の立て方、授業における情報通信技術の効果的な活用							
	⑬模擬授業づくり							
	⑭模擬授業相互評価							
	⑮評価の方法、講義のまとめ							

科目名	体育科指導法								
英文科目名	School of Health & Physical Education								
担当者名	清水由								
科目ナンバリング	TED227								
授業の概要と到達目標	本授業は、担当教員の学校現場での実務経験を活かし、すぐに現場で使える体育授業の指導方法についてわかりやすく指導する。小学校における体育科の授業の目的・内容・方法について理解し、学習指導要領の領域ごとの視点から具体的な目的・内容・方法について模擬授業の体験や実技を中心に経験していくことでより深い理解へと繋げていく。また、それらの模擬授業・実技や内容理解を通して小学校教員として必要な知識と技能を身につける。本学の学部ディプロマポリシーの1つである「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる力」を身につけるための科目である。遠隔授業を行う場合、安全確保のために、運動を行う場合はケガ等に十分注意して行い、万が一ケガ等が生じた場合は、速やかにグーグルクラスルームにて連絡すること。授業計画は、順不同で行い、授業準備に支障が無いようにする。								
授業の方法	授業づくりの解説の後、毎回模擬授業（アクティブ・ラーニング）を実施する。感染状況によっては遠隔授業とする。自主的な学習を促進するために、レポート課題を行う。								
予習と復習	予習（45分） これまでに経験してきた体育授業を振り返る。体育授業の構造を学び、模擬授業を考える。復習（45分） 実際に学んだ運動ができるように繰り返し練習することで子どもに見せることができるようにする。								
テキスト等	テキスト：小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年7月 文部科学省）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	25%	平常点	25%	
	学習指導案		20%		模擬授業			30%	
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】 毎授業ごとに模擬授業についてコメントを返す。毎回授業後に感想を受け、次時で質問等に答える。								
授業計画	①オリエンテーション 体育科の目標と内容、学習指導案の作り方								
	②模擬授業の見本、よい体育授業の条件と教師の役割、ICT機器のシンプルな使い方								
	③模擬授業 体づくり運動の指導と方法								
	④模擬授業 低～中学年のマット運動の指導と方法								
	⑤模擬授業 高学年のマット運動の指導と方法								
	⑥模擬授業 低～中学年の跳び箱運動の指導と方法								
	⑦体育授業を観察評価する 期間記録、ICT機器の活用								
	⑧模擬授業 短なわとびの指導と方法								
	⑨模擬授業 長なわとびの指導と方法								
	⑩模擬授業 おに遊びの指導と方法								
	⑪模擬授業 ボール運動ゴール型の指導と方法								
	⑫模擬授業 ボール運動ネット型の指導と方法								
	⑬模擬授業 ボール運動ベースボール型の指導と方法								
	⑭体育授業を観察評価する フィードバック行動								
	⑮まとめと総復習								

科目名	道徳教育論(小学校免許用)							
英文科目名	Principle of Moral Education							
担当者名	松丸啓子							
科目ナンバリング	TED228							
授業の概要と到達目標	本講義においては、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けます。こうした学習は、本学における教員養成の目標の一つである「商学をはじめ、教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教員の養成」の基盤を形成するものとしても意義を持つものです。							
授業の方法	前半は、授業計画に従って配布資料や板書内容を手がかりに講義を行います。後半は、受講生各自による道徳教育に関する教材研究報告を手がかりにディスカッションを実施するという、アクティブラーニング形式で授業を展開します。							
予習と復習	「予習（90分）」：講義前には、配布したプリントに目を通し、学習する内容を予習してくるようにならしてください。 「復習（90分）」：講義後には、プリントやノートを整理しながら、講義内容を復習しておきましょう。							
テキスト等	小学校学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省）小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年6月文部科学省）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
	教材研究・模擬授業		60%					0%
	平常点として、講義中の質疑に対する応答やディスカッションへの参加状況等を評価の対象とします。1／3以上欠席の場合は評価の対象としません。上記の方法で総合的に評価します。							
授業計画	①道徳教育の意義と原理							
	②日本の道徳教育(1)明治期							
	③日本の道徳教育(2)大正期							
	④日本の道徳教育(3)昭和期							
	⑤日本の道徳教育(4)平成期							
	⑥世界の道徳教育(総論)							
	⑦世界の道徳教育(各論)							
	⑧現代の道徳教育の課題							
	⑨教材研究(1)小学1・2・3年							
	⑩教材研究(2)小学4・5・6年							
	⑪学習指導案(1)小学1・2・3年							
	⑫学習指導案(2)小学4・5・6年							
	⑬模擬授業(1)小学1・2・3年							
	⑭模擬授業(2)小学4・5・6年							
	⑮まとめと総復習							

科目名	道徳教育論(中・高校免許用)							
英文科目名	Principle of Moral Education							
担当者名	松丸啓子							
科目ナンバリング	TED228							
授業の概要と到達目標	本講義においては、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けます。こうした学習は、本学における教員養成の目標の一つである「商学をはじめ、教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教員の養成」の基盤を形成するものとしても意義を持つものです。							
授業の方法	前半は、授業計画に従って配布資料や板書内容を手がかりに講義を行います。後半は、受講生各自による道徳教育に関する教材研究報告を手がかりにディスカッションを実施するという、アクティブラーニング形式で授業を展開します。							
予習と復習	「予習(90分)」：講義前には、配布したプリントに目を通し、学習する内容を予習してくるようにならしてください。 「復習(90分)」：講義後には、プリントやノートを整理しながら、講義内容を復習しておきましょう。							
テキスト等	中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領解説 道徳編(平成27年7月 文部科学省)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
	教材研究・模擬授業		60%					0%
	平常点として、講義中の質疑に対する応答やディスカッションへの参加状況等を評価の対象とします。1/3以上欠席の場合は評価の対象としません。上記の方法で総合的に評価します。							
授業計画	①道徳教育の意義と原理							
	②日本の道徳教育(1)明治期							
	③日本の道徳教育(2)大正期							
	④日本の道徳教育(3)昭和期							
	⑤日本の道徳教育(4)平成期							
	⑥世界の道徳教育(総論)							
	⑦世界の道徳教育(各論)							
	⑧現代の道徳教育の課題							
	⑨教材研究(1)中学1～2年							
	⑩教材研究(2)中学2～3年							
	⑪学習指導案(1)中学1～2年							
	⑫学習指導案(2)中学2～3年							
	⑬模擬授業(1)中学1～2年							
	⑭模擬授業(2)中学2～3年							
	⑮まとめと総復習							

科目名	特別活動(小学校免許用)							
英文科目名	Extra Curricular Activities							
担当者名	鈴木隆弘							
科目ナンバリング	TED230							
授業の概要と到達目標	特別活動は、学校生活や学級生活において生じるさまざまな課題解決を行い、望ましい集団を形成し、よりよい学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。本講義においては、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点をふまえ、活動領域ごとの違い、低学年・中学年・高学年といった学年における違いを理解し、各教科等との関連性、地域住民との連携や学校における組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえ、その指導に必要とされる知識や素養を身に付けることを目的とする。本講義では、教育課程における「特別活動」について、①その役割と意義を理解すること、②学習指導要領にある「人間関係形成」などの視点をふまえた学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事が展開できること、③各活動領域の意義等を理解することを目標とする。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。							
授業の方法	毎回の授業は、アクティブラーニングとして、グループワークを中心にした課題発表、模擬授業、学習指導案の作成を行います。学習指導案は添削し、修正、再提出を行います。							
予習と復習	予習（90分） 課題に取り組む。復習（90分） 学習指導要領解説の読み直し及び、添削された学習指導案の修正、模擬授業で指摘された事項の改善を行う。							
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)特別活動編』、国立教育政策研究所教育課程研究センター編『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)(特別活動指導資料)』、その他教場で指示する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	0%
	学習指導案		30%	模擬学級会及び模擬授業				40%
出席は評価の前提であり、1/3以上の欠席は単位認定しない。レポートは、小テスト及び小レポートの合計。各授業においてコメントシートを添削。学習指導案を事前に提出し添削を受ける。最終回においては、レポート作成、添削。								
授業計画	①特別活動の基本的性格 ー学校における特別活動の意味ー							
	②教育課程上における特別活動の意味							
	③特別活動の目標 ー「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点からー							
	④特別活動の活動内容 1 ー学級活動ー							
	⑤特別活動の活動内容 2 ー児童会活動ー							
	⑥特別活動の活動内容 3 ークラブ活動と学校行事ー							
	⑦特別活動と他教科等の関係							
	⑧年間指導計画の検討 ー学校全体の教育計画と特別活動の位置ー							
	⑨児童の学校生活と話し合い活動の計画 ーPDCAサイクルと特別活動ー							
	⑩模擬学級会（1） ー準備ー							
	⑪模擬学級会（2） ー実施及び振り返りー							
	⑫模擬授業（1） ー学級活動内容（2） 食育を中心にー							
	⑬模擬授業（2） ー学級活動内容（3） キャリア教育ー							
	⑭チーム学校と学校行事を中心とした地域住民等との連携							
	⑮全体のまとめと模擬学級会・模擬授業の振り返り							

科目名		特別活動(中・高校免許用)							
英文科目名		Extra Curricular Activities							
担当者名		鈴木隆弘							
科目ナンバリング		TED230							
授業の概要と到達目標	特別活動は、学校生活や学級生活において生じるさまざまな課題解決を行い、望ましい集団を形成し、よりよい学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。本講義においては、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点をふまえ、活動領域ごとの違い、中学校・高等学校といった学校段階、各学校段階に学年の違いを理解し、各教科等との関連性、地域住民との連携や学校における組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえ、その指導に必要とされる知識や素養を身に付けることを目的とする。本授業では、教育課程における「特別活動」について、①その役割と意義を理解すること、②学習指導要領にある「人間関係形成」などの視点をふまえた学級活動（ホームルーム活動）・生徒会活動・学校行事が展開できること、③各活動領域の意義等を理解することを目指す。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。								
授業の方法	アクティブラーニングとして、毎回の授業でのリアクションペーパーの提出とそれを踏まえたディスカッションを実施します。他に、発表（プレゼンテーション）や学習指導案の作成、模擬授業等の実習を実施します。								
予習と復習	予習（90分） 教場で指示された課題に取り組むこと。復習（90分） 指摘・添削されたものを修正すること。また、授業内容についてプリントをもとに復習すること。								
テキスト等	文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』、文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編』、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校特別活動』他								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	0%	
	学習指導案			30%	模擬授業			40%	
	出席は評価の前提であり、1/3以上の欠席は単位認定しない。レポート点は、内容確認の小テストと課題/課題発表である。【フィードバック】コメントシートを配布し添削する。学級計画・学習指導案を事前に提出し添削添削を受ける。最終15回はレポートを作成する。								
授業計画	①特別活動の基本的性格 ー学校における特別活動の意味ー								
	②教育課程上における特別活動の意味								
	③特別活動の目標 ー「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点からー								
	④特別活動の活動内容 1 ー学級活動・ホームルーム活動ー								
	⑤特別活動の活動内容 2 ー生徒会活動ー								
	⑥特別活動の活動内容 3 ー学校行事、部活動の取扱いー								
	⑦特別活動と他教科等の関係								
	⑧年間指導計画の検討 ー学校全体の教育計画と特別活動の位置ー								
	⑨話し合い活動を通じたクラス・ホームルームづくり ーPDCAサイクルと特別活動ー								
	⑩クラスで修学旅行の計画を立てよう（1） ー話し合い活動の準備ー								
	⑪クラスで修学旅行の準備をしよう（2） ー話し合い活動の実施及び反省ー								
	⑫模擬授業（1） ー学級活動内容（2） ボランティア活動の意義を中心にー								
	⑬模擬授業（2） ー学級活動内容（3） キャリア教育・就職指導を中心にー								
	⑭チーム学校と学校行事を中心とした地域住民等との連携								
	⑮まとめと振り返り								

科目名		教育方法(小学校免許用)							
英文科目名		Methods of Teaching about Education							
担当者名		望月耕太							
科目ナンバリング		TED232							
授業の概要と到達目標	現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師として、子どもたちの発達過程を理解すると共に、子どもたちがより良く生きていくために求められる資質・能力を育成するために、どのような教授法、学習形態や教育評価があるのかを知る。次に、教育の目的に適した指導技術を理解し、授業設計のあり方と授業設計を支える教材の研究・開発について学ぶ。その上で、情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な知識・方法、校務の推進の在り方に対する理解を深め、情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法について学修する。								
授業の方法	各授業ではディスカッション、グループワーク等の能動的学修を行う（アクティブラーニング）。								
予習と復習	予習（90分）授業で扱うテーマに関して、資料や文献を読み理解を深めてくること。復習（90分）配布プリントを読み復習すること。								
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』、その他プリントを配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	30%	平常点	0%	
				0%					0%
	1/3以上の欠席または1/3以上の課題の提出忘れば単位認定しない。								
授業計画	①シラバスの記載事項についての確認、教育方法を学ぶ意義と授業目標								
	②児童に求められる能力とその能力を育成するための教育方法								
	③初等教育における教育方法の思想と歴史								
	④学習科学の知見に基づく初等教育における教育理論と実践								
	⑤初等教育の授業における発問と板書の意義								
	⑥初等教育における教育評価の理論と実践								
	⑦初等教育における学習指導案を作成するための教材の研究・開発の方法								
	⑧初等教育にICTを活用する意義								
	⑨初等教育における情報モラル								
	⑩情報通信技術に関わる教育支援人材との連携による初等教育実践								
	⑪オンラインによる初等教育の授業の意義や実践例								
	⑫デジタル教材やインターネットを活用した初等教育実践								
	⑬LMS等の教育データ・校務システムを活用した初等教育実践								
	⑭個々の児童に応じた指導を実現するためのICT活用								
	⑮これまでの課題検討と振り返り								

科目名		教育方法(中・高校免許用)							
英文科目名		Methods of Teaching about Education							
担当者名		望月耕太							
科目ナンバリング		TED232							
授業の概要と到達目標	現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師として、子どもたちの発達過程を理解すると共に、子どもたちがより良く生きていくために求められる資質・能力を育成するために、どのような教授法、学習形態や教育評価があるのかを知る。次に、教育の目的に適した指導技術を理解し、授業設計のあり方と授業設計を支える教材の研究・開発について学ぶ。その上で、情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な知識・方法、校務の推進の在り方に対する理解を深め、情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法について学修する。								
授業の方法	各授業ではディスカッション、グループワーク等の能動的学修を行う（アクティブラーニング）。								
予習と復習	予習（90分）授業で扱うテーマに関して、資料や文献を読み理解を深めてくること。復習（90分）配布プリントを読み復習すること。								
テキスト等	文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編」、文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編」、その他教場で指示する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	30%	平常点	0%	
				0%				0%	
	1/3以上の欠席または1/3以上の課題の提出忘れば単位認定しない。								
授業計画	①シラバスの記載事項についての確認、教育方法を学ぶ意義と授業目標								
	②生徒に求められる能力とその能力を育成するための教育方法								
	③中等教育における教育方法の思想と歴史								
	④学習科学の知見に基づく中等教育における教育理論と実践								
	⑤中等教育の授業における発問と板書の意義								
	⑥中等教育における教育評価の理論と実践								
	⑦中等教育における学習指導案を作成するための教材の研究・開発の方法								
	⑧中等教育にICTを活用する意義								
	⑨中等教育における情報モラル								
	⑩情報通信技術に関わる教育支援人材との連携による中等教育実践								
	⑪オンラインによる中等教育の授業の意義や実践例								
	⑫デジタル教材やインターネットを活用した中等教育実践								
	⑬LMS等の教育データ・校務システムを活用した中等教育実践								
	⑭個々の生徒に応じた指導を実現するためのICT活用								
	⑮これまでの課題検討と振り返り								

科目名	生徒指導論(小学校免許用)							
英文科目名	Student Instruction							
担当者名	崔玉芬							
科目ナンバリング	TED234							
授業の概要と到達目標	人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。生徒指導は学校教育現場において、教科指導とともに大切な教育活動である。変化の激しい社会において、今日の教育では子どもたちの「生きる力」を育むことが求められている。授業では、生徒指導の概念、理念、意義、組織と運営、方法などの知識を身につける。人間の成長と発達において、現代の児童・生徒が抱えている問題を理解したうえで、教師として生徒理解と支援方法について、具体的な事例を用いて理解、考察する。生徒指導において、他の教職員や関係機関と連携をしながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。現場経験豊かな外部講師を招き、現場での取組みについて理解を深める。＜到達目標＞（1）生徒指導の意義や原理を理解する。（2）現代の児童・生徒が抱えている問題や生徒指導上の課題を理解する。（3）児童・生徒を支援・指導する基礎力を身につく。（4）児童・生徒指導のあり方を理解する。							
授業の方法	講義形式。授業時に、グループワーク、ディスカッション、ペア学習などのアクティブラーニングを行う。また、一部の授業においては、教育現場経験豊かな外部講師を招き、教育現場の話を伺う。							
予習と復習	予習（90分）：シラバス記載の当該章に目を通し、キーワードを調べてまとめる。復習（90分）：授業で配布した資料やノートを再読し、授業内容を見直す。							
テキスト等	教科書：使用しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考書：石隈利紀・庄司一子（編）『生徒指導とカウンセリング』共同出版 文部科学省『生徒指導提要』ほかの参考書は講義中に紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	第8回目と15回目に授業内試験を実施する。各成績の40%を占める成績となるため、基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取組みも含まれる。理由のない欠席の合計が5回以上は不合格とする。							
授業計画	①生徒指導の歴史と発展、意義と必要性							
	②生徒指導の計画、実践、課題							
	③生徒指導の組織と運営							
	④生徒指導における組織的取組み―危機管理							
	⑤積極的な生徒指導と道德教育							
	⑥生徒指導とキャリア教育							
	⑦生徒指導における今日的な課題―スマートフォン、SNS、インターネットなど							
	⑧授業内試験①と解説							
	⑨生徒指導の事例①不登校							
	⑩生徒指導の事例②いじめ							
	⑪生徒指導の事例③反社会的行動							
	⑫生徒指導の事例④発達障害							
	⑬生徒指導における予防的取組み①構成的グループエンカウンター							
	⑭生徒指導における予防的取組み②対人関係ゲーム							
	⑮授業内試験②と総まとめ							

科目名	生徒指導論(中・高校免許用)							
英文科目名	Student Instruction							
担当者名	崔玉芬							
科目ナンバリング	TED234							
授業の概要と到達目標	人間科学部のディプロマポリシー「人間の発達過程を学び、生活における危機管理や社会保障の知識を身につけた人材」を育成するための科目である。生徒指導は学校教育現場において、教科指導とともに大切な教育活動である。変化の激しい社会において、今日の教育では子どもたちの「生きる力」を育むことが求められている。生徒指導の概念、理念、意義、組織と運営、方法などの知識を身につける。人間の成長と発達において、現代の児童・生徒が抱えている問題を理解したうえで、教師として生徒理解と支援方法について、具体的な事例を用いて理解、考察する。また授業では、生徒指導において、他の教職員や関係機関と連携をしながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。現場経験豊かな外部講師を招き、現場での取組みについて理解を深める。＜到達目標＞（１）生徒指導の意義や原理を理解する。（２）現代の児童・生徒が抱えている問題や生徒指導上の課題を理解する。（３）児童・生徒を支援・指導する基礎力を身につく。（４）児童・生徒指導のあり方を理解する。							
授業の方法	講義形式。授業時に、グループワーク、ディスカッション、ペア学習などのアクティブラーニングを行う。また、一部の授業においては、教育現場経験豊かな外部講師を招き、教育現場の話を伺う。							
予習と復習	予習（90分）：シラバス記載の当該章に目を通し、キーワードを調べてまとめる。復習（90分）：授業で配布した資料やノートを再読し、授業内容を見直す。							
テキスト等	教科書：使用しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考書：石隈利紀・庄司一子（編）『生徒指導とカウンセリング』共同出版 文部科学省『生徒指導提要』ほかの参考書は講義中に紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	第8回目と15回目に授業内試験を実施する。それぞれ成績の40%を占める成績となるため、基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取組みも含まれる。理由のない欠席の合計が5回以上は不合格。							
授業計画	①生徒指導の歴史と発展、意義と必要性							
	②生徒指導の計画、実践、課題							
	③生徒指導の組織と運営							
	④生徒指導における組織的取組み―危機管理							
	⑤積極的な生徒指導と道德教育							
	⑥生徒指導とキャリア教育							
	⑦生徒指導における今日的な課題―スマートフォン、SNS、インターネットなど							
	⑧授業内試験①と解説							
	⑨生徒指導の事例①不登校							
	⑩生徒指導の事例②いじめ							
	⑪生徒指導の事例③反社会的行動							
	⑫生徒指導の事例④発達障害							
	⑬生徒指導における予防的取組み①構成的グループエンカウンター							
	⑭生徒指導における予防的取組み②対人関係ゲーム							
	⑮授業内試験②と総まとめ							

科目名	教育相談の基礎(小学校免許用)							
英文科目名	Consultation of Educational Counseling							
担当者名	崔玉芬							
科目ナンバリング	TED236							
授業の概要と到達目標	<講義概要>人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を育成するための科目である。教育相談の理論と技法および生徒理解の方法を学習し、実際の学校現場で生徒に相談活動を行うための知識を身につける。ビデオ視聴による事例検討、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイングなどのアクティブラーニングを通して、生徒への援助の技術を学習・習得する。学校で生じる「問題行動」だけでなく、学校に持ち込まれる家族や仲間関係の問題、発達障害の支援等にも触れ、連携の必要性・方法や守秘義務、職業倫理の問題など、教育相談をめぐる諸問題についても理解を深める。現場経験豊かな外部講師を招き、現場での取組みの理解を深める。<到達目標>(1)教育相談の意義と理論について説明できる。(2)「聴く」、「話す」などカウンセリングの基本的なかわり技法を習得し実行することができる。(3)子ども理解のために必要な知識と方法及び今日の教育的課題について心理学的視点から説明できる。							
授業の方法	講義形式。授業時に、グループワーク、ディスカッション、ペア学習などのアクティブラーニングを行う。また、一部の授業においては、教育現場経験豊かな外部講師を招き、教育現場の話を伺う。							
予習と復習	予習（90分）：シラバス記載の当該章に目を通し、キーワードを調べてまとめる。復習（90分）：授業で配布した資料やノートを再読し、授業内容を見直す。							
テキスト等	教科書：使用せず、必要に応じてレジュメ配布。参考書：庄司一子（監）杉本希映・五十嵐哲也（編）（2010）「児童・生徒への指導と援助」ナカニシヤ出版 石隈利紀・庄司一子（編）（2014）「生徒指導とカウンセリング」協同出版ほかの参考書は講義中紹介							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	第8回目と15回目に授業内試験を実施する。各成績の40%を占める成績となるため、基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取組みも含まれる。理由のない欠席の合計が5回以上は不合格とする。							
授業計画	①教育相談とは							
	②教育相談における心理教育的アセスメント							
	③カウンセリング技法①—非言語的側面に関わる技法							
	④カウンセリング技法②—聴き方							
	⑤カウンセリング技法③—質問の仕方							
	⑥カウンセリング技法④—励まし、言いかえ、要約、意味の反映、感情の反映							
	⑦チーム援助とコンサルテーション							
	⑧授業内試験①と解説							
	⑨教育相談の事例①不登校—基本方針、教育相談計画の立て方・進め方について							
	⑩教育相談の事例②いじめ—基本的構造とプロセス、学校組織としての対応について							
	⑪教育相談の事例③反社会的行動—歴史と現状、対応ポイントについて							
	⑫教育相談の事例④発達障害—特徴理解、家族や専門機関との連携について							
	⑬心理的成長を促し問題を未然に防ぐ心理教育							
	⑭心理教育の実践							
	⑮授業内試験②と総まとめ							

科目名	教育相談の基礎(中・高校免許用)							
英文科目名	Consultation of Educational Counseling							
担当者名	崔玉芬							
科目ナンバリング	TED236							
授業の概要と到達目標	いじめや不登校・非行などの学校現場で直面する諸問題から、その行動を理解する心理学理論の学習と関わり方について検討する。また生徒の自己有用感や問題対処能力を上げるための開発的教育相談の知識を身に付けることも到達目標とする。このためグループエンカウンター・ピアサポートといった、開発的教育相談活動の指導案作成能力も到達目標とする。さらに模擬授業を通じて、教育相談の計画の作成や、校内外の組織的な取り組みを計画する能力を獲得することを到達目標とする。次にロールプレイを通じて、児童生徒のSOSのサインに気づく能力などの予防的教育相談を学ぶのみならず、問題解決的教育相談実施のための、カウンセリングマインドの必要性や、来談者中心的療法に基づくカウンセリング技法の獲得を到達目標とする。特に言語化が不得意な小学生と比べ、言語による交流がある程度可能な中高生への教育相談能力獲得のため、口頭面談における注意事項や、受け答えの際の技法といった知識・能力の獲得に力を入れる。個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材を育成するための科目である。							
授業の方法	講義形式の授業となる。また、ロールプレイや模擬事例を用いたグループワーク（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。併せて、授業者の実務経験に基づき、「通常学級における、多様な子どもへの理解と支援」につながる取り組みも適宜紹介する。							
予習と復習	予習（90分）として、シラバスに記載されているキーワードを調べ、まとめておくこと。また、2回目以降からは、テキストの関係する章を読んでおくことが望ましい。復習（90分）として、授業で配付された資料や、テキストの関係する章を再読すること。							
テキスト等	杉森伸吉・松尾直博・上淵寿 共編著『コアカリキュラムで学ぶ教育心理学』（2020）（培風館）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	20%
				0%				0%
	9回目と14回目に授業内試験を実施予定。それぞれ成績の40%を決める試験となる為、基本的にその回に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取り組みも含まれる。無断での遅刻欠席が合計5回以上は不合格。							
授業計画	①学校現場における教育相談の意義と理論 - 心理臨床カウンセリングとの違いについて -							
	②教育相談及び心理臨床に関わる心理的技法について - 面談における態度・技法の獲得 -							
	③予防的教育相談1 - 児童生徒のSOSサインに気づく -							
	④予防的教育相談2 - ストレスマネジメント							
	⑤来談者中心療法1 - カウンセリングマインドと傾聴技法の獲得 -							
	⑥来談者中心療法2 - ロールプレイを用いてカウンセリングの3条件の演習 -							
	⑦学内外の協力関係の構築1 - 教育相談担当に求められる能力とその活動 -							
	⑧学内外の協力関係の構築2 - 医療・福祉・心理などの専門家・専門機関との連携 -							
	⑨授業内試験①と解説							
	⑩発達段階に応じたメンタルヘルス - アセスメント技法・質問紙技法の獲得 -							
	⑪開発的教育相談の指導案作成と模擬授業・校内整備1 - グループエンカウンター -							
	⑫開発的教育相談の指導案作成と模擬授業・校内整備2 - ピアサポート活動 -							
	⑬開発的教育相談の指導案作成と模擬授業・校内整備3 - アサーショントレーニング -							
	⑭授業内試験②と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	進路指導(小学校免許用)							
英文科目名	Career Guidance and Counseling							
担当者名	黒川雅之							
科目ナンバリング	TED238							
授業の概要と到達目標	アメリカにおいてキャリアガイダンス&カウンセリング（進路指導）はボケーショナルガイダンス&カウンセリング（職業指導）に始まり、焦点をボケーションからキャリアに移し、同時に、その目的も方法も変化し、発展してきた。そして、カウンセリングはその中核的役割を担うとされる。進路指導は、アメリカで生まれたキャリア・ガイダンス&カウンセリングの日本語訳であり、児童生徒の社会的自立へ向けての援助である。本科目は、これらの背景を踏まえ、教師が実際の教育現場で、これを具現化する方策を考察する。また、本科目は、すべての教科教育科目と密接に関連する。その関連性を理解した上で「教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教師」の育成を目指す。							
授業の方法	一部の授業で職業レディネステストの受検体験、カウンセリング事例のグループディスカッションなどのアクティブラーニングを行う。テストの受検料として300円程度の負担をお願いしたい。							
予習と復習	予習90分 講義時に、予習テーマを提示するので、次回までにレポートにまとめておくこと。							
テキスト等	参考文献：「キャリアカウンセリング入門」（2001） 渡辺三枝子、E.H.ハー著 ナカニシヤ出版 「学校に生かすカウンセリング」第2版（1997） 渡辺三枝子、橋本幸晴、内田雅顕著 ナカニシヤ出版 「小学校キャリア教育の手引き」（改訂版）文部科学省							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	10%
	授業内での発言や積極性			10%				0%
授業計画	①進路指導の概念と授業方針							
	②キャリアの概念							
	③カウンセリングの概念							
	④進路指導の歴史的展開							
	⑤進路指導の理論的基礎 構造論的アプローチ							
	⑥進路指導の理論的基礎 発達論的アプローチ							
	⑦進路指導の理論的基礎 社会学習論的アプローチ							
	⑧職業レディネステスト受検体験							
	⑨職業レディネステスト結果による自己探索体験、解説							
	⑩キャリア教育の概念と目的							
	⑪キャリア教育の組織と実践計画							
	⑫キャリアカウンセリングのプロセスとカウンセラーに求められる必要な態度							
	⑬キャリアカウンセリング事例の検討、討議							
	⑭キャリアカウンセリングのまとめと解説							
	⑮全体のまとめと解説							

科目名		教育実践研究A(小学校免許用)							
英文科目名		Study of Educational Practice A							
担当者名		早坂めぐみ							
科目ナンバリング		TED301							
授業の概要と到達目標		本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる教員となるための見識や力量を培う教師の養成」を目的とする。教育実践研究は3年次の秋学期に「教育実践研究A」、4年次の春学期に「教育実践研究B」として継続的に行われる。「教育実践研究A」は、教育実習のための事前指導を行う。本科目では教育実習の意義と制度を理解するとともに、教師の資質や専門性について考察し、模擬授業とその準備を通じて実習生としての授業力を養う。教育実習生として学校の教育活動に参画できる水準にまで、意識や技量を高めることが到達目標である。							
授業の方法		教育実習を想定し、アクティブラーニングとして模擬授業とディスカッションを中心に授業を進める。							
予習と復習		予習（90分）事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をノートにまとめておくこと。復習（90分）模擬授業を振り返り、さらなる教材研究と指導案作成および修正を行うこと。							
テキスト等		筒井美紀・遠藤野ゆり著『ベストをつくす教育実習』（有斐閣）							
評価方法		定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	0%
		模擬授業				50%	0%		
		欠席回数が3回以上の場合、不合格とする。遅刻・早退は2回で、欠席1回として扱う。模擬授業の評価には指導案に関する評価を含める。授業内で個別に所見を提示する。レポートは、返却して全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画		①教育実習の制度的側面―法律・大学・学校の論理							
		②教師の資質とは何か―教育実習に行くまでのトレーニング							
		③「教職専門性」の基礎を問われる実習生							
		④学習指導案の基本―指導案の構成							
		⑤学習指導案の3段階目標							
		⑥模擬授業①、学習指導案のレベル・アップ							
		⑦模擬授業②、学習指導案と模擬授業							
		⑧模擬授業③、アクティブラーニングの基本と実践							
		⑨模擬授業④、学校・生徒の実態と実習の課題							
		⑩模擬授業⑤							
		⑪模擬授業⑥							
		⑫模擬授業⑦、『教育実習の常識』（実習に臨む姿勢など）							
		⑬模擬授業⑧、『教育実習の常識』（事前打ち合わせなど）							
		⑭模擬授業⑨、『教育実習の常識』（守秘義務など）							
		⑮まとめと総復習							

科目名		教育実践研究A(中・高校免許用)							
英文科目名		Study of Educational Practice A							
担当者名		早坂めぐみ							
科目ナンバリング		TED302							
授業の概要と到達目標		本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる教員となるための見識や力量を培う教師の養成」を目的とする。教育実践研究は3年次の秋学期に「教育実践研究A」、4年次の春学期に「教育実践研究B」として継続的に行われる。「教育実践研究A」は、教育実習のための事前指導を行う。本科目では教育実習の意義と制度を理解するとともに、教師の資質や専門性について考察し、模擬授業とその準備を通じて実習生としての授業力を養う。教育実習生として学校の教育活動に参画できる水準にまで、意識や技量を高めることが到達目標である。							
授業の方法		教育実習を想定し、アクティブラーニングとして模擬授業とディスカッションを中心に授業を進める。							
予習と復習		予習（90分）事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をノートにまとめておくこと。復習（90分）模擬授業を振り返り、さらなる教材研究と指導案作成および修正を行うこと。							
テキスト等		筒井美紀・遠藤野ゆり著『ベストをつくす教育実習』（有斐閣）							
評価方法		定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	0%
		模擬授業				50%	0%		
		欠席回数が3回以上の場合、不合格とする。遅刻・早退は2回で、欠席1回として扱う。模擬授業の評価には指導案に関する評価を含める。授業内で個別に所見を提示する。レポートは、返却して全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画		①教育実習の制度的側面―法律・大学・学校の論理							
		②教師の資質とは何か―教育実習に行くまでのトレーニング							
		③「教職専門性」の基礎を問われる実習生							
		④学習指導案の基本―指導案の構成							
		⑤学習指導案の3段階目標							
		⑥模擬授業①、学習指導案のレベル・アップ							
		⑦模擬授業②、学習指導案と模擬授業							
		⑧模擬授業③、アクティブラーニングの基本と実践							
		⑨模擬授業④、学校・生徒の実態と実習の課題							
		⑩模擬授業⑤							
		⑪模擬授業⑥							
		⑫模擬授業⑦、『教育実習の常識』（実習に臨む姿勢など）							
		⑬模擬授業⑧、『教育実習の常識』（事前打ち合わせなど）							
		⑭模擬授業⑨、『教育実習の常識』（守秘義務など）							
				⑮まとめと総復習					

科目名	教育実践研究B(小学校免許用)							
英文科目名	Study of Educational Practice B							
担当者名	早坂めぐみ							
科目ナンバリング	TED401							
授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる教員となるための見識や力量を培う教師の養成」を目的とする。教育実践研究は3年次の秋学期に「教育実践研究A」、4年次の春学期に「教育実践研究B」として、継続的に行われる。「教育実践研究B」は、4年次の5月～6月頃に行う教育実習のための事前・事後指導を行う。事前指導の到達目標は、学校教育の法的・制度的な枠組み、教育実習生として守るべき姿勢や義務などを理解するとともに、教育実習の心構えを確認したうえで教壇実習の準備を進めることである。事後指導の到達目標は、教育実習の体験を省察し、課題を共有することである。							
授業の方法	教育実習を想定し、アクティブラーニング（模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション）を中心に授業を進める。							
予習と復習	予習（90分）事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をノートにまとめておくこと。復習（90分）模擬授業や教育実習を振り返り、さらなる教材研究と指導案作成および修正を行うこと。							
テキスト等	小山茂喜著『よくわかる教職シリーズ教育実習安心ハンドブック』（学事出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	0%
	模擬授業		50%		プレゼンテーション			20%
	欠席回数が3回以上の場合、不合格とする（教育実習による欠席を除く）。遅刻・早退は2回で、欠席1回として扱う。模擬授業の評価には指導案に関する評価を含める。模擬授業、レポート、プレゼンテーションに対して、授業内で全般的な所見を提示する。							
授業計画	①教育実習までの流れ							
	②教員の資質と教育実習の役割、模擬授業①							
	③教育実習中の心構え、模擬授業②							
	④観察実習のポイント、模擬授業③							
	⑤教育実習における授業設計、模擬授業④							
	⑥学習指導の実際、模擬授業⑤							
	⑦『教育実習録』の書き方、模擬授業⑥							
	⑧教育実習（1週目）							
	⑨教育実習（2週目）							
	⑩教育実習（3週目）							
	⑪教育実習（4週目）							
	⑫教育実習の課題の整理、プレゼンテーション①							
	⑬教育実習の課題の共有、プレゼンテーション②							
	⑭理想の教師像、プレゼンテーション③							
	⑮まとめと総復習							

科目名	教育実践研究B(中・高校免許用)							
英文科目名	Study of Educational Practice B							
担当者名	早坂めぐみ							
科目ナンバリング	TED402							
授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる教員となるための見識や力量を培う教師の養成」を目的とする。教育実践研究は3年次の秋学期に「教育実践研究A」、4年次の春学期に「教育実践研究B」として、継続的に行われる。「教育実践研究B」は、4年次の5月～6月頃に行う教育実習のための事前・事後指導を行う。事前指導の到達目標は、学校教育の法的・制度的な枠組み、教育実習生として守るべき姿勢や義務などを理解するとともに、教育実習の心構えを確認したうえで教壇実習の準備を進めることである。事後指導の到達目標は、教育実習の体験を省察し、課題を共有することである。							
授業の方法	教育実習を想定し、アクティブラーニング（模擬授業、プレゼンテーション、ディスカッション）を中心に授業を進める。							
予習と復習	予習（90分）事前に指定範囲のテキストを精読し、要点をノートにまとめておくこと。復習（90分）模擬授業や教育実習を振り返り、さらなる教材研究と指導案作成および修正を行うこと。							
テキスト等	小山茂喜著『よくわかる教職シリーズ教育実習安心ハンドブック』（学事出版）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	0%
	模擬授業		50%		プレゼンテーション			20%
	欠席回数が3回以上の場合、不合格とする（教育実習による欠席を除く）。遅刻・早退は2回で、欠席1回として扱う。模擬授業の評価には指導案に関する評価を含める。模擬授業、レポート、プレゼンテーションに対して、授業内で全般的な所見を提示する。							
授業計画	①教育実習までの流れ							
	②教員の資質と教育実習の役割、模擬授業①							
	③教育実習中の心構え、模擬授業②							
	④観察実習のポイント、模擬授業③							
	⑤教育実習における授業設計、模擬授業④							
	⑥学習指導の実際、模擬授業⑤							
	⑦『教育実習録』の書き方、模擬授業⑥							
	⑧教育実習（1週目）							
	⑨教育実習（2週目）							
	⑩教育実習（3週目）							
	⑪教育実習（4週目）							
	⑫教育実習の課題の整理、プレゼンテーション①							
	⑬教育実習の課題の共有、プレゼンテーション②							
	⑭理想の教師像、プレゼンテーション③							
	⑮まとめと総復習							

科目名	教職実践演習(小学校免許用)							
英文科目名	Educational Practice Seminar							
担当者名	山田良一							
科目ナンバリング	TED403							
授業の概要と到達目標	長年の教育現場での経験を活かし、本学の教員養成が目指している教師像①透徹した人間観、教育観にたち、誠実でしかも情熱をもった教員、②現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教員、③教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教員の実現を目指し、実践に沿った知識・技能に加えて責任感や倫理感等を体得できるように授業を展開することが本科目のテーマである。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科指導等の指導力に関する事項、という四つの事項に即して行う。本授業は、さらに、人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を達成する科目でもある。外部講師を招いた授業を実施予定である							
授業の方法	事前に課題を提示する。アクティブ・ラーニングを促すために、グループワークやワークシート・個人発表・討議などによって主体的対話的な授業を進める。							
予習と復習	予習（90分）あらかじめ課題を示すので、準備したり考えたりしてくること。復習（90分）ワークシートを読み返すとともに、授業中のメモをノートなどに整理しておくこと。							
テキスト等	山田良一『学校公開』成功のマニュアル（学事出版）適宜、授業内容に関連したレジメの配布							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	80%
	学習の姿勢（提出期限・討議など）			20%				0%
	平常点は八つの課題を評価。やり残した課題がある場合、及び、出席回数が授業回数の3分の2未満の場合は、不合格とする。							
授業計画	①我が国の現行教育制度・教育法令							
	②教職員としての誇りと責任の自覚：服務規律の確保と綱紀粛正							
	③学校現場が求める教師像							
	④学級経営の基礎1 人間関係づくり							
	⑤学級経営の基礎2 他者理解やコミュニケーション能力							
	⑥児童生徒理解、特別に支援の必要な子ども達への理解と人間観							
	⑦いじめ・不登校問題への対応							
	⑧実践的授業スキル（1 授業展開・授業改善）							
	⑨実践的授業スキル（2 教室環境作りとその目的）							
	⑩人権問題への対応							
	⑪小学校教諭の一日の仕事や年間の行事							
	⑫学習指導案の書き方							
	⑬模擬授業（1 第一グループ）							
	⑭模擬授業（2 第二グループ）							
	⑮これまでの授業の振り返り・まとめ							

科目名	教職実践演習(中・高校免許用)							
英文科目名	Educational Practice Seminar							
担当者名	山田良一							
科目ナンバリング	TED404							
授業の概要と到達目標	人間科学部のディプロマポリシー「個性化・多様化する社会で適切なコミュニケーションを交わすことができるマインドとスキル・行動力・企画力を身につけた人材」を育成するための科目である。教育相談の理論と技法および生徒理解の方法を学習し、実際の学校現場で生徒に相談活動を行うための知識を身につける。ビデオ視聴による事例検討、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイングなどのアクティブラーニングを通して、生徒への援助の技術を学習・習得する。学校で生じる「問題行動」だけでなく、学校に持ち込まれる家族や仲間関係の問題、発達障害の支援等にも触れ、連携の必要性・方法や守秘義務、職業倫理の問題など、教育相談をめぐる諸問題についても理解を深める。授業では、現場経験豊かな外部講師を招き、現場での取組みについて理解を深める。＜到達目標＞(1)教育相談の意義と理論について説明できる。(2)「聴く」、「話す」などカウンセリングの基本的なかわり技法を習得し実行することができる。(3)子ども理解のために必要な知識と方法及び今日の教育的課題について心理学的視点から説明できる							
授業の方法	講義形式。授業時に、グループワーク、ディスカッション、ペア学習などのアクティブラーニングを行う。また、一部の授業においては、教育現場経験豊かな外部講師を招き、教育現場の話を伺う。							
予習と復習	予習(90分)：シラバス記載の当該章に目を通し、キーワードを調べてまとめる。復習(90分)：授業で配布した資料やノートを再読し、授業内容を見直す。							
テキスト等	教科書：使用せず、必要に応じレジュメ配布。参考書：庄司一子(監) 杉本希映・五十嵐哲也(編)(2010)「児童・生徒への指導と援助」ナカニシヤ出版 石隈利紀・庄司一子(編)(2014)「生徒指導とカウンセリング」協同出版 ほかの参考書は講義中紹介							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	80%
	提出物		20%					0%
	第8回目と15回目に授業内試験を実施する。各成績の40%を占める成績となるため、基本的にその回の授業に欠席しないよう留意されたい。試験範囲と実施方法については授業時に説明する。平常点は授業内の取組みも含まれる。理由のない欠席の合計が5回以上は不合格となる。							
授業計画	①教育相談とは							
	②教育相談における心理教育的アセスメント							
	③カウンセリング技法①—非言語的側面に関わる技法							
	④カウンセリング技法②—聴き方							
	⑤カウンセリング技法③—質問の仕方							
	⑥カウンセリング技法④—励まし、言いかえ、要約、意味の反映、感情の反映							
	⑦チーム援助とコンサルテーション							
	⑧授業内試験①と解説							
	⑨教育相談の事例①不登校—基本方針、教育相談計画の立て方・進め方について							
	⑩教育相談の事例②いじめ—基本的構造とプロセス、学校組織としての対応について							
	⑪教育相談の事例③反社会的行動—歴史と現状、対応ポイントについて							
	⑫教育相談の事例④発達障害—特徴理解、家族や専門機関との連携について							
	⑬心理的成長を促し問題を未然に防ぐ心理教育							
	⑭心理教育の実践							
	⑮授業内試験②と総まとめ							

科目名	教育実習A							
英文科目名	Teaching Practice A							
担当者名	教職課程運営委員会							
科目ナンバリング	TED405							
授業の概要と到達目標	本学において教員免許状取得を目指す学生は、必ず教育実習を履修しなければなりません。教育実習の目標は、（１）学校現場に直接身を置くことによって、教育活動の内容や方法を理解し、実践力を養う、（２）自分に教員としての適性があるかを確認する、などの点にあります。これらの目標を達成するため、真剣・誠実に実習を行ってください。なお、小学校の教員免許状を取得の場合は教育実習A、中学校の教員免許状あるいは中・高等学校の教員免許状を併せて取得する場合は教育実習B、高等学校の教員免許状のみ取得する場合は教育実習Cを履修することになります。教育実習Aの時期や期間は、一般的に４年次の４週間ですが、異なるケースが生じるかも知れません。実習期間や時期は、実習校の方針に従うことになります。注意して下さい。							
授業の方法	実習校で実習（参観・参加・教壇実習）を行う。							
予習と復習	実習校の指示に従い、事前(45分)の授業などの準備、事後(45分)「教育実習録」などの記入を行う。							
テキスト等	本学の『教育実習録』							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
	「教育実習成績報告書」			30%	『教育実習録』の筆記内容			40%
	平常点は、「教育実習生出勤票」で勤務態度等を評価、「教育実習成績報告書」は、実習校の報告書に基づいて勤務実績等を評価します。『教育実習録』は、筆記内容を評価し、担当教員の評価を平均します。							
授業計画	①実習校での打ち合わせ							
	②実習校についての理解 学校目標等							
	③実習校についての理解 校務分掌等							
	④参観（１） 児童							
	⑤参観（２） 授業内容							
	⑥ 参観（３） 授業展開							
	⑦参加（１） 授業補助							
	⑧参加（２） 授業協力							
	⑨教壇実習（１） 教科（算数など）							
	⑩教壇実習（２） 教科（国語など）							
	⑪教壇実習（３） 領域							
	⑫教壇実習（４） 学級経営							
	⑬研究授業							
	⑭研究授業の検討会							
	⑮反省とまとめ				※授業計画は実習校により異なります。			

科目名		教育実習B						
英文科目名		Teaching Practice B						
担当者名		教職課程運営委員会						
科目ナンバリング		TED406						
授業の概要と到達目標	本学において教員免許状取得を目指す学生は、必ず教育実習を履修しなければなりません。教育実習の目標は、（１）学校現場に直接身を置くことによって、教育活動の内容や方法を理解し、実践力を養う、（２）自分に教員としての適性があるかを確認する、などの点にあります。これらの目標を達成するため、真剣・誠実に実習を行ってください。なお、小学校の教員免許状を取得の場合は教育実習A、中学校の教員免許状あるいは中・高等学校の教員免許状を併せて取得する場合は教育実習B、高等学校の教員免許状のみ取得する場合は教育実習Cを履修することになります。教育実習Bの時期や期間は、一般的に４年次の３週間ですが、異なるケースが生じるかも知れません。実習期間や時期は、実習校の方針に従うことになります。注意して下さい。							
授業の方法	実習校で実習（参観・参加・教壇実習）を行う。							
予習と復習	実習校の指示に従い、事前(45分)の授業などの準備、事後(45分)「教育実習録」などの記入を行う。							
テキスト等	本学の『教育実習録』							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
	「教育実習成績報告書」			30%	『教育実習録』の筆記内容			40%
	平常点は、「教育実習生出勤票」で勤務態度等を評価、「教育実習成績報告書」は、実習校の報告書に基づいて勤務実績等を評価します。『教育実習録』は、筆記内容を評価し、担当教員の評価を平均します。							
授業計画	①実習校での打ち合わせ							
	②実習校についての理解 学校目標等							
	③実習校についての理解 校務分掌等							
	④参観（１） 生徒							
	⑤参観（２） 授業内容							
	⑥参観（３） 授業展開							
	⑦参加（１） 授業補助							
	⑧参加（２） 授業協力							
	⑨教壇実習（１） 教科：授業内容							
	⑩教壇実習（２） 教科：授業展開							
	⑪教壇実習（３） 領域							
	⑫教壇実習（４） 学級経営							
	⑬研究授業							
	⑭研究授業の検討会							
	⑮反省とまとめ							
※授業計画は実習校により異なります。								

科目名		教育実習C						
英文科目名		Teaching Practice C						
担当者名		教職課程運営委員会						
科目ナンバリング		TED407						
授業の概要と到達目標	本学において教員免許状取得を目指す学生は、必ず教育実習を履修しなければなりません。教育実習の目標は、（１）学校現場に直接身を置くことによって、教育活動の内容や方法を理解し、実践力を養う、（２）自分に教員としての適性があるかを確認する、などの点にあります。これらの目標を達成するため、真剣・誠実に実習を行ってください。なお、小学校の教員免許状を取得の場合は教育実習A、中学校の教員免許状あるいは中・高等学校の教員免許状を併せて取得する場合は教育実習B、高等学校の教員免許状のみ取得する場合は教育実習Cを履修することになります。教育実習Cの時期や期間は、一般的に4年次の2週間ですが、異なるケースが生じるかも知れません。実習期間や時期は、実習校の方針に従うことになります。注意して下さい。							
授業の方法	実習校で実習（参観・参加・教壇実習）を行う。							
予習と復習	実習校の指示に従い、事前(45分)の授業などの準備、事後(45分)「教育実習録」などの記入を行う。							
テキスト等	本学の『教育実習録』							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
	「教育実習成績報告書」			30%	『教育実習録』の筆記内容			40%
	平常点は、「教育実習生出勤票」で勤務態度等を評価、「教育実習成績報告書」は、実習校の報告書に基づいて勤務実績等を評価します。『教育実習録』は、筆記内容を評価し、担当教員の評価を平均します。							
授業計画	①実習校での打ち合わせ							
	②実習校についての理解 学校目標等							
	③実習校についての理解 校務分掌等							
	④参観（１） 生徒							
	⑤参観（２） 授業内容							
	⑥参観（３） 授業展開							
	⑦参加（１） 授業補助							
	⑧参加（２） 授業協力							
	⑨教壇実習（１） 教科：授業内容							
	⑩教壇実習（２） 教科：授業展開							
	⑪ 教壇実習（３） 領域							
	⑫教壇実習（４） 学級経営							
	⑬研究授業							
	⑭研究授業の検討会							
	⑮反省とまとめ		※授業計画は実習校により異なります。					

科目名		職業指導							
英文科目名		Vocational guidance & counseling							
担当者名		黒川雅之							
科目ナンバリング		TED250							
授業の概要と到達目標	職業指導（Vocational guidance & counseling）はアメリカで生まれ、その後、進路指導（Career guidance & counseling）へと発展してきた。したがって職業指導は進路指導とほぼ同じものであるといえる。本学では、別途、進路指導科目が設定されているため、ここでは、できるだけ進路指導との重複を避け、働くこと、働くことに関する法律（労働関係法）、職業適合性、労働市場情報、アセスメント、エンプロイアビリティスキルとその指導などを習得し、高千穂大学の教員養成を目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成」を達成するための科目である。								
授業の方法	基本的には講義を中心に行うが、複数の授業回でグループ討議を実施してアクティブラーニングを実施する。								
予習と復習	予習（90分） インターネットや新聞紙上の労働に関する情報は、必ず目を通すようにしてレポートに備える復習（90分） 毎回、講義内容を振り返り、配布された資料等の理解と整理に努め、課題レポートを作成する								
テキスト等	参考図書・資料文部科学省 中学校キャリア教育の手引き https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1306815.htm								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	80%	平常点	10%	
	授業内での発言や積極性			10%					0%
	上記内容で総合的に評価する。課題別に個別評価と所見を提示し、全般的な評価と所見も提示する。必要によりノートの提出を求める。								
授業計画	①職業指導とは（オリエンテーション）								
	②職業指導者に必要なコンピテンシー								
	③働くことの意味								
	④仕事とは何か								
	⑤職業適合性の理論								
	⑥ケースマネジメントのプロセス								
	⑦フォーマルアセスメント								
	⑧インフォーマルアセスメント								
	⑨労働関連法規（日本国憲法、労働基準法）								
	⑩労働関連法規（職業安定法、社会保険関連法規など）								
	⑪労働市場情報								
	⑫就職活動の実際								
	⑬エンプロイアビリティの内容とその開発								
	⑭講義のまとめ								
	⑮レポート課題の検討								

科目名		地誌						
英文科目名		Regional Geography						
担当者名		新井智一						
科目ナンバリング		TED251						
授業の概要と到達目標	【授業目標】 地誌的な地域の捉え方を十分に踏まえたうえで、地域の自然・人文的な特徴を理解し、関連させながら、具体的かつ総合的に地域について説明できることを目標とする。【授業概要】 この授業は本学の教員養成課程で追求する教師像「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」を育成するための科目の一つであり、地域や地理的事象を多面的に捉えて記述する地誌的な方法で地域を理解する力をつけることを目指すものである。はじめに、日本を例にして全体の地域的事象を項目ごとに（静態地誌的に）概説する。そのうえで、日本を構成する地方が独特の特徴（地域性）がどのようにしてつくり上げられているのかを、その地方を象徴するテーマを取り上げて（動態地誌的に）解説していく。							
授業の方法	授業は基本的に講義形式で行う。あわせてアクティブ・ラーニングの時間を設ける。スマートホンを用いたクリッカー（Googleフォーム）による双方向学習や、地域の捉え方の実践とその相互評価（ディスカッション）を通して、学習の理解確認を行う。							
予習と復習	予習（90分）配布資料を精読し、各図表の特徴を簡潔に指摘できるようにしておく。復習（90分）毎回出席して作成した授業ノートを読み込み、地域を構成する要素間のつながりを意識して授業内容を整理するなどによって、授業の要点の理解に努める。							
テキスト等	【テキスト】 帝国書院編集部編『新詳高等地図』（帝国書院）【参考図書】 授業中に適宜紹介する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	0%	平常点	30%
	特になし			0%	特になし			0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】 双方向学習や作業の成果は全般的所見等を授業内で、試験の全般的所見等をGoogle Classroomに提示する。Google Classroomで質疑応答や資料掲示、再配布や連絡等も行う。							
授業計画	①ガイダンス（授業全体の概説など）							
	②地誌とは？・地域区分の目的と意義							
	③日本の位置と地形							
	④日本の位置と気候							
	⑤日本の位置と領域							
	⑥日本の人口と産業							
	⑦日本の産業と交通							
	⑧静態地誌的な日本の考察実践Ⅰ―考察実践							
	⑨静態地誌的な日本の考察実践Ⅱ―他者評価と自己評価							
	⑩地方の静態地誌Ⅰ―要点整理の実践							
	⑪地方の静態地誌Ⅱ―概要解説							
	⑫地方の動態地誌Ⅰ―世界や日本全体における地方の位置づけ							
	⑬地方の動態地誌Ⅱ―地方の課題と克服への取り組み							
	⑭動態地誌的な地方の考察実践							
	⑮まとめと総復習							

科目名		情報と職業						
英文科目名		Information and Business						
担当者名		小林康一						
科目ナンバリング		TED252						
授業の概要と到達目標	本科目の到達目標は高校科目「情報と職業」の教員として授業を計画し、実施することができる学術的理解とスキルを身につけることにある。さらに、ディプロマポリシーとの関連については、高千穂大学の教員育成が目指す教師像「現代社会の養成に応えうる見識と力量をもった教師」を養成するための科目である。授業では適宜新聞や雑誌、映像資料などを活用し、教育方法を含めた情報技術についても議論していく。							
授業の方法	基本的に授業前半を講義形式、授業後半を教室内でのグループ・ディスカッション（アクティブ・ラーニング）によって進めていく。							
予習と復習	（予習90分）指定されたテキストの該当箇所を熟読の上、講義に臨むこと。（復習90分）講義の内容を踏まえて、簡略なかたちでいいので授業計画を立ててみる。							
テキスト等	講義内で改めて指定します。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	60%
	各講義で提出された課題			40%				0%
	【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック】授業中に実施する課題について全般的所見を提示する。							
授業計画	①ガイダンス							
	②情報社会と情報システム							
	③情報化によるビジネス環境の変化							
	④企業による情報活用～流通と販売の革新～							
	⑤企業による情報活用～組織マネジメントの革新～							
	⑥ケーススタディ～企業と情報技術～							
	⑦ネットを活用したビジネス							
	⑧ケース～インターネット・ビジネス～							
	⑨情報化社会の労働観の変化							
	⑩ケース～情報産業における仕事～							
	⑪リスクマネジメント							
	⑫明日の情報化社会							
	⑬情報化社会と人間							
	⑭模擬講義演習							
	⑮まとめ							

科目名		国語							
英文科目名		Japanese							
担当者名		立石展大							
科目ナンバリング		TED253							
授業の概要と到達目標	本授業では、国語全般に関する総合的かつ体系的な知識の習得と理解力を養うことを目的とする。学校教育の国語に対して、十分な知識を身につけるために、授業では日本語の音韻とアクセント、文字、表記法と筆順・書写、語彙、文法、敬語、読解等を中心に講義していく。本授業は、国語力を高め、高千穂大学の教員養成を目指す教員像の「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教員」を養成するための科目である。								
授業の方法	配付プリントに基づいた授業内課題の質疑応答（アクティブ・ラーニング）を、すべての回で実施し、授業内において学生へのフィードバックを行う。また、基本的な国語の知識を養うための授業外における課題も配付して、個別のフィードバックを行う。								
予習と復習	各週において、授業時の配付プリントを中心とした予習（90分）と授業外における課題プリントも含めた復習（90分）に取り組む。								
テキスト等	牛頭哲宏・森篤嗣『現場で役立つ 小学校国語科教育法』（ココ出版） および、授業において配付する国語に関するプリント。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	40%	レポート	0%	平常点	60%	
				0%					0%
	単位取得には、3分の2以上の出席が必要。また、授業時の課題についても平常点として評価する。すべての課題について、添削し、返却して個別に評価と所見を提示する。								
授業計画	①教科としての国語について								
	②国語の音韻とアクセント								
	③国語の表記法と文字について								
	④文章表現の基礎								
	⑤誤解の無い文章表現について								
	⑥国語の語彙 漢字・四字熟語・ことわざ・慣用句を中心として								
	⑦書写について								
	⑧文章読解について 説明文								
	⑨文章読解について 物語文								
	⑩口語文法について 自立語								
	⑪口語文法について 付属語								
	⑫敬語について								
	⑬間違いやすい敬語について								
	⑭授業内試験と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	算数								
英文科目名	Arithmetic								
担当者名	竹内 淨								
科目ナンバリング	TED254								
授業の概要と到達目標	「算数」は、人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる」ことを達成するための科目である。本講義の目標は、小学校教員志望の学生に求められる、算数及び数学に関する基礎知識を習得することである。小学校算数科に関わるテーマをとりあげるとともに、数学の問題を通して、中学校や高校の数学との繋がりについても考える。								
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして数学の問題についてプレゼンテーションを行う。								
予習と復習	予習(90分) 授業計画に示したテーマについて事前に確認すること。復習(90分) 講義後、その日のうちに講義内容を再確認すること。								
テキスト等	資料を配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	30%	レポート	0%	平常点	0%	
	課題		70%					0%	
	全ての課題と授業内試験について全般的な評価と所見を提示する。授業内試験に変更が生じた場合は別途連絡する(複数回の実施、オンラインでの実施など)。								
授業計画	①ガイダンス								
	②連立方程式、割合・比								
	③金銭計算								
	④速さ・時間・距離、流水算・通過算								
	⑤鶴亀算、濃度算								
	⑥年齢算、仕事算・水槽算								
	⑦集合								
	⑧推論								
	⑨順列・組合せ、確率								
	⑩十の位の数と一の位の数の計算、時間の範囲								
	⑪電車の発車時刻、平均の計算								
	⑫表の読み取り								
	⑬総合的な問題								
	⑭授業内試験と解説								
	⑮まとめと総復習								

科目名	理科							
英文科目名	Science							
担当者名	並木雅俊							
科目ナンバリング	TED255							
授業の概要と到達目標	理科を学ぶ意義を生活や身近な現象とのかかわりを基に、科学的見方・考え方と豊かな自然観を持って授業に取り組めるよう講義を進める。「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」に対し、基礎に重点を置き、実験・演習を行いながら、より深い知識と経験を得てもらう。電気を通す物、磁石にくっつく物、光が屈折する理由、物の溶け方、月の満ち欠け、太陽や星の動きと暦、光合成や蒸散作用のしくみなどをしっかりと学んでもらい、自然界の不思議さと理科の面白さを児童に伝えられるようにする。児童に実験・観察の指導においてもゆとりをもって接することができ、理科を学ぶ楽しさを伝えられる教師の育成を目指す。本学教職課程のねらいの一つである「現代社会の要請に応え得る見識と力量をもった教師の養成」のための基礎科目である。							
授業の方法	輪番による問題解法の発表、それを受けての質疑、補足説明、ディスカッションなどによる（アクティブ・ラーニング）。実験、実験器具利用の訓練も行う。また学んだことは、その都度、授業内試験で知識の確認をする。							
予習と復習	予習（90分） 授業で学んだことをその日にまとめをしておくこと。復習（90分）『小学校学習指導要領解説：理科編』を何度も繰り返し読み、自分のものにするための努力を怠らないこと。授業で学んだことをその日にまとめをしておくこと。							
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説：理科編』							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	70%	レポート	20%	平常点	10%
				0%				0%
	授業回数の3分の2以上の出席（課題提出）を評価の前提条件とする。試験得点、提出課題内容、それに講義参加度で評価する。							
授業計画	①小学校理科の目標／学習指導要領の読み方							
	②小学校理科の内容区分							
	③生命：植物のつくりと働き							
	④地球：気象の観察							
	⑤粒子：水溶液の濃さ							
	⑥エネルギー：振り子の運動							
	⑦総合課題演習A(③から⑥)と解説							
	⑧生命：人の体のつくりと働き							
	⑨地球：月と星座							
	⑩粒子：物の温まり方							
	⑪エネルギー：豆電球の回路							
	⑫エネルギー：音と光							
	⑬理科の楽しさをどう伝えるか							
	⑭総合課題演習B(⑧から⑬)と解説							
	⑮まとめと総復習							

科目名	社会								
英文科目名	Education of Social Studies								
担当者名	鈴木隆弘								
科目ナンバリング	TED256								
授業の概要と到達目標	本講義では、小学校「社会科」の目標及び教科内容を理解し、学校における「社会科」の意義について考察を深め、小学校社会科授業についての実践的指導力の基礎：教材研究の方法を身につけることを目標とする。講義では、社会科の基本的性格とその歴史、また各学年における内容の特質などについて学習し、考察を深める。また外部講師をお招きし、教材並びに授業づくりの方法について検討する。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。								
授業の方法	アクティブラーニングとして、毎回小テストもしくはリアクションペーパーを提出する。								
予習と復習	予習（90分） 事前配布したプリントを読んでもくこと。また、課題に取り組むこと。復習（90分） 授業中に配布したプリントを元に、復習を行うこと。								
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	30%	
	課題			40%				0%	
	出席は評価の前提であり、1/3以上の欠席は単位認定をしない。平常点は、小テスト及び毎回の課題に基づく。その他1（課題）は、第4回以降実施の教材である。								
授業計画	①社会科とはなにかーイントロダクションー								
	②社会科の歴史ー戦前ー								
	③社会科の歴史ー初期社会科ー								
	④社会科の歴史ー現在ー								
	⑤社会科と新学習指導要領								
	⑥社会科の目標と内容ー学習指導要領からー								
	⑦第3学年の内容を調べよう（1）ー市区町村ー								
	⑧第3学年の内容を調べよう（2）ー昔調べー								
	⑨第4学年の内容を調べようー都道府県ー								
	⑩第5学年の内容を調べて、発表しようー国土学習ー								
	⑪第5学年の内容を調べて、発表しようー産業学習ー								
	⑫第6学年の内容を調べて、歴史新聞をつくろうー歴史学習ー								
	⑬第6学年の内容を調べて、友達に教えようー政治・国際学習ー								
	⑭外部講師による講義								
	⑮まとめと復習								

科目名	生活							
英文科目名	Education of Life Studies							
担当者名	鈴木隆弘							
科目ナンバリング	TED257							
授業の概要と到達目標	小学校における生活科の目標及び教科内容を理解し、生活科の意義についての考えを深め、生活科授業についての実践的指導力の基礎を身につけることを目的とする。生活科の意義と目的、基本的性格、各内容の特質などについて、実際に作業やフィールドワークなどを行いながら、内容などについて理解を深め、考察を行うこととする。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。							
授業の方法	アクティブラーニングとして、毎回の授業ではグループ学習を中心に、課題作成・発表を繰り返します。							
予習と復習	予習（90分） 指示された課題に取り組むこと。復習（90分） 指摘されたことへの改善を行うこと。							
テキスト等	文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編』、国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 生活』ほか、プリントを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	30%
	課題・発表			70%				0%
	出席は評価の前提であり、1/3以上の欠席は認めない。「実際にやってみる」を大切に講義を行うので、積極的に講義に参加すること。平常点は授業への参加状況であり、課題については、適宜公表、フィードバックを行う。							
授業計画	①ガイダンス							
	②生活科について							
	③はるさがしをしよう（自然探索）							
	④はるをみつけよう（グループ作業）							
	⑤はるをみつけよう（発表）							
	⑥生活科の内容とその構成							
	⑦生活科の内容 一人ー							
	⑧生活科の内容 ー社会ー							
	⑨生活科の内容 ー自然ー							
	⑩生活科と環境教育							
	⑪まちたんけん							
	⑫安全マップづくり							
	⑬発表物の作成							
	⑭発表							
	⑮まとめと復習							

科目名	音楽							
英文科目名	Music for Elementary School Teacher							
担当者名	山本和寿							
科目ナンバリング	TED258							
授業の概要と到達目標	本授業では、学習指導要領（平成29年告示）の示す小学校音楽科の目標に迫るため選択される楽曲について、音楽を形作っている要素、音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組み、曲想、音楽の構造、音符、休符、記号や用語等を講義や実技を通して学び、音楽科授業において自ら伝えたいと思う音楽のよさや楽しさを見いだす手がかりが構築できるようにしていきます。具体的には講義及びアクティブ・ラーニングとして歌唱や器楽、音楽づくりのグループワーク、幅広い音楽の鑑賞など多様な音楽活動をとおして学習します。また、キーボードを用いて教材楽曲の演奏に必要な基礎的な実技を学習します。内容は小学校音楽科における表現活動において取り上げられている音楽を中心に、我が国の伝統的な音楽や諸外国の音楽も取り上げその理解を深めるようにしていきます。本授業は、小学校教員として必要な知識と技能を身につけ、本学のディプロマポリシーである教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を实践できる力を身につけるための科目です。指導に当たっては音楽科教諭及び管楽器演奏の経験を生かします。							
授業の方法	学習指導要領解説〔音楽編〕を用いた講義と、小学校の教科書〔音楽〕2・3・5年用にある内容の講義と音楽の鑑賞を行います。アクティブラーニングとして合唱及器楽合奏、音楽づくりのグループワーク、楽曲の鑑賞をとおして音楽を形作る要素や音楽の特徴との関係考えまとめます。							
予習と復習	【予習】（90分）次回の授業で取り上げる学習指導要領解説〔音楽編〕の内容を読み、要点を上げておくこと。 【復習】（90分）音楽の要素等の内容を振り返り、文にまとめること。表現活動に必要な実技の補足として個別主体的な練習を行う。							
テキスト等	学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編・小学校音楽教科書2年・3年・5年 授業計画に基づいて作成したワークシート、楽譜等							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	20%
	実技		50%					0%
	平常点はディスカッション等への参加状況。実技はキーボード等の奏法、ワークショップでの取り組みについて評価。学習内容について毎回ふり返しシートを提出します。レポート等については返却し評価と所見を提示します。4回以上欠席の場合単位は認めません。							
授業計画	①ガイダンス・「音楽を形作っている要素」にかかわる表現と鑑賞の学習活動を理解する。							
	②キーボードのアンサンブルを通して、パートの役割と「音の重なり」について学習する。							
	③解説書〔音楽編〕を用いて音楽に使われる記号や用語とその意味を学習する。							
	④管・弦楽器の音楽の鑑賞を通し、「音色」について学習する。							
	⑤音楽づくりの学習をとおして音楽の仕組みについて学習する。							
	⑥解説書〔音楽編〕と音楽の鑑賞を通して、「拍」「拍子」について学習する。							
	⑦2・3・4学年の学習曲を用いて、「拍」と「リズム」について学習する。							
	⑧3・4・6学年の学習曲を用いて「リズム」について学習する。							
	⑨器楽アンサンブルと鑑賞等をとおして「音楽の縦と横の関係」について学習する。							
	⑩5学年の学習曲を用いて「和音」について学習する。							
	⑪解説書〔音楽編〕、4・5・6学年の教科書を用いて「旋律」について学習する。							
	⑫総合芸術と言われるオペラ及びミュージカルを鑑賞し、その魅力を知る。							
	⑬日本の伝統音楽。 箏・三味線の音楽を聴き、その特徴を学習する。							
	⑭アジアやその他の地域の音楽を聴き、その特徴を学習する。							
	⑮音楽を形づくっている要素とそれらの関りについてのまとめと総復習							

科目名	図画工作							
英文科目名	Arts and Crafts for Elementary School Teacher							
担当者名	奥長英樹							
科目ナンバリング	TED259							
授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」を育成するための科目である。小学校の教師としての基礎的な知識理解を進め、将来の学校現場での実践に活かすための講義・演習を行う。学校現場の教員経験を活かし、図画工作科の目的や内容について学校現場での実際の教育活動に触れながら、図画工作科の良さや学校教育の中での位置づけなどを学ぶ。また、学校教育において、子どもの理解の重要性や、学習に対する考え方、また教師としての資質・能力について、図画工作に関わる活動を通して学ぶ。							
授業の方法	講義と演習、また、制作や造形遊びなど図画工作科の学習活動に実際に取り組むアクティブ・ラーニングを通して学ぶ。							
予習と復習	予習・復習については、その都度授業内で指示する。復習は主にその授業の振り返りを記録していく。							
テキスト等	テキストはその都度必要なものを示す。基本的に自作の配布文書を活用する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	30%	平常点	20%
	ノートの内容		20%		各題材での表現や取り組み			30%
	授業内のメモ、描画等をノートにまとめ、クリアファイルにとじて活用する。毎時間ごとの提出にコメントするなどしてフィードバックする。							
授業計画	①子どもの造形表現							
	②図画工作科の学習活動（平面 描画）							
	③図画工作科の学習活動（平面 デザイン）							
	④図画工作科の学習活動（立体 紙）							
	⑤図画工作科の学習活動（立体 塑像）							
	⑥図画工作科の学習活動（造形遊び）							
	⑦図画工作科の学習活動（素材）							
	⑧図画工作科の学習活動（鑑賞活動）							
	⑨図画工作科の学習活動（動的鑑賞活動）							
	⑩図画工作科の学習活動（共同制作）							
	⑪図画工作のカリキュラム（目標と理念）							
	⑫図画工作のカリキュラム（題材の配列）							
	⑬図画工作のカリキュラム（学習の評価）							
	⑭図画工作のカリキュラム（学校文化）							
	⑮まとめと総復習							

科目名		家庭							
英文科目名		Home Economics for Elementary School Teacher							
担当者名		横山みどり							
科目ナンバリング		TED260							
授業の概要と到達目標	【目標】初等家庭科教育の意義と教科の特質を理解し、家庭科の指導者として必要な資質と知識・技能を身につける。【概要】学習指導要領解説「家庭」を教材として、指導目標や指導内容について基本的な事項を解説する。その上で、「内容の取扱いと指導上の配慮事項」をひとつひとつ具体的な授業場面と関連付けて考察することを通して、理解を深めるようにする。受講生は、「自分自身の家庭生活を見直すチャンス」としてとらえ、学んだことを生活に生かして欲しい。また、学校現場での教員経験(現在の学校現場を含む)を活かし、今日的な課題（少子高齢化・いじめ など）と小学生との関わりについて授業の中で考えていく。これは、本学の目指す教師像「現代社会の要請に応える見識と力量をもった教師の養成」と重なるところが大きい。								
授業の方法	実習（アクティブラーニング）なども取り入れ実感を伴った理解を目指す。オンラインの場合は、Google classroomを活用し、スライドを進めながら前時の課題解説や本時の課題を理解する。資料やリンクを参考にしながら課題に取り組み、回答を期限内に送信する。								
予習と復習	予習(90分) 授業内容を事前に予習し、資料を集めておく。復習(90分) 授業で学んだ知識や技能を、再考し、記録する。								
テキスト等	「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）家庭編」（文部科学省）								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%	
	課題			80%				0%	
	【課題に対するフィードバック】課題についての解説を次の授業で行う。オンライン授業の場合は個別の質問には、メールのやり取りで応じる。また、3分の1以上の欠席（回答の提出がされない）は単位を認めない。								
授業計画	①ガイダンス（授業の進め方）								
	②初等家庭科教育の目標と内容								
	③衣生活をつくるライフスキル								
	④布を使った製作実習（手縫いの基礎）								
	⑤布を使った製作実習（応用）								
	⑥ミシン縫いによる製作実習								
	⑦食生活をつくるライフスキル								
	⑧調理実習								
	⑨調理実習								
	⑩食育と環境教育								
	⑪快適な住生活をつくるライフスキル								
	⑫正しい消費生活をつくるライフスキル								
	⑬よりよい家族・家庭生活を育むライフスキル								
	⑭これからの家庭生活の課題								
	⑮まとめ、レポート作成								

科目名		体育							
英文科目名		Physical Education for Elementary School Teacher							
担当者名		新井健之							
科目ナンバリング		TED261							
授業の概要と到達目標	本科目は、教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材の育成を目的とした科目である。小学校の学習指導要領に基づき、心と体を一体としてとらえ運動や健康、体力面についての知識と理解を深める。授業の達成目標は、小学校の体育実践に向けた基礎理論の習得し、基礎理論を踏まえた授業設計ができることである。そして、小学生に対して自信を持って体育の授業を行える知識・技術の習得を目指す。外部講師招聘：適任者がいれば、小学校教育現場での最新情報を得るために、小学校教諭や教職課程指導経験者の講義や食育など栄養指導の講義を予定する。予習・復習時も含め担当教員の指示により運動を行う場合は、ケガ等に十分注意し、万が一事故が起きた場合は速やかに担当に連絡すること。大学指定の健康診断を受けることを受講条件とする。事情により受けられない場合は、各位で受診し健康診断書の提出を必須とする。授業計画02～13は、順不同で行い、授業準備に支障が無いように授業担当者が事前に指示する。								
授業の方法	実技と講義を組み合わせた演習形式を中心に行う。自ら実践もしくはシミュレーションすることにより得た疑問や知識をグループ発表し、講師及び他の受講者と議論を行う（アクティブ・ラーニング）。体育の授業運営が出来る能力取得を目指す。								
予習と復習	予習（90分）として学習指導要領解説体育編および教材研究を行い授業中に質問できるようまとめる。復習（90分）として授業で学んだ知識を元に教材研究を行う。指導案にまとめ、授業中に質問が出来るようまとめる。予習または復習を促すために宿題を出すことがある。								
テキスト等	「学習指導要領（平成29年告示）解説体育編」また、必要に応じて参考書を提示、もしくは、授業中にプリントを配布する。								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	20%	
	授業中の適時行う小テストまたは発表で評価			40%	授業内のレポートと指導計画により評価			40%	
	出席率82%以上を評価対象とする。平常点は授業への参加度を評価し欠席-10点/回、遅刻-5点/回。要遅延証明書／通信環境等の不具合の場合は要状況写真。授業中の積極的な発言や取組を評価。教材研究の発表や指導計画の内容を評価。最後に全体的な評価と所見を伝える								
授業計画	①オリエンテーション（更衣不要・写真3cm×4cm持参・体育館球技室集合）								
	②体育授業のアウトライン・体力とは								
	③準備運動と整理体操/体力測定								
	④運動の重要性/子供の体力・コーディネーション								
	⑤体育現場での応急処置								
	⑥負荷による体の変化（トレーニング科学の基礎）								
	⑦体のつくり（神経生理）とタバコ								
	⑧対象に合わせた授業内容のアレンジ作成								
	⑨対象に合わせた授業内容のアレンジグループ発表・議論								
	⑩体育実技学習指導計画・低学年グループ立案								
	⑪体育実技学習指導計画・低学年グループ発表・議論								
	⑫体育実技学習指導計画高学年グループ立案								
	⑬体育実技学習指導計画高学年グループ発表・議論								
	⑭保健学習指導計画立案								
	⑮まとめと復習								

科目名		介護等体験							
英文科目名		Experience of social care							
担当者名		小向敦子							
科目ナンバリング		TED303							
授業の概要と到達目標		本授業は、本学の教職課程のねらいの1つである「透徹した人間観・教育観にたち、誠実でしかも情熱をもった教師の育成」を目指す科目であり、介護等体験に関して、事前指導・事後指導を含めた指導を行う。事前指導では、介護等体験に臨む心構え、高齢者や障がい児と接する際に必要な、基本的な知識について学習していく。事後指導では、介護等体験を振り返り、各自が学んだことを学生同士で共有した上で、整理し発表する。介護等体験では、介護施設等に5日、特別支援学校等に2日行ってもらふことになる。体験を通じて学ぶことに重点があり、そのために必要な態度形成が特に重視される。なお本授業を履修しなければ、介護等体験を行うことができない。							
授業の方法		基本的な講義に加えて、ディスカッション・プレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）を一部の授業回で実施する。履修者は講義に対する質疑応答ならびに、ディスカッションや発表を通じて、積極的に授業に貢献すること。							
予習と復習		予習（90分）テキスト内の次の講義に該当する箇所を精読し、疑問点や思いついたアイディアなどをまとめておくこと。復習（90分）講義の内容を改めてテキストで復習し、介護等体験学習ノートに重要な点を追記してまとめ直しておくこと。							
テキスト等		全国特別支援学校長会（著）「介護等体験ガイドブック 新フィリア（インクルーシブ教育システム版）」ジアース教育新社							
評価方法		定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	50%
		介護等体験学習ノート（日誌）				50%	0%		
		事前・事後指導への取組み方、及び介護等体験ノートの内容。第6～12回にあたる介護等体験を修了する事で教員免許申請に必要な証明書が発行される。課題については返却して全般的な評価と所見を提示する。							
授業計画		①事前指導①：介護等体験とは、必要な心構え等							
		②事前指導②：介護が必要な高齢者の理解							
		③事前指導③：高齢者介護の実際							
		④事前指導④：様々な障がいと特別支援学校							
		⑤事前指導⑤：障がい児への支援の実際							
		⑥介護等体験（介護施設）1日目（体験の詳細は、施設によって差異が生じ得る）							
		⑦介護等体験（介護施設）2日目（1日目に引き続き、学びを活かし、体験を積む）							
		⑧介護等体験（介護施設）3日目（2日間の体験を踏まえ、より深い学びに繋げる）							
		⑨介護等体験（介護施設）4日目（環境になじむことで、充実した体験に繋げる）							
		⑩介護等体験（介護施設）5日目（最終日にふさわしい対応ができることを目指す）							
		⑪介護等体験（特別支援学校）1日目（体験の詳細は、学校によって差異が生じ得る）							
		⑫介護等体験（特別支援学校）2日目（1日目に引き続き、学びを活かし、体験を積む）							
		⑬事後指導①：介護等体験の気づき・振り返り							
		⑭事後指導②：介護等体験で学んだことの発表準備・発表							
		⑮事後指導③：まとめと総復習							

科目名		教職インターンシップ(小学校免許用)						
英文科目名		Educational Internship						
担当者名		崔玉芬						
科目ナンバリング		TED262						
授業の概要と到達目標	本授業は、人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を育成するための科目である。授業では、これまで大学で学んだ教職の知識を活かし、学校現場での様々な業務を体験し、教職への理解を深め、教職への意欲を高めることを目的とする。さらに、教職課程各受講科目への理解を深め、学校現場と講義科目の循環を図る。指定された学校での体験は45時間以上とする。インターンシップ生は、決められた期間の間、受入学校側の指示に従い、以下の業務を行う。①授業支援・授業補助。②授業以外の業務への支援。③学校行事への参加・支援。④研修会への参加。⑤その他。インターンシップのまとめとして、1月から2月の間に、本学においてインターンシップ体験報告会を実施する。なお、インターンシップ活動の日程や内容については、受入学校との調整による。そのため、以下の授業計画は一例である。インターンシップの実施先は、協定を締結した学校となる。							
授業の方法	この授業は、インターンシップ前（事前）、インターンシップ後（事後）、インターンシップ活動中（期間中）で構成され、本学の担当教員がインターンシップ受入校に訪問巡回指導を行う。学生は期間中、インターンシップ活動校での補助業務及びノートの記入を求められる。							
予習と復習	インターンシップ活動校の指示に従い、事前準備、事後の振り返りなど、「教職インターンシップ報告書」への記入を行う。							
テキスト等	本学の「教職インターンシップ報告書」必要に応じて資料を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
	教職インターンシップノート			40%	実践報告会発表内容			20%
	平常点は、受入校による業務への参加状況による。その他①及び②は、担当教員によって採点される。							
授業計画	①イントロダクション（説明会、面接、派遣先の決定）							
	②受入学校の説明①（受入校説明、スケジュール調整等）							
	③受入学校の説明②（校内支援活動について）							
	④インターンシップ活動 授業支援①（学習補助）							
	⑤インターンシップ活動 授業支援②（授業準備補助）							
	⑥インターンシップ活動 授業支援③（校外学習補助）							
	⑦インターンシップ活動 授業支援④（遠足・修学旅行等補助）							
	⑧インターンシップ活動 土曜日授業参加							
	⑨インターンシップ活動 校内研修への参加							
	⑩インターンシップ活動 学校行事への参加							
	⑪インターンシップ活動 学校事務への参加							
	⑫インターンシップ実践報告会（準備、調査）							
	⑬インターンシップ実践報告会（個別課題の修正、リハーサル）							
	⑭インターンシップ実践報告会							
	⑮総まとめと振り返り							

科目名		教職インターンシップ(中・高校免許用)						
英文科目名		Educational Internship						
担当者名		崔玉芬						
科目ナンバリング		TED263						
授業の概要と到達目標	本授業は、人間科学部のディプロマポリシー「教養と社会モラルを兼ね備えた、人間教育を実践できる人材」を育成するための科目である。授業では、これまで大学で学んだ教職の知識を活かし、学校現場での様々な業務を体験し、教職への理解を深め、教職への意欲を高めることを目的とする。さらに、教職課程各受講科目への理解を深め、学校現場と講義科目の循環を図る。指定された学校での体験は45時間以上とする。インターンシップ生は、決められた期間の間、受入学校側の指示に従い、以下の業務を行う。①授業支援・授業補助。②授業以外の業務への支援。③学校行事への参加・支援。④研修会への参加。⑤その他。インターンシップのまとめとして、1月から2月の間に、本学においてインターンシップ体験報告会を実施する。なお、インターンシップ活動の日程や内容については、受入学校との調整による。そのため、以下の授業計画は一例である。インターンシップの実施先は、協定を締結した学校となる。							
授業の方法	この授業は、インターンシップ前（事前）、インターンシップ後（事後）、インターンシップ活動中（期間中）で構成され、本学の担当教員がインターンシップ受入校に訪問巡回指導を行う。学生は期間中、インターンシップ活動校での補助業務及びノートの記入を求められる。							
予習と復習	インターンシップ活動校の指示に従い、事前準備、事後の振り返りなど、「教職インターンシップ報告書」への記入を行う。							
テキスト等	本学の「教職インターンシップ報告書」必要に応じて資料を配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	40%
	教職インターンシップノート			40%	実践報告会発表内容			20%
	平常点は、受入校による業務への参加状況による。その他①及び②は、担当教員によって採点される。							
授業計画	①イントロダクション（説明会、面接、派遣先の決定）							
	②受入学校の説明①（受入校説明、スケジュール調整等）							
	③受入学校の説明②（校内支援活動について）							
	④インターンシップ活動 授業支援①（学習補助）							
	⑤インターンシップ活動 授業支援②（授業準備補助）							
	⑥インターンシップ活動 授業支援③（校外学習補助）							
	⑦インターンシップ活動 授業支援④（遠足・修学旅行等補助）							
	⑧インターンシップ活動 土曜日授業参加							
	⑨インターンシップ活動 校内研修への参加							
	⑩インターンシップ活動 学校行事への参加							
	⑪インターンシップ活動 学校事務への参加							
	⑫インターンシップ実践報告会（準備、調査）							
	⑬インターンシップ実践報告会（個別課題の修正、リハーサル）							
	⑭インターンシップ実践報告会							
	⑮総まとめと振り返り							

科目名	社会科・地理歴史科教育論							
英文科目名	Education of Social Studies - Geographic & Histor							
担当者名	松丸明弘							
科目ナンバリング	TED264							
授業の概要と到達目標	人が二人以上いれば、そこには必ず“社会”があります。社会とは、人間が生きてゆく上で関わり合わざるを得ない“環境”であり、(遺伝的要因を除けば)人間の生活や成長に最も影響を与える要因です。いわば、社会科とは「自分が生まれてきて所属することになった“場”がどういう場所なのか(今どうであるのか、そしてなぜそうなっているのか)」を認識する教科といえます。本講義では学習指導要領に沿って、そのような中学社会科(の地理的・歴史的分野)・高校地理歴史科を現代の中等教育で教える目的・意義を理解するとともに、「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」(本学の教員養成目標)に必要な見識(理念・教養)・能力(情報機器等を活用した調査・伝達法等を含む)を養うことを目指します。特に学校現場での教員経験を活かし、教育実習で役にたつような実践的な授業を心がけます。							
授業の方法	授業内でも対話を重ねましょう。また対話しきれなかった部分については毎回リアクションペーパーを提出していただきますので、次週に深めていきましょう。教育をめぐる現状に向き合い、自分の考えを作っていくためたくさん議論しましょう。							
予習と復習	予習45分：毎回宿題あります。「今週のニュース」。(1) 気になったニュース、(2) なぜ気になったのか、(3) 生徒にどう伝えるかメモしてください。それを毎回5分報告し、全員で意見交換します。復習45分：参加者の意見を踏まえ、報告内容を再考します。							
テキスト等	『中学校学習指導要領解説 社会編』(平成29年告示 文部科学省)、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(平成30年告示、文部科学省)							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	50%	平常点	50%
				0%				0%
	少人数でインタラクティブに行われる授業であるため、大原則として、毎回必ず出席が求められます。ほかの授業よりも厳しく出席が要求されますので、履修する場合は、そのことを念頭に置いて下さい。特に、初回はスケジュールを決める上で全員出席が必須です。							
授業計画	①導入 社会科・地理歴史科教育の現状							
	②社会科・地理歴史科で学ぶもの							
	③社会科・地理歴史科を教えるということ：子供の地理・歴史学習							
	④日本と世界の社会科教育・教員養成							
	⑤近代の社会科・地理歴史科教育史1 (明治維新後)							
	⑥近代の社会科・地理歴史科教育史2 (終戦まで)							
	⑦戦後教育と「社会科」の誕生1							
	⑧戦後教育と「社会科」の誕生2							
	⑨学習指導要領の内容読解と要点理解 (中学社会科-地理的分野)							
	⑩学習指導要領の内容読解と要点理解 (中学社会科-歴史的分野 (世界史領域))							
	⑪学習指導要領の内容読解と要点理解 (中学社会科-歴史的分野 (日本史領域))							
	⑫学習指導要領の内容読解と要点理解 (高校地理)							
	⑬学習指導要領の内容読解と要点理解 (高校世界史)							
	⑭学習指導要領の内容読解と要点理解 (高校日本史)							
	⑮まとめと復習							

科目名		社会科・地理歴史科指導法							
英文科目名		Methods of Teaching about Social Studies, Geograph							
担当者名		松丸明弘							
科目ナンバリング		TED265							
授業の概要と到達目標		本講義では、学習指導要領の把握・理解を前提に、「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」（本学の教員養成目標）として、中学社会科・高校地理歴史科の授業を実施する上での実践的訓練を行います。前半では学習指導案を作成し、授業を計画・構成す能力の獲得を目標とします。後半ではそれに基づいて実際に模擬授業を行います。そして「教壇に立って科目を教えること（生徒に情報を伝えること、なぜ伝えねばならない情報なのかを伝えること、情報機器などの調べる手段・伝える手段を適切に活用すること、生徒の理解度を確認すること、調査を促すこと、生徒の発展的活動を促すこと〔問題意識の獲得、関心の拡大、思考、イノベーション、発信〕など）」がどういうことかを体験し、再認識することを目指します。特に学校現場での教員経験を活かし、教育実習で役に立つような実践的に授業をしていきます。							
授業の方法		指導案作成、模擬授業を中心に授業を進めます。よい授業ができるようになることが第一目標ですが、自分の授業や他の学生の授業が社会科の目標である「公民的資質の育成」の観点からどのような意義と課題があるのかを批評できる力の育成をめざします。							
予習と復習		予習：毎回の授業で、こちらから提示する学習指導案や授業映像から社会科授業としての意義と課題、自分の授業作成に応用できる点を整理してもらい、授業の冒頭にてグループで意見交換をします。 復習：作成した指導案の改善をします。							
テキスト等		『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成29年告示、文部科学省）、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（平成30年告示、文部科学省）							
評価方法		定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	0%
		模擬授業の達成度・取り組み姿勢				50%	学習指導案の達成度・取り組み姿勢		
		大原則として毎回の出席が求められます。指導案や模擬授業の質に加えて、他の学生の指導案や模擬授業への批評や、批評を含めた改善案も評価対象に含めます。お互いに批評し合うことで、この授業を通して学生全体の授業力向上をめざします。							
授業計画		①地理歴史学習（認識・思考の特色と学力の実態）に即した情報機器・教材の活用							
		②指導案作成演習：中学社会科-地理的分野の作成・指導							
		③指導案作成演習：中学社会科-地理的分野の検証と中学社会科-歴史的分野（世界史領域）							
		④指導案作成演習：中学社会科-歴史的分野（世界史領域）の検証と中学社会科-歴史的分野							
		⑤指導案作成演習：中学社会科-歴史的分野（日本史領域）の検証と高校地理の作成・指導							
		⑥指導案作成演習：高校地理の検証と高校世界史の作成・指導							
		⑦指導案作成演習：高校世界史の検証と高校日本史の作成・指導							
		⑧指導案作成演習：高校日本史の検証と指導案作成に係る総合的質疑							
		⑨模擬授業（中学社会科-地理的分野：実演）							
		⑩模擬授業（中学社会科-歴史的分野（世界史領域）：実演）							
		⑪模擬授業（中学社会科-歴史的分野（日本史領域）：実演）							
		⑫模擬授業（高校地理：実演）							
		⑬模擬授業（高校世界史：実演）							
		⑭模擬授業（高校日本史：実演）							
				⑮まとめと復習					

科目名	進路指導(中・高校免許用)							
英文科目名	Career Guidance and Counseling							
担当者名	黒川雅之							
科目ナンバリング	TED266							
授業の概要と到達目標	アメリカにおいてキャリアガイダンス&カウンセリング（進路指導）はボケーショナルガイダンス&カウンセリング（職業指導）に始まり、焦点をボケーションからキャリアに移し、同時に、その目的も方法も変化し、発展してきた。そして、カウンセリングはその中核的役割を担うとされる。進路指導は、アメリカで生まれたキャリア・ガイダンス&カウンセリングの日本語訳であり、児童生徒の社会的自立へ向けての援助である。本科目は、これらの背景を踏まえ、教師が実際の教育現場で、これを具現化する方策を考察する。同時に、本科目は、すべての教科教育科目と密接に関連する。その関連性を理解した上で「教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教師」の育成を目指す。							
授業の方法	一部の授業で職業レディネステストの受検体験、カウンセリング事例のグループディスカッションなどのアクティブラーニングを行う。テストの受検料として300円程度の負担をお願いしたい。							
予習と復習	予習90分 講義時に、予習テーマを提示するので、次回までにレポートをまとめておくこと。							
テキスト等	参考文献：「キャリアカウンセリング入門」（2001） 渡辺三枝子、E.H.ハー著 ナカニシヤ出版 「学校に生かすカウンセリング」第2版（1997） 渡辺三枝子、橋本幸晴、内田雅顕著 ナカニシヤ出版 「小学校キャリア教育の手引き」（改訂版）文部科学省							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	80%	レポート	0%	平常点	10%
	授業内での発言や積極性			10%				
授業計画	①職業指導の概念と授業方針							
	②キャリアの概念							
	③カウンセリングの概念							
	④進路指導の歴史的展開							
	⑤進路指導の理論的基礎 構造論的アプローチ							
	⑥進路指導の理論的基礎 発達論的アプローチ							
	⑦進路指導の理論的基礎 社会学習論的アプローチ							
	⑧職業レディネステスト受検体験							
	⑨職業レディネステスト結果による自己探索体験、解説							
	⑩キャリア教育の概念と目的							
	⑪キャリア教育の組織と実践計画							
	⑫キャリアカウンセリングのプロセスとカウンセラーに求められる必要な態度							
	⑬キャリアカウンセリング事例検討、討議							
	⑭キャリアカウンセリングのまとめと解説							
	⑮全体的なまとめと解説							

科目名		特別支援教育(小学校免許用)						
英文科目名		Special Needs Education						
担当者名		大崎博史						
科目ナンバリング		TED267						
授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教師像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。テーマは「特別の支援等を必要とする児童に対する理解と対応」である。現在、小学校では、通常の学級にも発達障害講義テーマはをはじめとする様々な特別の支援を必要とする児童が在籍している。そこで、本講義では、将来、教員をめざす者として、特別の支援等を必要とする児童に対して適切な指導及び必要な支援を行う「特別支援教育」についての理解を深めることを目標とする。そのためには、児童の障害特性や教育課程について知り、児童の教育的ニーズの把握の仕方や支援方法を身に付ける必要がある。また、昨今のインクルーシブ教育システムの構築についての理解を深め、障害のある児童一人一人に応じた合理的配慮の提供について理解することも必要である。特別支援教育への理解を深めることで、小学校の教員として、児童の学習上又は生活上の困難への基礎的知識を身に付け、その困難さに対応することができるようにする。							
授業の方法	講義は、障害のある幼児児童生徒への教育のあり方について、自身の特別支援学校教諭の経験を踏まえた話題を提供し、受講学生の主体的・対話的で深い学びの実現のためのPBL（課題解決型学習）を取り入れ、アクティブラーニングを推進する。							
予習と復習	予習（90分）テキストや特別支援教育に関連する文献（記事）等を読み、要点をまとめ、次週の授業に備えておくこと。復習（90分）テキストや配付資料等を読み、学んだことを自ら振り返り、今日の授業についての理解を深めておくこと。							
テキスト等	【テキスト】特別支援教育の基礎・基本2020（ジエース教育新社）、【参考】柏崎秀子「通常の学級で活かす特別支援教育概論」（ナカニシヤ）、宮崎英憲・山中ともえ「小学校新学習指導要領の展開特別支援教育編」（明治図書）、文科省「特別支援学校学習指導要領」他							
評価方法	定期試験	70%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%
	課題レポート			20%				
※定期試験、課題レポート、平常点を総合的に考慮し成績を評価する。※出席回数を単位取得の前提条件とし、3回を越える欠席者（遅刻・早退は2回で欠席1回分に相当）は、原則として単位を認定しない。								
授業計画	①特別支援教育とは何か							
	②特別支援教育に関わる法や制度について							
	③特別支援教育の基礎知識1（視覚障害教育）							
	④特別支援教育の基礎知識2（聴覚障害教育）							
	⑤特別支援教育の基礎知識3（言語障害教育）							
	⑥特別支援教育の基礎知識4（発達障害教育：LD・ADHD）							
	⑦特別支援教育の基礎知識5（発達障害教育：高機能自閉症等）							
	⑧特別支援教育の基礎知識6（知的障害教育）							
	⑨特別支援教育の基礎知識7（肢体不自由教育）							
	⑩特別支援教育の基礎知識8（病弱身体虚弱教育）							
	⑪特別支援教育の教育課程について							
	⑫個別の指導計画、個別の教育支援計画							
	⑬インクルーシブ教育システムの構築に向けて1（インクルーシブ教育システムとは）							
	⑭インクルーシブ教育システムの構築に向けて2（合理的配慮について）							
	⑮特別支援教育の充実に向けて（校内支援体制の構築、家庭や関係機関との連携等）							

科目名		特別支援教育(中・高校免許用)							
英文科目名		Special Needs Education							
担当者名		大崎博史							
科目ナンバリング		TED268							
授業の概要と到達目標	本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教師像「現代社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師」を達成するための科目である。講義テーマは「特別の支援等を必要とする生徒に対する理解と対応」である。現在、中学校や高等学校では、通常の学級にも発達障害をはじめとする様々な特別の支援を必要とする生徒が在籍している。また、高等学校では、通級による指導が開始された。そこで、本講義では、将来、教員をめざす者として、特別の支援等を必要とする生徒に対して適切な指導及び必要な支援を行う「特別支援教育」についての理解を深めることを目標とする。そのためには、生徒の障害特性や教育課程について知り、生徒の教育的ニーズの把握の仕方や支援方法を身に付ける必要がある。また、昨今のインクルーシブ教育システムの構築についての理解を深め、障害のある生徒一人一人に応じた合理的配慮の提供について理解することも必要である。特別支援教育への理解を深めることで、中学校や高等学校の教員として、生徒の学習上又は生活上の困難への基礎的知識を身に付け、その困難さに対応することができるようにする。								
授業の方法	講義は、障害のある幼児児童生徒への教育のあり方について、自身の特別支援学校教諭の経験を踏まえた話題を提供し、受講学生の主体的・対話的で深い学びの実現のためのPBL（課題解決型学習）を取り入れ、アクティブラーニングを推進する。								
予習と復習	予習（90分）テキストや特別支援教育に関連する文献（記事）等を読み、要点をまとめ、次週の授業に備えておくこと。復習（90分）テキストや配付資料等を読み、学んだことを自ら振り返り、今日の授業についての理解を深めておくこと。								
テキスト等	【テキスト】「特別支援教育の基礎・基本2020」（ジアース教育新社）【参考】柏崎秀子「通常の学級で活かす特別支援教育概論」（ナカニシヤ）、宮崎英憲・山中ともえ『中学校新学習指導要領の展開特別支援教育編』（明治図書）、文科省「特別支援学校学習指導要領」他								
評価方法	定期試験	70%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%	
	課題レポート			20%	0%				
	※定期試験、授業毎の課題レポート、平常点を総合的に考慮し成績を評価する。※出席回数を単位取得の前提条件とし、3回を越える欠席者（遅刻・早退は2回で欠席1回分に相当）は、原則として単位を認定しない。								
授業計画	①特別支援教育とは何か								
	②特別支援教育に関わる法や制度について								
	③特別支援教育の基礎知識1（視覚障害教育）								
	④特別支援教育の基礎知識2（聴覚障害教育）								
	⑤特別支援教育の基礎知識3（言語障害教育）								
	⑥特別支援教育の基礎知識4（発達障害教育：LD・ADHD）								
	⑦特別支援教育の基礎知識5（発達障害教育：高機能自閉症等）								
	⑧特別支援教育の基礎知識6（知的障害教育）								
	⑨特別支援教育の基礎知識7（肢体不自由教育）								
	⑩特別支援教育の基礎知識8（病弱身体虚弱教育）								
	⑪特別支援教育の教育課程について								
	⑫個別の指導計画、個別の教育支援計画について								
	⑬インクルーシブ教育システムの構築に向けて1（インクルーシブ教育システムとは）								
	⑭インクルーシブ教育システムの構築に向けて2（合理的配慮について）								
	⑮特別支援教育の充実に向けて								

科目名	総合的な学習の時間(小学校免許用)							
英文科目名	Integrated Studies							
担当者名	望月耕太							
科目ナンバリング	TED269							
授業の概要と到達目標	学習指導要領を基準として学校において編成される総合的な学習の時間について、その意義や編成の方法を理解するとともに、学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。全体目標：探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。地域教育資源調査を通して学校の「社会に開かれた教育課程」編成に寄与できるとともに現代社会に応えうる見識と力量をもった教師の養成を目指す。							
授業の方法	基本的には講義形式で進めるが、アクティブラーニングとして、受講者同士でのディスカッションや発表を行う。そして、毎回課題レポートの提出を求める。							
予習と復習	・予習：書籍やインターネットなどをもとに授業テーマに関連する事柄を調べ、自分の意見を他の受講者に発表できるようにまとめてくる。(90分)・復習：授業で扱った内容や授業中に話した内容を整理し、理解を深める。(90分)							
テキスト等	授業時にプリントを配布する。							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	60%	平常点	40%
				0%				0%
	毎回の授業における演習への参加状況と課題レポート、期末レポートで評価する。							
授業計画	①シラバス説明及びテキスト紹介等							
	②総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割							
	③学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校における考え方等							
	④総合的な学習の時間の年間指導計画の作成							
	⑤総合的な学習の時間の年間指導計画の具体的な事例(1)教科横断型							
	⑥総合的な学習の時間の年間指導計画の具体的な事例(2)地域連携型							
	⑦総合的な学習の時間の単元計画の作成							
	⑧総合的な学習の時間の単元計画の具体的な事例(1)教科横断型							
	⑨総合的な学習の時間の単元計画の具体的な事例(2)地域連携型							
	⑩探究的な学習の実践過程(1)地域教育資源調査の理論							
	⑪探究的な学習の実践過程(2)地域教育資源調査の指導							
	⑫探究的な学習の実践過程(3)地域教育資源調査の実践							
	⑬探究的な学習の実践過程(4)地域教育資源調査の評価							
	⑭総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法							
	⑮総合討議							

科目名	総合的な学習の時間(中・高校免許用)							
英文科目名	Integrated Studies							
担当者名	松丸明弘							
科目ナンバリング	TED270							
授業の概要と到達目標	横断的・総合的な学習、体験的な活動や言語的な活動を重視する学習である「総合的な学習の時間」の指導法を学ぶことが目標である。まず、科目創設までの経緯、背景にある社会情勢、修得すべき知識・技能について学習指導要領等を通じて理解し考察する。次に優れた実践について調べた上で、自分でテーマを決め、研究し、中間発表・討議、最終発表を行う。アクティブ・ラーニングを行うことで「総合的な学習の時間」の指導法について体験的に学ぶことになる。商学や経営学などをはじめとするさまざまな学問領域に深い探究心を持つ生徒を育てることができ、教師になることも目標である。特に学校現場での教員経験を活かし、教育実習で役に立つような、実践的な授業を心がけます。							
授業の方法	講義のあとにはかならず課題を出し、さらに年間指導計画や単元計画の作成、研究テーマの決定から発表やレポート提出まで、発表やディスカッションなどの様々なアクティブ・ラーニングをおこなう。							
予習と復習	〈予習（90分）〉授業内容の予習、課題への取り組み〈復習（90分）〉授業内容の復習、課題への取り組み							
テキスト等	『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成29年告示、東山書房）『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』（平成30年告示、学校図書）							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	30%
	年間指導計画・単元計画の作成			20%	発表やレポート			30%
授業計画	①総合的な学習の時間とは①（学習経験の振り返り、総合的な学習の時間創設の背景）							
	②総合的な学習の時間とは②（総説、総合的な学習とは）							
	③総合的な学習の時間とは③（学習指導要領の変遷と社会的背景）							
	④総合的な学習の時間をいかに組み立てるか①（目標と知識・技能）							
	⑤総合的な学習の時間をいかに組み立てるか②（教育内容と内容の取り扱い）							
	⑥総合的な学習の時間に触れる①（課題設定についての基本的な活動を学ぶ）							
	⑦総合的な学習の時間に触れる②（情報収集についての基本的な活動を学ぶ）							
	⑧総合的な学習の時間に触れる③（資料の整理・分析のための基本的な活動を学ぶ）							
	⑨総合的な学習の時間に触れる④（まとめ・表現のための基本的な活動を学ぶ）							
	⑩総合的な学習の時間をいかに評価するか（評価のための基本的な活動を学ぶ）							
	⑪単元計画と教材をつくる①（作成方法の確認、教材づくりの準備）							
	⑫単元計画と教材をつくる②（単元計画作成の確認、教材づくりの活動）							
	⑬単元計画と教材をつくる③（グループにおける発表）							
	⑭単元計画と教材をつくる④（発表の全体共有）							
	⑮まとめと総復習							

科目名		英語							
英文科目名		English							
担当者名		山田浩							
科目ナンバリング		TED271							
授業の概要と到達目標	小学校における外国語活動・外国語の授業を行うために必要となる実践的な英語運用力と、外国語教育に係る背景的な知識を身に付ける。具体的には、授業場面で必要となる「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の力を身に付けること、他校種との連携を踏まえた英語、言語習得、異文化理解に関する知識を身に付けること、教育現場で直面しうる困難に対応するための思考力や判断力を養うこと、教師としての生き方や考え方を児童に伝えるための表現力を養うことを目標とする。授業では、小学校における外国語教育に必要な英語表現と背景知識について講義を受けるだけでなく、自らの英語運用力に関する諸課題を発見し、調査や体験活動を通じて主体的に解決策を見出し、他者と互いに考えを表現し合うことで幅広い視点から考察する。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」を達成するための科目である。								
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、毎回の授業でグループワークを行い、課題の作成や発表等を実施します。								
予習と復習	予習（90分）指示された課題に取り組み、発表の準備等を行うこと。復習（90分）授業の内容に基づいて、自分自身の発表の振り返りを行うこと。								
テキスト等	「小学校学習指導要領 外国語活動・外国語編 平成29年告示」								
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	40%	平常点	0%	
	各授業後の小テスト			60%					0%
	レポートと小テストは返却して個別に評価と所見を提示します。								
授業計画	①リスニング（具体的な情報の聞き取り）								
	②リスニング（短い話の概要理解）								
	③スピーキング（身近な事柄に関するやり取り・発表）								
	④スピーキング（自分の考えや気持ちのやり取り・発表）								
	⑤リーディング（文字の識別と音読）								
	⑥ライティング（語順を意識した英作文）								
	⑦音声・文字								
	⑧語彙・表現								
	⑨文法 1（肯定文と否定文）								
	⑩文法 2（疑問文）								
	⑪文法 3（過去形）								
	⑫文法 4（動名詞）								
	⑬第二言語習得論								
	⑭外国の児童文学・歌								
	⑮まとめ（異文化コミュニケーション）								

科目名	英語科指導法							
英文科目名	Methods of English Language Teaching							
担当者名	山田浩							
科目ナンバリング	TED272							
授業の概要と到達目標	学習指導要領に基づき、小学校における外国語活動・外国語の指導方法を身に付ける。具体的には、他校種の外国語教育との連携、小学校外国語教育に係る教材、多様な教育環境、児童期の第二言語習得理論などの基本を理解する。その上で、実際の教育現場で遭遇するであろう諸課題を予測し、それに対応するための思考力や判断力を養う。さらに、教師としてどのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送っていくかについて主体的に考え、適切な教育観を身につける。授業では、小学校における外国語教育法について講義を受けるだけでなく、小学校英語教育に関わる諸問題や、教師として生きていく上での諸課題を発見し、調査や実験を通じて主体的に解決策を見出し、他者と互いに考えを表現し合うことで幅広い視点から考察する。本科目は、高千穂大学の教員養成が目指す教員像「教科教育に関連する学問領域に深い探求心をもった教師」を達成するための科目である。							
授業の方法	アクティブ・ラーニングとして、毎回の授業でプレゼンテーションや学習指導案の作成、模擬授業等を実施します。							
予習と復習	予習（90分）発表の準備、学習指導案の作成、模擬授業の練習等に取り組むこと。復習（90分）授業の内容に基づいて、自分自身の発表、学習指導案、模擬授業の振り返りを行うこと。							
テキスト等	「小学校学習指導要領 外国語活動・外国語編 平成29年告示」							
評価方法	定期試験	0%	授業内試験	0%	レポート	20%	平常点	0%
	学習指導案		40%	模擬授業				40%
	レポートと学習指導案は返却して個別に評価と所見を提示します。模擬授業は授業内で個別に評価と所見を提示します。							
授業計画	①小・中・高等学校外国語科の目標							
	②教材や教具の特徴と活用方法							
	③多様な教育環境への対応							
	④第二言語習得理論1（音声によるインプット）							
	⑤第二言語習得理論2（音声によるアウトプット）							
	⑥第二言語習得理論3（音声から文字への移行）							
	⑦第二言語習得理論4（母語の発達との関連）							
	⑧コミュニケーション活動1（教師による外国語使用）							
	⑨コミュニケーション活動2（児童の発話を引き出す工夫）							
	⑩コミュニケーション活動3（文字の指導）							
	⑪学習指導案の作成							
	⑫模擬授業1（ティーム・ティーチング）							
	⑬模擬授業2（ICTの効果的な活用）							
	⑭模擬授業3（パフォーマンス評価）							
	⑮模擬授業の反省と振り返り							

科目名		基礎コンピュータⅠ（再）						
英文科目名		Introduction to Computer ScienceⅠ（Re）						
担当者名		担当者確認中						
科目ナンバリング								
授業の概要と到達目標	本科目と基礎コンピュータⅡで、実習を通してコンピュータおよびネットワークのリテラシーを学ぶ。その前半となる本科目では、入学後まず履修することで、他の授業でも必要となる多くの項目について習得することを目指す。10分間で200字の入力ができるようになることを最低限の目標の一つとしているので、キーボード操作をしっかり練習し、身につけること。受講開始時点での各種基本操作に対する習熟度に応じて、「普通クラス」と「中級クラス」にクラス分けを行うが基本的な到達目標は一致している。継続的な学習の必要性から欠席や遅刻は厳禁である。基礎コンピュータⅠとⅡを単位修得した時点で、大学内の他の授業で最低限必要となる情報リテラシーが身についているようになることが、到達目標である。■学習到達目標：基礎コンピュータⅠの到達目標は、キーボード操作、マウス操作、日本語入力、電子メールの利用が十分できると共に日本語ワードプロセッサ(Word)および表計算ソフト(Excel)の基本操作が行えるようになることである。							
授業の方法	基本的に実習を中心とした講義であり、実際にコンピュータを操作しながら自律的な学習を進めていく。必要に応じて、実習内容に関する質疑応答を実施する(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習（90分）毎回の授業内容と教科書の対応ページが書かれているWebサイトを参考にして、テキスト内の次回の講義に該当する箇所を精読しておくこと。復習（90分）当日の講義内容を自宅や開放されているコンピュータ室などで復習しておくこと。							
テキスト等	編：実教出版企画開発部『30時間でマスター Office2021』（実教出版）、編：実教出版編修部『2023 事例でわかる情報モラル』（実教出版）、『情報メディアセンター利用の手引き2023年版』							
評価方法	定期試験	45%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%
	授業で示すレポート・課題			45%				0%
	次のすべての条件を満たさなければ単位認定しない。①出席率80%以上、②授業内テストを必ず受験、③レポート・課題を全て提出。							
授業計画	①パソコンの基本操作							
	②Windowsの基本操作（マウス・キーボード）							
	③Windowsのファイルシステム							
	④インターネットのしくみ							
	⑤電子メールの利用法							
	⑥情報モラル1							
	⑦WWWの原理とブラウザの基本的利用法							
	⑧ワープロソフトの役割と基本概念							
	⑨ワープロソフトWordの基本的利用法							
	⑩表計算ソフトウェアExcelの役割と基本概念							
	⑪表計算ソフトウェアExcelの基本的利用法1（計算式）							
	⑫表計算ソフトウェアExcelの基本的利用法2（グラフ）							
	⑬定期試験対策1							
	⑭文章入力実技試験の実施と定期試験対策2							
	⑮まとめと復習							

科目名		基礎コンピュータⅡ（再）						
英文科目名		Introduction to Computer Science Ⅱ (Re)						
担当者名		大江親臣						
科目ナンバリング								
授業の概要と到達目標	基礎コンピュータⅠに引き続き、実習を通してコンピュータおよびネットワークのリテラシーを学ぶ。特に本科目では、基礎コンピュータⅠで習得した基礎をさらに発展させ、情報ネットワーク社会に積極的に参加する姿勢を身に付けることが目標である。よって、基礎コンピュータⅠ以上に積極的な学習態度が必要である。また、この科目の内容を習得することによって、2年生以降の情報関係科目や各学部の専門科目において、より高度なITの活用が可能になる。「普通クラス」と「中級クラス」のクラス分けは基礎コンピュータⅠのままとする。継続的な学習が欠かせないことから、欠席や遅刻は厳禁である。基礎コンピュータⅠとⅡを単位修得した時点で、大学内の他の授業で最低限必要となる情報リテラシーが身につけているようになることが、到達目標である。■学習到達目標：基礎コンピュータⅠで習得した基礎をさらに発展させ、大学生活において、情報リテラシーを効果的に使いこなせるようにすることを目標としている。							
授業の方法	基本的に実習を中心とした講義であり、実際にコンピュータを操作しながら自律的な学習を進めていく。必要に応じて、実習内容に関する質疑応答を実施する(アクティブ・ラーニング)。							
予習と復習	予習（90分）毎回の授業内容と教科書の対応ページが書かれているWebサイトを参考にして、テキスト内の次回の講義に該当する箇所を精読しておくこと。復習（90分）当日の講義内容を自宅や開放されているコンピュータ室などで復習しておくこと。							
テキスト等	編：実教出版企画開発部『30時間でマスター Office2021』（実教出版）、編：実教出版編修部『2023 事例でわかる情報モラル』（実教出版）、『情報メディアセンター利用の手引き2023年版』							
評価方法	定期試験	45%	授業内試験	0%	レポート	0%	平常点	10%
	授業で示すレポート・課題			45%				0%
	次のすべての条件を満たさなければ単位認定しない。①出席率80%以上、②授業内テストを必ず受験、③レポート・課題を全て提出。							
授業計画	①インターネットによる情報検索の基礎							
	②検索エンジンの使い分けと情報検索実習							
	③プレゼンテーションの重要性							
	④PowerPointの基本操作とスライドの作成							
	⑤Wordの発展的学習 1（ビジネス文書）							
	⑥Wordの発展的学習 2（画像や図形の活用）							
	⑦Excelの発展的学習 1（様々な関数）							
	⑧Excelの発展的学習 2（様々なグラフ）							
	⑨Excelの発展的学習 3（相対参照と絶対参照）							
	⑩情報モラル 2							
	⑪Word・Excel・ブラウザの連携操作							
	⑫ウェブページの基本構造と作成法							
	⑬ネットワークセキュリティとネットワークマナー							
	⑭ 定期試験対策							
	⑮まとめと復習							